秋　田　市

秋田新都市開発整備事業関係
埋蔵文化財発掘調査報告書

地蔵田B遺跡

台 A 遺跡

湯ノ沢 I 遺跡

湯ノ沢F遺跡

1986.3　秋田市教育委員会

序

秋田新都市開発整備事業に係る御所野丘陵部の埋蔵文化財につきましては昭和57年度から対処し、すでに19ヶ所の遺跡の調査を終了し、本年度は３ヶ所の遺跡発掘調査を実施いたしました。

今回の調査におきましては旧石器時代、縄文時代、弥生時代、平安時代の各遺構、遺物が多量に検出されております。特に「地蔵田Ｂ遺跡」では旧石器時代の磨製石斧等の出土や、弥生時代の集落を柵木が囲むという全国でも初めての遺構が確認され、弥生時代の社会を知る上で重要な遺跡であることが判明し、報道されたところであります。

調査の実施にあたっては、県、関係機関の指導をはじめ、地元関係者等多くの方々の積極的なご協力をいただき深く感謝申し上げる次第です。

本報告書が文化財保護のため、さらには研究資料として広く活用されれば幸甚に存じます。

昭和61年３月

秋田市教育委員会

教育長　高　泉　宏　作

例　　言

1．本報告書は秋田市四ツ小屋末戸松本（地蔵田Ｂ遺跡・湯ノ沢Ｉ遺跡・湯ノ沢Ｆ遺跡）、上北手古野（台Ａ遺跡）に所在する各遺跡の発掘調査報告書である。

2．本報告書は調査員及び調査補佐員の協力を得て菅原俊行が編集したものである。

3．本報告書の執筆は、地蔵田Ｂ遺跡―菅原俊行、安田忠市、台Ａ遺跡、湯ノ沢Ｉ遺跡、湯ノ沢Ｆ遺跡―石郷岡誠一、西谷　隆が担当し、菅原が補筆した。前記以外は菅原が担当した。

4．湯ノ沢Ｆ遺跡出土人骨の鑑定は岩手医科大学、野坂洋一郎教授、伊藤一三助教授に依頼し、その鑑定書を掲載したものである。

5．発掘調査、整理作業の過程で下記の各氏より指導、助言を賜わった。

　大塚初重（明治大学）、河原純之（文化庁）、工楽善通（奈良国立文化財研究所）、小林達雄（国学院大学）、佐原　眞（奈良国立文化財研究所）、冨樫泰時（秋田県文化課）、中村五郎（福島県文化財保護審議会委員）

6．石質の鑑定は、秋田県立博物館の渡辺晟氏、佐々木厚氏によるものである。

7．各遺跡の平面図、土層断面図中のＰは土器（片）、Ｓは石（礫）を示し、石器実測図の石鏃、石匙、鋸歯縁石器等の外形図にはアスファルト付着物の箇所を示した。

8．発掘調査による出土遺物、実測図、写真、その他の記録は秋田市教育委員会が保管する。

目　　次

序

例言

調査の概要…… 1

調査に至るまでの経過…… 1

調査期間と体制…… 1

調査の方法と経過…… 2

遺跡の位置と地形・地質…… 9

地蔵田Ｂ遺跡

遺跡の概観…… 14

旧石器時代…… 14

遺構と遺物…… 16

坂ノ上Ｆ遺跡…… 247

まとめ…… 253

台Ａ遺跡

遺跡の概観…… 266

遺構と遺物…… 266

まとめ…… 302

湯ノ沢Ｉ遺跡

遺跡の概観…… 309

遺構と遺物…… 310

まとめ…… 314

湯ノ沢Ｆ遺跡

遺跡の概観…… 320

遺構と遺物…… 320

まとめ…… 343

秋田市四ツ小屋・湯ノ沢Ｆ遺跡出土人骨の鑑定書…… 349

湯ノ沢Ｆ遺跡試料　材同定報告…… 357

御所野丘陵部（西から）

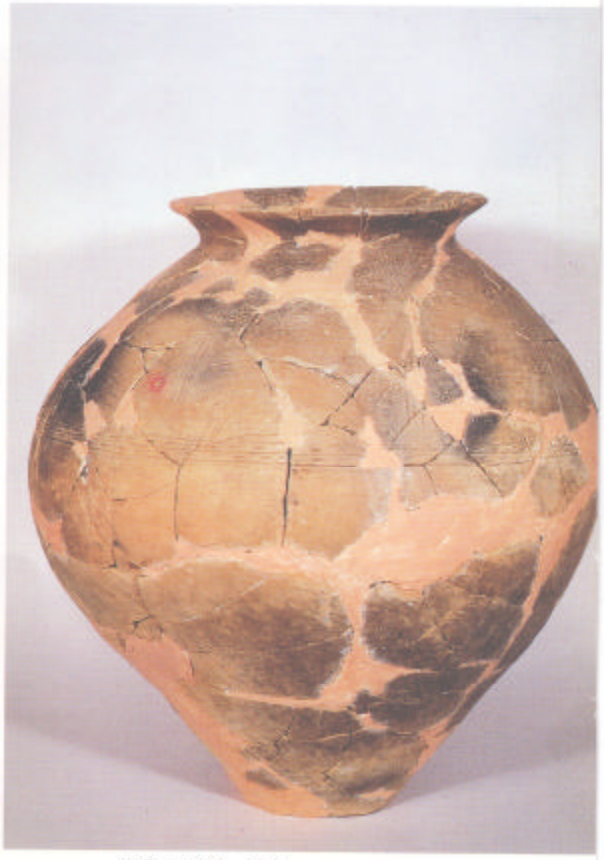
地蔵田Ｂ遺跡遠景（南東から）

地蔵田Ｂ遺跡（西から）

地蔵田Ｂ遺跡　弥生時代集落（北から）

地蔵田Ｂ遺跡　４号Ⅰ～Ⅳ住居跡（北から）

地蔵田Ｂ遺跡　８号土器棺（壺、籠目）



18号土器棺（壺）

地蔵田Ｂ遺跡　９号土器棺（壺）

26号土器棺（壺）

地蔵田Ｂ遺跡　旧石器時代（南から）

地蔵田Ｂ遺跡　旧石器時代遺物出土状況

台Ａ遺跡（東から）

湯ノ沢F遺跡（南から）

湯ノ沢F遺跡　34号A、B墓

調査の概要

調査に至るまでの経過

秋田市南東部地域は、昭和56年６月の秋田空港の開港、東北横断自動車道秋田線秋田インターチェンジ開設予定等、空陸両面の交通の要衝に位置する所である。このような状況の中で南東部地域における御所野地区については特に広大な台地であることから、いち速く開発可能性等についての各調査が実施され、県市総合計画においても産業、住宅団地が一体となった総合的ニュータウン＝臨空港新都市として具体的に位置づけられた。

昭和55年に御所野台地全体の分布調査を実施し、約30ヵ所の遺物散布地を確認した。昭和56年度は開発計画地域内の西部工業団地造成に先だち、**下堤Ｄ遺跡**（秋田市「下堤Ｄ遺跡発掘調査報告書」1982年３月秋田市教育委員会）の発掘調査を行なった。昭和57年度は今後の開発計画に対処するため55年の分布調査に基づき、３ヵ月間で遺跡の範囲確認調査を実施し、その結果、台地上に24ヵ所の遺跡を確認したのである。開発計画地内の３ヵ所の未範囲確認地区を加えると27ヵ所の遺跡（下堤Ａ、Ｂ、Ｃ、Ｄ遺跡、坂ノ上Ａ、Ｂ遺跡を除く）が存在（第１図　御所野丘陵部における遺跡及び周辺遺跡）している。範囲確認調査の結果に基づき関係機関と協議を重ね、引き続き年度別に計画的な発掘調査を実施することとし、昭和57年度は**下堤Ｇ遺跡、野畑遺跡、湯ノ沢Ｂ遺跡、坂ノ上Ｃ、Ｄ遺跡**（秋田市「秋田臨空港新都市開発関係埋蔵文化財発掘調査報告書」1983年３月、秋田市教育委員会」）、昭和58年度は**坂ノ上Ｅ遺跡、湯ノ沢Ａ遺跡、湯ノ沢Ｃ遺跡、湯ノ沢Ｅ遺跡、湯ノ沢Ｆ遺跡、湯ノ沢Ｇ遺跡、湯ノ沢Ｈ遺跡、野形遺跡**（秋田市「秋田臨空港新都市開発関係埋蔵文化財発掘調査報告書」1984年３月、秋田市教育委員会）、昭和59年度は**下堤Ｅ遺跡、下堤Ｆ遺跡、坂ノ上Ｆ遺跡、狸崎Ａ遺跡、湯ノ沢Ｄ遺跡、深田沢遺跡**（秋田市「秋田臨空港新都市開発関係埋蔵文化財発掘調査報告書」1985年３月秋田市教育委員会）の発掘調査を行なった。

昭和60年度は**地蔵田Ｂ遺跡、台Ａ遺跡、湯ノ沢Ｉ遺跡**、58年度に調査した**湯ノ沢Ｆ遺跡**の北西部の発掘調査を実施した。

調査期間と体制

調 査 期 間　昭和60年４月11日～12月10日

調査主体者　地域振興整備公団

調査担当者　秋田市・秋田市教育委員会

調　査　員　菅原俊行、石郷岡誠一、西谷隆、安田忠市（秋田市教育委員会社会教育課）

派遣調査員　桜田隆（秋田県埋蔵文化財センター）

調査補佐員　佐藤雅子、鈴木徳行

調査協力員　五十嵐芳郎（秋田考古学協会会員）、石川恵美子（明治大学大学院生）、五十嵐健志、武藤祐浩、安田拓夫、安藤正美、熊谷朗、西野穣、後藤進栄、伊藤武、鈴木真澄、星野友実、川村直子（秋田大学学生）、奈良年洋（中央大学学生）

調査作業員　鈴木銀一、鈴木長治、鈴木茂治、鈴木末蔵、鈴木一美、三浦竹治、三浦馨、三浦吉司、三浦吉男、三浦三治、秋本与次郎、堀井藤男、水野金光、佐々木多治郎、加賀谷新之助、加賀谷金一郎、鈴木銀三郎、安藤金四郎、堀野兼雄、堀野健一、渡部謙治、佐々木東吉、佐々木小一郎、鈴木藤一、嵯峨隆二、渡部金次郎、鈴木慶子、鈴木ツヤ、鈴木ウメノ、鈴木キヨ、鈴木鈴子、鈴木博子、三浦千枝子、三浦初枝、三浦トミエ、三浦タキ、三浦ナツ、堀井ヤス、堀井キヨエ、佐々木フミ、佐々木久子、工藤キクエ、熊谷文子、宮田トキ子、高島綾子、榎トミ、榎良子、伊藤ヒメ子、伊藤ツギ、長谷部ヤエ子、会場京子、渡部アイ子、渡部キネ子、渡部キヨ、渡辺フミ、佐々木ヨシ、佐々木縫子、高橋ヨシ子、高橋ミエ、堀野京子、矢倉アキ、加賀谷ヒデ、杉沢フミ、藤沢ミサ子、藤沢トクエ、鹿子沢ミサ、安藤チヨ、鈴木ヒデ、鈴木ヒデ子、鈴木カネエ持主チエ、嵯峨キミ、鎌田チヤ、小玉澪子

整理作業員　三浦秋子、堀井律子、堀井幸子、伊藤秀子、熊谷喜枝子、工藤エツ子、佐々木信子

事　務　員　伊藤茂子、奥村典子

調査の方法と経過

調査区は各遺跡ごとに任意の原点を決めて東西南北(磁北)に基準線を作り、調査区全体に大グリッド(40m×40m)を設定し、さらにその中に小グリッド(4m×4m)を設定し、単位グリッドとした。大グリッドは(1～n)、小グリッドは東西(X軸)に数字(1～10)、南北(Y軸)にアルファベット(A～J)を配し、その組み合せで遺跡番号、大グリッド番号、小グリッドの順に呼称することとした。

発掘調査は、地蔵田B遺跡(5/1～5/10)、台A遺跡(5/1～5/20)、湯ノ沢I遺跡(5/22～5/27)、湯ノ沢F遺跡(5/27～5/27)の日程で実施した。

地蔵田B遺跡は、昭和44年、秋田考古学協会で下堤遺跡の周辺遺跡踏査の際発見された遺跡で昭和51年の報告書では「地蔵台遺跡」として掲載されているが、今後は「地蔵田遺跡」として取り扱うこととしたい。(註1)昭和44年の踏査では台地の南斜面山道際、つまり地蔵田B遺跡の土器棺、土坑墓群のさらに南東部に位置する所から出土したもので、口縁、頸部は欠いているが壺形土器と思われる。現器高は39cm、胴部最大径は35cmである。肩部に2条単位の平行沈線文が2段、3条の平行沈線文が1段めぐり、沈線間に山形文(鋸歯文)を施文し、山形文の谷部(V)を磨消している。肩部から胴部にかけては刷毛目調整後、LR単節斜縄文を施文している。肩部文様帯には赤色顔料を塗布したほか文様帯から底部にも4単位で巾約1cmほどの赤色顔料塗布の線が垂下している。(図版52)

この壺形土器も土器棺と考えられる。以上の土器や範囲確認調査の結果等から地蔵田B遺跡は縄文時代中期、弥生時代の遺構の検出を期待して調査にあたった。結果は旧石器時代、縄文時代、弥生時代の複合遺跡であることが確認され、旧石器時代は石器、剥片、石核等の出土総数は約3,400点で、石器の器種はナイフ形石器、台形様石器、磨製石斧、鋸歯縁石器などであるが調査期間の都合

で調査区東側は完掘できなかったので61年度継続調査をすることとした。縄文時代は竪穴住居跡、土坑等が検出され、住居は複式炉をもつ中期末葉（大木10式期）の時期であった。弥生時代は県内初例の集落の検出のほかに集落を囲む柵木跡が検出され注目されている。柵木跡は北西一南東方向に長軸をもつ楕円形を呈し、規模は長軸61m×短軸47mである。竪穴住居跡は１時期３～４軒の構成で各住居跡に数回の建替えがみられる。柵木跡南東に土器棺墓（25基）、土坑墓（51基）群が存在する。出土遺物から縄文時代晩期直後、初期弥生時代の時期である。

台Ａ遺跡は、範囲確認調査の段階では国道13号線沿いにその位置（23）を図示してあったが、昭和59年10月に再調査した結果、図示した所から北約200mの沢の南側台地に住居跡等を確認し、台Ａ遺跡の位置を変更したものである。検出された遺構は竪穴住居跡、土坑等で、縄文時代中期末葉の時期である。

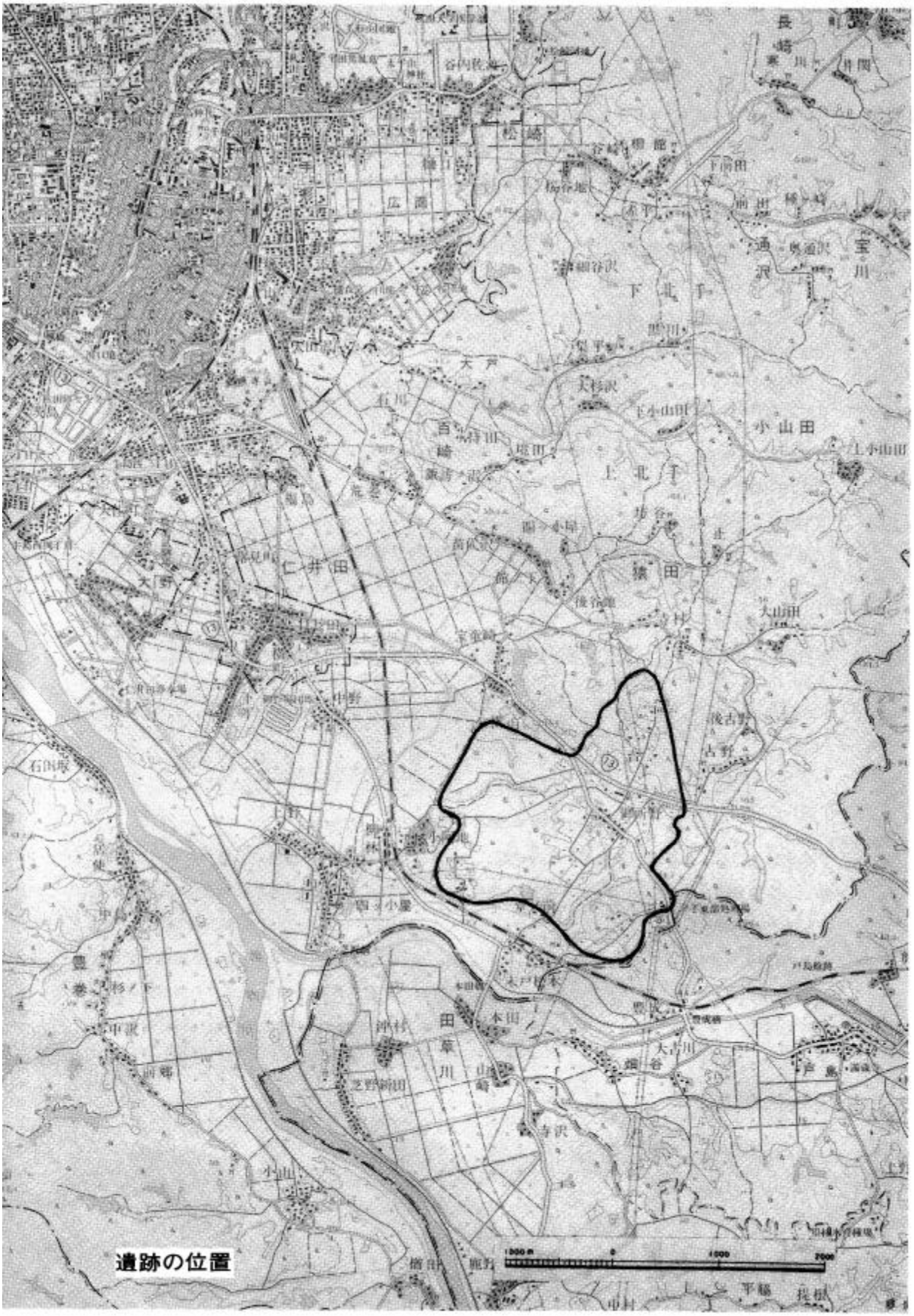
湯ノ沢Ｉ遺跡は、未範囲確認地域の一つで昭和59年度まで秋田営林署の苗圃であった。昭和60年は土地買収に伴い苗木が移植されたため調査が可能になったもので範囲確認調査と発掘調査を併せて実施し、弥生時代の土坑、平安時代の土師器甕、土錘などを検出した。

湯ノ沢Ｆ遺跡は、昭和58年に発掘調査をして平安時代の墓21基を検出した遺跡で、北西の未買収地（畑）に遺構が広がる可能性があり、畑地買収後、再調査することとし、今回調査したもので新たに19基の墓が確認され、合計40基となった。

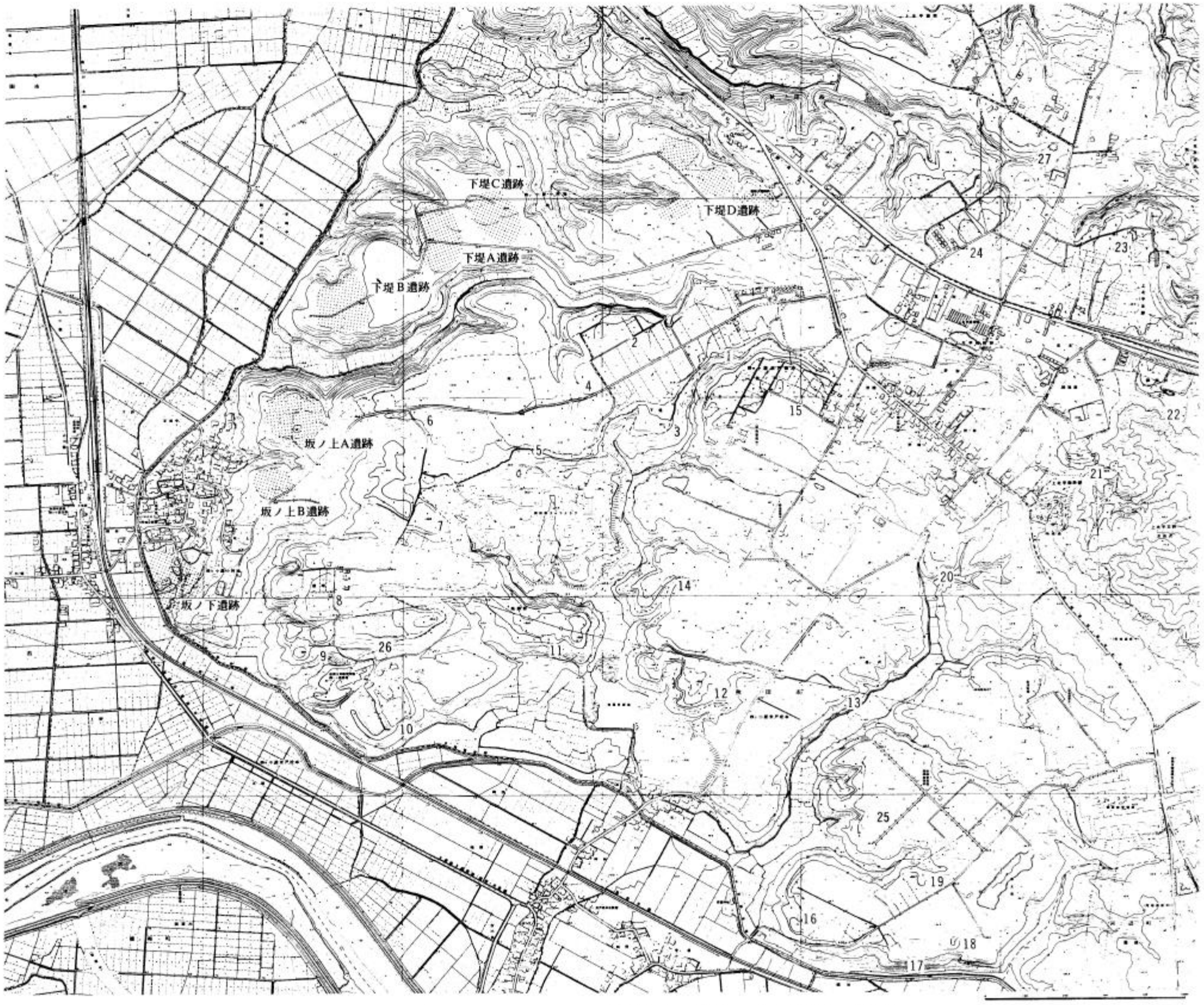
（註１）「小阿地、下堤・坂ノ上遺跡発掘調査報告書」1976年３月　秋田市教育委員会

昭和60年度来跡者　（順不同、敬称略）

岩見誠夫、船木義勝、大野憲司、高橋忠彦、児玉準、小林克（秋田県埋蔵文化財センター）、永井隆一、冨樫泰時（秋田県文化課）、大井康（秋田県高校教育課）、藤原哲（秋田県議会議員）、成田誠治三宅徹也（青森県埋蔵文化財調査センター）、一町田工（青森県文化課）、小林達雄（国学院大学）、稲田孝司（岡山大学）、安孫子昭二（東京都文化課）、渡辺誠（名古屋大学）、赤山容造（群馬県文化財保護課）、藤田富士夫（富山市考古資料館）、秋元信夫（鹿角市社会教育課）、進藤秋輝（多賀城跡調査研究所）、稲野裕介、彰子（北上市社会教育課）、庄内昭男、三嶋隆儀（秋田県立博物館）、将軍野青山町老人クラブ、四ツ小屋小学校ＰＴＡ文化部、飯島家庭学級



遺跡の位置



第1図　御所野丘陵部発掘調査遺跡、範囲確認遺跡及び周辺遺跡

御所野丘陵部　遺跡一覧表

			範囲確認調査			発掘調査遺跡		
遺跡番号	遺跡名	所在地	時代	面積㎡	地目	調査年度	調査面積㎡	内容
1	下堤E	秋田市四ツ小屋小阿地字下堤	縄文	5,625	畑	59	3,340	縄文（中期）集落
2	下堤F	〃　〃	〃	14,375	〃	59	2,950	縄文（前、中期）集落
3	下堤G	〃　〃	旧石器、縄文（中）	5,000	山林原野	57	1,550	旧石器、縄文（前、中期）集落
4	坂ノ上C	〃　四ツ小屋小阿地字坂ノ上	縄文	6,000	〃	57	1,000	縄文（中、晩期）
5	坂ノ上D	〃　〃	〃	14,060	〃	57	1,500	縄文（中、晩期）
6	坂ノ上E	〃　〃	〃	15,000	〃	58	5,000	縄文（中期）集落、9～10c製鉄炉
7	坂ノ上F	〃　〃	〃	37,810	〃	59	18,800	縄文（中期）集落、弥生住居跡
8	狸崎A	〃　四ツ小屋小阿地字狸崎	縄文（晩）	13,750	畑、山林原野	59	1,910	縄文（前、晩期）土坑墓、弥生住居跡
9	狸崎B	〃　〃	縄文	11,250	原野			
10	地蔵田A	〃　四ツ小屋末戸松本字地蔵田	旧石器、縄文、平安	30,000	畑			
11	地蔵田B	〃　〃	縄文（中晩）、弥生	25,000	山林原野	60	12,000	旧石器、縄文（中期）集落、弥生集落柵木跡
12	湯ノ沢A	〃　四ツ小屋末戸松本字湯ノ沢	縄文	21,555	〃	58	3,000	縄文（中期）弥生住居跡
13	湯ノ沢B	〃　〃	縄文（前、中）	5,000	〃	57	2,340	縄文（中期）集落、平安住居跡
14	湯ノ沢C	〃　〃	縄文（中晩）弥生	11,565	〃	58	4,100	縄文（中期）集落
15	湯ノ沢D	〃　〃	縄文（中）	35,000	畑	59	3,220	縄文（中期）集落
16	湯ノ沢E	〃　〃	縄文	7,500	〃	58	1,920	縄文（後期）
17	湯ノ沢F	〃　〃	縄文、土師、須恵	5,310	〃	58・60	4,400	弥生、土坑、平安墓（40基）
18	湯ノ沢G	〃　〃	縄文（後）	1,300	原野	58	400	縄文（後期）
19	湯ノ沢H	〃　〃	縄文	5,940	畑	58	720	縄文（前、中、晩期）住居跡
20	野畑	〃　上北手御所野字野畑	縄文（中）	1,875	山林	57	640	縄文（中期）集落
21	野形	〃　上北手御所野字野形	土師、須恵	5,940	山林原野	58	980	平安住居跡、窯跡
22	深田沢	〃　上北手古野字深田沢	縄文、平安	6,875	畑	59	3,320	平安建物跡、住居跡
23	台A	〃　上北手古野字台	〃	8,440	〃	60	2,000	縄文（中期）集落
24	地方	〃　上北手猿田字堤ノ沢	縄文（晩）	54,670	畑、原野			
25	湯ノ沢I	〃　四ツ小屋末戸松本字湯ノ沢			苗圃	60	5,700	弥生
26	秋大農場	〃　四ツ小屋小阿地字狸崎			畑、原野			
27	台B	〃　上北手猿田字寺ノ沢			山林原野			

遺跡の位置と地形・地質

位　　置

秋田市街から国道13号線を南下し、仁井田、横山を過ぎ、坂を登ると標高約40m前後の広大な台地が開ける。これは奥羽本線四ツ小屋駅方面からもよく見える平坦な台地であり、御所野台地、末戸台と呼ばれている。この台地が秋田新都市開発整備事業計画地域である。

各遺跡の位置については第１図、「御所野丘陵部発掘調査遺跡、範囲確認調査遺跡及び周辺遺跡」を参照されたい。

地形・地質

遺跡の存在する地形は、大別して和田丘陵と末戸台台地に分けられる。和田丘陵は平坦面をあまり持たない。しかし、定高性を持った標高60～150mのかなり開析を受けた老年期地形を示し、地質は第３系鮮新統に属する青色砂質シルト岩（笹岡層）と青灰色塊状泥岩（天徳寺層）、それに中新統に属する暗灰色泥岩（船川層）などからなっている。末戸台台地は標高25～50m強で、その表面は大変平坦である。この台地は和田丘陵と接して数段の段丘を識別できる。これらは内藤の区分からすると、上位から標高45～50m強の椿台段丘、標高40m強の上野台段丘Ⅰ、標高35m強の上野台段丘Ⅱ、標高25m強の宝竜崎段丘の４段階に分けられる。（第２図）

椿台段丘

岩見川右岸末戸台台地では45～50m強の標高をもつ、いわゆる椿台面をその堆積面とする椿台層が厚い礫（最大径10cm前後）、砂、粘土の互層で構成されている。ただ基底高度はわからない。岩相は最上部に１～２m褐色の粘土質火山灰層があり、次に礫、砂、粘土の互層で、砂礫の部分でしばしばクロス・ラミナ（斜交葉理）がみられ、砂土あるいはシルトは水平な細かい層理をなすことが多い。層厚をみると、礫層はうすく、砂、粘土層が厚い。その下部は第３系の泥岩（船川層）や砂質シルト（笹岡層）となっている。内藤はこの椿台面を関東の下末吉面に対比している。台Ａ遺跡は、この椿台段丘に位置する。

上野台段丘Ⅰ

末戸台台地で椿台段丘の南側に標高40m強でついている段丘が上野台段丘Ⅰと呼ばれている。表層の１～２mの粘土質火山炭層を除くと、段丘堆積物は最大径20～30cmの礫層であり、厚さは５m程度で、その下部は第３系となっている。

上野台段丘Ⅱ

末戸台台地では上野台段丘Ⅰとの比高が５m強である。段丘堆積物の岩相は、上野台段丘Ⅰとほぼ同様で、層厚は５m前後である。内藤によれば、厚い礫層の下部は椿台層に当るとしている。地蔵田Ｂ遺跡、湯ノ沢Ⅰ遺跡は、この上野台段丘Ⅱに位置する。

段丘堆積物の特徴は、上野台Ⅰ・Ⅱ面では最大径30cm前後の亜円礫を主体とする。ほぼ一様な礫層をもち、河川堆積物で、厚さも加味すると岩見川などによる河成の浸食段丘面と考えられる。椿

台、上野台Ⅰ、Ⅱ面の各面をおおっている層厚１～２ｍのシルト分を含んだ粘土質火山灰層は、男鹿半島の寒風山が起源と一応考えられている。(註２) この粘土質火山灰層の表面細粒物質の風化状態をみいくと、椿台、上野台Ⅰ、Ⅱ面では黒色土の下の細粒物質のうち、上部50～100cmが明褐色を呈し、下部は灰色で、境は漸移する。また、土壌断面を見ると、椿台、上野台Ⅰ、Ⅱ面をおおう土壌は、いわゆる高岡２統に属していると考えられ、比較的大きい円礫を混入していて、黒色土層を厚く堆積させている。この層中には火山ガラスを混入しており、火山灰が関係しているものと推定される。

（註１）「秋田県岩見川流域およびその周辺の段丘について」 内藤博夫　1965年　第４紀研究第４巻第１号

（註２）「地形、表層地質・土壌、秋田」 経済企画庁土地分類基本調査　1966年

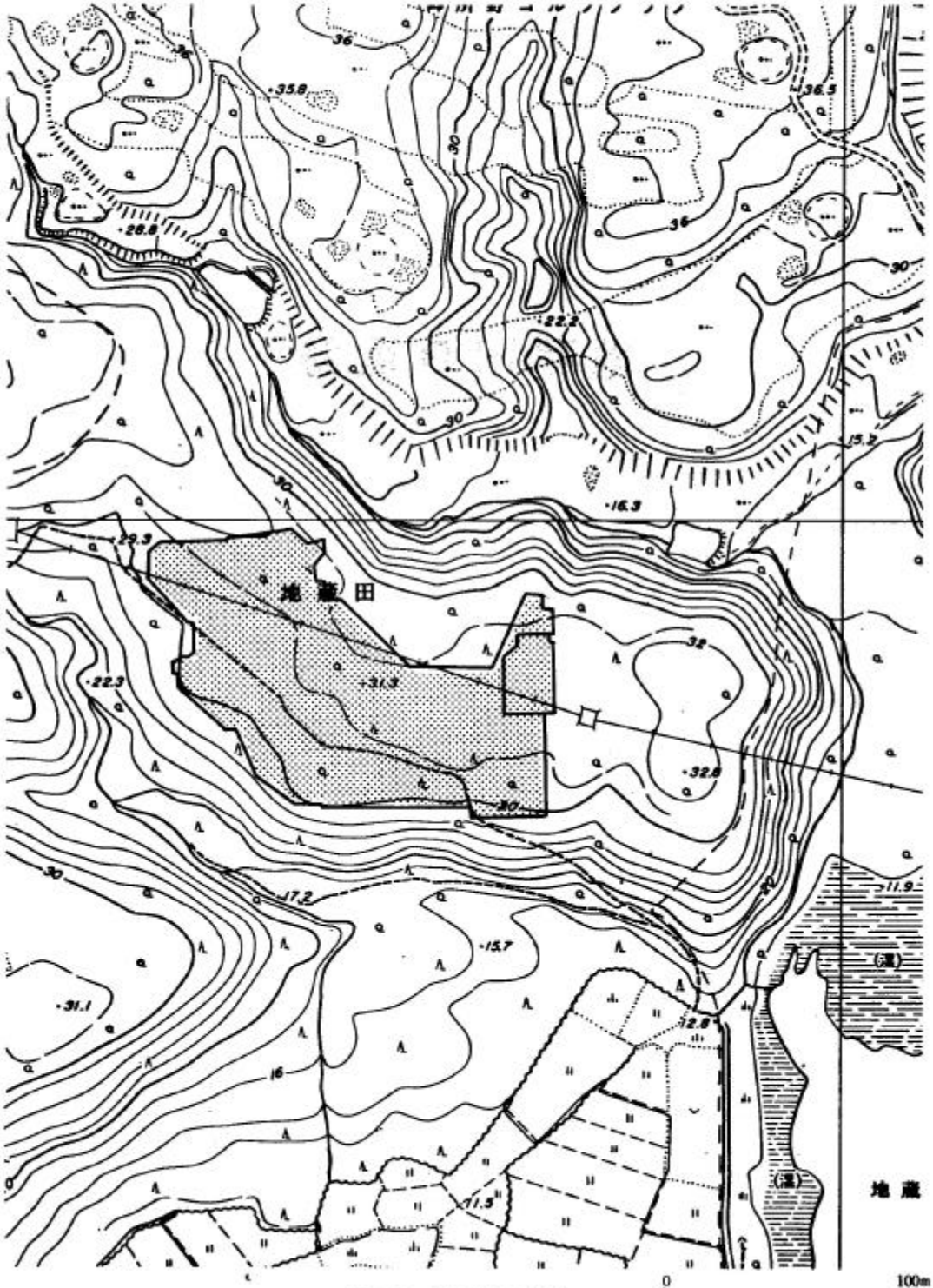
「八郎潟の研究」 秋田県教育委員会　1965年

「火山活動と地形」 村山馨　大明堂

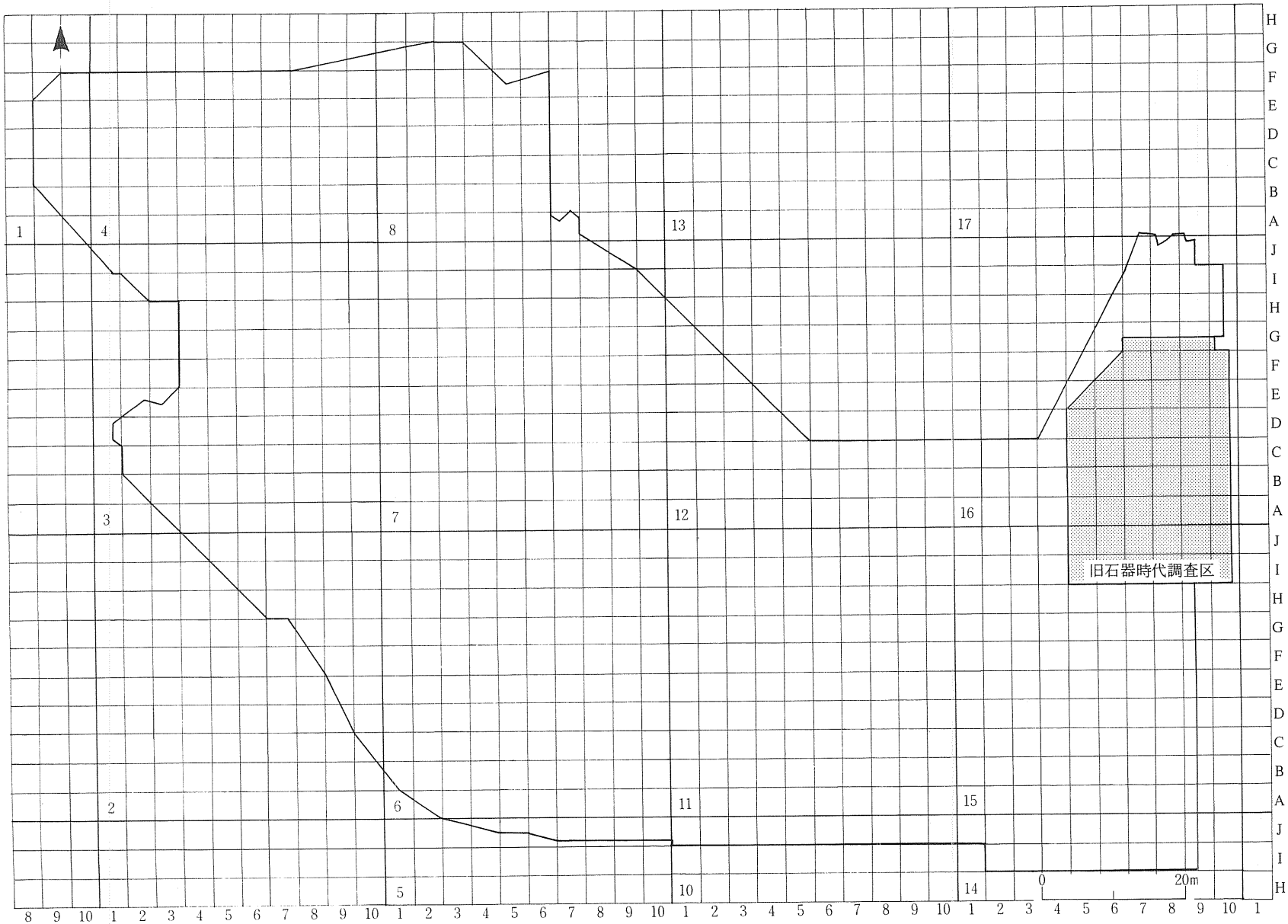
「秋田県男鹿半島一の目潟の火山拠出物について」 林　宏　地質学雑誌第61巻第717号　1955年

第２図　段　　丘

地蔵田B遺跡



第１図　遺跡周辺の地形


旧石器時代調査区
0
20m

遺跡の概観

御所野台地の南側、国鉄奥羽本線四ツ小屋駅から南東へ約1.1kmの地点で、標高約31mの東西に長い舌状台地（上野台段丘Ⅱ面）が遺跡である。

遺跡は旧石器時代、縄文時代中期末葉～後期初頭、弥生時代の複合遺跡で、遺構は縄文時代の竪穴住居跡、弥生時代の竪穴住居跡、柵木跡、土坑墓、土器棺墓、土坑、炉、時期不明の建物跡が１棟検出された。

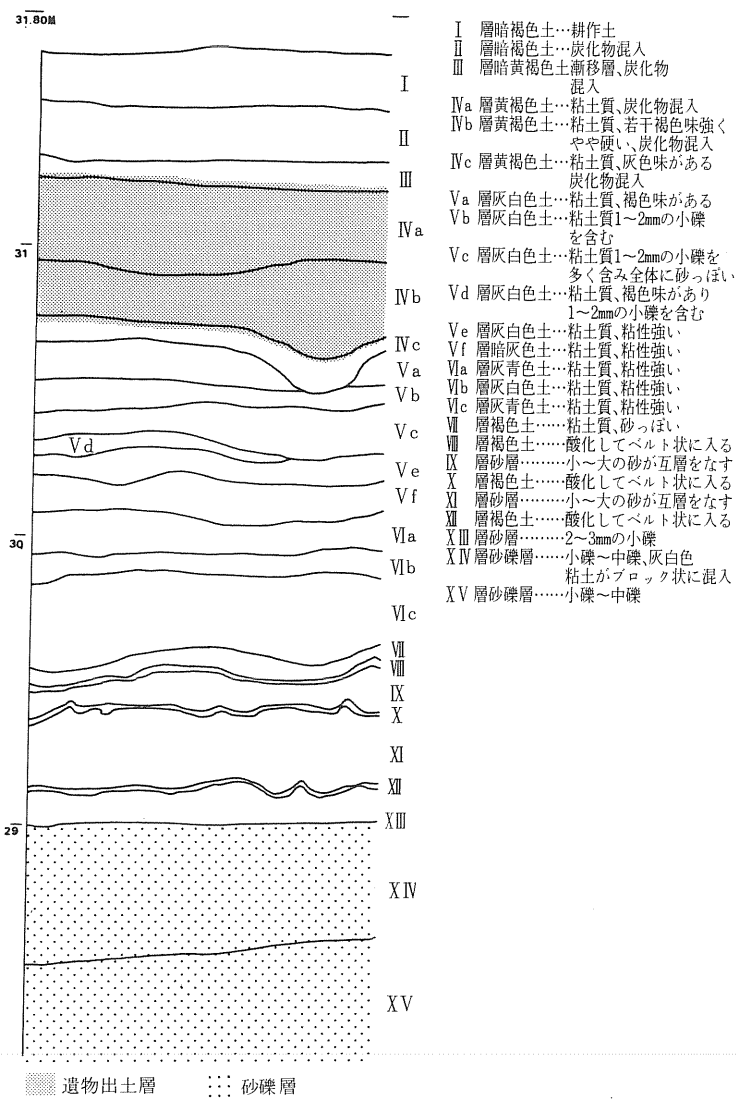
隣接する遺跡では東約300mに縄文時代中期末葉、弥生時代の「湯ノ沢Ａ遺跡」、東約350mに縄文時代中期末葉の「湯ノ沢Ｃ遺跡」、北西約500mに縄文時代中期初頭、中期末葉、弥生時代、平安時代の「坂ノ上Ｆ遺跡」、西約600mに弥生時代の「狸崎Ａ遺跡」等の関連遺跡が所在する。

旧石器時代

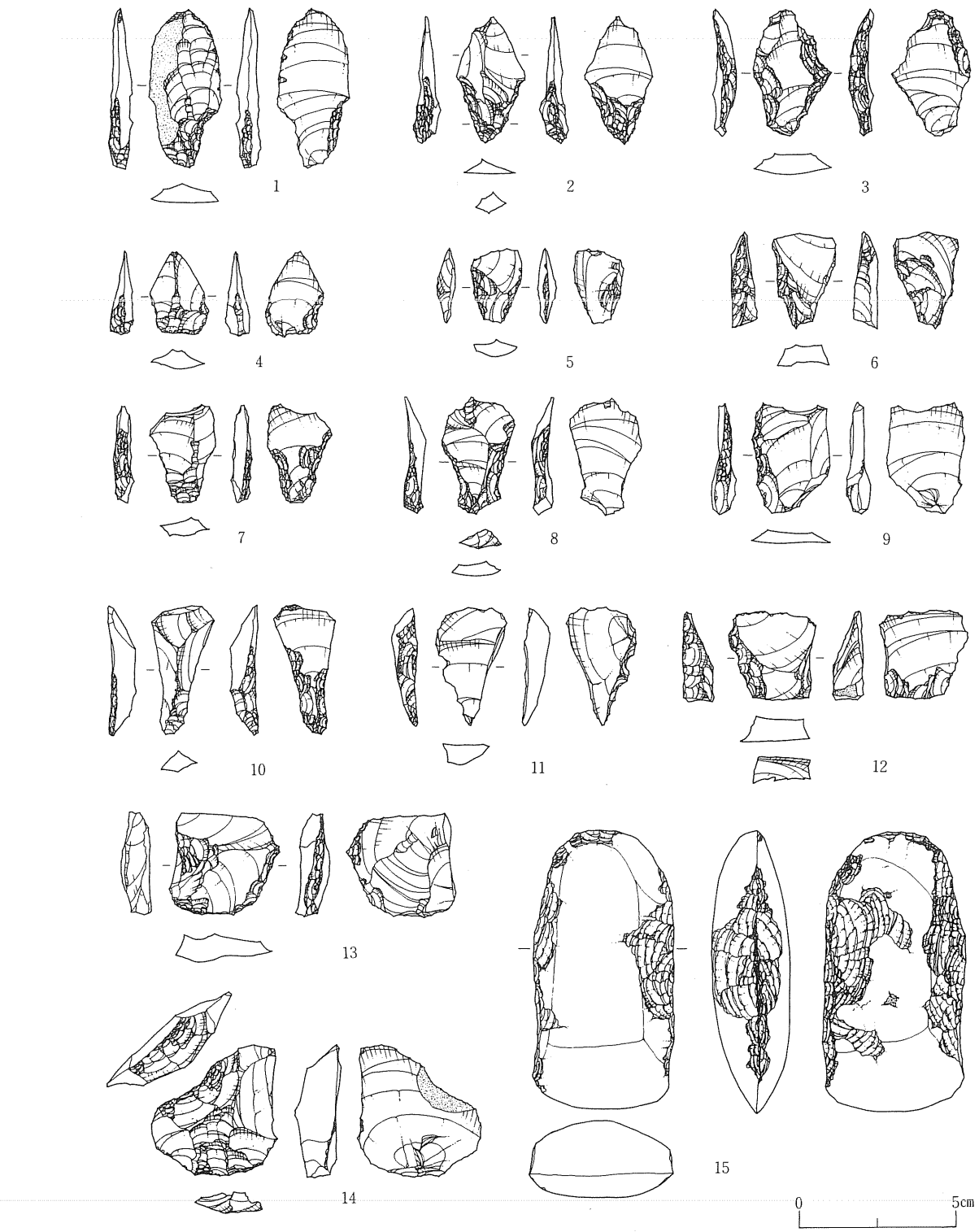
御所野丘陵部の新都市開発計画地域内で旧石器時代の遺跡が発掘調査されたのは、昭和57年度調査の「下堤Ｇ遺跡」とこの「地蔵田Ｂ遺跡」であり計画地域内の遺跡範囲確認調査の段階では「地蔵田Ａ遺跡」で石刃が検出され、旧石器時代の遺跡としているが発掘調査は昭和62年度の予定である。

下堤Ｇ遺跡はナイフ形石器石刃、米ヶ森型台形石器の組成をもつ遺跡で、地蔵田Ｂ遺跡はナイフ形石器、ノッチ、打製石斧、磨製石斧等の石器が出土しており、両遺跡の様相は異なっている。

本年度は調査が12月に入り発掘が不可能なため来年度、引き続き調査する予定であり、本報告は来年度とし、概報として取り扱っていることを御容赦願いたい。



第３図　土層図



第４図　ナイフ形石器・ノッチ・磨製石斧

層　位

標高30～40mのこの台地は上野台段丘Ⅱと呼ばれ、地蔵田B遺跡はこの上野台段丘Ⅱ面の中でも低位に位置する。旧石器時代の遺物はⅢ層(暗黄褐色土、ローム漸移層)下部、Ⅳa、Ⅳb層（黄褐色土、ローム層)、Ⅳc層(黄褐色土、灰色味)上部からの出土である。(第３図)

出土遺物

石器、剥片、石核等の出土総数は、約3,400点で、石器の器種はナイフ形石器、ノッチ、磨製石斧などである。(第４図)

遺構と遺物

縄文時代

１号住居跡（第５図）

調査区北西部で検出された。

プランは長軸3.8m、短軸3.1mの隅丸長方形を呈し、確認面からの深さは20cmで、壁はほぼ垂直に立ち上がる。ピットは６個検出され、主柱穴は４個である。炉は土器埋設部、石組部、掘り込みからなる。土器埋設部は深鉢形土器を埋設し、周辺は火熱を受けて赤変している。石組部は側面に石が組まれ、底面と側面の石が火熱を受けている。掘り込みは一段浅く壁に接する。床は平坦で堅い。

出土遺物

土器（第37図１、第44図38～43)

１は炉埋設土器、42は床面、他は覆土出土である。沈線区画の磨消帯を有するものである。１は口縁部が外面する深鉢形土器で、頸部に沈線が巡る。地文はＲＬ単節斜縄文（斜位回転）で、補修孔がみられる。

石器（第49図１・２、第52図38)

１は掻器、２は削器、38は磨石である。

２号住居跡（第６図）

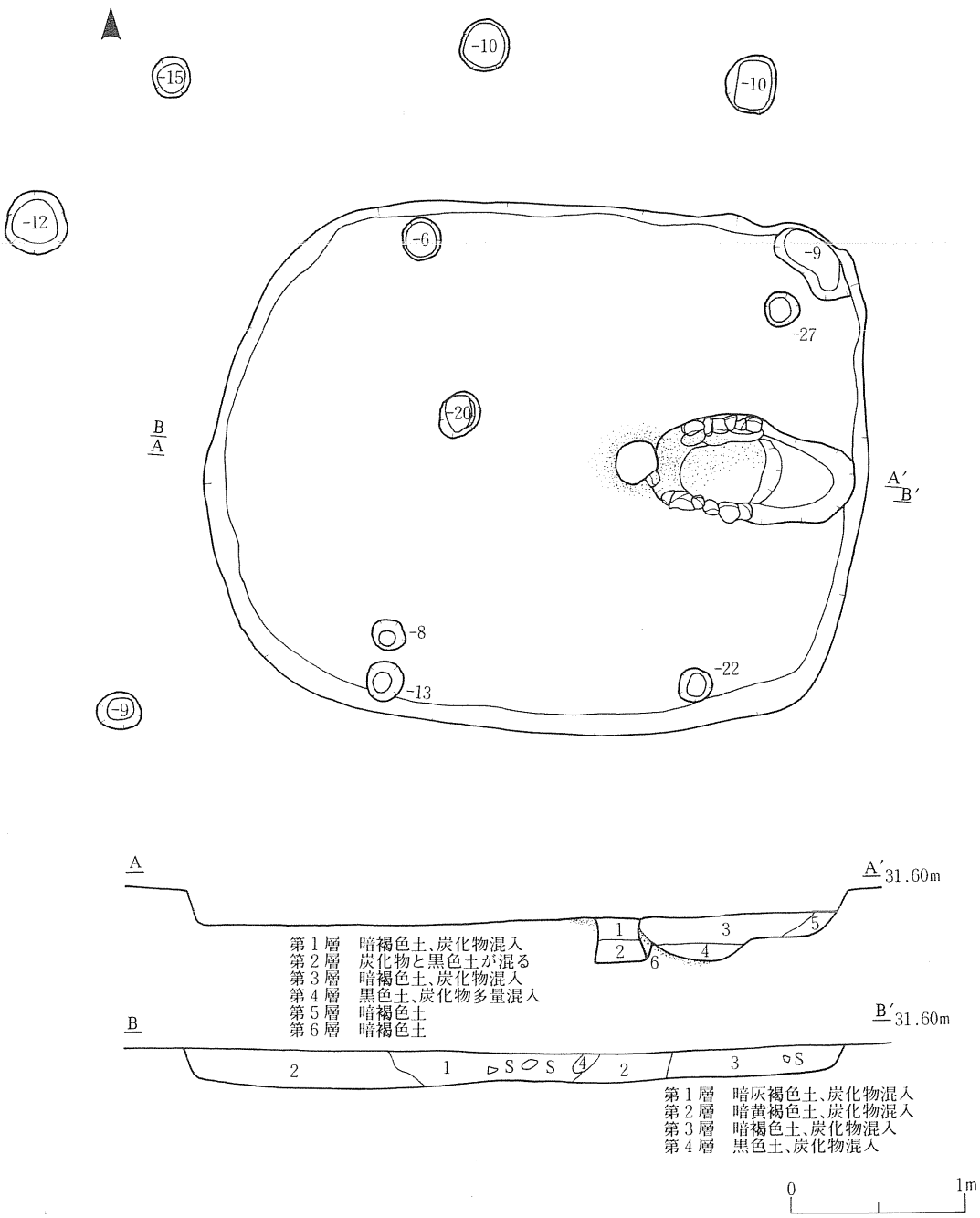
調査区北西部で検出された。

プランは長軸3.7m、短軸3.5mの楕円形を呈し、確認面からの深さは23cmで、壁はほぼ垂直に立ち上がる。ピットは10個検出され、主柱穴は壁際の４～５個と考えられる。炉は土器埋設部と石組部からなる。土器埋設部は深鉢形土器を埋設し、周辺は火熱を受けて赤変している。石組部は側面に石が組まれ、底面と側面の石が火熱を受けている。また、土器埋設部の南側に深鉢形土器の下半分が埋設され、火熱を受けていた。床は平坦で堅い。

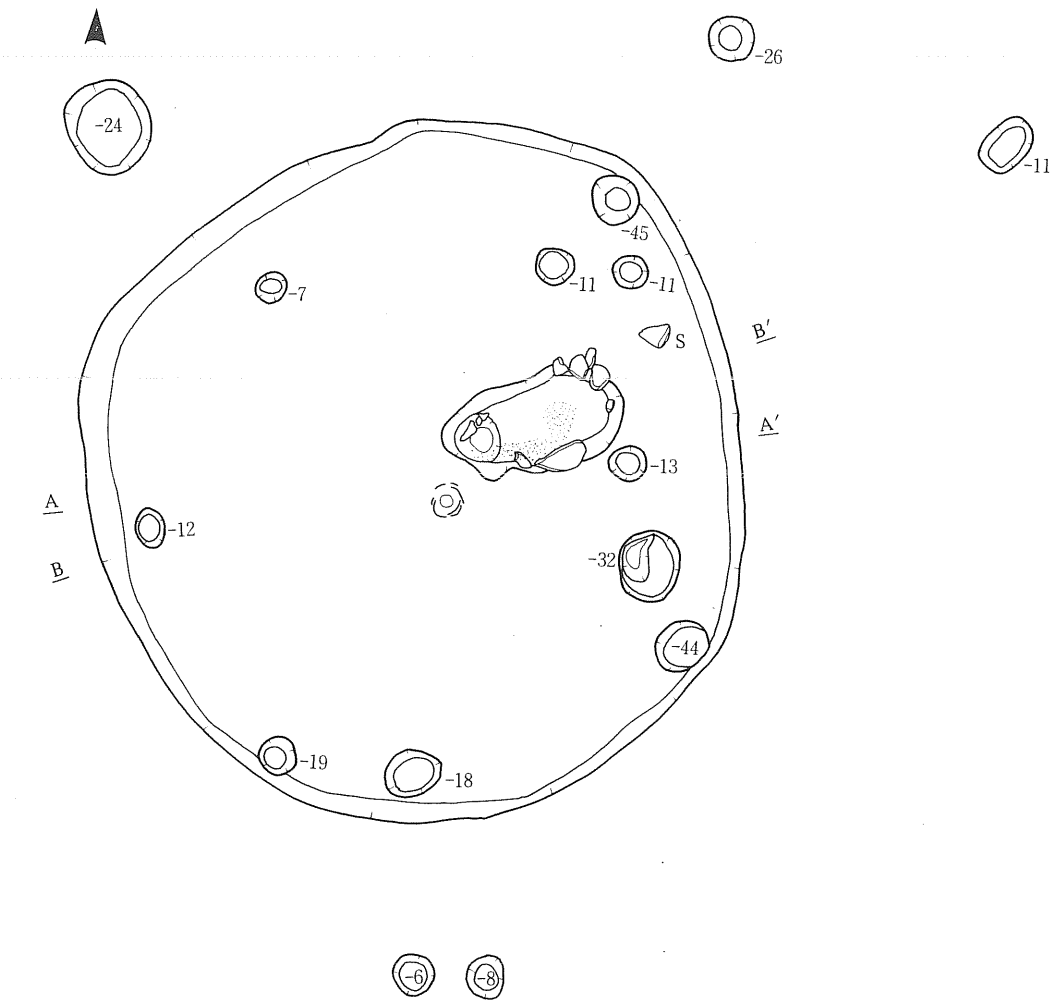
出土遺物

土器（第37図２・３、第44図44～46)

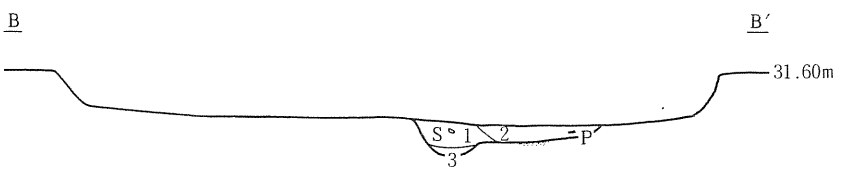
２は炉埋設土器、３は南側炉埋設土器、46は床面、他は覆土出土である。沈線区画の磨消帯を有


-10
-15
-10
-12
-6
-9
-27
-20
B
A
A′
B′
-8
-22
-13
-9
A
A′ 31.60m
第１層　暗褐色土、炭化物混入
第２層　炭化物と黒色土が混る
第３層　暗褐色土、炭化物混入
第４層　黒色土、炭化物多量混入
第５層　暗褐色土
第６層　暗褐色土
B
B′ 31.60m
第１層　暗灰褐色土、炭化物混入
第２層　暗黄褐色土、炭化物混入
第３層　暗褐色土、炭化物混入
第４層　黒色土、炭化物混入
0
1m

第５図　１号住居跡



第１層　暗黄褐色土、炭化物混入
第２層　暗黄褐色土、炭化物混入（第1層よりもやや黄色っぽい）



第１層　黄暗褐色土、焼土・炭化物少量混入
第２層　暗褐色土、焼土・炭化物少量混入
第３層　暗褐色土、炭化物混入

0　1m

第６図　２号住居跡

するものである。２は口縁部が直立する深鉢形土器で、「Ｊ」字状の磨消帯を有し、地文はＬＲ単節斜縄文（縦位回転）である。3は深鉢形土器の下半分で、地文はＲＬ単節斜縄文（縦・斜位回転）である。

石器（第49図３・４）

３はヘラ状石器、４は削器である。

３号住居跡（第７図）

調査区北西部で検出された。

プランは長軸3.6m、短軸3.5mの楕円形を呈し、確認面からの深さは20cmで、壁はほぼ垂直に立ち上がる。ピットは６個検出され、主柱穴は４個である。炉は土器埋設部と掘り込み部からなる。土器埋設部は深鉢形土器の胴部を２重に埋設し、周辺は火熱を受けて赤変している。掘り込み部は底・側面が火熱を受けている。床は平坦である。

出土遺物

土器（第37図４～６、第44図47～50）

５（内側）・６（外側）は炉埋設土器、４はピット、他は覆土出土である。半截竹管状工具内面による半隆起線で文様を作り出すもの、沈線区画の磨消帯を有するものである。５は深鉢形土器の下半分で、地文はＬＲ単節斜縄文（縦位回転）である。６は深鉢形土器の胴部で、地文はＲＬ単節斜縄文（縦位回転）である。４は口縁部が直立する鉢形土器で、「Ｊ」字状の磨消帯を有し、地文はＲＬ単節斜縄文（縦位回転）である。

石器（第49図５～７、第52図39）

５はつまみ部を欠く縦型石匙、６はヘラ状石器、７は削器、39は磨石である。

４号住居跡（第８図）

調査区北西部で検出された。

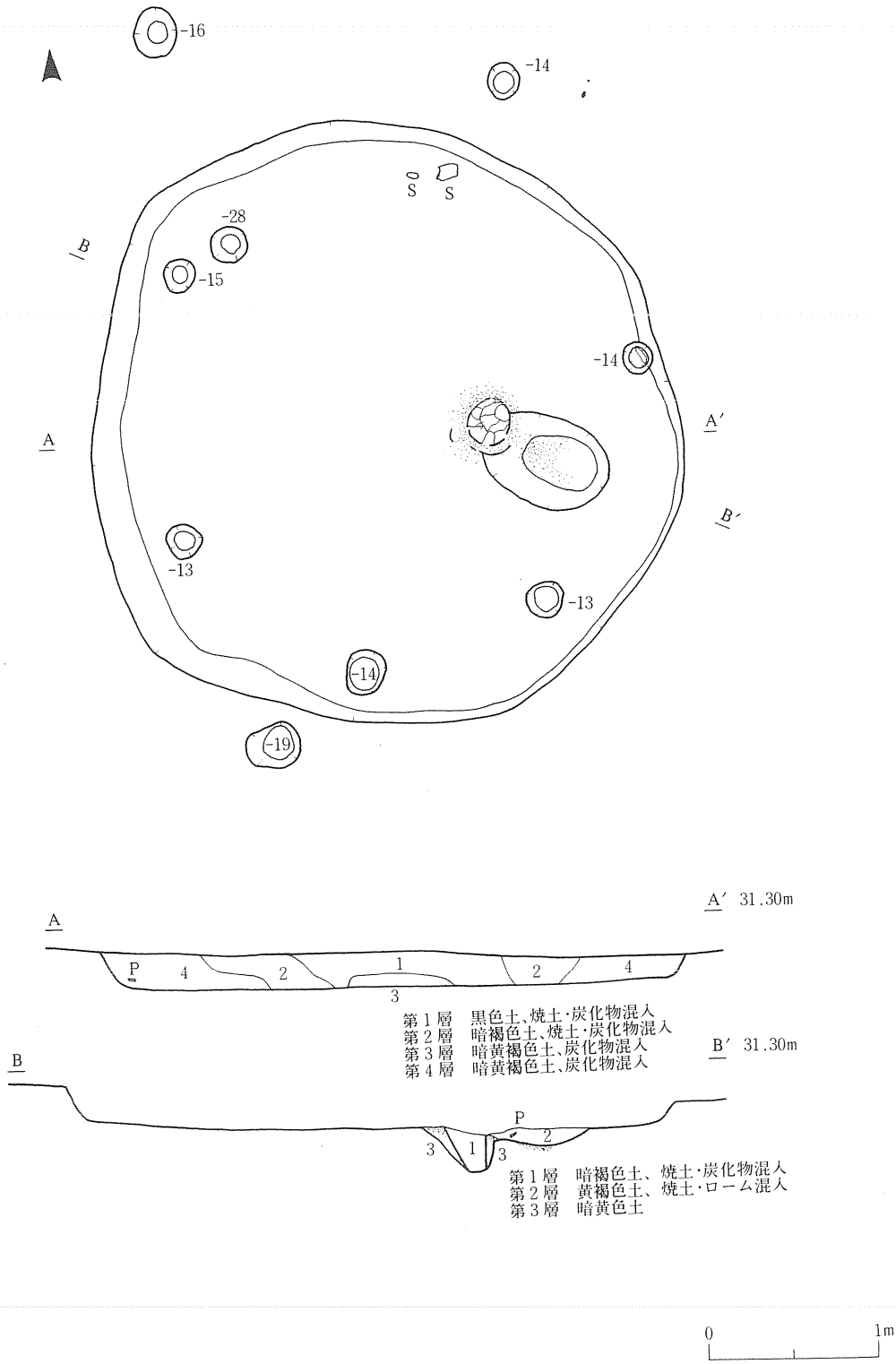
プランは長軸3.4m、短軸3.2mの楕円形を呈し、確認面からの深さは15cmで、壁はほぼ垂直に立ち上がる。ピットは４個検出されたが、主柱穴は不明である。炉は土器埋設部と石組部からなる。土器埋設部は深鉢形土器を埋設し、周辺は火熱を受けて赤変している。石組部は長い川原石を埋設土器に被さるように据え、壁側は側面に石が組まれている。底面と側面の石が火熱を受けている事から、側面の石は抜き取りと考えられる。床は平坦で堅い。

出土遺物

土器（第38図７・８、第44図51～59）

７は炉埋設土器、８は床面、他は覆土出土である。沈線区画の磨消帯を有するものである。７は口縁部が外反する深鉢形土器で、逆「Ｓ」字状の磨消帯を有し、地文はＬＲ単節斜縄文（縦位回転）である。８は口縁部が外反する深鉢形土器で、「Ｊ」字状の磨消帯を有し、地文はＬＲ単節斜縄文（縦位回転）である。

土製品（第160図72）

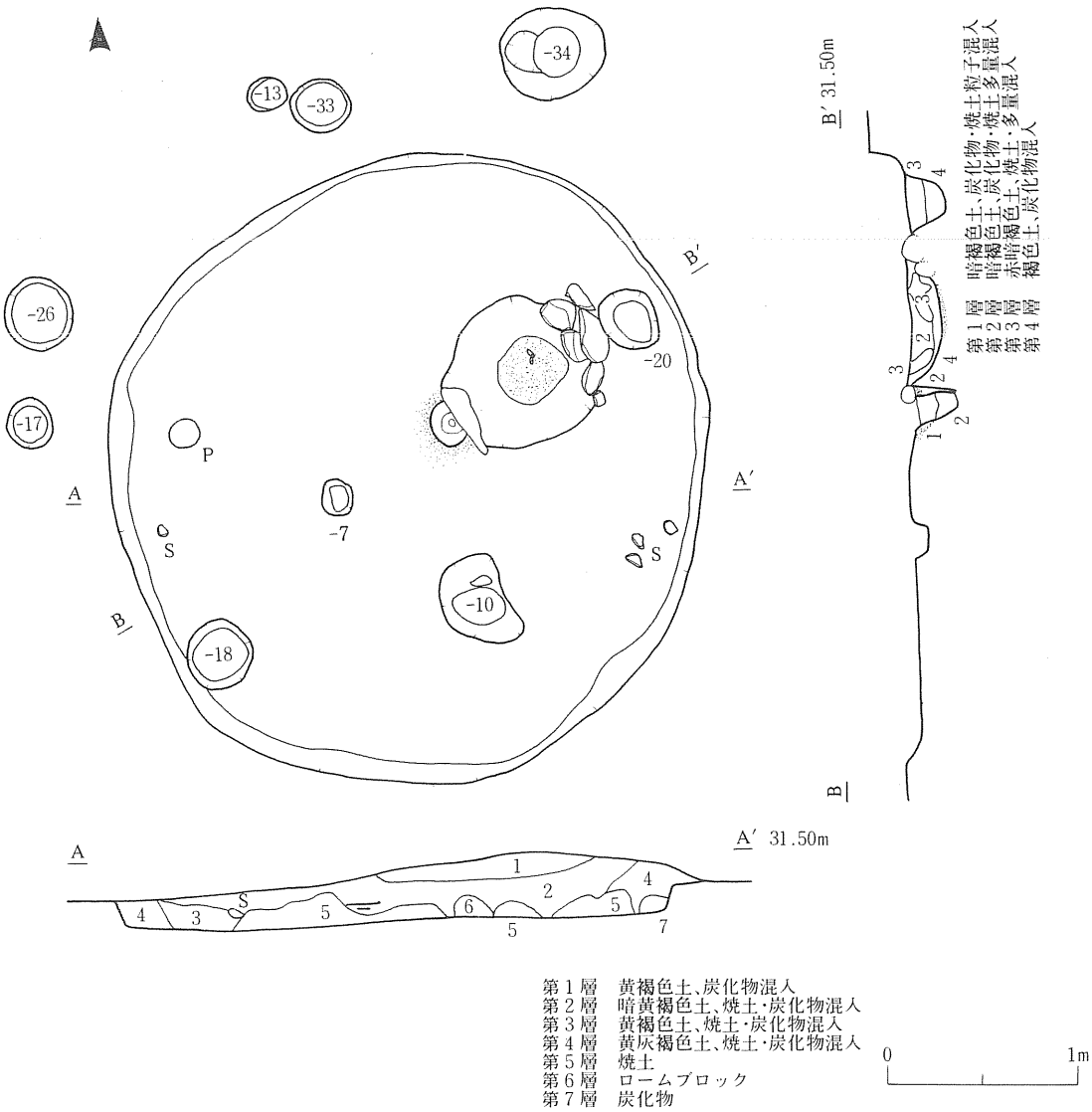

-16
-14
S
S
-28
-15
B
-14
A
A′
B′
-13
-13
-14
-19
A′ 31.30m
A
P
4
2
1
2
4
3
第１層　黒色土、焼土・炭化物混入
第２層　暗褐色土、焼土・炭化物混入
第３層　暗黄褐色土、炭化物混入
第４層　暗黄褐色土、炭化物混入
B′ 31.30m
B
P
2
3
1
3
第１層　暗褐色土、焼土・炭化物混入
第２層　黄褐色土、焼土・ローム混入
第３層　暗黄色土
0
1m

第７図　３号住居跡

72は再利用土製品で、土器片を利用したものである。

石器（第49図８）

８は縦型石匙である。



第８図　４号住居跡

５号住居跡（第９図）

調査区西側で検出された。

プランは長軸5.3m、短軸4.7mの楕円形を呈し、確認面からの深さは40cmで、壁はほぼ垂直に立ち上がる。ピットは11個検出され、主柱穴は深い掘り方の４個である。炉は石囲土器埋設部、掘り込み部、一段浅い掘り込みからなる。石囲土器埋設部は深鉢形土器を埋設し、周辺は火熱を受けて赤変している。掘り込み部は底・側面が火熱を受けている。一段浅い掘り込みは壁に接する。床は

中央部が若干くぼむが全体的に堅い。

出土遺物

土器（第38図９、第45図60～72）

９は炉埋設土器、72が床面、他は覆土出土である。口縁部に撚糸圧痕を施すもの、沈線区画の磨消帯を有するものである。９は口縁部が外反する深鉢形土器である。「Ｊ」字状の磨消帯が胴部中程の波状磨消帯と連絡し、地文はＲＬ単節斜縄文（縦位回転）である。

土製品（第160図73）

73は再利用土製品で、土器片を利用したものである。

石器（第49図９・10、第52図40）

９は横型石匙、10は掻器、40は磨石である。

６号住居跡（第10図）

調査区西側で検出された。

プランは一辺3.1ｍの隅丸方形を呈し、確認面からの深さは20cmで、壁はほぼ垂直に立ち上がる。ピットは６個検出され、主柱穴は４個である。炉は土器埋設部と石組部からなる。土器埋設部は深鉢形土器（復原不可能）を埋設し、周辺は火熱を受けて赤変している。石組部は底面と側面の石が火熱を受けており、側面の数個の石は抜き取られている。床は平坦で堅い。

出土遺物

土器（第45図73～82）

73、82は床面、他は覆土出土である。沈線区画の磨消帯を有するものである。

石器（第49図11・12）

11は削器、12は磨製石斧で、刃部を欠く。

７号住居跡（第11図）

調査区西側で検出された。

プランは径2.8ｍの円形を呈し、確認面からの深さは20cmで、壁は緩く立ち上がる、ピットは６個検出され、主柱穴は４個である。炉は石囲土器埋設部と掘り込み部からなる。石囲土器埋設部は深鉢形土器の胴部を埋設し、周辺が火熱を受けて赤変している。掘り込み部は側面の一部が火熱を受けている。床は平坦で堅い。

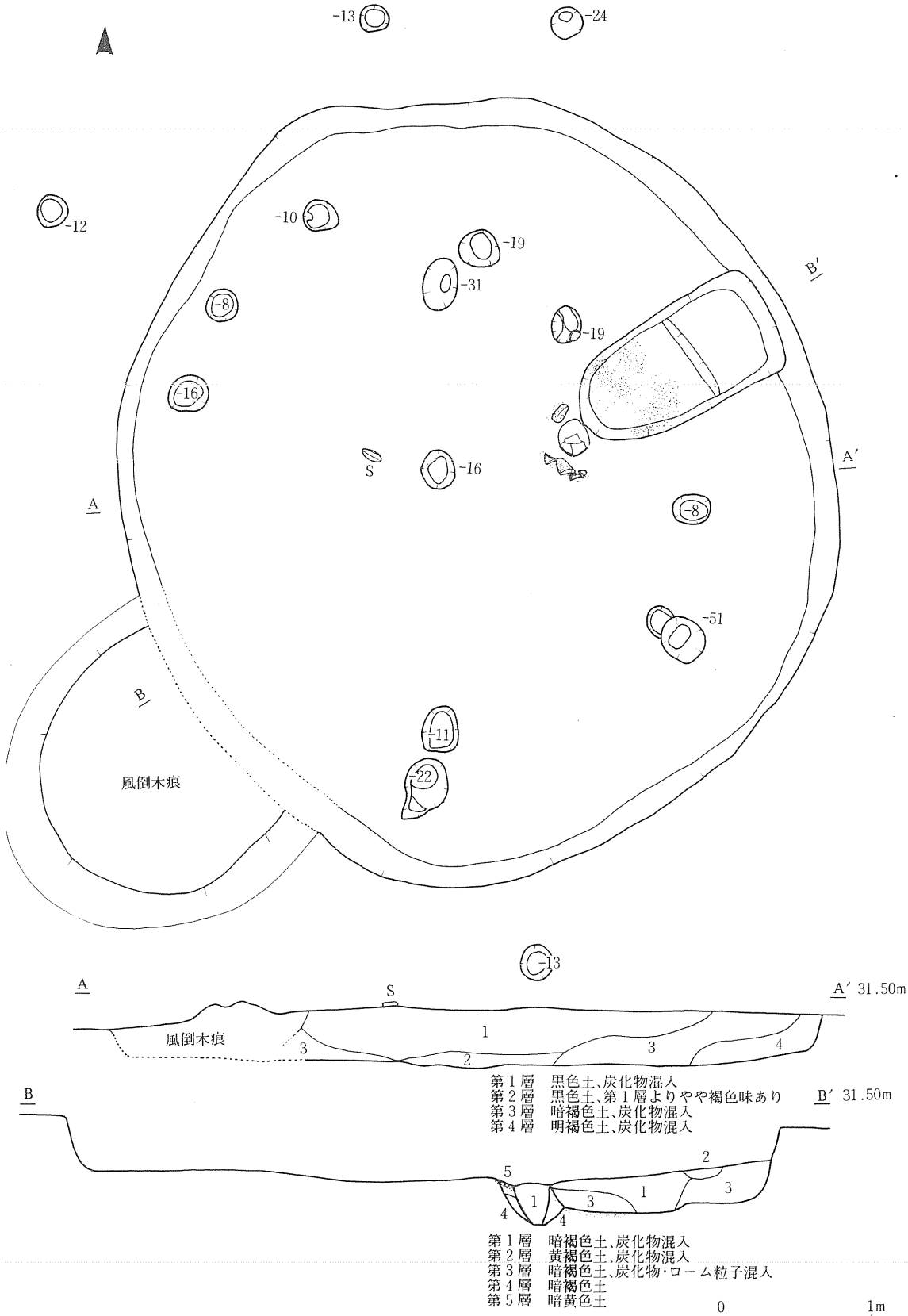
出土遺物

土器（第38図10、第45図83）

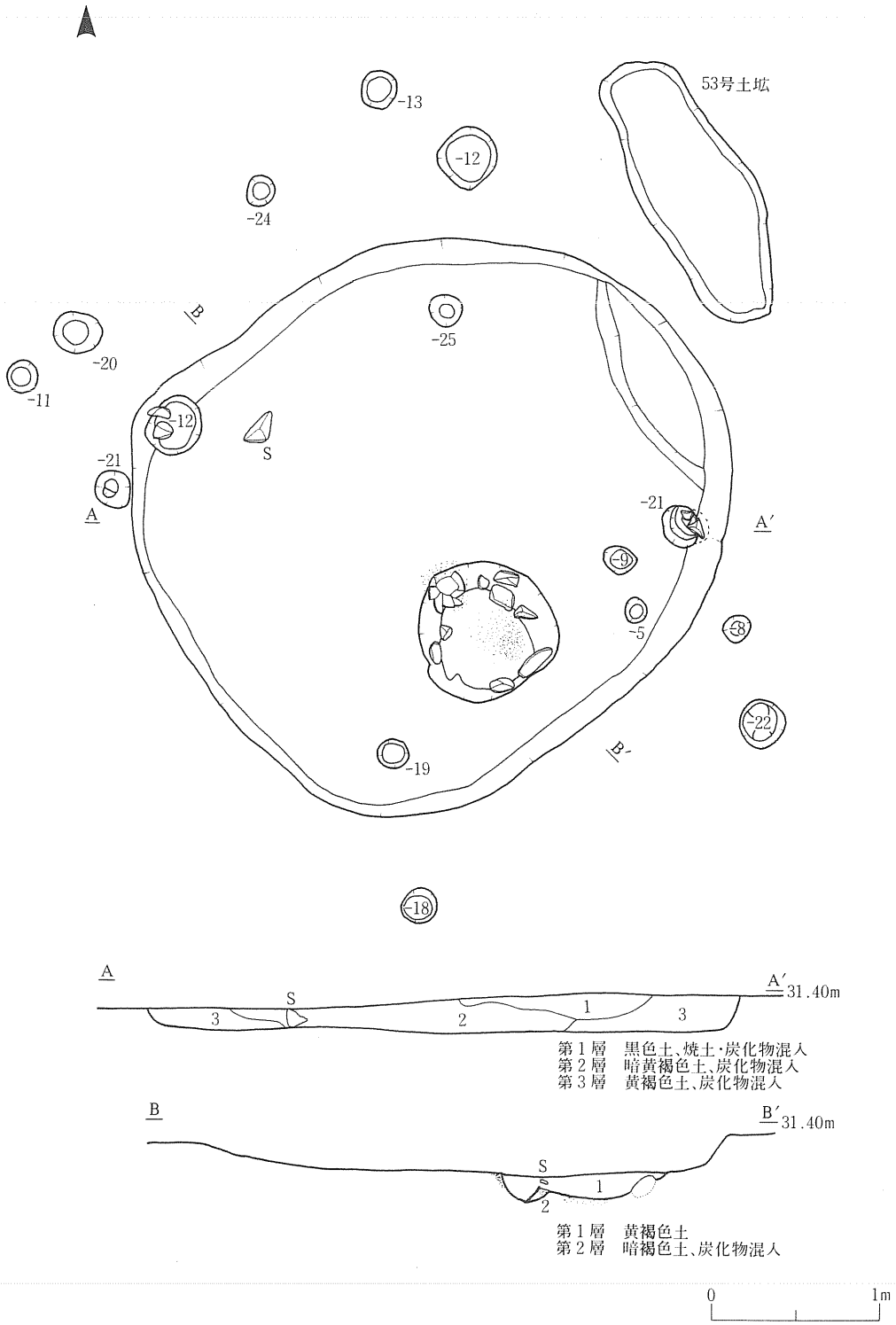
10は炉埋設土器、83は覆土出土である。10は深鉢形土器の下半分で、地文はＬＲ単節斜縄文（縦位回転）である。

石器（第49図13、第52図41）

13は掻器、41はくぼみ石である。


-13
-24
-12
-10
-19
-31
-8
-19
-16
S
-16
A
A′
B
B′
-8
-51
-11
-22
風倒木痕
-13
A
S
A′ 31.50m
風倒木痕
1
2
3
3
4
第１層　黒色土、炭化物混入
第２層　黒色土、第１層よりやや褐色味あり
第３層　暗褐色土、炭化物混入
第４層　明褐色土、炭化物混入
B
B′ 31.50m
5
2
1
3
1
3
4
4
第１層　暗褐色土、炭化物混入
第２層　黄褐色土、炭化物混入
第３層　暗褐色土、炭化物・ローム粒子混入
第４層　暗褐色土
第５層　暗黄色土
0
1m

第９図　５号住居跡


53号土坑
-13
-12
-24
-25
-20
-11
-12
S
-21
A
-21
A′
-9
-5
-8
-22
-19
B
B′
-18
A
A′
31.40m
S
3
2
1
3
第1層　黒色土、焼土・炭化物混入
第2層　暗黄褐色土、炭化物混入
第3層　黄褐色土、炭化物混入
B
B′
31.40m
S
1
2
第1層　黄褐色土
第2層　暗褐色土、炭化物混入
0
1m

第10図　6号住居跡

8号住居跡（第12図）

調査区北側で検出された。

プランは長軸2.8m、短軸2.7mのほぼ円形を呈し、確認面からの深さは15cmで壁はほぼ垂直に立ち上がる。ピットは2個のみの検出で炉はない。床は平坦で堅い。

出土遺物

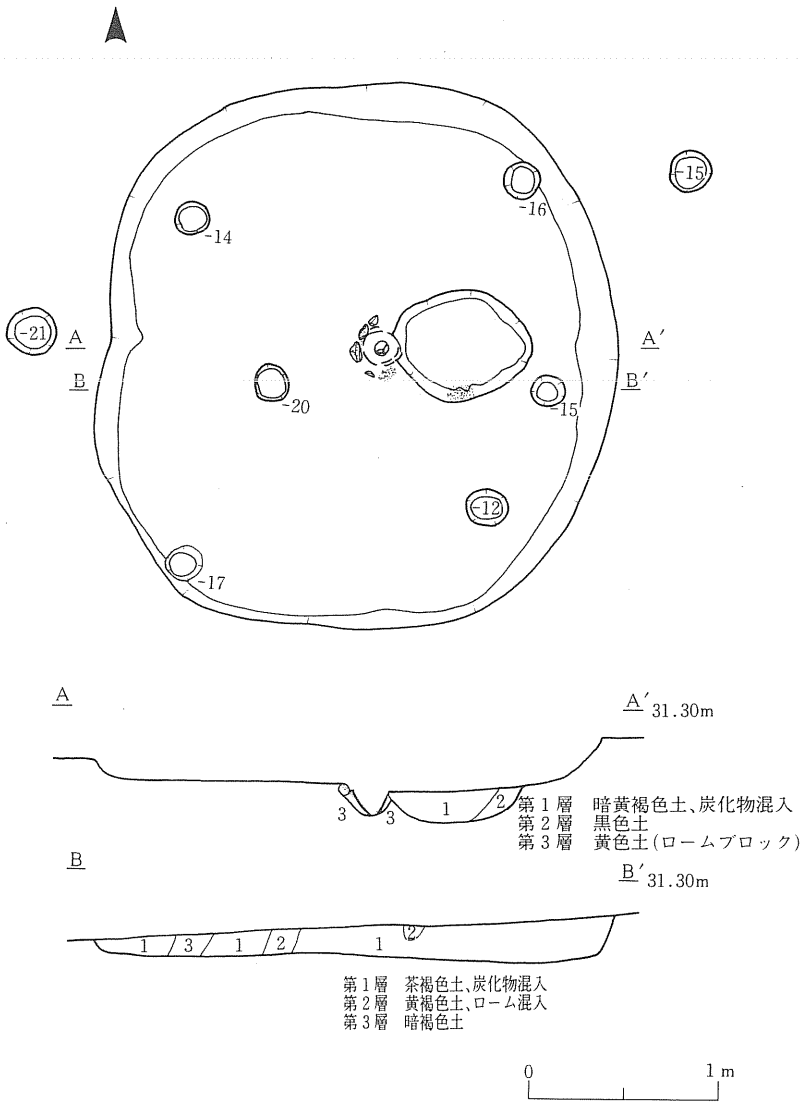
石器（第52図42）

42は石錘で、両端を打ち欠いている。

9号住居跡（第13図）

調査区北側で検出された。

プランは径3mの円形を呈し、確認面からの深さは15cmで、壁はほぼ垂直に立ち上がる。ピットは9個検出され、主柱穴は4個と考えられる。炉は2基検出された。北西側の炉は土器埋設部と掘り込み部からなる。土器埋設部は深鉢形土器の胴部を埋設し、周辺は火熱を受けて赤変している。掘り込み部は底・側面が火熱を受けている。北側の炉は土器埋設部と掘り込み部からなる。土器埋設部は深鉢形土器を埋設し、周辺は火熱を受けて赤変している。埋設土器の中には川原石が入っていた。掘り込み部は底・側面が火熱を受けている。本炉が北西側の炉を切っている。床は平坦で堅い。



第11図　7号住居跡

出土遺物

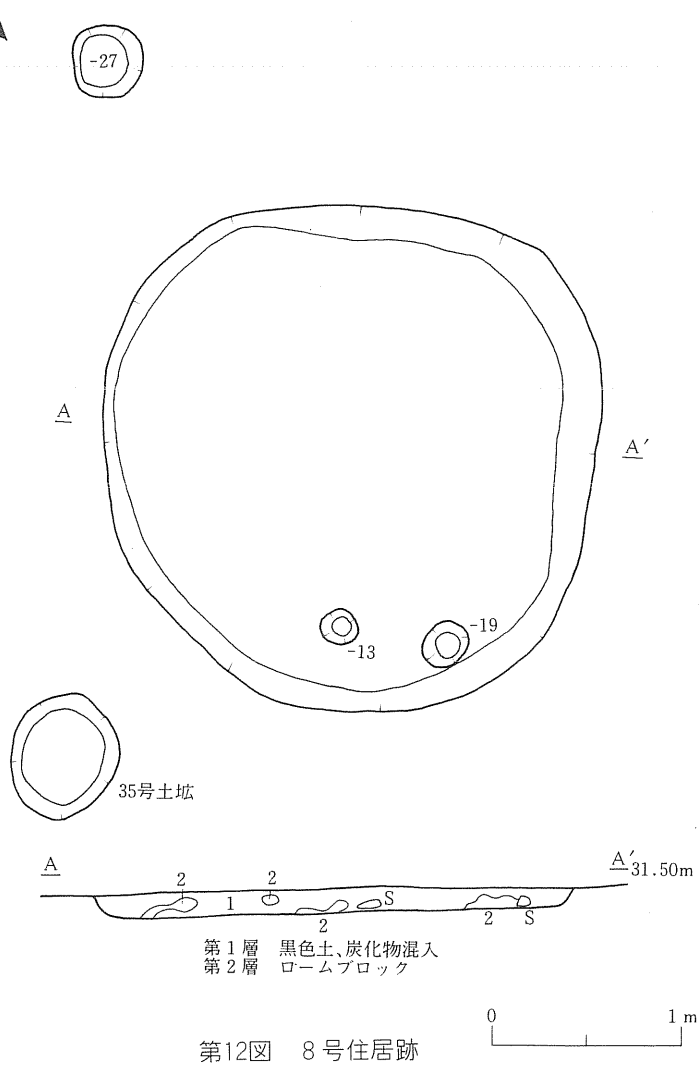
土器（第38・39図11・12、第45図84・85）

11は北西側の炉埋設土器、12は北側の炉埋設土器、他は覆土出土である。11は深鉢形土器の胴部で、地文は撚糸文である。12は深鉢形土器の胴部で、磨消帯が交差する部分に刺突が施される。地文はＬＲ単節斜縄文（縦位回転）である。

10号住居跡（第14図）

調査区北側で検出される。

プランは径 2.8m の円形を呈し、確認面からの深さは15cmで壁はほぼ垂直に立ち上がる。ピットは５個検出され、主柱穴は４個である。炉は土器埋設部と石組部からなる。土器埋設部は深鉢形土器の下半分を埋設し、周辺は火熱を受けて赤変している。石組部は埋設土器との間に川原石を据え、底・側面が火熱を受けている。床は平坦で堅い。



第12図　８号住居跡

出土遺物

土器（第39図13・14、第46図86～88）

13は炉埋設土器、他は覆土出土である。沈線区画の磨消帯を有するものである。13は深鉢形土器の下半分で、地文はＲＬ単節斜縄文（縦位回転）である。14は口縁部が外反する鉢形土器で、「Ｊ」字状の磨消帯を有し、地文はＲＬ単節斜縄文（縦位回転）である。

石器（第49図14）

14は独鈷石で、両頭部が欠損し、稜線間にはアスファルトが付着している。

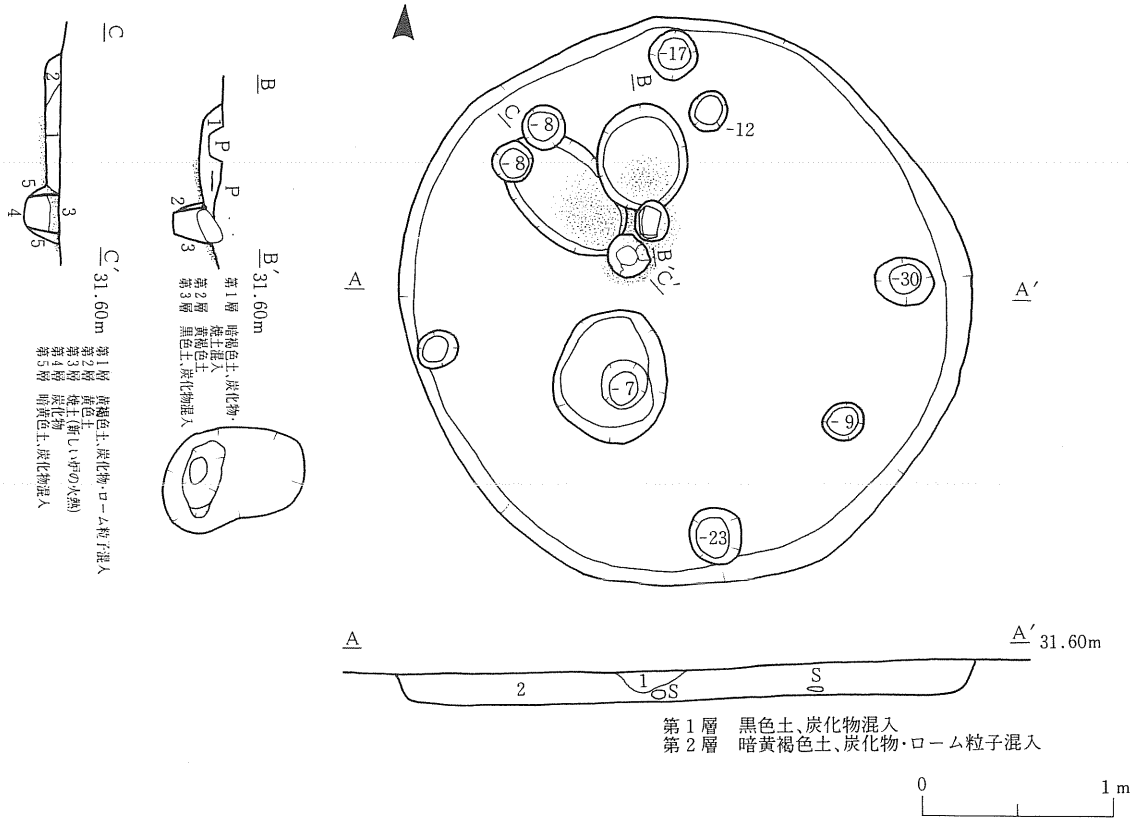
11号住居跡（第15図）

調査区北側で検出された。

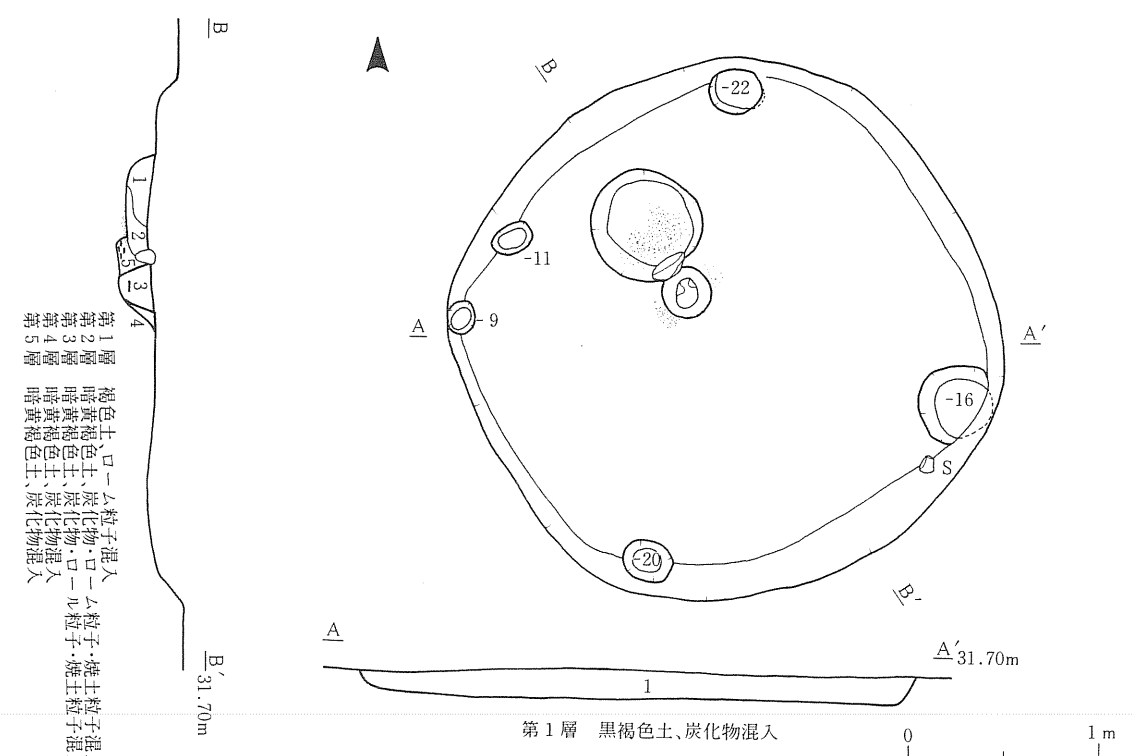
プランは径3.2mの円形を呈し、確認面からの深さは20cmで、壁はほぼ垂直に立ち上がる。ピットは12個検出され、主柱穴は壁際の４個である。炉は石囲土器埋設炉である。深鉢形土器をやや斜めに埋設し、石は３個のみ残存し他は抜き取られている。周辺は火熱を受けて赤変している。床は平坦で堅い。

出土遺物

土器（第39図15～17、第46図89・90）



第13図　9号住居跡



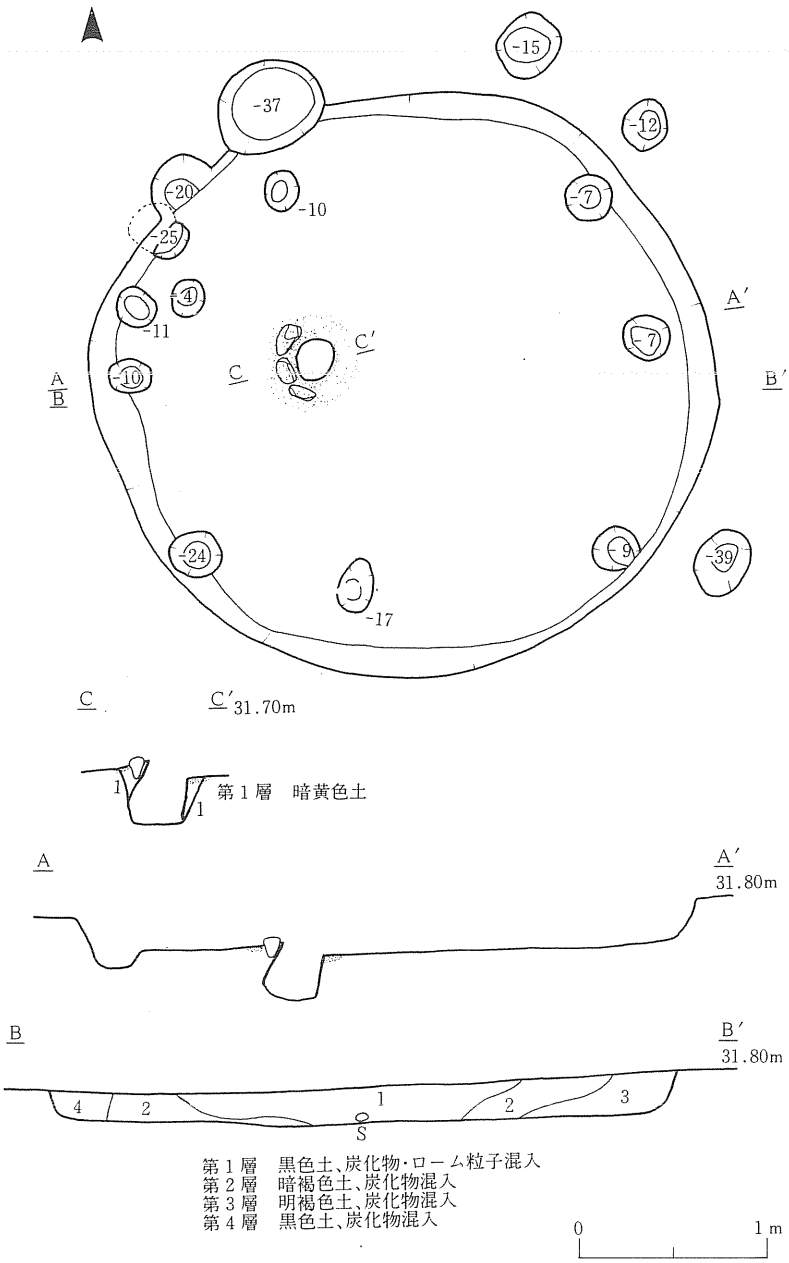
第14図　10号住居跡

15は炉埋設土器、16はピット、他は覆土出土である。沈線及び稜線区画の磨消帯を有するもの、沈線で文様を作り出すものである。15は口縁部が直立する深鉢形土器で、頸部に沈線が巡る。地文はＬＲ単節斜縄文（縦位回転）である。16は口縁部が直立し突起をもつ深鉢形土器で、突起の下へ沈線で同心円文を施し、地文を磨消す。地文はＬＲ単節斜縄文（縦・斜位回転）である。17は鉢形土器で、横位への磨消帯と刺突を施す。地文はＲＬ単節斜縄文（縦位回転）である。

12号住居跡（第16図）

調査区北側で検出された。

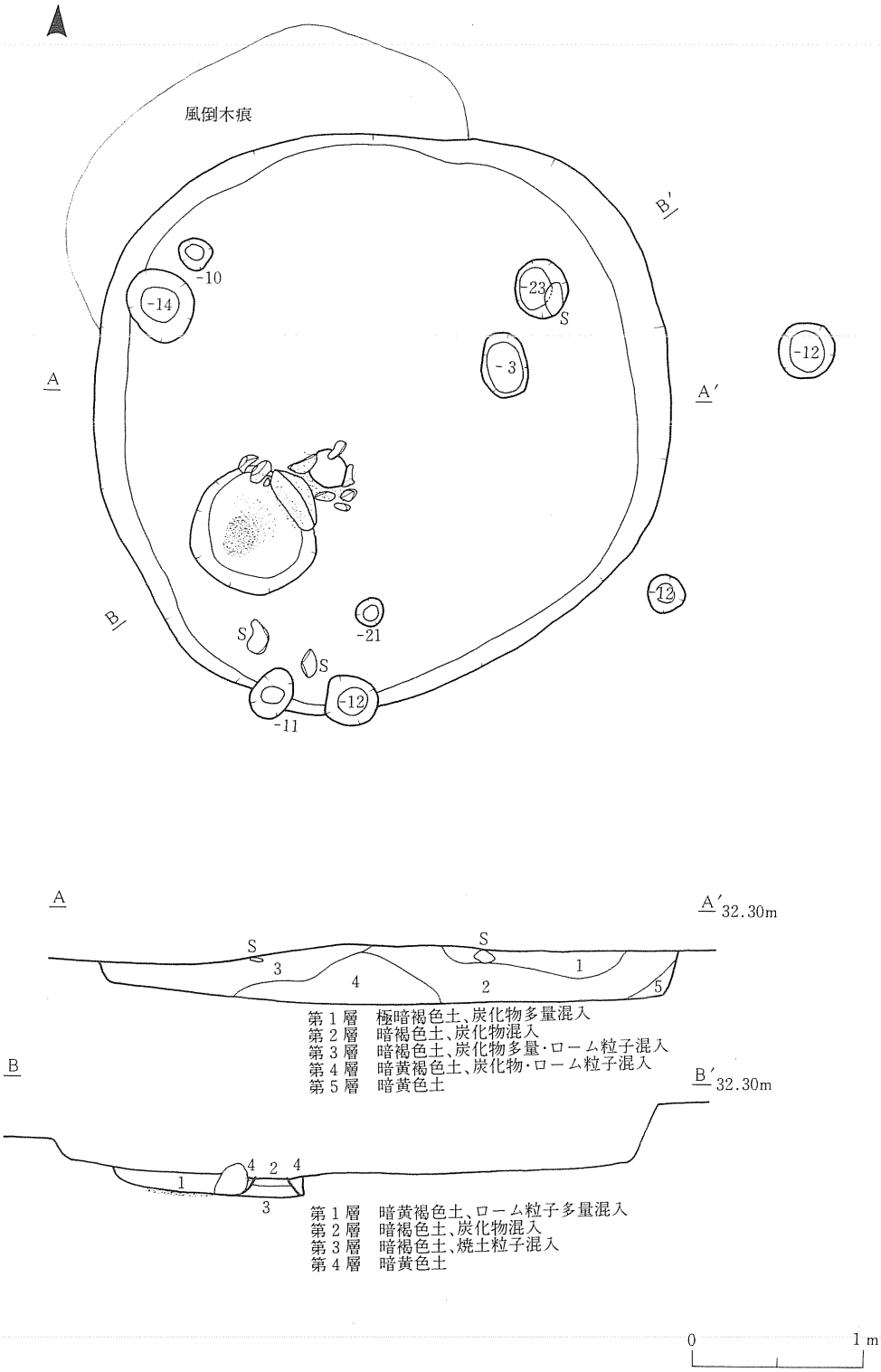
プランは長軸3.6m、短軸3.4mの楕円形を呈し、確認面からの深さは30cmで、壁はほぼ垂直に立ち上がる。ピットは７個検出され、主柱穴は３個と考えられる。炉は石囲土器埋設部と石組部からなる。石囲土器埋設部は深鉢形土器の口縁部を倒立させて埋設し、周辺は火熱を受けて赤変し、数個の石は抜き取られている。石組部は埋設土器との間に巨礫を据え、側面に３個の石が組まれている。底面と側面の石が火熱を受けている事から、側面の石は抜き取られたものと考えられる。床は平坦で堅い。



第15図　11号住居跡

出土遺物

土器（第40図18、第46図91～102）


風倒木痕
A
A′
B
B′
-10
-14
-23
S
-3
-12
-21
-11
A
A′ 32.30m
S
3
4
2
1
5
第１層　極暗褐色土、炭化物多量混入
第２層　暗褐色土、炭化物混入
第３層　暗褐色土、炭化物多量・ローム粒子混入
第４層　暗黄褐色土、炭化物・ローム粒子混入
第５層　暗黄色土
B
B′ 32.30m
1
4
2
4
3
第１層　暗黄褐色土、ローム粒子多量混入
第２層　暗褐色土、炭化物混入
第３層　暗褐色土、焼土粒子混入
第４層　暗黄色土
0
1 m

第16図　12号住居跡

18は炉埋設土器、他は覆土出土である。沈線及び稜線区画の磨消帯を有するものである。18は口縁部が外反する深鉢形土器で、沈線と稜線区画の磨消帯を有し、地文はＲＬ単節斜縄文（縦位回転）である。

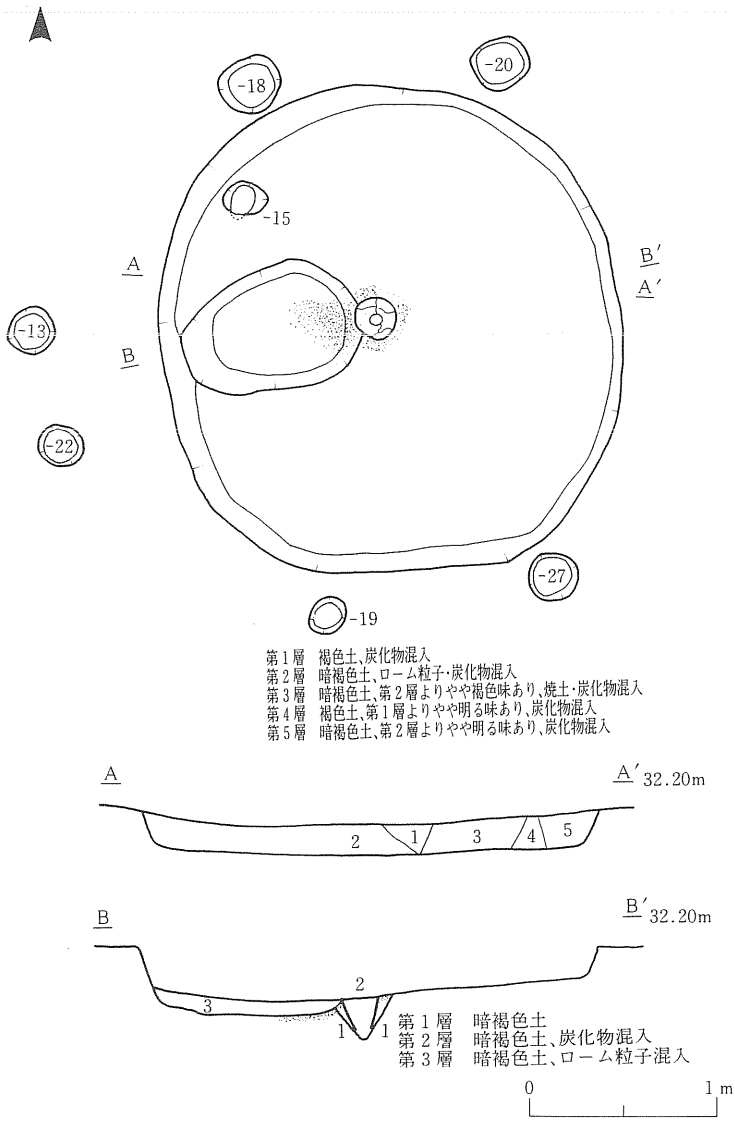
石器（第50図15～17）

15は横型石匙、16は掻器、17は削器である。

13号住居跡（第17図）

調査区北側で検出された。

プランは長軸2.6m、短軸2.4mのほぼ円形を呈し、確認面からの深さは15cmで、壁はほぼ垂直に立ち上がる。ピットは１個のみの検出であるが、住居外側の４個が主柱穴と考えられる。炉は土器埋設部と掘り込み部からなる。土器埋設部は深鉢形土器の胴部を埋設し、周辺は火熱を受けて赤変している。掘り込み部は底・側面が火熱を受けている。床は平坦である。



第17図　13号住居跡

出土遺物

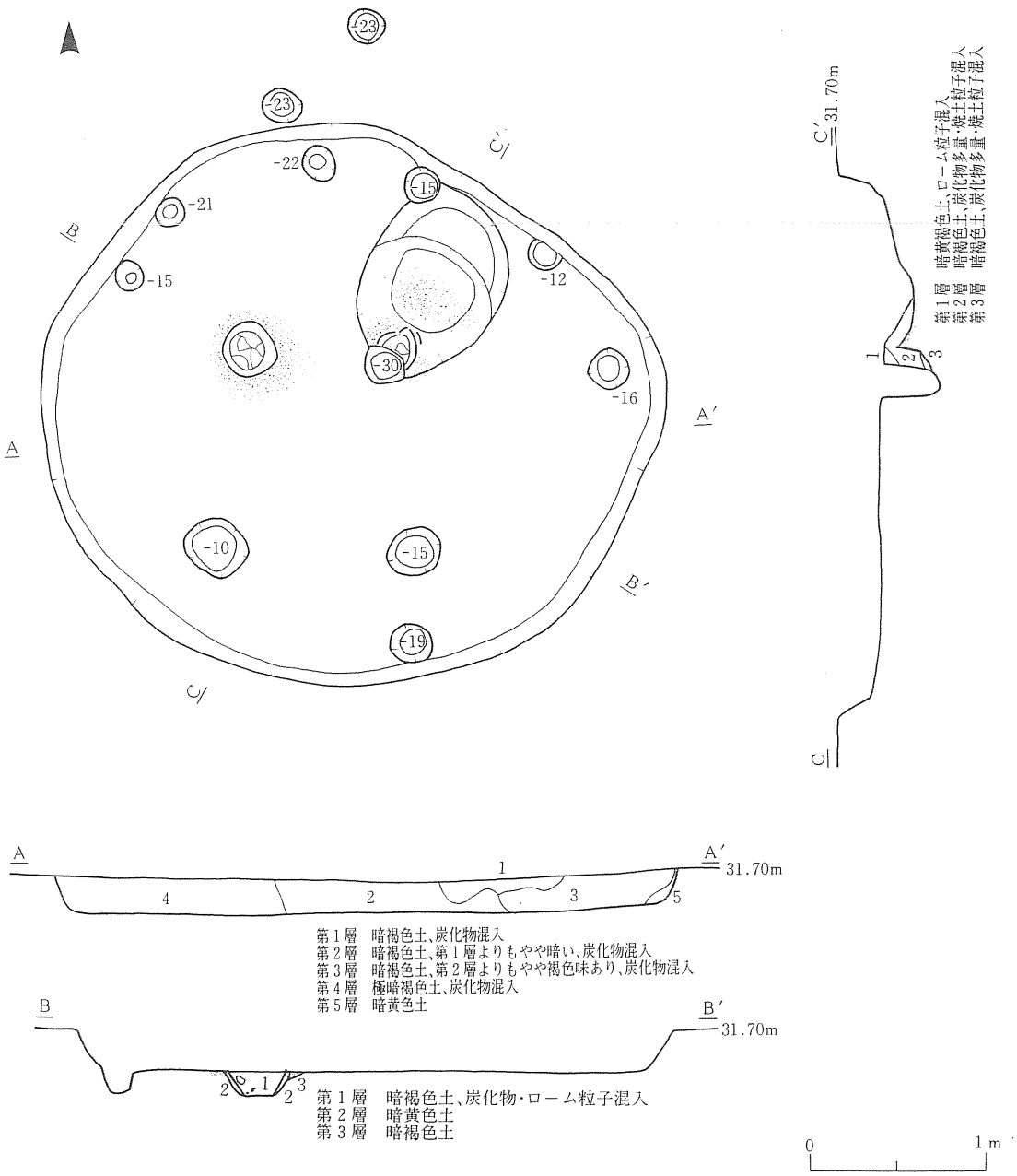
土器（第40図19）

19は炉埋設土器である。深鉢形土器の下半分で、稜線区画の磨消帯を有する。地文はＬＲ単節斜縄文（縦位回転）である。

14号住居跡（第18図）

調査区北側で検出された。

プランは長軸3.4m、短軸3.2mのほぼ円形を呈し、確認面からの深さは15cmで、壁はほぼ垂直に立ち上がる。ピットは９個検出され主柱穴は３個と考えられる。炉は２基検出された。北側の炉は土器埋設部、掘り込み部、一段浅い掘り込みからなる。土器埋設部は深鉢形土器の胴部を埋設し、


-23
-23
-22
-21
-15
-15
-12
-30
-16
-10
-15
-19
A
A′
B
B′
C
C′
31.70m
第1層　暗黄褐色土、ローム粒子混入
第2層　暗褐色土、炭化物多量・焼土粒子混入
第3層　暗褐色土、炭化物多量・焼土粒子混入
1
2
3
4
5
第1層　暗褐色土、炭化物混入
第2層　暗褐色土、第1層よりもやや暗い、炭化物混入
第3層　暗褐色土、第2層よりもやや褐色味あり、炭化物混入
第4層　極暗褐色土、炭化物混入
第5層　暗黄色土
第1層　暗褐色土、炭化物・ローム粒子混入
第2層　暗黄色土
第3層　暗褐色土
0
1m

第18図　14号住居跡

周辺は火熱を受けて赤変し、南側はピットに切られている。掘り込み部は底・側面が火熱を受けている。一段浅い掘り込みは壁に接する。西側の炉は土器埋設炉である。深鉢形土器の下半分を埋設し、周辺が火熱を受けて赤変している。床は平坦で堅い。

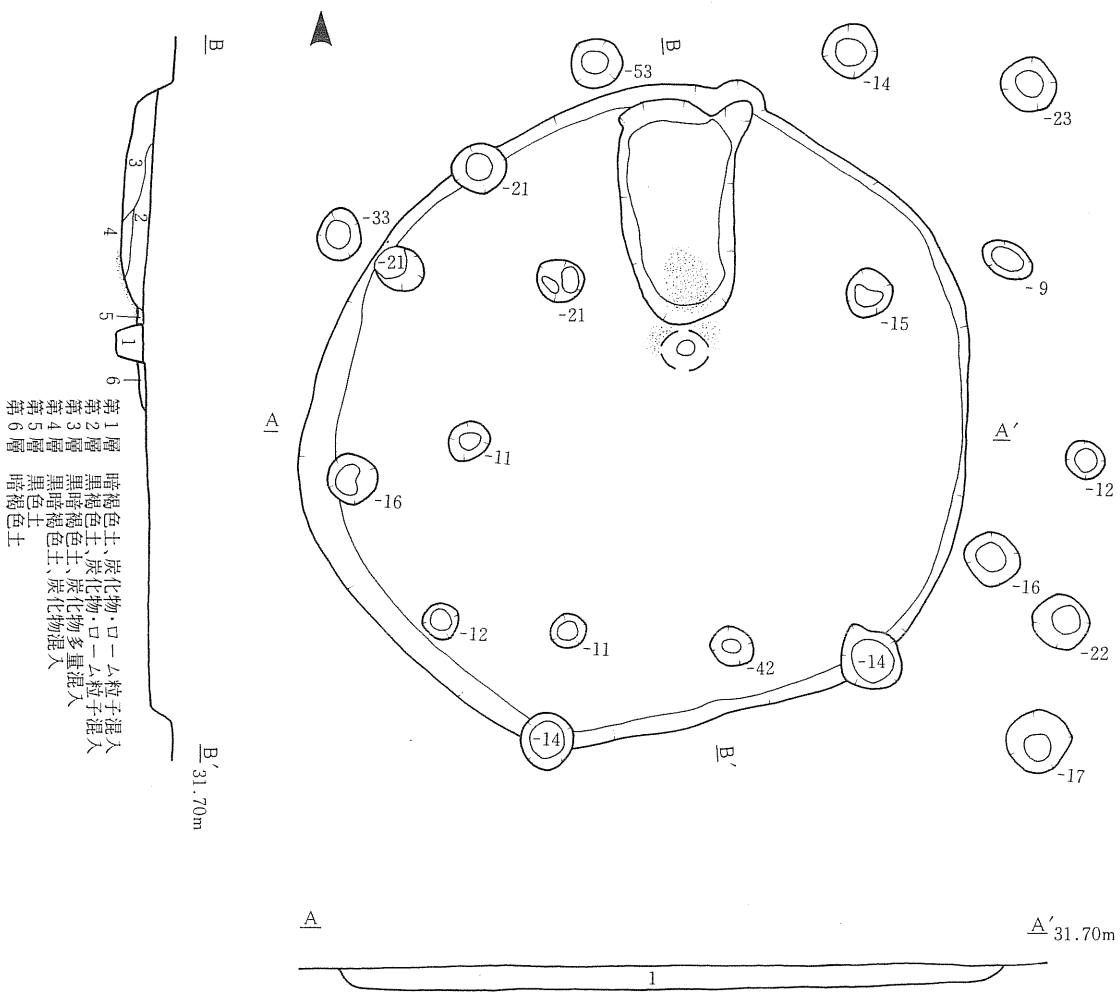
出土遺物

土器（第40図20・21、第46図103～107）

20は西側の炉埋設土器、21は北側の炉埋設土器、他は覆土出土である。沈線区画の磨消帯を有するものである。20は深鉢形土器の下半分で、地文はＲＬ単節斜縄文（縦位回転）である。21は深鉢形土器の胴部で、地文はＲＬ単節斜縄文（縦位回転）である。

15号住居跡（第19図）

調査区北側で検出された。



第19図　15号住居跡

プランは長軸3.5m、短軸3.3mのほぼ円形を呈し、確認面からの深さは13cmで、壁は緩やかに立ち上がる。ピットは11個検出され、主柱穴は５個と考えられる。炉は土器埋設部と掘り込み部からなる。土器埋設部は深鉢形土器を埋設し、周辺が火熱を受けて赤変している。掘り込み部は底・側面が火熱を受けている。床は平坦で堅い。

出土遺物

土器（第40図22）

22は炉埋設土器である。深鉢形土器の胴部で、「Ｊ」字状の磨消帯を有する。地文はＲＬ単節斜縄文（縦位回転）である。

16号住居跡（第20図）

調査区西側で検出された。

プランは一辺６ｍの方形を呈し、70・71号土坑に切られている。確認面からの深さは35cmで、壁は垂直に立ち上がる。ピットは11個検出され、主柱穴は深い掘り方の５個と考えられ、北側の壁に確認面から掘られているピット２個も認められた。炉は石囲土器埋設部、敷石石組部、掘り込みからなる。石囲土器埋設部は深鉢形土器を埋設し、周辺は火熱を受けて赤変し、カチンカチンである。敷石石組部は底・側面に石を組み、石の組まれている部分が火熱を受けている。掘り込みは一段浅く壁に接する。床は平坦で堅く、北西隅には礫が７個並べられていた。

出土遺物

土器（第40図23、第47図108～111）

23は炉埋設土器、他は覆土出土である。沈線区画の磨消帯を有するものである。23は口縁部が直立する深鉢形土器で、「Ｊ」字状の磨消帯が胴部中程の波状磨消帯と連絡する。地文はＲＬ単節斜縄文（縦位回転）である。

石器（第52図43）

43は磨石である。

17号住居跡（第21図）

調査区西側で検出された。

プランは長軸3.2m、短軸3.1mのほぼ円形を呈し、67号土坑と重復している。確認面からの深さは15cmで、壁はほぼ垂直に立ち上がる。ピットは４個検出され、４個が主柱穴である。炉は土器埋設部と掘り込み部からなる。土器埋設部は鉢形土器を埋設し、周辺は火熱を受けて赤変している。掘り込み部は底・側面が火熱を受けている。床は若干凹凸がみられる。住居の南東側には石棒が斜めに据えられていた。

出土遺物

土器（第41図24）

24は炉埋設土器である。口縁部が外反する深鉢形土器で、「Ｊ」字状の磨消帯を有し、地文はＲ

Ｌ単節斜縄文（縦位回転）である。

石器（第52図44）

44は石棒である。

18号住居跡（第22図）

調査区西側で検出された。

プランは長軸5.9m、短軸5.3mの楕円形を呈し、68・69号土坑と重復する。確認面からの深さは40cmで、壁は西側が緩く他はほぼ垂直に立ち上がる。ピットは15個検出され、主柱穴は深い掘り方の５個と考えられる。炉は石囲土器埋設部、掘り込み部、一段浅い掘り込みからなる。石囲土器埋設部は深鉢形土器を埋設し、周辺は火熱を受けている。掘り込み部は底・側面が火熱を受け、底面はカチンカチンである。一段浅い掘り込みは壁に接し、両側にピットが認められる。床は平坦で堅い。

出土遺物

土器（第41図25、第47図112～116）

25は炉埋設土器、他は覆土出土である。沈線区画の磨消帯を有するもの、変形工字文を施すものである。25は口縁部が外反する深鉢形土器で、「Ｊ」字状の磨消帯は胴部中程の波状磨消帯と連絡する。地文はＲＬ単節斜縄文（縦位回転）である。

石器（第50図18～27、第53図45～49）

18は有茎の石鏃、19は錐部を欠く石錐、20・21は掻器、22～26は削器、27は磨製石斧、45～48は磨石、49は石皿状石器である。

19号住居跡（第23図）

調査区北側で検出された。

プランは長軸3.2m、短軸2.9mの楕円形を呈し、確認面からの深さは35cmで、壁はほぼ垂直に立ち上がる。ピットは住居外側に３個検出されたのみである。炉は土器埋設部、石組部、掘り込みからなる。土器埋設部は深鉢形土器の下半分を埋設し、周辺は火熱を受けて赤変している。石組部は埋設土器との間に礫を据え、底・側面が火熱を受けている。掘り込みは一段浅く壁に接する。床は平坦で全面的に堅い。

出土遺物

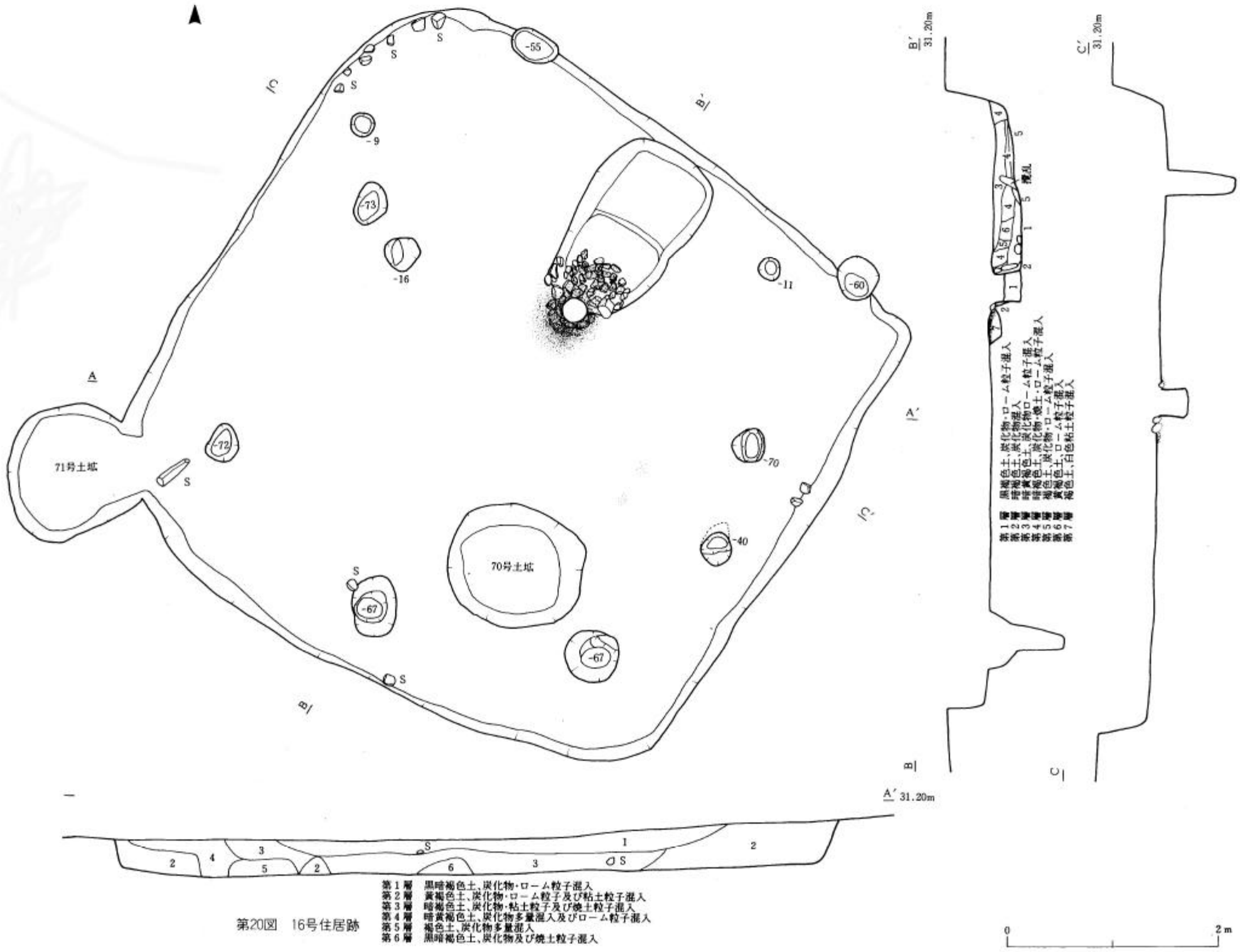
土器（第41図26、第47図117～120）

26は炉埋設土器、他は覆土出土である。沈線区画の磨消帯を有するものである。26は深鉢形土器の下半分で、地文はＲＬ単節斜縄文（縦位回転）である。

20号住居跡（第24図）

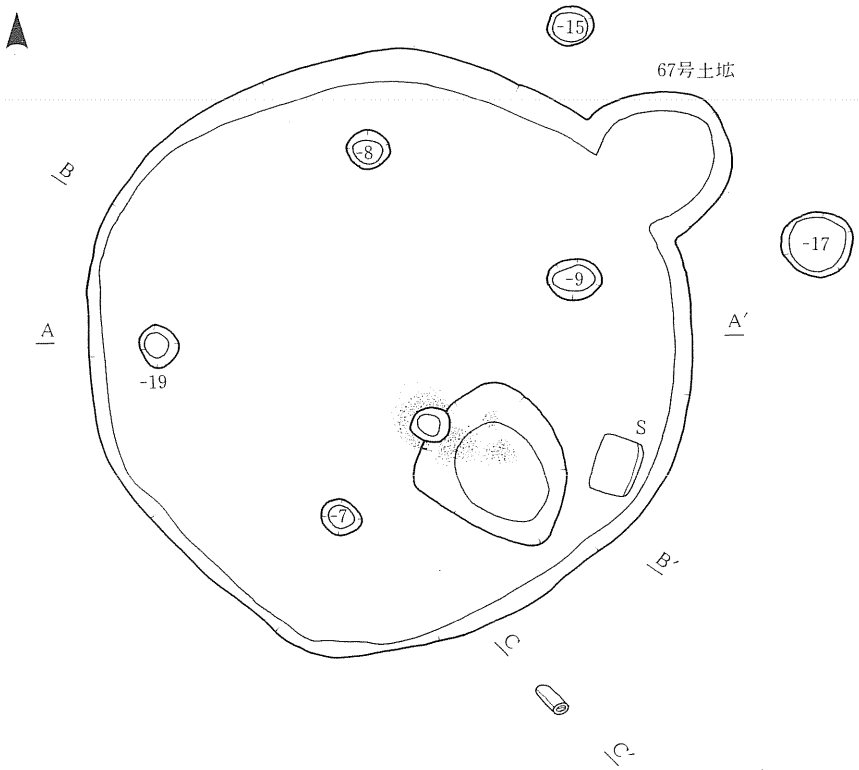
調査区西側で検出される。

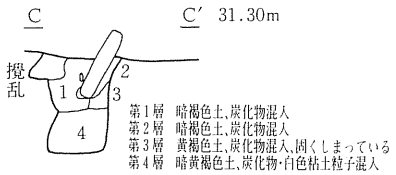
プランは径2.7mの円形を呈し、65号土坑に切られている。確認面からの深さは20cmで、壁は垂直

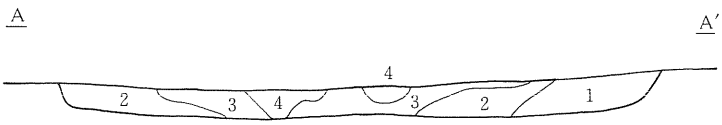


第1層　黒暗褐色土、炭化物・ローム粒子混入
第2層　黄褐色土、炭化物・ローム粒子及び粘土粒子混入
第3層　暗褐色土、炭化物・粘土粒子及び焼土粒子混入
第4層　暗黄褐色土、炭化物多量混入及びローム粒子混入
第5層　褐色土、炭化物多量混入
第6層　黒暗褐色土、炭化物及び焼土粒子混入

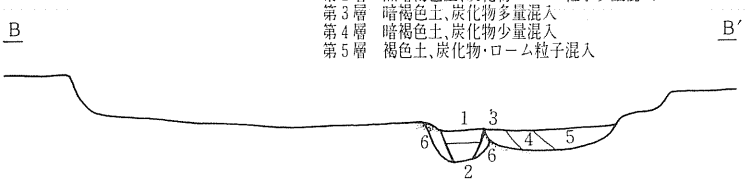
第20図　16号住居跡







第1層　赤褐色土、焼土
第2層　黒暗褐色土、炭化物・ローム粒子多量混入
第3層　暗褐色土、炭化物多量混入
第4層　暗褐色土、炭化物少量混入
第5層　褐色土、炭化物・ローム粒子混入



第1層　暗褐色土、炭化物・ローム粒子混入
第2層　黒暗褐色土、炭化物多量混入
第3層　褐色土、ローム粒子混入
第4層　暗黄色土、粘土粒子混入
第5層　褐色土、ローム粒子混入
第6層　暗褐色土、炭化物混入

0　1 m

第21図　17号住居跡

に立ち上がる。ピットは５個検出されたが、主柱穴は不明である。炉は土器埋設部と石組部からなる。土器埋設部は深鉢形土器の下部を埋設し、周辺は火熱を受けて赤変している。石組部は埋設土器との間に礫を据え、底面が火熱を受けている。床は平坦で中央部が特に堅い。

出土遺物

土器（第41図27、第47図121～124）

27は炉埋設土器、他は覆土出土である。沈線区画の磨消帯を有するものである。27は深鉢形土器の下部で、地文はＲＬＲ複節斜縄文（縦位回転）である。

21号住居跡（第25図）

調査区西側で検出された。

プランは長軸4.1m 、短軸3.7m の楕円形を呈し、271号土坑に切られている。確認面からの深さは15cmで、壁はほぼ垂直に立ち上がる。ピットは多数検出されたが、主柱穴は比較的深い壁際の４個と考えられる。炉は土器埋設部と石組部からなる。土器埋設部は深鉢形土器を埋設し、周辺は火熱を受けて赤変している。石組部は側面に３個の石が組まれ、底面と石が火熱を受けている事から他の側面の石は抜き取られたと考えられる。床は平坦で中央部が堅い。

出土遺物

土器（第41図28、第47図125～129）

28は炉埋設土器、他は覆土出土である。沈線区画の磨消帯を有するものである。28は口縁部がやや外反する深鉢形土器で、地文はＲＬ単節斜縄文である。

石器（第50図28）

28は縦型石匙である。

22号住居跡（第26図）

調査区中央部で検出された。

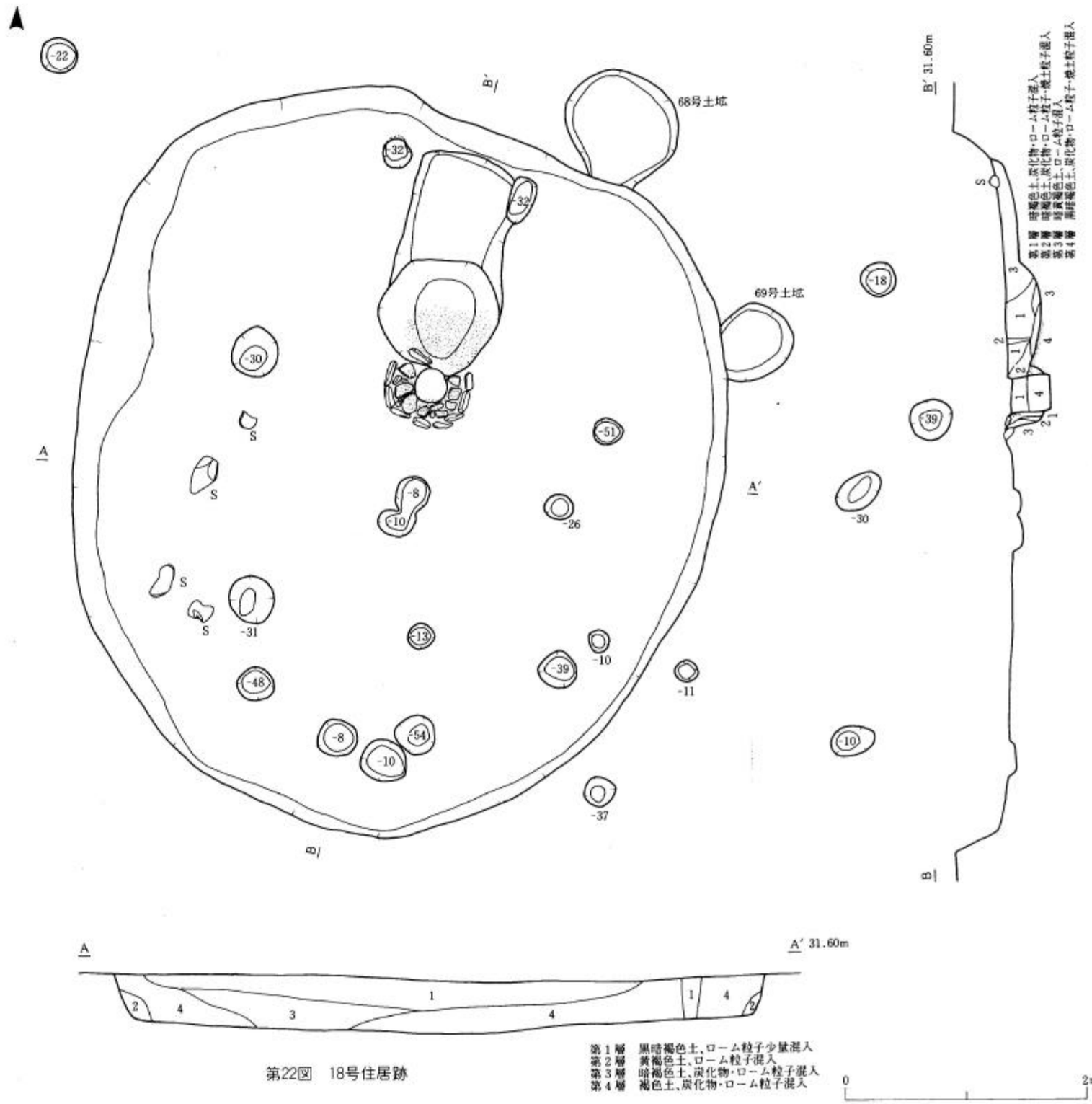
プランは長軸4.5m、短軸3.7mの楕円形を呈し、39・40号土器棺墓により切られている。確認面からの深さは10cmで、壁はほぼ垂直に立ち上がる。ピットは17個検出され、主柱穴は壁際の５個と考えられる。炉は土器埋設炉で、深鉢形土器（復元不可能）を半截して横に埋設し、周辺は火熱を受けて赤変している。床は平坦である。

23号住居跡（第27図）

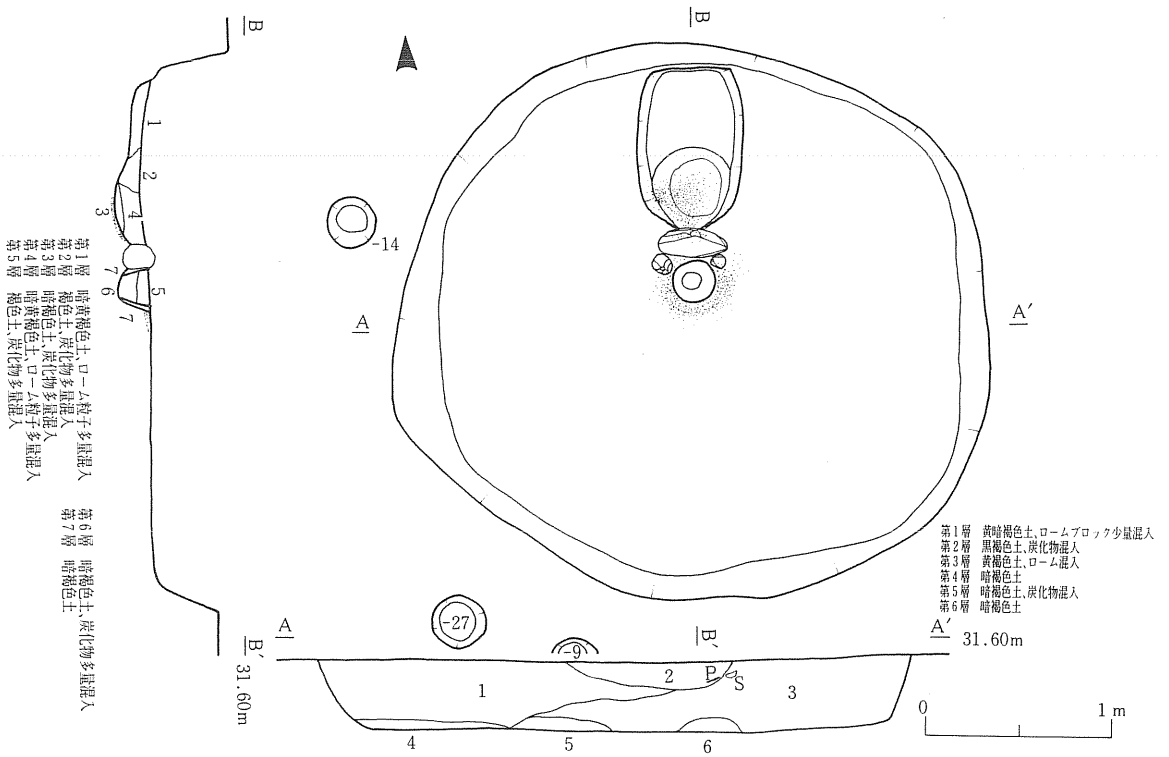
調査区中央部で検出された。

プランは長軸4.5m、短軸4.2mの楕円形を呈し、確認面からの深さは15cmで、壁はほぼ垂直に立ち上がる。ピットは17個検出され、主柱穴は比較的深い壁際の５個と考えられる。炉は土器埋設炉で、深鉢形土器の下部を斜めに埋設し、周辺は火熱を受けて赤変している。床は中央部が若干くぼむ。

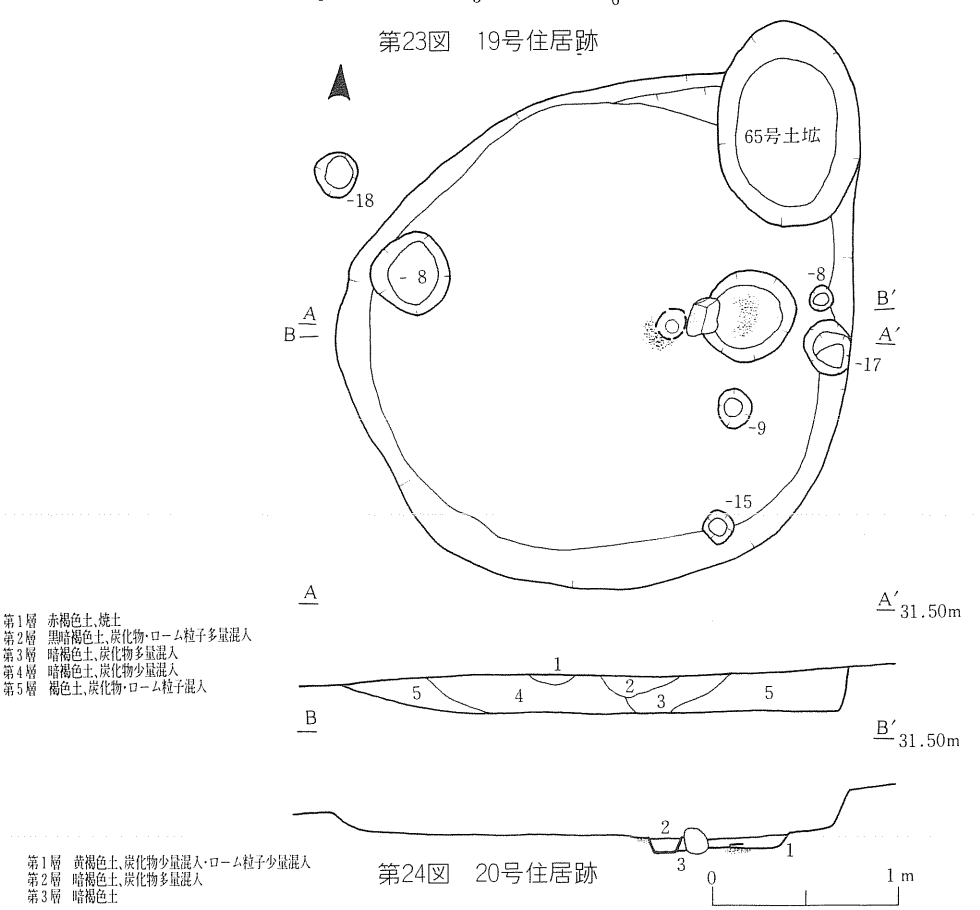
出土遺物


68号土坑
69号土坑
A
A′
B
B′
A′ 31.60m
B′ 31.60m
第1層 黒暗褐色土、ローム粒子少量混入
第2層 黄褐色土、ローム粒子混入
第3層 暗褐色土、炭化物・ローム粒子混入
第4層 褐色土、炭化物・ローム粒子混入
0
2m

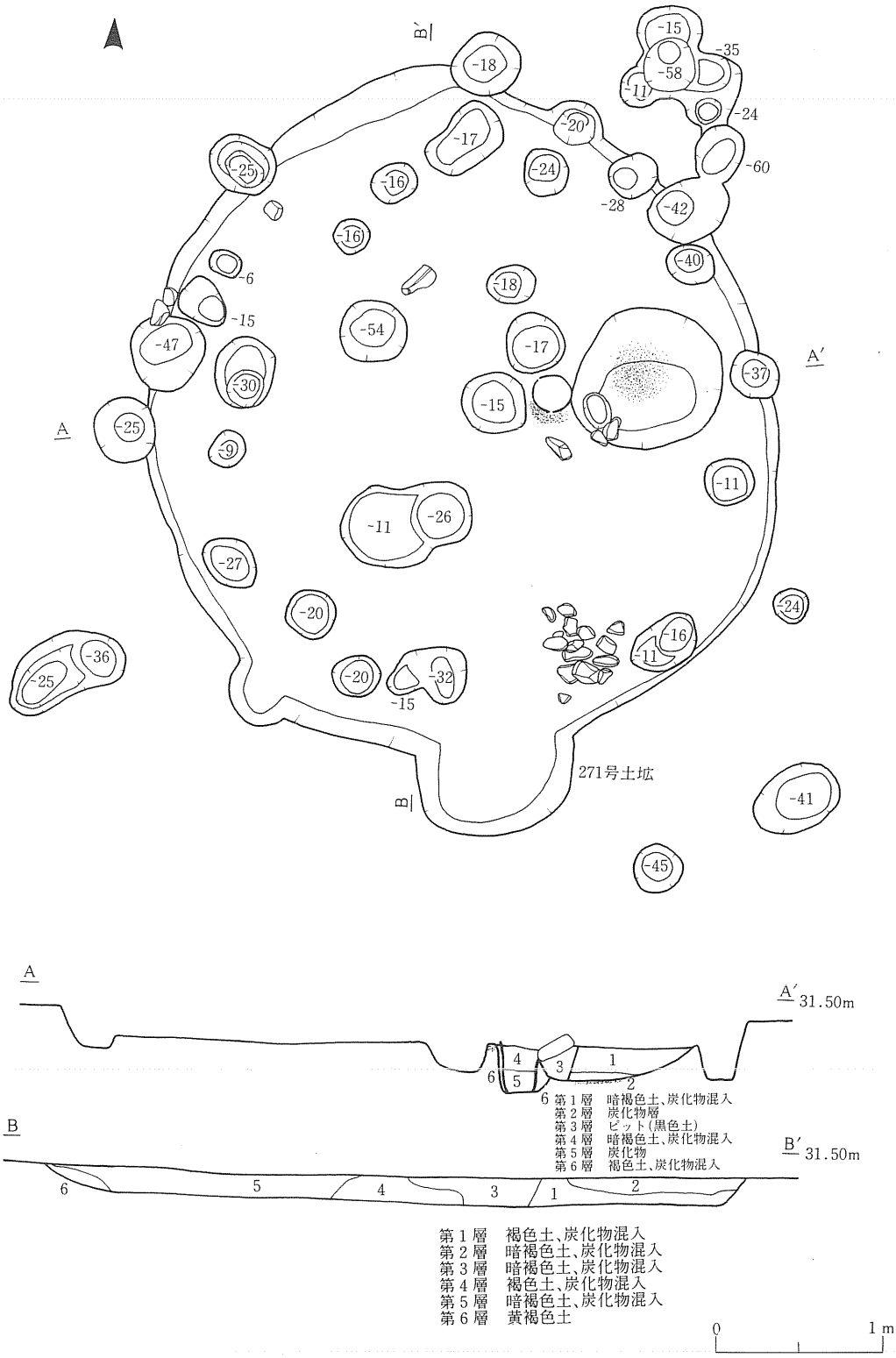
第22図　18号住居跡



第23図　19号住居跡

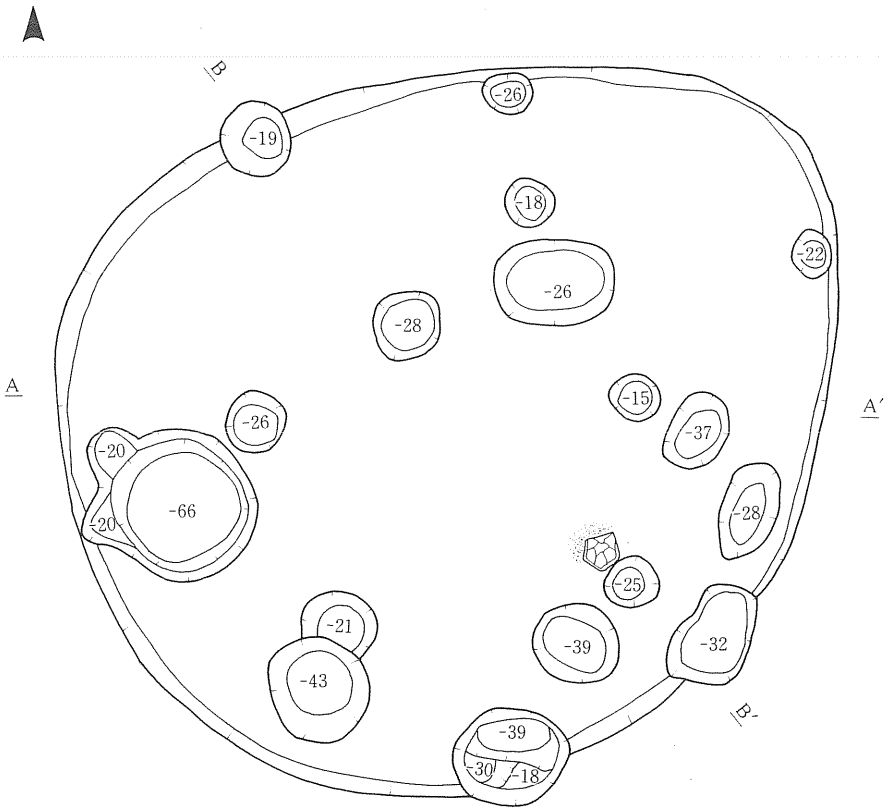


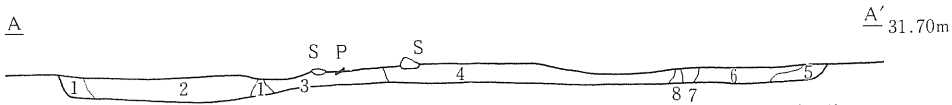
第24図　20号住居跡



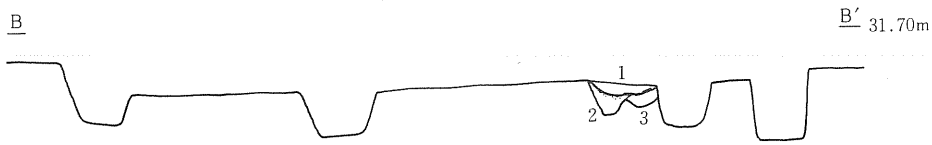
A
A′
B
B′
271号土坑
A
A′ 31.50m
B
B′ 31.50m
6 第1層 暗褐色土、炭化物混入
第2層 炭化物層
第3層 ピット(黒色土)
第4層 暗褐色土、炭化物混入
第5層 炭化物
第6層 褐色土、炭化物混入
第1層 褐色土、炭化物混入
第2層 暗褐色土、炭化物混入
第3層 暗褐色土、炭化物混入
第4層 褐色土、炭化物混入
第5層 暗褐色土、炭化物混入
第6層 黄褐色土
0
1 m

第25図　21号住居跡





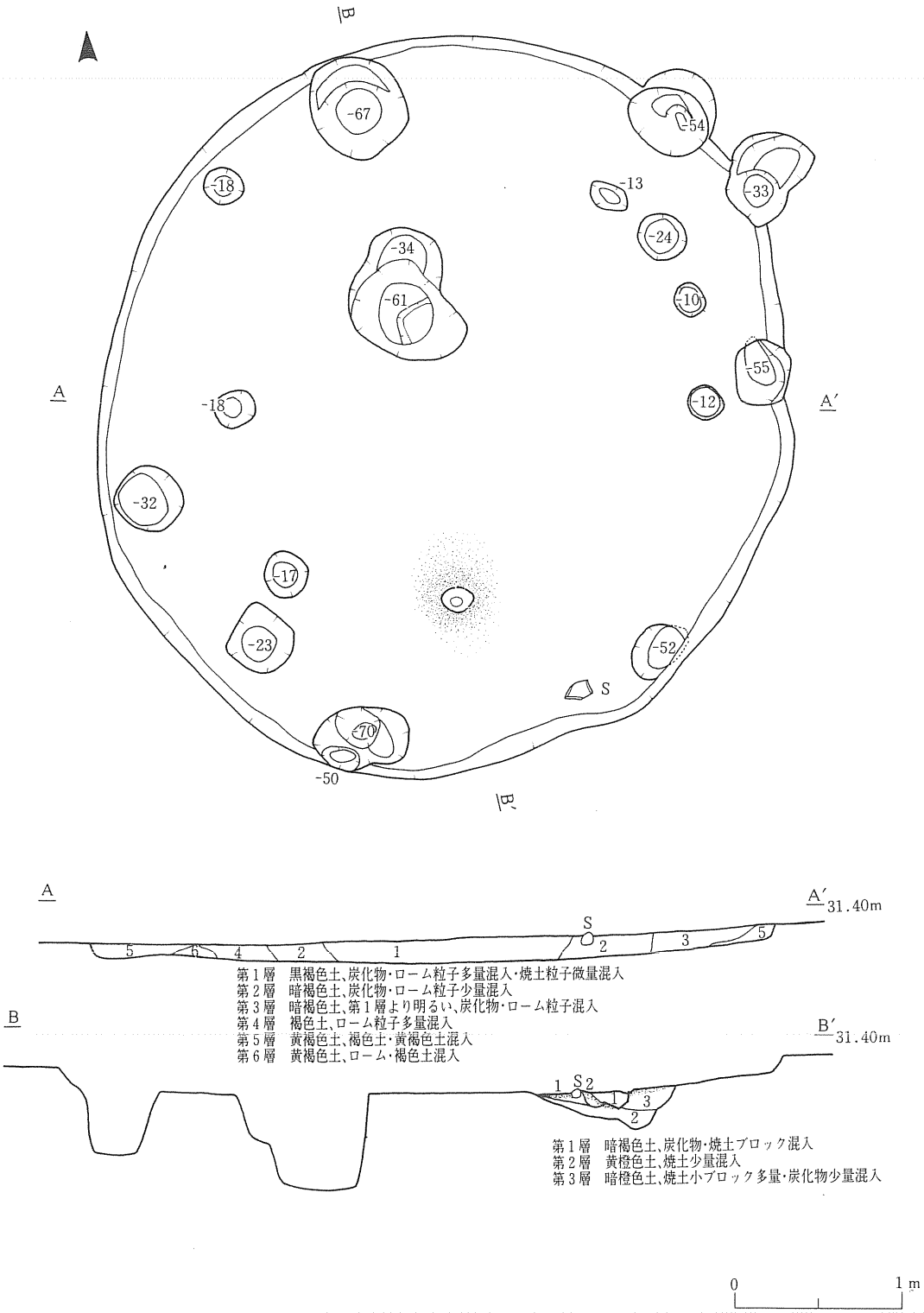
第１層　暗黄褐色土、ローム粒子混入
第２層　褐色土、炭化物混入
第３層　暗褐色土、ローム粒子混入
第４層　暗褐色土、ローム粒子・炭化物混入
第５層　暗黄褐色土、ローム粒子混入
第６層　褐色土、炭化物混入
第７層　暗褐色土、ローム粒子混入
第８層　暗褐色土、ローム粒子・炭化物混入



第１層　暗褐色土、炭化物混入
第２層　黄橙色土、褐色土少量混入
第３層　暗褐色土、炭化物多量混入（ローム小ブロック微量混入）

0　1 m

第26図　22号住居跡


B
-67
-54
-18
-13
-33
-24
-34
-61
-10
-55
A
A′
-18
-12
-32
-17
-23
-52
S
-70
-50
B′
A
A′
31.40m
S
5
6
4
2
1
2
3
5
第1層　黒褐色土、炭化物・ローム粒子多量混入・焼土粒子微量混入
第2層　暗褐色土、炭化物・ローム粒子少量混入
第3層　暗褐色土、第1層より明るい、炭化物・ローム粒子混入
第4層　褐色土、ローム粒子多量混入
第5層　黄褐色土、褐色土・黄褐色土混入
第6層　黄褐色土、ローム・褐色土混入
B
B′
31.40m
1
S
2
1
3
2
第1層　暗褐色土、炭化物・焼土ブロック混入
第2層　黄橙色土、焼土少量混入
第3層　暗橙色土、焼土小ブロック多量・炭化物少量混入
0
1 m

第27図　23号住居跡

土器（第41図29、第47図130・131）

29は炉埋設土器、他は覆土出土である。沈線区画の磨消帯を有するものである。29は深鉢形土器の下部で、地文は撚糸文である。

石器（第50図29・30）

29・30は有茎の石鏃である。

24号住居跡（第28図）

調査区南側で検出された。

プランは長軸2.2m、短軸2.1mのほぼ円形を呈し、弥生時代の柵木によって切られている。確認面からの深さは15cmで、壁はほぼ垂直に立ち上がる。ピットは5個検出されたが、主柱穴は不明である。炉は石囲土器埋設炉で、深鉢形土器（復元不可能）を斜めに埋設し、西側に1個の石が認められる。周辺は火熱を受けて赤変している。床は若干南側に傾斜する。

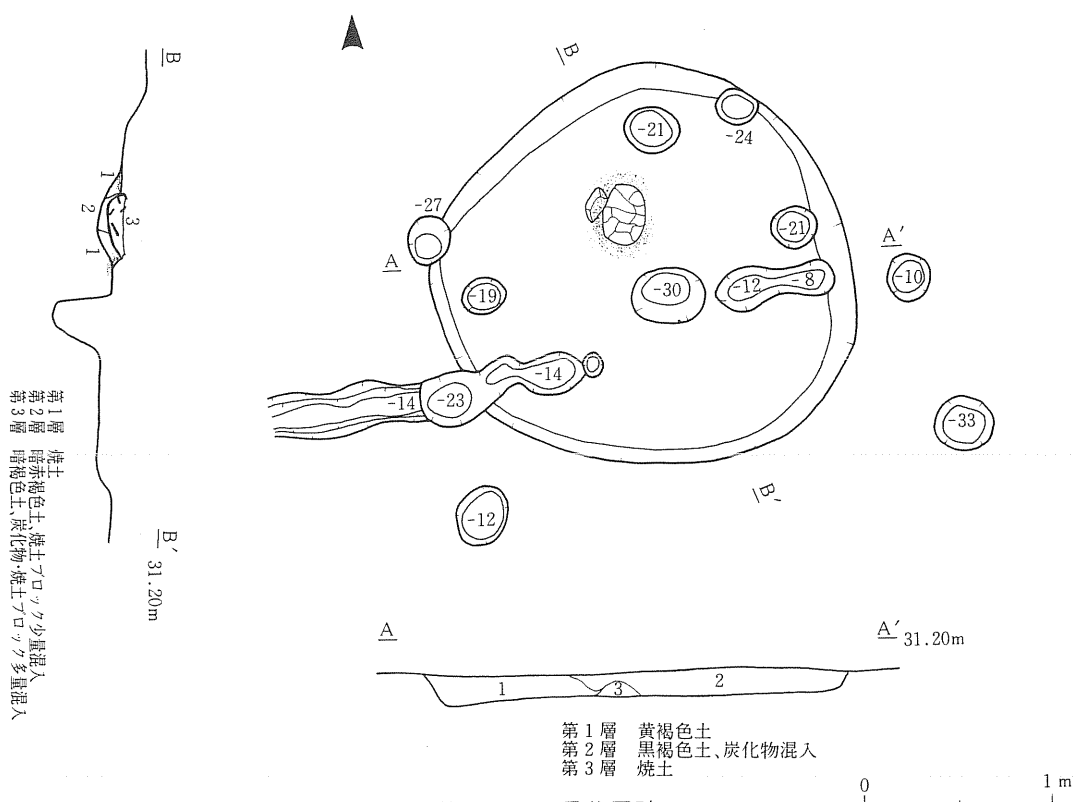
出土遺物

土器（第47図132・133）

いずれも覆土出土で、沈線区画の磨消帯を有するものである。

25号住居跡（第29図）

調査区南側で検出された。



第28図　24号住居跡

プランは長軸3.7m、短軸3mの楕円形を呈し、確認面からの深さは10cmで、壁はほぼ垂直に立ち上がる。ピットは多数検出されたが、大きいものは別の時期のものである。主柱穴は壁際の5個と考えられる。炉は土器埋設炉で、深鉢形土器を斜めに埋設し、中に石が2個入り、周辺は火熱を受けて赤変している。床は平坦である。

出土遺物

土器（第42図30）

30は炉埋設土器である。深鉢形土器の下半分で、地文は撚糸文である。

石器（第50図31・32）

31は石錐、32はヘラ状石器である。

26号住居跡（第30図）

調査区南側で検出された。

プランは一辺約3.5mの方形を呈し、幅15cm、深さ6～10cmの周溝が認められ、柵木及び264号土坑によって切られている。確認面からの深さは25cmで、壁はほぼ垂直に立ち上がる。ピットは9個検出され、主柱穴は4隅の4個と考えられる。炉は土器埋設部、敷石石組部、掘り込みからなる。土器埋設部は埋設土器が抜き取られ、周辺が火熱を受けて赤変している。敷石石組部は底・側面に石を組み火熱を受けているが、抜き取られている石もある。掘り込みは一段浅く周溝に接する。床は平坦で堅い。

出土遺物

土器（第47図134）

134は覆土出土で、沈線区画の磨消帯を有するものである。

石器（第51図33・34）

33は縦型石匙、34は横型石匙である。

27号住居跡（第31図）

調査区南側で検出された。

プランは長軸2.1m、短軸1.8mの不整形を呈し、柵木によって切られている。確認面からの深さは13cmで、壁は緩やかに立ち上がる。ピットは6個検出されたが、主柱穴は不明である。炉は土器埋設炉で、深鉢形土器の下半分を斜めに埋設し、周辺は火熱を受けて赤変している。床は若干凹凸がみられる。

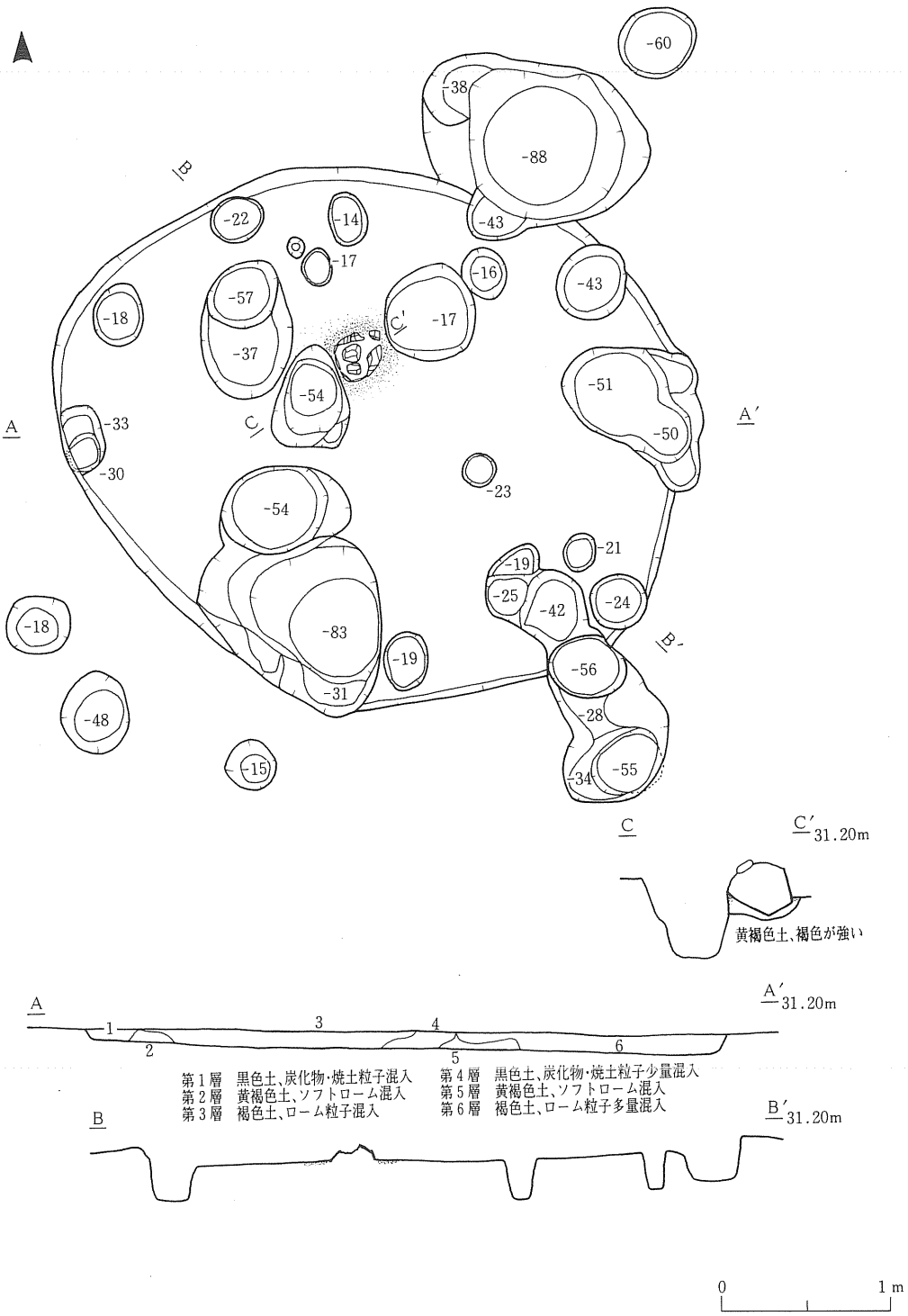
出土遺物

土器（第42図31）

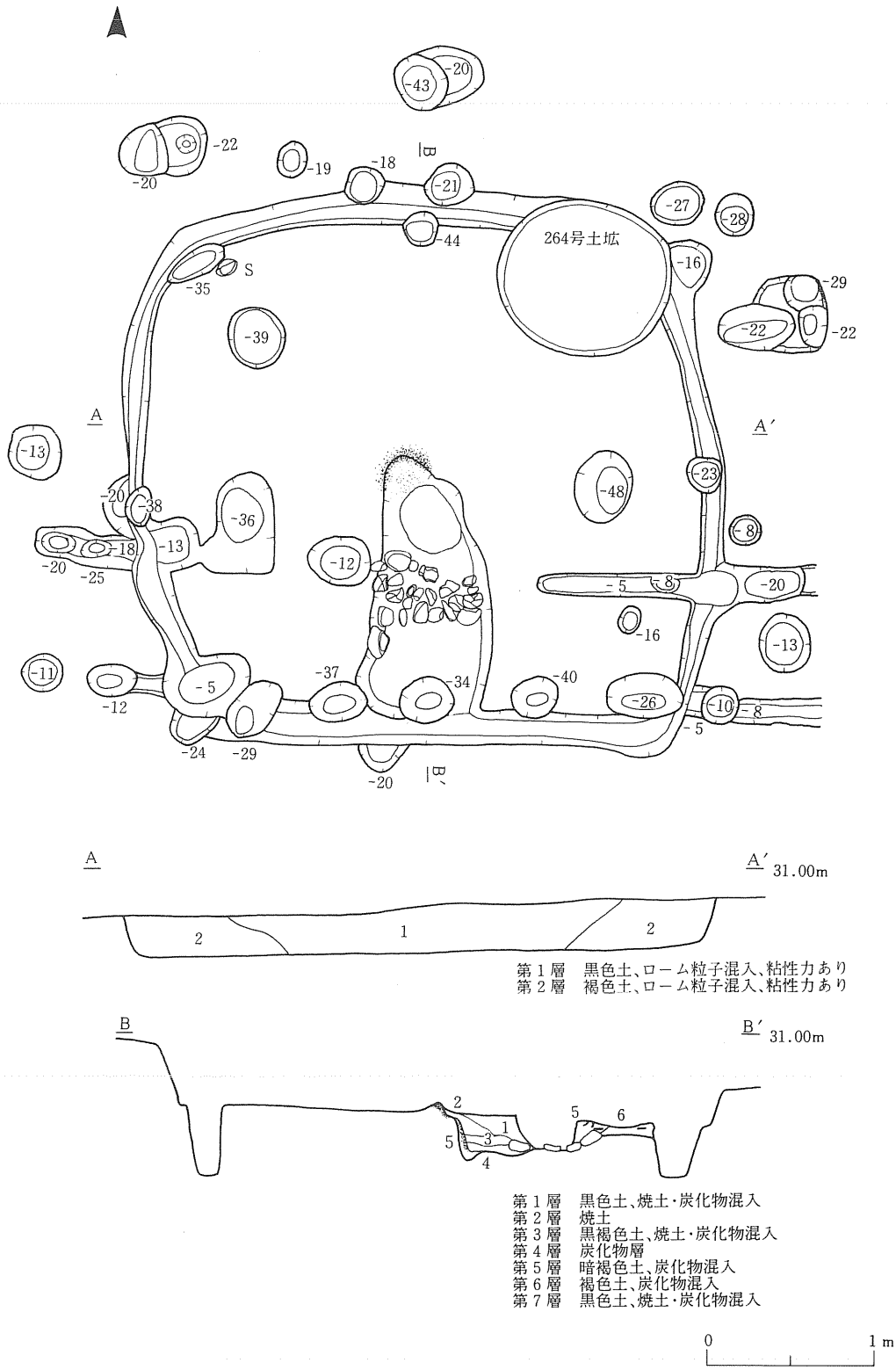
31は炉埋設土器である。深鉢形土器の下半分で、地文はＲＬ単節斜縄文（縦位回転）である。

28号住居跡（第32図）

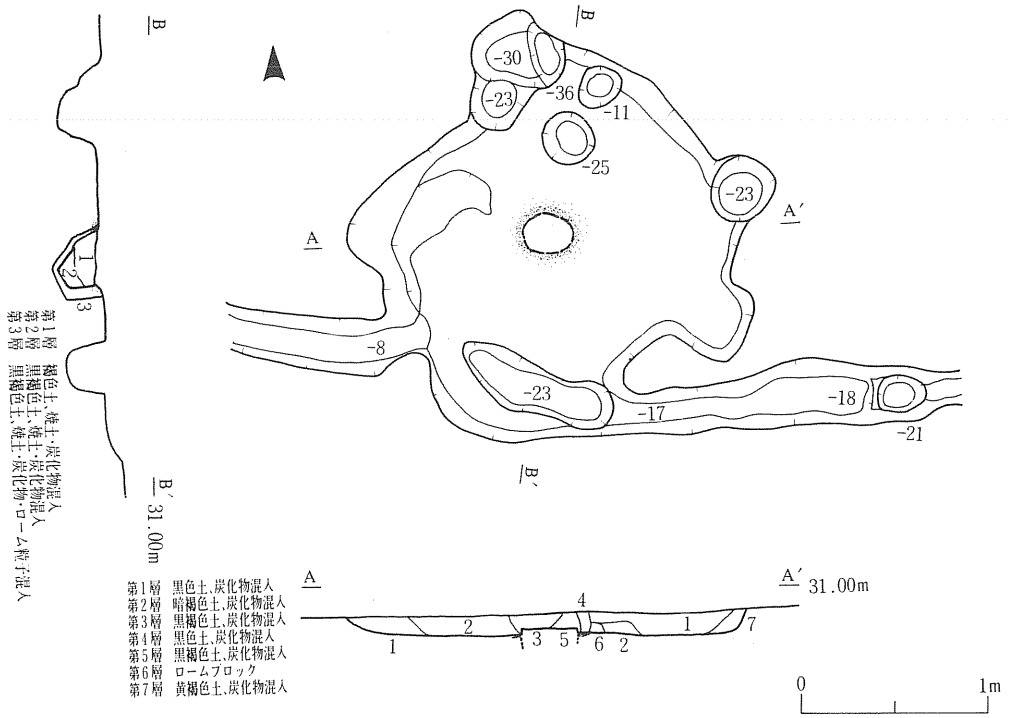
調査区中央部で検出された。


-60
-38
-88
B
-22
-14
-43
-17
-16
-43
-57
-18
C'
-17
-37
-54
-51
A
-33
C
A'
-50
-30
-23
-54
-21
-19
-25
-42
-24
-18
-83
B'
-19
-56
-31
-28
-48
-15
-34
-55
C
C'
31.20m
黄褐色土、褐色が強い
A
A'
31.20m
1
3
4
2
5
6
第1層　黒色土、炭化物・焼土粒子混入
第2層　黄褐色土、ソフトローム混入
第3層　褐色土、ローム粒子混入
第4層　黒色土、炭化物・焼土粒子少量混入
第5層　黄褐色土、ソフトローム混入
第6層　褐色土、ローム粒子多量混入
B
B'
31.20m
0
1 m

第29図　25号住居跡


264号土坑
A
A′
B
B′
S
31.00m
第１層　黒色土、ローム粒子混入、粘性力あり
第２層　褐色土、ローム粒子混入、粘性力あり
第１層　黒色土、焼土・炭化物混入
第２層　焼土
第３層　黒褐色土、焼土・炭化物混入
第４層　炭化物層
第５層　暗褐色土、炭化物混入
第６層　褐色土、炭化物混入
第７層　黒色土、焼土・炭化物混入
0
1 m

第30図　26号住居跡



第31図　27号住居跡

プランは長軸3.2m、短軸2.8mの楕円形を呈し、確認面からの深さは10cmで、壁は緩やかに立ち上がる。ピットは８個検出されたが、主柱穴は不明である。炉は土器埋設炉で、深鉢形土器（復元不可能）を斜めに埋設し、周辺が火熱を受けて赤変している。床は平坦で堅い。

出土遺物

石器（第51図35、第53図50・51）

35は石棒、50はくぼみ石、51は磨石である。

29号住居跡（第33図）

調査区北東部で検出された。

プランは長軸3.4m、短軸３mの楕円形を呈し、確認面からの深さは20cmで、壁はほぼ垂直に立ち上がる。ピットは６個検出され、主柱穴は４個である。炉は石囲土器埋設部と敷石石組部からなる。石囲土器埋設部は深鉢形土器を埋設し、周辺は火熱を受けて赤変している。敷石石組部は底・側面に握りこぶし大の石が、埋設土器の間と壁側に中礫が組まれ、火熱を受けている。床は平坦で堅い。

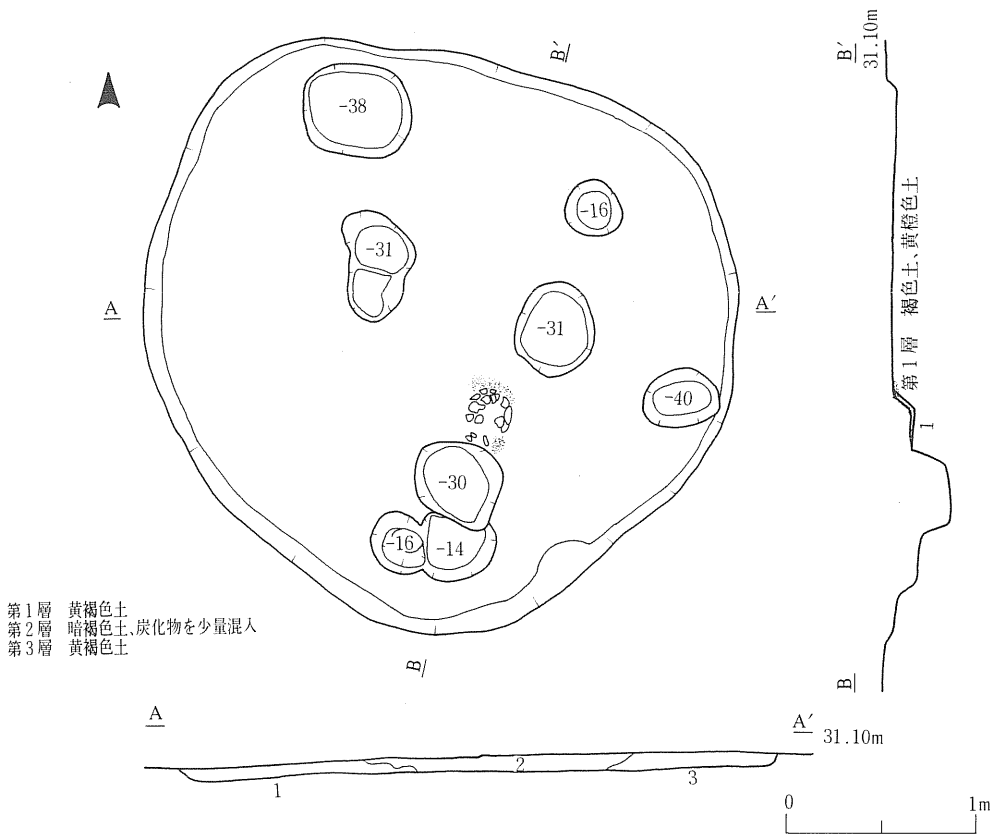
出土遺物

土器（第42図32・33、第48図135）

32は炉埋設土器、他は覆土出土である。沈線区画の磨消帯を有するものである。32は口縁部が内傾する深鉢形土器で、「ノ」字状の磨消帯を有し、地文はＬＲ単節斜縄文（縦位回転）である。33は口縁部が内傾する深鉢形土器で、地文はＬＲ単節斜縄文（縦位回転）である。

石器（第51図36・37）

36・37は磨製石斧である。



第32図　28号住居跡

30号住居跡（第34図）

調査区北西部で検出された。

プランは長軸5.5m、短軸5.1mの楕円形を呈し、306号土坑と重復する。確認面からの深さは35cmで、壁はほぼ垂直に立ち上がる。ピットは11個検出され、主柱穴は4個である。炉は2基検出された。東側の炉は、土器埋設部、石組部、掘り込みからなる。土器埋設部は埋設土器が抜き取られ、周辺は火熱を受けて赤変している。石組部は掘り込み側に5個の石が組まれ、底・側面が火熱を受けている。掘り込みは一段浅くなっている。南側の炉は石囲土器埋設部、敷石石組部、掘り込みからなる。石囲土器埋設部は深鉢形土器と埋設し、周辺は火熱を受けて赤変している。敷石石組部は底・側面に石を組み、火熱を受け、掘り込み側が一段浅くなっており、石は敷かれていない。掘り

込みは一段浅く壁に接する。東側の炉は廃棄後、貼床されている。床は平坦で堅い。

出土遺物

土器（第43図34・35、第48図136～142）

34は炉埋設土器、他は覆土出土である。沈線区画の磨消帯を有するもの、数条の沈線で文様を作り出すものである。34は口縁部が直立する深鉢形土器、地文はＬＲ単節斜縄文（縦位回転）である。35は壺形土器である。撚糸文を施し、胴上部に粘土紐を貼り付け、後に半截竹管状工具内面による直線・曲線・弧線で文様を作り出している。胴下部は無文である。

31号住居跡（第35図）

調査区北東部で検出された。

プランは径4.5mの隅丸方形を呈し、確認面からの深さは30cmで、壁はほぼ垂直に立ち上がる、ピットは11個検出され、主柱穴は５個である。炉は土器埋設部と掘り込み部からなる。土器埋設部は深鉢形土器を埋設し、周辺は火熱を受けて赤変している。掘り込み部は底・側面が火熱を受けている。床は平坦で堅い。

出土遺物

土器（第43図36、第48図143～145）

36は炉埋設土器、144は炉掘り込み部、他は覆土出土である。沈線区画の磨消帯を有するもの、沈線で文様を作り出すものである。36は口縁部が外反する深鉢形土器で「Ｊ」字状の磨消帯が胴部中程の波状磨消帯と連絡する。地文はＲＬ単節斜縄文（縦位回転）である。

土製品（第160図74）

74は再利用土製品で、土器片を利用したものである。

32号住居跡（第36図）

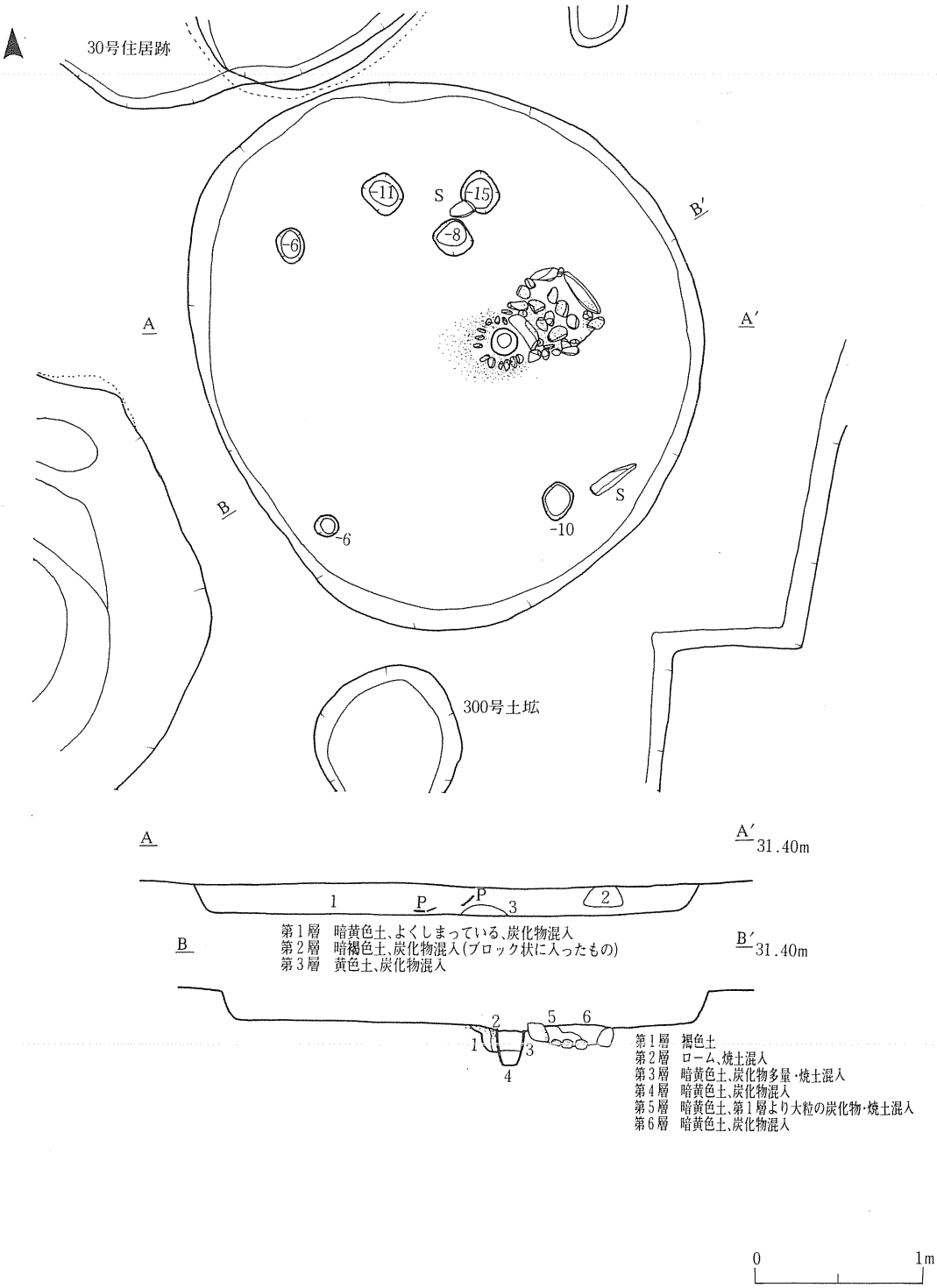
調査区北東部で検出された。

プランは長軸4.8m、推定短軸4.4mの楕円形を呈すると考えられ、北側は削られている。確認面からの深さは40cmで、壁はほぼ垂直に立ち上がる。ピットは９個検出されたが、主柱穴は不明である。炉は土器埋設部と掘り込み部からなる。土器埋設部は深鉢形土器の胴部を埋設し、周辺が火熱を受けて赤変している。掘り込み部は、底・側面が火熱を受けている。床は平坦で堅い。

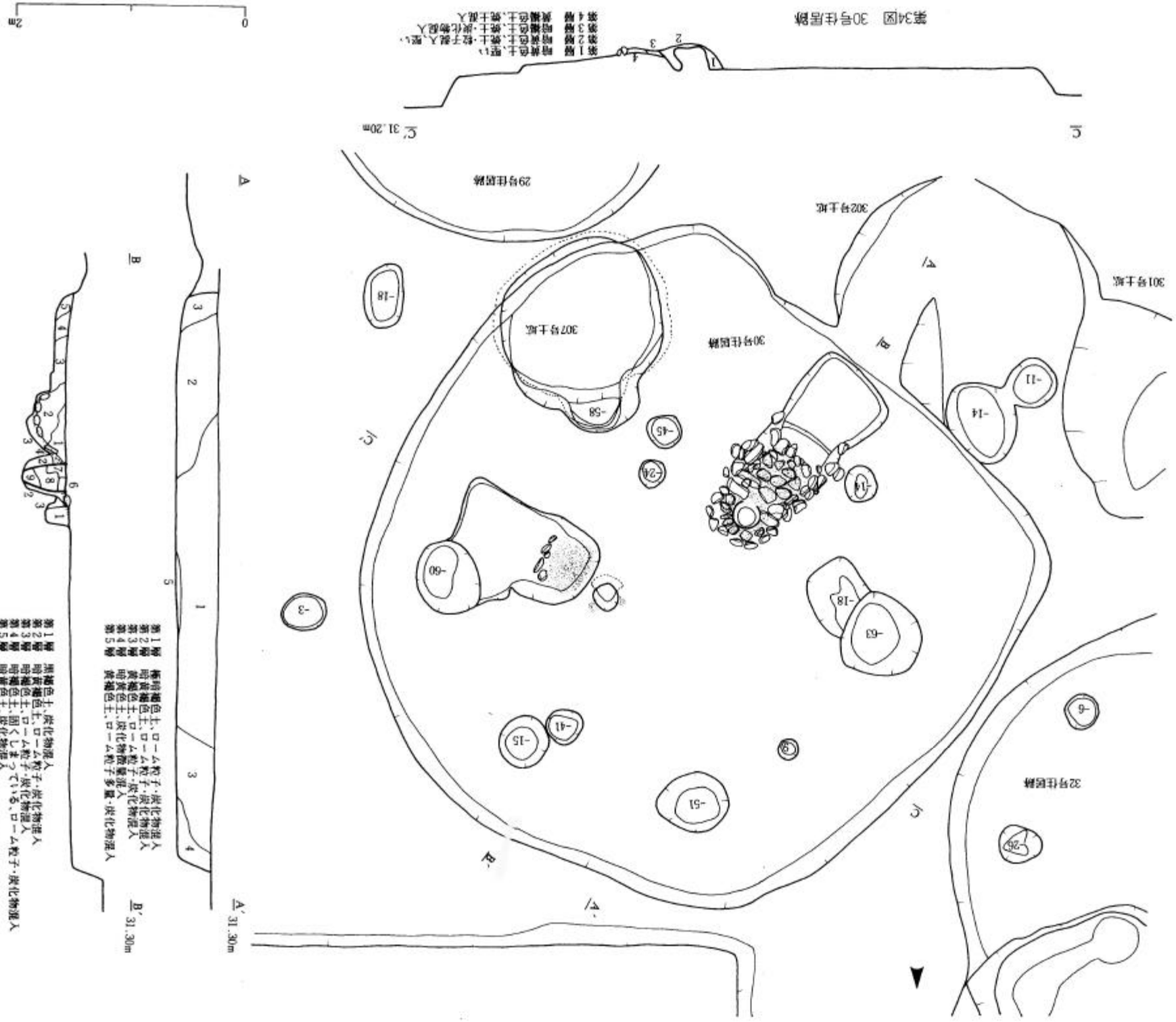
出土遺物

土器（第43図37、第48図146～148）

37は炉埋設土器、他は覆土出土である。沈線区画の磨消帯を有するものである。37は深鉢形土器の胴部で、地文はＲＬ単節斜縄文（縦位回転）である。


30号住居跡
-11
S
-15
-8
-6
A
A′
B′
B
-6
-10
S
300号土坑
A
A′
31.40m
1
P
P
3
2
第1層　暗黄色土、よくしまっている、炭化物混入
第2層　暗褐色土、炭化物混入(ブロック状に入ったもの)
第3層　黄色土、炭化物混入
B
B′
31.40m
2
5
6
1
3
4
第1層　褐色土
第2層　ローム、焼土混入
第3層　暗黄色土、炭化物多量・焼土混入
第4層　暗黄色土、炭化物混入
第5層　暗黄色土、第1層より大粒の炭化物・焼土混入
第6層　暗黄色土、炭化物混入
0
1m

第33図　29号住居跡



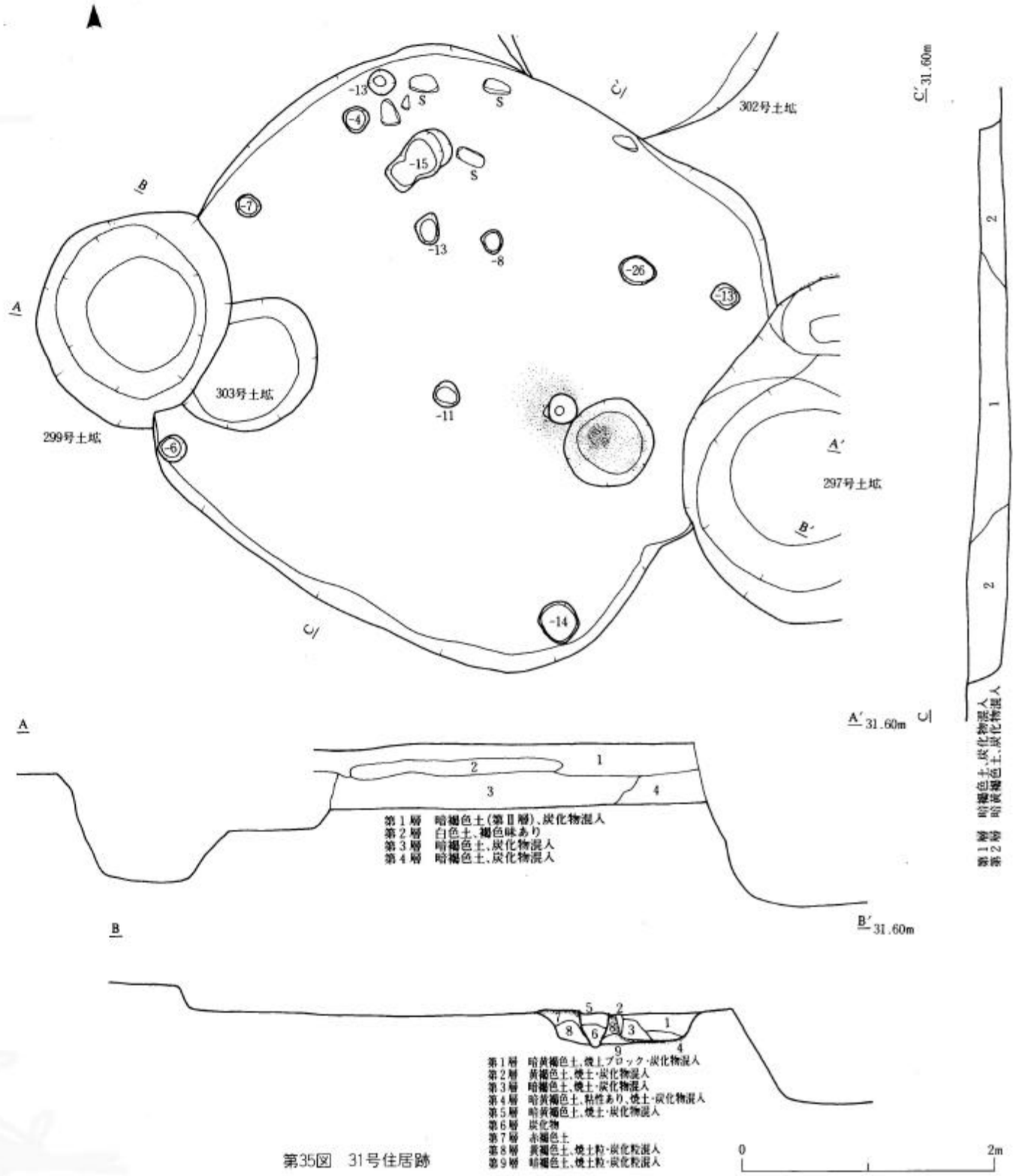
32号住居跡
301号土坑
302号土坑
30号住居跡
307号土坑
29号住居跡
-26
-6
-51
-9
-15
-41
-63
-18
-3
-60
-14
-24
-45
-14
-11
-58
-18
A
A′ 31.30m
B
B′ 31.30m
C
C′ 31.20m
0
2m

第1層　極暗褐色土、ローム粒子・炭化物混入
第2層　暗黄褐色土、ローム粒子・炭化物混入
第3層　黄褐色土、ローム粒子・炭化物混入
第4層　暗黄色土、炭化物微量混入
第5層　黄褐色土、ローム粒子多量・炭化物混入

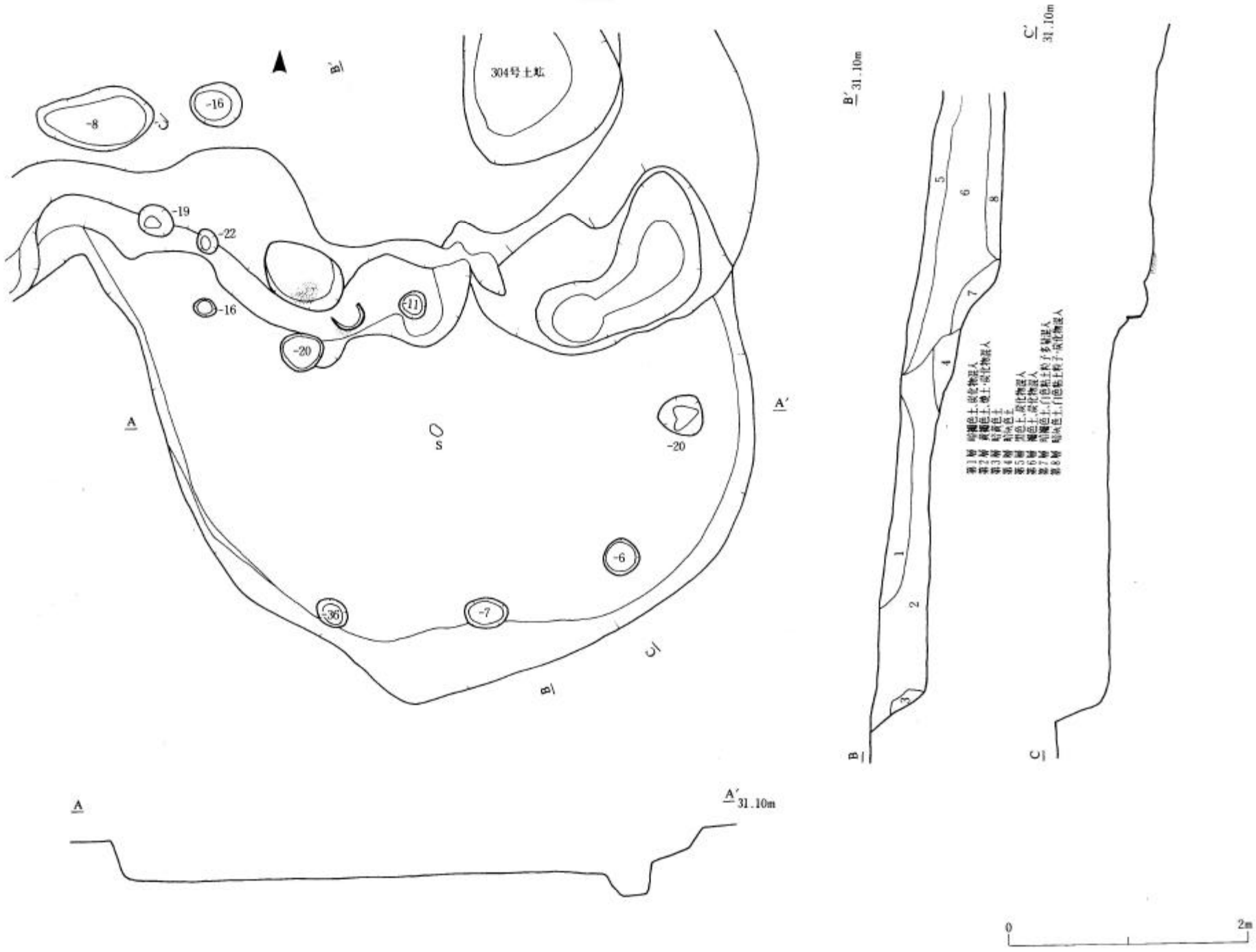
第1層　黒褐色土、炭化物混入
第2層　暗黄褐色土、ローム粒子・炭化物混入
第3層　暗褐色土、ローム粒子・炭化物混入
第4層　暗褐色土、固くしまっている、ローム粒子・炭化物混入
第5層　暗黄色土、炭化物混入
第6層　黒色土、やわらかい、炭化物多量混入
第7層　黒色土、第6層よりも黒い、やわらかい、炭化物多量混入
第8層　暗黄色土、炭化物混入
第9層　炭化物、褐色土混入

第1層　暗黄色土、堅い
第2層　暗黄色土、焼土・粒子混入、堅い
第3層　暗褐色土、焼土・炭化物混入
第4層　黄褐色土、焼土混入

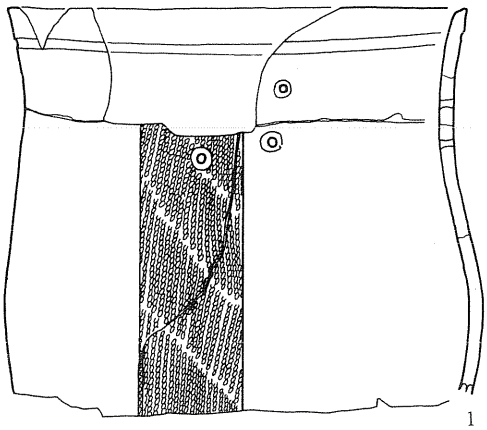
第34図　30号住居跡

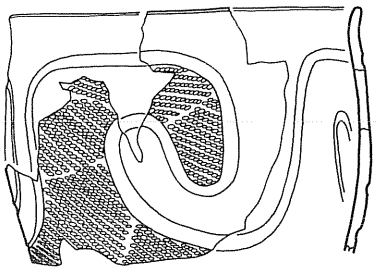

302号土坑
303号土坑
299号土坑
297号土坑
A
A′
B
B′
C
C′
31.60m
第1層　暗褐色土(第Ⅱ層)、炭化物混入
第2層　白色土、褐色味あり
第3層　暗褐色土、炭化物混入
第4層　暗褐色土、炭化物混入
第1層　暗黄褐色土、焼土ブロック・炭化物混入
第2層　黄褐色土、焼土・炭化物混入
第3層　暗褐色土、焼土・炭化物混入
第4層　暗黄褐色土、粘性あり、焼土・炭化物混入
第5層　暗黄褐色土、焼土・炭化物混入
第6層　炭化物
第7層　赤褐色土
第8層　黄褐色土、焼土粒・炭化粒混入
第9層　暗褐色土、焼土粒・炭化粒混入
第1層　暗褐色土、炭化物混入
第2層　暗褐色土、炭化物混入
0
2m

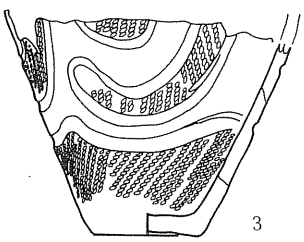
第35図　31号住居跡

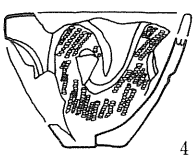


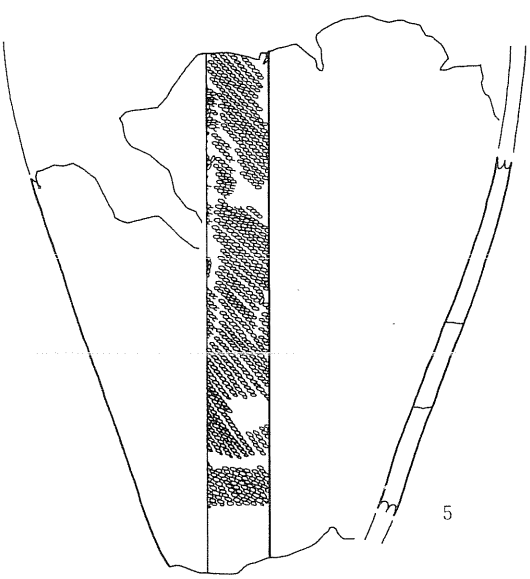
第36図　32号住居跡

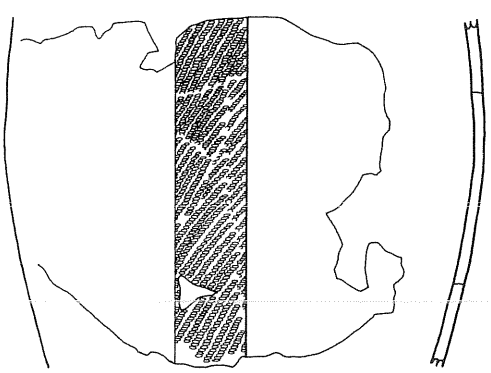








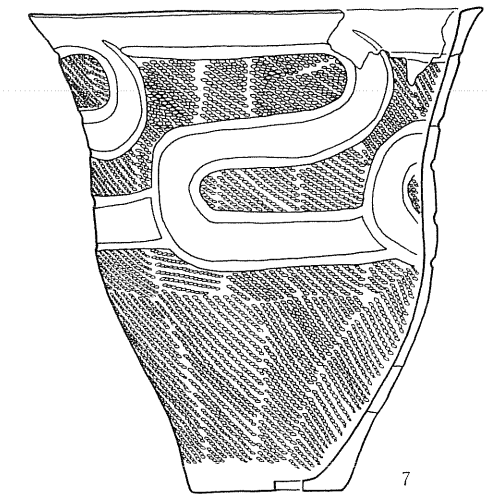


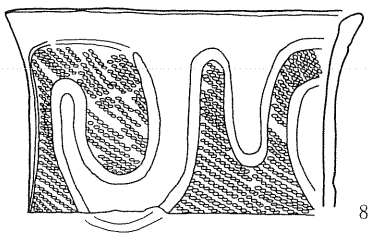


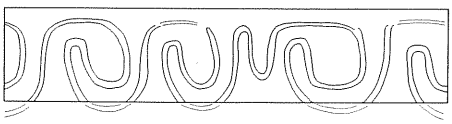
1　1号住居跡、炉埋設土器
2　2号住居跡、炉埋設土器
3　2号住居跡、南側炉埋設土器
4　3号住居跡ピット
5·6　3号住居跡炉埋設土器

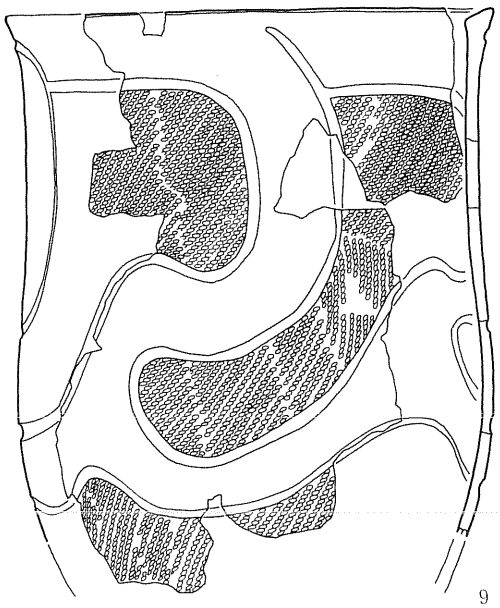
0　10cm

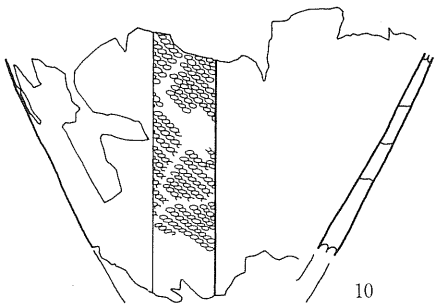
第37図　遺構内出土土器

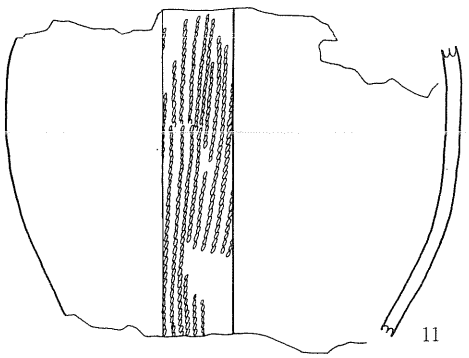








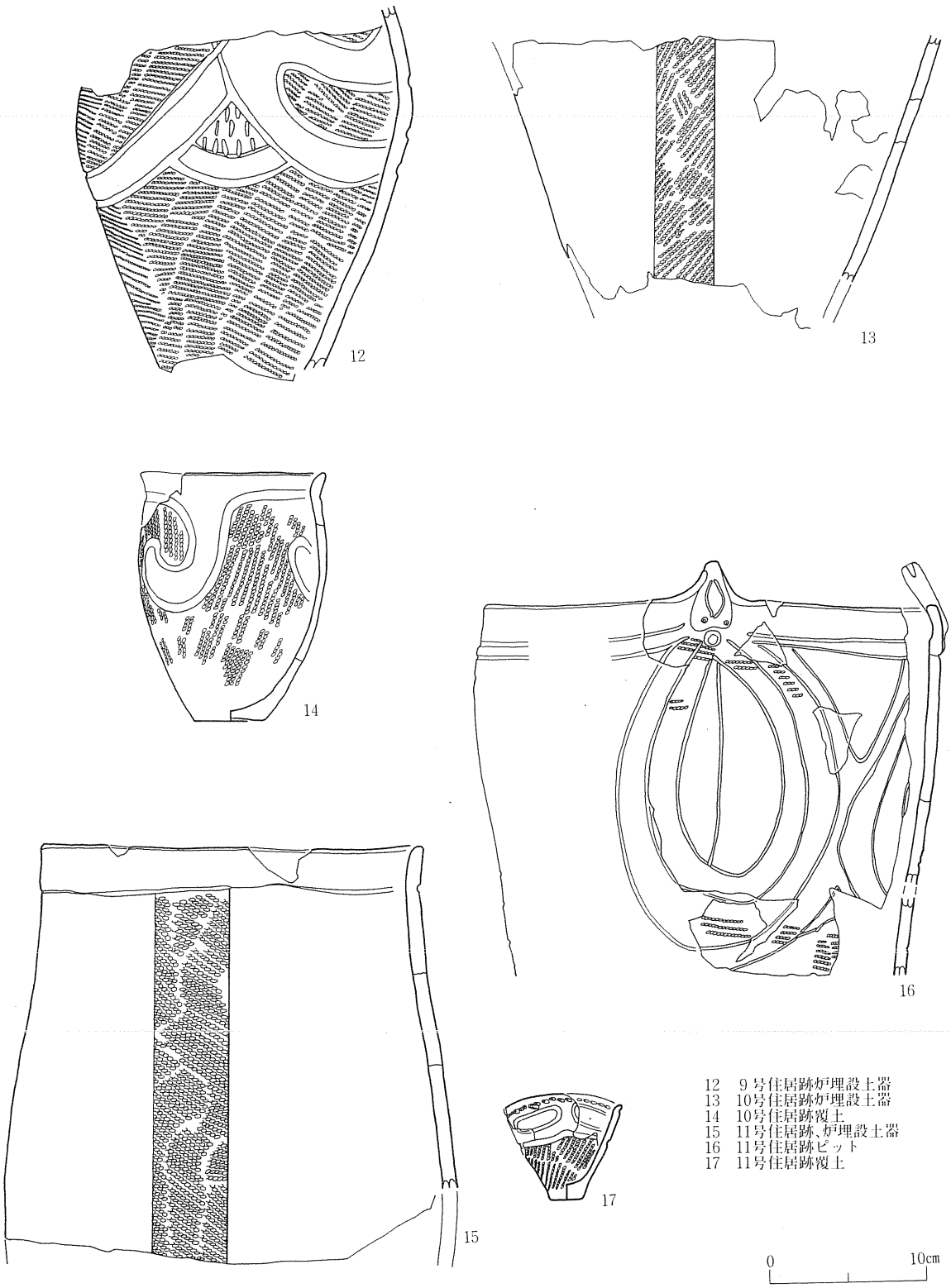




7　4号住居跡炉埋設土器
8　4号住居跡床面
9　5号住居跡炉埋設土器
10　7号住居跡炉埋設土器
11　9号住居跡炉埋設土器

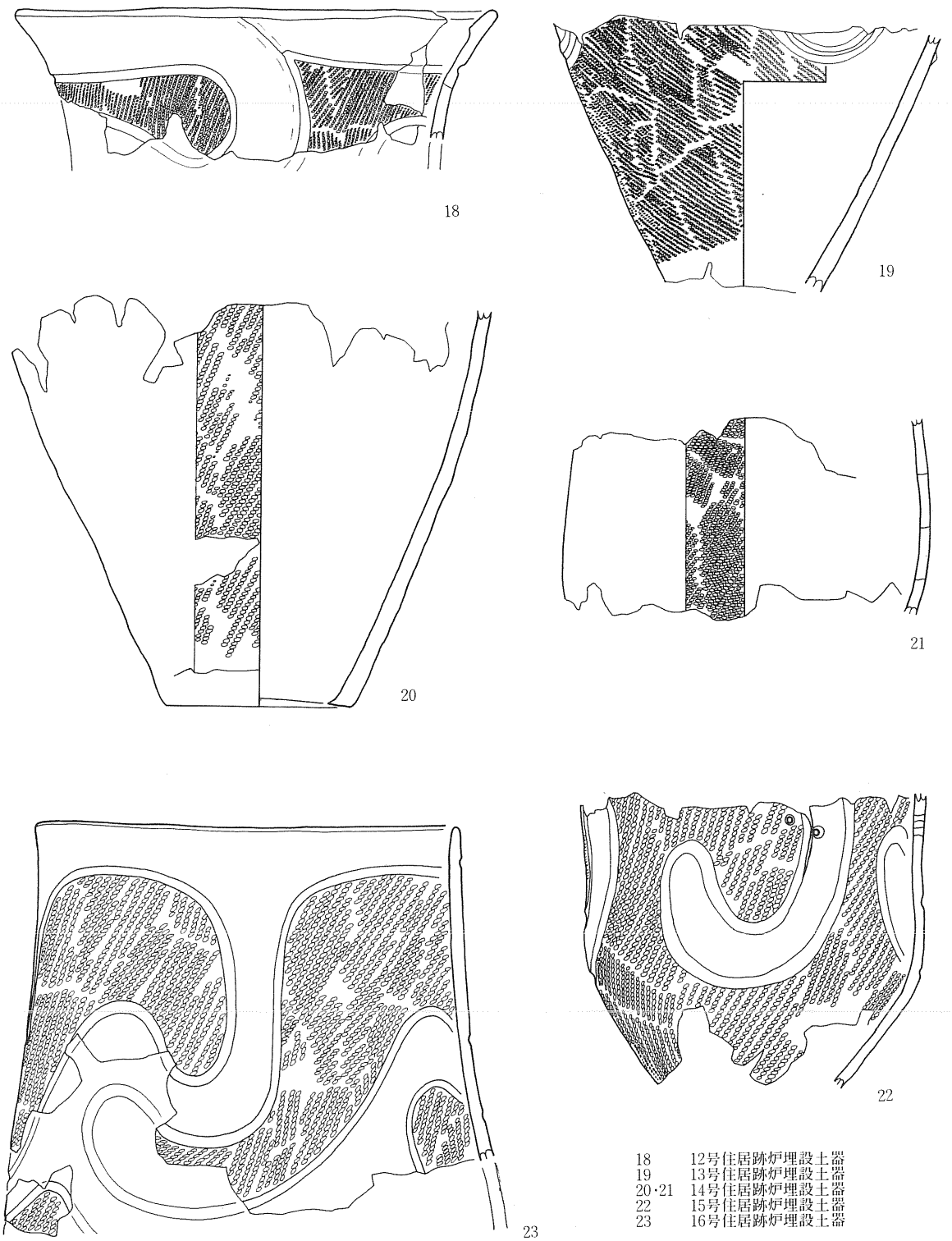
0　10cm

第38図　遺構内出土土器



12　9号住居跡炉埋設土器
13　10号住居跡炉埋設土器
14　10号住居跡覆土
15　11号住居跡、炉埋設土器
16　11号住居跡ピット
17　11号住居跡覆土

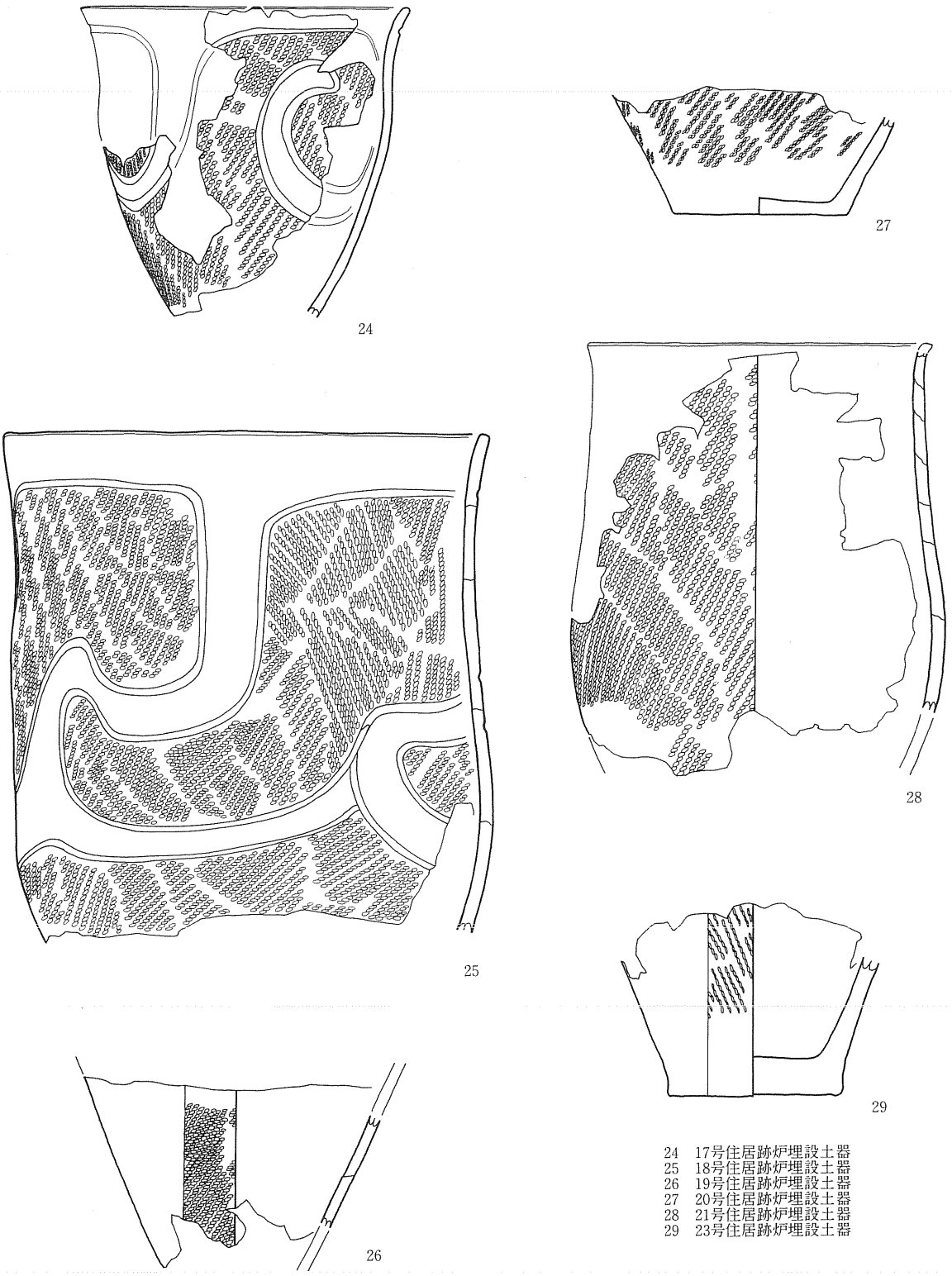
第39図　遺構内出土土器



18	12号住居跡炉埋設土器
19	13号住居跡炉埋設土器
20・21	14号住居跡炉埋設土器
22	15号住居跡炉埋設土器
23	16号住居跡炉埋設土器

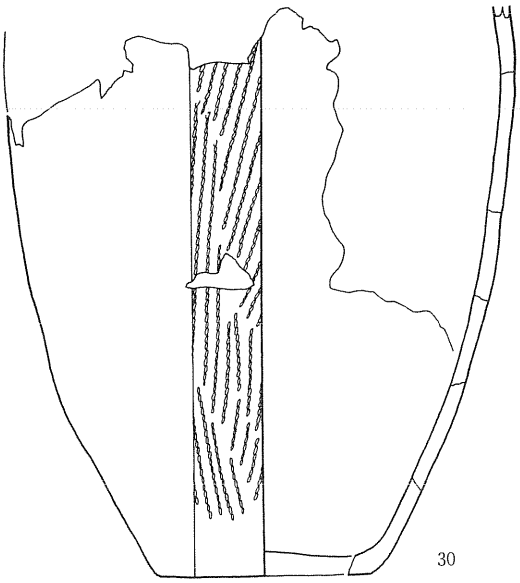
0　10cm

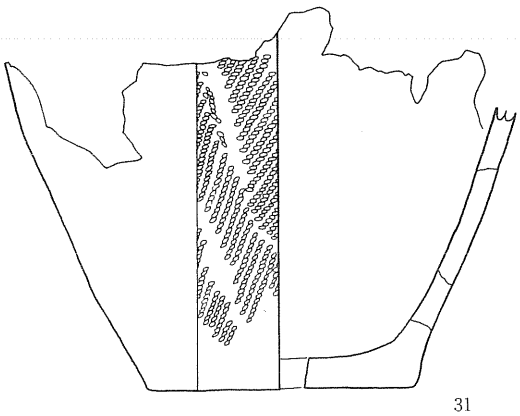
第40図　遺構内出土土器

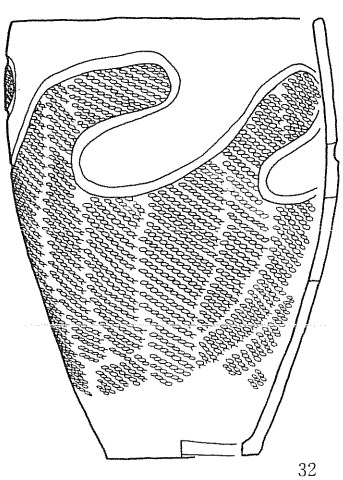


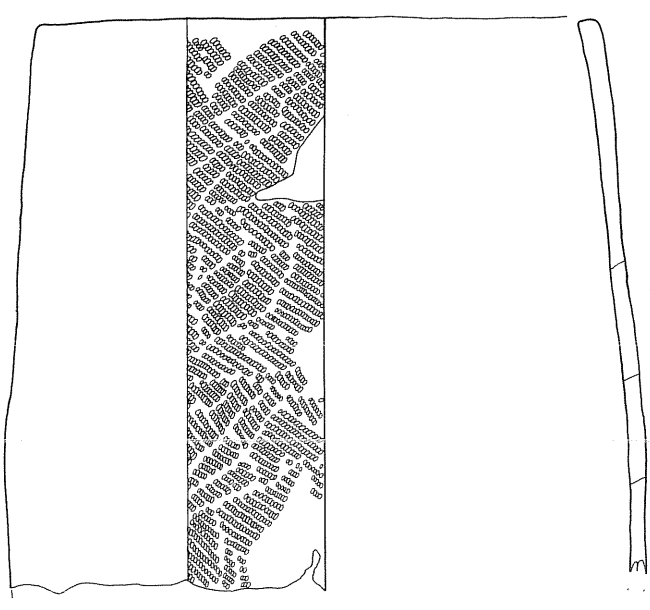
24　17号住居跡炉埋設土器
25　18号住居跡炉埋設土器
26　19号住居跡炉埋設土器
27　20号住居跡炉埋設土器
28　21号住居跡炉埋設土器
29　23号住居跡炉埋設土器

第41図　遺構内出土土器





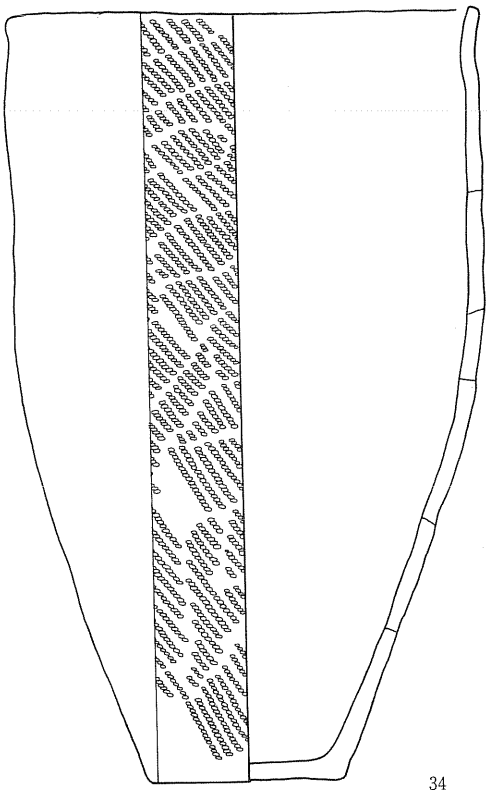




30　25号住居跡炉埋設土器
31　27号住居跡炉埋設土器
32　29号住居跡炉埋設土器
33　29号住居跡覆土

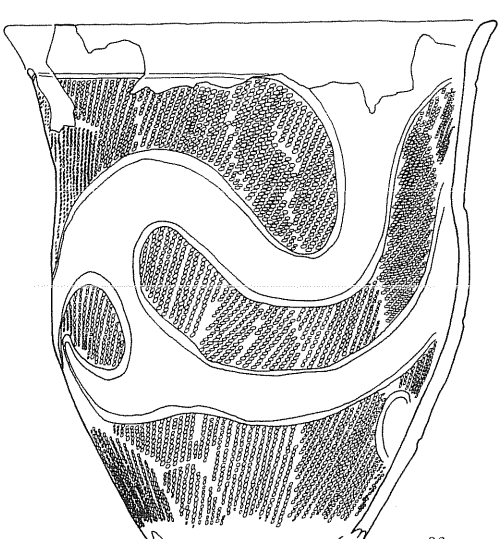
0　10cm

第42図　遺構内出土土器

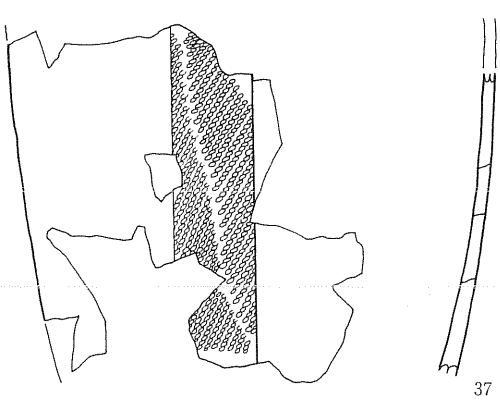


34

35



36

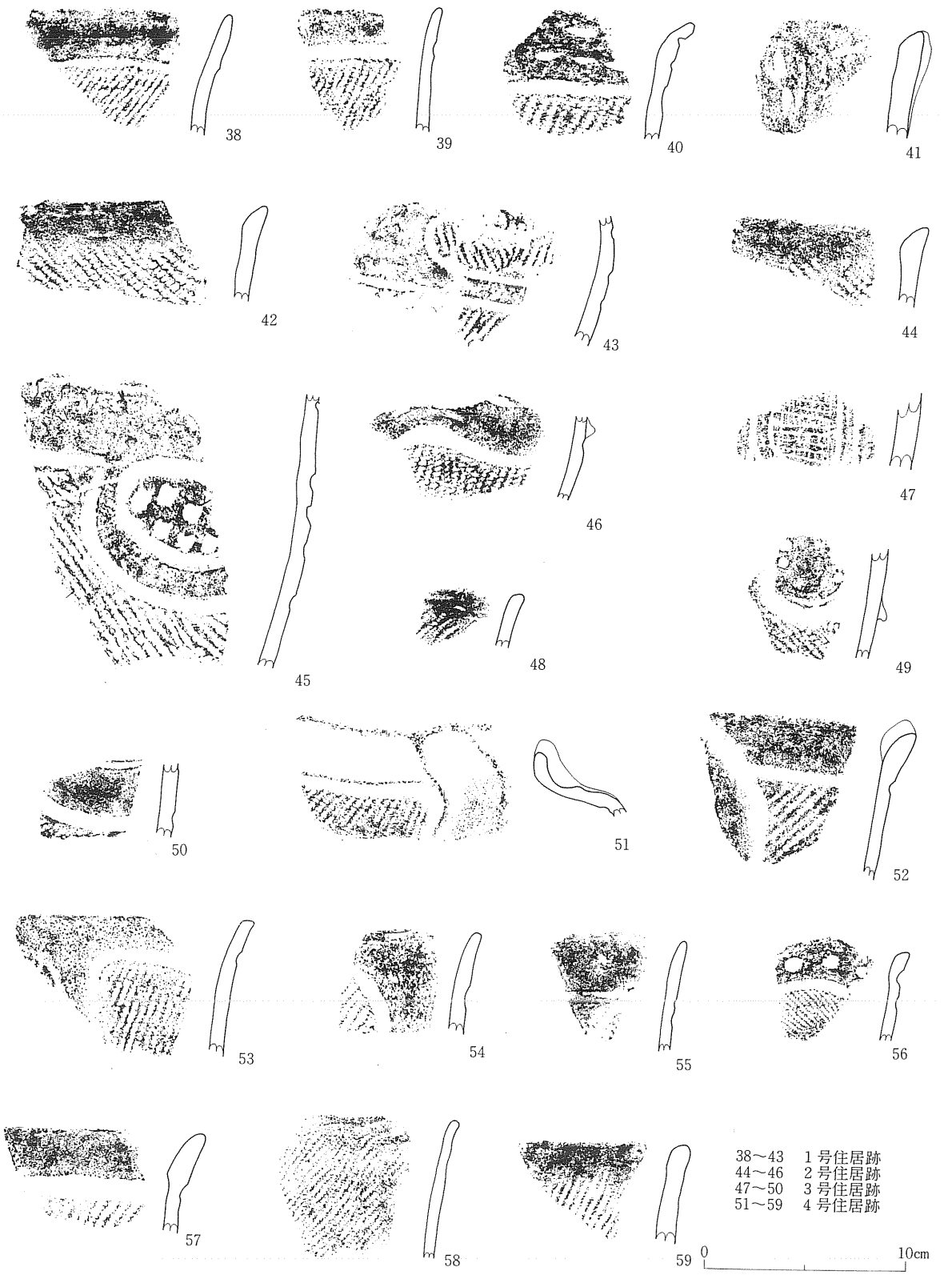


37

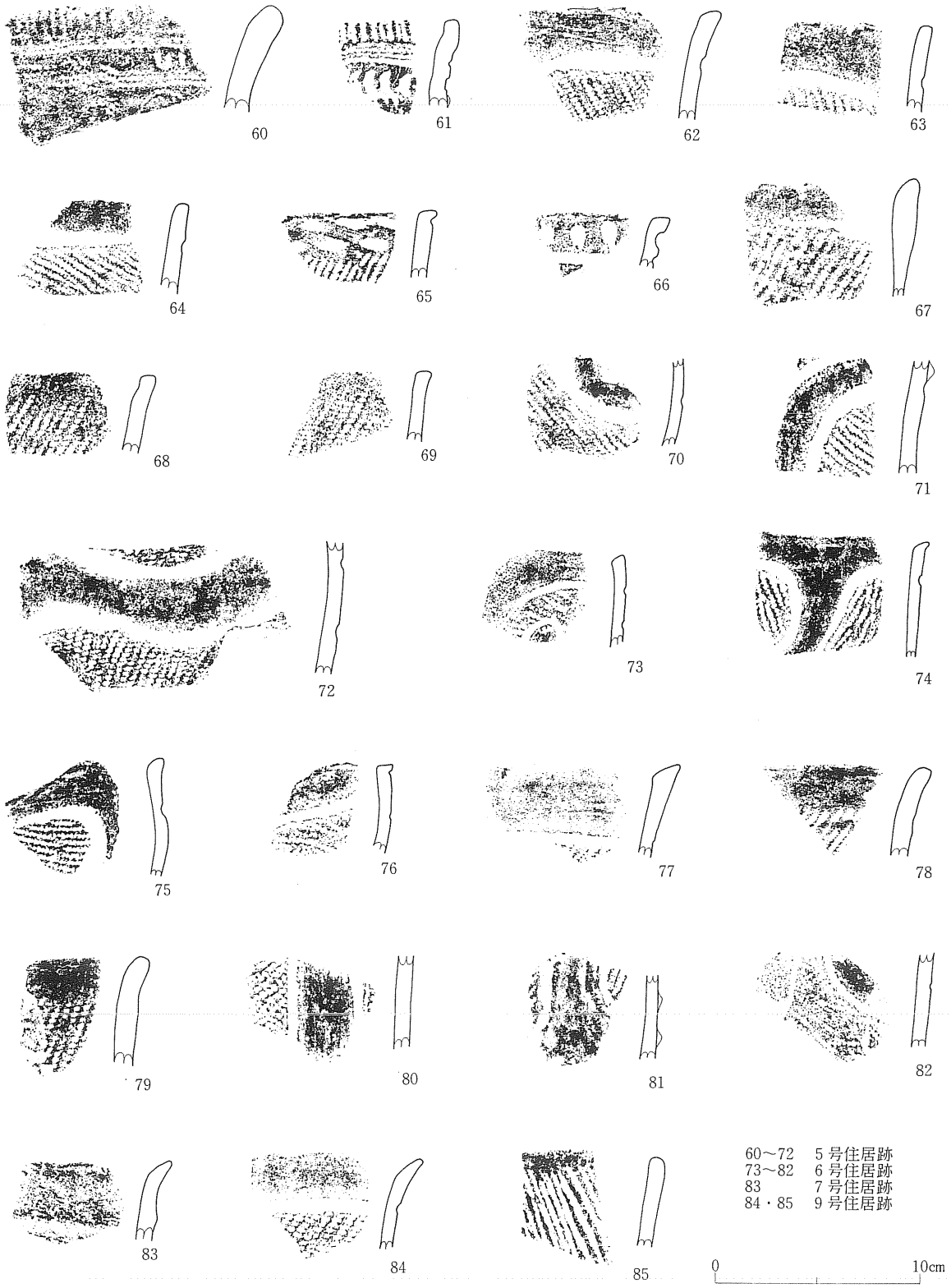
34　30号住居跡炉埋設土器
35　30号住居跡覆土
36　31号住居跡炉埋設土器
37　32号住居跡炉埋設土器

第43図　遺構内出土土器

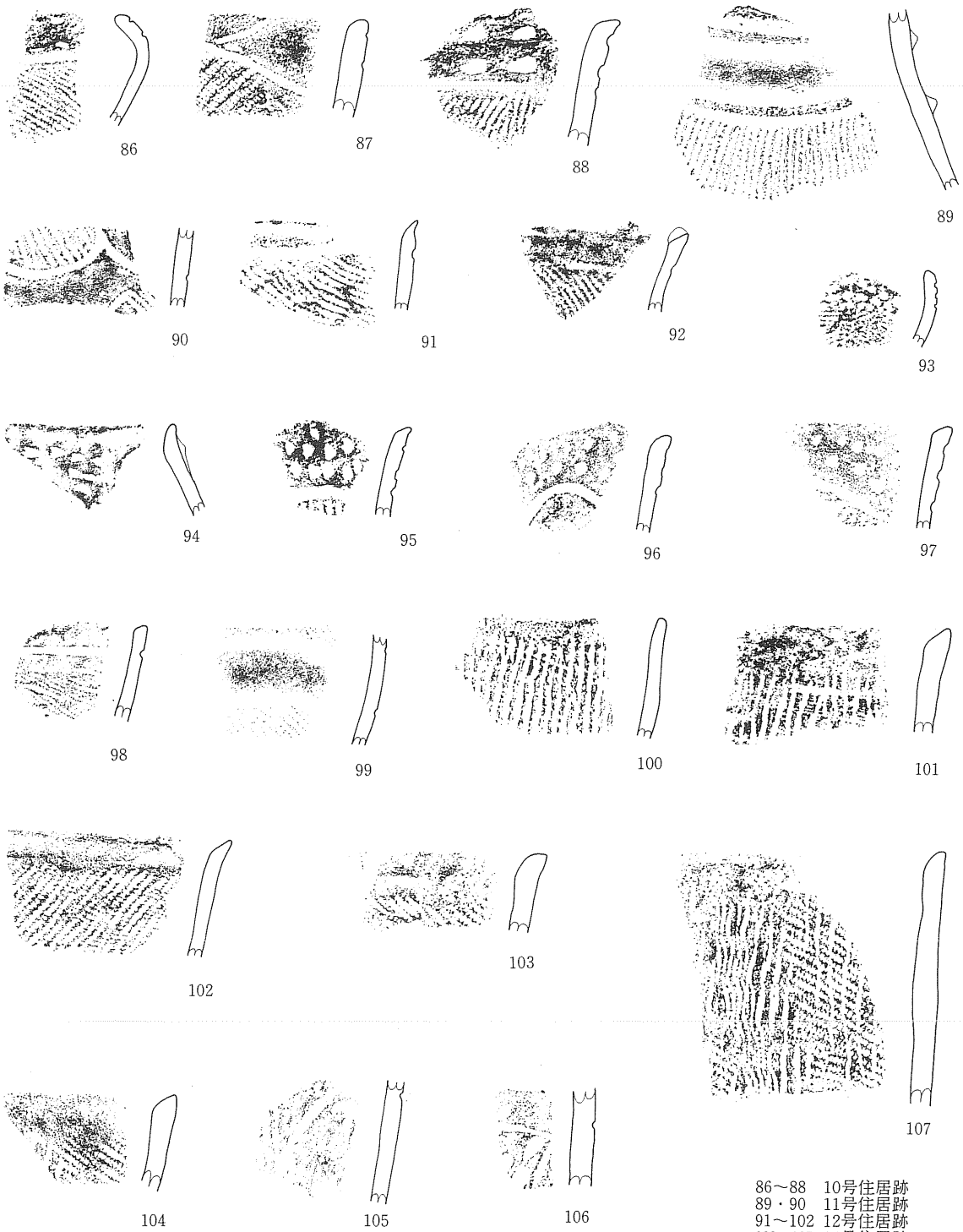
0　10cm



第44図　遺構内出土土器



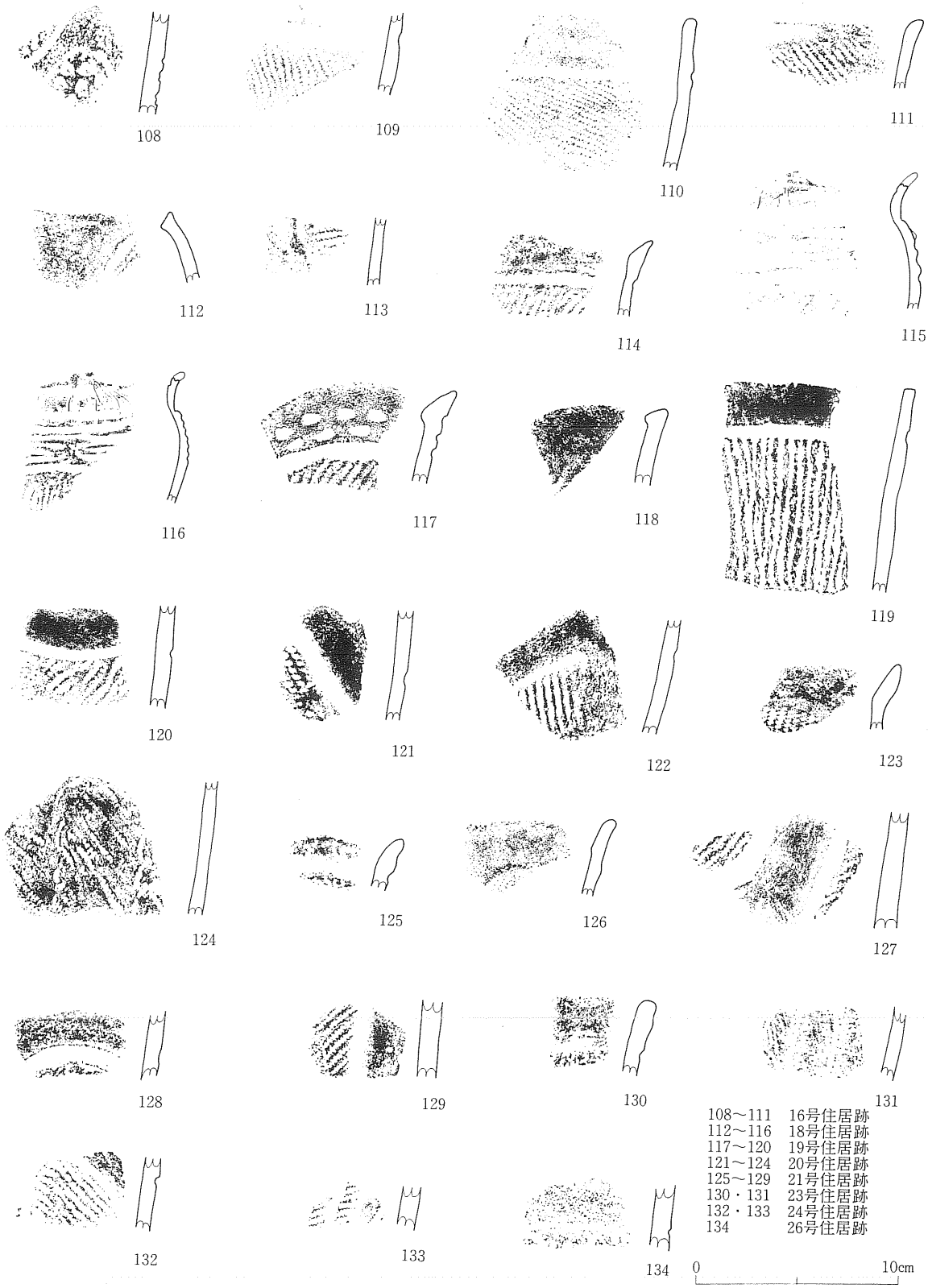
第45図　遺構内出土土器



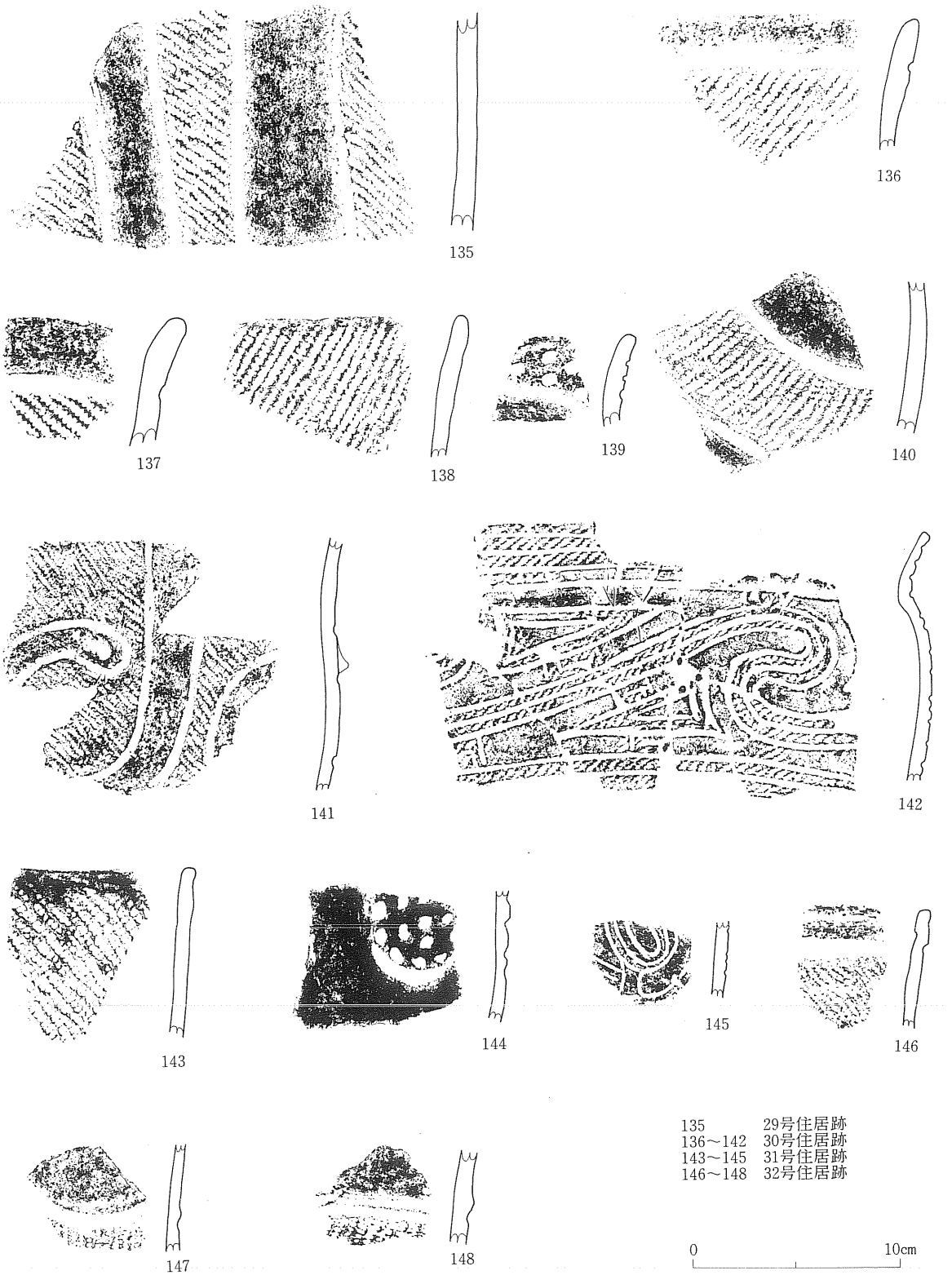
86～88　10号住居跡
89・90　11号住居跡
91～102　12号住居跡
103～107　14号住居跡

0　10cm

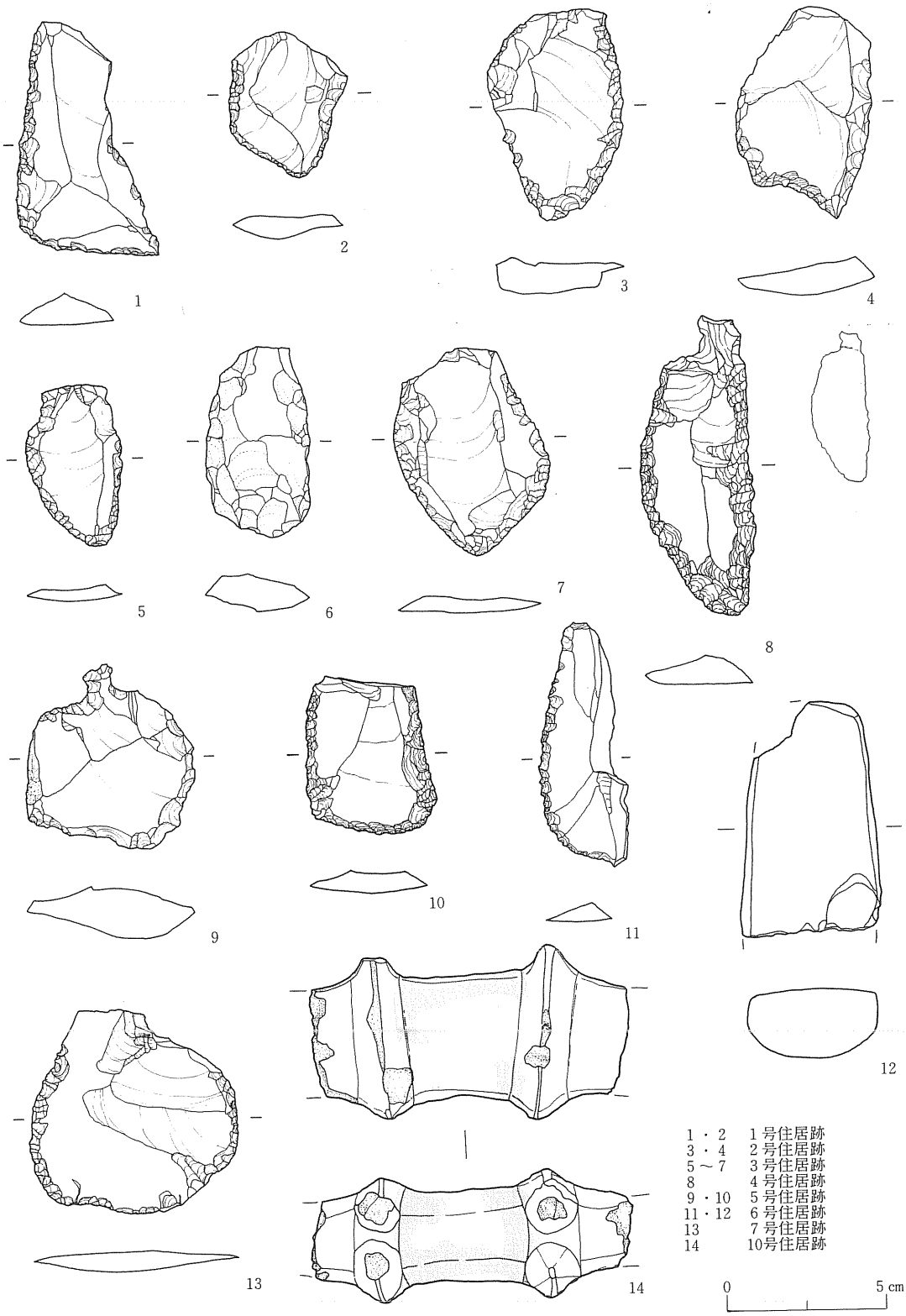
第46図　遺構内出土土器



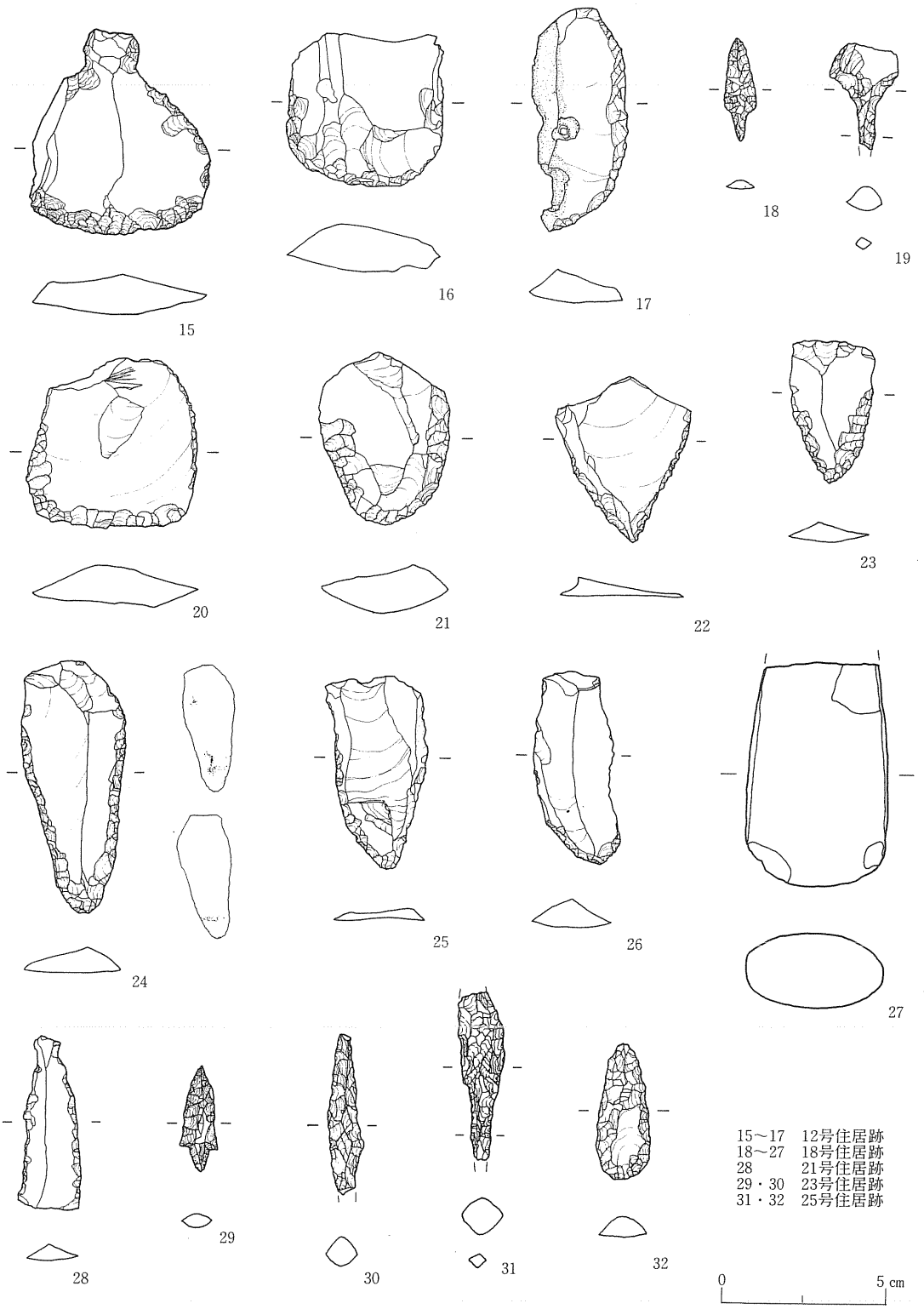
第47図　遺構内出土土器



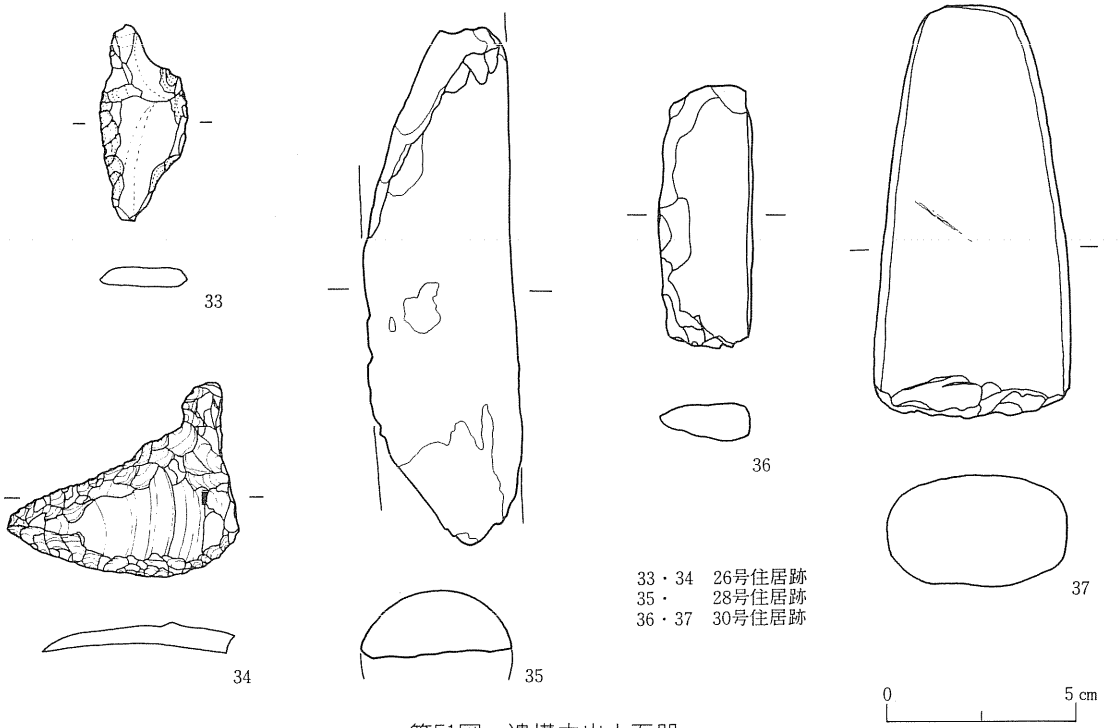
第48図　遺構内出土土器



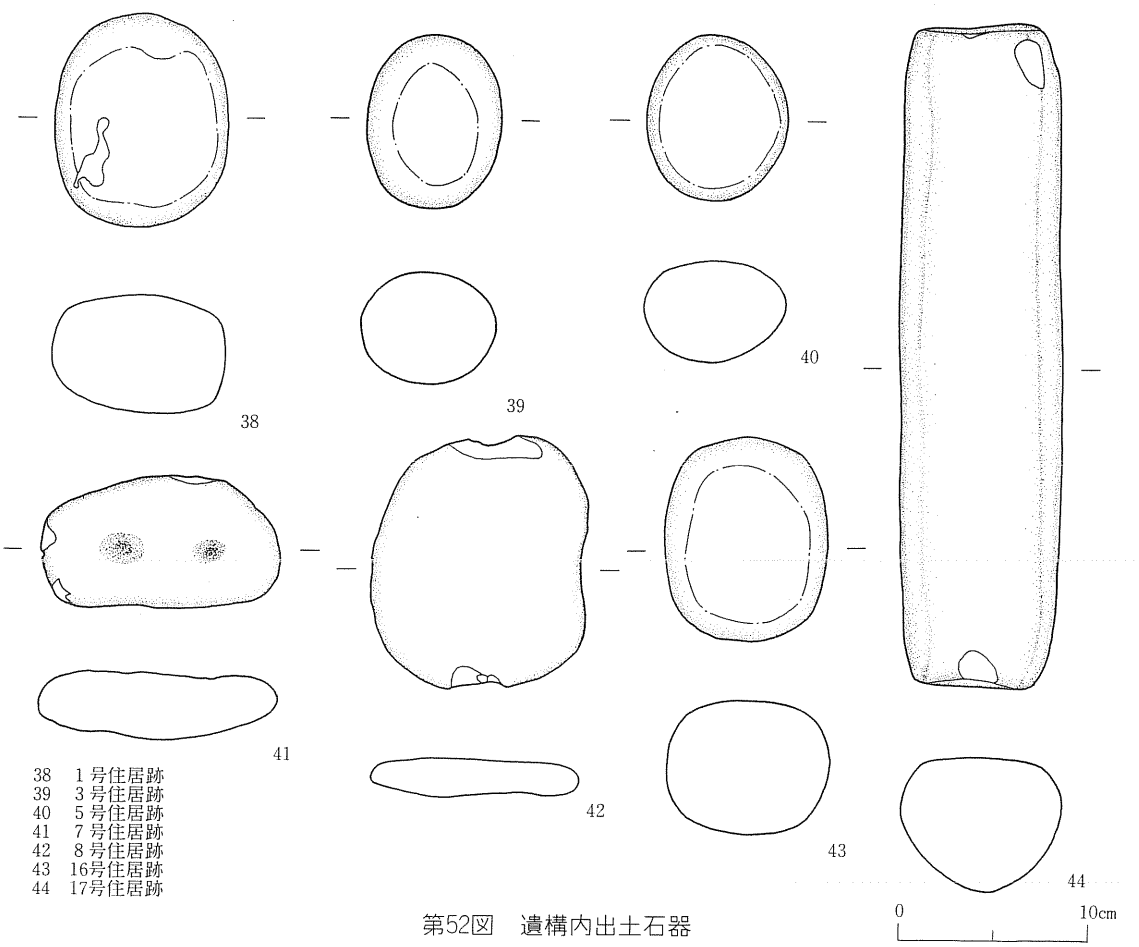
第49図　遺構内出土石器



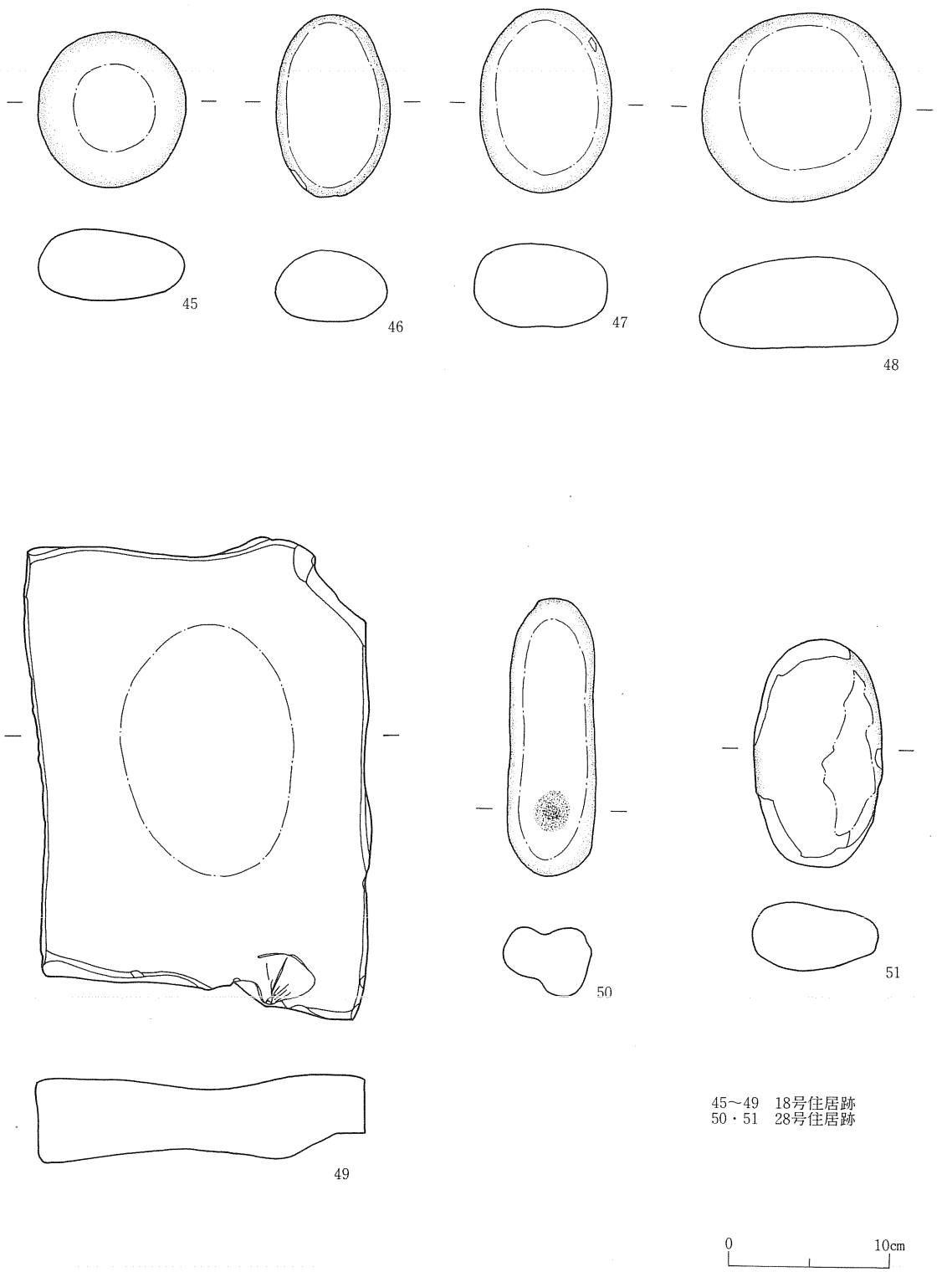
第50図　遺構内出土石器



第51図　遺構内出土石器



第52図　遺構内出土石器



第53図　遺構内出土石器

弥生時代

1号住居跡（Ⅰ～Ⅶ）（第54図）

調査区中央部で検出された。

7本の周溝が検出され、6回の建て替えを行っている。1－Ⅰ号は周溝が径8mのほぼ円形を呈し、幅20～30cm、深さ10～43cmで、南西側が途切れ、出入口施設の存在が考えられる。ピットは多数検出されたが、主柱穴はP1～P4の4個である。掘り方は径35～70cm、深さ42～75cmで、径約20cmの柱痕の認められるものもある。炉は径90cmの地床炉で若干掘り込み、炉内が強く火熱を受けて赤変し、2個の礫が付設する。床はローム面を床面とするが、ローム面が若干西へ斜面をなしているために東側を約5cm掘り込み、平坦で堅い。1－Ⅱ～Ⅶ号は1－Ⅰ号の北側へ移動して構築され同心円状の周溝が認められ、5回の拡張を行っている。周溝は1－Ⅱ号が長軸9.6m、短軸8.4mの楕円形を呈し、幅20cm、深さ11～24cmである。1－Ⅲ号は径9.3mのほぼ円形を呈し、幅20cm、深さ21～43cmである。1－Ⅳ号は径9.4mのほぼ円形を呈し、幅20cm、深さ32～43cmである。1－Ⅴ号は径10.6mのほぼ円形を呈し、幅20cm、深さ16～36cmである。1－Ⅵ号は径10.8mのほぼ円形を呈し、幅20cm、深さ15～45cmである。1－Ⅶ号は径11.7mのほぼ円形を呈し、幅20cm、深さ9～70cmである。全て南側が途切れ、出入口施設の存在が考えられる。ピットは多数検出されたが、主柱穴は4個で、1－Ⅱ～Ⅳ号に伴うものがP5～P8と考えられ、掘り方は径50～75cm、深さ40～75cmで、径25～35cmの柱痕の認められるものもある。1－Ⅴ～Ⅶ号に伴うものがP9～P12と考えられ掘り方は径50～70cm、深さ69～80cmで、径25～30cmの柱痕が認められる。炉は2基検出された。1－Ⅱ～Ⅳ号に伴うものは、新しい溝によって切られており検出されなかった。東側の炉は径80cmの地床炉で、1－Ⅴ～Ⅶ号に伴うものである。西側の炉は径90cmの地床炉で若干掘り込んでおり、炉内は強く火熱を受けて赤変し、3個の礫が付設されている。検出された位置からすると、何期目の住居に伴うものが判然としない。床はローム面を床面とするが、ローム面が若干西へ斜面をなしているために東側を約5cm掘り込み、平坦で堅い。

出土遺物

土器（第62図149～151、第63図156～162）

149は1－Ⅰ号の周溝（東側）、150は1－Ⅱ・Ⅲ号の周溝（西側）、151は1－Ⅶ号の周溝（北東部）で出土した。149は口縁部が直線的に斜め上方に立ち上がる鉢形土器である。変形工字文が施され、2個1対の粘土粒が付く。150は蓋形土器である。笠形をなし、変形工字文が施される。151は小形の鉢形土器で、頸部に平行沈線が巡る。地文はLR単節斜縄文（斜位回転）である。他に甕形土器、鉢形土器などの破片が出土している。

石器（第65図52～57、第66図68～72）

52～54は有茎の石鏃、55・56はヘラ状石器、57は鋸歯縁石器で両面にアスファルトが付着する。68・69はくぼみ石、70～72は磨石である。

2号住居跡（Ⅰ～Ⅴ）（第55図）

調査区中央部で検出された。

5本の周溝が検出され、4回の建て替えを行っている。2－Ⅰ号は周溝が径10.7mのほぼ円形を呈し、幅20cm、深さ6～23cmで、南側が途切れ、東側には周溝が確認されなかった。2－Ⅱ～Ⅴは2－Ⅰ号より若干南側にずらして構築され、同心円状の周溝が認められ、3回の拡張を行っている。周溝は2－Ⅱ号が径8.5mのほぼ円形を呈し、幅20cm、深さ10～38cmである。2－Ⅲ号は長軸9.5m短軸9.1mの楕円形を呈し、幅20cm、深さ10～28cmである。2－Ⅳ号は径9.8mのほぼ円形を呈し、幅20cm、深さ10～28cmである。2－Ⅴ号は長軸10.1m、短軸9.5mの楕円形を呈し、幅20cm、深さ13～28cmである。全て南側が途切れ、出入口施設の存在が考えられる。ピットは多数検出されたが、主柱穴は4個で、2－Ⅰ号に伴うものがＰ1～Ｐ4と考えられ、掘り方は径30～50cm、深さ21～42cmである。2－Ⅱ～Ⅴ号に伴うものがＰ5～Ｐ8と考えられ、掘り方は径45～60cm、深さ46～89cmで、径20～30cmの柱痕の認められるものもある。炉は2基検出された。北側の炉は径1mの地床炉で、炉内が強く火熱を受けて赤変し、2－Ⅰ号に伴うものと考えられる。南側の炉は長軸1.4m、短軸1mで、中央部に甕形土器を縦に割り、半分を据え、周辺は強く火熱を受けて赤変している。2－Ⅱ～Ⅴ号に伴うものと考えられる。床は平坦で堅い。住居内南側に長方形の掘り方がみられるが、住居に付随するものかどうかは不明である。

出土遺物

土器（第62図152、第63図163～172）

152は炉埋設土器である。甕形土器の下半部で、刷毛目調整後にＬＲ単節斜縄文（縦位回転）を施す。他に甕形土器、鉢形土器などの破片が出土している。

土製品（第149図3）

3は土偶である。頭顔部のみで、中空である。

石器（第65図58・59、第67図73～75）

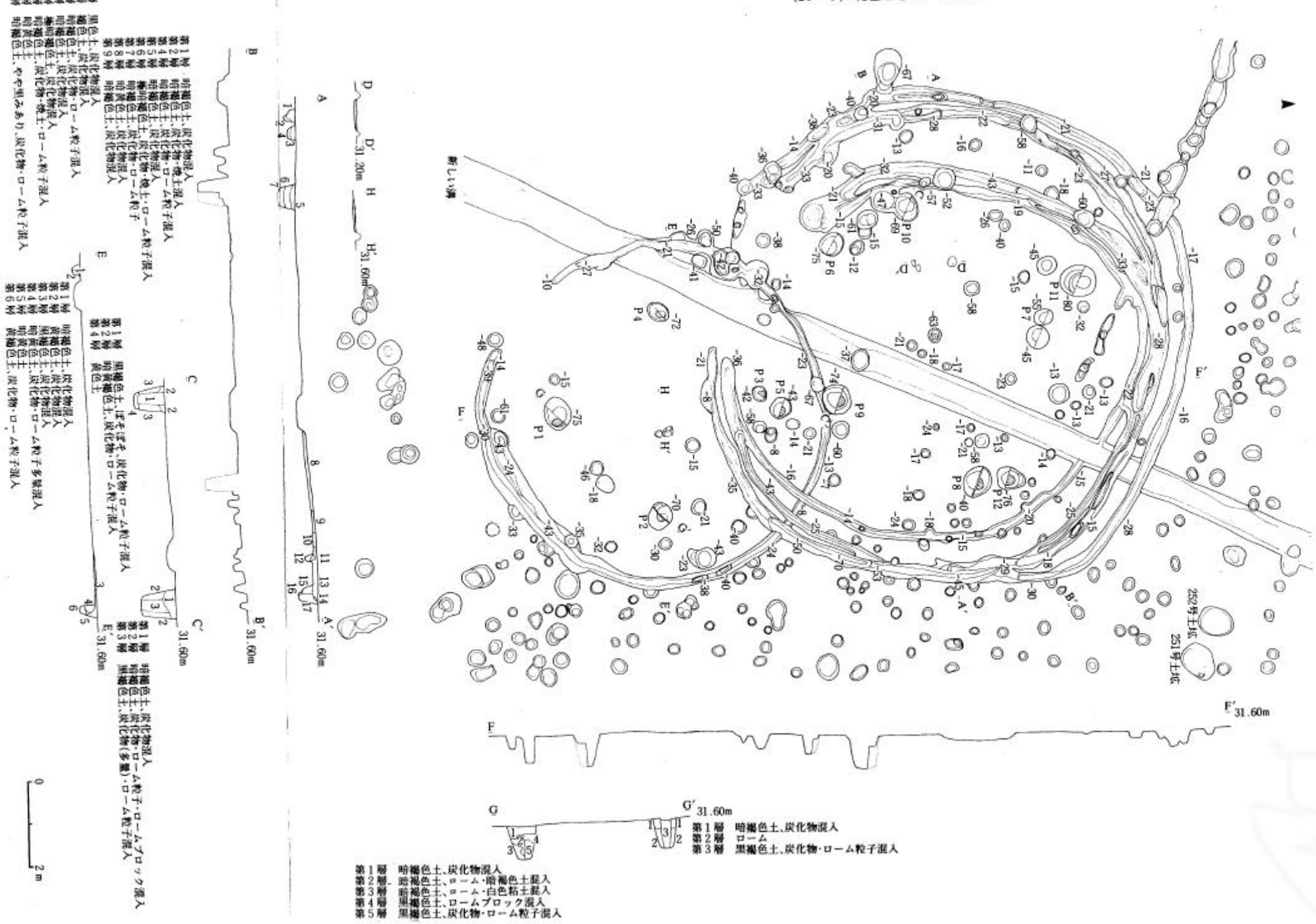
58は錐状をなす石器、59は横型石匙で、つまみ部にアスファルトが付着する。73～75は磨石である。

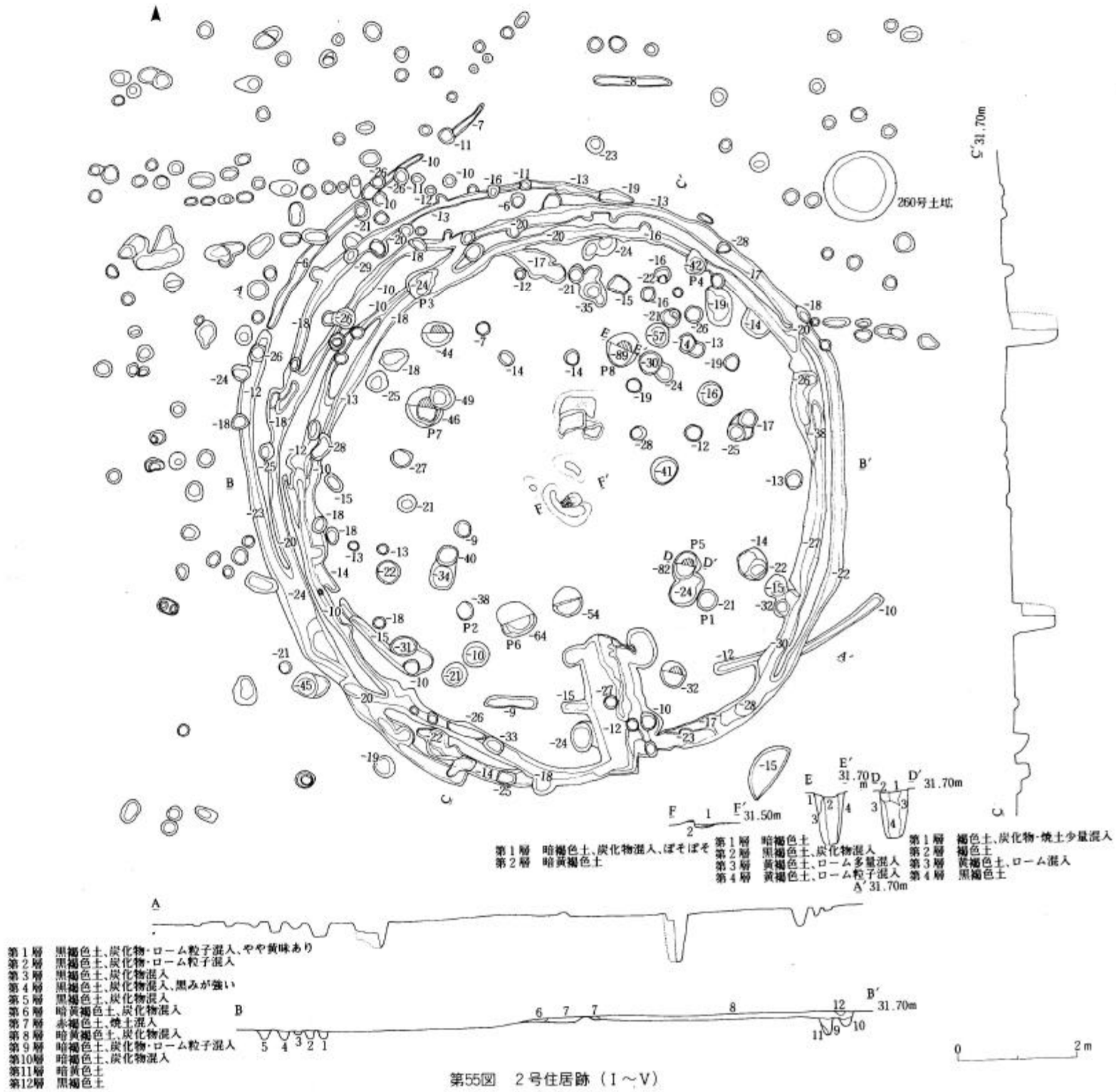
3号住居跡（Ⅰ～Ⅲ）（第56図）

調査区西側で検出された。

3本の周溝が検出され、2回の建て替えを行っている。3－Ⅰ号は周溝が長軸8.3m、短軸7.5mの楕円形を呈し、幅20～30cm、深さ5～44cmで、南東側が途切れ、出入口施設の存在が考えられる。ピットは多数検出されたが、主柱穴はＰ1～Ｐ4の4個である。掘り方は径30～50cm、深さ35～67cmで、径25～35cmの柱痕の認められるものもある。炉は径1mの石囲炉で、炉内が強く火熱を受けて赤変している。床は平坦で堅い。3－Ⅱ・Ⅲ号は3－Ⅰ号の南側へ移動して構築され、1回の拡張を行っている。

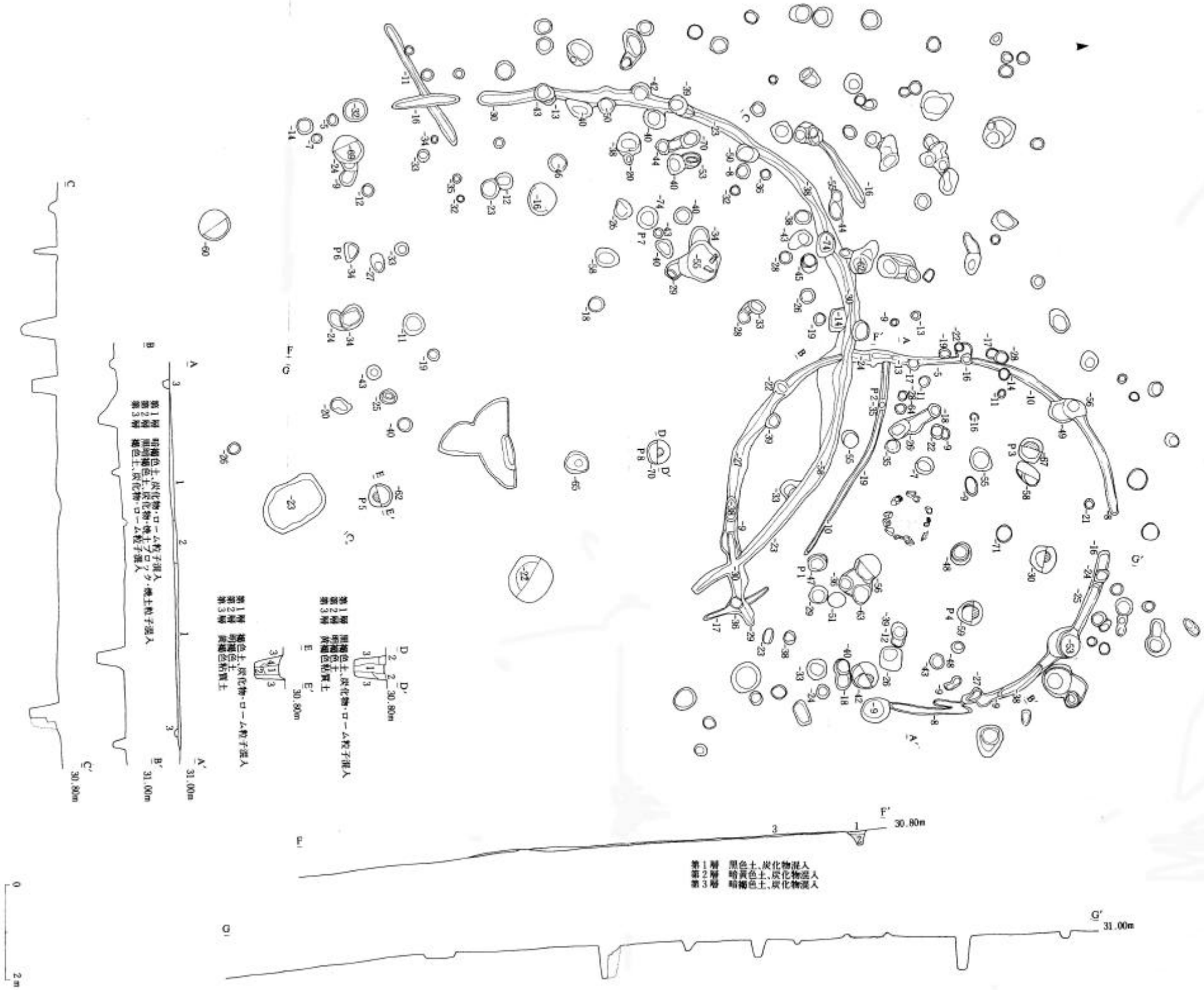
第54図　1号住居跡（Ⅰ～Ⅲ）





第55図　２号住居跡（Ⅰ～Ⅴ）

第56図　3号住居跡（Ⅰ～Ⅲ）



周溝は南斜面であるために南側は検出されず、規模は不明である。しかし、東側は途切れ、出入口施設の存在が考えられる。幅20cm、深さ10～58cmである。ピットは多数検出されたが、主柱穴はＰ５～Ｐ８の４個である。掘り方は径30～50cm、深さ34～74cmで、径20～25cmの柱痕の認められるものもある。炉は長軸1.2ｍ、短軸80cmの地床炉で、炉内は強く火熱を受けて赤変している。床はローム面を床面とするが、南斜面のために北側がローム面、南側は黒色土を床面としたと考えられる。北側のローム床面は平坦で堅い。

出土遺物

土器（第62図153・154、第63図173～182）

153は３－Ⅰ号の床面、154は３－Ⅰ号のピットより出土した。いずれも蓋形土器で、154には沈線が巡る。地文はＬＲ単節斜縄文（横位回転）である。他に甕形土器、鉢形土器の破片が出土している。

石器（第65図60、第67図76～78）

60は独鈷石で、両頭部が欠損する。76は石皿の破片、77・78はくぼみ石である。

４号住居跡（Ⅰ～Ⅳ）（第59図）

調査区南側で検出された。

４本の周溝が検出され、３回の建て替えを行っている。４－Ⅰ号は周溝が径9.1ｍのほぼ円形を呈し、幅20cm、深さ６～26cmで、北西部が途切れ、出入口施設の存在が考えられる。ピットは多数検出されたが、主柱穴はＰ１～Ｐ４の４個である。掘り方は径25～50cm、深さ47～67cmで、径30cmの柱痕の認められるものもある。炉は径1.1ｍの地床炉で、炉内が強く火熱を受けて赤変し、１個の礫が付設する。床は平坦で堅い。４－Ⅱ・Ⅲ号は４－Ⅰ号の西側へ移動する。周溝は４－Ⅱ号が長軸12m、短軸10mの楕円形を呈し、幅20cm、深さ４～55cmである。４－Ⅲ号は長軸13m、短軸11mの楕円形を呈し、幅20cm、深さ４～39cmで、いずれも北東側が途切れ、出入口施設の存在が考えられる。北西部と南東部は風倒木のために検出されない。ピットは多数検出されたが、主柱穴は４個である。Ｐ５～Ｐ７と東側にも存在するが、北東側の柱穴は位置からして４－Ⅳ号の炉の下にあると考えられるが確認していない。掘り方は径70～80cm、深さ87～90cmで、径50cmの柱痕の認められるものもある。炉は径1.4ｍの石囲炉で中央部がくぼみ、炉内は強く火熱を受けて赤変している。床は平坦で堅い。４－Ⅳ号は４－Ⅱ・Ⅲ号の東側へ移動する。周溝は径11mのほぼ円形を呈し、幅20cm、深さ５～23cmで北東側が途切れ、出入口施設の存在が考えられる。ピットは多数検出されたが、主柱穴は４個である。Ｐ８～Ｐ10と東側にも存在すると考えられるが、柱穴は風倒木により検出できなかった。掘り方は径40～60cm、深さ29～53cmである。炉は数個の礫は残っていないが径90cmの石囲炉で、炉内が強く火熱を受けて赤変している。床は平坦で堅い。

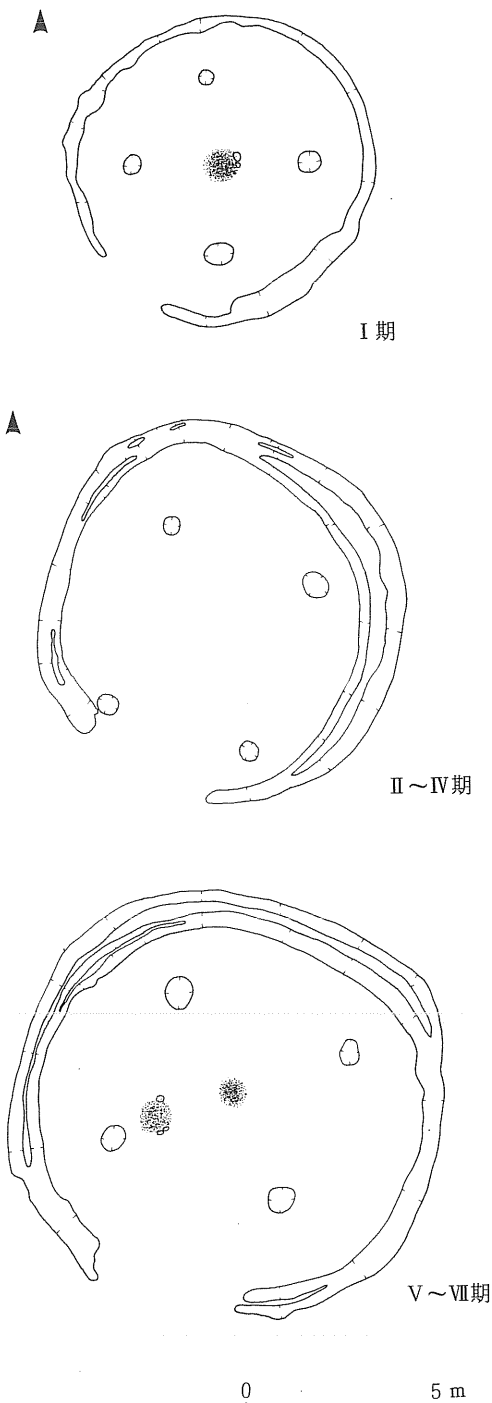
出土遺物

土器（第62図155、第64図183～193）

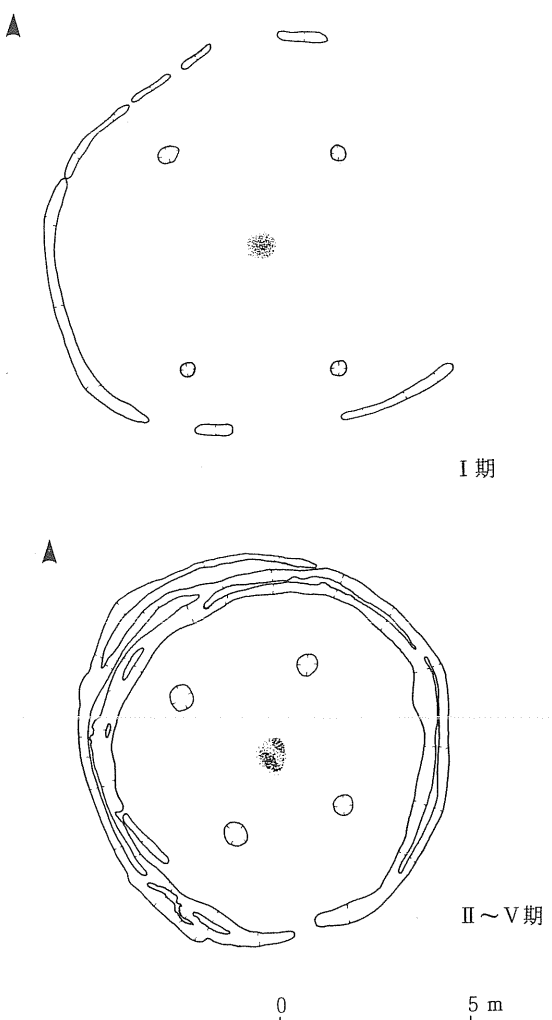
155はＰ８より出土した壺形土器である。刷毛目調整後にＬＲ単節斜縄文（横位回転）を施す。頸部と肩部に２条の平行沈線を巡らし、平行沈線間に長さ１～２cmの列点文を施す。縦位の３条の平行沈線間にも２条の長さ１～２cmの列点文が施され、頸部と肩部の平行沈線と連絡する。６単位である。口唇部にも縄文が施され、内外面に１条の沈線が巡る。胎土に小石粒が多く混入する。他に甕形土器、鉢形土器、高坏形土器の脚部、壺形土器の破片が出土している。

石器（第66図61～67、第67図79・80）

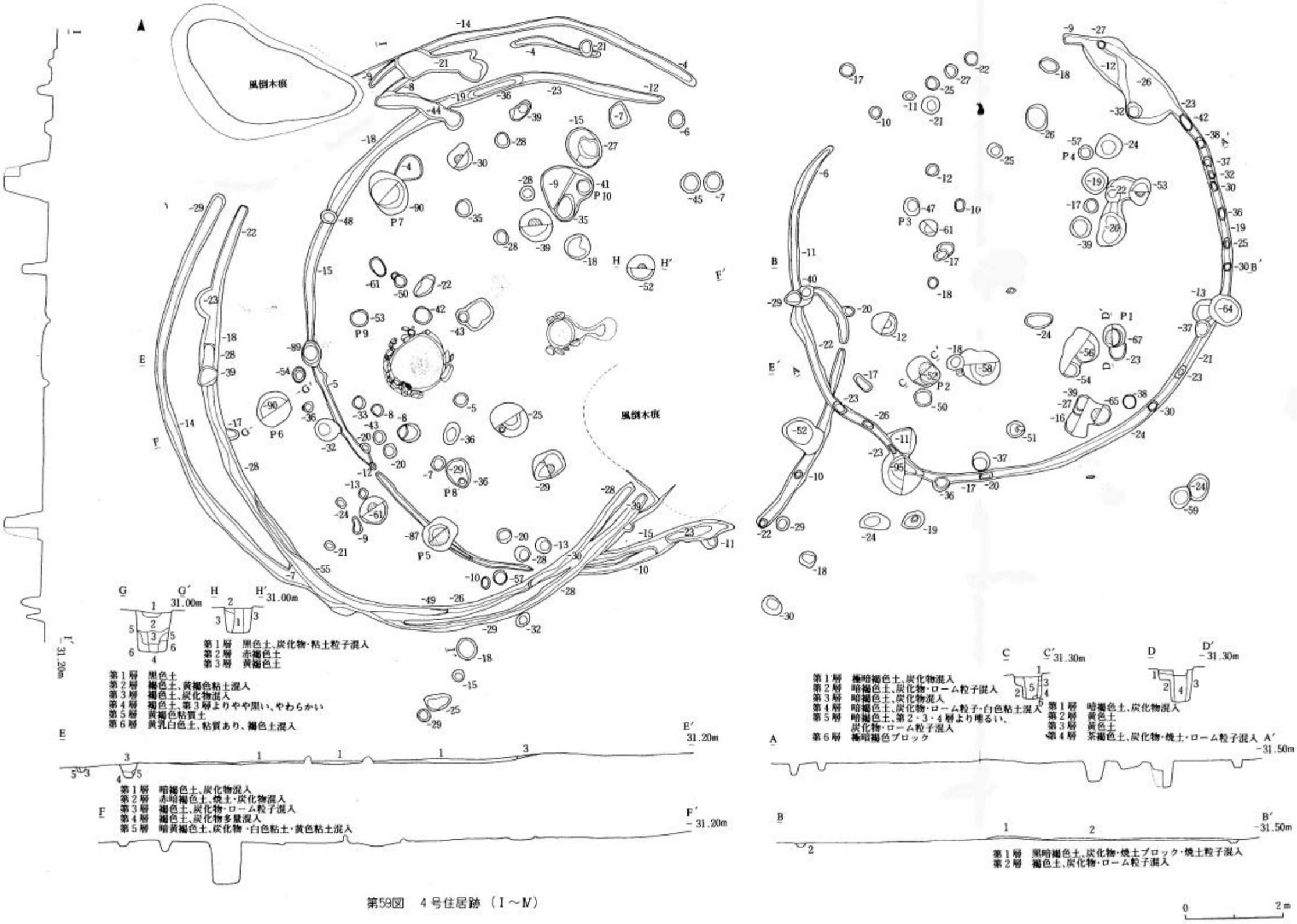
61～65は石鏃で、61～64は有茎、65は無茎である。66はヘラ状石器、67は磨製石斧である。79・80は磨石である。



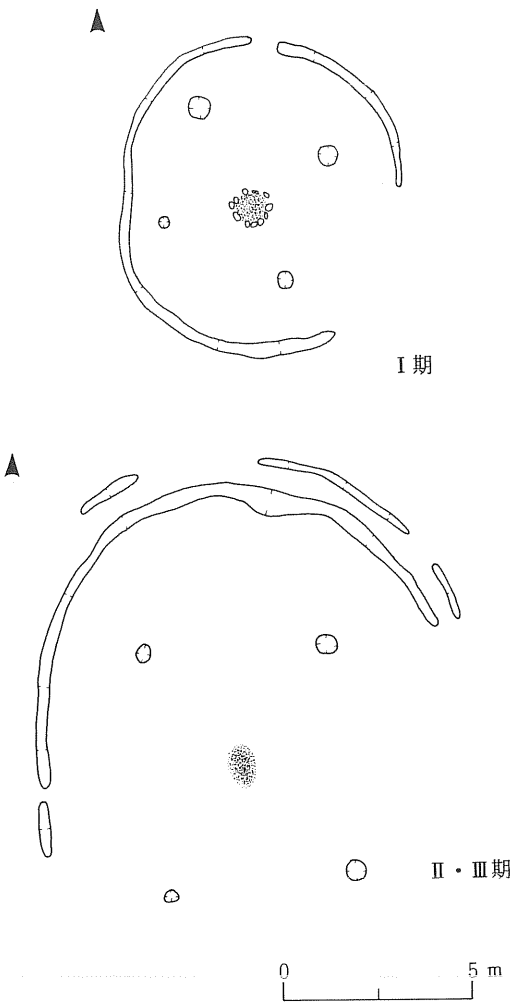
第57図　１号住居跡の変遷



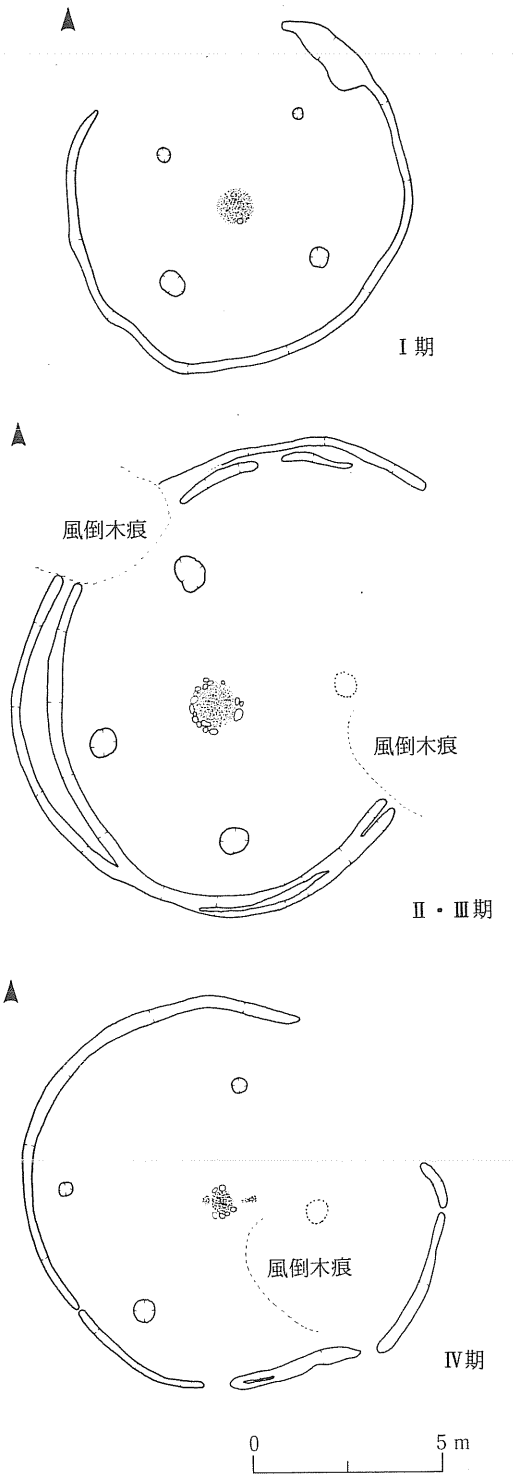
第58図　２号住居跡の変遷



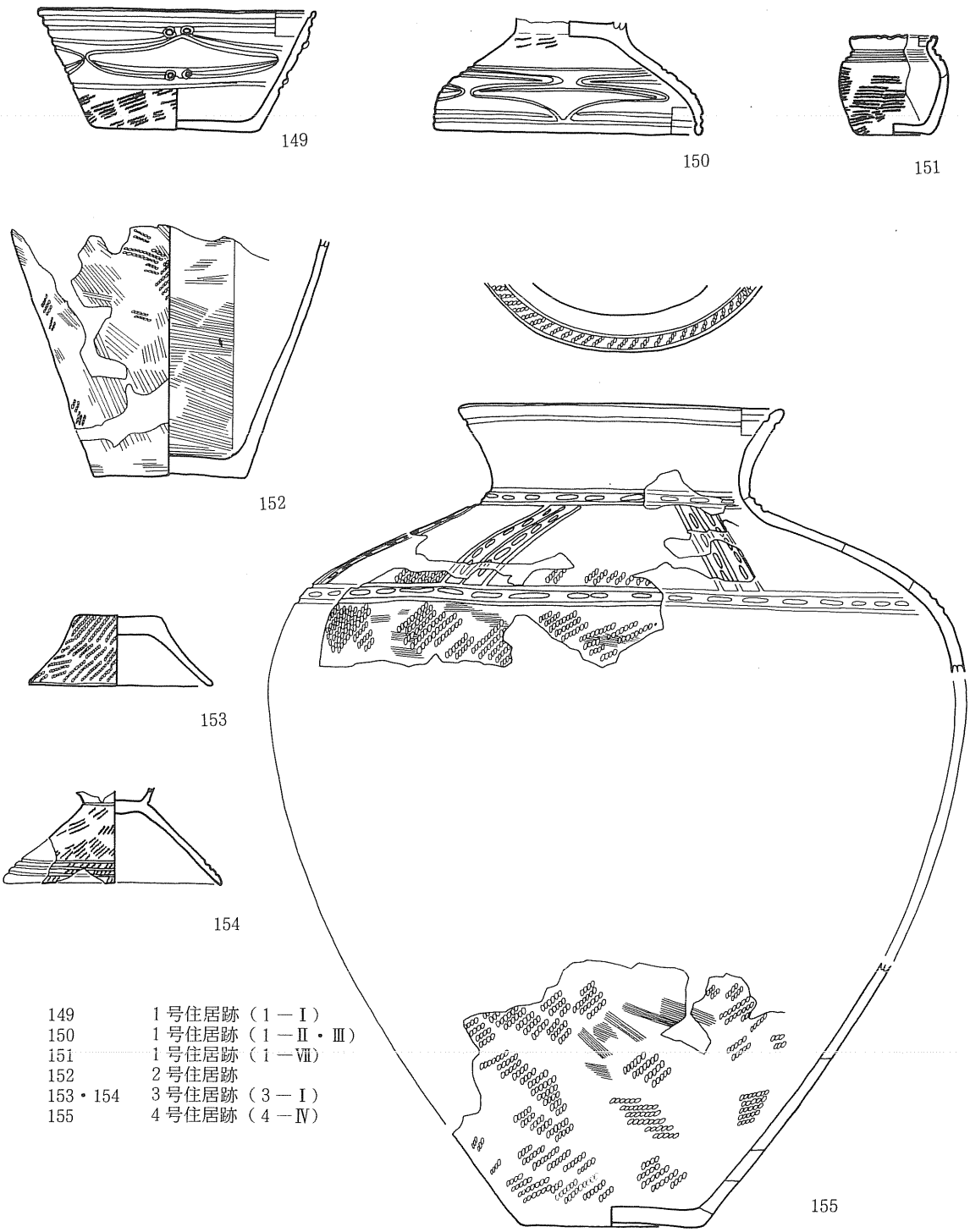
第59図　4号住居跡（Ⅰ～Ⅳ）



第60図　3号住居跡の変遷

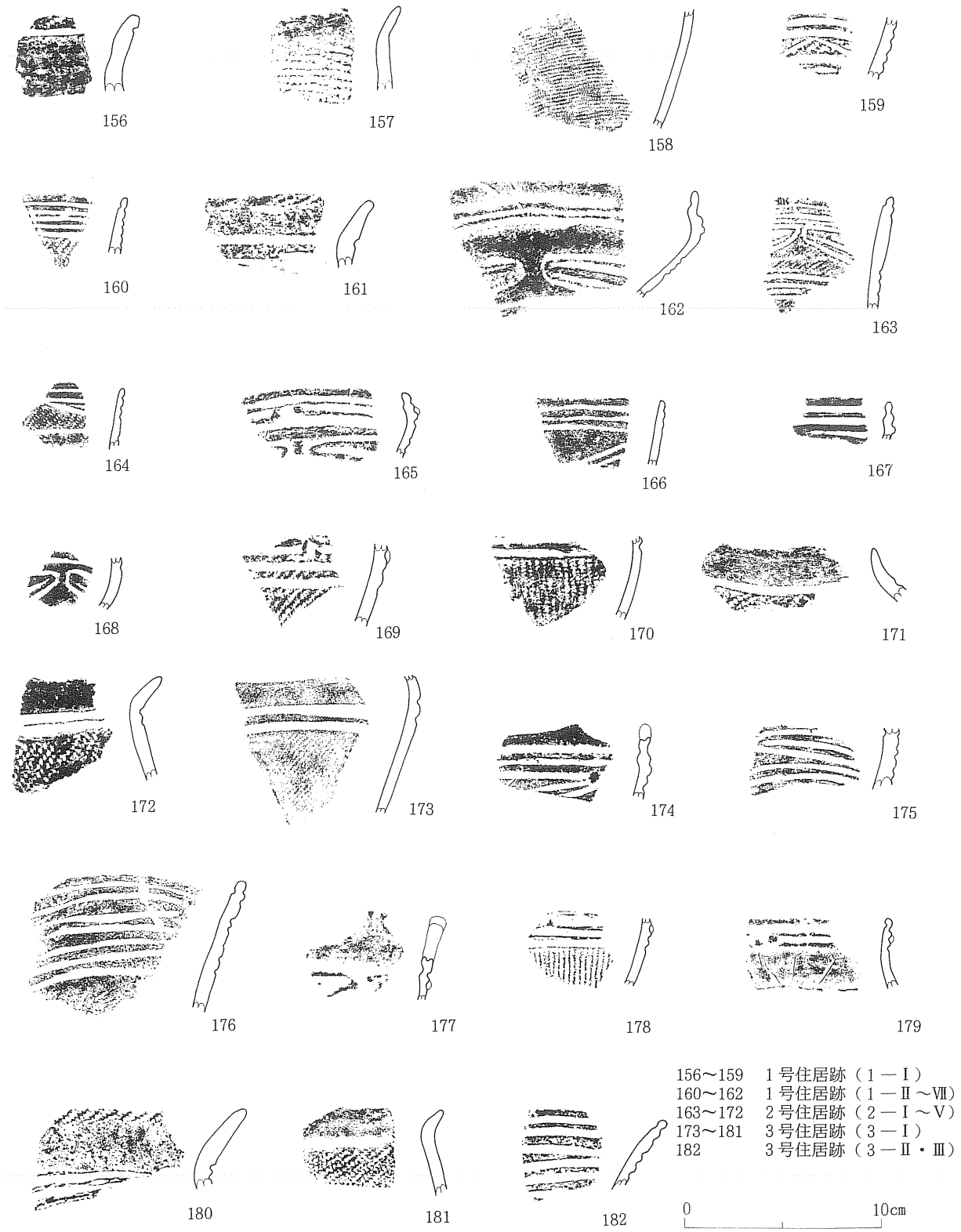


第61図　4号住居跡の変遷

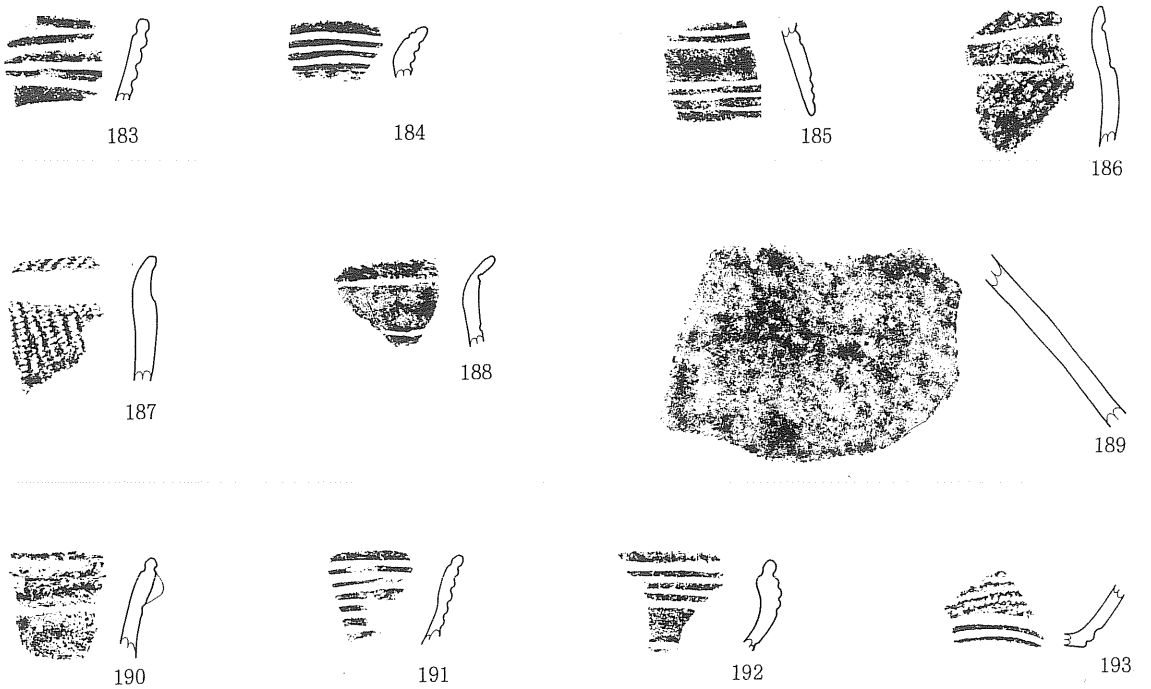


149	1号住居跡（1－Ⅰ）
150	1号住居跡（1－Ⅱ・Ⅲ）
151	1号住居跡（1－Ⅶ）
152	2号住居跡
153・154	3号住居跡（3－Ⅰ）
155	4号住居跡（4－Ⅳ）

第62図　遺構内出土土器



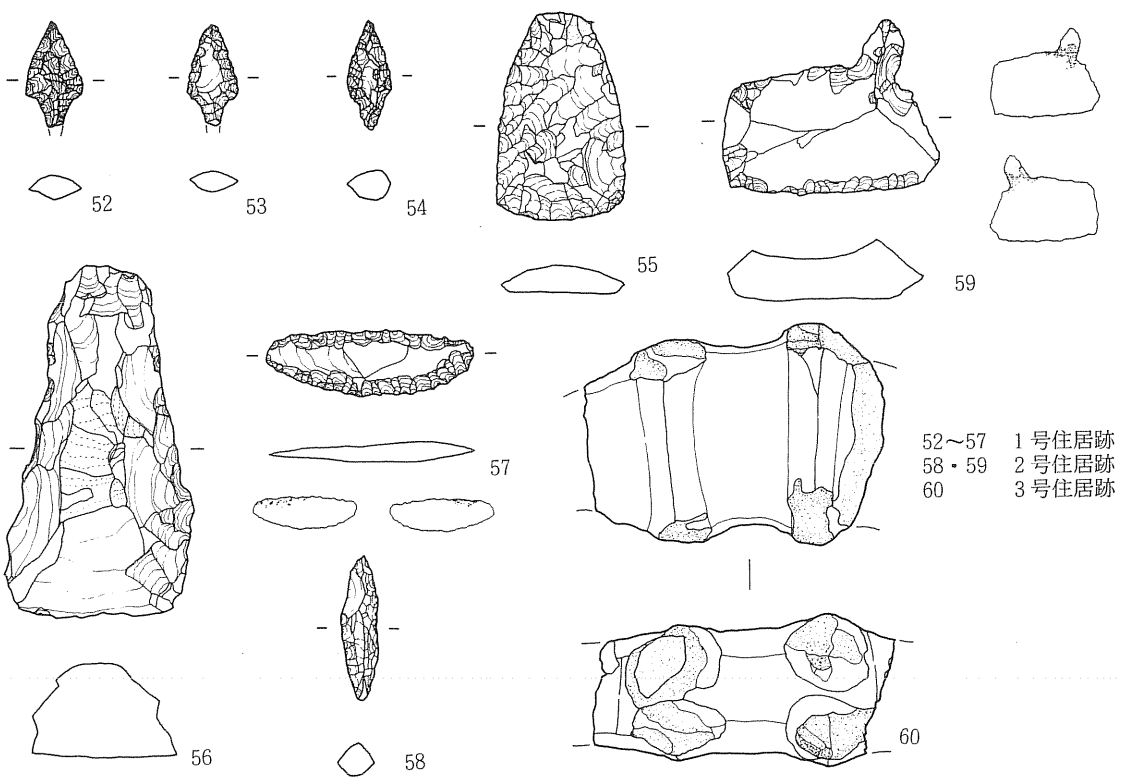
第63図　遺構内出土土器



183～189　4号住居跡（4－Ⅰ）
190～193　4号住居跡（4－Ⅱ・Ⅲ）

第64図　遺構内出土土器

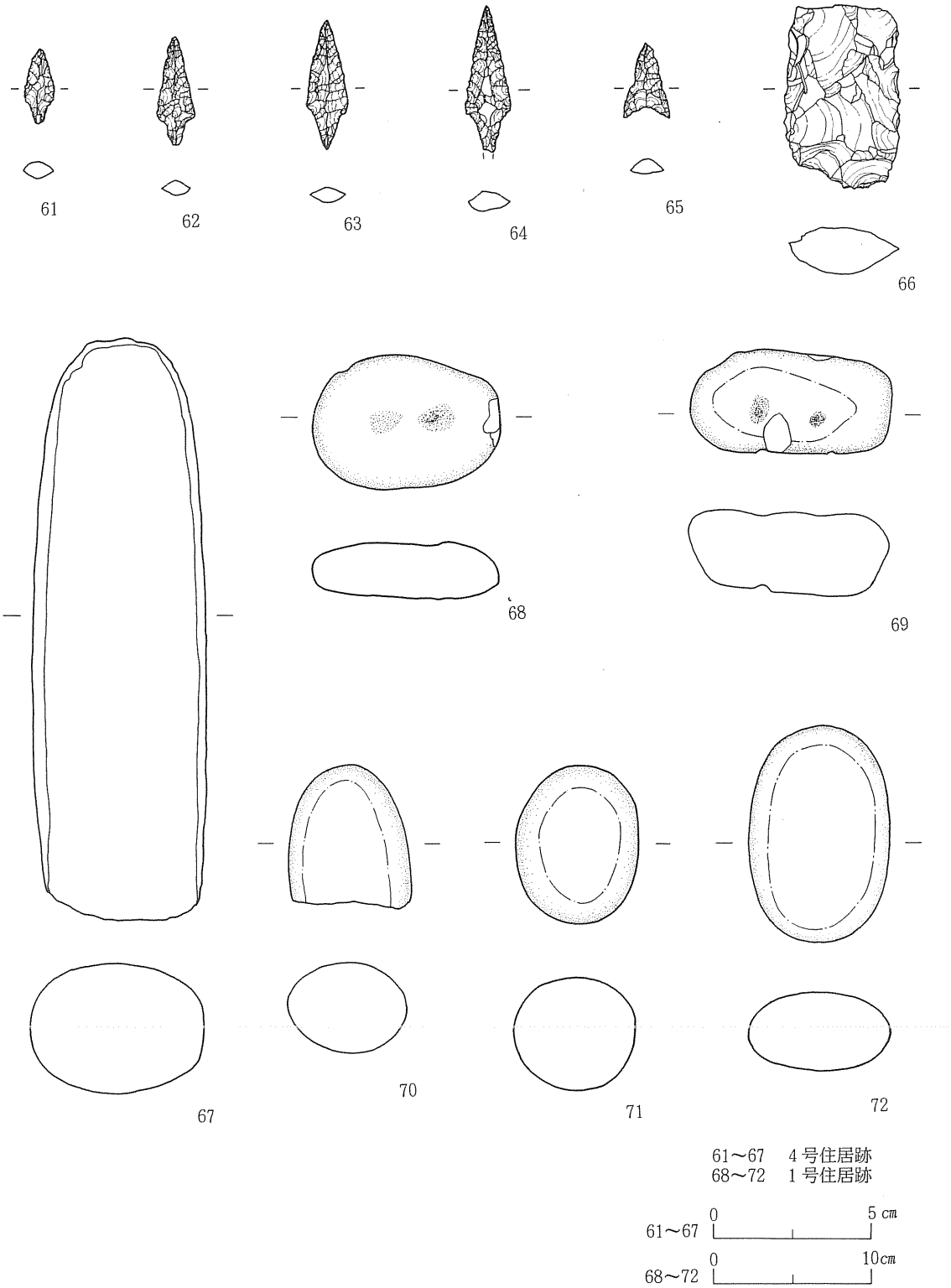
0　10cm



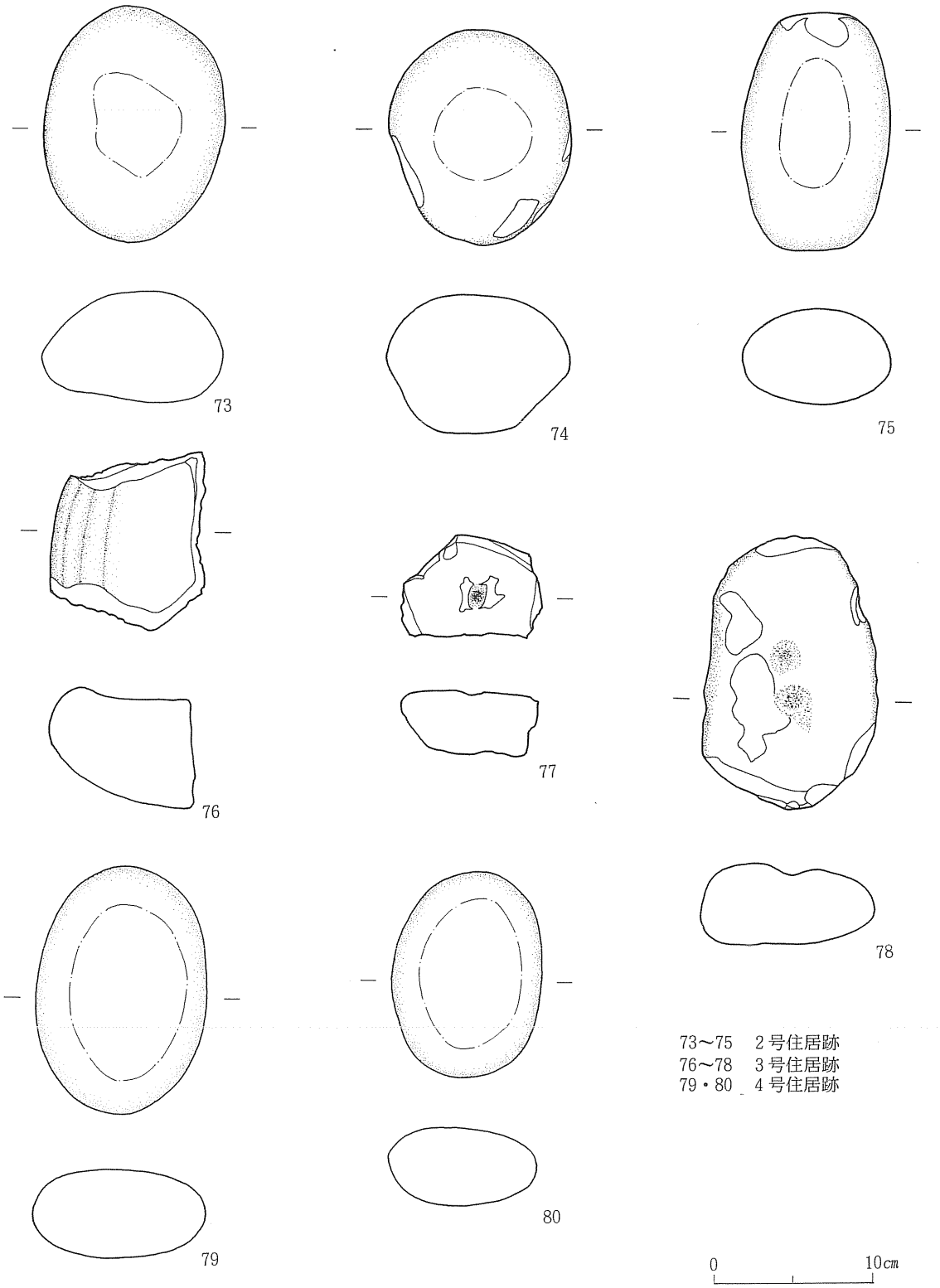
52～57　1号住居跡
58・59　2号住居跡
60　3号住居跡

第65図　遺構内出土石器

0　5cm



第66図　遺構内出土石器



第67図　遺構内出土石器

柵木跡（第215・216図）

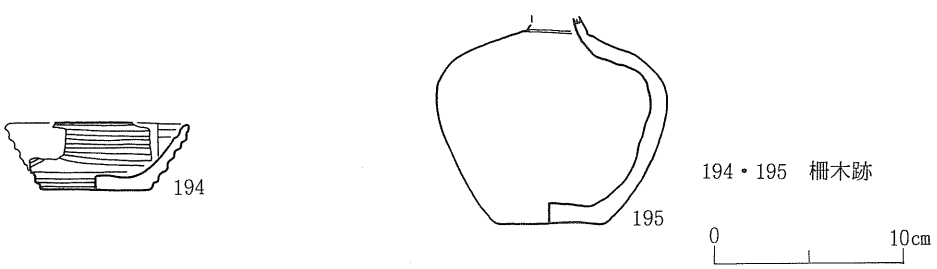
調査区中央部で、４軒の住居跡を囲むように検出された。北側は集石遺構、東側に土坑墓、土器棺墓の区域が位置し、南・西側は台地縁辺部である。

柵木跡は、径20～30cm、深さ30～60cmのピットが連結するように認められ、柱列をなしていたと考えられる。本柵木跡は３本検出され、内側のものは長軸61m 、短軸47m の楕円形を呈し、全周する。中間のものは長軸64m 、短軸50m の楕円形を呈し、検出されない部分もあり、南西部は内側の柵木跡と併用されると考えられる。両柵木跡は平行するように巡り、１・２号住居跡と重復する。また、数ヶ所途切れる箇所があり、出入口施設の存在が考えられ、特に北西部は約1.5ｍ途切れ、外側に平行してピット列が検出された。外側のものは南東部のみの検出で、南側は未調査のために不明である。また、南西部で内側の柵木跡に直交するように溝状（ピットあり）の遺構が認められたが、本柵木跡と同一のものかは判然としない。

出土遺物

土器（第68図194・195）

内側の柵木跡より出土した。194は小形の鉢形土器である。体部から口縁部にかけてほぼ直線的に斜め上方に立ち上がる器形、変形工字文が施される。195は小形の壺形土器で、無文である。



第68図　遺構内出土石器

土器棺墓（第69～71図）

調査区南側で検出された。

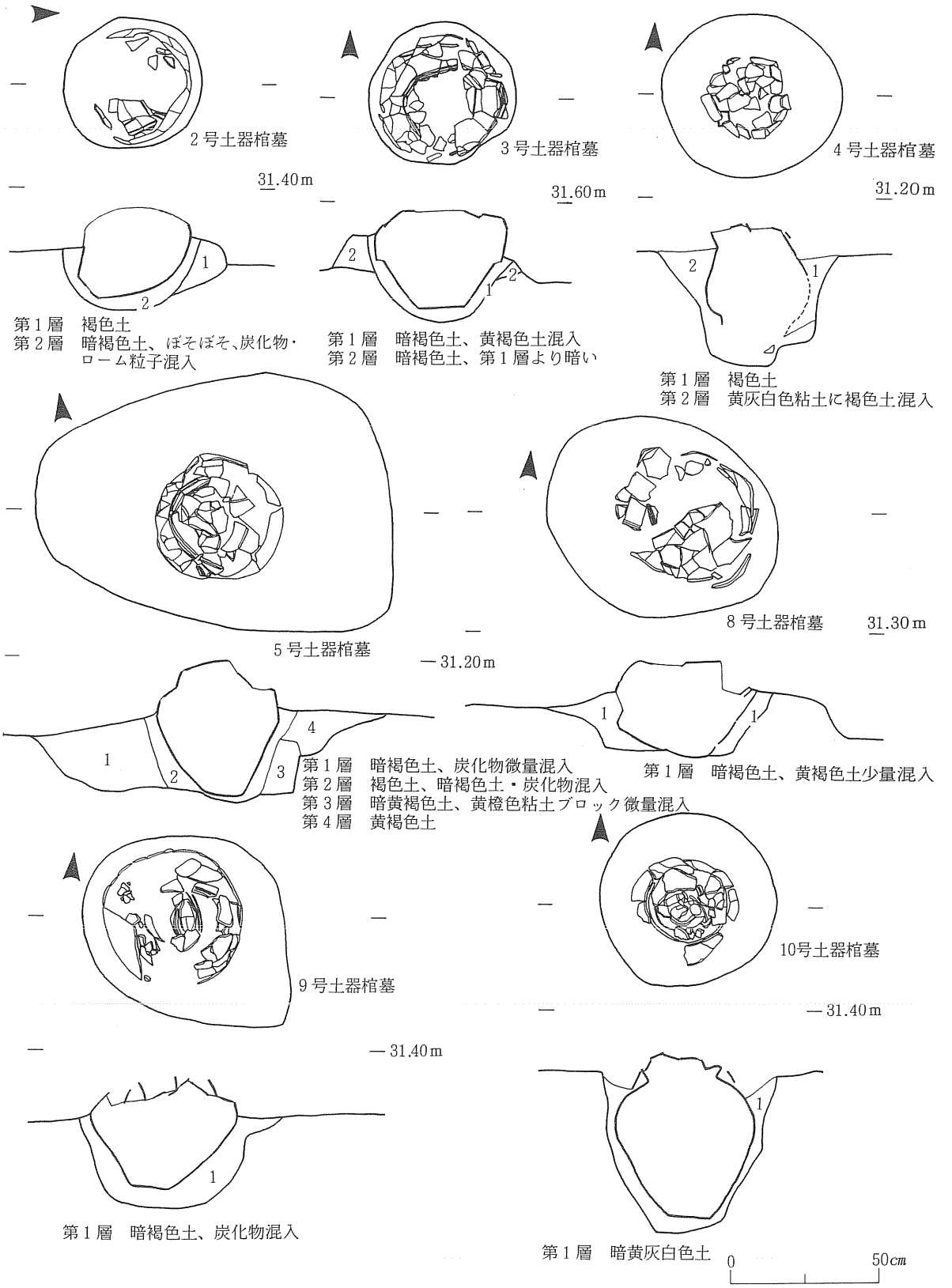
25基検出され、土坑墓の区域及びその周辺で、特に規則性はみられない。土坑墓と重復するものはなく、39・40号は縄文時代中期末の22号住居跡と重復する。土器棺は壺形土器と甕形土器の２種類認められ、２・４・５・８・９・10・21・26・30号には蓋が伴う。口縁部や胴上部が欠損するものもみられ、畑の耕作などにより蓋が削除されたものもあると考えられる。蓋は蓋形土器、鉢形土器甕形土器で、26号は偏平な自然石を用いている。４号は一回り大きな甕形土器を覆い被せている。39号は壺形土器の中に甕形土器が入っていた。底部穿孔のあるものとないものがある。

出土遺物（第72～79図196～230）

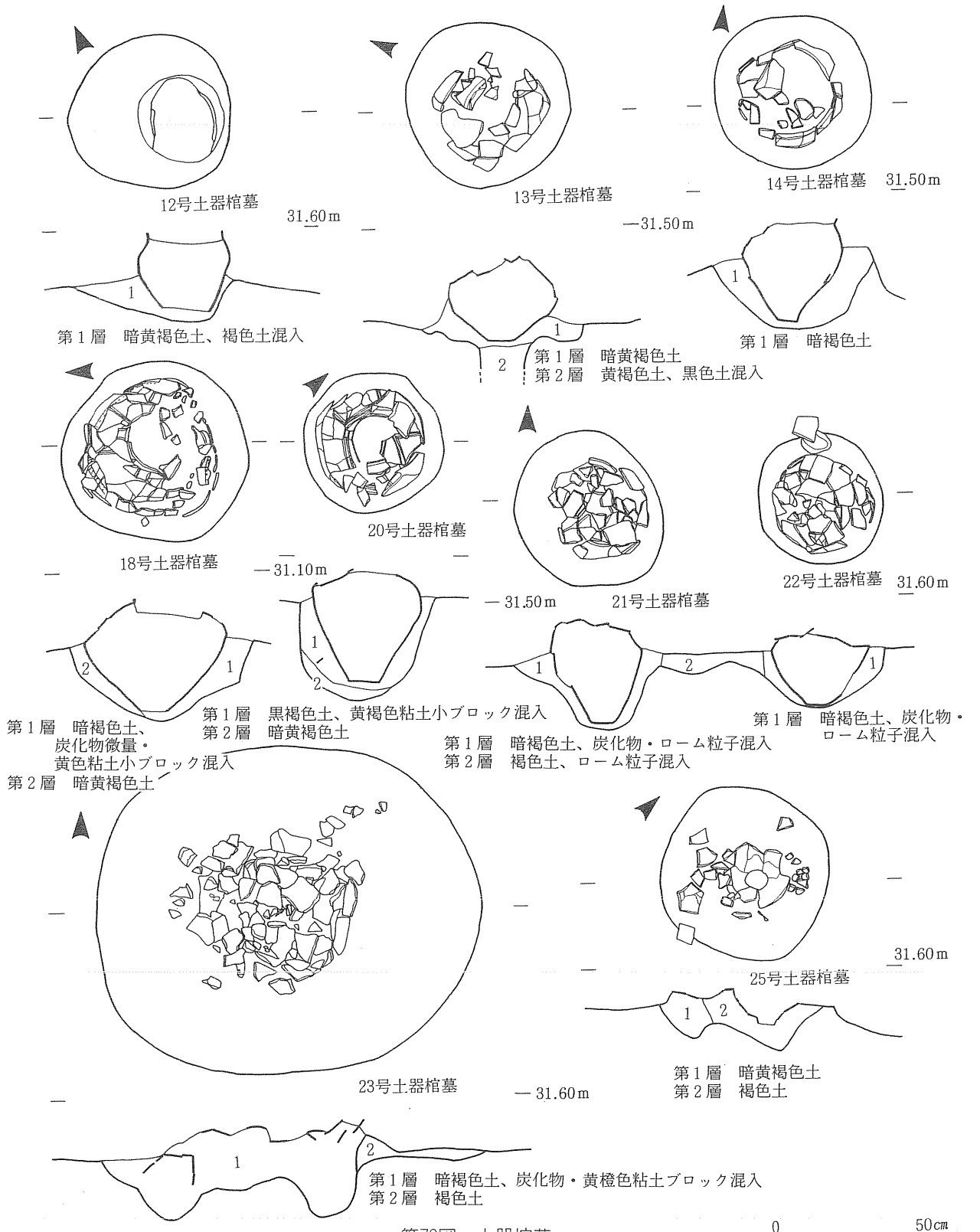
土器棺は壺形土器、甕形土器の２種類があり、壺形土器が多い。

壺形土器は口縁部が外反し、肩部の張る器形である。197・206・220・221は頸部に平行沈線及び

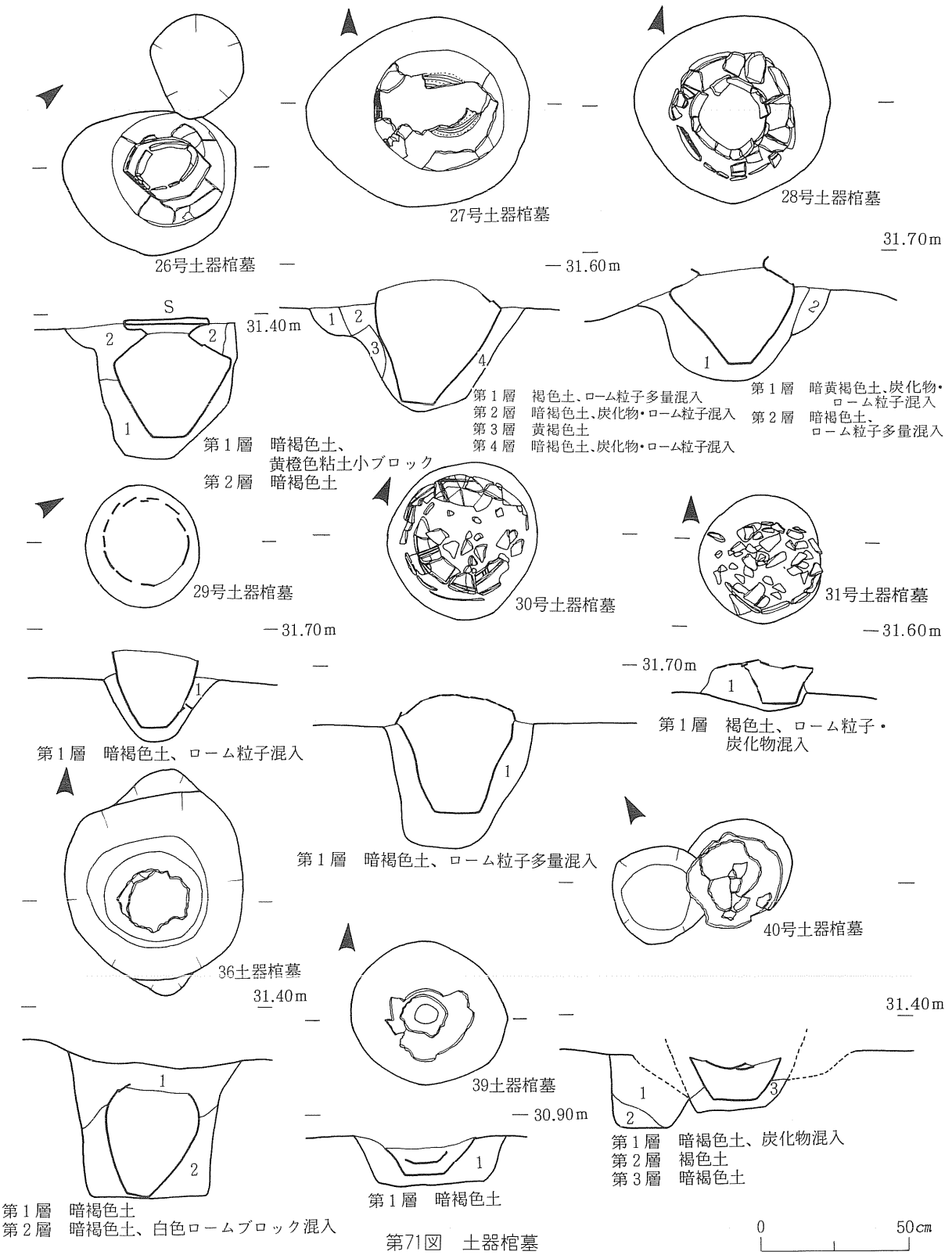
平行沈線間に列点文を施すものである。197・220・221は刷毛目調整後にＬＲ単節斜縄文（縦・斜位回転）を施し、刷毛目調整痕は内面にもみられる。底部穿孔である。206は口径22.2cm、器高46.8cm胴部最大径45.7cmである。比較的肩部の張る器形で、地文はＬＲ単節斜縄文（縦・斜位回転）である。底部穿孔でない。198は口縁部が欠損し、胴部最大径37.8cmである。頸部と肩部に平行沈線を巡らすものである。地文はＬＲ単節斜縄文（縦・斜位回転）で、肩部は磨消しされている。底部穿孔でない。213・222・225・226は頸部と肩部の平行沈線間に縦位の平行沈線が連絡するものである。222は口径24.2cm、器高42.8cm、胴部最大径39.5cmである。6単位構成で、刷毛目調整後にＬＲ単節斜縄文（縦・斜位回転）を施し、肩部にも地文がみられる。刷毛目調整痕は内面にもみられる。底部穿孔である。213は５単位、225は４単位、226は６単位で、地文ＬＲ単節斜縄文（縦・斜位回転）で、肩部は磨消しされている。底部穿孔である。217・229・230は頸部と肩部の平行沈線間に文様を施すものである。217は口径24cm、器高50.6cm、胴部最大径49.2cmである。「Ｘ」字状文と円文を沈線で区画し、周辺を磨消しするもので、８単位である。地文はＬＲ単節斜縄文（縦・斜位回転）である。胴下部に補修孔が認められ、28孔が列をなしている。底部穿孔でない。229は口径20.8cm、推定器高52.6cm、胴部最大径48.2cmである。平行沈線の中に列点文を施し、肩部に鋸歯状文を施す。口縁部内面に3本1組の縦位沈線がみられ４単位である。地文はなく、器面は良く磨かれている。胴下部の割れ口をアスファルトで補修している。底部穿孔でない。230は口縁部を欠損し、胴部最大径43.9cmである。鋸歯状文が2列に施され、その間が磨消しされている。地文はＬＲ単節斜縄文（縦・斜位回転）である。底部穿孔でない。204・208・210・212は地文がなく、胎土が精選され、小石粒がほとんどなく砂粒が多く含まれ、焼成良好で器面に光沢がみられるものである。色調は210を除いて橙黄色で、所々に黒斑がみられる。204は口径25.2cm、器高50cm、胴部最大径44.2cmである。頸部と肩部に３条の平行沈線が巡り、口唇部には刻み目を施し、4単位である。胴部に幅2～3mmで2本1組の網目状の痕跡が観察され、籠目と思われる。底部穿孔でない。208は口径25.5cm、器高48.6cm、胴部最大径48.3cmである。頸部と肩部に平行沈線が巡り、これらに縦位の平行沈線が連絡する。頸部の平行沈線の下方には刺突文が施される。胴下半の割れ口をアスファルトで補修している。底部穿孔である。210は口径20.2cm、器高33.2cm、胴部最大径35cmである。頸部に平行沈線及び列点文が巡り、色調は黒褐色を呈する。底部穿孔でない。212は口径24.3cm、器高47cm、胴部最大径45cmである。肩部に平行沈線を巡らし、平行沈線の間に刺突文を施す。刺突文の中には条がみられ、刷毛目工具によるものと思われる。肩部の平行沈線に縦位の平行沈線が連絡され、６単位である。これらの平行沈線の周囲には刷毛目調整痕が残り他は磨消しされている。底部穿孔でない。202・216・227は無文のものである。202は口径22.7cm、器高45.4cm、胴部最大径38.6cmである。胎土に小石粒が多く混入し、器面に露出している。底部穿孔でない。216・227は簿手で、胎土に砂粒が多く混入する。底部穿孔である。218・221は下半分である。


2号土器棺墓
31.40m
3号土器棺墓
31.60m
4号土器棺墓
31.20m
第1層　褐色土
第2層　暗褐色土、ぼそぼそ、炭化物・ローム粒子混入
第1層　暗褐色土、黄褐色土混入
第2層　暗褐色土、第1層より暗い
第1層　褐色土
第2層　黄灰白色粘土に褐色土混入
5号土器棺墓
31.20m
8号土器棺墓
31.30m
第1層　暗褐色土、炭化物微量混入
第2層　褐色土、暗褐色土・炭化物混入
第3層　暗黄褐色土、黄橙色粘土ブロック微量混入
第4層　黄褐色土
第1層　暗褐色土、黄褐色土少量混入
9号土器棺墓
31.40m
10号土器棺墓
31.40m
第1層　暗褐色土、炭化物混入
第1層　暗黄灰白色土
0
50cm

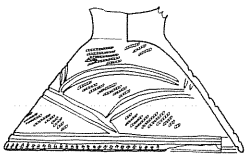
第69図　土器棺墓


12号土器棺墓
31.60m
第1層　暗黄褐色土、褐色土混入
13号土器棺墓
31.50m
第1層　暗黄褐色土
第2層　黄褐色土、黒色土混入
14号土器棺墓　31.50m
第1層　暗褐色土
18号土器棺墓
31.10m
第1層　暗褐色土、
炭化物微量・
黄色粘土小ブロック混入
第2層　暗黄褐色土
20号土器棺墓
第1層　黒褐色土、黄褐色粘土小ブロック混入
第2層　暗黄褐色土
21号土器棺墓
31.50m
第1層　暗褐色土、炭化物・ローム粒子混入
第2層　褐色土、ローム粒子混入
22号土器棺墓　31.60m
第1層　暗褐色土、炭化物・
ローム粒子混入
23号土器棺墓
31.60m
第1層　暗褐色土、炭化物・黄橙色粘土ブロック混入
第2層　褐色土
25号土器棺墓
31.60m
第1層　暗黄褐色土
第2層　褐色土
0
50cm

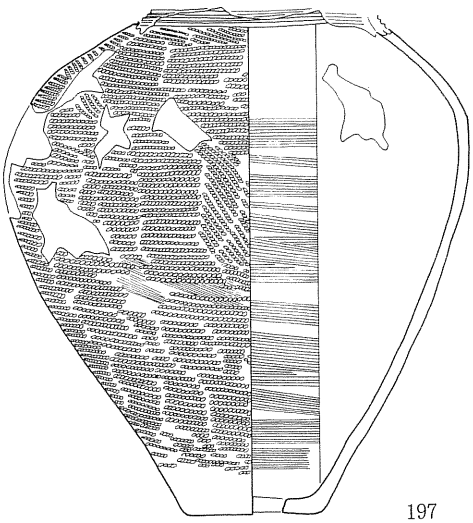
第70図　土器棺墓


26号土器棺墓
27号土器棺墓
28号土器棺墓
31.70m
31.60m
31.40m
S
第1層　暗褐色土、
黄橙色粘土小ブロック
第2層　暗褐色土
第1層　褐色土、ローム粒子多量混入
第2層　暗褐色土、炭化物・ローム粒子混入
第3層　黄褐色土
第4層　暗褐色土、炭化物・ローム粒子混入
第1層　暗黄褐色土、炭化物・ローム粒子混入
第2層　暗褐色土、ローム粒子多量混入
29号土器棺墓
30号土器棺墓
31号土器棺墓
31.70m
31.60m
第1層　暗褐色土、ローム粒子混入
第1層　暗褐色土、ローム粒子多量混入
第1層　褐色土、ローム粒子・炭化物混入
36土器棺墓
40号土器棺墓
31.40m
39土器棺墓
30.90m
第1層　暗褐色土
第2層　暗褐色土、白色ロームブロック混入
第1層　暗褐色土
第1層　暗褐色土、炭化物混入
第2層　褐色土
第3層　暗褐色土
0
50cm

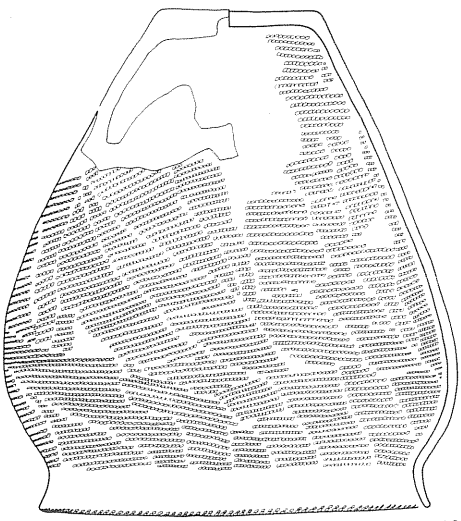
第71図　土器棺墓



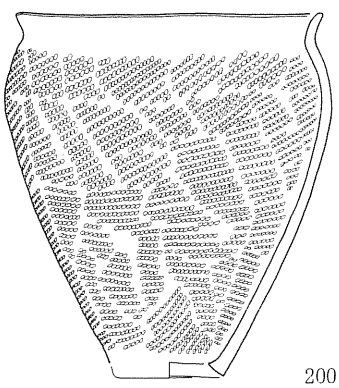
196



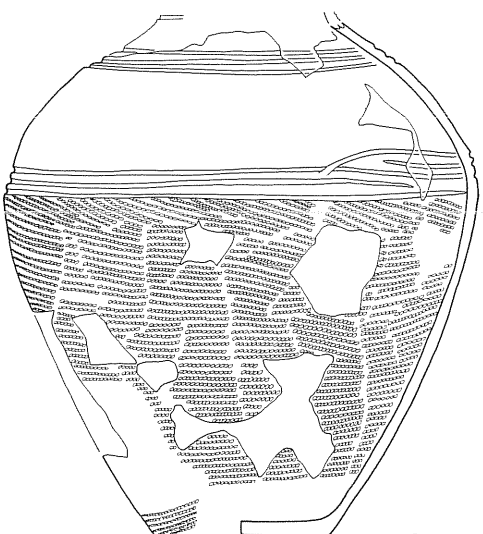
197



199



200

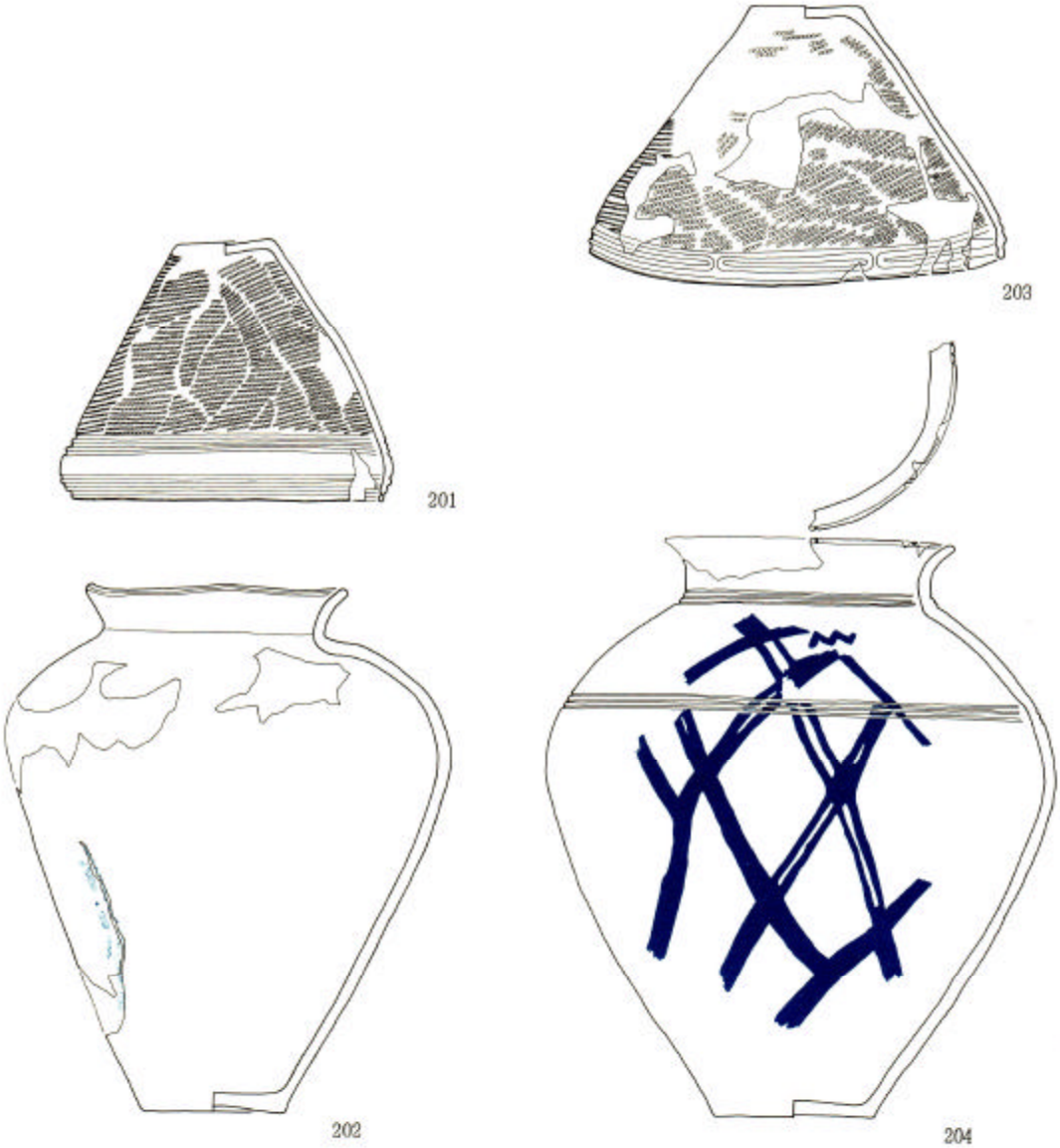


198

196・197　2号土器棺
198　3号土器棺
199・200　4号土器棺

第72図　土器棺

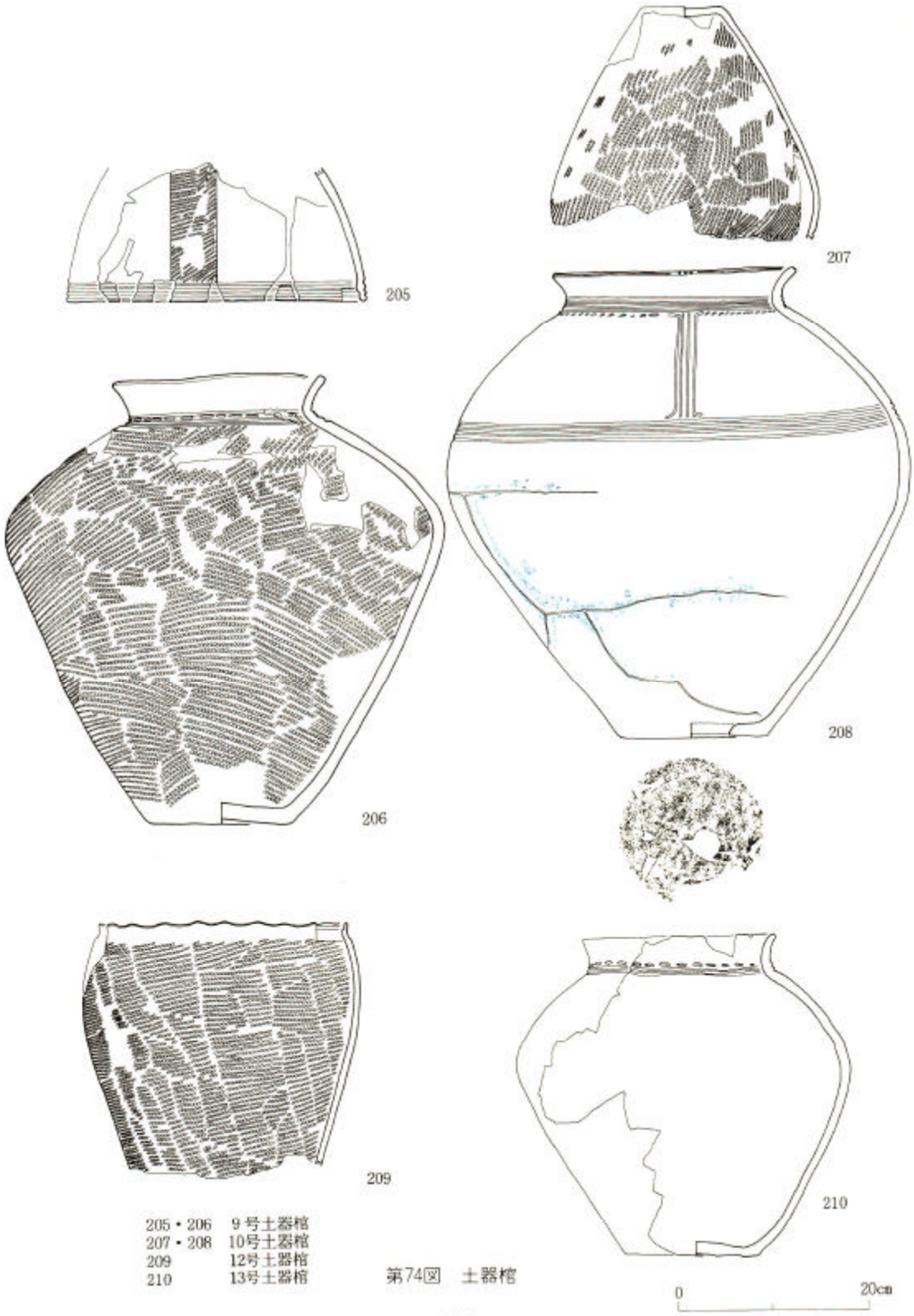
0　20cm



201・202　5号土器棺
203・204　8号土器棺

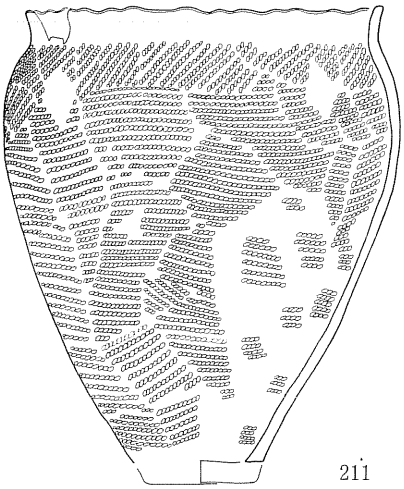
0　20cm

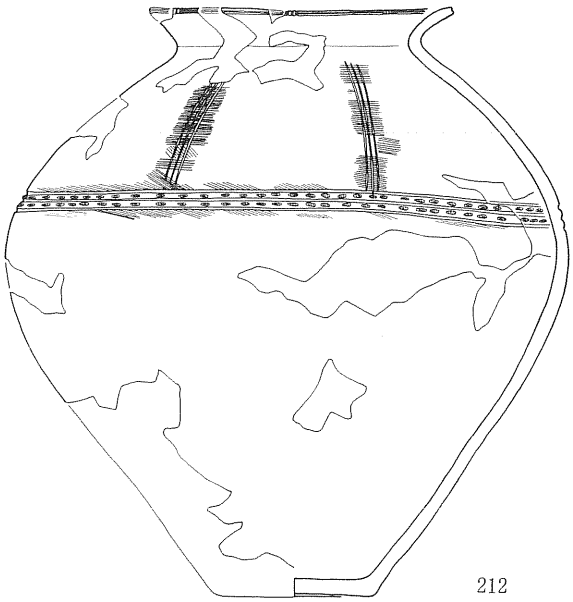
第73図　土器棺

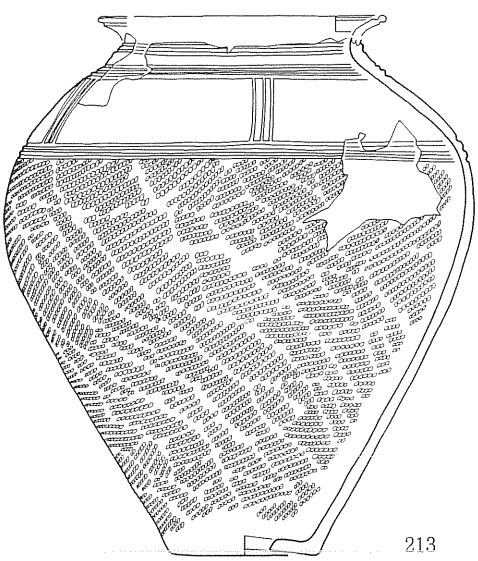


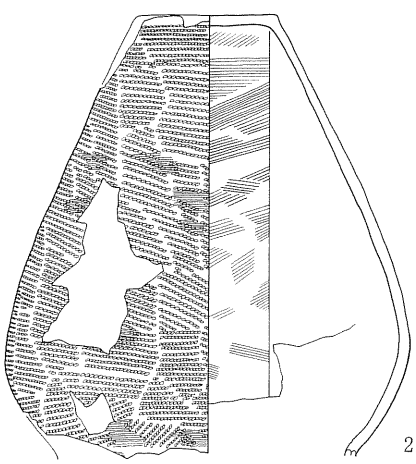
205・206　9号土器棺
207・208　10号土器棺
209　12号土器棺
210　13号土器棺

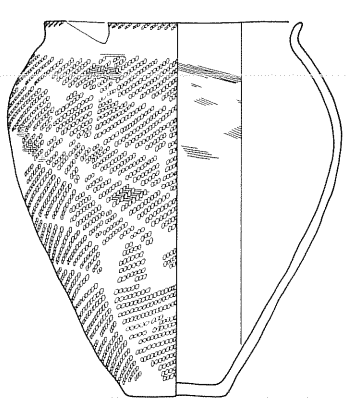
第74図　土器棺







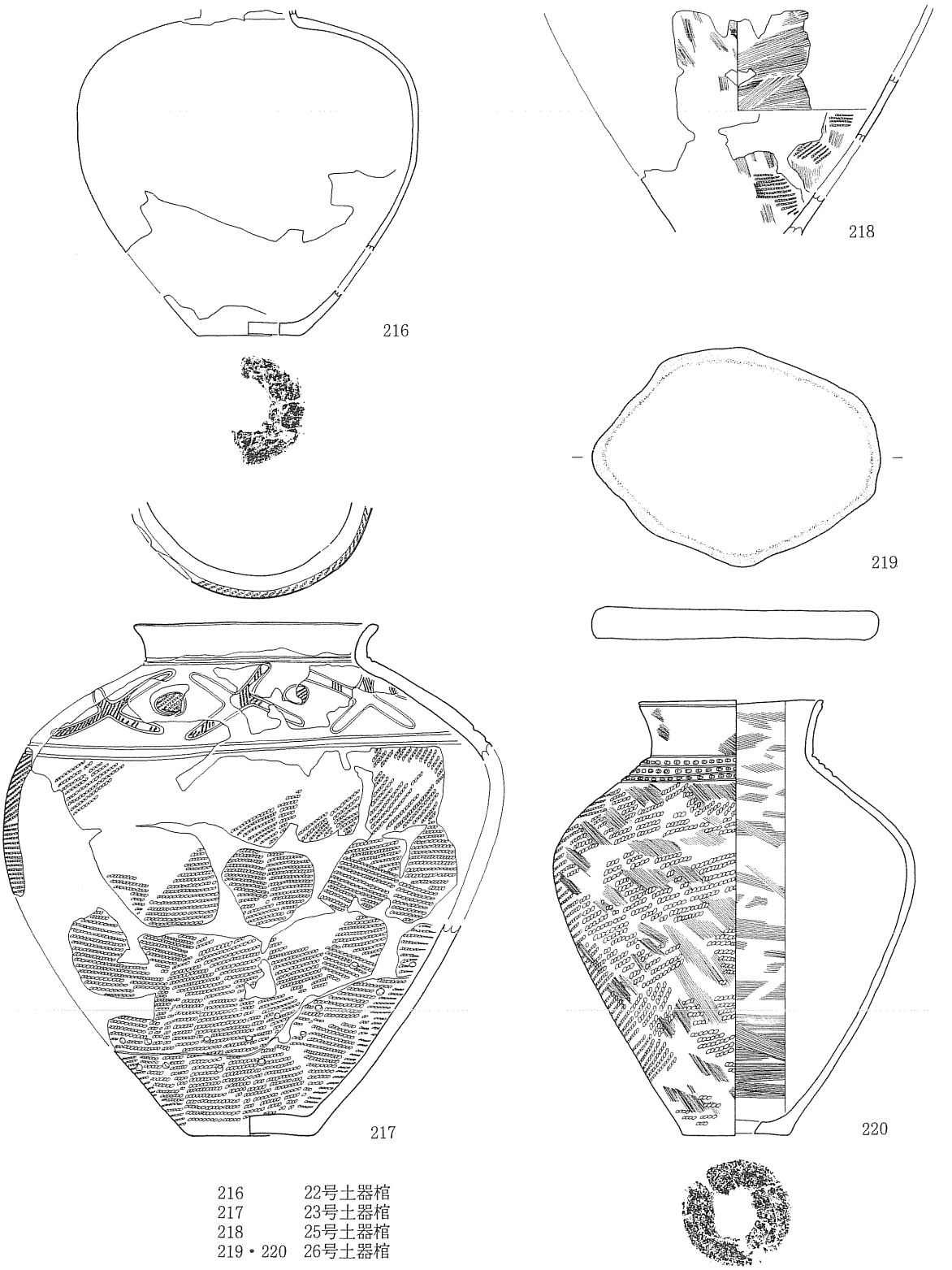




211	14号土器棺
212	18号土器棺
213	20号土器棺
214・215	21号土器棺

第75図　土器棺

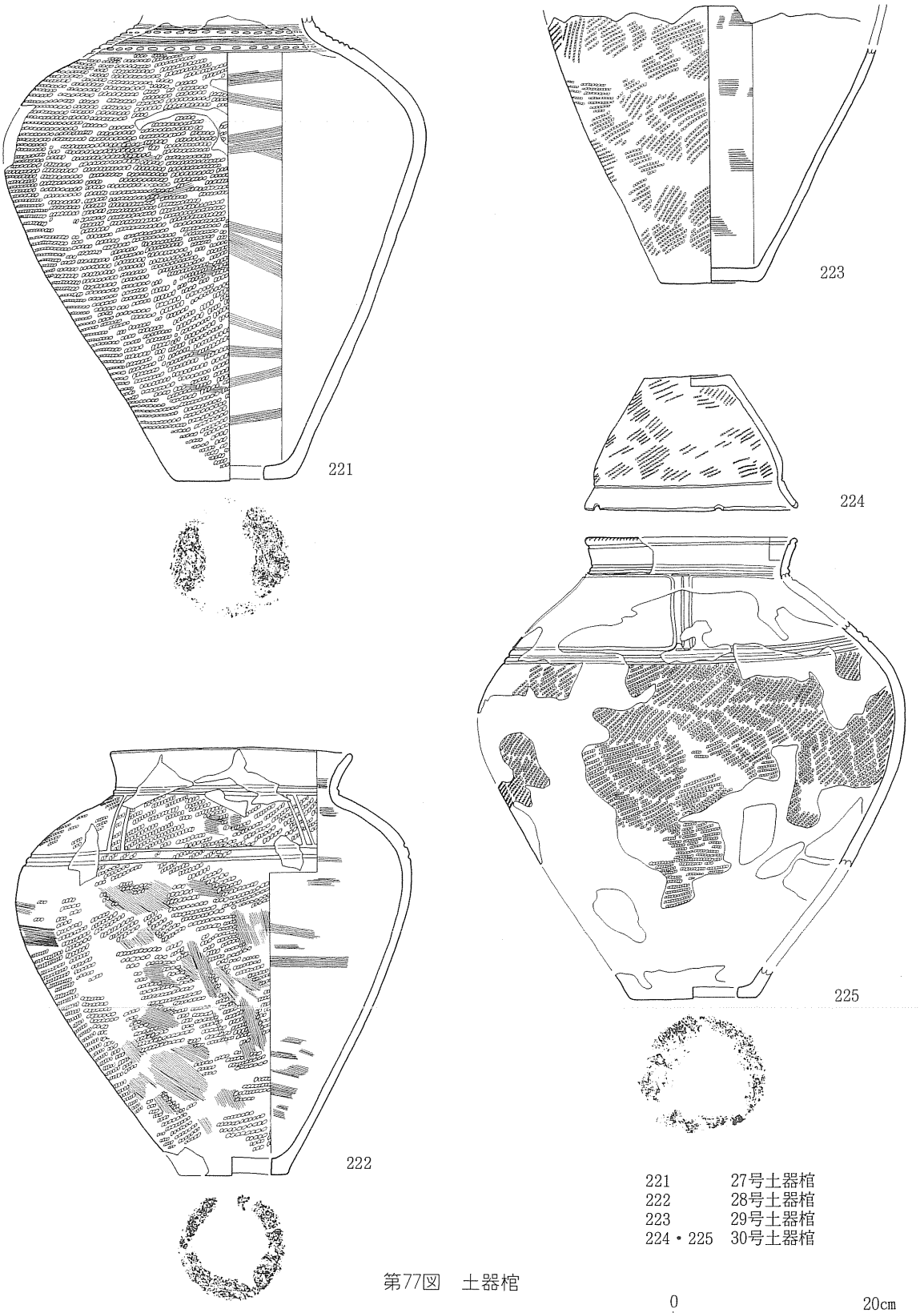
0　20cm



216	22号土器棺
217	23号土器棺
218	25号土器棺
219・220	26号土器棺

第76図　土器棺

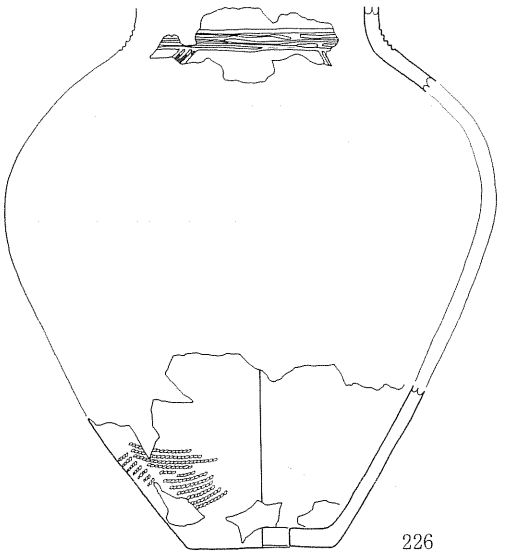
0　20cm



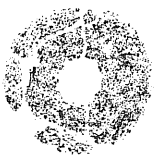
221	27号土器棺
222	28号土器棺
223	29号土器棺
224・225	30号土器棺

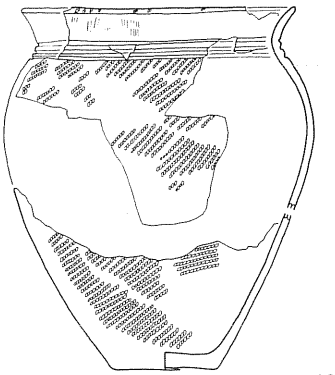
第77図　土器棺

0　20cm

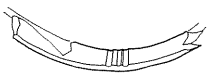


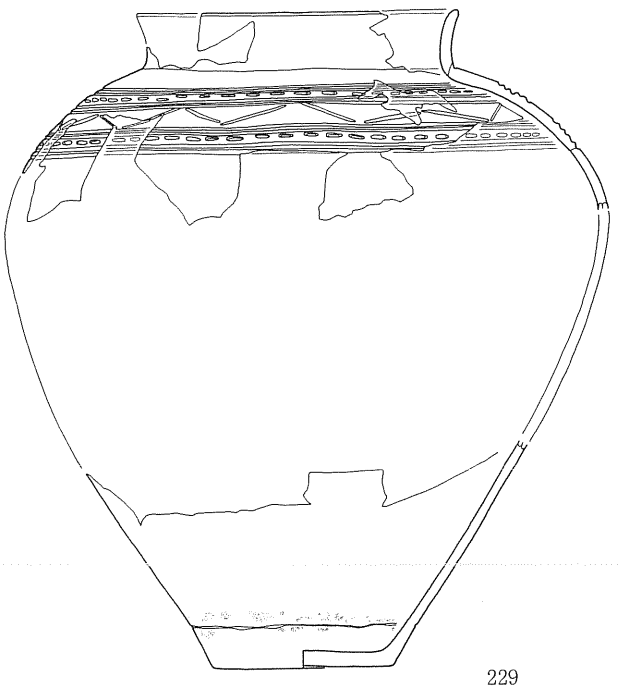
226



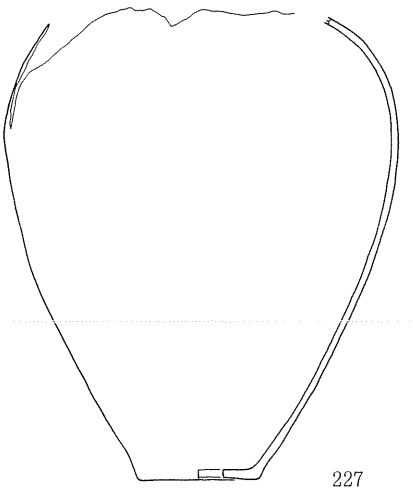


228





229

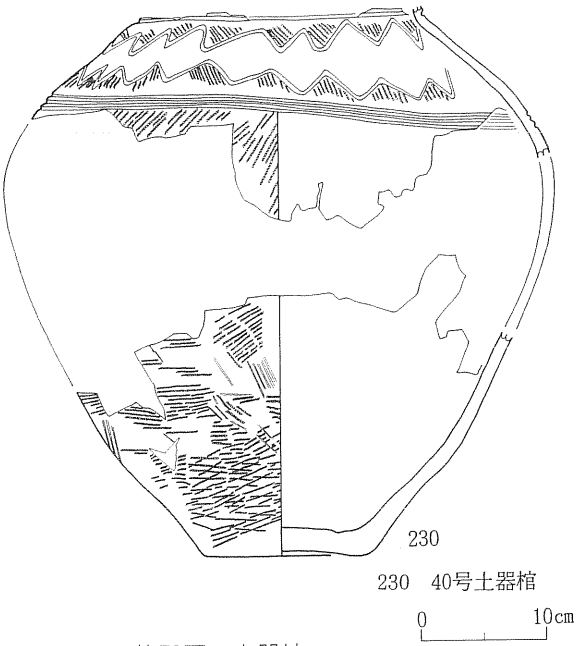


227

226　31号土器棺
227　36号土器棺
228・229　39号土器棺

第78図　土器棺

0　20cm



第79図　土器棺

甕形土器は228を除いては地文のみのものである。口縁部が平縁のものと波状をなすものがある。地文はＬＲ単節斜縄文（縦・斜位回転）である。波状口縁のものは口縁部を磨消しするが、平縁口縁のものは口縁上部又は口唇部に地文を残す。200・211は底部穿孔である。228は刷毛目調整後にＬＲ単節斜縄文（縦位回転）を施し、頸部に３条の平行沈線が巡る。

蓋及び合口は蓋形土器、鉢形土器、偏平な自然石を用いている。鉢形土器は口縁部に平行沈線を施すものが多い。甕形土器は214が刷毛目調整、207が頸部に列点文を施す。199は口縁部が無文帯で口唇部に地文を施している。

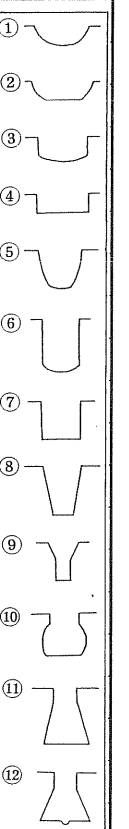
土坑墓（第86～93図）

調査区南側で検出された。柵木跡の東側で、中・外側の柵木跡と重復するものもある。

51基検出され、長軸30m 、短軸20m の楕円形を呈する範囲で、長軸は南東・北西方向である。土坑墓全体の配置は２列に配され、中央には検出されない。形態は小判形、楕円形、長方形、隅丸長方形を呈するもので、小判形をなすものが多い。規模は長軸の長さが最長のものが204㎝、最短のものが95㎝で、100～150㎝の範囲に入るものが多い。長軸方向はＮ108°Ｗ～Ｎ79°Ｅの範囲で、北一東の範囲に入るものが若干多い。重復については明確に切り合い関係を把握できるものはなかった。副葬品は224号より小玉、258号より玉、管玉、勾玉が出土した。227号よりベンガラが検出され、長軸は東西方向で、検出位置は西側である。

土　坑　一　覧　表

番号	規模（cm）			平面形	断面形	土坑墓長軸方向	出土遺物
	長軸	短軸	深さ				
1	130	69	12	楕円形	②		
2	56	46	8	楕円形	②		
3	75	55	17	楕円形	②		
4	102	66	11	楕円形	②		
5	98	70	20	小判形	②		
6	98	70	16	楕円形	②		第104図263、縄文中期末
7	98		15	円形	②		
8	82	71	21	楕円形	②		
9	98	83	8	楕円形	②		
10	105	80	20	楕円形	①		
11	80		40	円形	④		第104図264・265、縄文中期末
12	116	96	10	楕円形	②		
13	48		51	円形	⑨		第110図100（磨石）・101（くぼみ石）
14	60	45	43	楕円形	⑨		第108図81（石錐）
15	68		18	円形	①		
16	74		37	円形	④		第104図266～268、縄文中期末
17	87		21	円形	②		第104図269・270、縄文中期末
18	95	54	15	楕円形	②		
19	69		10	円形	②		
20	96	85	52	楕円形	⑩		第104図271・272、縄文中期末
21	116	100	25	楕円形	②		第104図273、縄文中期末
22	80	65	20	楕円形	②		
23	84	73	7	楕円形	②		
24	83	56	9	不整形	②		
25	98	68	37	楕円形	⑩		第104図274、縄文
26	170	120	22	楕円形	②		
27	90		22	円形	①		
28	95		10	円形	②		第104図275、弥生
29	98		6	円形	②		
30	94		12	円形	②		
31	140	127	30	楕円形	②		
32	80	70	20	楕円形	④		
33	94	72	16	楕円形	②		
34	80		23	円形	①		
35	65		15	円形	②		



番号	規模（cm）			平面形	断面形	土坑墓長軸方向	出土遺物
	長軸	短軸	深さ				
36	122	82	15	小判形	②		
37	113		35	円形	②		
38	153	68	40	小判形	②		
39	73		8	円形	②		
40	120	98	10	楕円形	②		
41	116		13	円形	②		
42	125		8	円形	②		
43	96		13	円形	②		
44	102		23	円形	②		
45	49		25	円形	②		
46	88		21	円形	①		
47	104	100	12	方形	②		第104図276、弥生
48	118	98	23	楕円形	②		第100図231、第104図277、弥生
49	90	72	11	小判形	②		
50	146		29	円形	①		第104図278、縄文中期末
51	147	127	34	楕円形	②		
52	115	77	8	楕円形	①		第104図279、弥生
53	173	65	15	長円形	②		
54	112	88	8	楕円形	②		
55	114	110	25	不整形	①		第104図280、弥生
56	137	128	28	楕円形	②		
57	92	67	17	不整形	②		
58	148		20	円形	②		
59	82	58	13	楕円形	②		
60	70		10	円形	②		第104図281、弥生
61	68		20	円形	①		
62	153	130	30	楕円形	④		
63	104		29	円形	②		
64	191	163	18	楕円形	②		第100図232・233、第104図282、弥生
65	110	74	30	楕円形	①		第104図283、縄文中期末、第110図102（磨石）
66	87	76	28	楕円形	④		
67	80		23	円形	②		第105図284・285、弥生
68	94		8	円形	②		第105図286・287、縄文中期末
69	62		13	円形	②		
70	130	115	12	楕円形	②		

番号	規模（cm）			平面形	断面形	土坑墓長軸方向	出土遺物
	長軸	短軸	深さ				
71	136	123	21	楕円形	②		第100図234
72	96		9	円形	②		
73	93	72	10	楕円形	②		
74	68		26	円形	⑩		
75	146	98	43	小判形	②		
76	128	112	6	楕円形	②		
77	230	153	49	不整形	②		第100図235、第105図288～291、縄文後期初頭
78	135		96	円形	⑧		第105図292、縄文後期初頭、第108図82（石匙）
79	130	110	35	楕円形	①		第105図293～295、縄文後期初頭
80	103	92	32	楕円形	②		
81	97	67	11	楕円形	②		
82	120	102	82	不整形	⑩		第100・101図236～238、第105図296、縄文、第108図83(石匙)
83	112	98	38	楕円形	②		
84	118	98	59	不整形	⑩		第108図84（磨製石斧）、85（ヘラ状石器）
85	142	135	50	楕円形	④		
86	128	98	28	不整形	②		第105図297～300、縄文後期初頭、第108図86（掻器）
87	142	67	8	小判形	②		
88	114	82	7	楕円形	①		
89	156	105	28	楕円形	②		
90	76		105	円形	⑪		
91	79	69	72	楕円形	⑦		
92	108	68	24	楕円形	②		
93	150	126	3	楕円形	②		
94	66	50	7	楕円形	②		
95	152	140	7	楕円形	②		
96	90		6	円形	②		
97	140	115	15	楕円形	②		第108図87（ヘラ状石器）
98	127	90	72	不整形	⑧		第101図239・240、第105図301、縄文後期初頭
99	88	70	27	不整形	②		
100	93	75	18	不整形	②		
101	95	85	43	楕円形	③		
102	45		5	円形	①		
103	218	188	65	不整形	①		第106図302・303、縄文後期初頭
104	112		60	円形	⑩		第101図241、第106図304・305、縄文後期初頭
105	176	128	50	楕円形	②		第106図306～308、縄文後期初頭、第108図88（石匙）

番号	規模（cm）			平面形	断面形	土坑墓長軸方向	出土遺物
	長軸	短軸	深さ				
106	156		79	円形	⑩		
107	133	123	30	楕円形	②		第106図309、縄文後期初頭、第108図89（掻器）
108	70	60	7	楕円形	②		
109	145		20	円形	④		第106図310、縄文後期初頭
110	64		10	円形	②		
111	117	66	27	小判形	②		
112	130		31	円形	②		
113	129		21	円形	②		第106図311、縄文後期初頭、第108図90（磨製石斧）
114	93		29	円形	③		
115	100		8	円形	②		
116	88		40	円形	④		
117	123	111	57	楕円形	⑩		第106図312、縄文後期初頭
118	208	105	7	不整形	②		
119	60		43	円形	⑨		
120	55	45	11	楕円形	②		
121	130	110	20	楕円形	②		
122	80	53	42	楕円形	⑨		
123	98	84	19	楕円形	②		
124	65	55	37	楕円形	②		
125	85		16	円形	①		
126	115	78	30	小判形	②		
127	130	73	20	小判形	②		
128	112	68	22	小判形	②		
129	77		31	円形	③		
130	145	91	28	不整形	②		
131	150	90	30	楕円形	②		
132	120	54	18	小判形	②	N52°E	
133	98	46	12	小判形	②	N54°W	
134	118	46	16	小判形	②	N72°W	
135	120	105	47	不整形	⑩		
136	168	125	85	不整形	⑩		
137	135	79	22	長方形	②	N 6°E	
138	155		113	円形	⑪		第106図313・314、縄文後期初頭
139	128		23	不整形	②	N56°E	第106図315、縄文後期初頭
140	88		15	円形	②		第106図316・317、縄文後期初頭

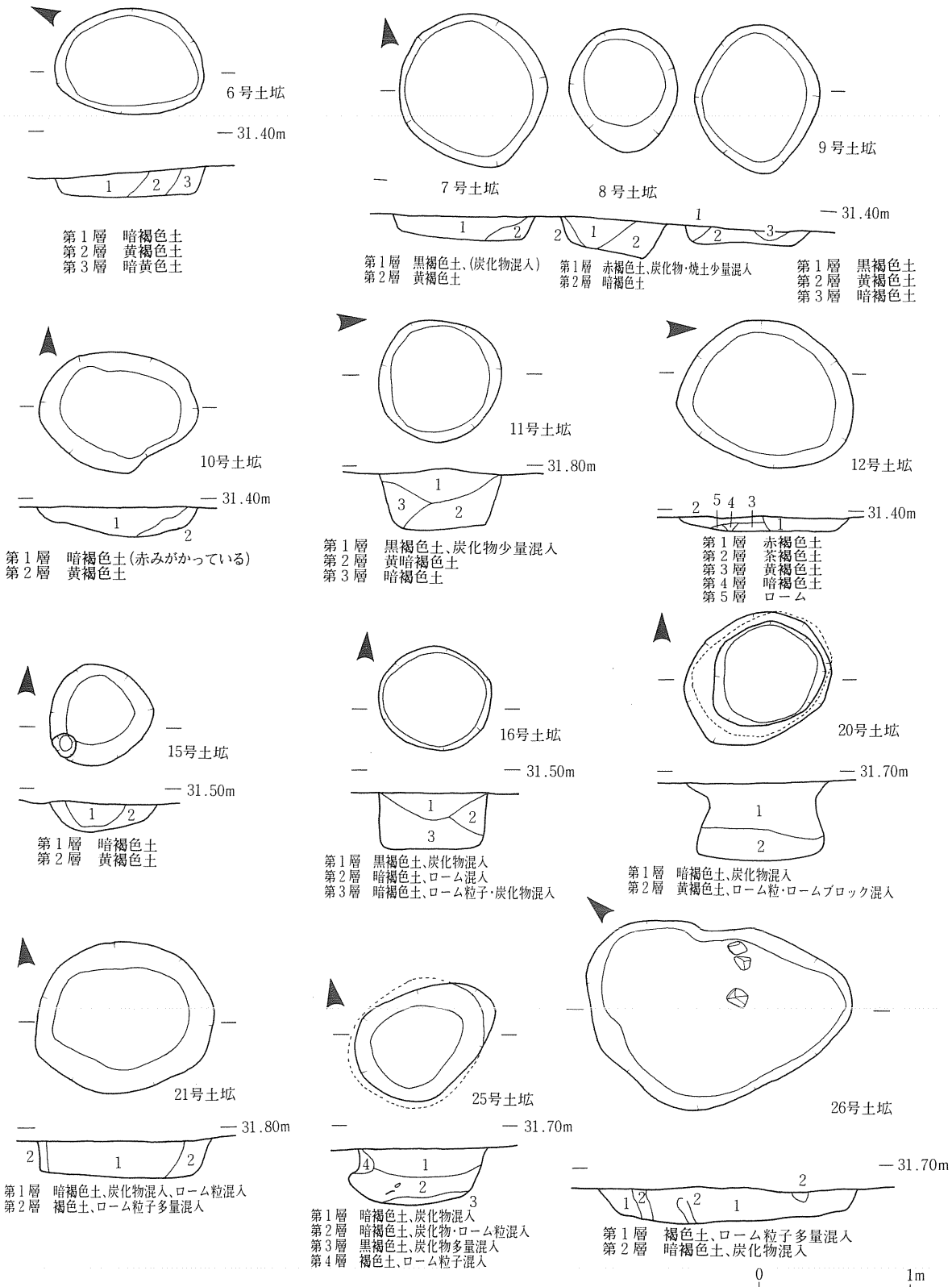
番号	規模（cm）			平面形	断面形	土坑墓長軸方向	出土遺物
	長軸	短軸	深さ				
141	105	80	12	楕円形	②		
142	110	68	12	小判形	②	N17°W	
143	113	80	35	不整形	②		
144	100	80	19	楕円形	②		第110図103（石皿）
145	78	70	14	方形	①		
146	78	60	64	楕円形	⑨		
147	141		36	円形	②		第101図242・243、弥生
148	130	50	12	不整形	②		
149	78	54	14	楕円形	②		
150	100		13	方形	②		
151	90		25	円形	②		
152	118		25	円形	②		第106図318、縄文後期初頭
153	65		8	円形	②		
154	148	89	10	小判形	②		
155	106	91	22	楕円形	②		
156	87	83	12	楕円形	②		
157	144	96	26	楕円形	②		第102図244・245、縄文後期初頭
158	173	128	20	楕円形	②		第108図91（磨製石斧）
159	107	75	25	小判形	②		
160	83		88	円形	⑪		第102図246
161	71		20	円形	②		
162	132		20	円形	②		
163	144	128	88	楕円形	⑪		第102図247・248、縄文後期初頭
164	143	104	37	楕円形	②		第106図319、弥生
165	110	55	8	長方形	②		
166	60		17	円形	②		
167	108	85	35	隅丸方形	②		
168	104	74	9	楕円形	②		
169	84	68	18	楕円形	②		
170	142	96	22	楕円形	②		第108図92・93（石鏃）・94（石匙）
171	125	96	36	不整形	②		
172	63		10	円形	②		第106図320、弥生
173	81		48	円形	⑤		
174	109	66	10	小判形	②	N19°E	
175	139	79	12	小判形	②	N52°E	

番号	規模（cm）			平面形	断面形	土坑墓長軸方向	出土遺物
	長軸	短軸	深さ				
176	109	67	48	不整形	②		
177	150	118	33	楕円形	②	N35°E	第106図321、弥生
178	138	107	34	楕円形	②	N15°E	第106図322、弥生
179	134	70	26	小判形	②	N 8°E	
180	122		22	円形	②		
181	180	98	33	小判形	②	N47°E	第106図323、弥生
182	114	123	17	小判形	②	N35°E	第106図324、弥生
183	98	58	12	小判形	②	N 4°E	
184	128	63	25	小判形	②	N64°E	
185	145	81	25	楕円形	②	N18°E	
186	154	81	17	小判形	②	N35°E	
187	145	84	15	楕円形	②	N18°E	
188	160	77	12	不整形	②		
189	132	74	5	不整形	②		
190	85	58	9	小判形	①		
191	84	41	10	楕円形	②		
192	145	76	16	小判形	②	N36°E	
193	145	111	27	小判形	②	N41°E	
194	120	65	28	小判形	②	N52°E	
195	135	74	20	小判形	②	N13°E	
196	98	86	10	隅丸方形	②		
197	128	105	21	不整形	②		
198	148	68	9	小判形	②	N33°E	
199	111	65	14	小判形	②	N 5°W	
200	108	100	16	楕円形	②		
201	119	83	19	小判形	②	N51°E	第106図325、弥生
202	138	66	12	小判形	②	N 4°W	
203	109	84	8	楕円形	②		
204	204	105	8	不整形	②	N53°E	
205	96	75	8	楕円形	②		
206	116	78	21	小判形	②	N34°E	
207	102	70	104	隅丸長方形	②	N52°E	
208	100	70	26	小判形	②	N35°E	
209	128	50	7	隅丸長方形	②		
210	117	68	11	隅丸長方形	②		

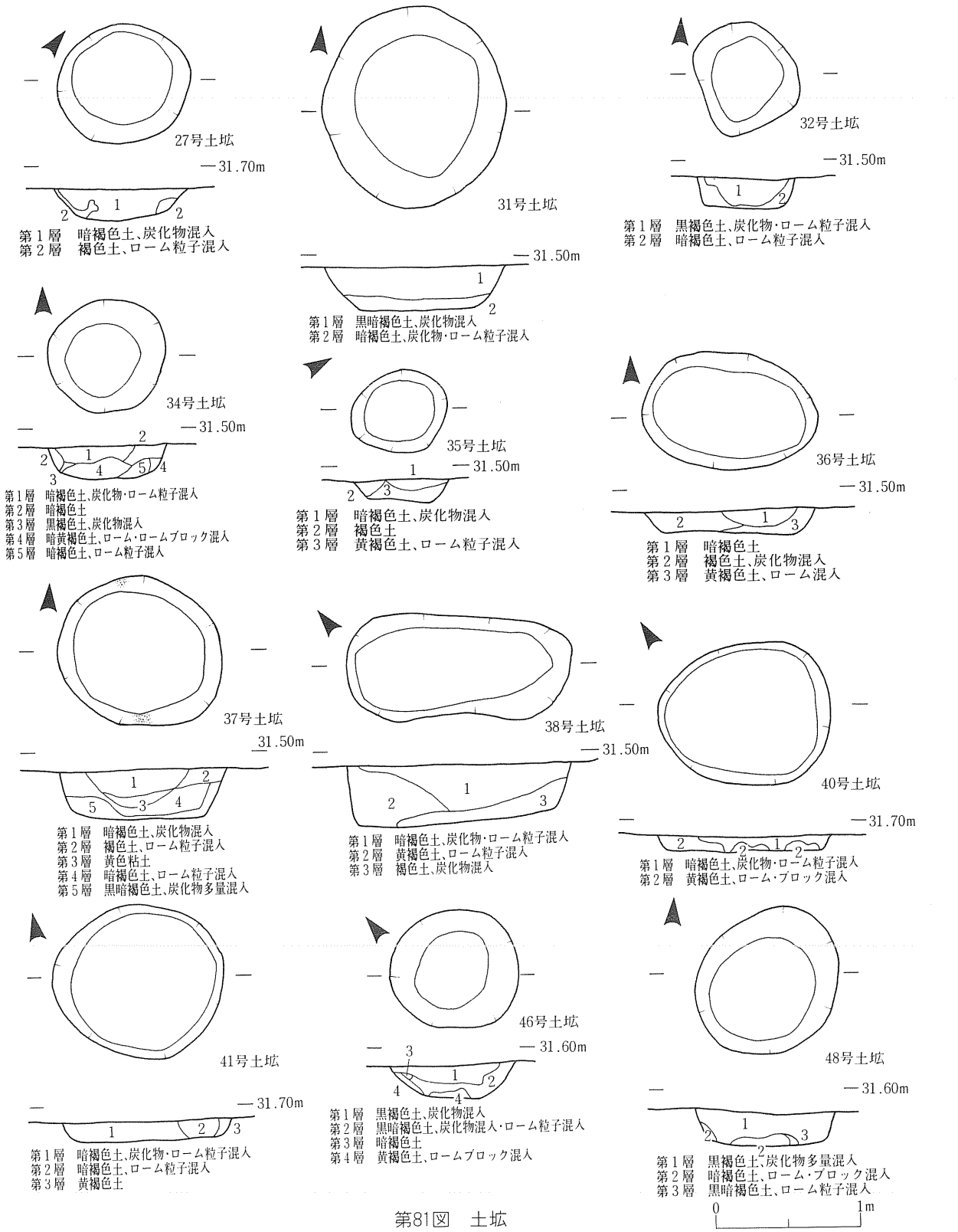
番号	規模（cm）			平面形	断面形	土坑墓長軸方向	出土遺物
	長軸	短軸	深さ				
211	125	70	10	小判形	②	N33°W	
212	121	73	13	楕円形	②		
213	96		22	円形	②		第106図326、弥生
214	154	89	14	小判形	②	N39°E	
215	120	83	13	小判形	②	N55°E	
216	125	100	25	小判形	②	N 4°W	
217	153	102	13	小判形	②	N65°E	第106図327、弥生
218	173	113	15	小判形	②	N20°E	
219	153	101	20	小判形	②	N29°E	
220	116	72	36	隅丸長方形	②	N51°E	
221	112	70	12	小判形	②	N59°W	
222	91	78	10	楕円形	②		
223	95	52	22	小判形	②	N17°E	
224	125	46	14	小判形	②	N25°E	第207図1（小玉）
225	150	76	18	楕円形	②	N25°E	
226	122	50	13	小判形	②	N41°E	
227	114	56	12	隅丸長方形	②	N108°W	
228	101	64	7	小判形	②	N29°E	
229	140	112	37	楕円形	②		
230	204	108	35	楕円形	②		
231	207	81	18	小判形	②	N14°W	
232	80	78	9	不整形	②		第102図249、弥生
233	139	112	18	不整形	②	N38°W	
234	138	106	10	不整形	②	N22°W	
235	124	95	23	楕円形	②		
236	85		43	円形	⑩		
237	83	77	8	楕円形	②		
238	102	63	23	小判形	②	N22°W	
239	148	111	16	不整形	②	N45°W	第107図328、弥生
240	110	62	8	楕円形	②		
241	140	110	10	楕円形	②		
242	216	163	22	楕円形	②		
243	108	91	26	楕円形	②		
244	75		52	円形	⑨		
245	45		36	円形	⑨		

番号	規模（cm）			平面形	断面形	土壙墓長軸方向	出土遺物
	長軸	短軸	深さ				
246	113	102		楕円形	⑩		
247	67	55		楕円形	⑨		
248	43			円形	⑨		
249	83			円形	②		
250	100	90		楕円形	①		
251	86	70	12	楕円形	①		
252	80	64	8	楕円形	②		
253	95		18	円形	②		
254	112		28	円形	②		
255	92	78	15	楕円形	②		第107図329、弥生、第110図104（くぼみ石）
256	124	95	27	楕円形	④		
257	96		16	円形	①		
258	150	79	39	不整形	②	N16°E	第107図330、弥生、第109図95（石槌）、第207図2（玉）・3（管玉）・4（勾玉）
259	90	84	11	楕円形	②		
260	120		25	円形	②		
261	147	128	24	楕円形	②		
262	133	118	22	楕円形	②		第102図250・251、弥生
263	88		16	円形	②		第107図331、弥生
264	102		34	円形	③		
265	150		31	円形	②		第107図332～334、縄文後期初頭、第109図96(掻器)
266	76		78	円形	⑥		
267	156	128	21	楕円形	①		
268	98	60	63	楕円形	⑥		
269	75	76	74	楕円形	⑥		
270	233	180	31	不整形	⑨		第109図97（石鏃）
271	95		20	円形	②		
272	132	61	46	小判形	④		第103図252・253、弥生
273	135	109	48	楕円形	⑩		
274	164	160	49	楕円形	③		第109図98（ヘラ状石器）
275	265	110	11	不整形	②		
276	110	96	46	円形	③		
277	125	115	63	楕円形	⑬		
278	156	135	67	楕円形	⑤		
279	226		118	円形	⑧		第109図99（磨製石斧）
280	117	88	31	楕円形	⑤		

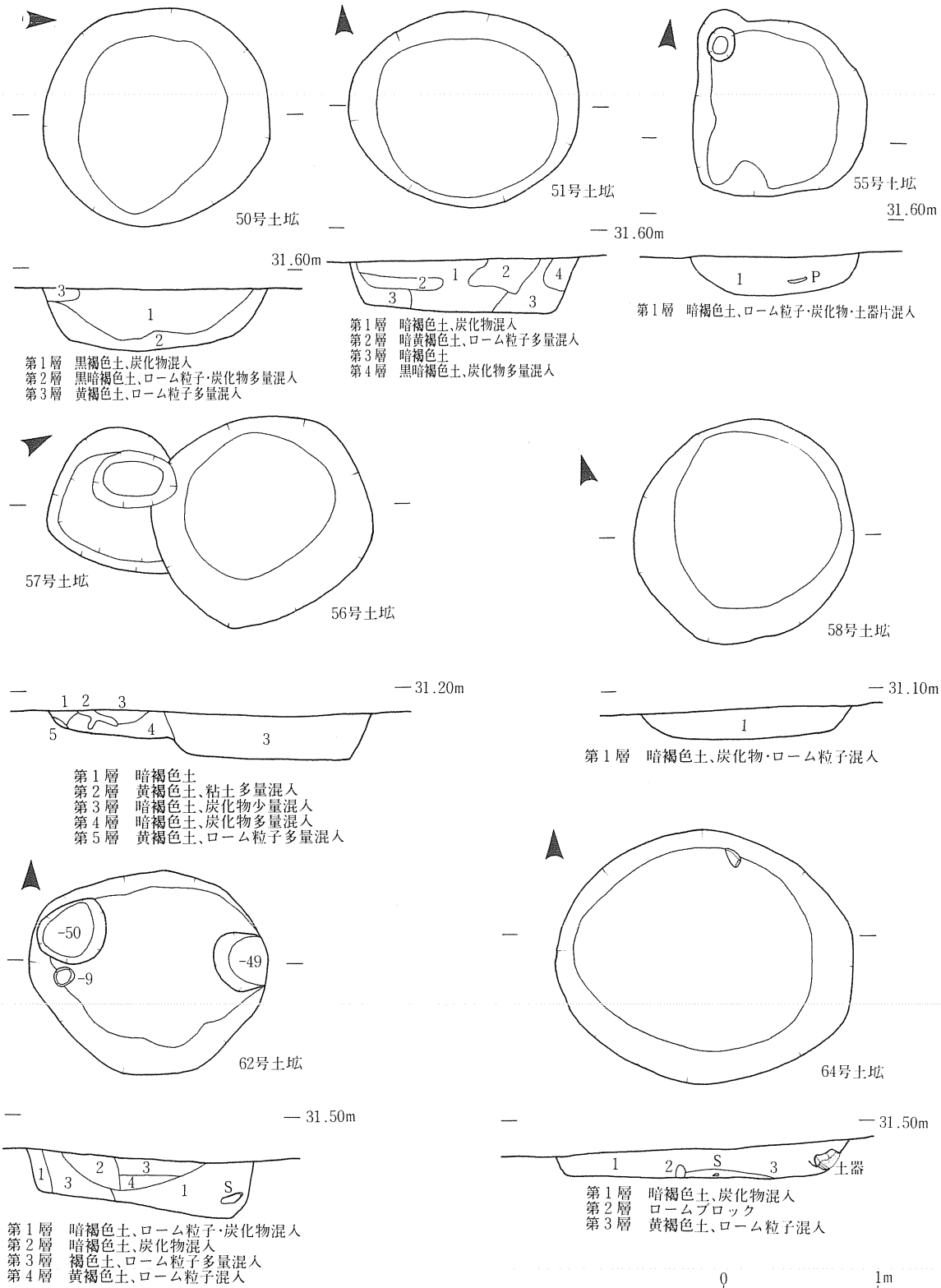
番号	規模（cm）			平面形	断面形	土坑墓長軸方向	出土遺物
	長軸	短軸	深さ				
281	122		72	円形	⑤		第107図335・336、縄文後期初頭
282	134	104	48	楕円形	②		
283	58		40	円形	②		
284	168	148	65	楕円形	⑩		
285	174	148	30	不整形	②		
286	59	46	33	楕円形	②		
287	70		33	円形	②		
288	175		84	円形	⑤		
289	64	48	31	楕円形	②		
290	182		87	円形	⑤		
291	54	38	14	楕円形	②		
292	213		129	円形	⑩		
293	123		55	円形	④		
294	148		64	円形	②		
295	155	133	117	楕円形	⑤		
296	178	144	104	楕円形	⑤		第107図337・338、縄文中期末
297	250		107	円形	⑤		第103図254、第107図339、縄文後期初頭
298	160		90	円形	⑤		
299	不明	不明	85	不明	⑤		
300	88		30	円形	②		第107図340、縄文中期末
301	185	138	48	楕円形	①		
302	220	175	30	楕円形	②		
303	118	90	67	楕円形	②		
304	144	134	20	楕円形	②		
305	139	88	20	不整形	②		
306	155	140	81	楕円形	⑩		第103図255、第107図341・342、縄文中期末、第110図105（くぼみ石）
307	128	124	34	楕円形	①		
308	218	196	60	楕円形	②		
309	143	100	52	楕円形	②		
310	165	52	17	不整形	②		
311	100	83	11	楕円形	②		


6号土坑
31.40m
第1層　暗褐色土
第2層　黄褐色土
第3層　暗黄色土
7号土坑
8号土坑
9号土坑
31.40m
第1層　黒褐色土、(炭化物混入)
第2層　黄褐色土
第1層　赤褐色土、炭化物・焼土少量混入
第2層　暗褐色土
第1層　黒褐色土
第2層　黄褐色土
第3層　暗褐色土
10号土坑
31.40m
第1層　暗褐色土(赤みがかっている)
第2層　黄褐色土
11号土坑
31.80m
第1層　黒褐色土、炭化物少量混入
第2層　黄暗褐色土
第3層　暗褐色土
12号土坑
31.40m
第1層　赤褐色土
第2層　茶褐色土
第3層　黄褐色土
第4層　暗褐色土
第5層　ローム
15号土坑
31.50m
第1層　暗褐色土
第2層　黄褐色土
16号土坑
31.50m
第1層　黒褐色土、炭化物混入
第2層　暗褐色土、ローム混入
第3層　暗褐色土、ローム粒子・炭化物混入
20号土坑
31.70m
第1層　暗褐色土、炭化物混入
第2層　黄褐色土、ローム粒・ロームブロック混入
21号土坑
31.80m
第1層　暗褐色土、炭化物混入、ローム粒混入
第2層　褐色土、ローム粒子多量混入
25号土坑
31.70m
第1層　暗褐色土、炭化物混入
第2層　暗褐色土、炭化物・ローム粒混入
第3層　黒褐色土、炭化物多量混入
第4層　褐色土、ローム粒子混入
26号土坑
31.70m
第1層　褐色土、ローム粒子多量混入
第2層　暗褐色土、炭化物混入
0
1m

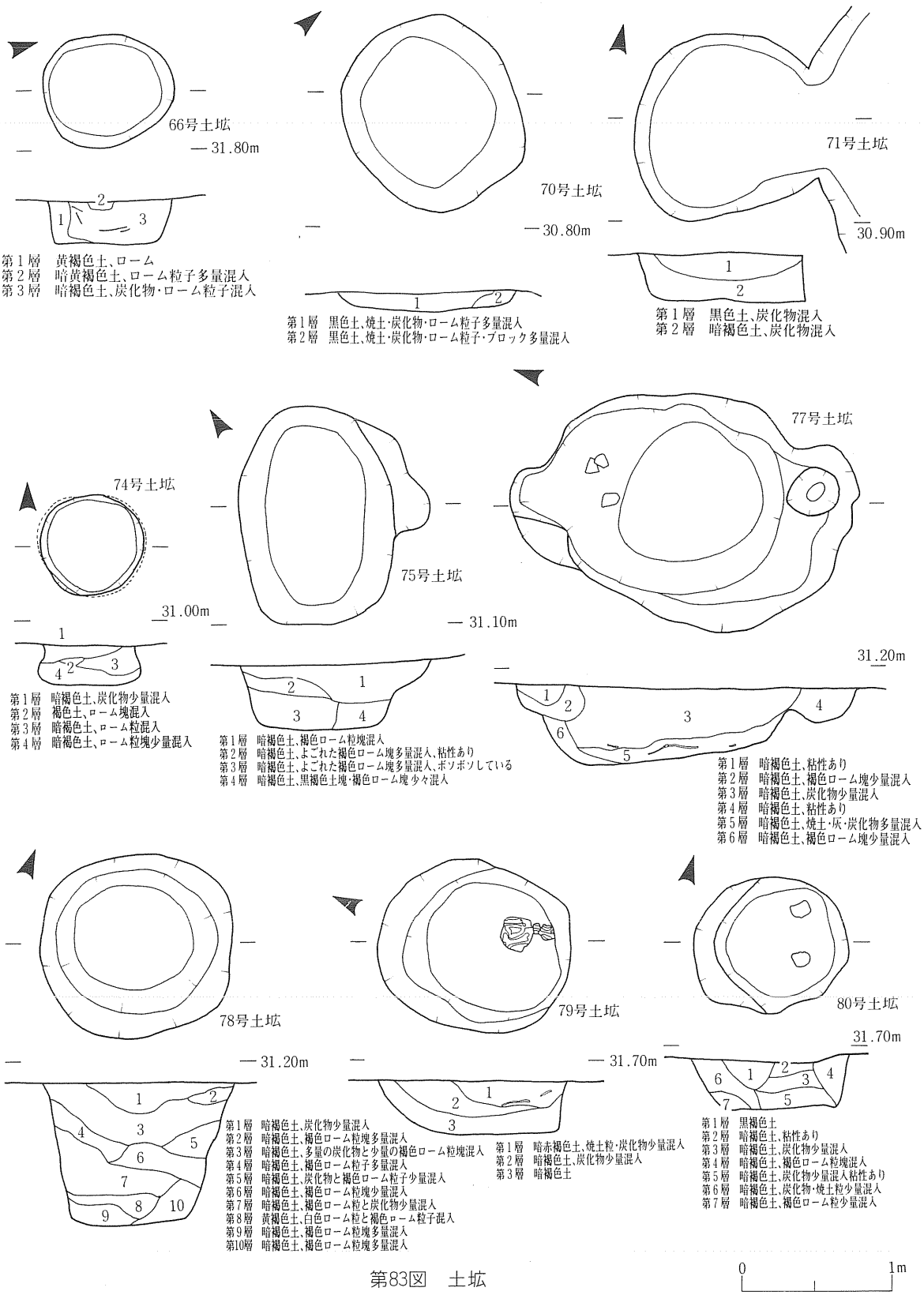
第80図　土坑


27号土坑
31.70m
第1層　暗褐色土、炭化物混入
第2層　褐色土、ローム粒子混入
31号土坑
31.50m
第1層　黒暗褐色土、炭化物混入
第2層　暗褐色土、炭化物・ローム粒子混入
32号土坑
31.50m
第1層　黒褐色土、炭化物・ローム粒子混入
第2層　暗褐色土、ローム粒子混入
34号土坑
31.50m
第1層　暗褐色土、炭化物・ローム粒子混入
第2層　暗褐色土
第3層　黒褐色土、炭化物混入
第4層　暗黄褐色土、ローム・ロームブロック混入
第5層　暗褐色土、ローム粒子混入
35号土坑
31.50m
第1層　暗褐色土、炭化物混入
第2層　褐色土
第3層　黄褐色土、ローム粒子混入
36号土坑
31.50m
第1層　暗褐色土
第2層　褐色土、炭化物混入
第3層　黄褐色土、ローム混入
37号土坑
31.50m
第1層　暗褐色土、炭化物混入
第2層　褐色土、ローム粒子混入
第3層　黄色粘土
第4層　暗褐色土、ローム粒子混入
第5層　黒暗褐色土、炭化物多量混入
38号土坑
31.50m
第1層　暗褐色土、炭化物・ローム粒子混入
第2層　黄褐色土、ローム粒子混入
第3層　褐色土、炭化物混入
40号土坑
31.70m
第1層　暗褐色土、炭化物・ローム粒子混入
第2層　黄褐色土、ローム・ブロック混入
41号土坑
31.70m
第1層　暗褐色土、炭化物・ローム粒子混入
第2層　暗褐色土、ローム粒子混入
第3層　黄褐色土
46号土坑
31.60m
第1層　黒褐色土、炭化物混入
第2層　黒暗褐色土、炭化物混入・ローム粒子混入
第3層　暗褐色土
第4層　黄褐色土、ロームブロック混入
48号土坑
31.60m
第1層　黒褐色土、炭化物多量混入
第2層　暗褐色土、ローム・ブロック混入
第3層　黒暗褐色土、ローム粒子混入
0
1m

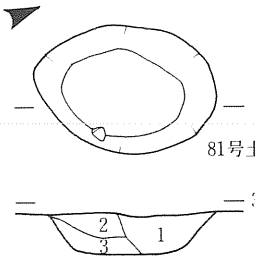
第81図　土坑


50号土坑
51号土坑
55号土坑
31.60m
31.60m
31.60m
第1層　黒褐色土、炭化物混入
第2層　黒暗褐色土、ローム粒子・炭化物多量混入
第3層　黄褐色土、ローム粒子多量混入
第1層　暗褐色土、炭化物混入
第2層　暗黄褐色土、ローム粒子多量混入
第3層　暗褐色土
第4層　黒暗褐色土、炭化物多量混入
第1層　暗褐色土、ローム粒子・炭化物・土器片混入
57号土坑
56号土坑
58号土坑
31.20m
31.10m
第1層　暗褐色土
第2層　黄褐色土、粘土多量混入
第3層　暗褐色土、炭化物少量混入
第4層　暗褐色土、炭化物多量混入
第5層　黄褐色土、ローム粒子多量混入
第1層　暗褐色土、炭化物・ローム粒子混入
-50
-49
-9
62号土坑
64号土坑
31.50m
31.50m
第1層　暗褐色土、ローム粒子・炭化物混入
第2層　暗褐色土、炭化物混入
第3層　褐色土、ローム粒子多量混入
第4層　黄褐色土、ローム粒子混入
第1層　暗褐色土、炭化物混入
第2層　ロームブロック
第3層　黄褐色土、ローム粒子混入
土器
0
1m

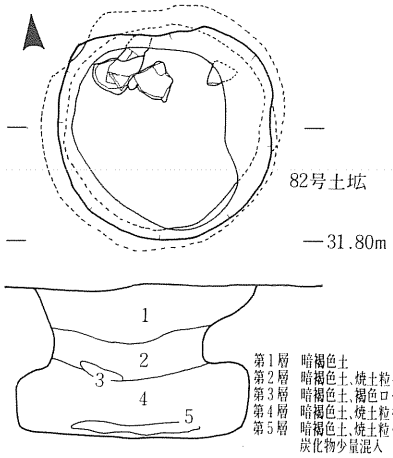
第82図　土坑


66号土坑
31.80m
第1層　黄褐色土、ローム
第2層　暗黄褐色土、ローム粒子多量混入
第3層　暗褐色土、炭化物・ローム粒子混入
70号土坑
30.80m
第1層　黒色土、焼土・炭化物・ローム粒子多量混入
第2層　黒色土、焼土・炭化物・ローム粒子・ブロック多量混入
71号土坑
30.90m
第1層　黒色土、炭化物混入
第2層　暗褐色土、炭化物混入
74号土坑
31.00m
第1層　暗褐色土、炭化物少量混入
第2層　褐色土、ローム塊混入
第3層　暗褐色土、ローム粒混入
第4層　暗褐色土、ローム粒塊少量混入
75号土坑
31.10m
第1層　暗褐色土、褐色ローム粒塊混入
第2層　暗褐色土、よごれた褐色ローム塊多量混入、粘性あり
第3層　暗褐色土、よごれた褐色ローム塊多量混入、ボソボソしている
第4層　暗褐色土、黒褐色土塊・褐色ローム塊少々混入
77号土坑
31.20m
第1層　暗褐色土、粘性あり
第2層　暗褐色土、褐色ローム塊少量混入
第3層　暗褐色土、炭化物少量混入
第4層　暗褐色土、粘性あり
第5層　暗褐色土、焼土・灰・炭化物多量混入
第6層　暗褐色土、褐色ローム塊少量混入
78号土坑
31.20m
第1層　暗褐色土、炭化物少量混入
第2層　暗褐色土、褐色ローム粒塊多量混入
第3層　暗褐色土、多量の炭化物と少量の褐色ローム粒塊混入
第4層　暗褐色土、褐色ローム粒子多量混入
第5層　暗褐色土、炭化物と褐色ローム粒子少量混入
第6層　暗褐色土、褐色ローム粒塊少量混入
第7層　暗褐色土、褐色ローム粒と炭化物少量混入
第8層　黄褐色土、白色ローム粒と褐色ローム粒子混入
第9層　暗褐色土、褐色ローム粒塊多量混入
第10層　暗褐色土、褐色ローム粒塊多量混入
79号土坑
31.70m
第1層　暗赤褐色土、焼土粒・炭化物少量混入
第2層　暗褐色土、炭化物少量混入
第3層　暗褐色土
80号土坑
31.70m
第1層　黒褐色土
第2層　暗褐色土、粘性あり
第3層　暗褐色土、炭化物少量混入
第4層　暗褐色土、褐色ローム粒塊混入
第5層　暗褐色土、炭化物少量混入粘性あり
第6層　暗褐色土、炭化物・焼土粒少量混入
第7層　暗褐色土、褐色ローム粒少量混入
0
1m

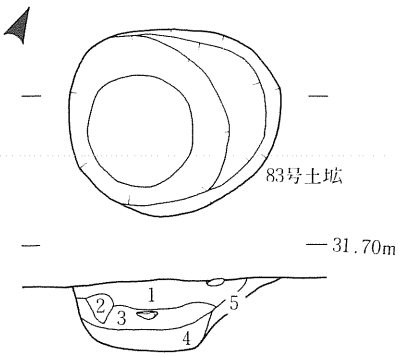
第83図　土坑



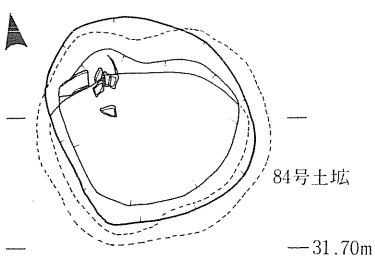
第1層　暗褐色土、褐色ローム粒塊混入
第2層　暗褐色土、炭化物・褐色ローム粒少量混入
第3層　暗褐色土、炭化物少量混入

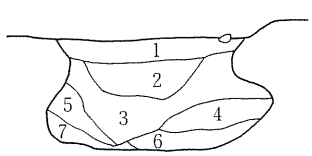


第1層　暗褐色土
第2層　暗褐色土、焼土粒を少量混入・炭化物少量混入
第3層　暗褐色土、褐色ローム粒を多量混入
第4層　暗褐色土、焼土粒を多量混入・炭化物少量混入
第5層　暗褐色土、焼土粒・白色ローム粒塊を多量混入
炭化物少量混入

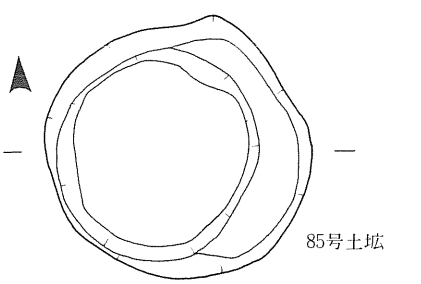


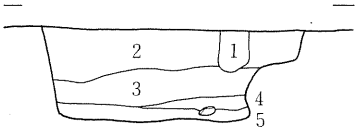
第1層　暗褐色土、炭化物少量混入
第2層　撹乱
第3層　暗褐色土、褐色ローム粒塊少量混入
第4層　灰褐色土、よごれた褐色ローム粒子混入
第5層　褐色土、褐色ローム塊混入



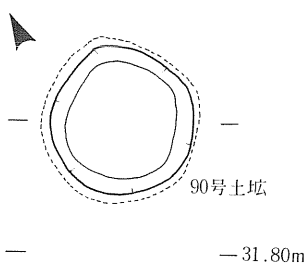


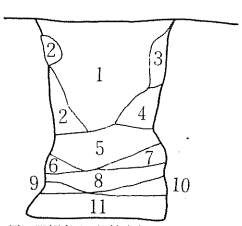
第1層　暗褐色土、炭化物少量混入
第2層　暗褐色土、褐色ローム粒多量混入・炭化物少量混入
第3層　暗褐色土、炭化物の混入量特に多い、炭化物少量混入
第4層　暗褐色土、褐色ローム粒子少量混入・炭化物少量混入
第5層　暗褐色土、褐色ローム粒塊少量混入・炭化物少量混入
第6層　褐色土、褐色ローム塊はほとんど崩落土
第7層　褐色土、褐色ローム塊はほとんど崩落土



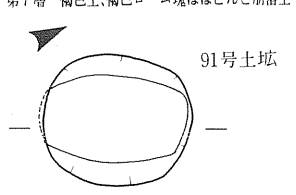


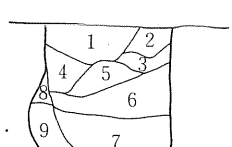
第1層　暗褐色土、炭化物少量混入
第2層　暗褐色土、褐色ローム粒子多量混入
第3層　暗褐色土、褐色ローム粒塊多量混入
第4層　暗褐色土
第5層　暗褐色土、褐色ローム粒塊多量混入



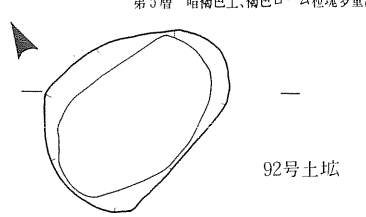


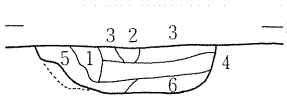
第1層　黒褐色土、粘性あり
第2層　暗褐色土、褐色ローム粒子多量混入
第3層　暗褐色土、褐色ローム粒子多量混入
第4層　暗褐色土、褐色ローム粒子多量混入
第5層　暗褐色土、褐色ローム粒子多量混入
第6層　褐色土、褐色ローム粒塊がほとんど
第7層　褐色土、褐色ローム粒塊がほとんど
第8層　暗褐色土、褐色ローム粒塊少量混入
第9層　褐色土、褐色ローム粒塊がほとんど
第10層　褐色土、褐色ローム粒塊がほとんど
第11層　暗褐色土、褐色ローム粒塊混入



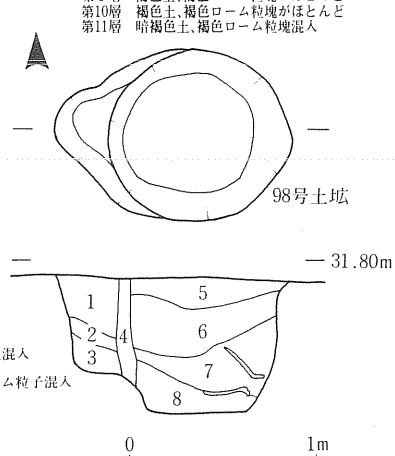


第1層　暗褐色土、褐色ローム粒・白色ローム粒子少量混入
第2層　暗褐色土、褐色ローム粒を混入、粘性あり
第3層　暗褐色土、褐色ローム粒子混入、サラサラしている
第4層　褐色土、褐色ローム粒塊混入、粘性あり
第5層　暗褐色土、褐色ローム粒子混入、粘性あり
第6層　暗褐色土、褐色ローム粒子混入、サラサラしている
第7層　暗褐色土、サラサラしている
第8層　褐色ローム粒塊(崩落土か)
第9層　褐色ローム粒塊(崩落土か)



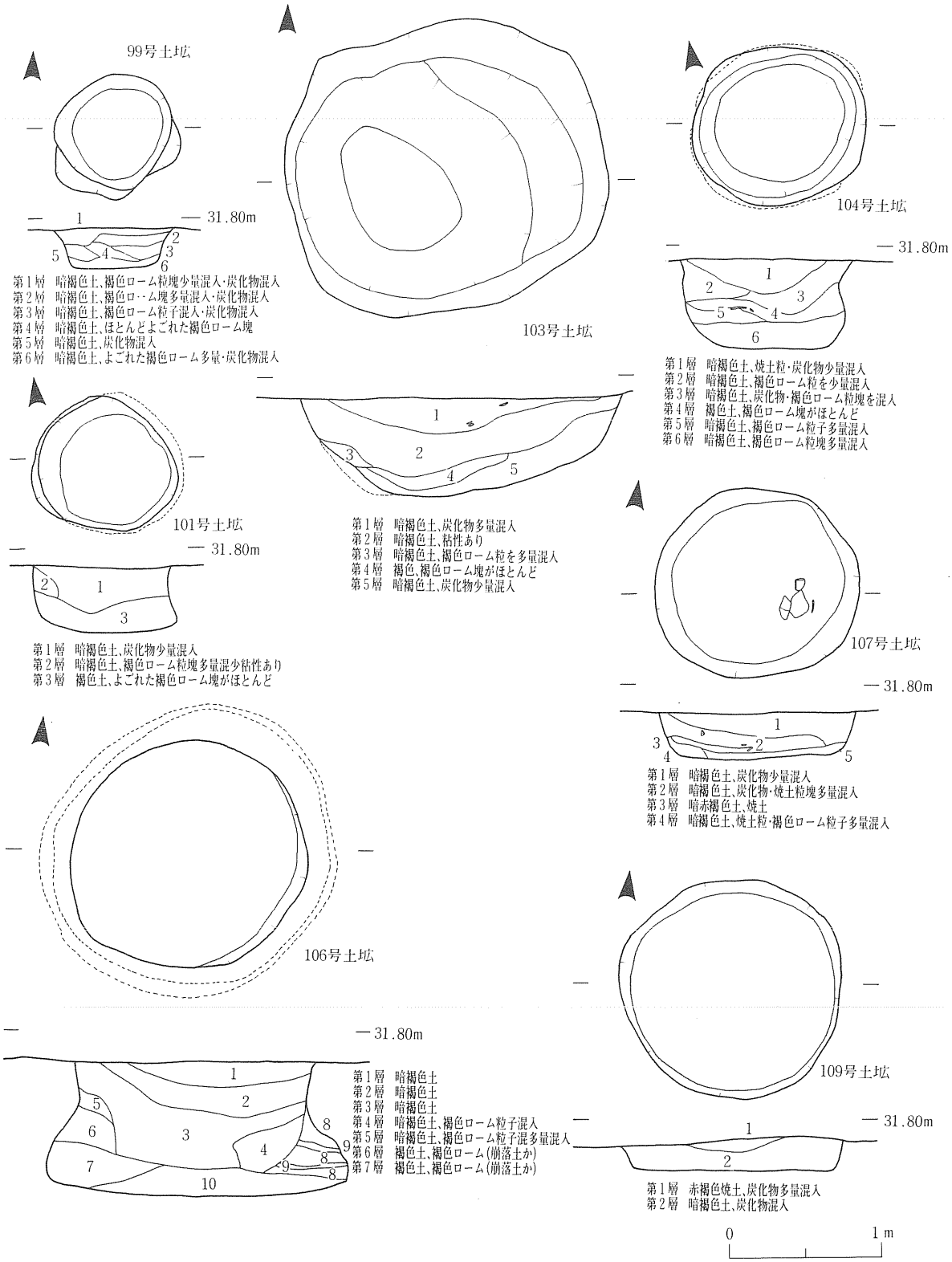


第1層　暗褐色土、撹乱
第2層　暗褐色土、撹乱
第3層　暗褐色土、粘性あり
第4層　暗褐色土、褐色ローム塊多量混入、粘性あり
第5層　暗褐色土、褐色ローム塊多量混入、粘性あり
第6層　暗褐色土、褐色ローム塊多量混入、粘性あり

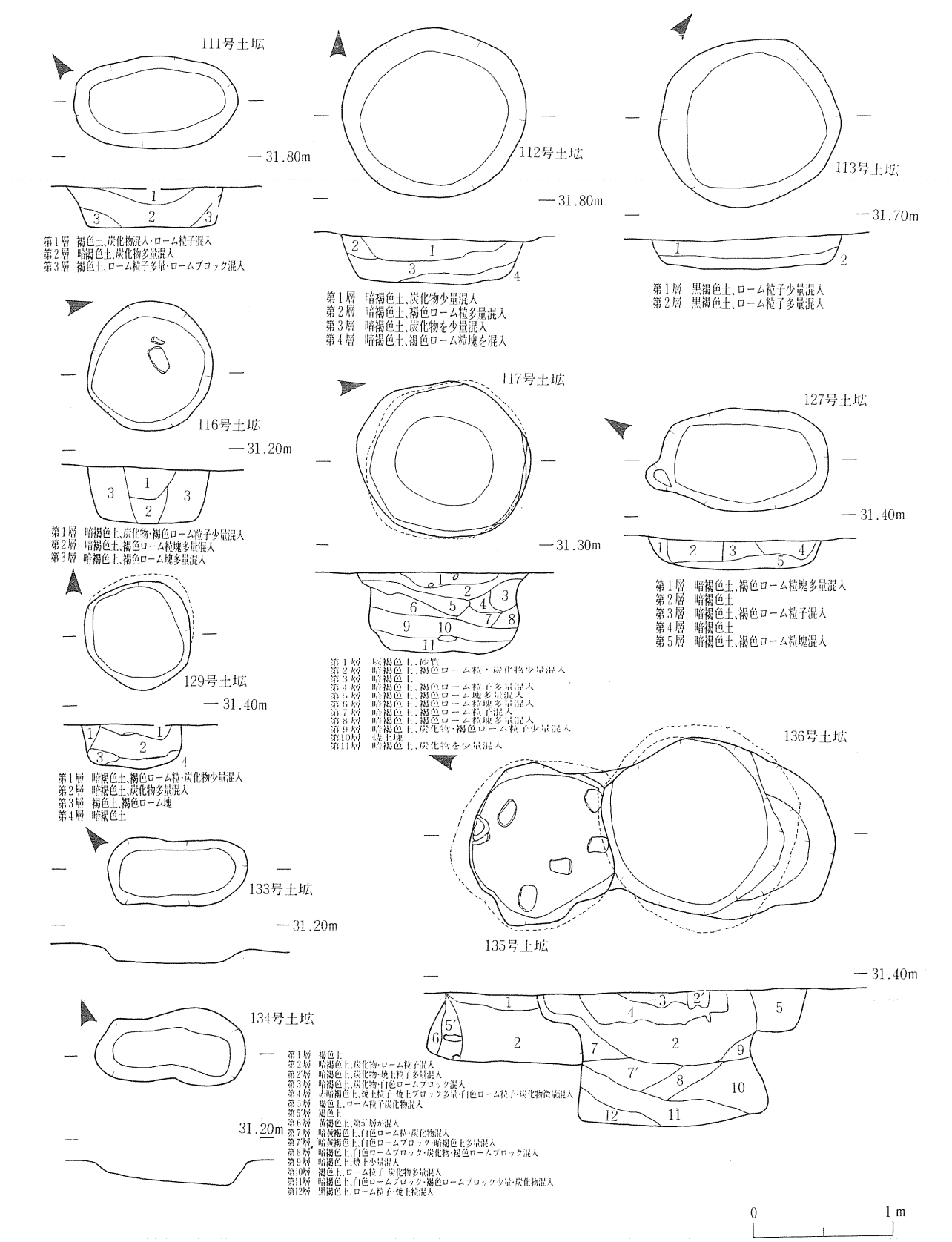


第1層　暗褐色土、炭化物・褐色ローム粒多量混入
第2層　暗褐色土、白色ローム粒子少量混入
第3層　暗褐色土、白色ローム粒塊・褐色ローム粒子混入
第4層　暗褐色土、白色ローム塊多量混入
第5層　暗褐色土、炭化物多量混入
第6層　暗褐色土、炭化物・焼土粒混入
第7層　暗褐色土
第8層　暗褐色土、炭化物・褐色ローム粒混入

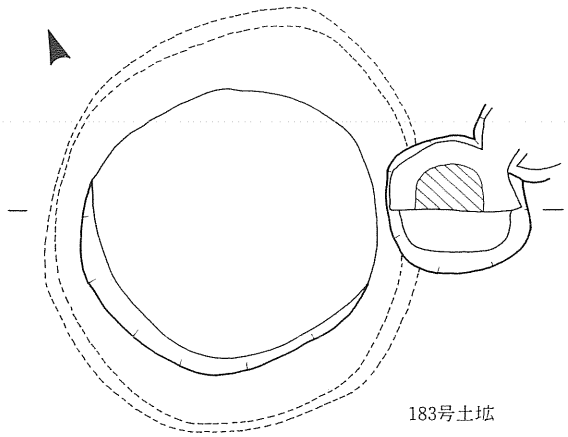
第84図　土坑


99号土坑
31.80m
第1層　暗褐色土、褐色ローム粒塊少量混入・炭化物混入
第2層　暗褐色土、褐色ロ‥ム塊多量混入・炭化物混入
第3層　暗褐色土、褐色ローム粒子混入・炭化物混入
第4層　暗褐色土、ほとんどよごれた褐色ローム塊
第5層　暗褐色土、炭化物混入
第6層　暗褐色土、よごれた褐色ローム多量・炭化物混入
103号土坑
第1層　暗褐色土、炭化物多量混入
第2層　暗褐色土、粘性あり
第3層　暗褐色土、褐色ローム粒を多量混入
第4層　褐色、褐色ローム塊がほとんど
第5層　暗褐色土、炭化物少量混入
104号土坑
31.80m
第1層　暗褐色土、焼土粒・炭化物少量混入
第2層　暗褐色土、褐色ローム粒を少量混入
第3層　暗褐色土、炭化物・褐色ローム粒塊を混入
第4層　褐色土、褐色ローム塊がほとんど
第5層　暗褐色土、褐色ローム粒子多量混入
第6層　暗褐色土、褐色ローム粒塊多量混入
101号土坑
31.80m
第1層　暗褐色土、炭化物少量混入
第2層　暗褐色土、褐色ローム粒塊多量混少粘性あり
第3層　褐色土、よごれた褐色ローム塊がほとんど
107号土坑
31.80m
第1層　暗褐色土、炭化物少量混入
第2層　暗褐色土、炭化物・焼土粒塊多量混入
第3層　暗赤褐色土、焼土
第4層　暗褐色土、焼土粒・褐色ローム粒子多量混入
106号土坑
31.80m
第1層　暗褐色土
第2層　暗褐色土
第3層　暗褐色土
第4層　暗褐色土、褐色ローム粒子混入
第5層　暗褐色土、褐色ローム粒子混多量混入
第6層　褐色土、褐色ローム(崩落土か)
第7層　褐色土、褐色ローム(崩落土か)
109号土坑
31.80m
第1層　赤褐色焼土、炭化物多量混入
第2層　暗褐色土、炭化物混入
0
1m

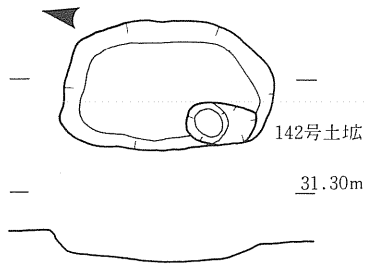
第85図　土坑

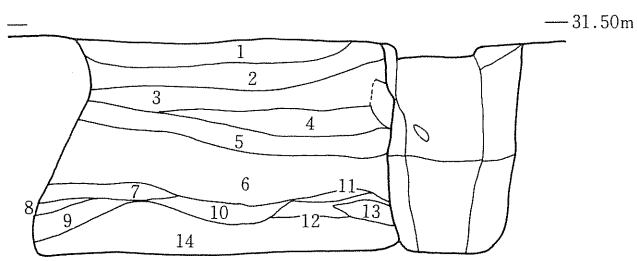

111号土坑
31.80m
第1層　褐色土、炭化物混入・ローム粒子混入
第2層　暗褐色土、炭化物多量混入
第3層　褐色土、ローム粒子多量・ロームブロック混入
112号土坑
31.80m
第1層　暗褐色土、炭化物少量混入
第2層　暗褐色土、褐色ローム粒多量混入
第3層　暗褐色土、炭化物を少量混入
第4層　暗褐色土、褐色ローム粒塊を混入
113号土坑
31.70m
第1層　黒褐色土、ローム粒子少量混入
第2層　黒褐色土、ローム粒子多量混入
116号土坑
31.20m
第1層　暗褐色土、炭化物・褐色ローム粒子少量混入
第2層　暗褐色土、褐色ローム粒塊多量混入
第3層　暗褐色土、褐色ローム塊多量混入
117号土坑
31.30m
第1層　灰褐色土、砂質
第2層　暗褐色土、褐色ローム粒・炭化物少量混入
第3層　暗褐色土
第4層　暗褐色土、褐色ローム粒子多量混入
第5層　暗褐色土、褐色ローム塊多量混入
第6層　暗褐色土、褐色ローム粒塊多量混入
第7層　暗褐色土、褐色ローム粒子混入
第8層　暗褐色土、褐色ローム粒塊多量混入
第9層　暗褐色土、炭化物・褐色ローム粒子少量混入
第10層　焼土塊
第11層　暗褐色土、炭化物を少量混入
127号土坑
31.40m
第1層　暗褐色土、褐色ローム粒塊多量混入
第2層　暗褐色土
第3層　暗褐色土、褐色ローム粒子混入
第4層　暗褐色土
第5層　暗褐色土、褐色ローム粒塊混入
129号土坑
31.40m
第1層　暗褐色土、褐色ローム粒・炭化物少量混入
第2層　暗褐色土、炭化物多量混入
第3層　褐色土、褐色ローム塊
第4層　暗褐色土
133号土坑
31.20m
136号土坑
135号土坑
31.40m
134号土坑
31.20m
第1層　褐色土
第2層　暗褐色土、炭化物・ローム粒子混入
第2′層　暗褐色土、炭化物・焼土粒子多量混入
第3層　暗褐色土、炭化物・白色ロームブロック混入
第4層　赤暗褐色土、焼土粒子・焼土ブロック多量・白色ローム粒子・炭化物微量混入
第5層　褐色土、ローム粒子炭化物混入
第5′層　褐色土
第6層　黄褐色土、第5′層が混入
第7層　暗黄褐色土、白色ローム粒・炭化物混入
第7′層　暗黄褐色土、白色ロームブロック・暗褐色土多量混入
第8層　暗褐色土、白色ロームブロック・炭化物・褐色ロームブロック混入
第9層　暗褐色土、焼土少量混入
第10層　褐色土、ローム粒子・炭化物多量混入
第11層　暗褐色土、白色ロームブロック・褐色ロームブロック少量・炭化物混入
第12層　黒褐色土、ローム粒子・焼土粒混入
0
1m

第86図　土坑

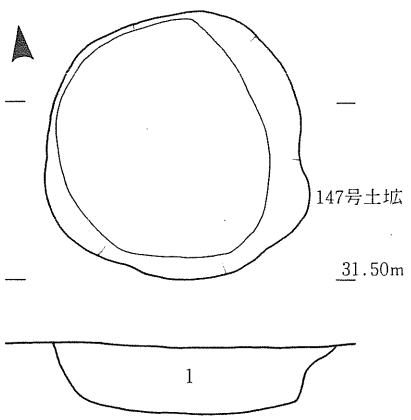


183号土坑

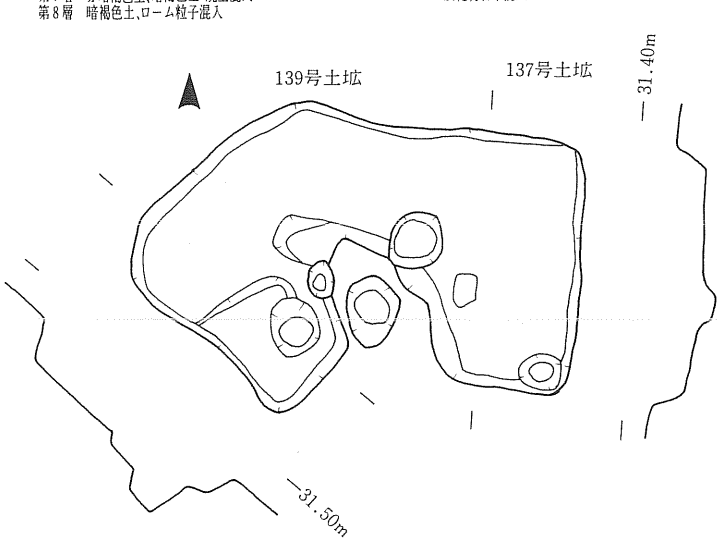


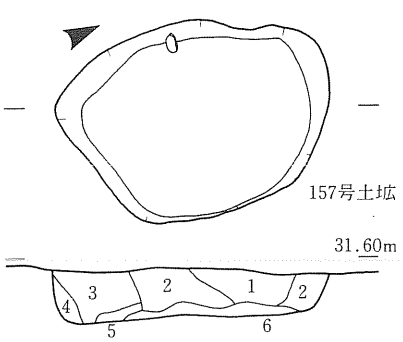


第1層　暗褐色土、炭化物・ローム粒子・焼土粒子混入
第2層　褐色土、炭化物・ロームブロック・ローム粒子多量混入
第3層　暗褐色土、ローム粒子・ロームブロック混入
第4層　白色ローム、暗褐色土少量混入
第5層　極暗褐色土、炭化物・白色ロームブロック・焼土塊混入
焼土粒子少量混入
第6層　暗褐色土、炭化物・ローム粒子・焼土粒子混入
第7層　赤暗褐色土、暗褐色土・焼土混入
第8層　暗褐色土、ローム粒子混入
第9層　黄褐色土、暗褐色土少量混入
第10層　暗褐色土、ローム粒子混入
第11層　白色ローム
第12層　暗褐色土、白色ロームブロック
褐色ローム粒子混入
第13層　黄褐色土、暗褐色土若干混入
第14層　暗褐色土、ローム粒子・
炭化物若干混入



第1層　黒色土、(炭化物・焼土ブロック・ローム粒子混入)

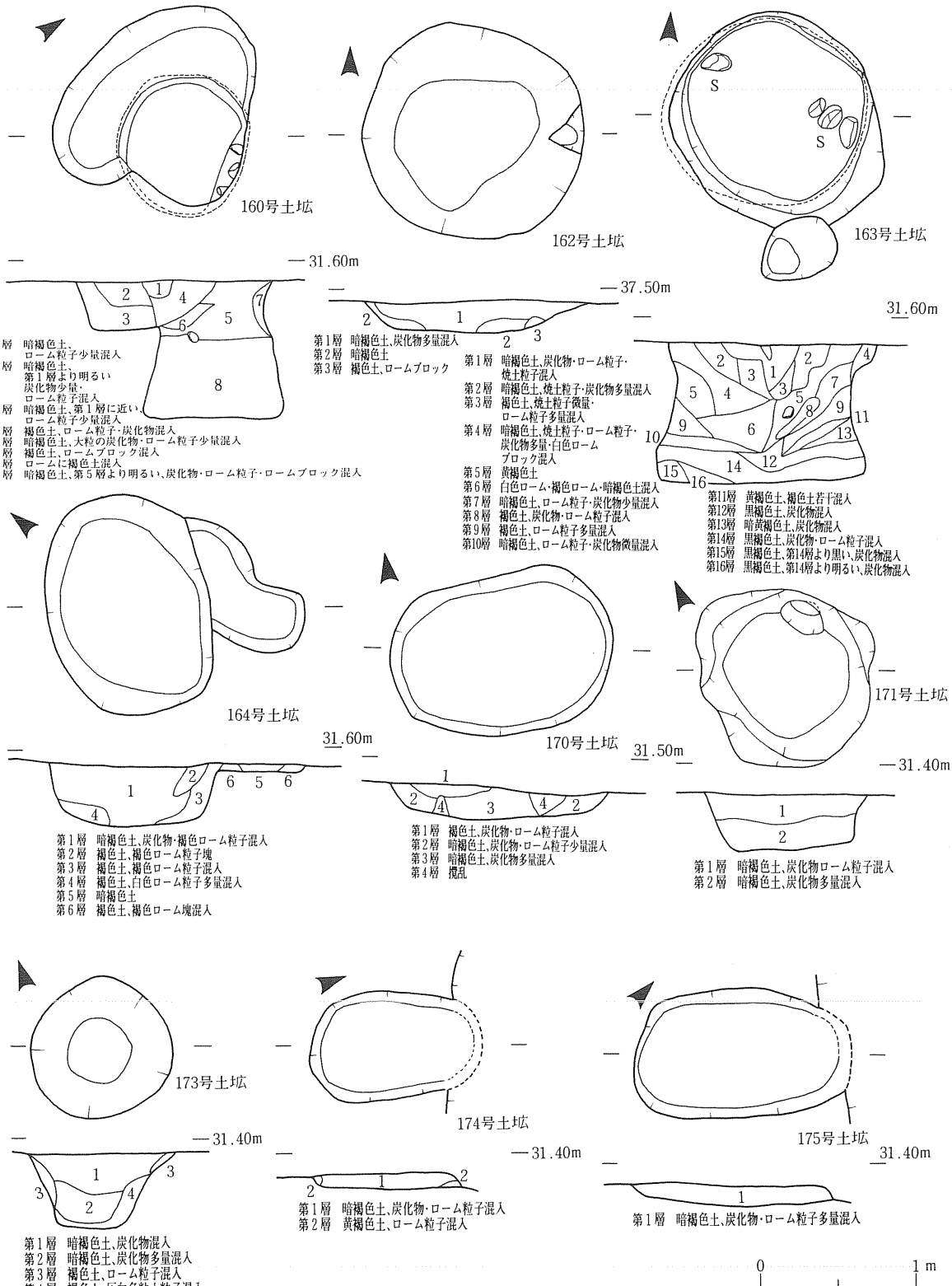




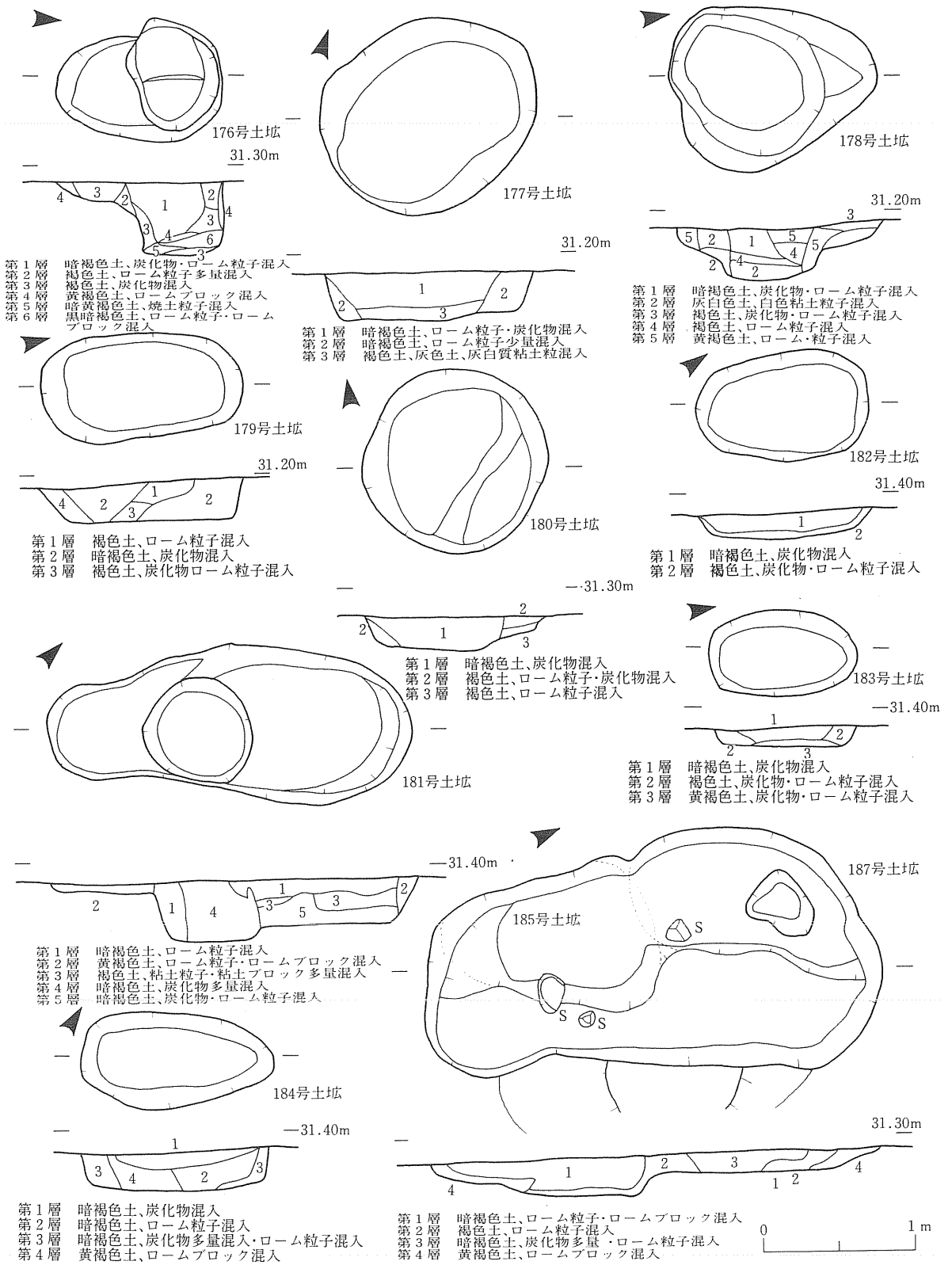
第1層　暗褐色土、炭化物混入
第2層　暗褐色土、炭化物褐色ローム粒子混入
第3層　黒褐色土、炭化物・褐色ローム粒塊混入
第4層　暗褐色土、褐色ローム塊混入
第5層　黒褐色土
第6層　褐色土、褐色ローム塊混入

0　1m

第87図　土坑


160号土坑
31.60m
第1層　暗褐色土、ローム粒子少量混入
第2層　暗褐色土、第1層より明るい炭化物少量・ローム粒子混入
第3層　暗褐色土、第1層に近い、ローム粒子少量混入
第4層　褐色土、ローム粒子・炭化物混入
第5層　暗褐色土、大粒の炭化物・ローム粒子少量混入
第6層　褐色土、ロームブロック混入
第7層　ロームに褐色土混入
第8層　暗褐色土、第5層より明るい、炭化物・ローム粒子・ロームブロック混入
162号土坑
37.50m
第1層　暗褐色土、炭化物多量混入
第2層　暗褐色土
第3層　褐色土、ロームブロック
163号土坑
31.60m
第1層　暗褐色土、炭化物・ローム粒子・焼土粒子混入
第2層　暗褐色土、焼土粒子・炭化物多量混入
第3層　褐色土、焼土粒子微量・ローム粒子多量混入
第4層　暗褐色土、焼土粒子・ローム粒子・炭化物多量・白色ローム・ブロック混入
第5層　黄褐色土
第6層　白色ローム・褐色ローム・暗褐色土混入
第7層　暗褐色土、ローム粒子・炭化物少量混入
第8層　褐色土、炭化物・ローム粒子混入
第9層　褐色土、ローム粒子多量混入
第10層　暗褐色土、ローム粒子・炭化物微量混入
第11層　黄褐色土、褐色土若干混入
第12層　黒褐色土、炭化物混入
第13層　暗黄褐色土、炭化物混入
第14層　黒褐色土、炭化物・ローム粒子混入
第15層　黒褐色土、第14層より黒い、炭化物混入
第16層　黒褐色土、第14層より明るい、炭化物混入
164号土坑
31.60m
第1層　暗褐色土、炭化物・褐色ローム粒子混入
第2層　褐色土、褐色ローム粒子塊
第3層　褐色土、褐色ローム粒子混入
第4層　褐色土、白色ローム粒子多量混入
第5層　暗褐色土
第6層　褐色土、褐色ローム塊混入
170号土坑
31.50m
第1層　褐色土、炭化物・ローム粒子混入
第2層　暗褐色土、炭化物・ローム粒子少量混入
第3層　暗褐色土、炭化物多量混入
第4層　攪乱
171号土坑
31.40m
第1層　暗褐色土、炭化物ローム粒子混入
第2層　暗褐色土、炭化物多量混入
173号土坑
31.40m
第1層　暗褐色土、炭化物混入
第2層　暗褐色土、炭化物多量混入
第3層　褐色土、ローム粒子混入
第4層　褐色土、灰白色粘土粒子混入
174号土坑
31.40m
第1層　暗褐色土、炭化物・ローム粒子混入
第2層　黄褐色土、ローム粒子混入
175号土坑
31.40m
第1層　暗褐色土、炭化物・ローム粒子多量混入
0
1 m

第88図　土坑


176号土坑
31.30m
第1層　暗褐色土、炭化物・ローム粒子混入
第2層　褐色土、ローム粒子多量混入
第3層　褐色土、炭化物混入
第4層　黄褐色土、ロームブロック混入
第5層　暗黄褐色土、焼土粒子混入
第6層　黒暗褐色土、ローム粒子・ローム
ブロック混入
177号土坑
31.20m
第1層　暗褐色土、ローム粒子・炭化物混入
第2層　暗褐色土、ローム粒子少量混入
第3層　褐色土、灰色土、灰白質粘土粒混入
178号土坑
31.20m
第1層　暗褐色土、炭化物・ローム粒子混入
第2層　灰白色土、白色粘土粒子混入
第3層　褐色土、炭化物・ローム粒子混入
第4層　褐色土、ローム粒子混入
第5層　黄褐色土、ローム・粒子混入
179号土坑
31.20m
第1層　褐色土、ローム粒子混入
第2層　暗褐色土、炭化物混入
第3層　褐色土、炭化物ローム粒子混入
180号土坑
31.30m
第1層　暗褐色土、炭化物混入
第2層　褐色土、ローム粒子・炭化物混入
第3層　褐色土、ローム粒子混入
182号土坑
31.40m
第1層　暗褐色土、炭化物混入
第2層　褐色土、炭化物・ローム粒子混入
181号土坑
183号土坑
31.40m
第1層　暗褐色土、炭化物混入
第2層　褐色土、炭化物・ローム粒子混入
第3層　黄褐色土、炭化物・ローム粒子混入
31.40m
第1層　暗褐色土、ローム粒子混入
第2層　黄褐色土、ローム粒子・ロームブロック混入
第3層　褐色土、粘土粒子・粘土ブロック多量混入
第4層　暗褐色土、炭化物多量混入
第5層　暗褐色土、炭化物・ローム粒子混入
184号土坑
31.40m
第1層　暗褐色土、炭化物混入
第2層　暗褐色土、ローム粒子混入
第3層　暗褐色土、炭化物多量混入・ローム粒子混入
第4層　黄褐色土、ロームブロック混入
185号土坑
187号土坑
31.30m
第1層　暗褐色土、ローム粒子・ロームブロック混入
第2層　褐色土、ローム粒子混入
第3層　暗褐色土、炭化物多量・ローム粒子混入
第4層　黄褐色土、ロームブロック混入
0
1m

第89図　土坑

186号土坑

31.30m

第1層　暗褐色土、炭化物混入
第2層　褐色土、ローム粒子混入
第3層　黄褐色土、ローム粒子・ロームブロック混入

193号土坑

31.30m

第1層　暗褐色土、ローム粒子・炭化物混入
第2層　暗褐色土、ローム粒子・炭化物多量混入
第3層　暗黄褐色土、ローム粒子・ロームブロック混入
第4層　灰白粘土、炭化物・ローム粒子混入
第5層　黄褐色土、ローム粒子混入

192号土坑

31.30m

第1層　暗褐色土、炭化物・ローム粒子混入
第2層　褐色土、ローム粒子・炭化物多量混入
第3層　褐色土、ローム粒子・炭化物混入

194号土坑

31.40m

第1層　暗褐色土、炭化物・ローム粒子混入
第2層　暗褐色土、第1層よりも暗い
　　炭化物・ローム粒子少量混入
第3層　褐色土、ローム粒子混入
第4層　黄褐色土、暗褐色土を混入
第5層　暗黄褐色土、ローム粒子多量混入

195号土坑

31.40m

第1層　暗褐色土
第2層　暗褐色土、第1層より暗い
　　炭化物・ローム粒子少量混入
第3層　褐色土、ローム粒子多量混入
第4層　黄褐色土、暗褐色土少量混入

198号土坑

31.50m

第1層　暗褐色土、炭化物・少量混入
第2層　褐色土、褐色ローム塊混入
第3層　褐色土、褐色ローム粒子混入
第4層　暗褐色土、褐色ローム粒子・黒色土混入

199号土坑

31.50m

第1層　暗褐色土、炭化物・褐色ローム粒混入
第2層　暗褐色土、褐色ローム塊混入

132号土坑

220号土坑

31.10m

第1層　暗褐色土、炭化物・ローム粒子混入
第2層　褐色土、炭化物・ローム粒子混入
第3層　黄褐色土、ローム粒子混入
第4層　暗黄褐色土、ローム粒子多量混入

201号土坑

31.40m

第1層　暗褐色土、炭化物・褐色ローム粒混入
第2層　褐色土、褐色ローム塊混入

202号土坑

31.40m

第1層　暗褐色土、褐色ローム粒子少量混入
第2層　褐色土、褐色ローム塊混入

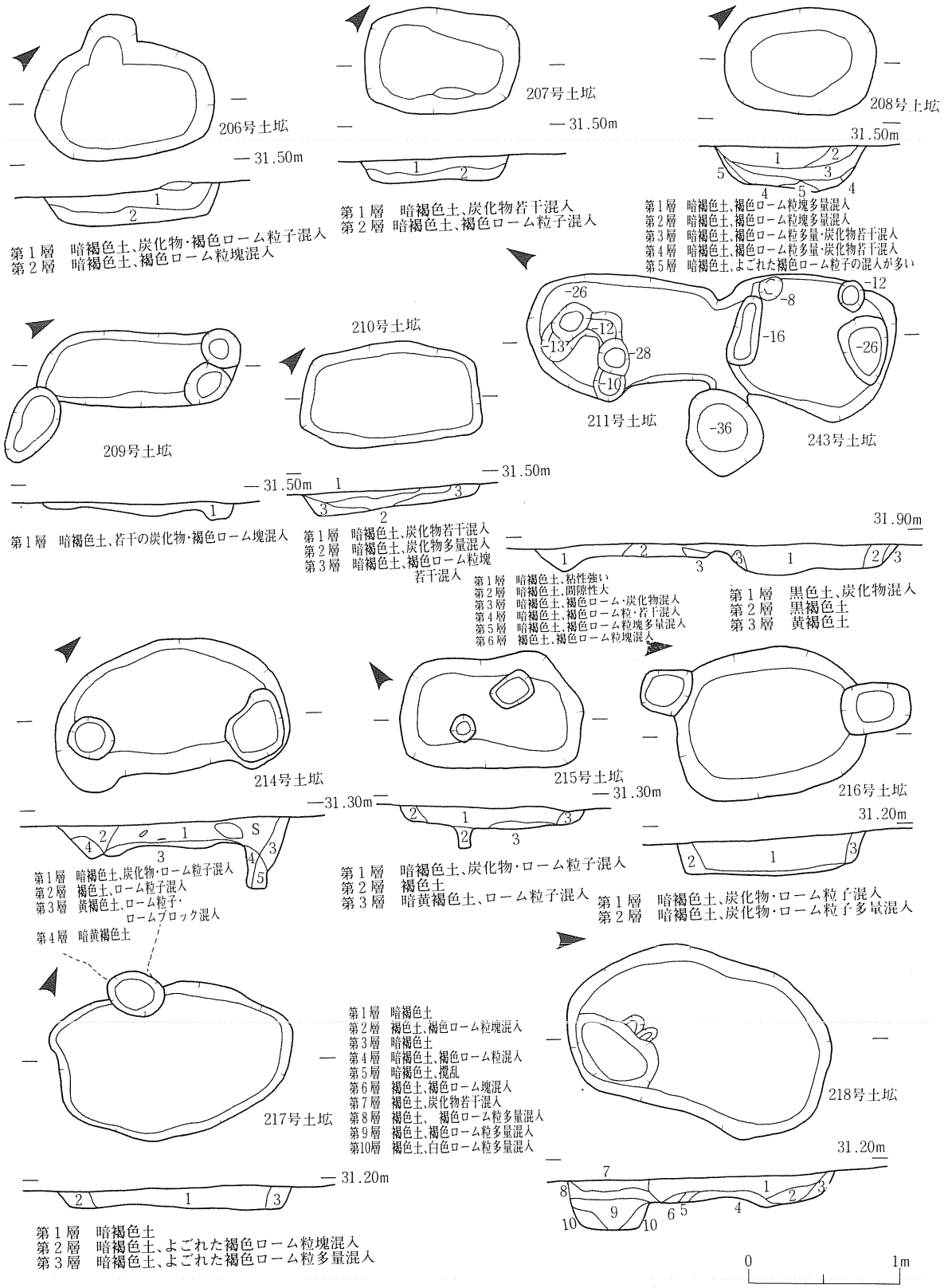
204号土坑

31.50m

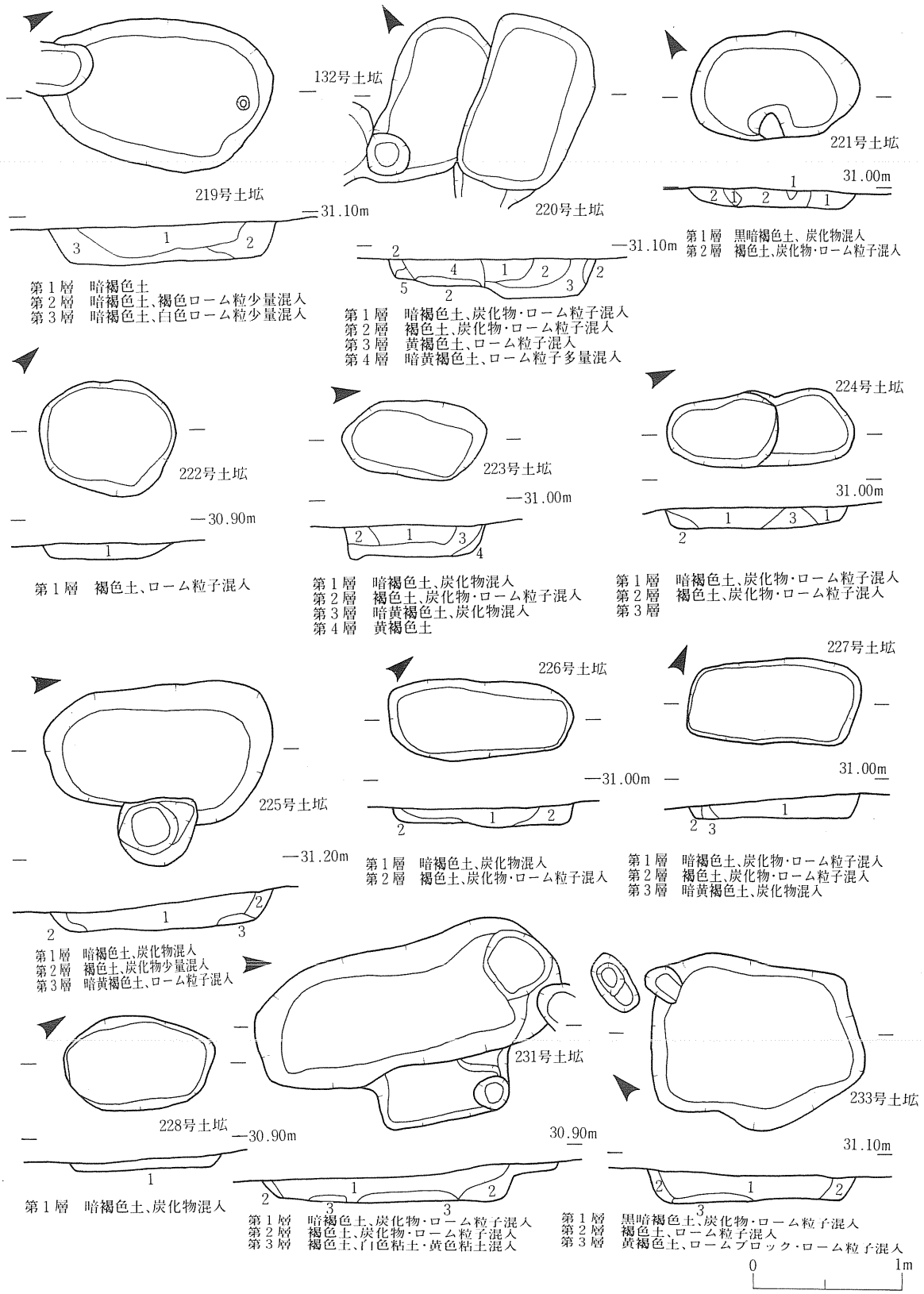
第1層　暗褐色土、炭化物・焼土粒子少量混入
第2層　褐色土、よごれた褐色ローム粒子混入
第3層　暗褐色土、褐色ローム粒子多量混入

0　1m

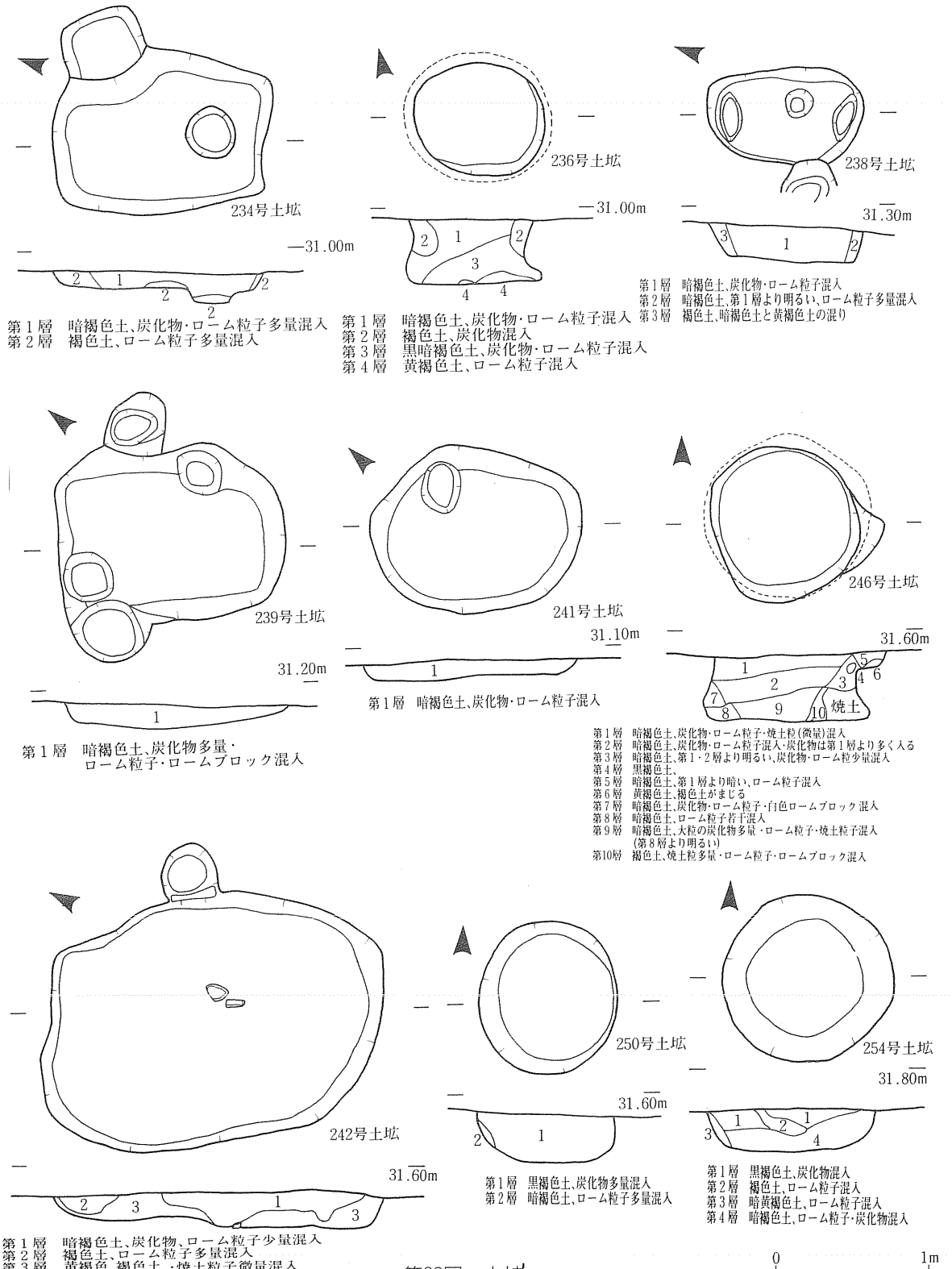
第90図　土坑


206号土坑
31.50m
第1層　暗褐色土、炭化物・褐色ローム粒子混入
第2層　暗褐色土、褐色ローム粒塊混入
207号土坑
31.50m
第1層　暗褐色土、炭化物若干混入
第2層　暗褐色土、褐色ローム粒子混入
208号土坑
31.50m
第1層　暗褐色土、褐色ローム粒塊多量混入
第2層　暗褐色土、褐色ローム粒塊多量混入
第3層　暗褐色土、褐色ローム粒多量・炭化物若干混入
第4層　暗褐色土、褐色ローム粒多量・炭化物若干混入
第5層　暗褐色土、よごれた褐色ローム粒子の混入が多い
209号土坑
31.50m
第1層　暗褐色土、若干の炭化物・褐色ローム塊混入
210号土坑
31.50m
第1層　暗褐色土、炭化物若干混入
第2層　暗褐色土、炭化物多量混入
第3層　暗褐色土、褐色ローム粒塊若干混入
211号土坑
243号土坑
31.90m
第1層　暗褐色土、粘性強い
第2層　暗褐色土、間隙性大
第3層　暗褐色土、褐色ローム・炭化物混入
第4層　暗褐色土、褐色ローム粒・若干混入
第5層　暗褐色土、褐色ローム粒塊多量混入
第6層　褐色土、褐色ローム粒塊混入
第1層　黒色土、炭化物混入
第2層　黒褐色土
第3層　黄褐色土
214号土坑
31.30m
第1層　暗褐色土、炭化物・ローム粒子混入
第2層　褐色土、ローム粒子混入
第3層　黄褐色土、ローム粒子・ロームブロック混入
第4層　暗黄褐色土
215号土坑
31.30m
第1層　暗褐色土、炭化物・ローム粒子混入
第2層　褐色土
第3層　暗黄褐色土、ローム粒子混入
216号土坑
31.20m
第1層　暗褐色土、炭化物・ローム粒子混入
第2層　暗褐色土、炭化物・ローム粒子多量混入
217号土坑
31.20m
第1層　暗褐色土
第2層　暗褐色土、よごれた褐色ローム粒塊混入
第3層　暗褐色土、よごれた褐色ローム粒多量混入
第1層　暗褐色土
第2層　褐色土、褐色ローム粒塊混入
第3層　暗褐色土
第4層　暗褐色土、褐色ローム粒混入
第5層　暗褐色土、攪乱
第6層　褐色土、褐色ローム塊混入
第7層　褐色土、炭化物若干混入
第8層　褐色土、褐色ローム粒多量混入
第9層　褐色土、褐色ローム粒多量混入
第10層　褐色土、白色ローム粒多量混入
218号土坑
31.20m
0
1m

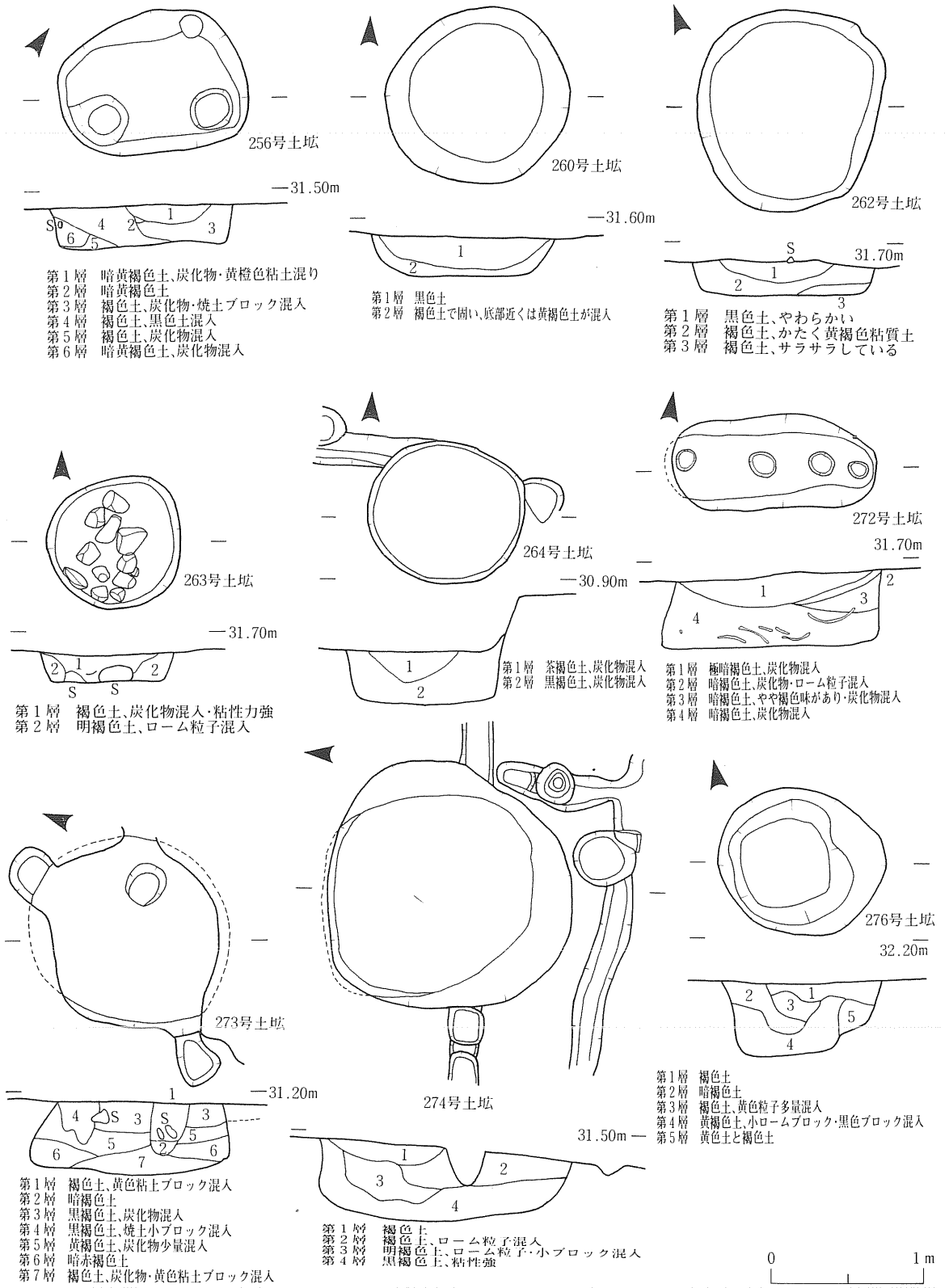
第91図　土坑


219号土坑
31.10m
第1層　暗褐色土
第2層　暗褐色土、褐色ローム粒少量混入
第3層　暗褐色土、白色ローム粒少量混入
132号土坑
220号土坑
31.10m
第1層　暗褐色土、炭化物・ローム粒子混入
第2層　褐色土、炭化物・ローム粒子混入
第3層　黄褐色土、ローム粒子混入
第4層　暗黄褐色土、ローム粒子多量混入
221号土坑
31.00m
第1層　黒暗褐色土、炭化物混入
第2層　褐色土、炭化物・ローム粒子混入
222号土坑
30.90m
第1層　褐色土、ローム粒子混入
223号土坑
31.00m
第1層　暗褐色土、炭化物混入
第2層　褐色土、炭化物・ローム粒子混入
第3層　暗黄褐色土、炭化物混入
第4層　黄褐色土
224号土坑
31.00m
第1層　暗褐色土、炭化物・ローム粒子混入
第2層　褐色土、炭化物・ローム粒子混入
第3層
225号土坑
31.20m
第1層　暗褐色土、炭化物混入
第2層　褐色土、炭化物少量混入
第3層　暗黄褐色土、ローム粒子混入
226号土坑
31.00m
第1層　暗褐色土、炭化物混入
第2層　褐色土、炭化物・ローム粒子混入
227号土坑
31.00m
第1層　暗褐色土、炭化物・ローム粒子混入
第2層　褐色土、炭化物・ローム粒子混入
第3層　暗黄褐色土、炭化物混入
228号土坑
30.90m
第1層　暗褐色土、炭化物混入
231号土坑
30.90m
第1層　暗褐色土、炭化物・ローム粒子混入
第2層　褐色土、炭化物・ローム粒子混入
第3層　褐色土、白色粘土・黄色粘土混入
233号土坑
31.10m
第1層　黒暗褐色土、炭化物・ローム粒子混入
第2層　褐色土、ローム粒子混入
第3層　黄褐色土、ロームブロック・ローム粒子混入
0
1m

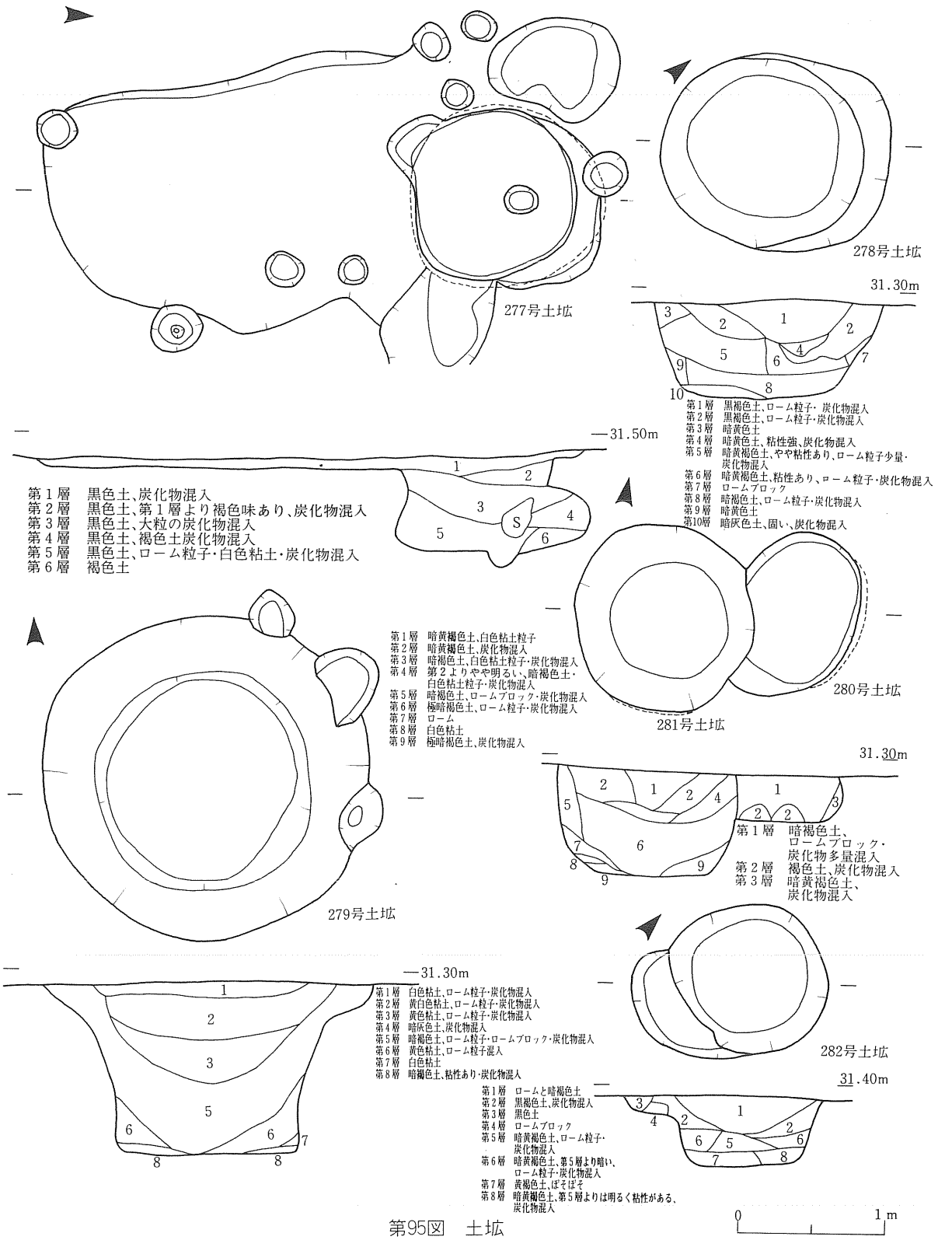
第92図　土坑


234号土坑
31.00m
第1層　暗褐色土、炭化物・ローム粒子多量混入
第2層　褐色土、ローム粒子多量混入
236号土坑
31.00m
第1層　暗褐色土、炭化物・ローム粒子混入
第2層　褐色土、炭化物混入
第3層　黒暗褐色土、炭化物・ローム粒子混入
第4層　黄褐色土、ローム粒子混入
238号土坑
31.30m
第1層　暗褐色土、炭化物・ローム粒子混入
第2層　暗褐色土、第1層より明るい、ローム粒子多量混入
第3層　褐色土、暗褐色土と黄褐色土の混り
239号土坑
31.20m
第1層　暗褐色土、炭化物多量・ローム粒子・ロームブロック混入
241号土坑
31.10m
第1層　暗褐色土、炭化物・ローム粒子混入
246号土坑
31.60m
焼土
第1層　暗褐色土、炭化物・ローム粒子・焼土粒(微量)混入
第2層　暗褐色土、炭化物・ローム粒子混入・炭化物は第1層より多く入る
第3層　暗褐色土、第1・2層より明るい、炭化物・ローム粒少量混入
第4層　黒褐色土、
第5層　暗褐色土、第1層より暗い、ローム粒子混入
第6層　黄褐色土、褐色土がまじる
第7層　暗褐色土、炭化物・ローム粒子・白色ロームブロック混入
第8層　暗褐色土、ローム粒子若干混入
第9層　暗褐色土、大粒の炭化物多量・ローム粒子・焼土粒子混入(第8層より明るい)
第10層　褐色土、焼土粒多量・ローム粒子・ロームブロック混入
242号土坑
31.60m
第1層　暗褐色土、炭化物、ローム粒子少量混入
第2層　褐色土、ローム粒子多量混入
第3層　黄褐色、褐色土・焼土粒子微量混入
250号土坑
31.60m
第1層　黒褐色土、炭化物多量混入
第2層　暗褐色土、ローム粒子多量混入
254号土坑
31.80m
第1層　黒褐色土、炭化物混入
第2層　褐色土、ローム粒子混入
第3層　暗黄褐色土、ローム粒子混入
第4層　暗褐色土、ローム粒子・炭化物混入
0
1m

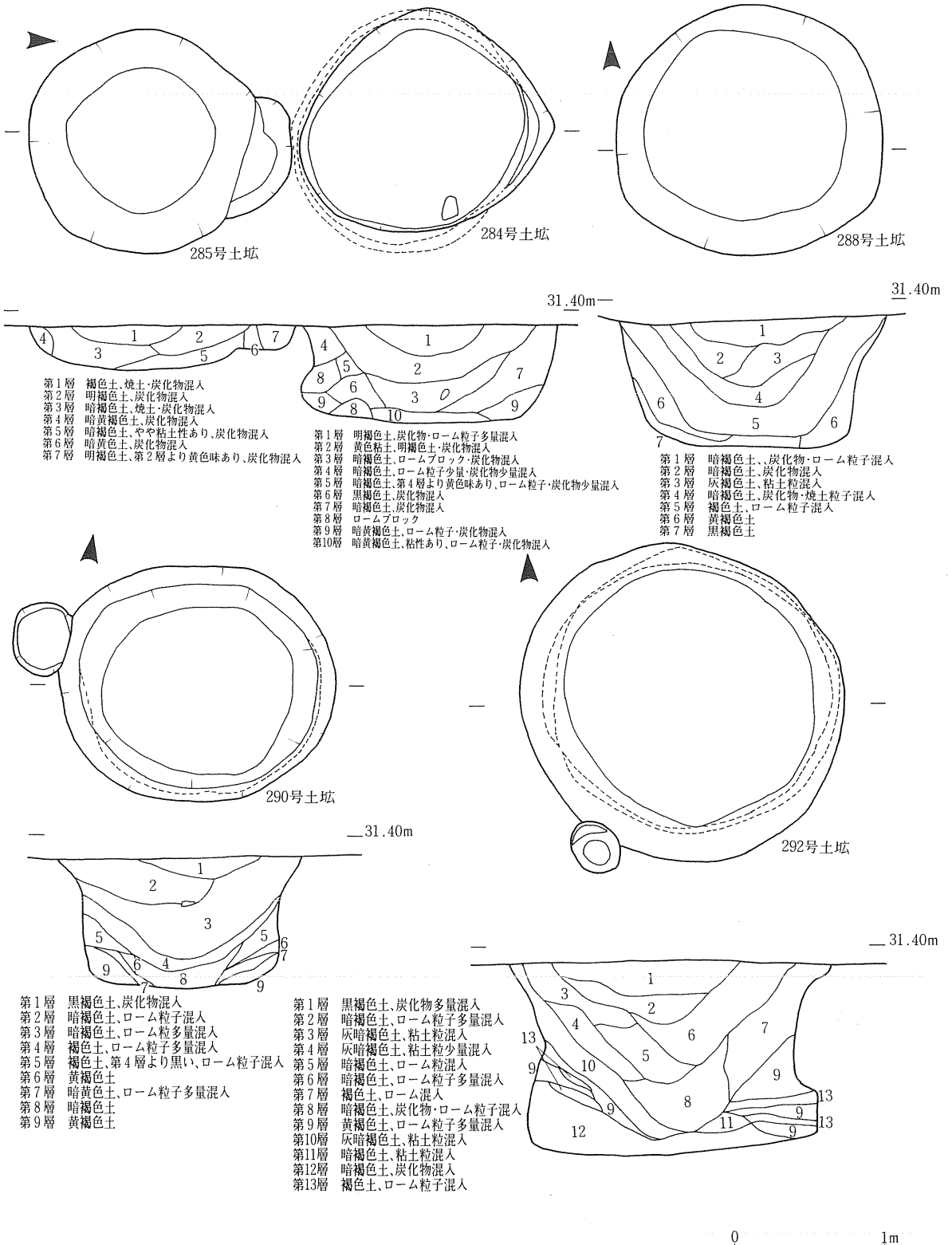
第93図　土坑


256号土坑
—31.50m
第1層　暗黄褐色土、炭化物・黄橙色粘土混り
第2層　暗黄褐色土
第3層　褐色土、炭化物・焼土ブロック混入
第4層　褐色土、黒色土混入
第5層　褐色土、炭化物混入
第6層　暗黄褐色土、炭化物混入
260号土坑
—31.60m
第1層　黒色土
第2層　褐色土で固い、底部近くは黄褐色土が混入
262号土坑
31.70m
第1層　黒色土、やわらかい
第2層　褐色土、かたく黄褐色粘質土
第3層　褐色土、サラサラしている
263号土坑
—31.70m
第1層　褐色土、炭化物混入・粘性力強
第2層　明褐色土、ローム粒子混入
264号土坑
—30.90m
第1層　茶褐色土、炭化物混入
第2層　黒褐色土、炭化物混入
272号土坑
31.70m
第1層　極暗褐色土、炭化物混入
第2層　暗褐色土、炭化物・ローム粒子混入
第3層　暗褐色土、やや褐色味があり・炭化物混入
第4層　暗褐色土、炭化物混入
273号土坑
—31.20m
第1層　褐色土、黄色粘土ブロック混入
第2層　暗褐色土
第3層　黒褐色土、炭化物混入
第4層　黒褐色土、焼土小ブロック混入
第5層　黄褐色土、炭化物少量混入
第6層　暗赤褐色土
第7層　褐色土、炭化物・黄色粘土ブロック混入
274号土坑
31.50m
第1層　褐色土
第2層　褐色土、ローム粒子混入
第3層　明褐色土、ローム粒子・小ブロック混入
第4層　黒褐色土、粘性強
276号土坑
32.20m
第1層　褐色土
第2層　暗褐色土
第3層　褐色土、黄色粒子多量混入
第4層　黄褐色土、小ロームブロック・黒色ブロック混入
第5層　黄色土と褐色土
0
1m

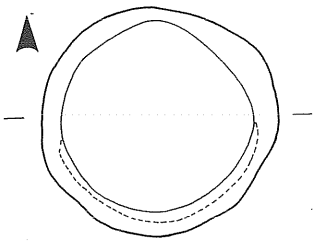
第94図　土坑


277号土坑
278号土坑
31.30m
第1層　黒褐色土、ローム粒子・炭化物混入
第2層　黒褐色土、ローム粒子・炭化物混入
第3層　暗黄色土
第4層　暗黄色土、粘性強、炭化物混入
第5層　暗黄褐色土、やや粘性あり、ローム粒子少量・炭化物混入
第6層　暗黄褐色土、粘性あり、ローム粒子・炭化物混入
第7層　ロームブロック
第8層　暗褐色土、ローム粒子・炭化物混入
第9層　暗黄色土
第10層　暗灰色土、固い、炭化物混入
31.50m
第1層　黒色土、炭化物混入
第2層　黒色土、第1層より褐色味あり、炭化物混入
第3層　黒色土、大粒の炭化物混入
第4層　黒色土、褐色土炭化物混入
第5層　黒色土、ローム粒子・白色粘土・炭化物混入
第6層　褐色土
第1層　暗黄褐色土、白色粘土粒子
第2層　暗黄褐色土、炭化物混入
第3層　暗褐色土、白色粘土粒子・炭化物混入
第4層　第2よりやや明るい、暗褐色土・白色粘土粒子・炭化物混入
第5層　暗褐色土、ロームブロック・炭化物混入
第6層　極暗褐色土、ローム粒子・炭化物混入
第7層　ローム
第8層　白色粘土
第9層　極暗褐色土、炭化物混入
280号土坑
281号土坑
279号土坑
31.30m
第1層　暗褐色土、ロームブロック・炭化物多量混入
第2層　褐色土、炭化物混入
第3層　暗黄褐色土、炭化物混入
31.30m
第1層　白色粘土、ローム粒子・炭化物混入
第2層　黄白色粘土、ローム粒子・炭化物混入
第3層　黄色粘土、ローム粒子・炭化物混入
第4層　暗灰色土、炭化物混入
第5層　暗褐色土、ローム粒子・ロームブロック・炭化物混入
第6層　黄色粘土、ローム粒子混入
第7層　白色粘土
第8層　暗褐色土、粘性あり・炭化物混入
282号土坑
31.40m
第1層　ロームと暗褐色土
第2層　黒褐色土、炭化物混入
第3層　黒色土
第4層　ロームブロック
第5層　暗黄褐色土、ローム粒子・炭化物混入
第6層　暗黄褐色土、第5層より暗い、ローム粒子・炭化物混入
第7層　黄褐色土、ぼそぼそ
第8層　暗黄褐色土、第5層よりは明るく粘性がある、炭化物混入
0
1m

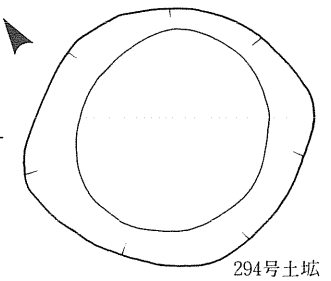
第95図　土坑


285号土坑
284号土坑
288号土坑
31.40m
第1層　褐色土、焼土・炭化物混入
第2層　明褐色土、炭化物混入
第3層　暗褐色土、焼土・炭化物混入
第4層　暗黄褐色土、炭化物混入
第5層　暗褐色土、やや粘土性あり、炭化物混入
第6層　暗黄色土、炭化物混入
第7層　明褐色土、第2層より黄色味あり、炭化物混入
第1層　明褐色土、炭化物・ローム粒子多量混入
第2層　黄色粘土、明褐色土・炭化物混入
第3層　暗褐色土、ロームブロック・炭化物混入
第4層　暗褐色土、ローム粒子少量・炭化物少量混入
第5層　暗褐色土、第4層より黄色味あり、ローム粒子・炭化物少量混入
第6層　黒褐色土、炭化物混入
第7層　暗褐色土、炭化物混入
第8層　ロームブロック
第9層　暗黄褐色土、ローム粒子・炭化物混入
第10層　暗黄褐色土、粘性あり、ローム粒子・炭化物混入
第1層　暗褐色土、、炭化物・ローム粒子混入
第2層　暗褐色土、炭化物混入
第3層　灰褐色土、粘土粒混入
第4層　暗褐色土、炭化物・焼土粒子混入
第5層　褐色土、ローム粒子混入
第6層　黄褐色土
第7層　黒褐色土
290号土坑
292号土坑
第1層　黒褐色土、炭化物混入
第2層　暗褐色土、ローム粒子混入
第3層　暗褐色土、ローム粒多量混入
第4層　褐色土、ローム粒子多量混入
第5層　褐色土、第4層より黒い、ローム粒子混入
第6層　黄褐色土
第7層　暗黄色土、ローム粒子多量混入
第8層　暗褐色土
第9層　黄褐色土
第1層　黒褐色土、炭化物多量混入
第2層　暗褐色土、ローム粒子多量混入
第3層　灰暗褐色土、粘土粒混入
第4層　灰暗褐色土、粘土粒少量混入
第5層　暗褐色土、ローム粒混入
第6層　暗褐色土、ローム粒子多量混入
第7層　褐色土、ローム混入
第8層　暗褐色土、炭化物・ローム粒子混入
第9層　黄褐色土、ローム粒子多量混入
第10層　灰暗褐色土、粘土粒混入
第11層　暗褐色土、粘土粒混入
第12層　暗褐色土、炭化物混入
第13層　褐色土、ローム粒子混入
0
1m

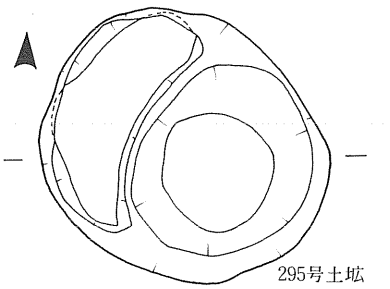
第96図　土坑



293号土坑

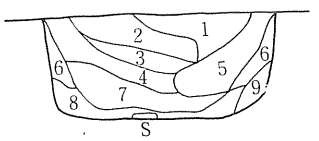


294号土坑



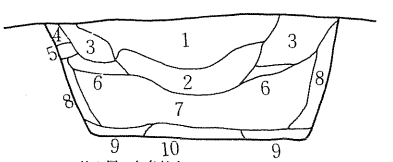
295号土坑

31.40m



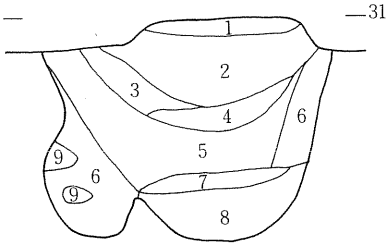
第1層　暗褐色土、炭化物混入
第2層　黄褐色土、粘土粒混入
第3層　褐色土、粘土粒混入
第4層　褐色土、ローム粒子多量混入
第5層　暗褐色土、ローム粒子多量混入
第6層　褐色土
第7層　暗黄褐色土、ローム粒子多量混入
第8層　褐色土
第9層　褐色土

31.50m

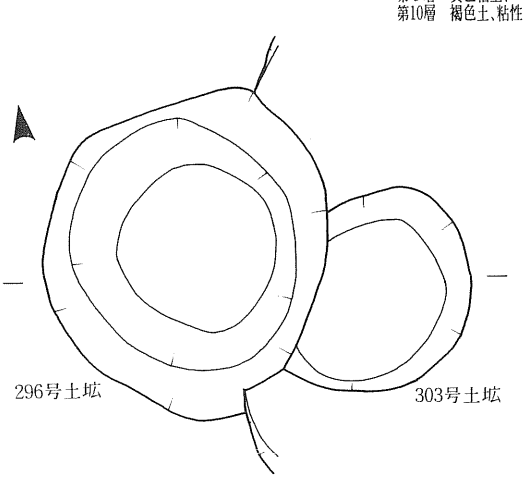


第1層　白色粘土
第2層　黄色粘土
第3層　暗褐色土、ローム粒子・炭化物混入
第4層　暗黄褐色土、炭化物混入
第5層　ロームブロック
第6層　暗褐色土 十ローム
第7層　極暗褐色土、ローム粒子・炭化物混入
第8層　暗黄色土、ロームブロック混入
第9層　黄色粘土、かたくしまっている、炭化物混入
第10層　褐色土、粘性あり、炭化物混入

31.50m

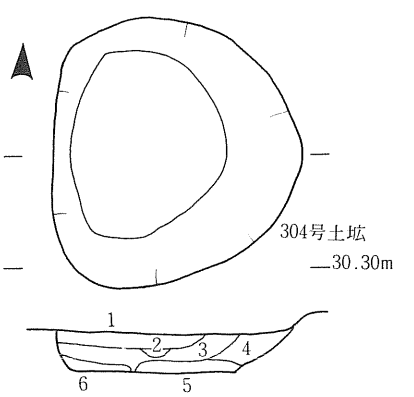


第1層　白色粘土
第2層　黄色粘土
第3層　黄色粘土、かなり粘性あり
第4層　白色粘土、かなり粘性あり
第5層　暗褐色土、炭化物混入
第6層　暗褐色土、ローム粒子・炭化物混入
第7層　黄色粘土、粘性あり
第8層　暗褐色土、粘性あり、ロームブロック・炭化物混入
第9層　ローム



296号土坑

303号土坑

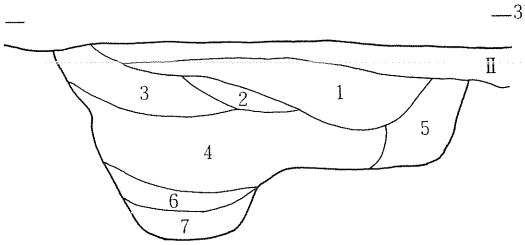


304号土坑

30.30m

第1層　暗褐色土、炭化物・黄褐色粘土粒混入
第2層　暗褐色土
第3層　黄褐色土、炭化物・白色粘土粒混入
第4層　暗黄褐色土、黄褐色粘土粒混入
第5層　灰褐色土、白色粘土粒多量混入
第6層　黄褐色土、砂質

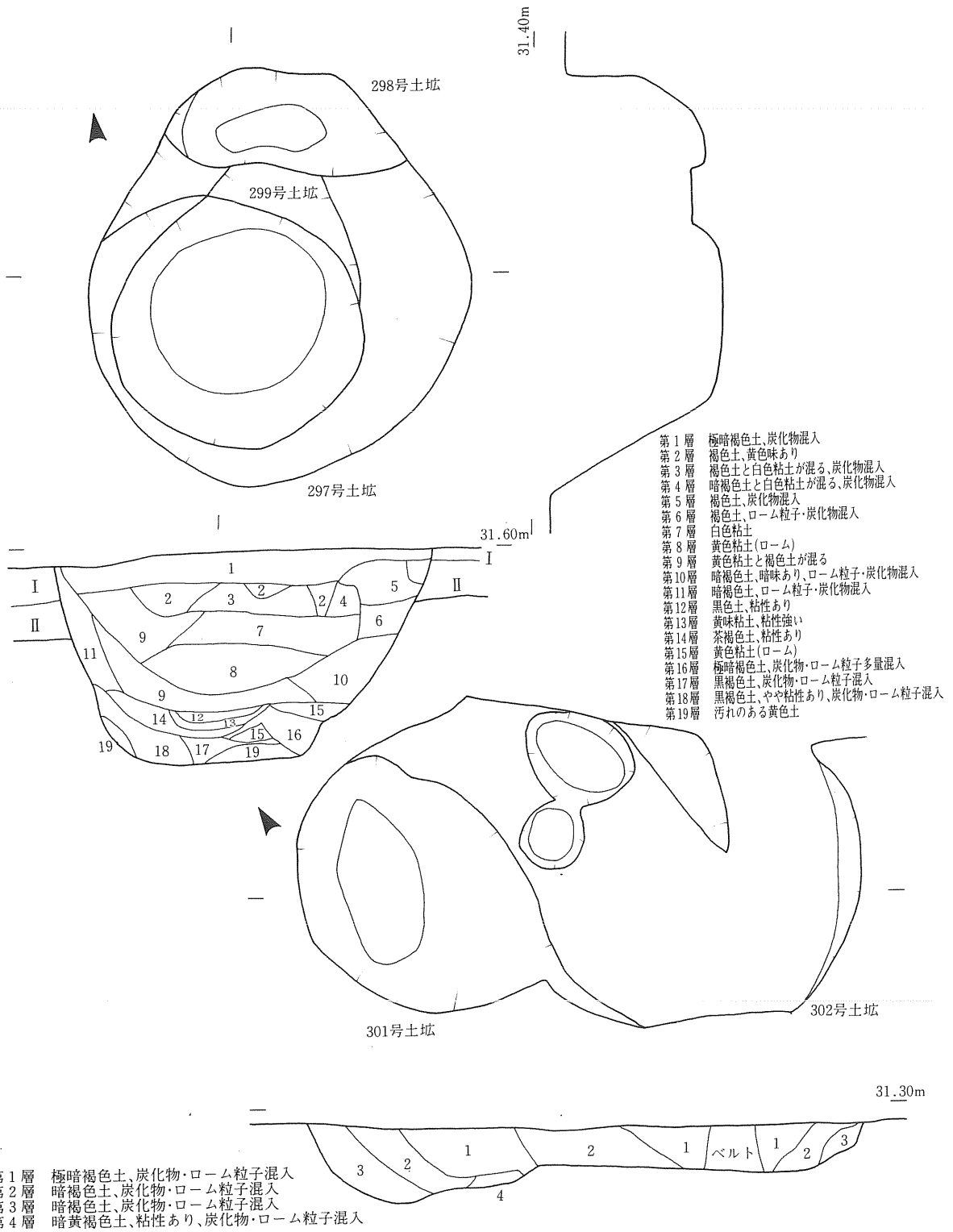
31.30m



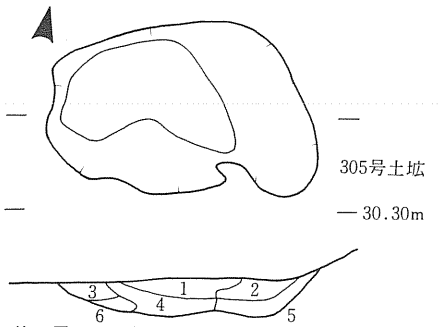
第1層　白色粘土
第2層　暗黄色粘土
第3層　暗褐色土、炭化物混入
第4層　極暗褐色土、ローム粒子・炭化物混入
第5層　暗褐色土、ローム粒子・炭化物混入
第6層　暗黄褐色土、粘性あり、炭化物混入
第7層　暗褐色土、粘性・しまりがあり、ローム粒子・炭化物混入

0　1m

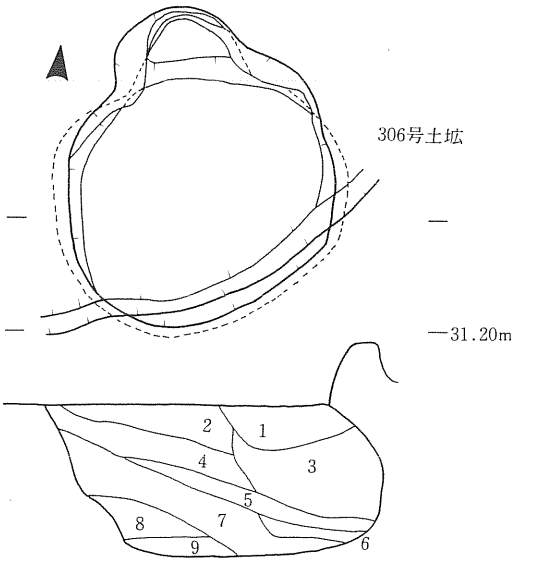
第97図　土坑


298号土坑
299号土坑
297号土坑
31.40m
31.60m
第１層　極暗褐色土、炭化物混入
第２層　褐色土、黄色味あり
第３層　褐色土と白色粘土が混る、炭化物混入
第４層　暗褐色土と白色粘土が混る、炭化物混入
第５層　褐色土、炭化物混入
第６層　褐色土、ローム粒子・炭化物混入
第７層　白色粘土
第８層　黄色粘土(ローム)
第９層　黄色粘土と褐色土が混る
第10層　暗褐色土、暗味あり、ローム粒子・炭化物混入
第11層　暗褐色土、ローム粒子・炭化物混入
第12層　黒色土、粘性あり
第13層　黄味粘土、粘性強い
第14層　茶褐色土、粘性あり
第15層　黄色粘土(ローム)
第16層　極暗褐色土、炭化物・ローム粒子多量混入
第17層　黒褐色土、炭化物・ローム粒子混入
第18層　黒褐色土、やや粘性あり、炭化物・ローム粒子混入
第19層　汚れのある黄色土
301号土坑
302号土坑
31.30m
ベルト
第１層　極暗褐色土、炭化物・ローム粒子混入
第２層　暗褐色土、炭化物・ローム粒子混入
第３層　暗褐色土、炭化物・ローム粒子混入
第４層　暗黄褐色土、粘性あり、炭化物・ローム粒子混入
0
1 m

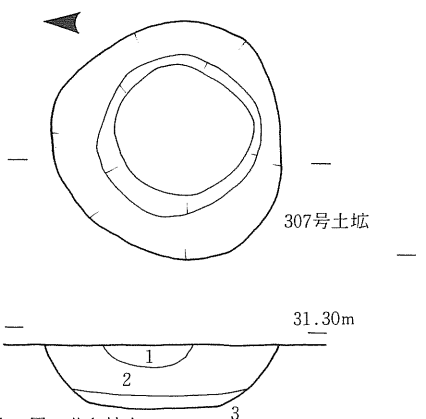
第98図　土坑



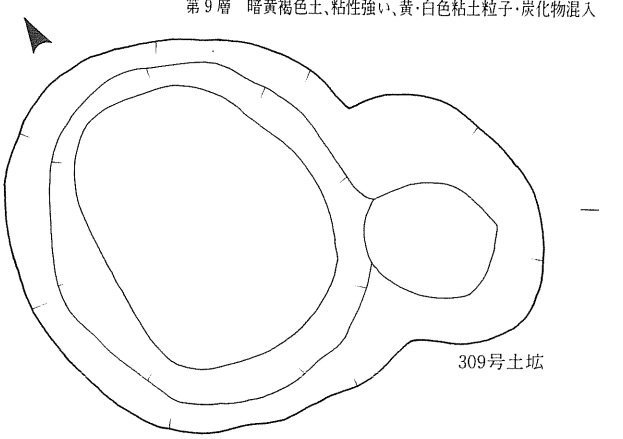
第１層　灰褐色土、白色粘土粒子少量混入
第２層　灰褐色土、白色粘土粒子多量混入
第３層　暗褐色土、白色粘土粒子混入
第４層　暗灰色土、白色粘土粒子混入
第５層　灰褐色土、白色粘土塊混入
第６層　黄褐色土、砂質



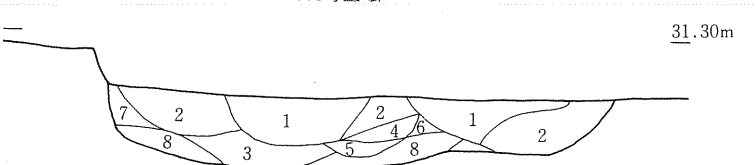
第１層　暗褐色土、粘性あり、ローム粒子・炭化物混入
第２層　暗褐色土、ローム粒子・炭化物混入
第３層　極暗褐色土、ロームブロック粒子・炭化物混入
第４層　暗褐色土、やや黄色味あり、ローム粒子・炭化物混入
第５層　黄白色粘土
第６層　暗褐色土、粘性強い
第７層　暗褐色土、炭化物混入
第８層　暗黄褐色土、ローム粒子・炭化物混入
第９層　暗黄褐色土、粘性強い、黄・白色粘土粒子・炭化物混入



第１層　黄色粘土、ローム
第２層　黒色土、炭化物混入
第３層　暗黄褐色土、炭化物・ローム粒子混入



308号土坑

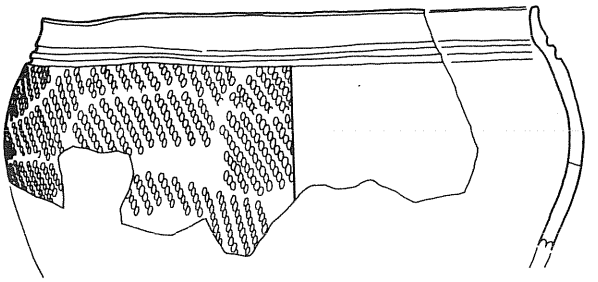


第１層　黒褐色土、炭化物・ローム粒子混入
第２層　黒色土、炭化物・ローム粒子混入
第３層　黒褐色土、第１層よりややしまっている、炭化物・ローム粒子混入
第４層　黄色味ある暗褐色土、炭化物・ローム粒子混入
第５層　黄色味のある黒褐色土
第６層　ロームブロックと黒色土
第７層　黄色粘土、ローム
第８層　黒色土、第２層よりもしまっている、炭化物・ローム粒子混入

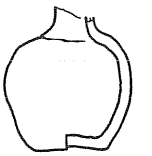
第１層　黒褐色土、炭化物・ローム粒子混入
第２層　黒色土、炭化物・ローム粒子混入

0　1 m

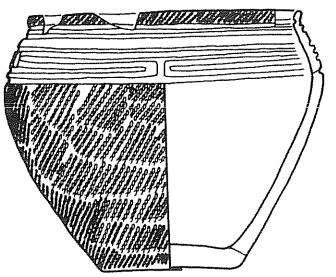
第99図　土坑



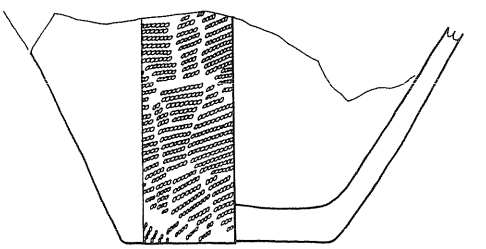
231



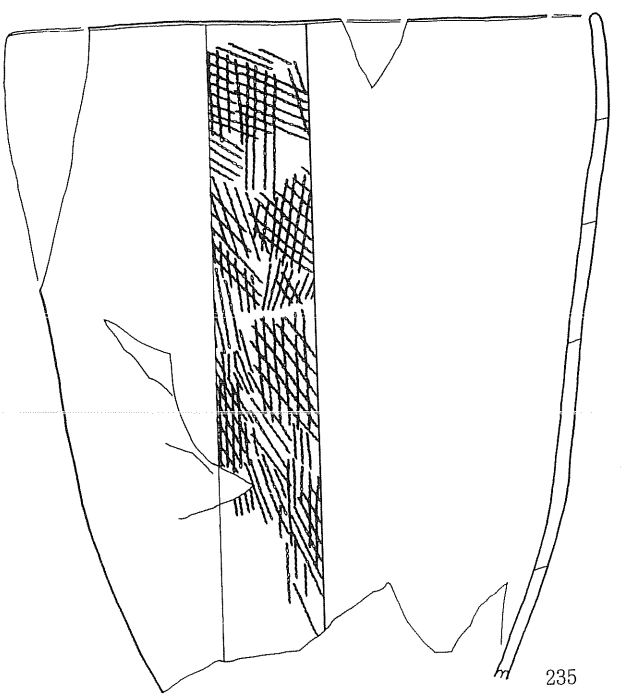
233



232

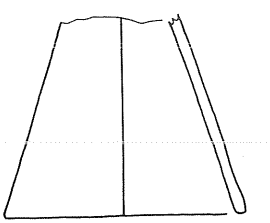


234



235

236

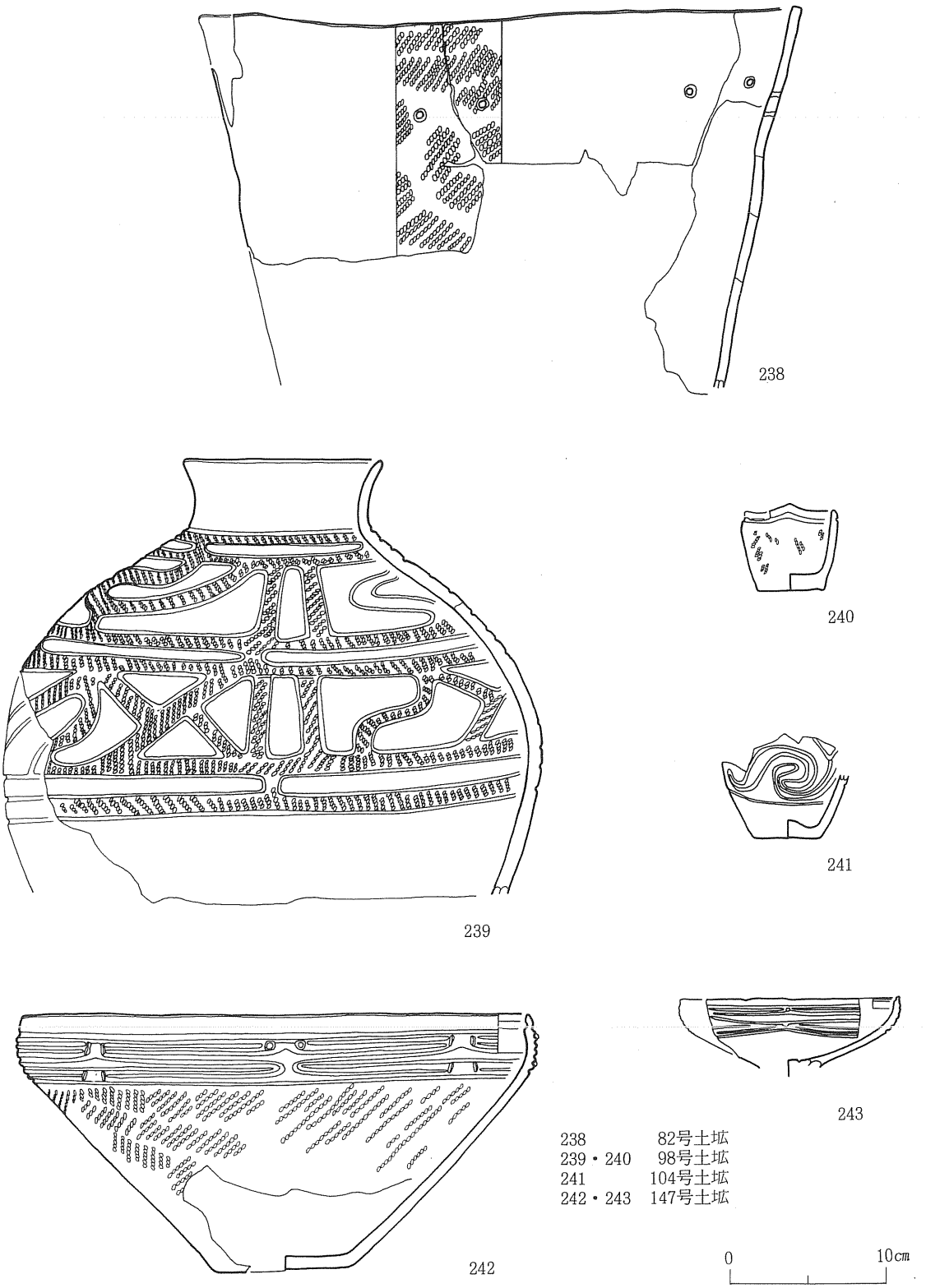


237

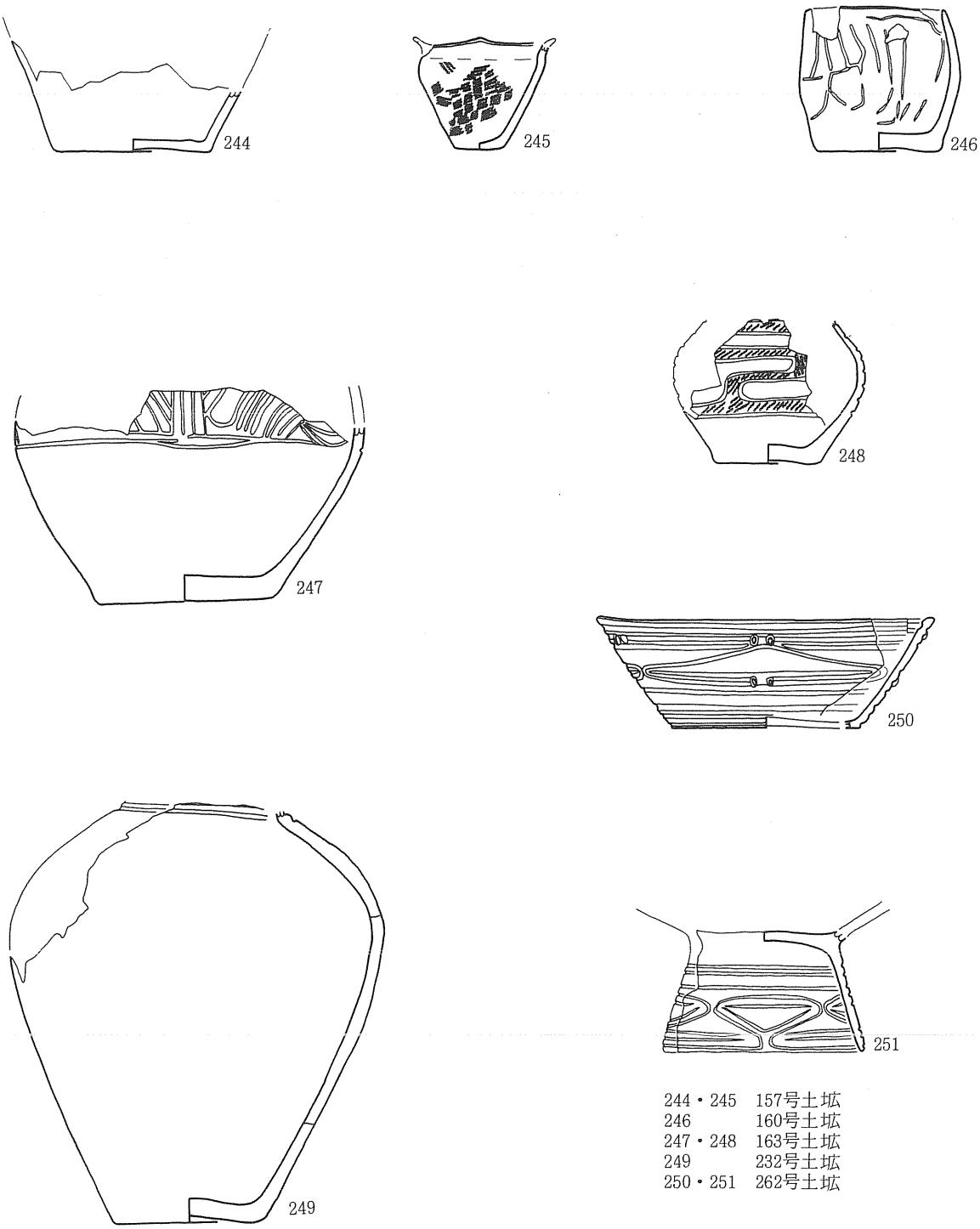
231	48号土坑
232・233	64号土坑
234	71号土坑
235	77号土坑
236・237	82号土坑

0　10cm

第100図　遺構内出土土器



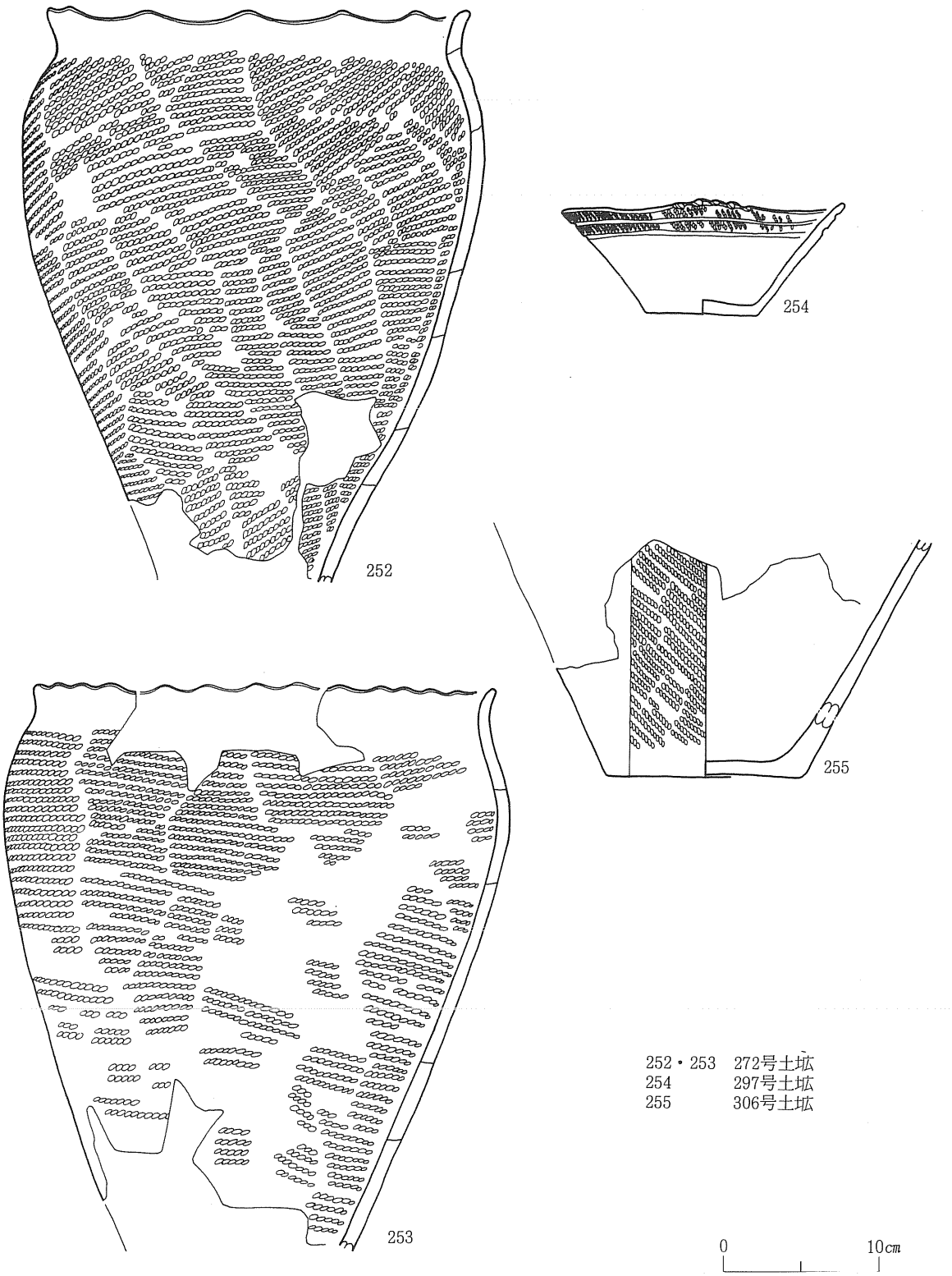
第101図　遺構内出土土器



244・245　157号土坑
246　160号土坑
247・248　163号土坑
249　232号土坑
250・251　262号土坑

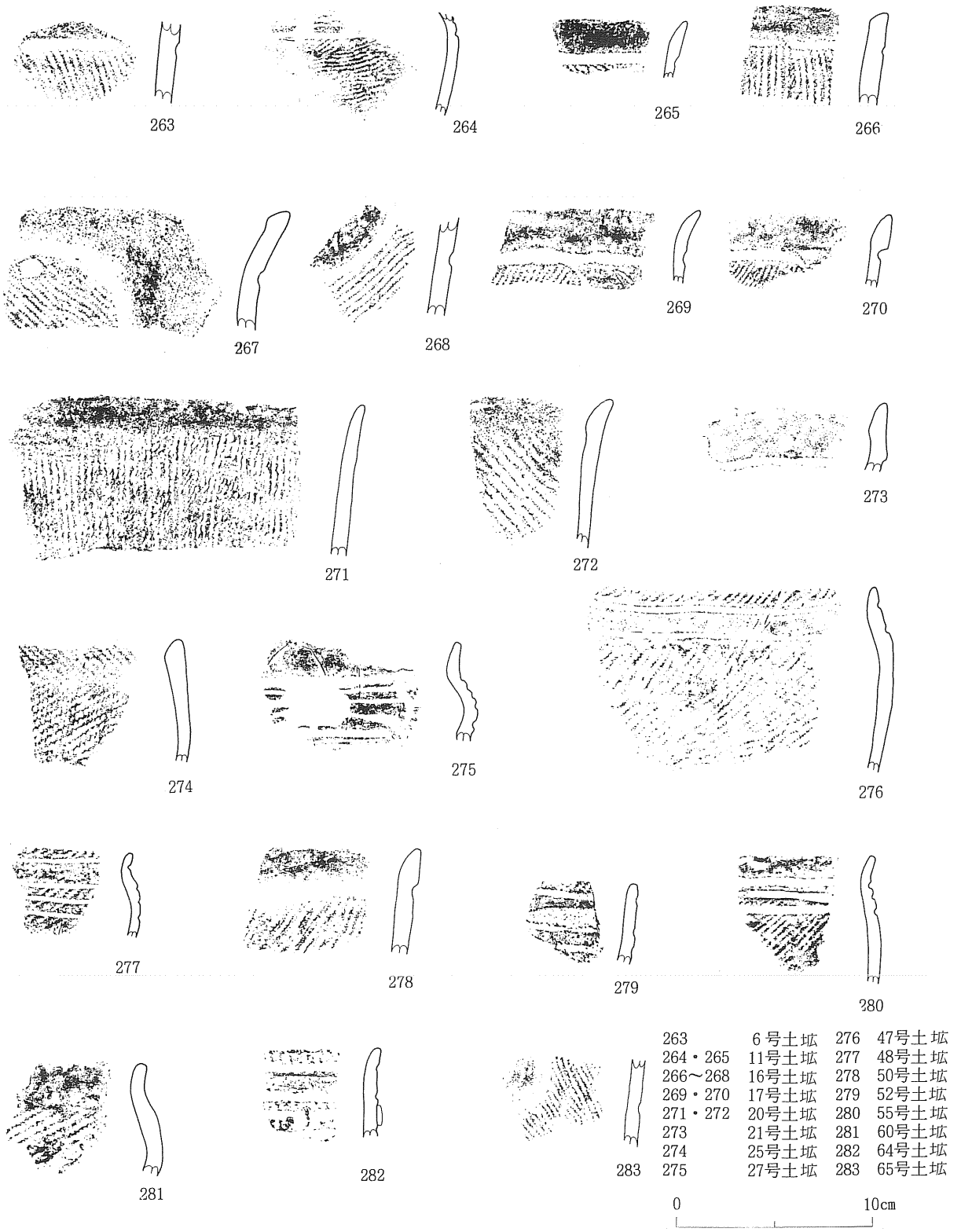
0　10cm

第102図　遺構内出土土器

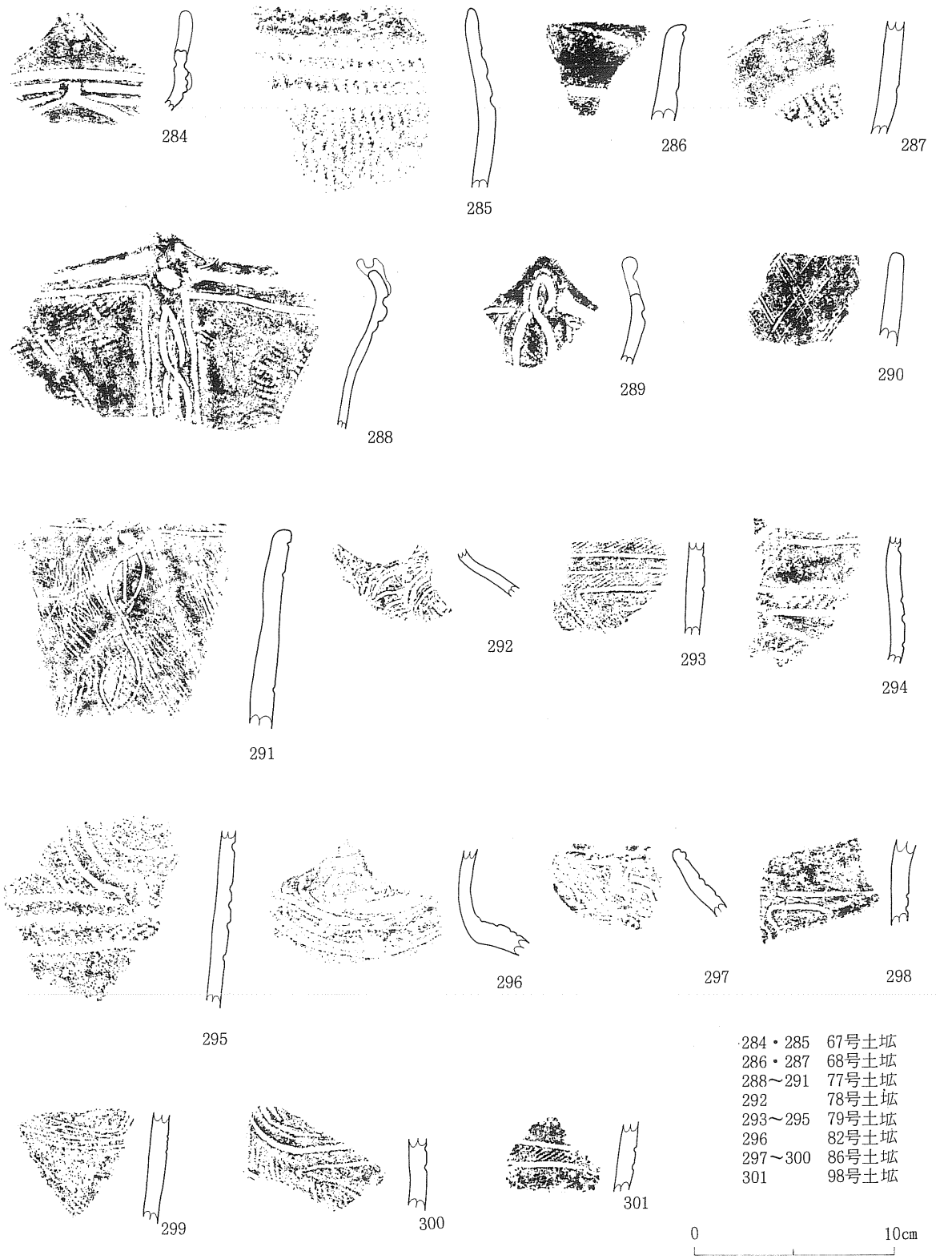


252・253　272号土坑
254　297号土坑
255　306号土坑

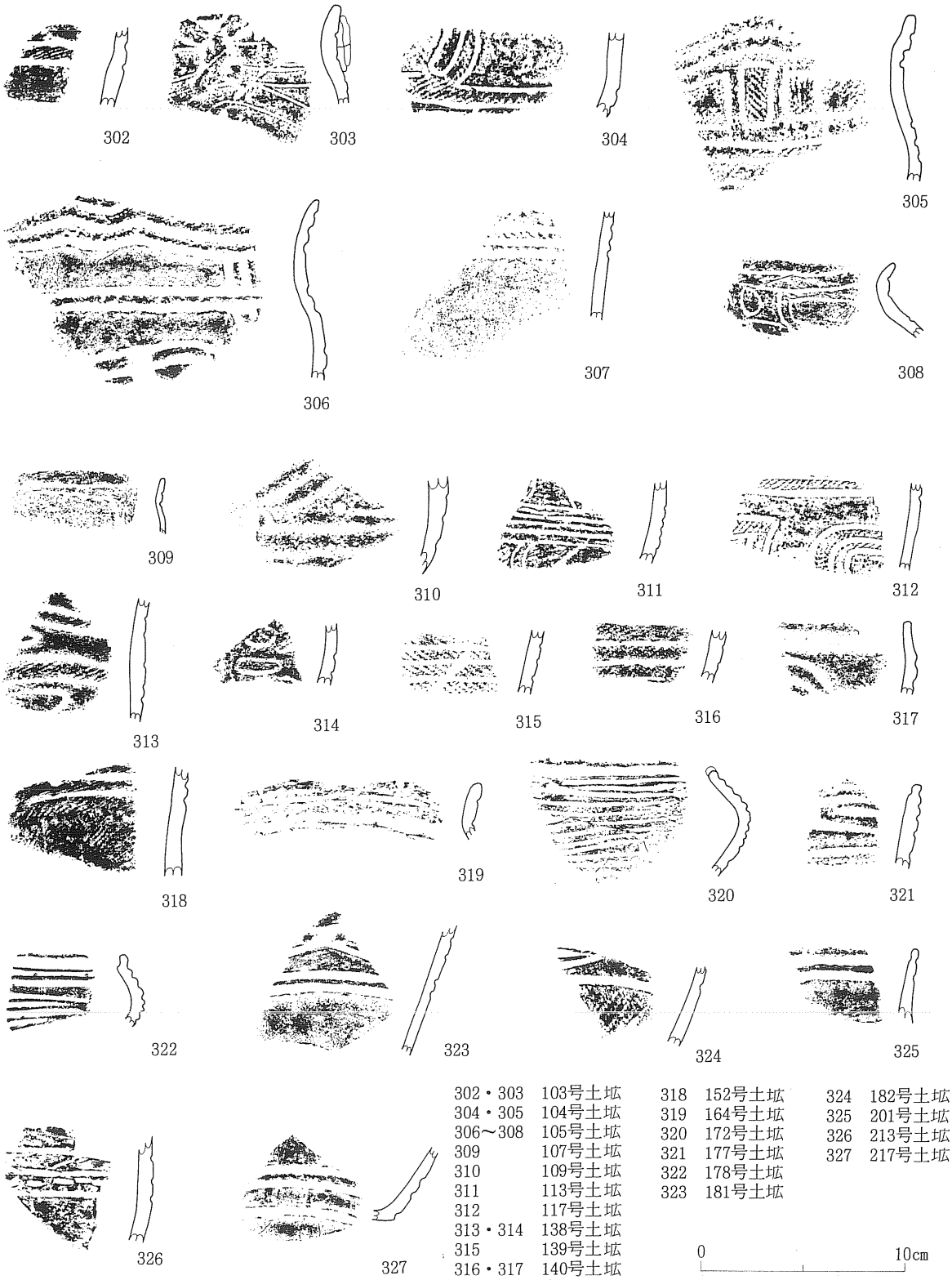
第103図　遺構内出土土器



第104図　遺構内出土土器

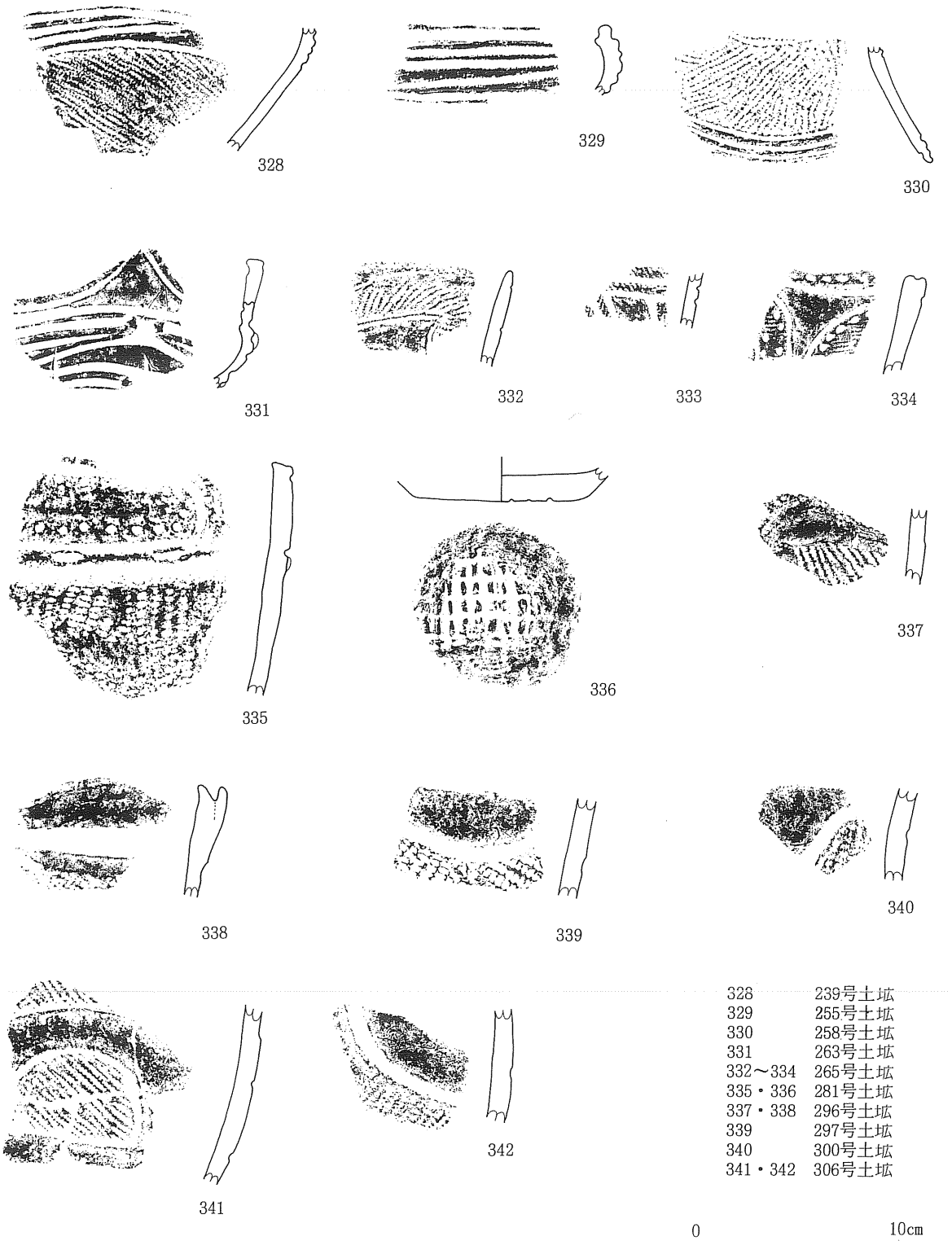


第105図　遺構内出土土器



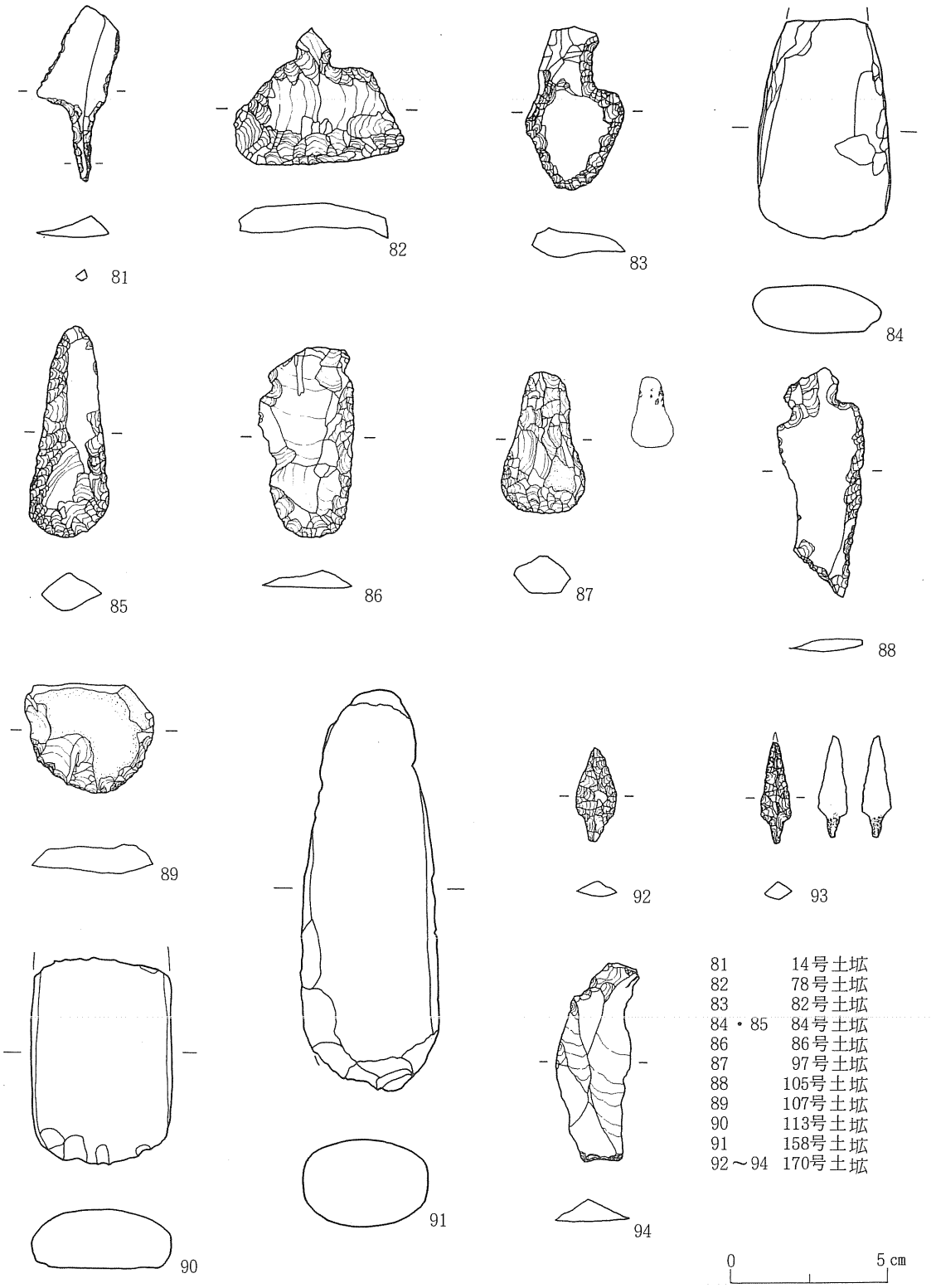
302・303	103号土坑	318	152号土坑	324	182号土坑
304・305	104号土坑	319	164号土坑	325	201号土坑
306～308	105号土坑	320	172号土坑	326	213号土坑
309	107号土坑	321	177号土坑	327	217号土坑
310	109号土坑	322	178号土坑		
311	113号土坑	323	181号土坑		
312	117号土坑				
313・314	138号土坑				
315	139号土坑				
316・317	140号土坑				

第106図　遺構内出土土器



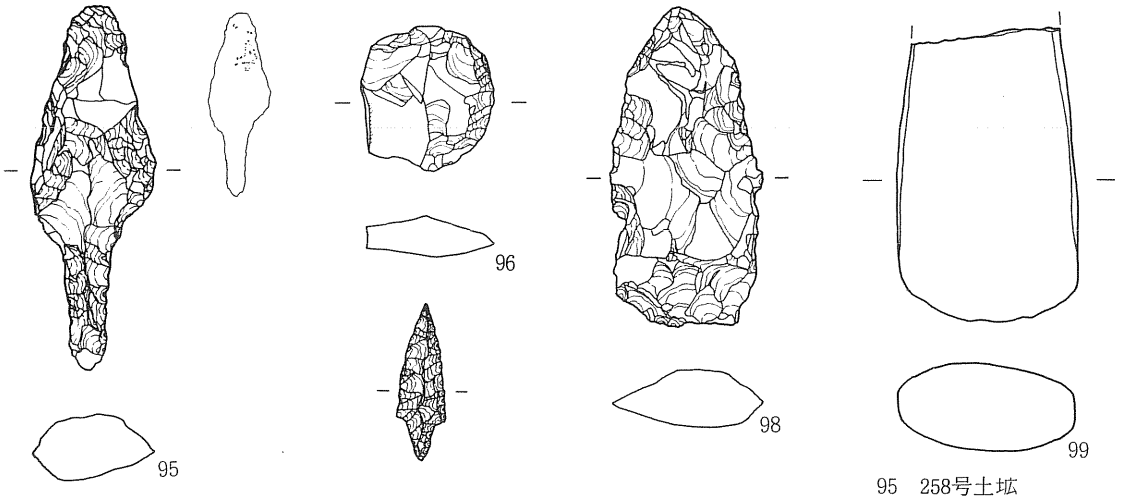
328	239号土坑
329	255号土坑
330	258号土坑
331	263号土坑
332～334	265号土坑
335・336	281号土坑
337・338	296号土坑
339	297号土坑
340	300号土坑
341・342	306号土坑

第107図　遺構内出土土器



81	14号土坑
82	78号土坑
83	82号土坑
84・85	84号土坑
86	86号土坑
87	97号土坑
88	105号土坑
89	107号土坑
90	113号土坑
91	158号土坑
92～94	170号土坑

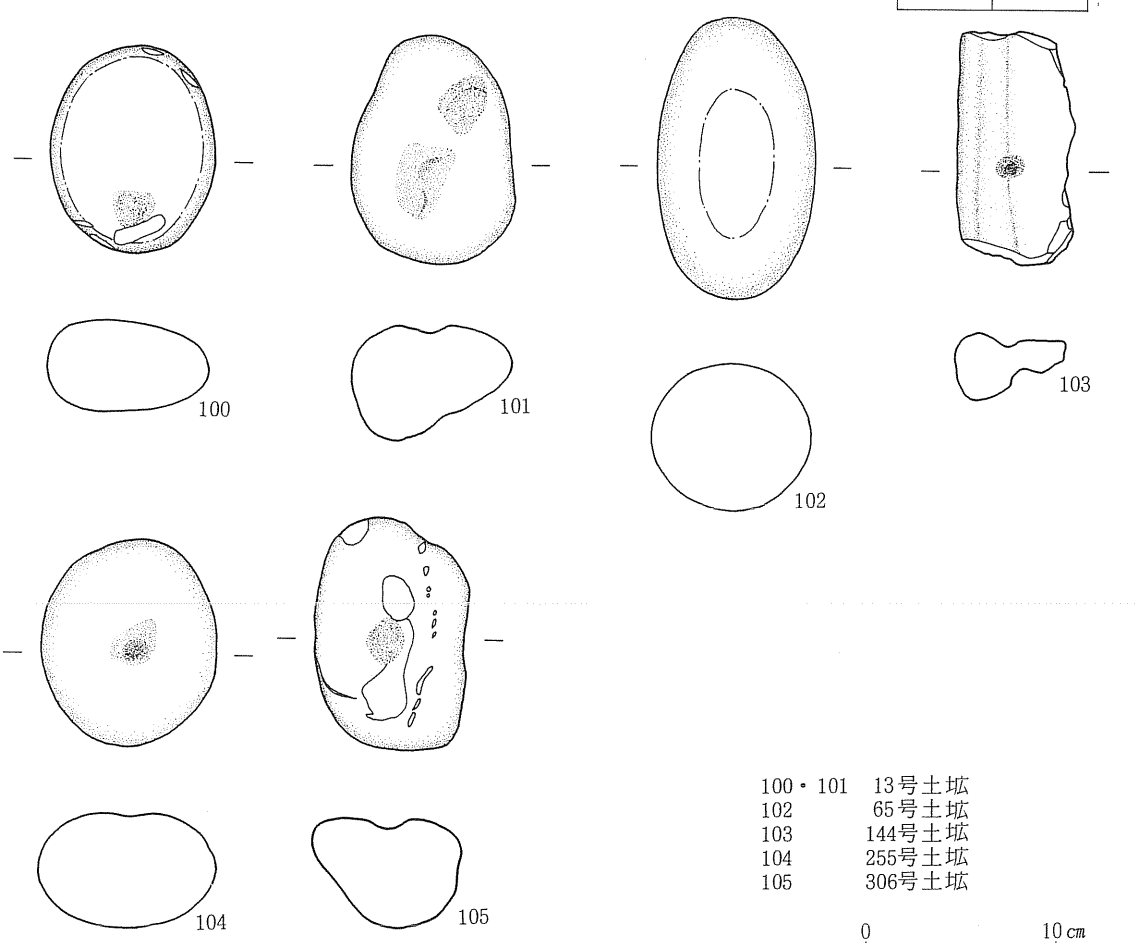
第108図　遺構内出土石器



95　258号土坑
96　265号土坑
97　270号土坑
98　274号土坑
99　279号土坑

0　5 cm

第109図　遺構内出土石器



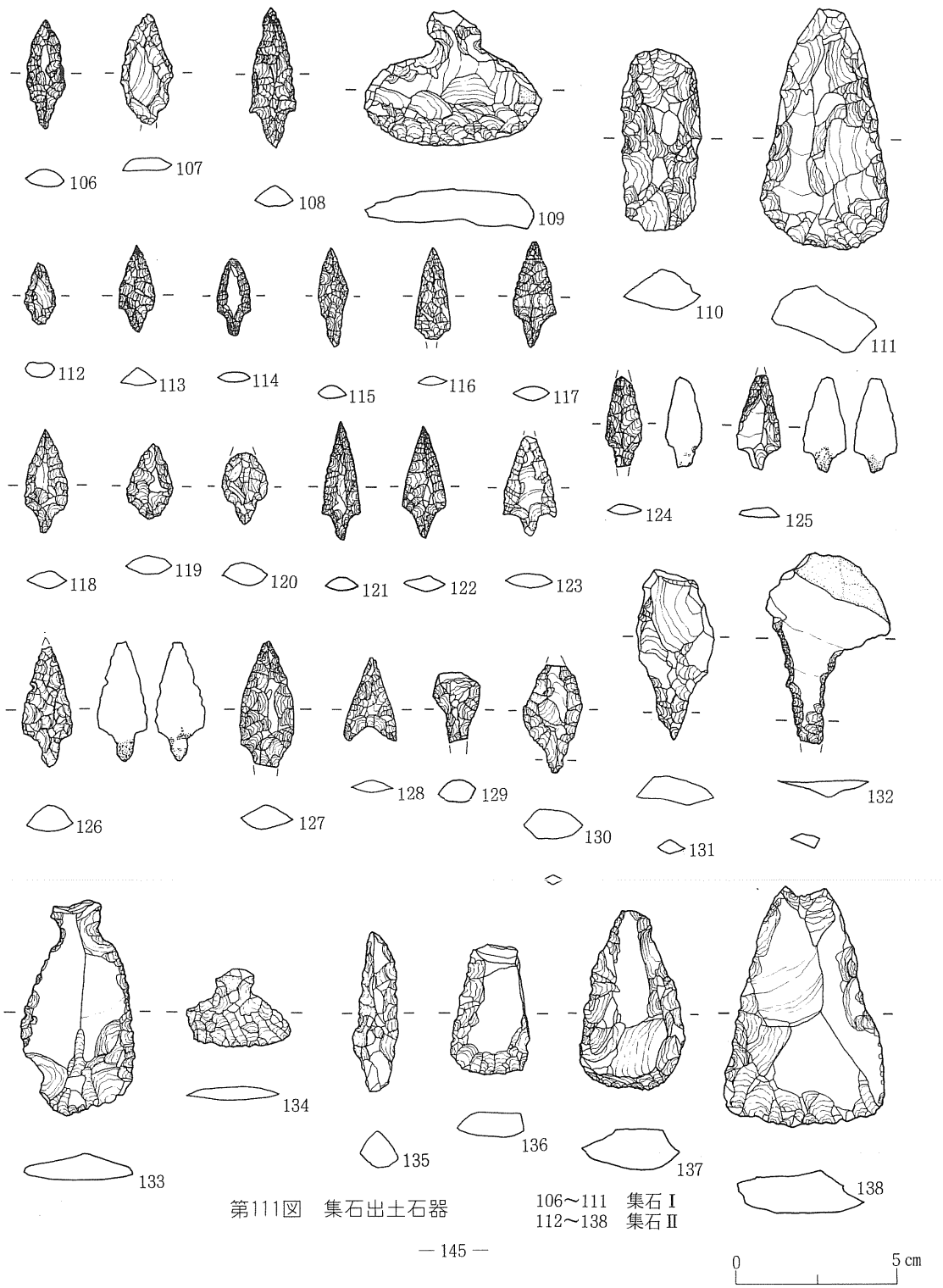
100・101　13号土坑
102　65号土坑
103　144号土坑
104　255号土坑
105　306号土坑

0　10 cm

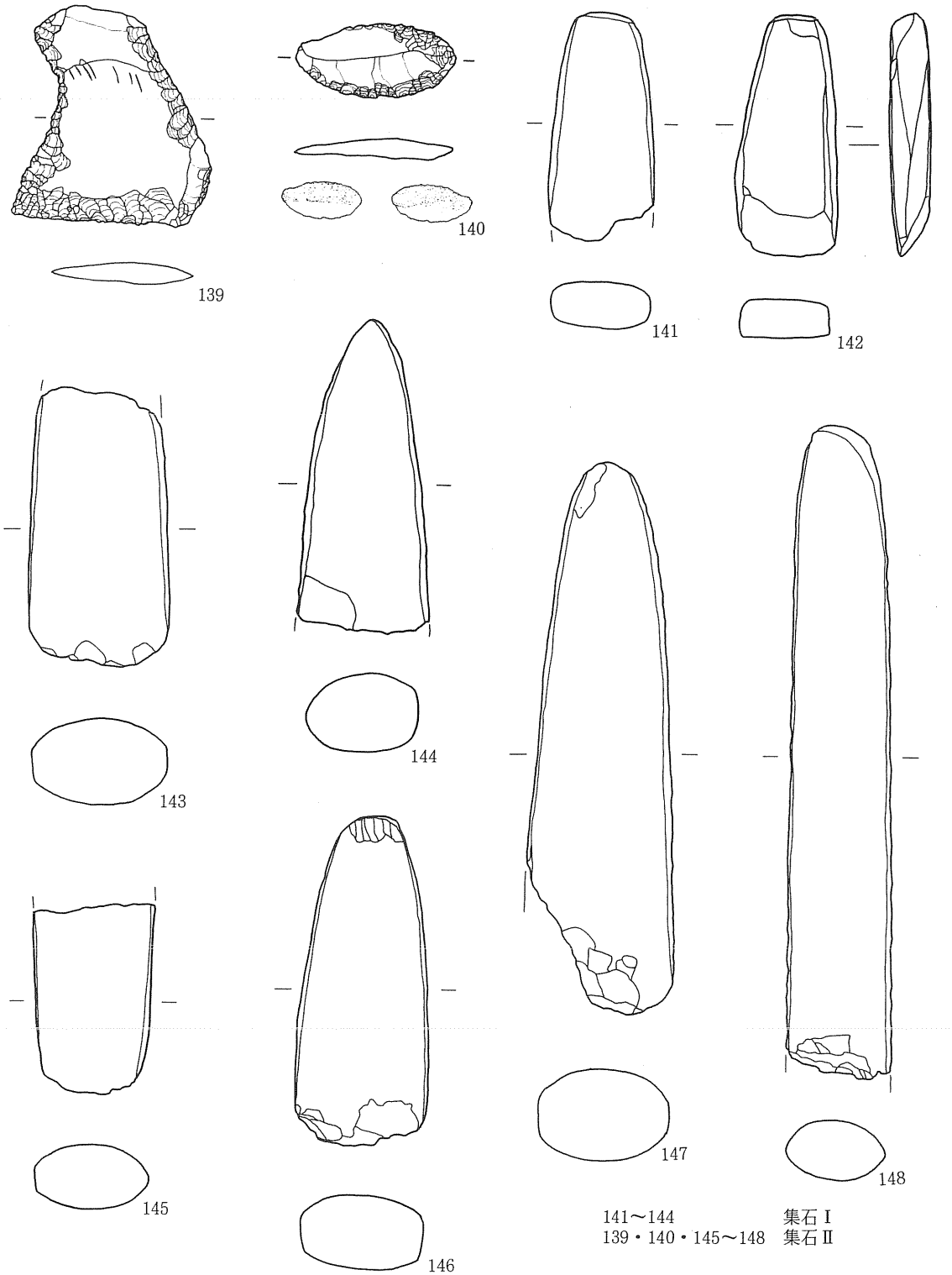
第110図　遺構内出土石器

集石遺構（第 216図）

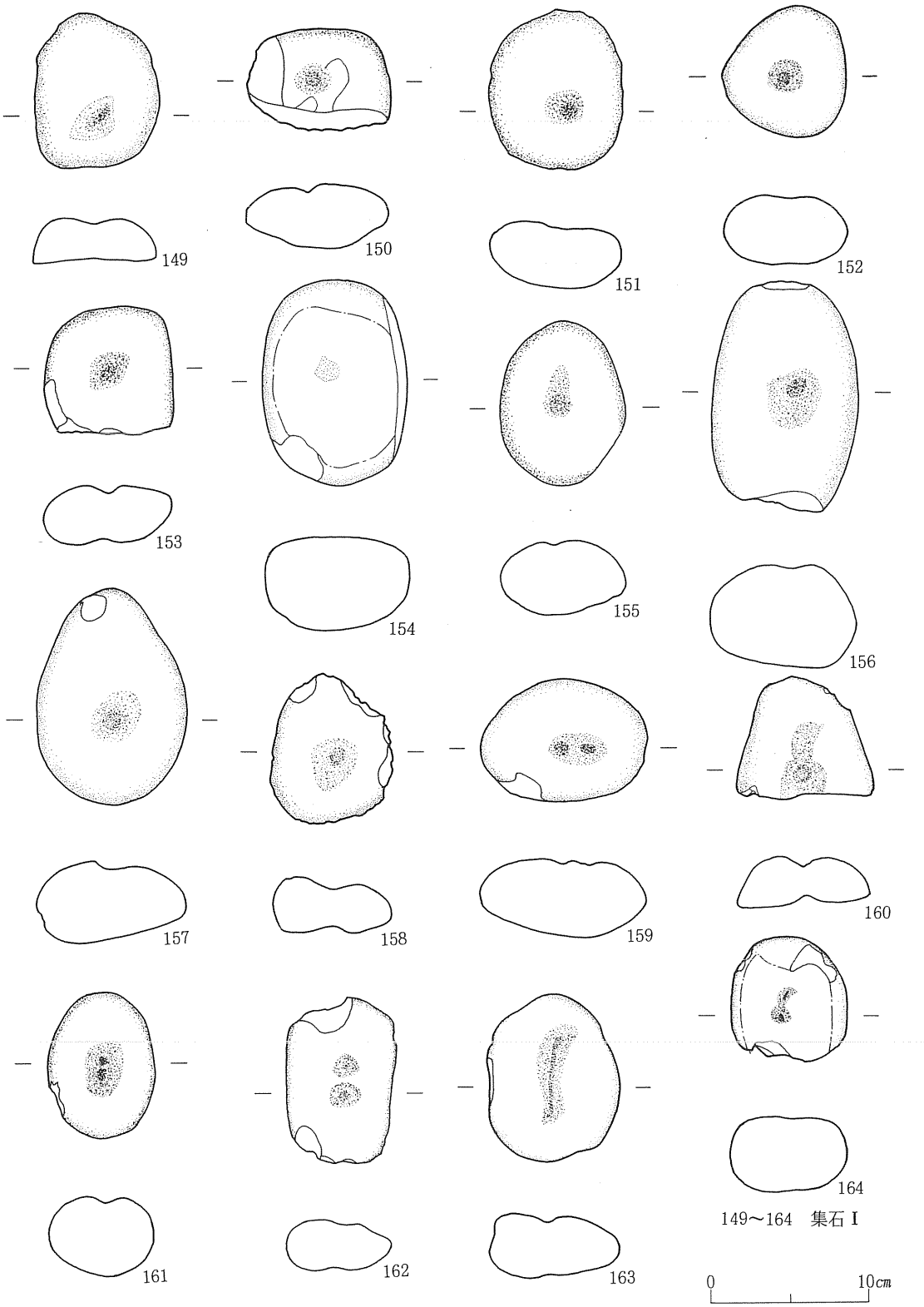
調査区全面に礫が検出されるが、特に多量に集中して検出される箇所を集石Ⅰ、集石Ⅱとした。礫は第Ⅱ層の遺物包含量より10～20cmの厚さで検出され、握りこぶし大から人頭大及び巨礫である。礫の他に土器や石器も多量に出土し、土器はほとんどが破片である。集石Ⅰは調査区の西側で、長軸25m 、短軸20m 、集石Ⅱは調査区の北側で、長軸30m 、短軸10m の範囲である。



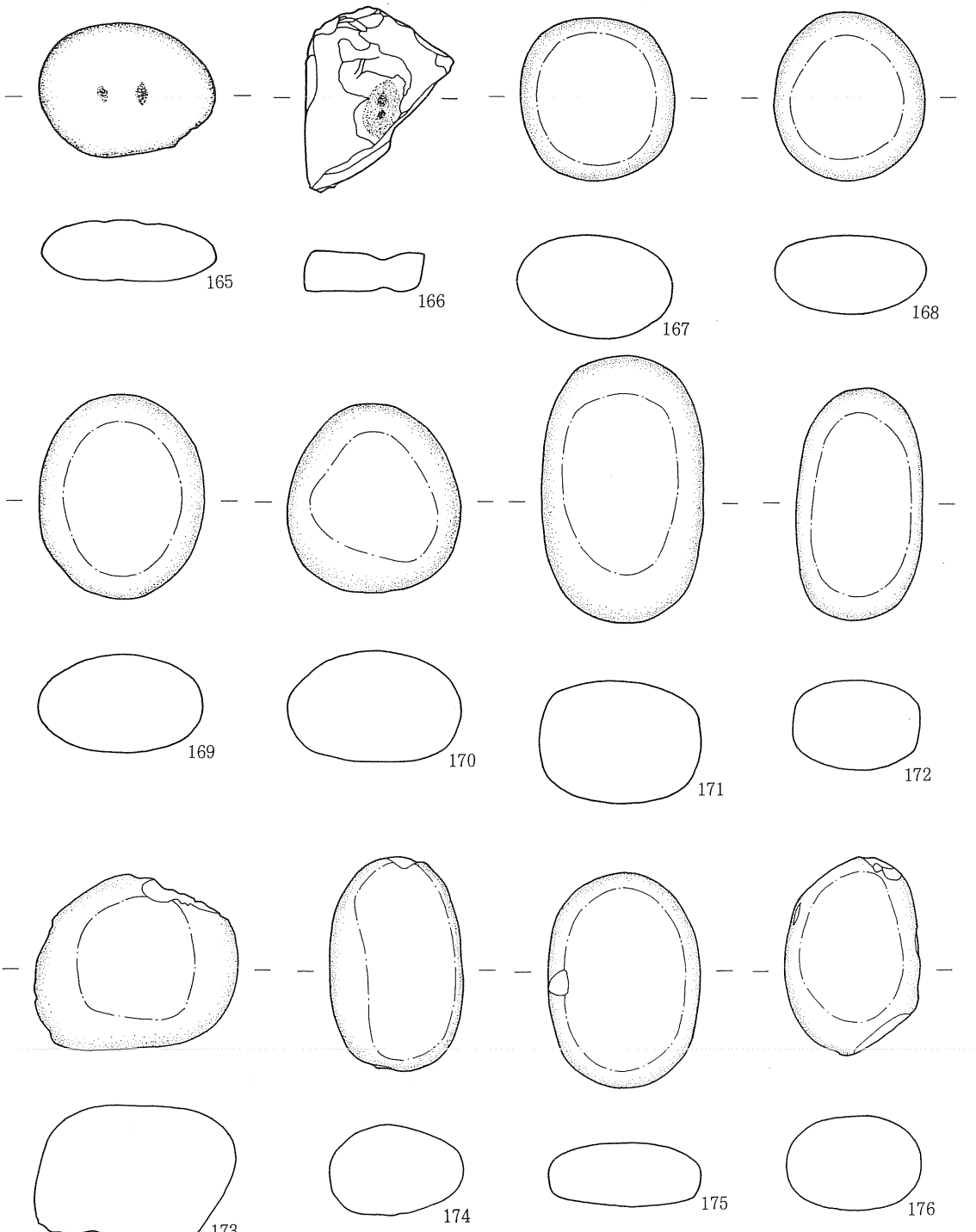
第111図　集石出土石器　　106～111　集石Ⅰ
112～138　集石Ⅱ



第112図　集石出土石器



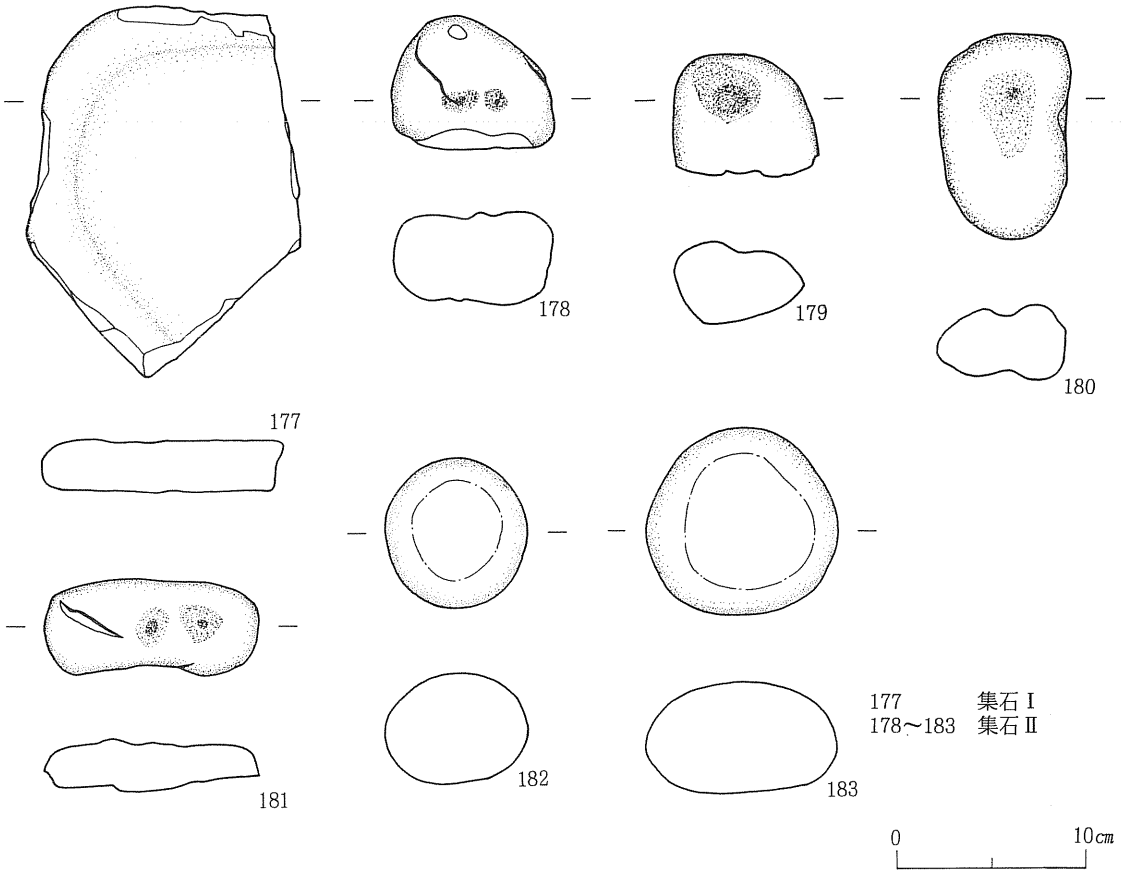
第113図　集石出土石器



165～176　集石Ⅰ

第114図　集石出土石器

0　10cm



第115図　集石出土石器

石器（第111～115図106～183）

106～108・112～128は石鏃である。有茎のものが多く、基部にアスファルトの付着するものもある。石質はほとんど硬質頁岩である。129～132は石錐である。基部と錐部が明瞭に区別されるもので、129・132は錐部が途中で折れている。石質は硬質頁岩である。109・133・134は石匙である。133は縦型である。石質は硬質頁岩である。135は槍先状石器で、石質は硬質頁岩である。110・111・136～138はヘラ状石器である。左右対象で両面加工のものである。石質は硬質頁岩である。139は掻器状石器である。片面加工で、石質は硬質頁岩である。140は鋸歯縁石器である。半月形をなすもので、体上半にアスファルトが付着する。石質は硬質頁岩である。141～147は磨製石斧である。破損品が多く、142は片刃である。石質は凝灰岩である。148は石棒である。断面は凸レンズ状をなし、途中から折れている。石質は粘板岩である。149～166・178～181はくぼみ石である。くぼみ部が数ヶ所みられるもの、片面、両面のものがある。167～176・182・183は磨石、敲石である。全面を磨るもの、側面に敲打痕の認められるものがある。177は石皿状石器である。破損品で、中央部が良く磨れている。

炉（第116図）

１～４号はローム面、５～７号は第Ⅱ層面で検出された。１号は石囲土器埋設炉、２・３号は土器埋設炉、４号は石囲土器埋設部と掘り込み部からなるいわゆる複式炉である。２・３号は埋設土器の周辺は火熱を受けて赤変しているが、１号は判然としない。４号は埋設土器の周辺は火熱を受けて赤変するが、掘り込み部は一部の検出で確認できなかった。５～７号は石が検出されない部分もあるが、石囲炉と考えられる。いずれも炉内が強く火熱を受けて赤変している。

出土遺物

土器（第117図256～258）

256～258は炉埋設土器である。いずれも深鉢形土器である。256・258は胴部で、地文はＬＲ単節斜縄文（縦位回転）である。257は上半分で、口縁部がやや外反する。口縁部は無文帯で、地文はＲＬ単節斜縄文（縦位回転）である。

建物跡（第118図）

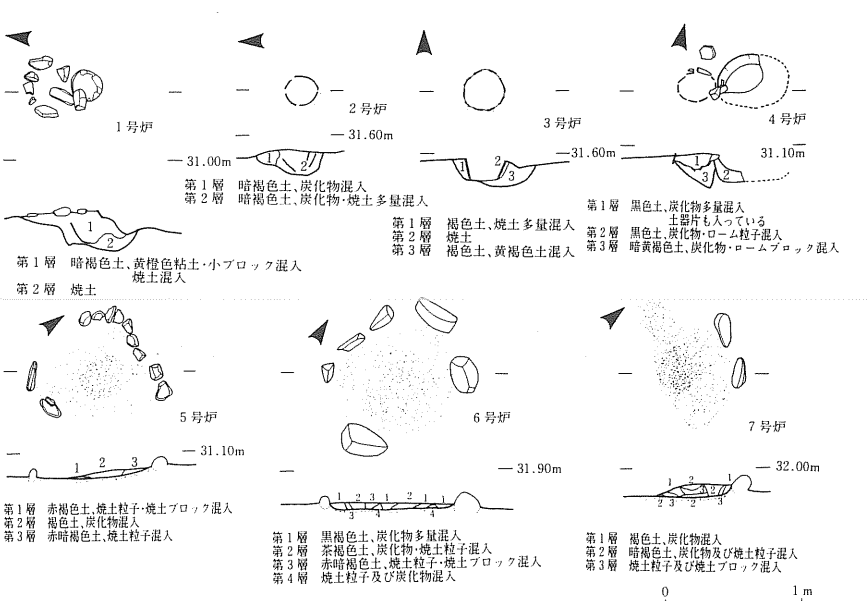
調査区東側で検出された。

梁行１間＝３ｍ×桁行２間＝4.5m（東から2.1m＋2.4m）の掘立柱建物跡である。建物方向は北で東へ２°振れている。掘り方は径70～90cm、深さ99～110cmで、径30～40cmの柱痕が認められる。138号土坑を切っている。

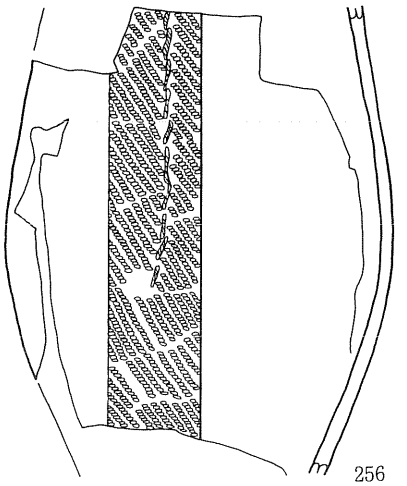
出土遺物

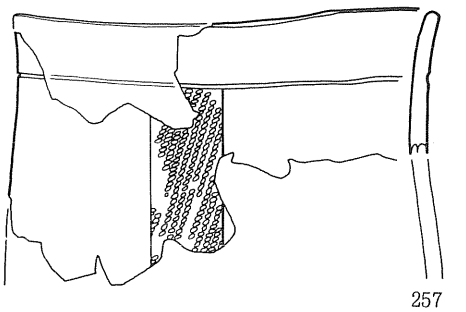
土製品（第159図67）

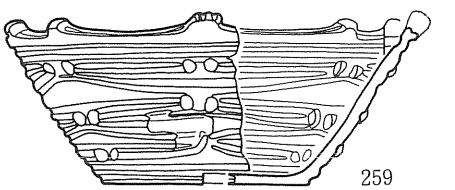
67は南東隅柱より出土した。環状土製品で、欠損している。両側面に沈線が巡る。

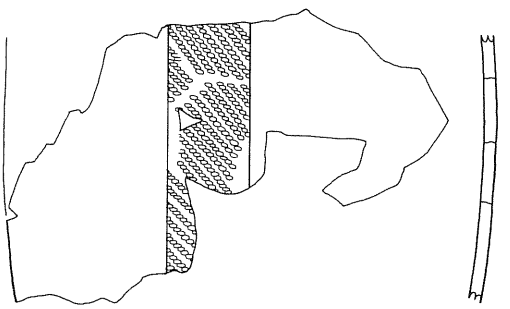


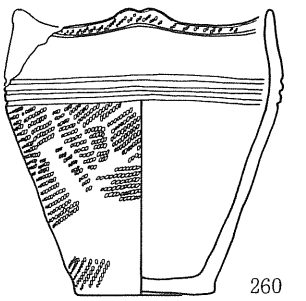
第116図　炉

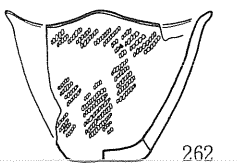


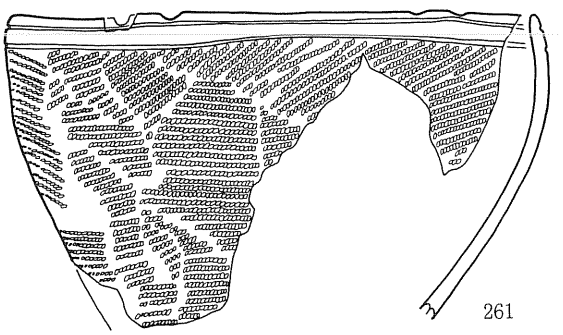








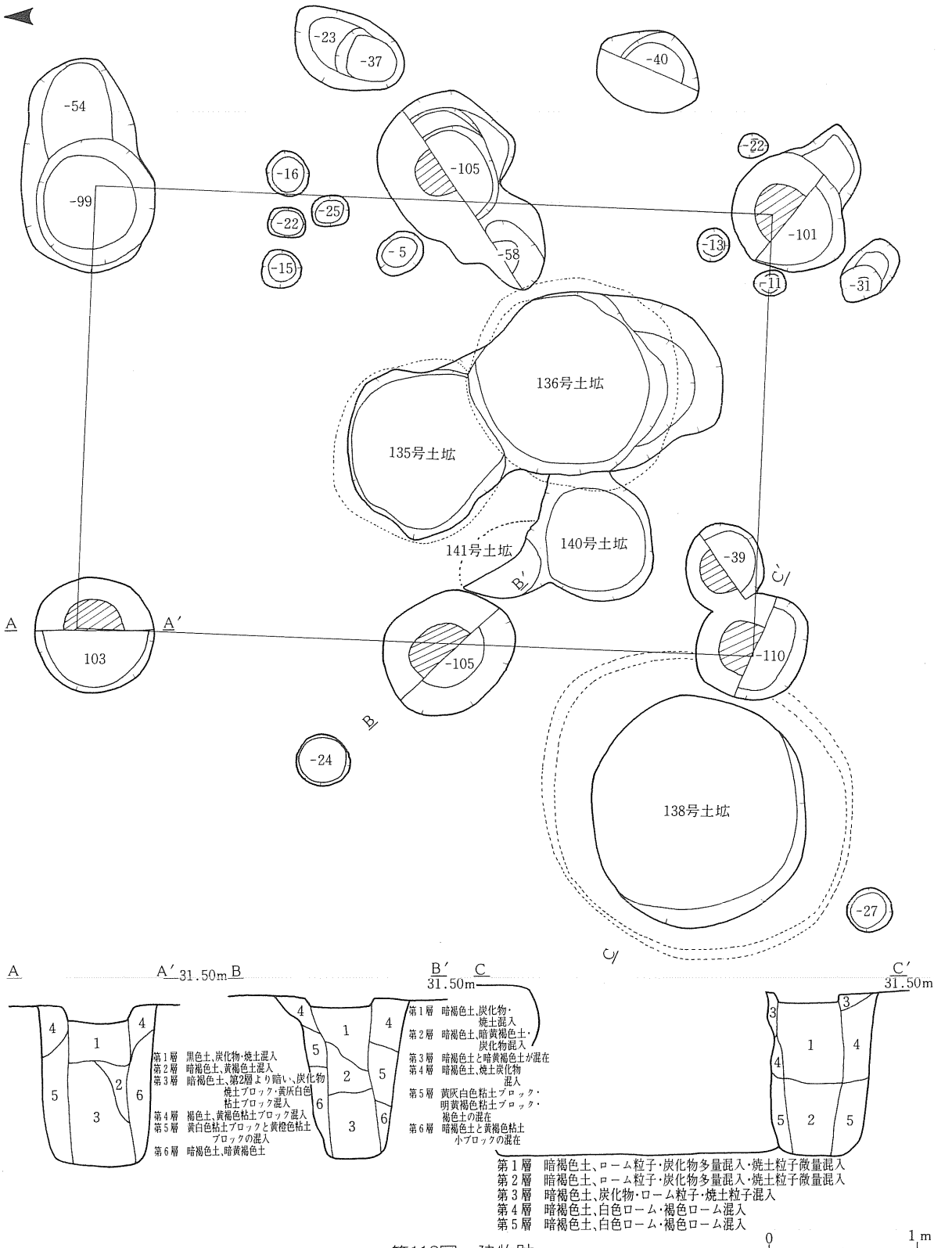




256　1号炉埋設土器
257　2号炉埋設土器
258　3号炉埋設土器
259　ピット（3－C－9グリッド）
260　ピット（11－G－1グリッド）
261　ピット（7－A－2グリッド）
262　北東部落込み

0　10㎝

第117図　遺構内出土土器


-23
-37
-40
-54
-99
-16
-22
-25
-15
-105
-58
-5
-22
-101
-13
-11
-31
136号土坑
135号土坑
140号土坑
141号土坑
-39
A
A′
103
-105
-110
B
B′
C
C′
-24
138号土坑
-27
A
A′ 31.50m B
B′ 31.50m C
C′ 31.50m
第1層　黒色土、炭化物・焼土混入
第2層　暗褐色土、黄褐色土混入
第3層　暗褐色土、第2層より暗い、炭化物焼土ブロック・黄灰白色粘土ブロック混入
第4層　褐色土、黄褐色粘土ブロック混入
第5層　黄白色粘土ブロックと黄橙色粘土ブロックの混入
第6層　暗褐色土、暗黄褐色土
第1層　暗褐色土、炭化物・焼土混入
第2層　暗褐色土、暗黄褐色土・炭化物混入
第3層　暗褐色土と暗黄褐色土が混在
第4層　暗褐色土、焼土炭化物混入
第5層　黄灰白色粘土ブロック・明黄褐色粘土ブロック・褐色土の混在
第6層　暗褐色土と黄褐色粘土小ブロックの混在
第1層　暗褐色土、ローム粒子・炭化物多量混入・焼土粒子微量混入
第2層　暗褐色土、ローム粒子・炭化物多量混入・焼土粒子微量混入
第3層　暗褐色土、炭化物・ローム粒子・焼土粒子混入
第4層　暗褐色土、白色ローム・褐色ローム混入
第5層　暗褐色土、白色ローム・褐色ローム混入
0
1m

第118図　建物跡

遺構外出土土器

遺構外より出土した土器を、縄文時代、弥生時代に大別し、器形と文様について分類した。

縄文時代（第119図343～349、第129～131図446～505）

446～458は沈線区画の磨消帯を曲線的に施すものである。稜線をもつもの、刺突を加飾するものもある。口縁部が無文帯で、胴部地文のものも含めた。口縁部が外反する深鉢形土器が多い。

347・459～463は連鎖状文のみられるものである。口縁部が複雑な作りをするものもみられ、459も含めた。深鉢形の器形である。

343～346・348・349・464～505は数条の平行沈線を主体に文様を作り出すものである。平行沈線は平行・弧状・「S」字状・渦巻状などの文様が施され、沈線間の地文を磨消すものと残すものがある。器形は深鉢形・鉢形・壺形がみられ、348は注口土器、349は磨消縄文を施す小形の壺形土器である。502～505は把手部で、複雑な作りをするものである。

弥生時代

甕形土器（第120・121図350～359、第132～140図506～695）

口縁部が外反し、胴上部に張りのある器形のものが多い。平縁口縁が多く、波状口縁や小突起をもつものもある。文様は口縁部が無文帯のもの、口唇部及び口縁上部に地文が残り中間を磨消しするもの、全面が地文のもの、沈線を巡らすもの、沈線と列点文を巡らすものがある。

350・506～541は口縁部が無文帯のものである。地文を磨消しするもので、平縁口縁（506～515）と波状口縁（350・516～541）とがある。刷毛目調整の見られるものもあり、地文はＬＲ単節斜縄文が多く、512はＲＬ単節斜縄文（横位回転）、541はＲℓ無節斜縄文（横位回転）で内面にも施される。

351・542～561は口唇部及び口縁上部に地文が残り中間を磨消しするものである。全て平縁口縁で、542～548は口唇部に、351・549～561は口縁上部に地文が認められる。地文はＬＲ単節斜縄文が多い。

352・562～564は全面が地文のものである。平縁口縁が多く、口唇部に地文はない。地文はＬＲ単節斜縄文である。

565～621は１～５条の沈線が巡り、口縁部が無文帯となるものである。口縁部は外反するものが多く、平縁口縁、波状口縁、口唇部に小突起をもつものがみられる。口唇部に地文をもつものも認められる。地文はＬＲ単節斜縄文が多く、刷毛目調整痕の残るものもある。622～625は頸部に１～２条の沈線が巡り、口縁上部に地文が残るものである。口縁部は外反するもので、625は波状口縁である。622は全面に地文があり、他は口縁上部を残して磨消しする。356・626～666は口縁上部に１条の沈線と、頸部に１～４条の沈線が巡るものである。口縁部は外反するものが多く、平縁口縁、波状口縁、口唇部に小突起をもつものがある。口縁部の沈線間は磨消しされるもので、623・624は口縁上部の沈線より上方が磨消しされ、他は地文が残る。地文はＬＲ単節斜縄文が多い。667～683は口縁上部に２条の沈線と、頸部に２～４条の沈線が巡るものである。口縁部は外反するものが多く、平縁口縁、波状口縁、口唇部に小突起をもつものがある。口縁部の沈線間は磨消しされるもの

で、口縁上部の沈線より上方に地文が残る。地文はＬＲ単節斜縄文が多い。684は口縁上部に3条の沈線と、頸部に４条の沈線が巡るものである。685～687は口縁部に４・５条の沈線が巡るもので、686の沈線間は磨消しされている。地文は685がＲＬ単節斜縄文（横位回転）、他はＬＲ単節斜縄文（縦・斜位回転）である。

688～695は列点文を施すものである。口縁部は外反するものが多く、平縁口縁である。列点文は平行沈線の下方に施すものと、沈線間に施すものがある。地文はＬＲ単節斜縄文（横位回転）で、口縁上部及び口唇部に認められるものもあり、刷毛目調整痕の残るものもある。

鉢形土器（第121～125図360～399、第142～145図696～767）

口径が比較的大きいもの、比較的小形で甕形土器に近いもの、体部から口縁部にかけて内湾しながら斜め上方に立ち上がるもの、体部から口縁部にかけてほぼ直線的に斜め上方に立ち上がるものがある。

379・380・696～706は口径が比較的大きいもので、浅鉢形土器に近い器形をなすものである。口縁部は内湾気味に立ち上がる平縁口縁のものが多く、口唇部に705はくぼみが、706は突起がみられる。文様は平行沈線文、変形工字文などが施される。地文はＬＲ単節斜縄文（縦位回転）である。

360～372、707～728は比較的小形で甕形土器に近いものである。口縁部は直立又は外反するものが多く、平縁口縁、波状口縁、山形口縁、口唇部に小突起をもつものがある。文様は無文帯、平行沈線文、変形工字文のもので、２個１対の粘土粒が付くものもある。台付きのものもあり地文はＬＲ単節斜縄文が多い。

373～378・381・382・729～743は体部から口縁部にかけて内湾しながら斜め上方に立ち上がるものである。平縁口縁が多く、口唇部に２個１対の小突起あるいは小さな山形突起をもつものがあり、内面に１条の沈線が巡るものである。文様は変形工字文を施すもので、２個１対の粘土粒が付くものがある。体全面に文様が施されるもの、体下部に地文が残るものと磨かれるものがあり、地文はＬＲ単節斜縄文である。

383～389・744～767は体部から口縁部にかけてほぼ直線的にあるいは幾分内湾気味に斜め上方に立ち上がるもので、体部が直立するものもある。平縁口縁が多く、口唇部に２個１対の小突起あるいは二又の小突起の付くものがあり、内面に１～２条の沈線が巡るものである。文様は変形工字文を施すもので、２個１対の粘土粒の付くものが多い。体全面に文様が施されるもの、体下部に地文が残るものと磨かれるものがあり、地文はＬＲ単節斜縄文が多い。

390・391は体部から口縁部にかけて内湾しながら斜め上方に立ち上がるもので、390は４脚が、391は台の付くものである。390は口縁部が二又の山形口縁をなし、山形口縁の下に２個１対の孔（４単位か）をもつもので、脚は外側へ反るものである。脚の付根部分には細い粘土紐を数本貼り付けて刻みを入れている。392～399は台部で、鉢形土器に付くものである。沈線を巡らすもの、無文のもの透しのあるものがある。

高坏形土器（第125図400～404、第146図768～785）

頸部から口縁部にかけてのものと、脚部の資料である。頸部が内湾気味にくびれて口縁部が外傾する器形で、比較的口径の大きいものである。口唇部に小突起や頂部の肥大する突起が付く。文様は変形工字文が施され、2個1対の粘土粒の付くものが多い。 400～404・784・785は脚部で直線的なものと、幾分膨らみのあるものがある。上・下端に１～３条の沈線を巡らすもの、上・下端の平行沈線間に３条の平行沈線及び波状沈線を巡らすものがある。

壺形土器（第125・126図405～414、第147図786～799）

薄手のものと厚手のものがある。405～413、786～791は薄手のもので、小形のものもみられる。口縁部はゆるく外反し、平縁口縁で、小突起をもつものもあり、内面に沈線が巡る。414･792～799は厚手のもので大形の器形をなし、土器棺の破片と考えられる。口縁部はゆるく外反し、平縁口縁である。頸部と肩部に平行沈線及び列点文を施すものである。刷毛目調整痕の認められるものもあり、地文はＬＲ単節斜縄文、ＲＬ単節斜縄文が見られる。

蓋形土器（第126・127図415～429、第148図800～808）

笠形をなすもの、逆皿状をなすもの、円盤状をなすものがある。

415～419、800～807は笠形をなすものである。体部の文様は変形工字文、平行沈線文などで、刺突を施すものもある。地文はＬＲ単節斜縄文が多く、地文のみのもの、刷毛目調整痕のみられるものもある。419は小形で、頂部に小さなつまみをもち、対象的に２個１対の孔が穿たれている。

420～427・808は逆皿状をなすものである。上面が平坦で、対象的に２個１対、１個１対の孔が穿たれるものもあり、422は側面に穿たれている。上面は沈線で同じ円文や４区画の十字状文などが施され、側面にも平行沈線文などを施す。808は上面に地面を施すものである。425は刺突が加飾され、427は無文である。

428・429は円盤状をなすものである。428は対象的に２個１対、429は対象的に１個１対の孔が穿たれるが、428は５個みられる。いずれも無文である。

その他の土器（128図430～445）

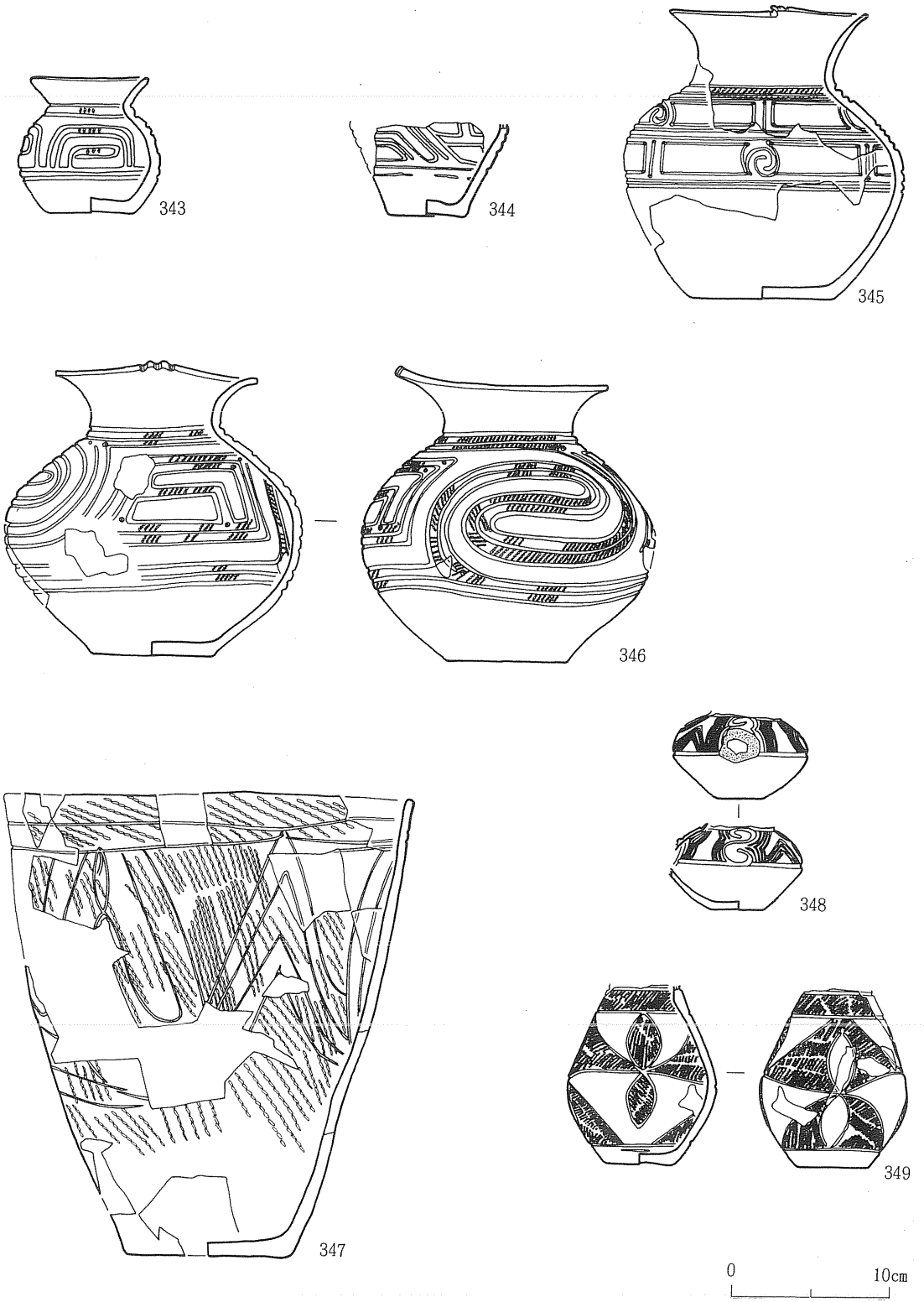
小形の土器を一括したものである。

籾圧痕土器（図版83）

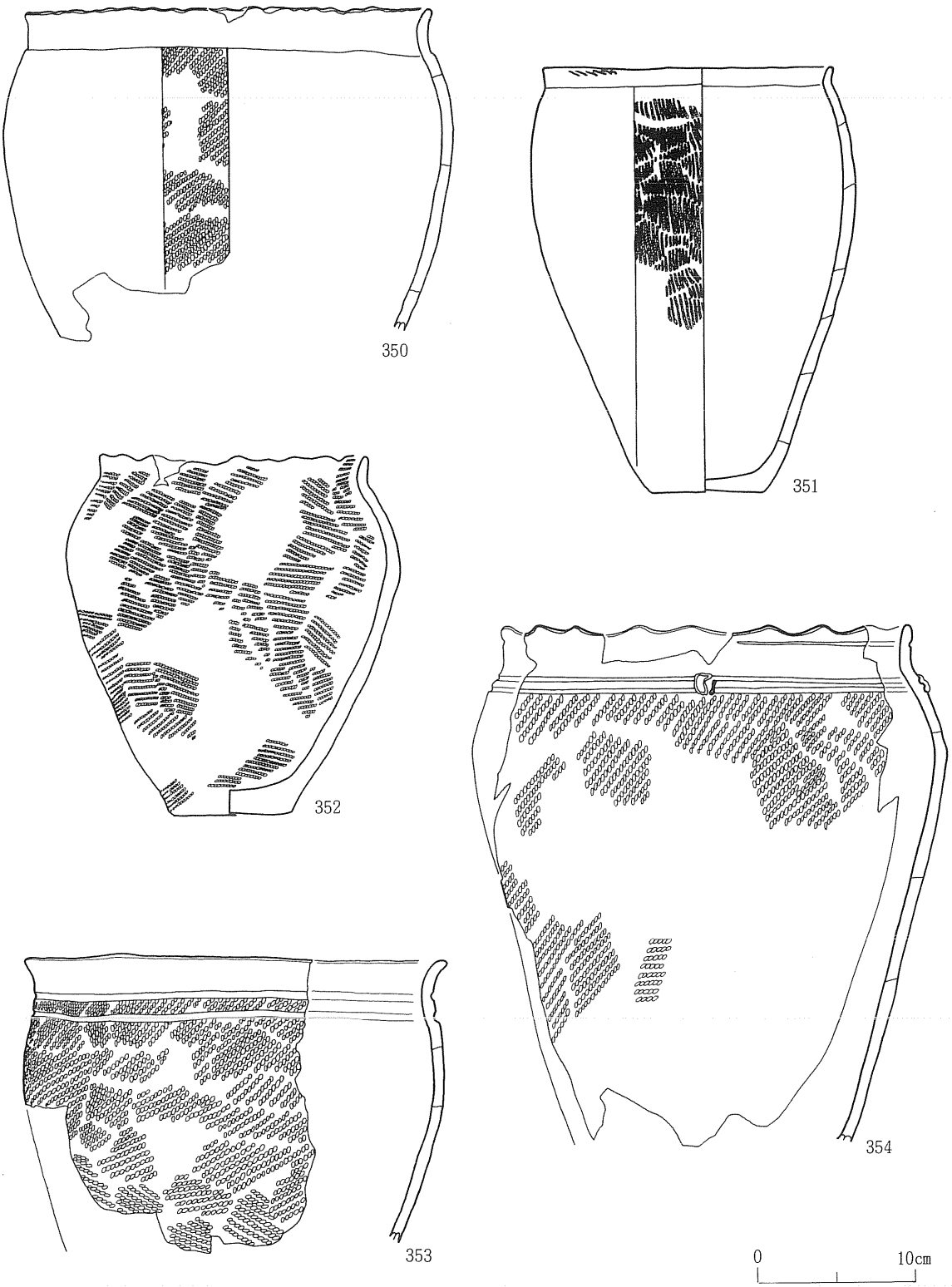
器面に籾圧痕の観察される土器が４点出土した。籾痕は、鉢形土器の口縁部外面、内面、胴下部の外面、大形壺形土器の内面にみられる。

土製品（第149～160図１～84）

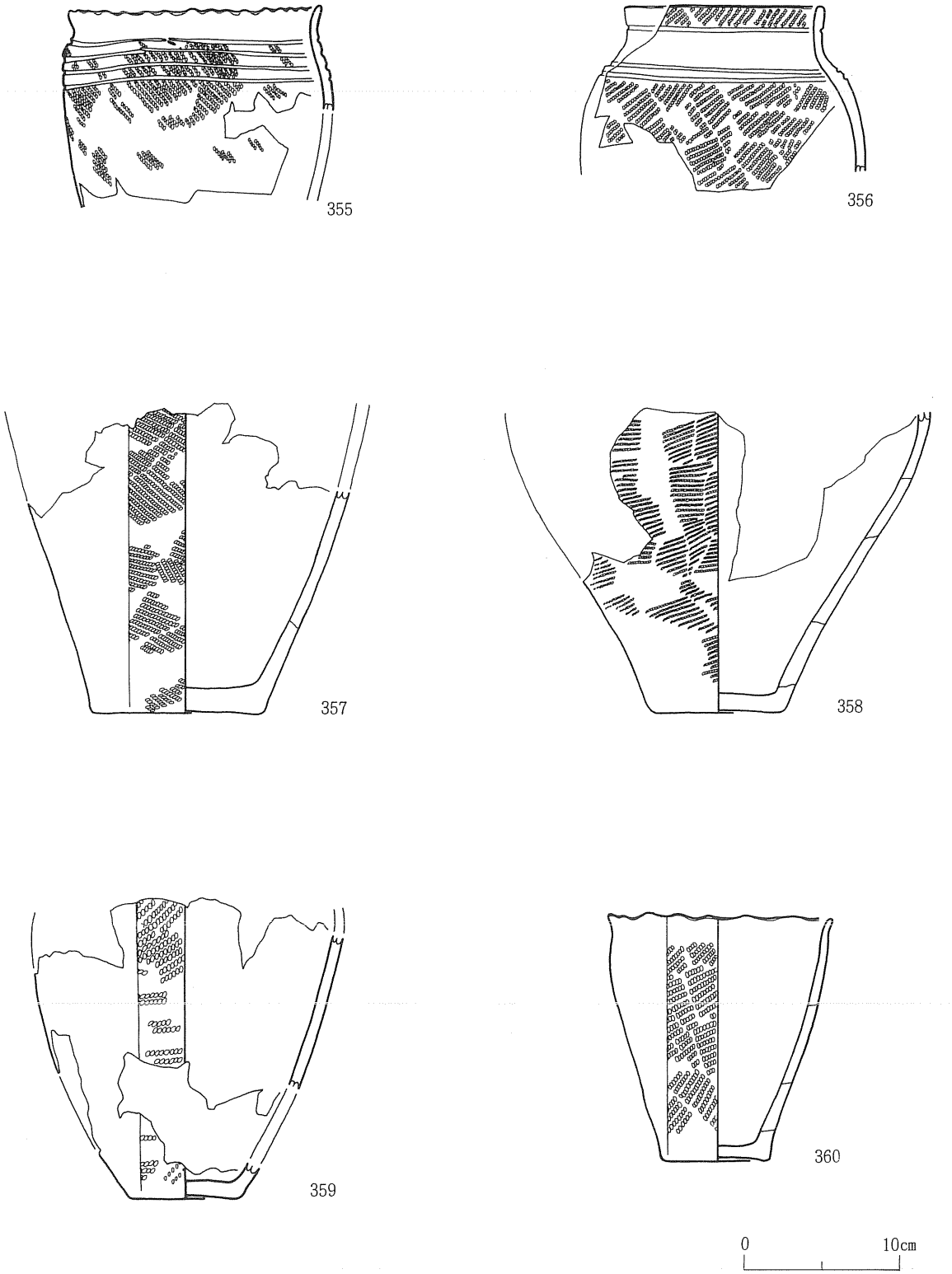
１～42は土偶である。完形のものはない。中空のもの（１・３～６・18・19・22～31）が多く、７・８も中空と考えられ、比較的大形のものである。頭部は帽子を表現するものや、複雑な作りをするものである。顔部は目・鼻・口・耳が明確に表現されている。体部は沈線や刺突を施すものである。１は中空で、両足が欠損し、右足の切断部にはアスファルトが付着している。ベンガラが認



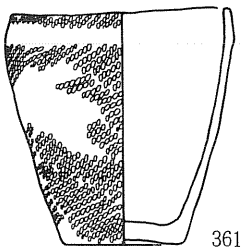
第119図　遺構外出土土器(縄文時代後期)

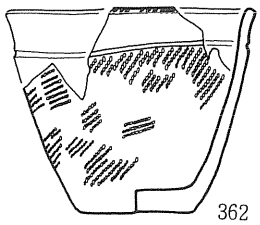


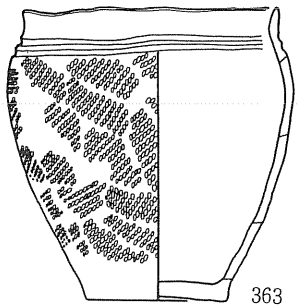
第120図　遺構外出土土器(弥生時代)

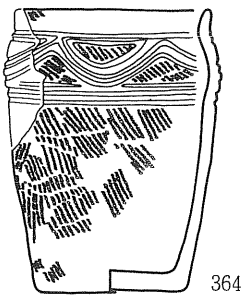


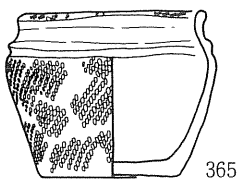
第121図　遺構外出土土器（弥生時代）

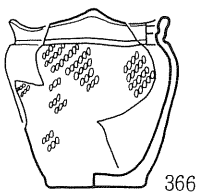


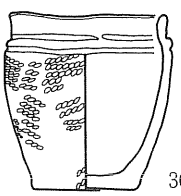


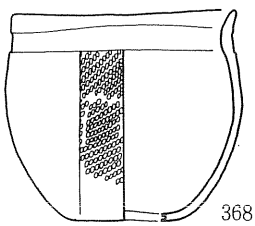


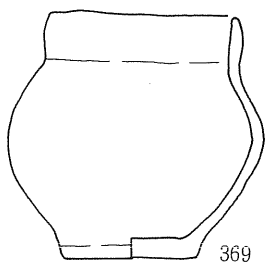


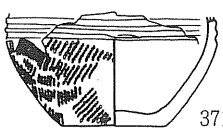


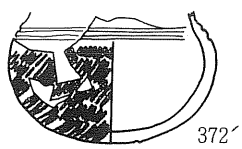




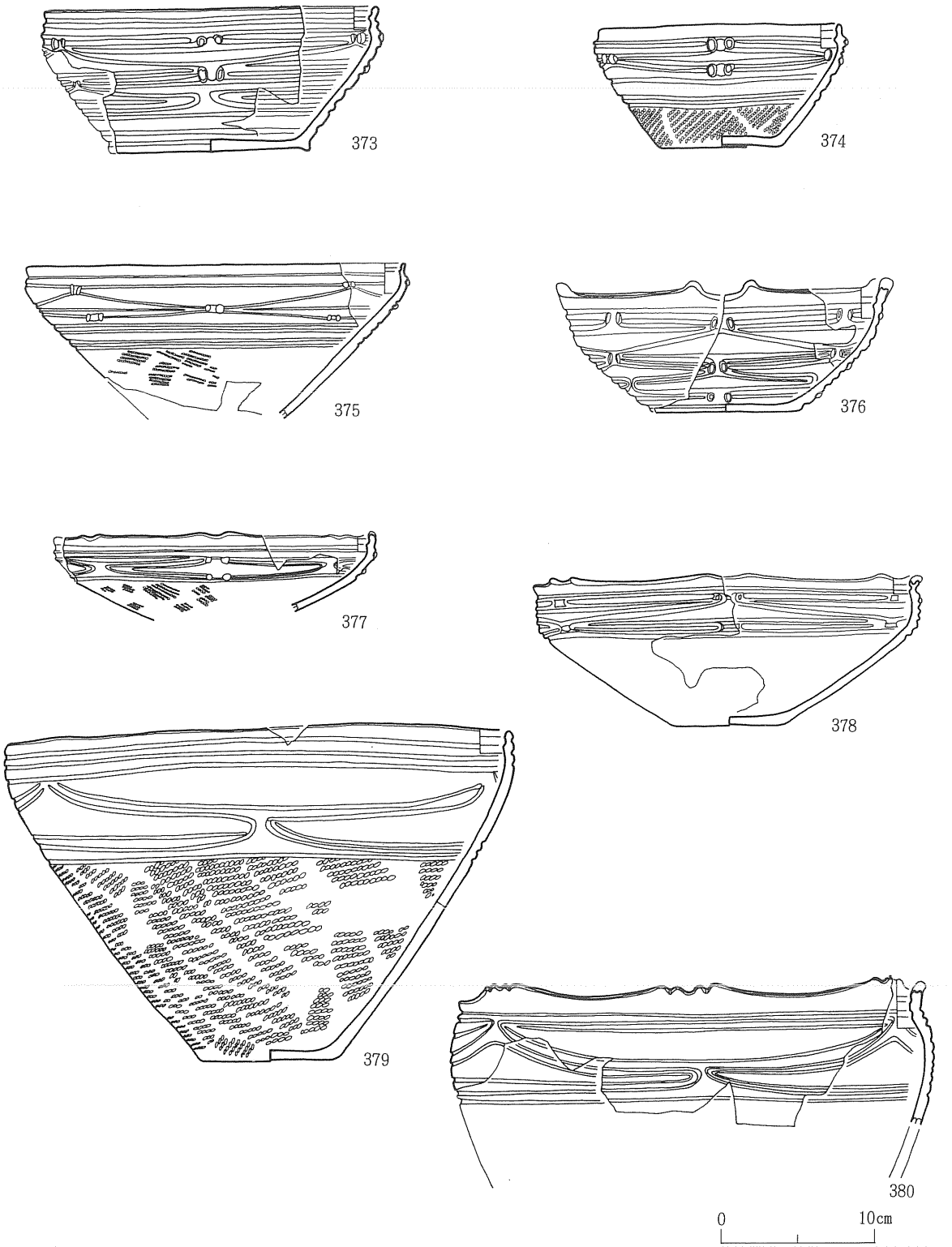




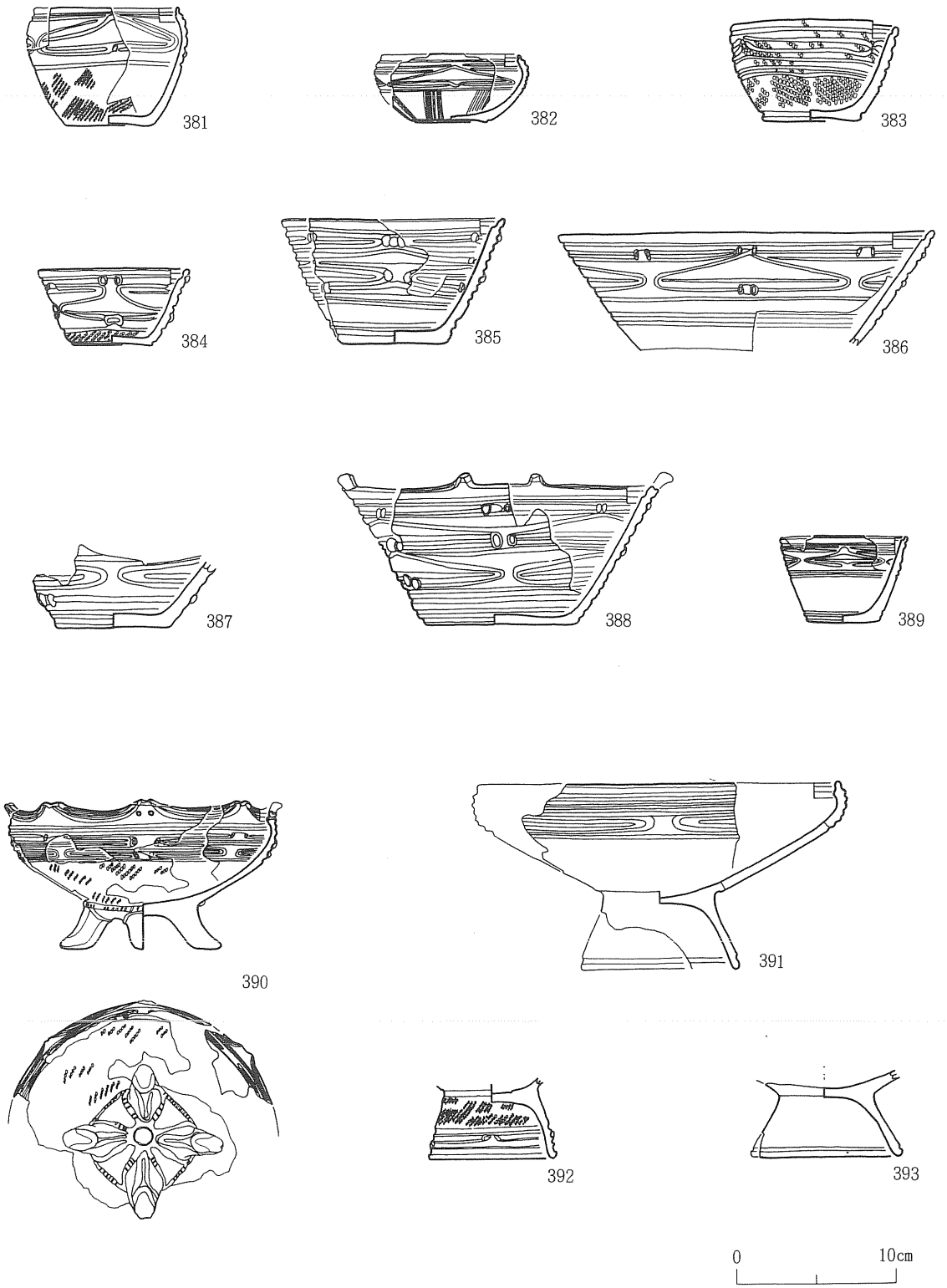




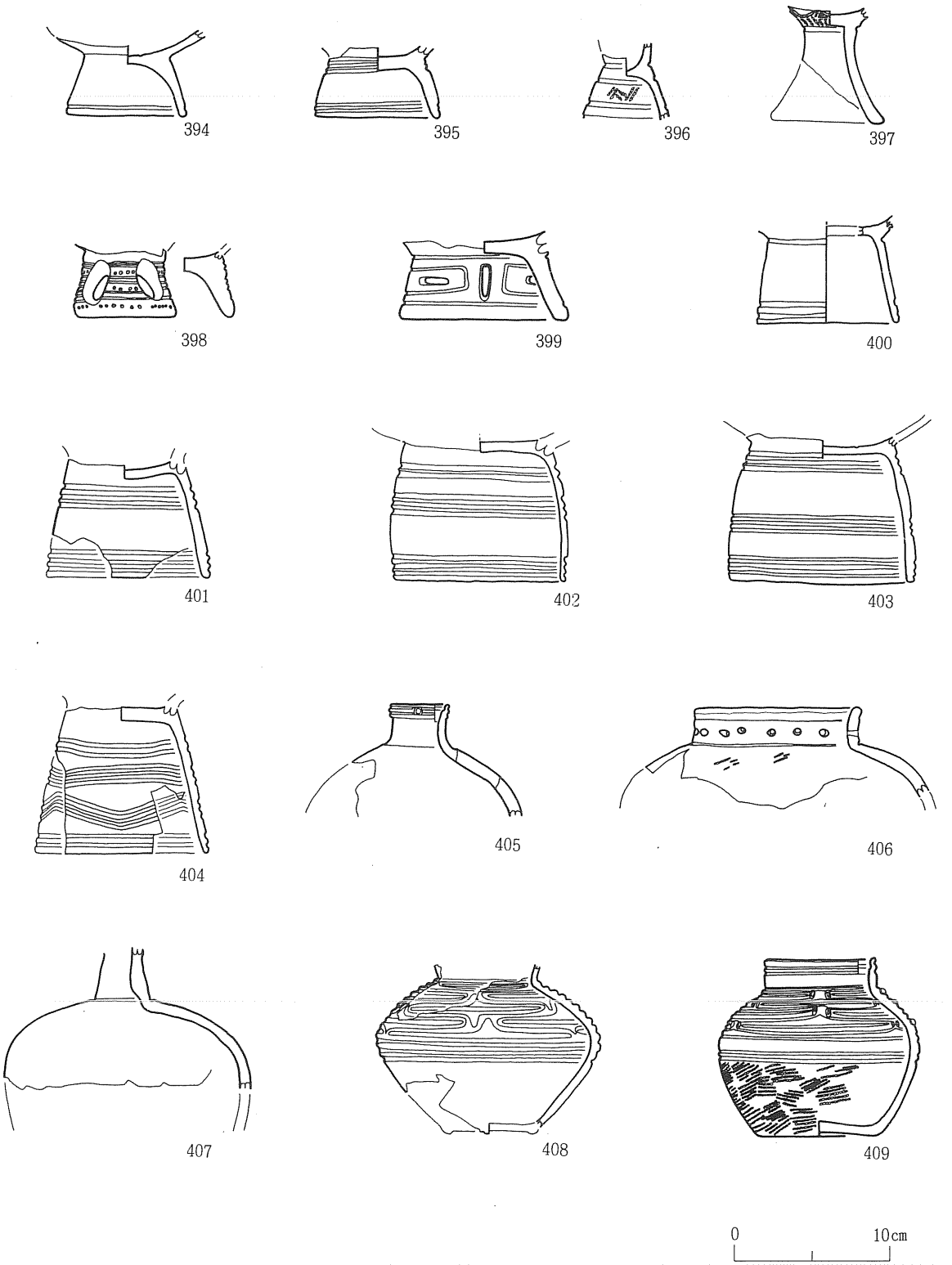
第122図　遺構外出土土器(弥生時代)



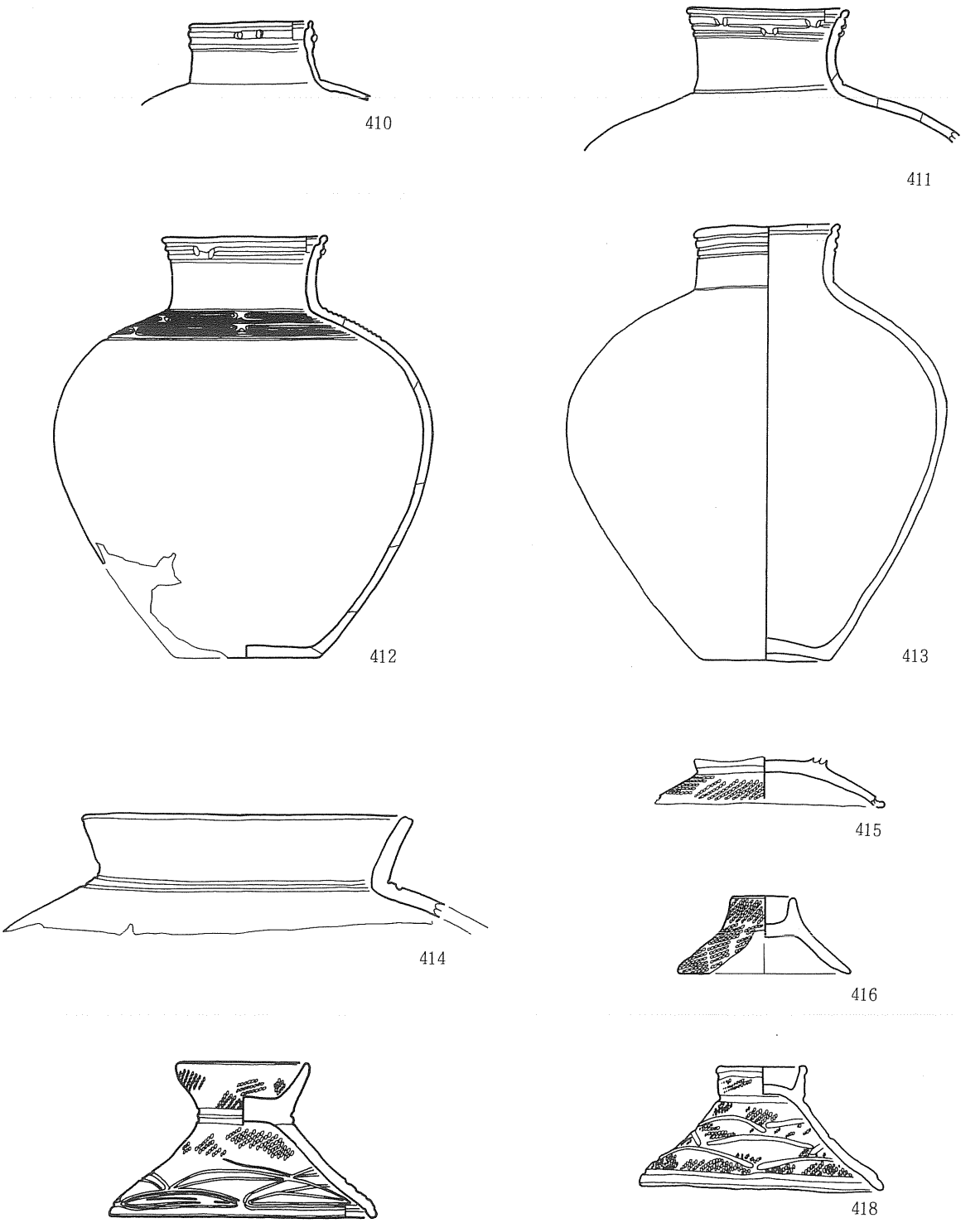
第123図　遺構外出土土器（弥生時代）



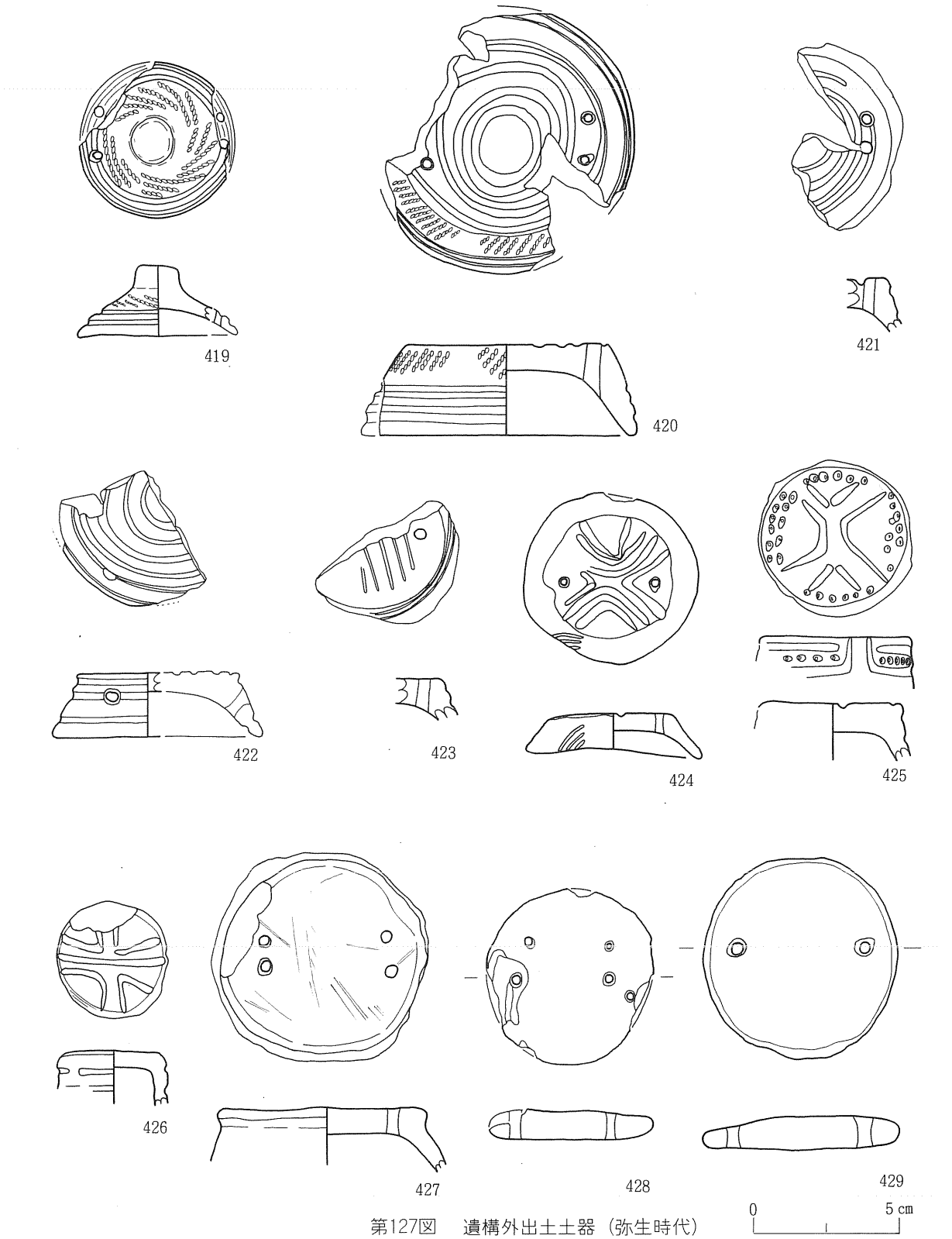
第124図　遺構外出土土器（弥生時代）



第125図　遺構外出土土器（弥生時代）



第126図　遺構外出土土器（弥生時代）



第127図　遺構外出土土器（弥生時代）

430

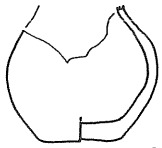
431

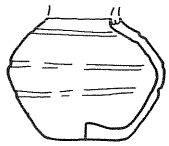
432

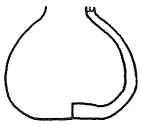
433

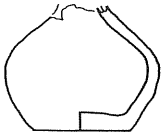
434

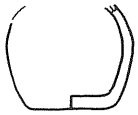
435

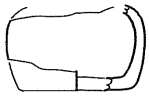

436


437


438


439

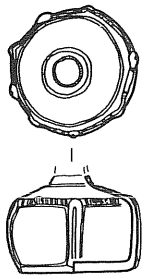

440


441

442

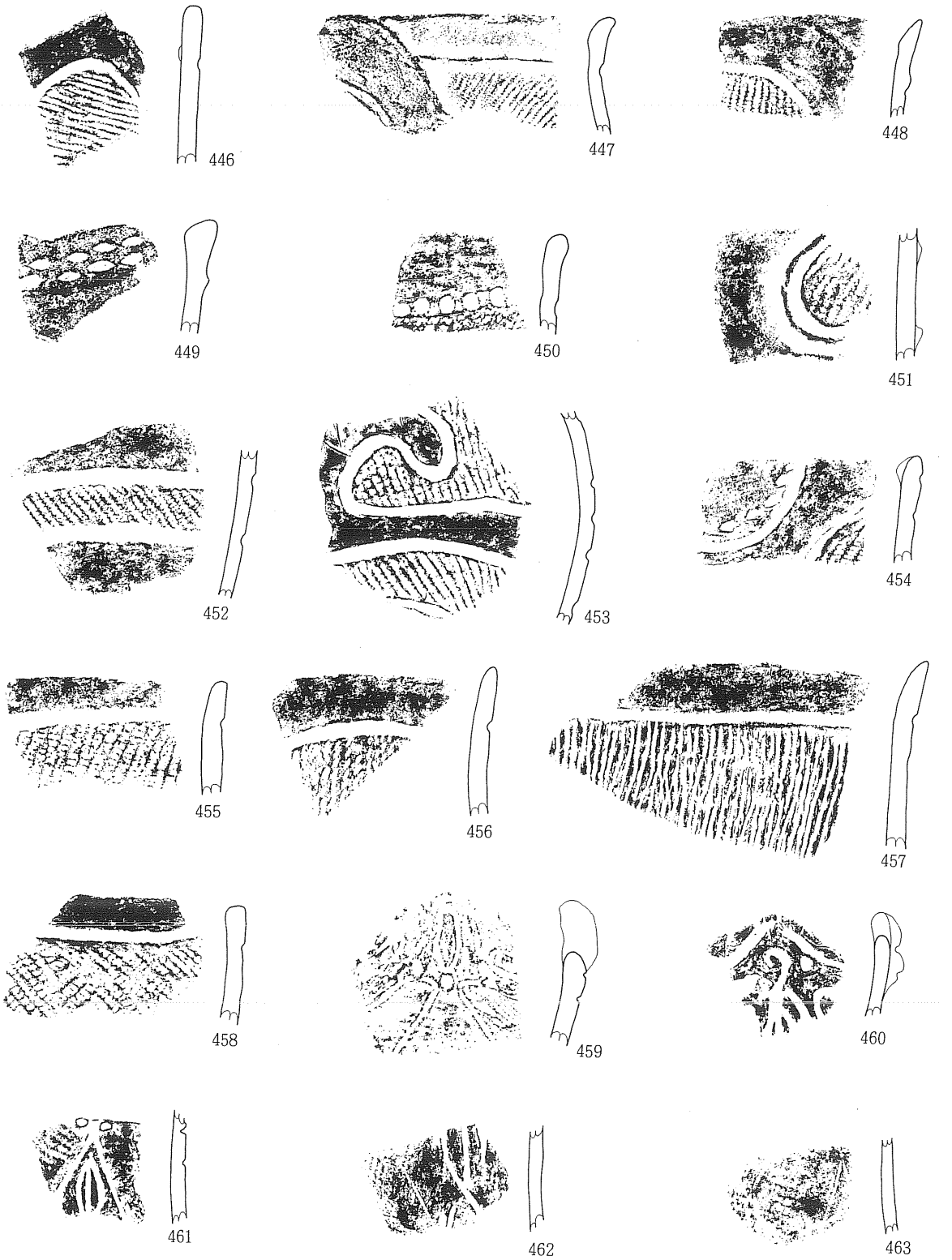
443

444


445

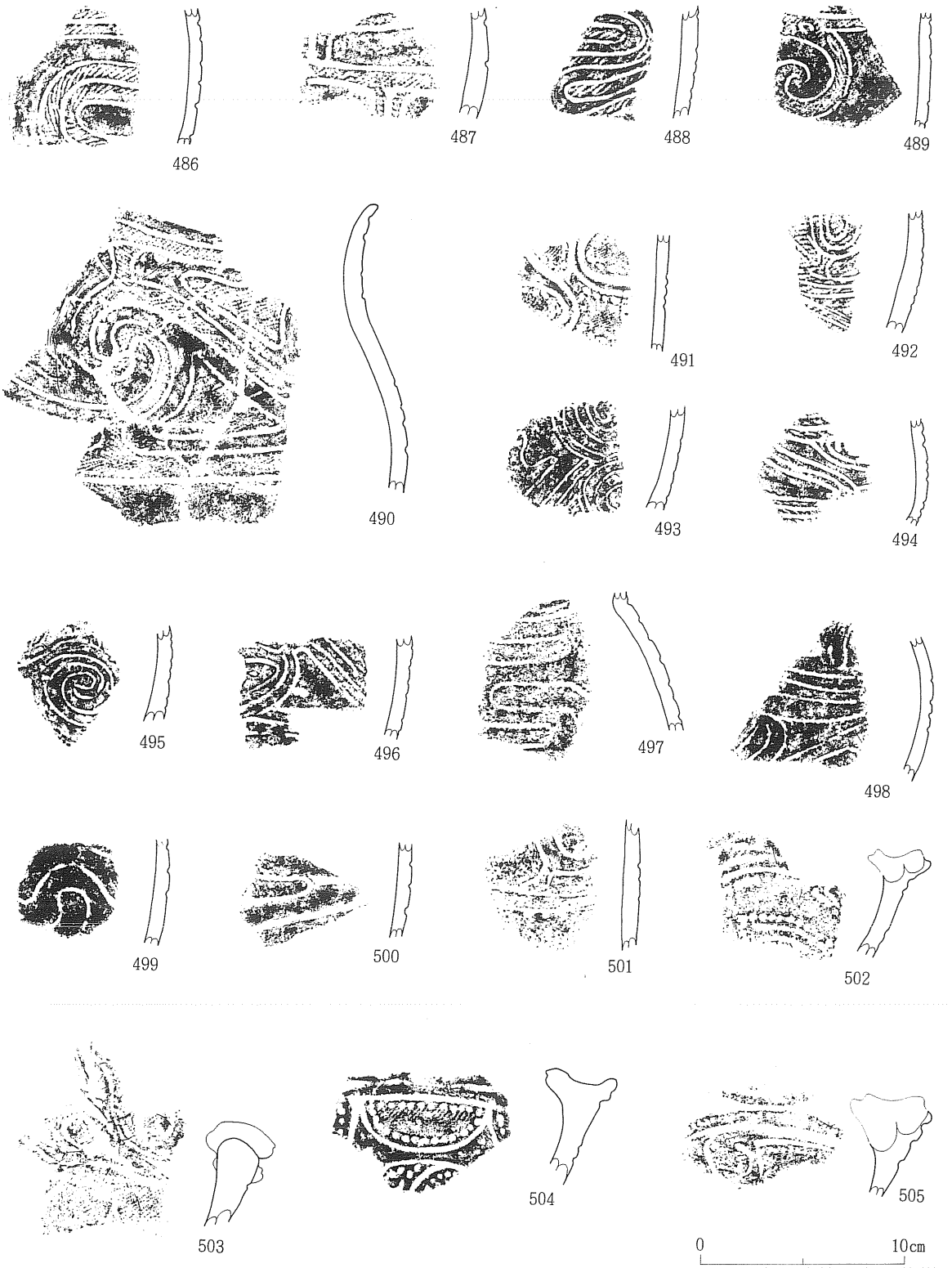
0　10cm

第128図　遺構外出土土器（弥生時代）

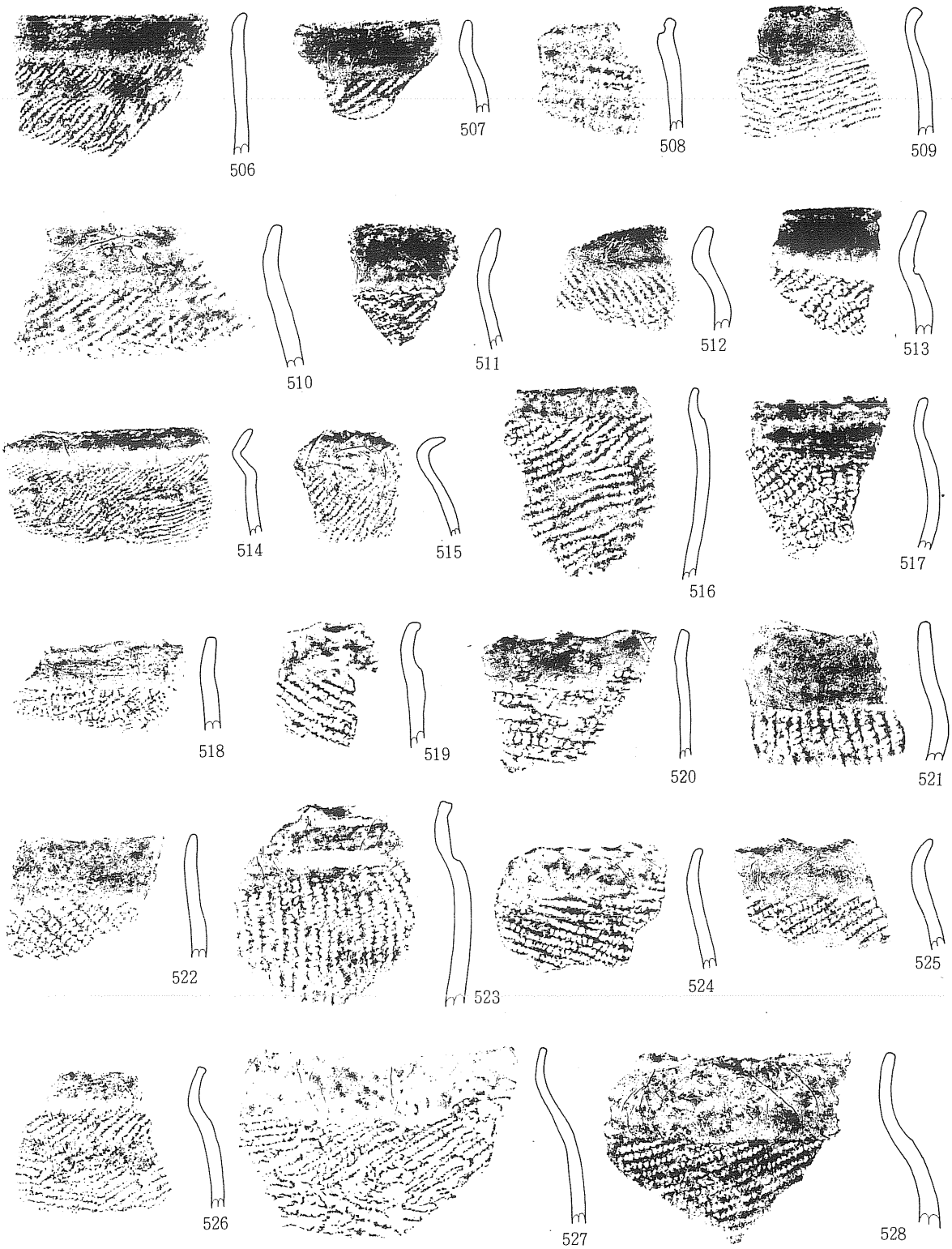


第129図　遺構外出土土器

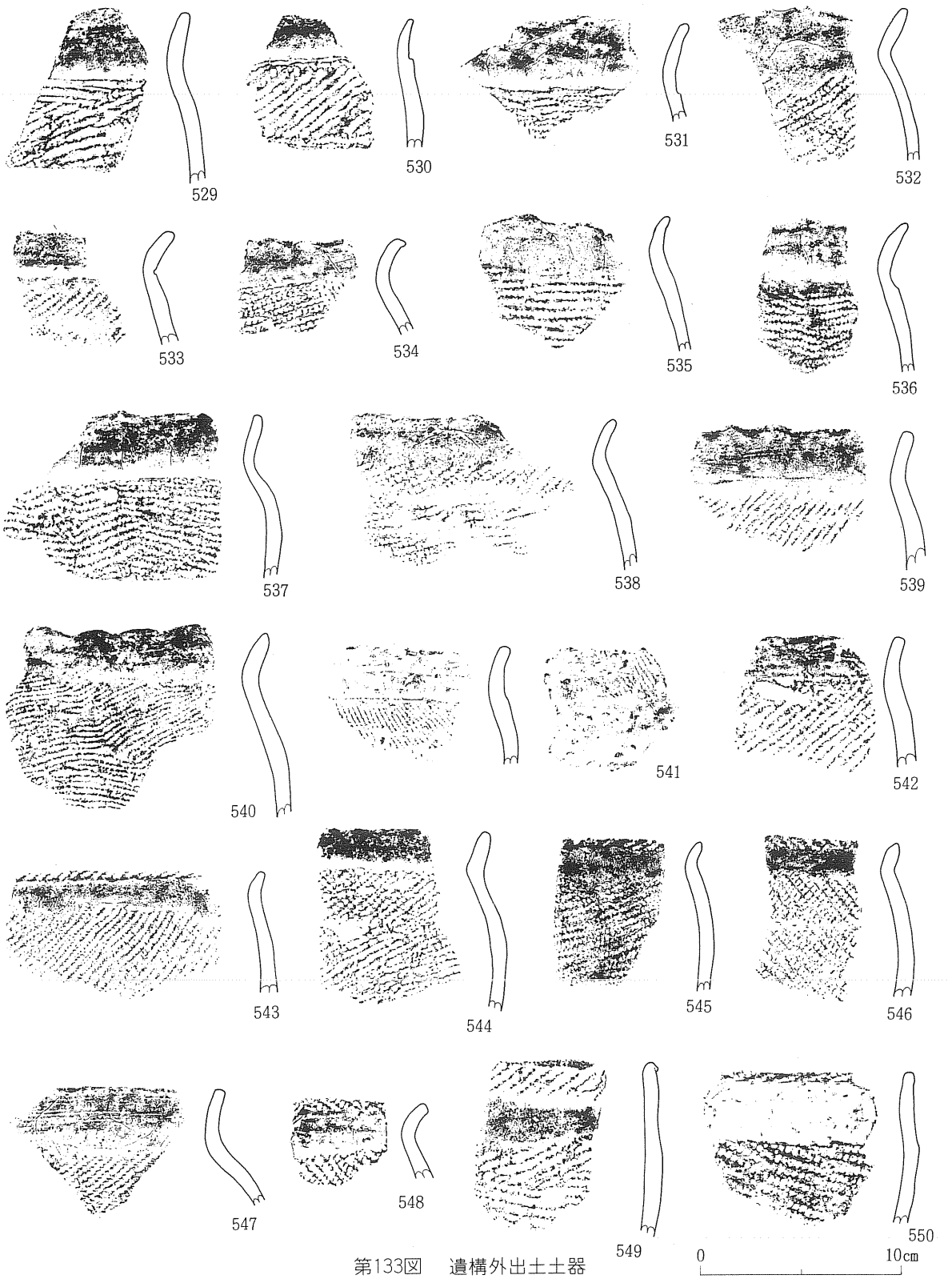
第130図　遺構外出土土器



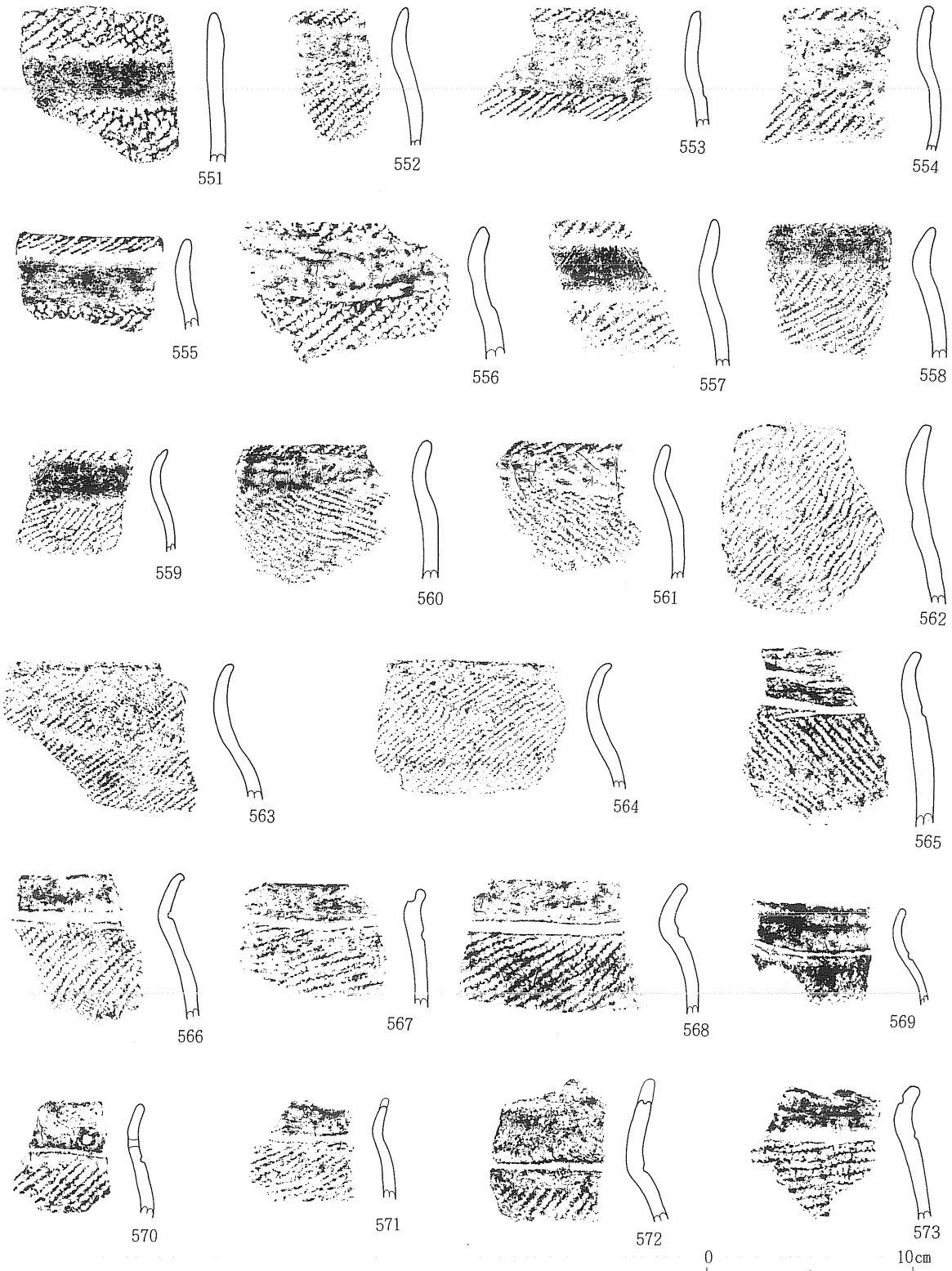
第131図　遺構外出土土器



第132図　遺構外出土土器

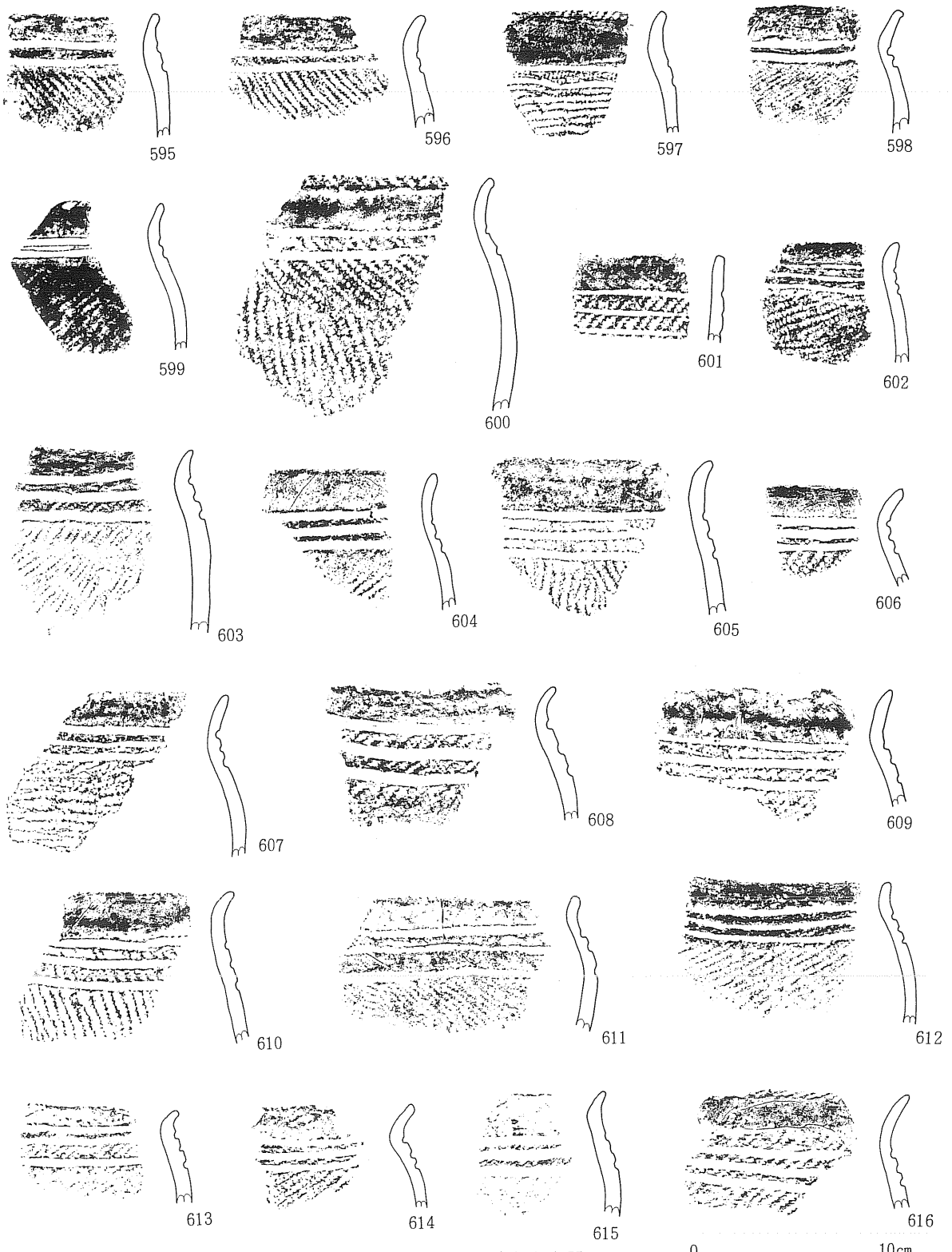


第133図　遺構外出土土器

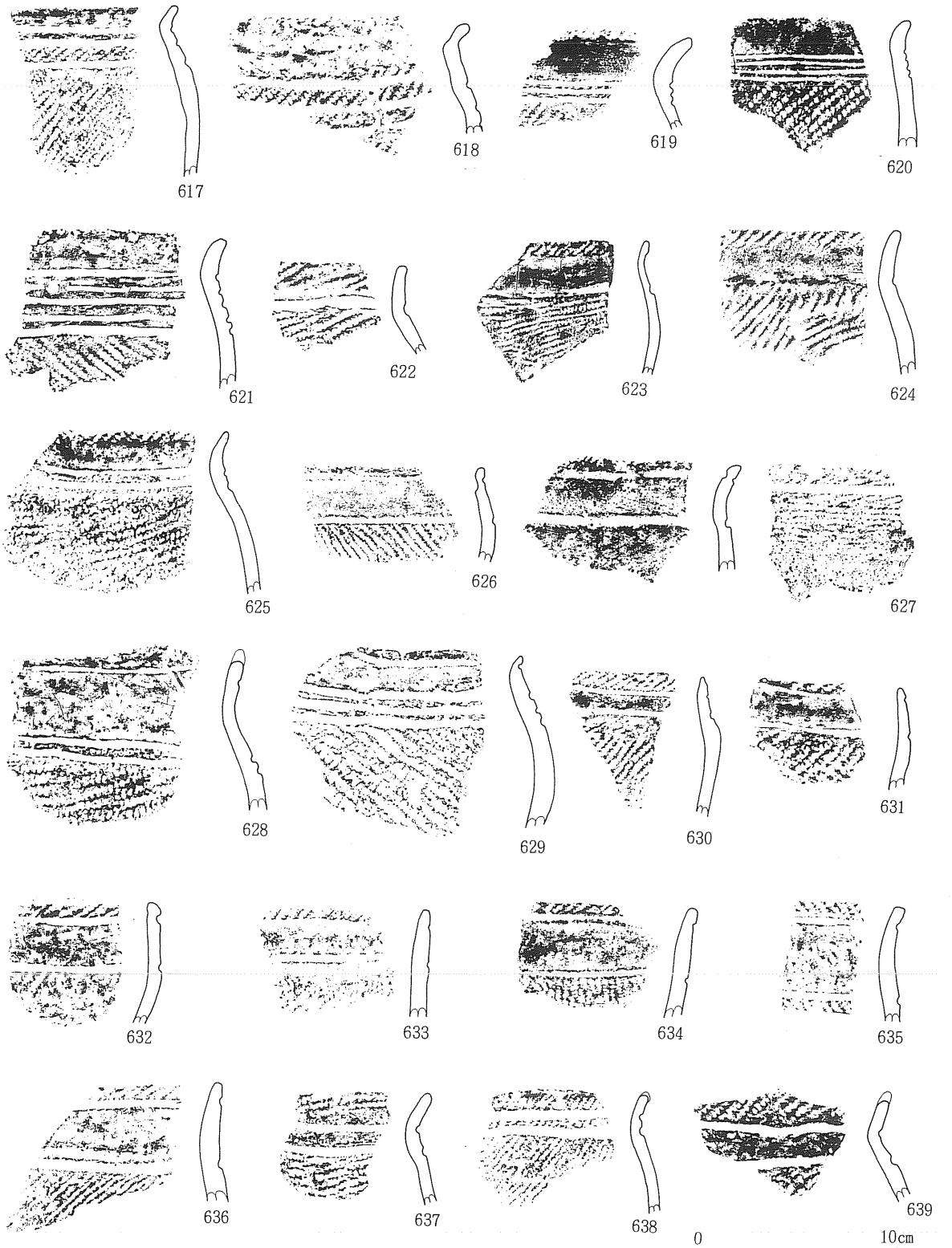


第134図　遺構外出土土器

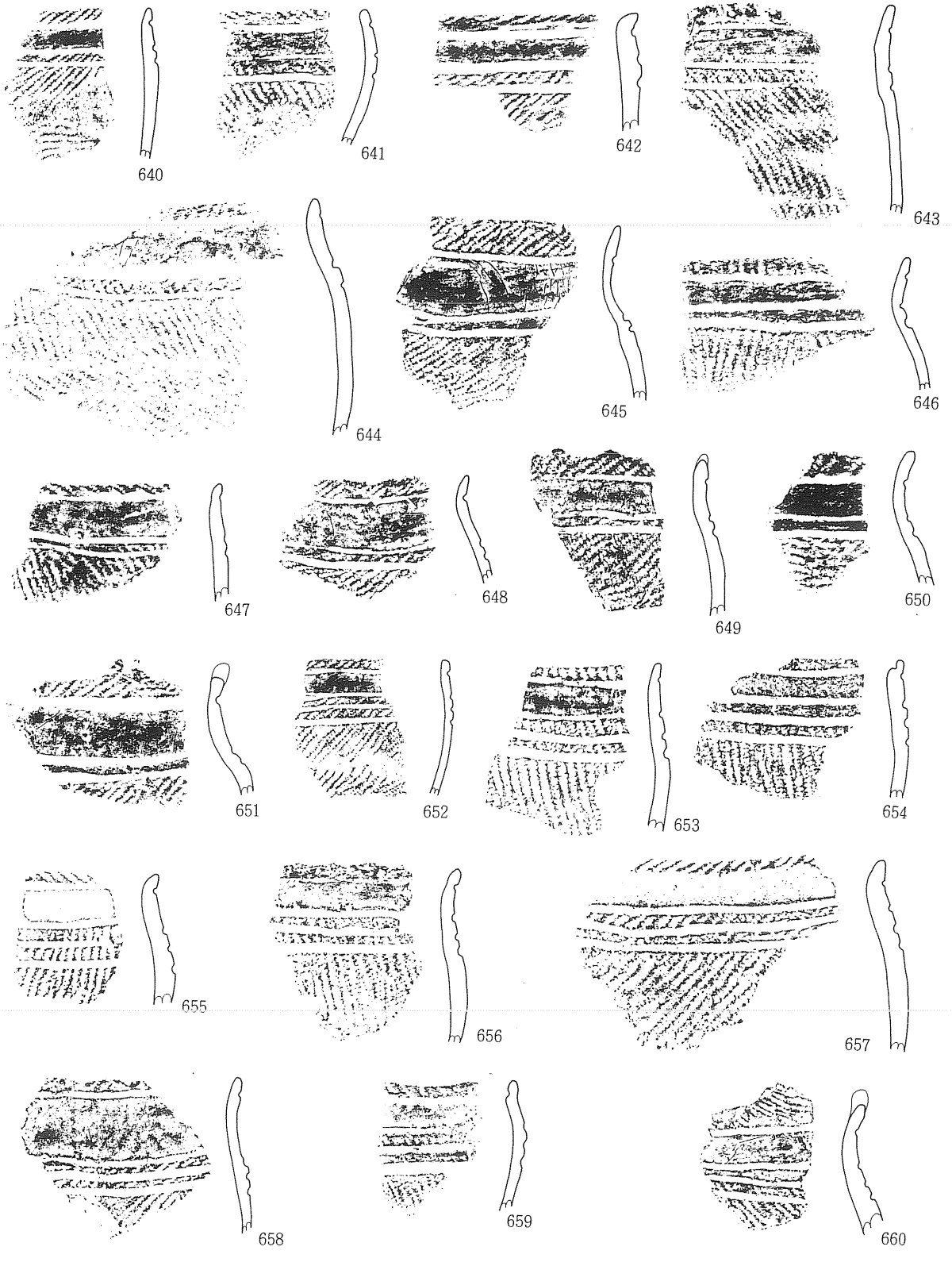
第135図　遺構外出土土器



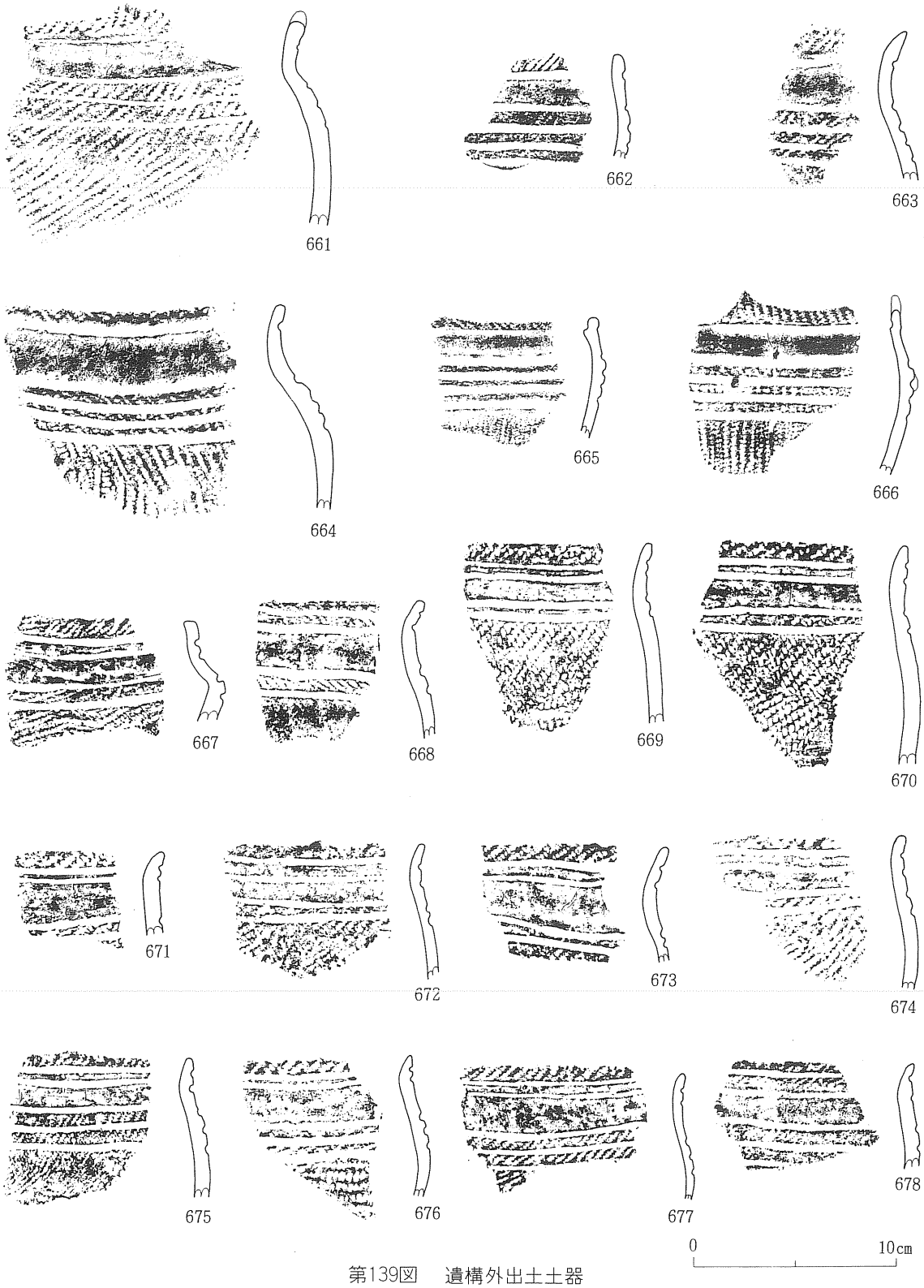
第136図　遺構外出土土器



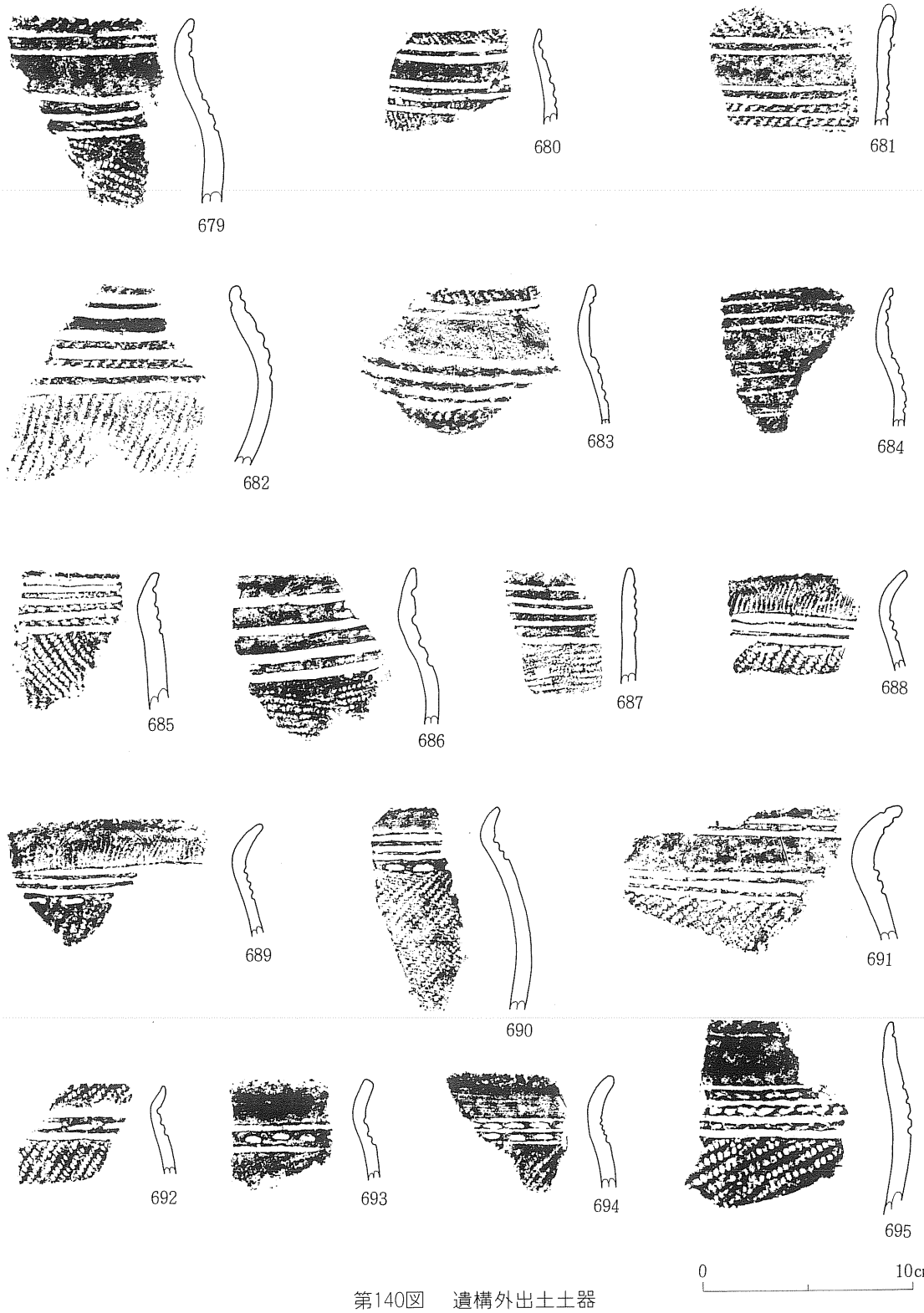
第137図　遺構外出土土器



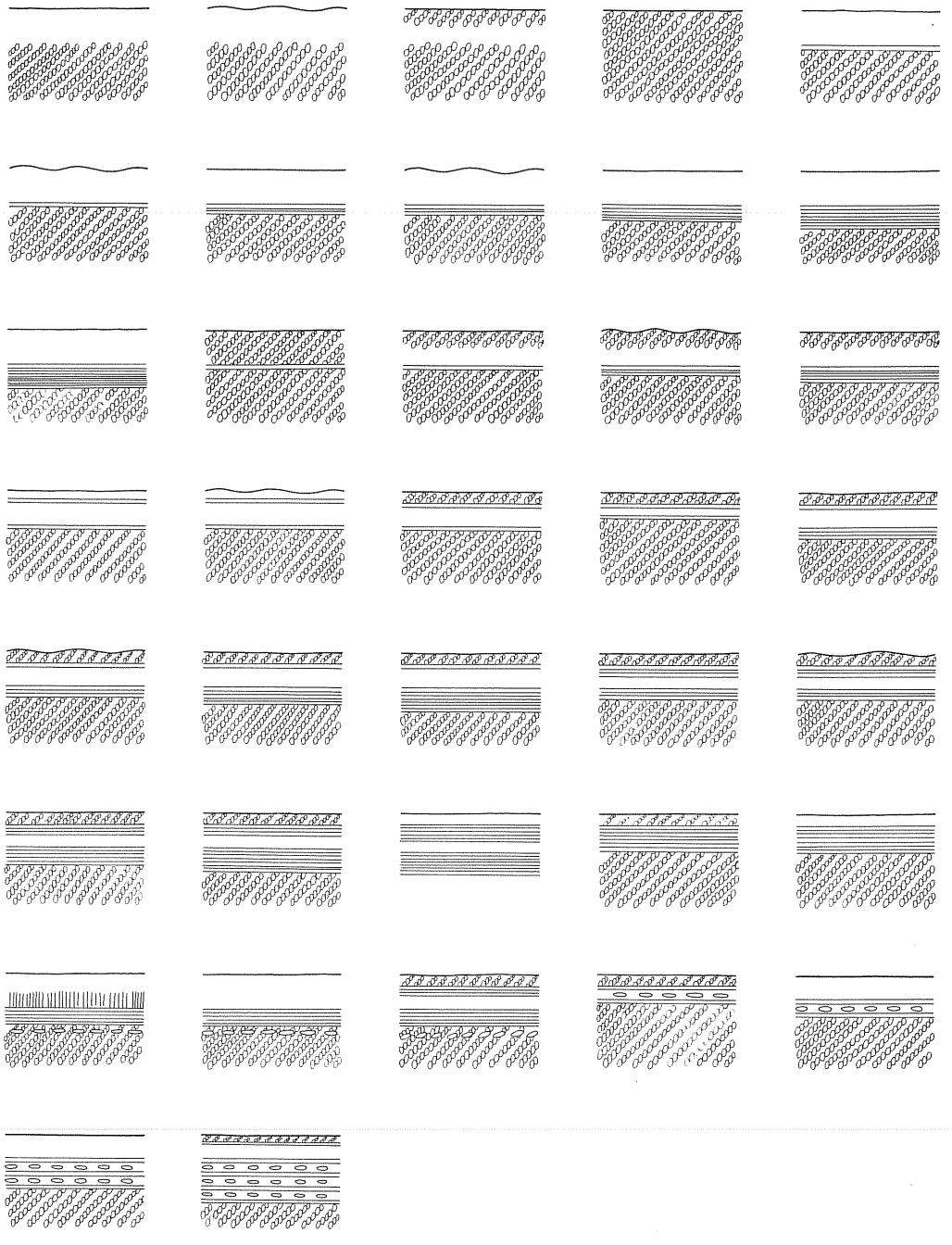
第138図　遺構外出土土器



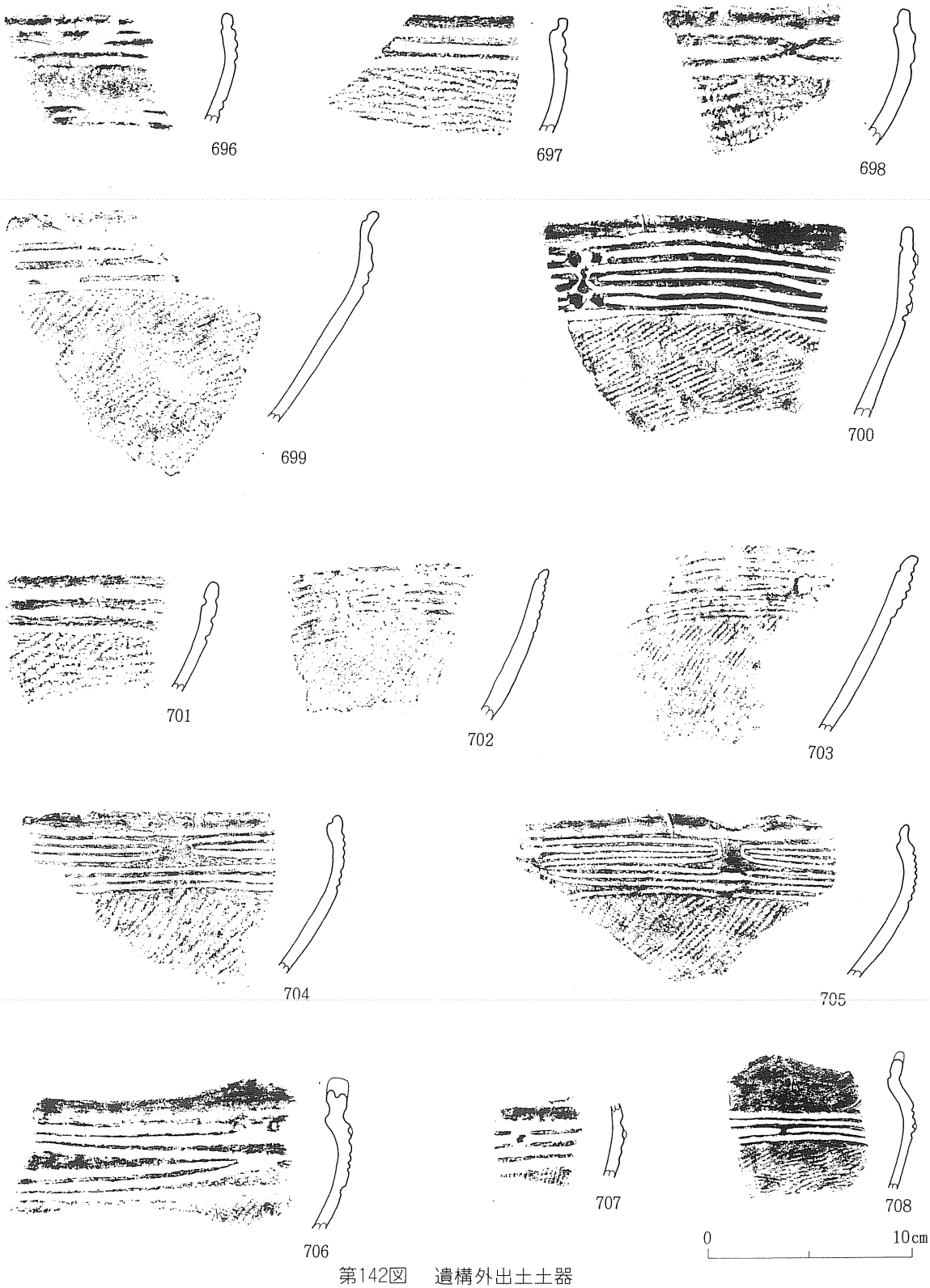
第139図　遺構外出土土器



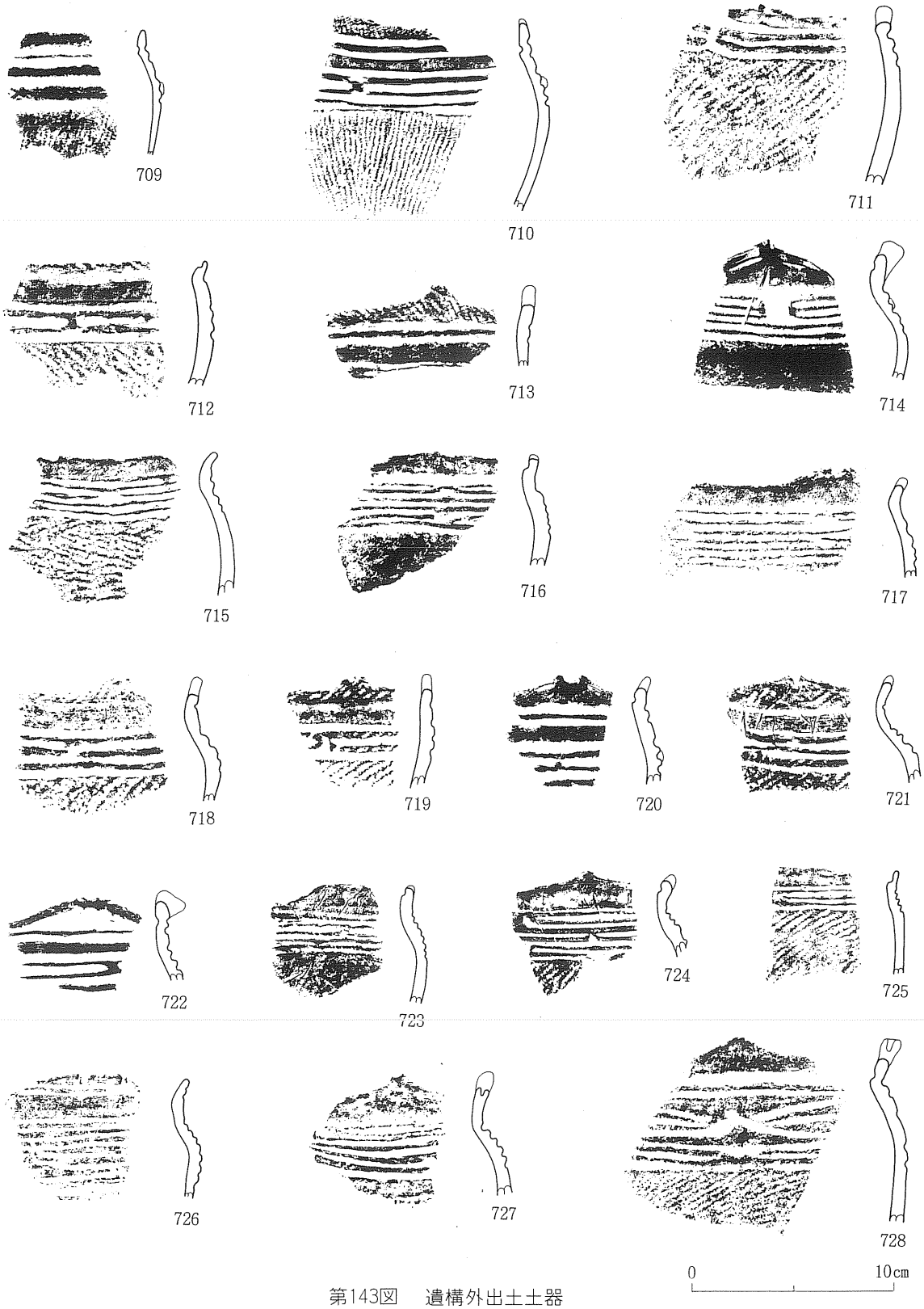
第140図　遺構外出土土器



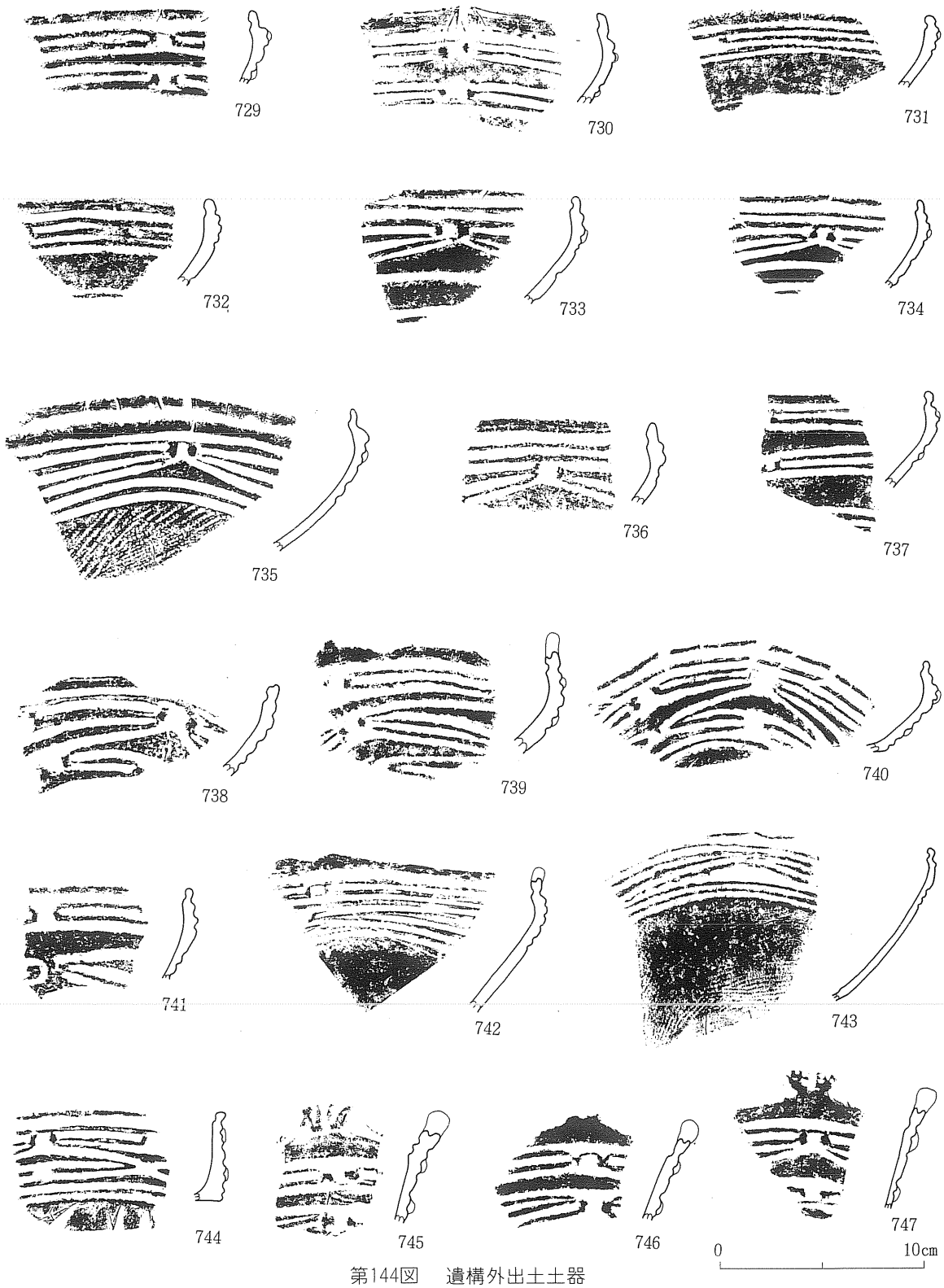
第141図　甕口頸部文様



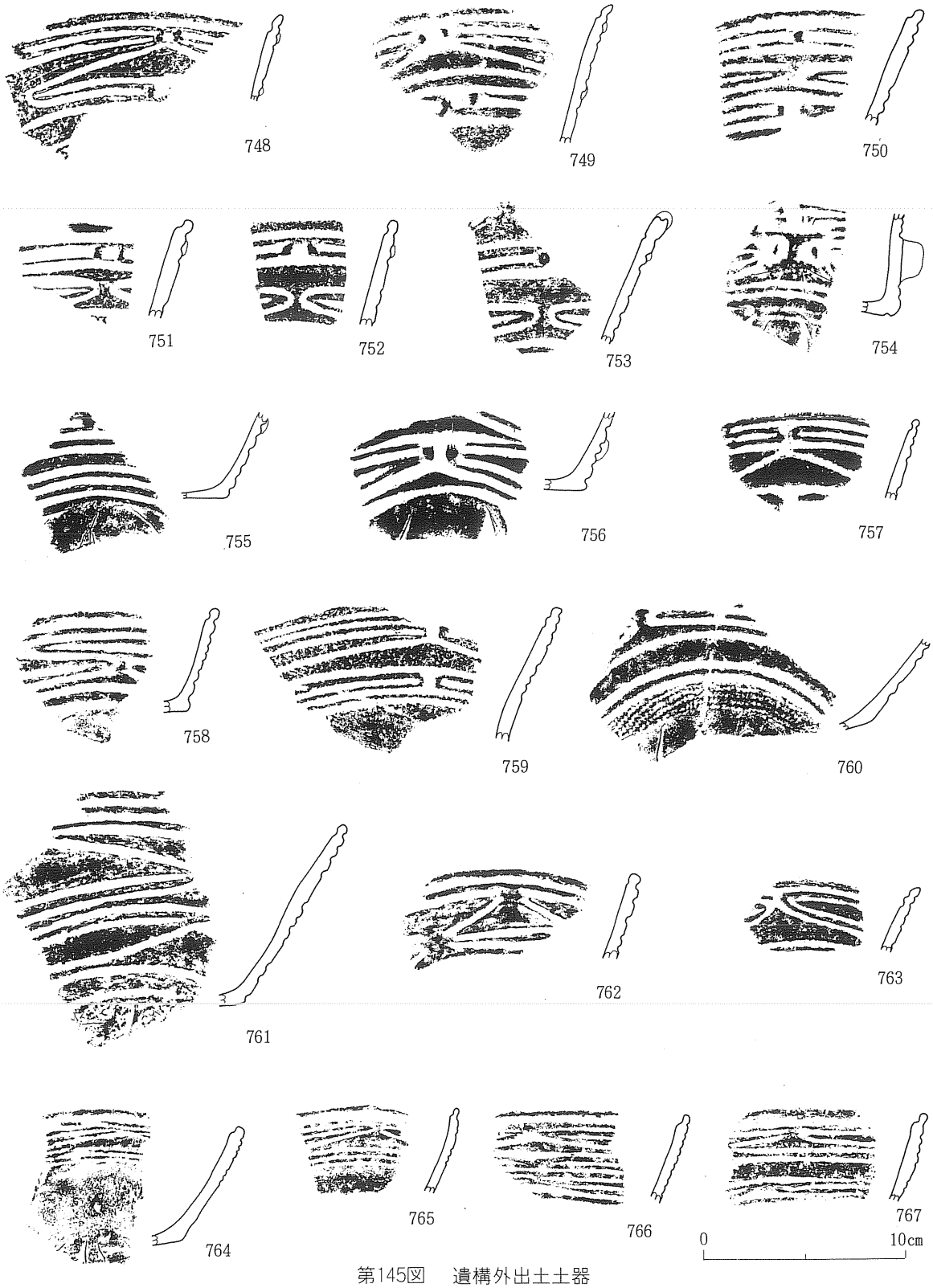
第142図　遺構外出土土器



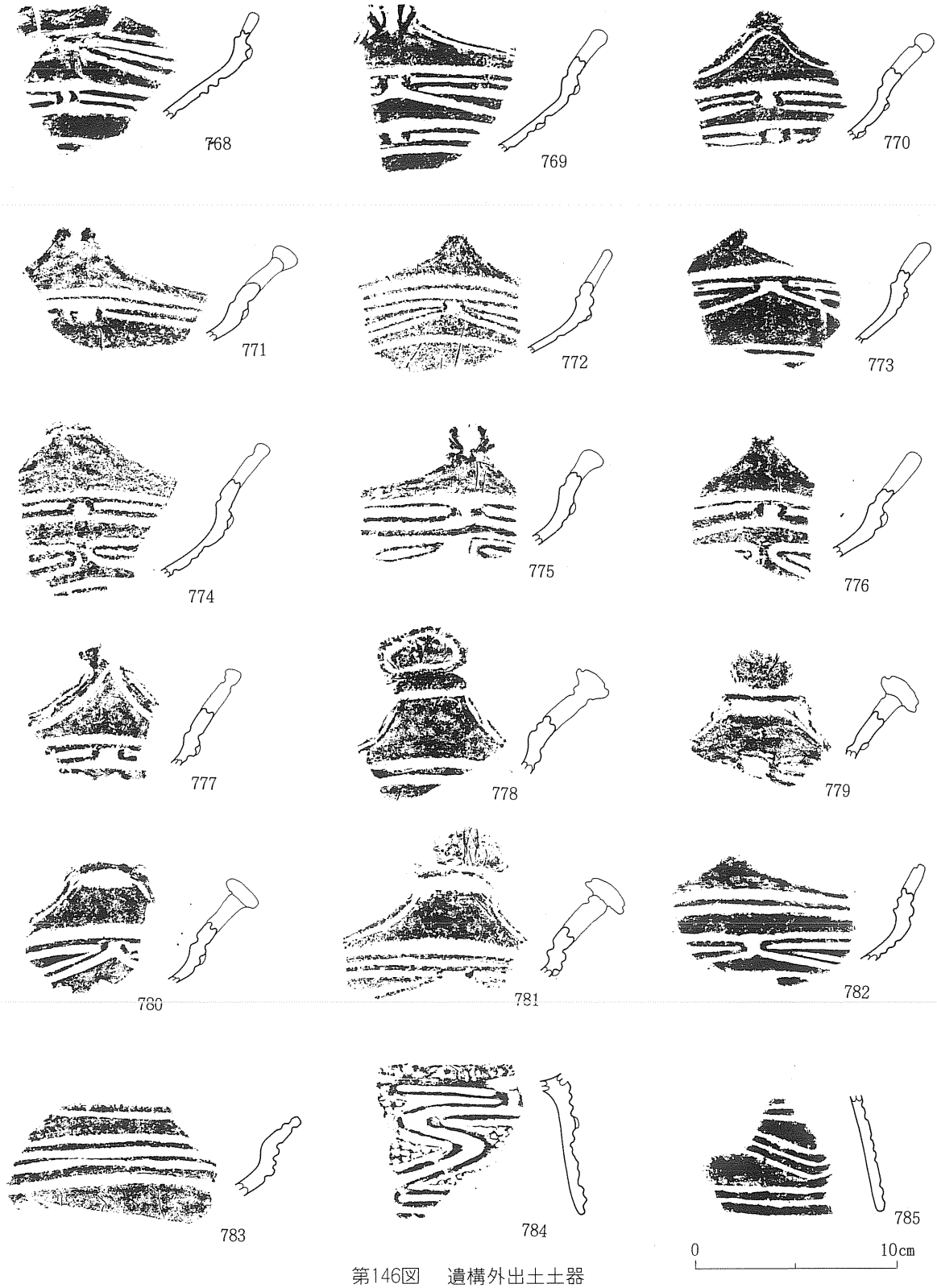
第143図　遺構外出土土器



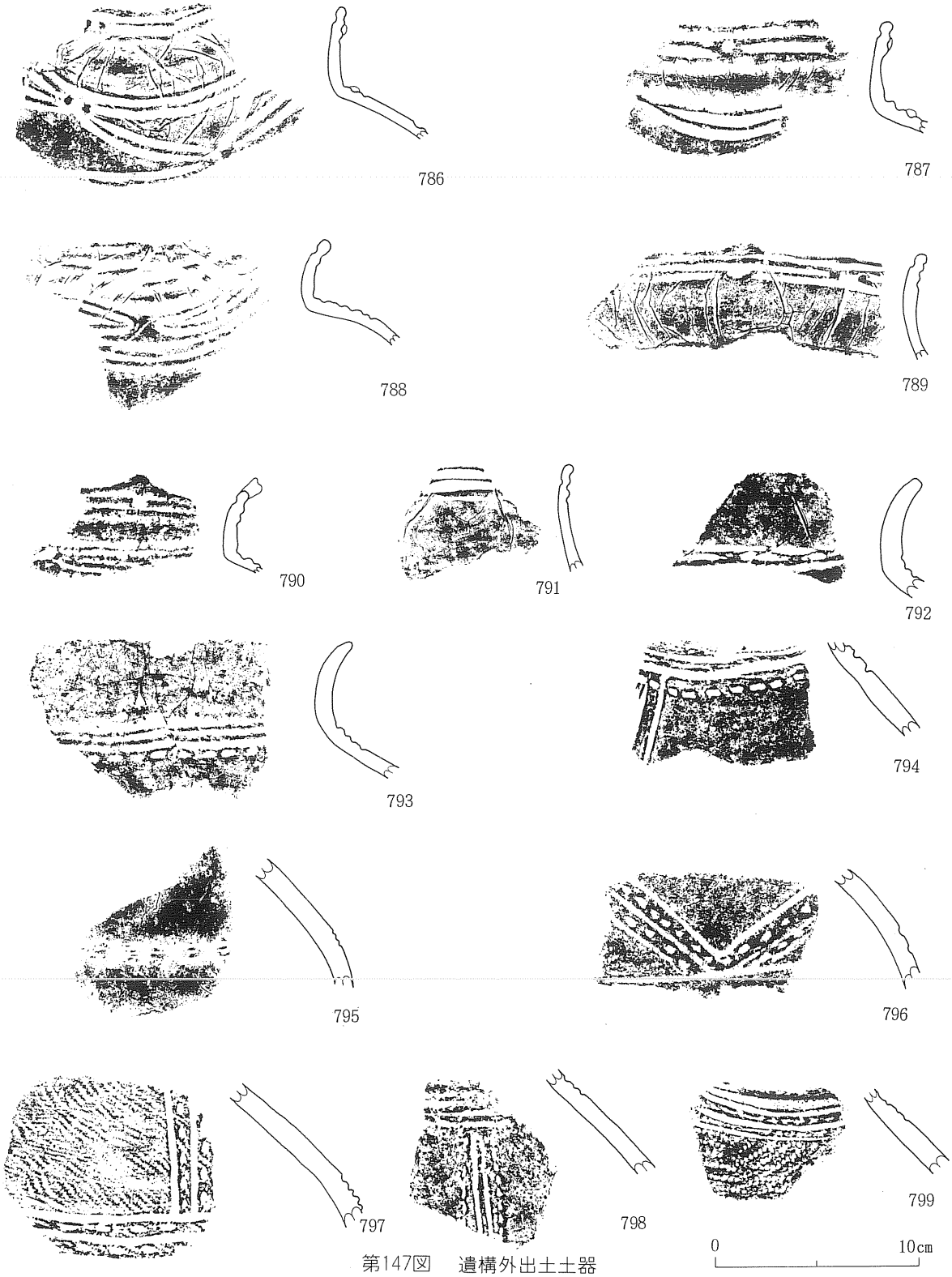
第144図　遺構外出土土器



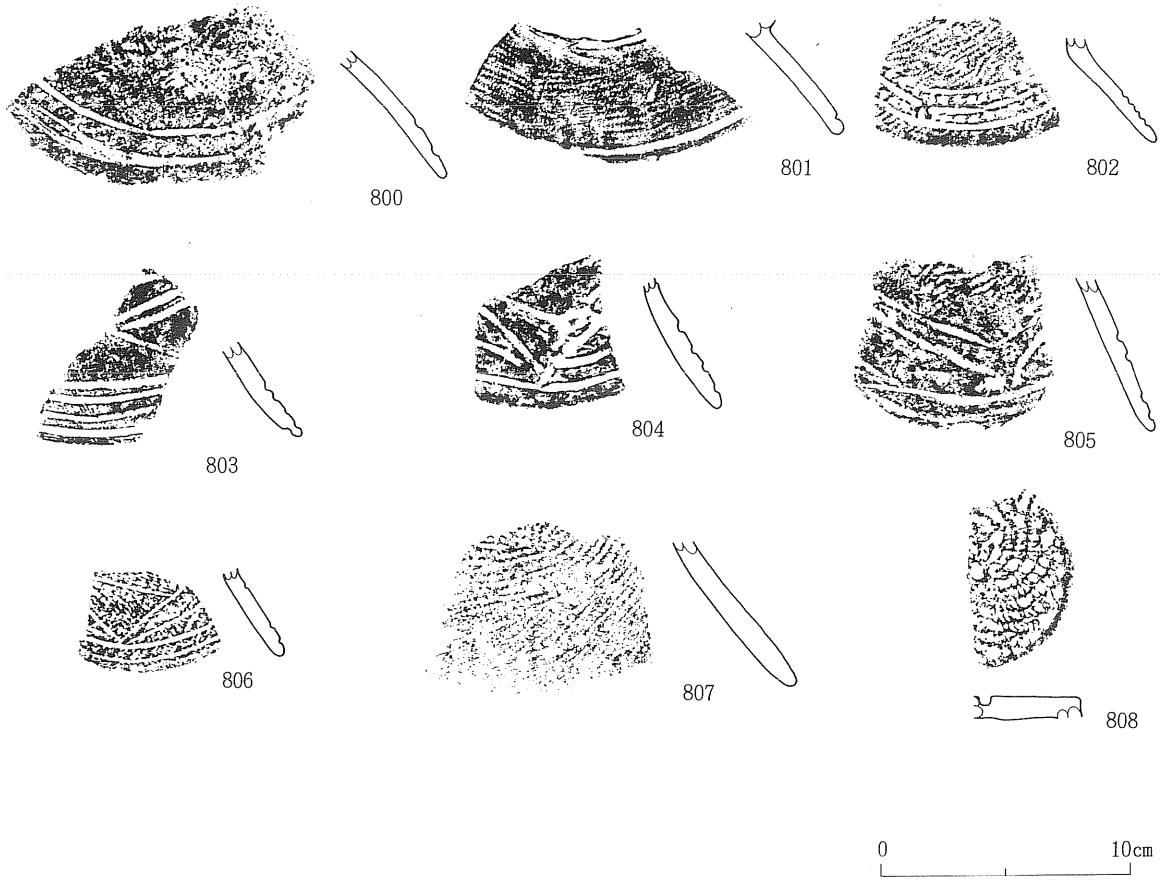
第145図　遺構外出土土器



第146図　遺構外出土土器



第147図　遺構外出土土器



第148図　遺構外出土土器

められ、全面に塗布されていたのであろう。頭部は複雑な作りで、何かを被っているようである。顔部は鼻を欠く。目は細長く、口は丸く表現され、周辺には刺突が施される。体部は乳房が付き、表面が細い沈線、背中は細い沈線と刺突が施される。腰部には刺突が施される。２は板状をなすもので、体下半部が欠損する。頭部は何か被っているようである。顔部は鼻が高く表現されている。体部は乳房が付き、表面は細い沈線、背中は刺突が施される。３は頭顔部で、中空である。頭部は帽子を被っているようである。顔部は目が細長く、鼻は丸く高く、口は細い。頬には刺突が施され、後頭部と顎にはＬＲ単節縄文が認められる。４は体部で、中空である。体部は乳房が剝落し、へそが突出している。表面は細い沈線が、背中は細い沈線と刺突が施される。５～12は頭顔部である。13～21は体部及び下半身である。刺突及び沈線を施すもの、無文のものがある。18・19は中空である。22～42は足部で、22～31は中空である。足の先に刻み目を入れて指を表現しているものもある。

43～45は動物形土製品である。43はほぼ完形、44は両手、両足が欠損する。いずれも抽象的な表現である。

45は鳥形土製品である。頭顔部で、頭部に刺突が施され、顔部にはくちばしが付く。

46は耳栓で、滑車形をなす。一部欠損する。

47～50は有孔土製品である。中心に孔のあるもので、50を除いては紡錘車と考えられる。48は無文、49は算盤玉状を呈する。

51・52は三角形土製品である。いずれも一部が盛り上がり、51は孔が穿たれている。

53・54は鐸形土製品である。53は細い沈線と刺突が施され、頂部に２個の孔が穿たれている。54は無文で、頂部が尖り、口縁部が折り返されている。

55～70は環状土製品である。腕輪形土製品や有孔球形土製品などとも呼ばれている。全て破損品である。形態はほぼ同じであるが、大きさに若干の差異があるようである。文様は沈線と刺突、沈線、無文のものがあり、55・56・59には縄文がみられる。

71は円盤状土製品である。板状のものであるが、若干凸レンズ状をなす。無文である。

72～84は再利用土製品である。土器片を利用したもので、ほとんどが円形である。

遺構外出土石器（第161～206図184～929）

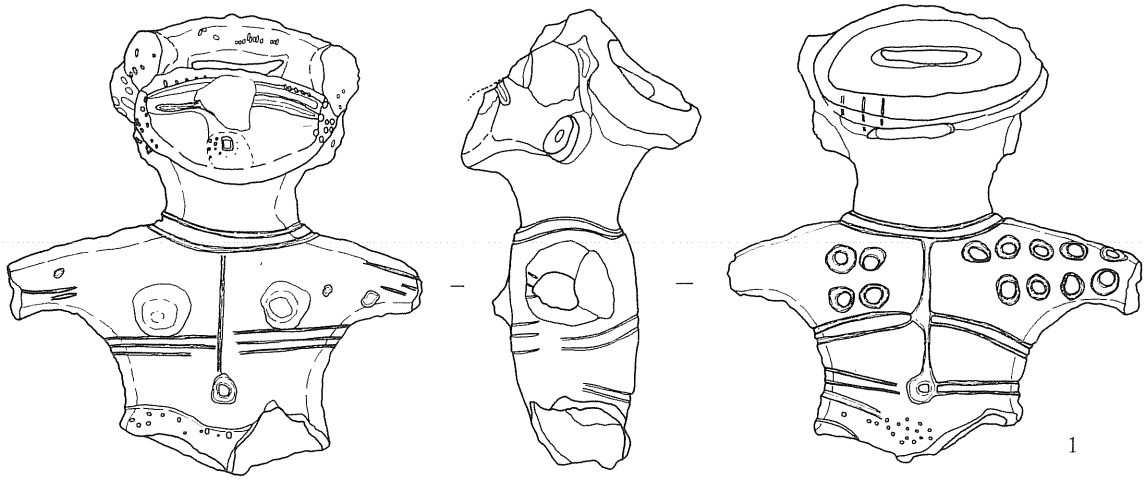
縄文時代と弥生時代の分類については、大部分が第Ⅱ層の遺物包含層より出土したもので層位的分類が困難であり、また縄文時代と弥生時代の遺構の重復、畑による耕作などもあり、旧石器時代を除く縄文時代、弥生時代の分類はできなかった。しかし、出土地点などから第179～183図 613 ～663の磨製石斧については弥生時代のものと考えられる。

184～322は石鏃である。有茎のものが多く、無茎のものが少ない。有茎鏃の中では比較的細身のものが目立つ。アスファルトの付着するものもある。石質は硬質頁岩が多く、黒曜石などもある。323～356は石錐である。323～342は基部と錐部が明瞭に区別されるもので、錐部が途中で折れているものもある。340～342は錐部で、折れたものである。343～356は棒状のもので、錐として扱った。石質は硬質頁岩である。357～418は石匙である。縦型のものと横型のものがある。縦型のものが多く、中でも細身、長身のものが比較的多い。つまみ部にアスファルトの付着するものがある。石質は硬質頁岩である。419は石槍である。基部を欠き、石質は硬質頁岩である。420～424は撥形状をなすもので、比較的小形である。両面加工のものと片面加工のものがあり、アスファルトの付着するものもある。石質は硬質頁岩である。425～500はヘラ状石器である。左右対象で両面加工のものである。425～436は小形のもので本類に含めた。石質は硬質頁岩である。501～517は刃部が両面加工のものである。不定形のもので、鋸的な機能をもつものと考えられる。石質は硬質頁岩が多い。518～550は掻器・掻器状石器である。片面加工で、550にはアスファルトが付着する。石質は硬質頁岩が多い。551～566は削器・削器状石器である。縦長のもので、側縁に片面加工を施す。石質は硬質頁岩である。567～575は鋸歯縁石器である。半月形をなすもので、両面加工である。上半にアスファルトの付着するものが多い。石質は硬質頁岩である。576～663は磨製石斧である。出土地点などから576～612は縄文時代、613～663は弥生時代と考えられる。両者とも破損品が多く、刃部は丸味をもつものが多い。576・577は小形磨製石斧で、576は細身である。662は片刃である。後者には比較的大形のものが多い。石質は凝灰岩のものが多い。664～666は環状石斧である。円盤状をなし、

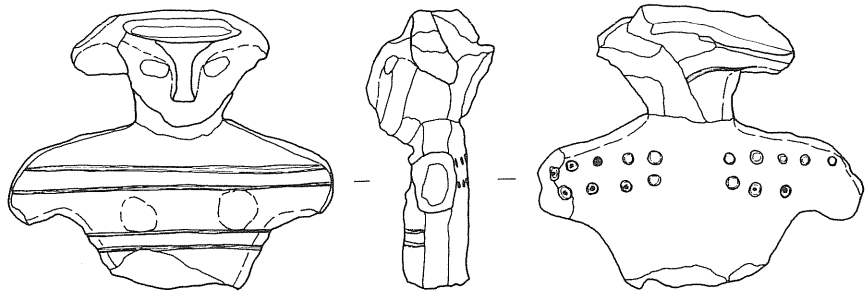
中心に孔をもつものである。孔の周辺にはアスファルトが付着する。664は665･666より一回り小さく、刃部は丸味がある。石質は凝灰岩である。667・668は独鈷石である。いずれも破損品である。667の中央くびれ部にはアスファルトが付着する。石質は凝灰岩である。669～671は石刀である。669は完形品である。内反りで、１側縁が刃状をなし、断面は楔形で、握りの部分もある。670･671は破損品である。石質は669が凝灰岩、670・671は粘板岩である。672は石剣である。中央部から折れている。断面が凸レンズ状をなし、両側縁に鈍い刃を作り出し、先端部に刻みを入れている。石質は粘板岩である。673～684は石棒である。全て破損品である。断面は円形もしくは凸レンズ状をなすものである。石質は粘板岩が多い。685・686は棒状石器である。円筒形をなすもので、断面が円形である。全面を磨っている。687は石錘である。偏平な自然石の両端を打ち欠いている。688～828はくぼみ石である。くぼみ部が数ヶ所みられるもの、片面・両面のものがある。磨石として使用しているものも認められる。829～913は磨石・敲石である。全面を磨るもの、側面に敲打痕の認められるものがある。913は長方形に作られるもので、一応本類に含めた。914～923は石皿、924～928は石皿状石器である。914は完形品、他はほとんど破損品である。中央部がくぼんでおり、良く磨れている。922には脚が付いている。石質は安山岩である。929は台石である。中央部が良く磨れている。

石製品（第207図１～７）

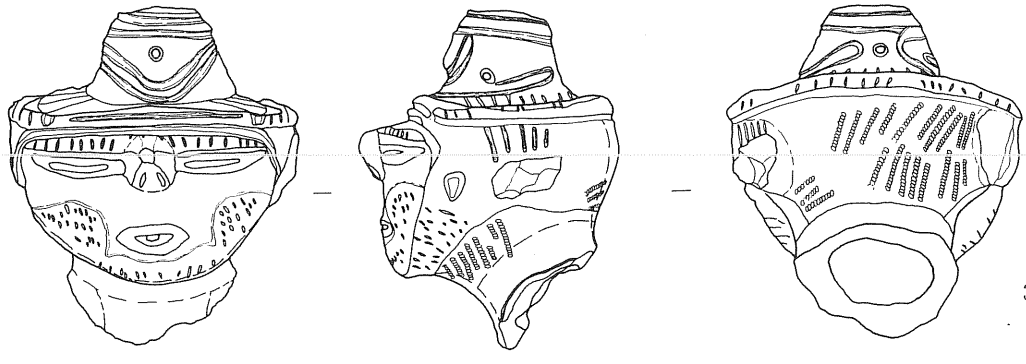
１～４は玉類である。１は小玉で、石質は凝灰岩である。２は長さ1.7cmの玉で、石質は碧玉と考えられる。３は管玉で、石質は凝灰岩である。４は勾玉で、１側面の２ヶ所に刻み目を入れている。石質は玉髄と考えられる。５～７は有孔石製品である。自然石を利用したもので、孔は両面から穿っている。５は装飾品と考えられ、玉の類へ入るものであろう。石質は不明である。６の石質は凝灰岩である。７の石質は泥岩で、板状のものに２個の孔を穿っている。



1



2

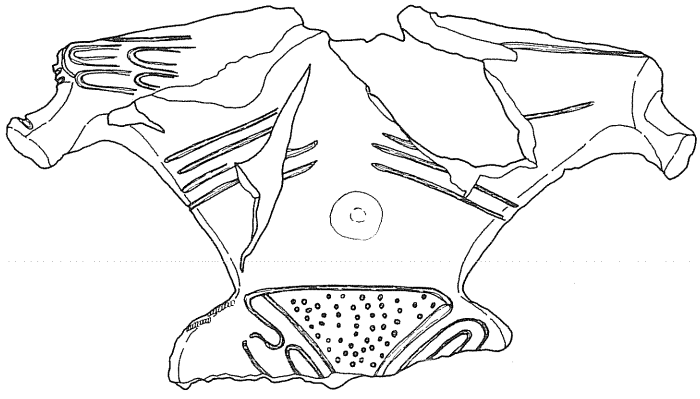


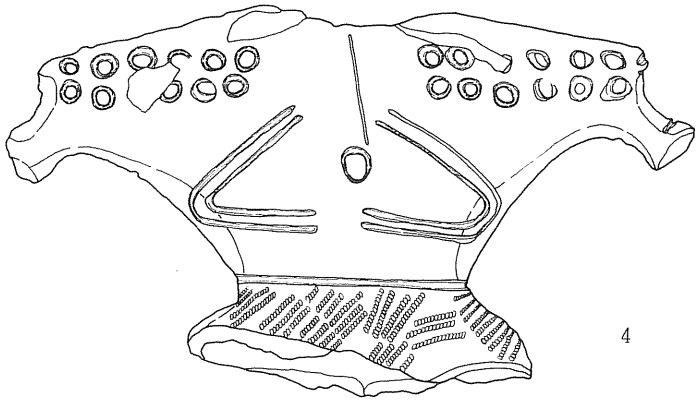
3

1・2　遺構外
3　　2号住居跡（弥生）

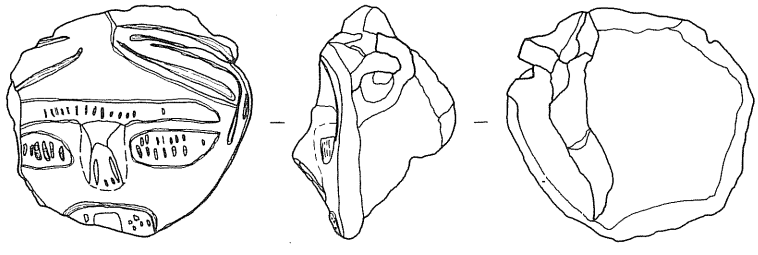
0　　5cm

第149図　土製品

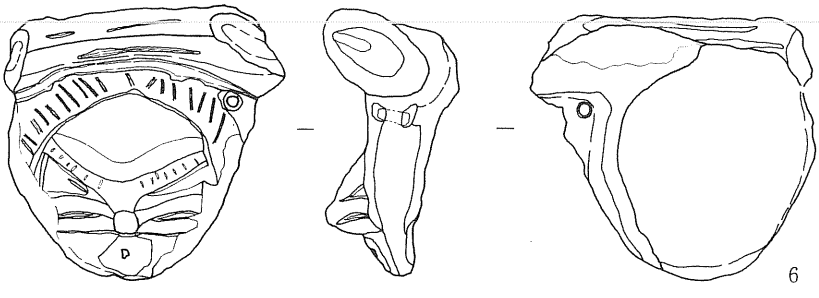




4



5

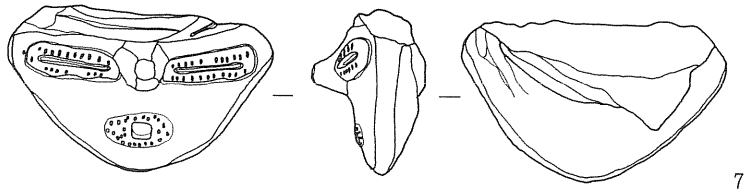


6

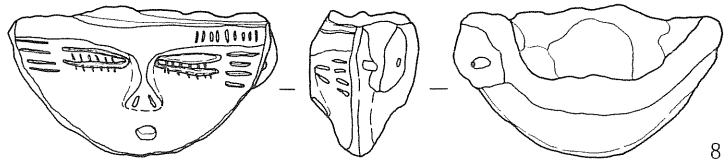
4～6　遺構外

0　5 cm

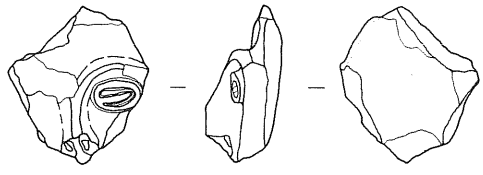
第150図　土製品



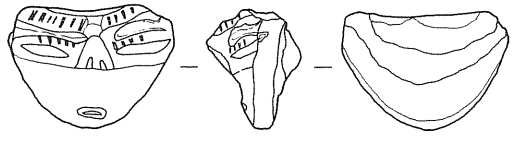
7



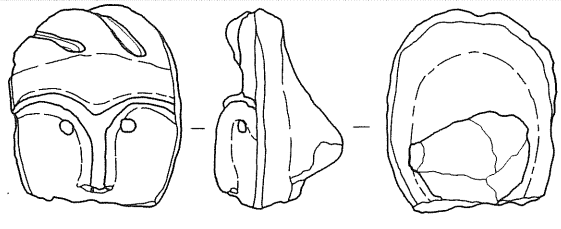
8



9



10

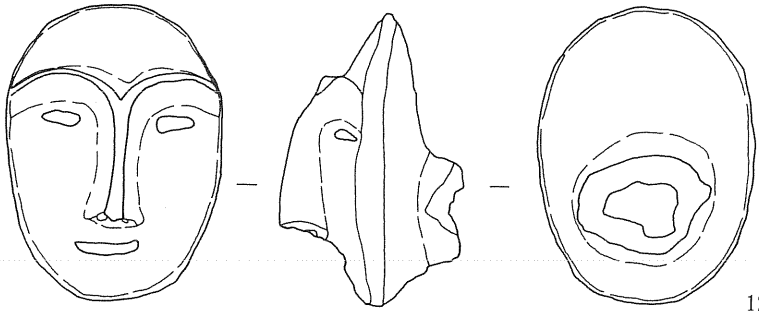


11

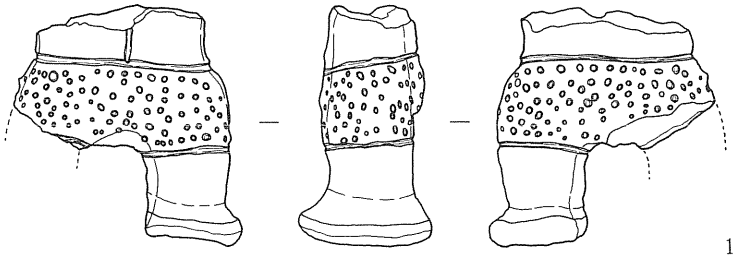
7・8　集石Ⅱ
9～11　遺構外

0　5cm

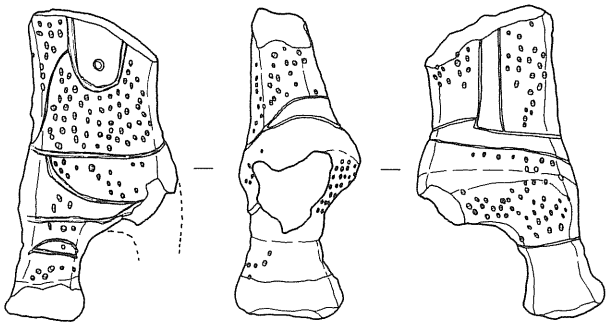
第151図　土製品



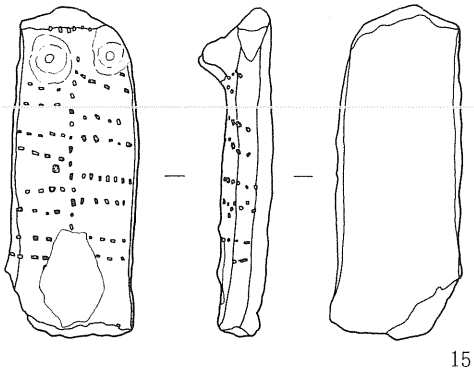
12



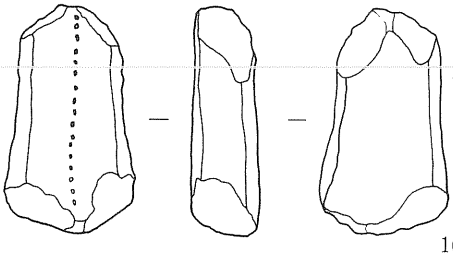
13



14



15

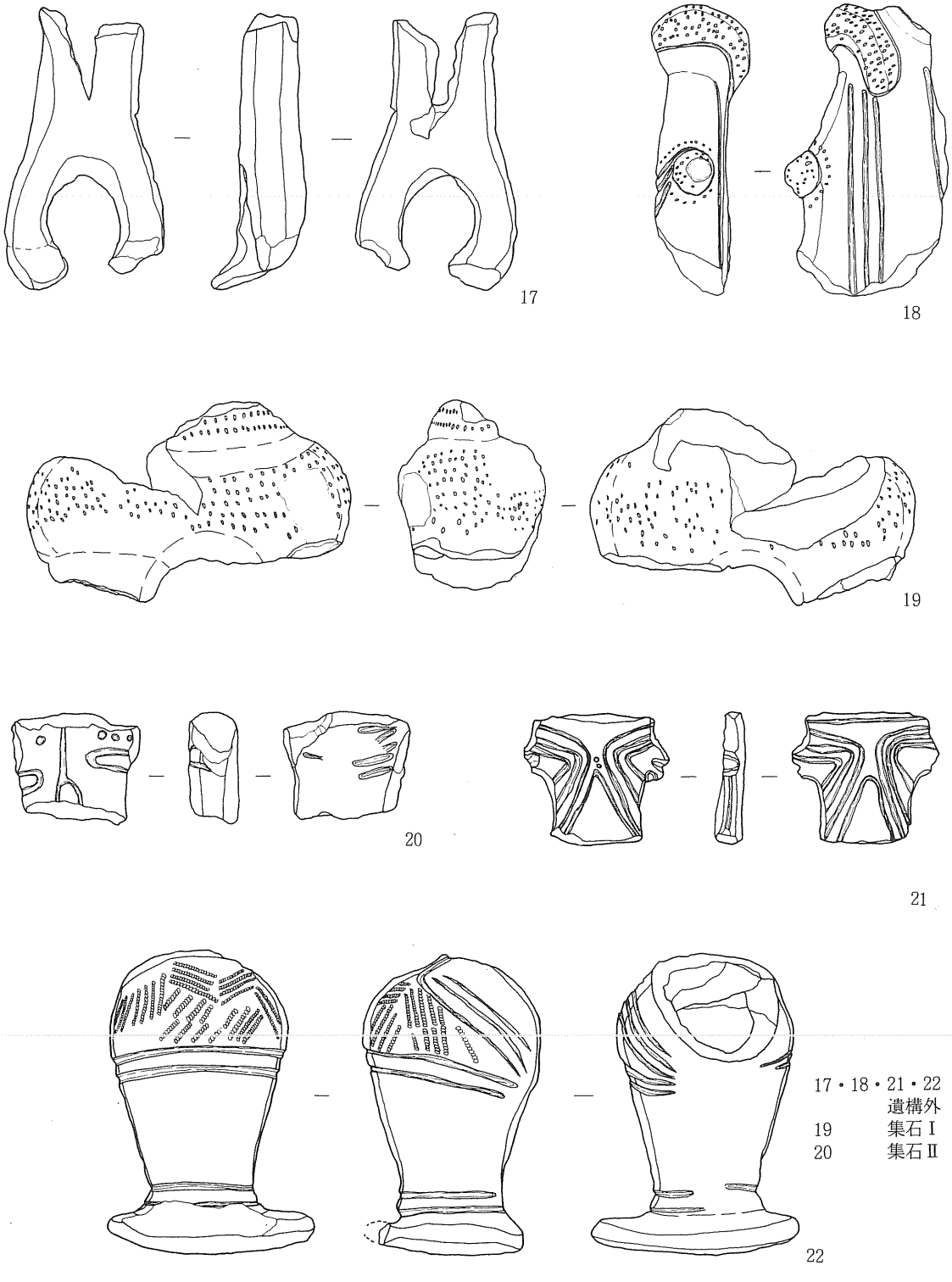


16

12～16　遺構外

0　5cm

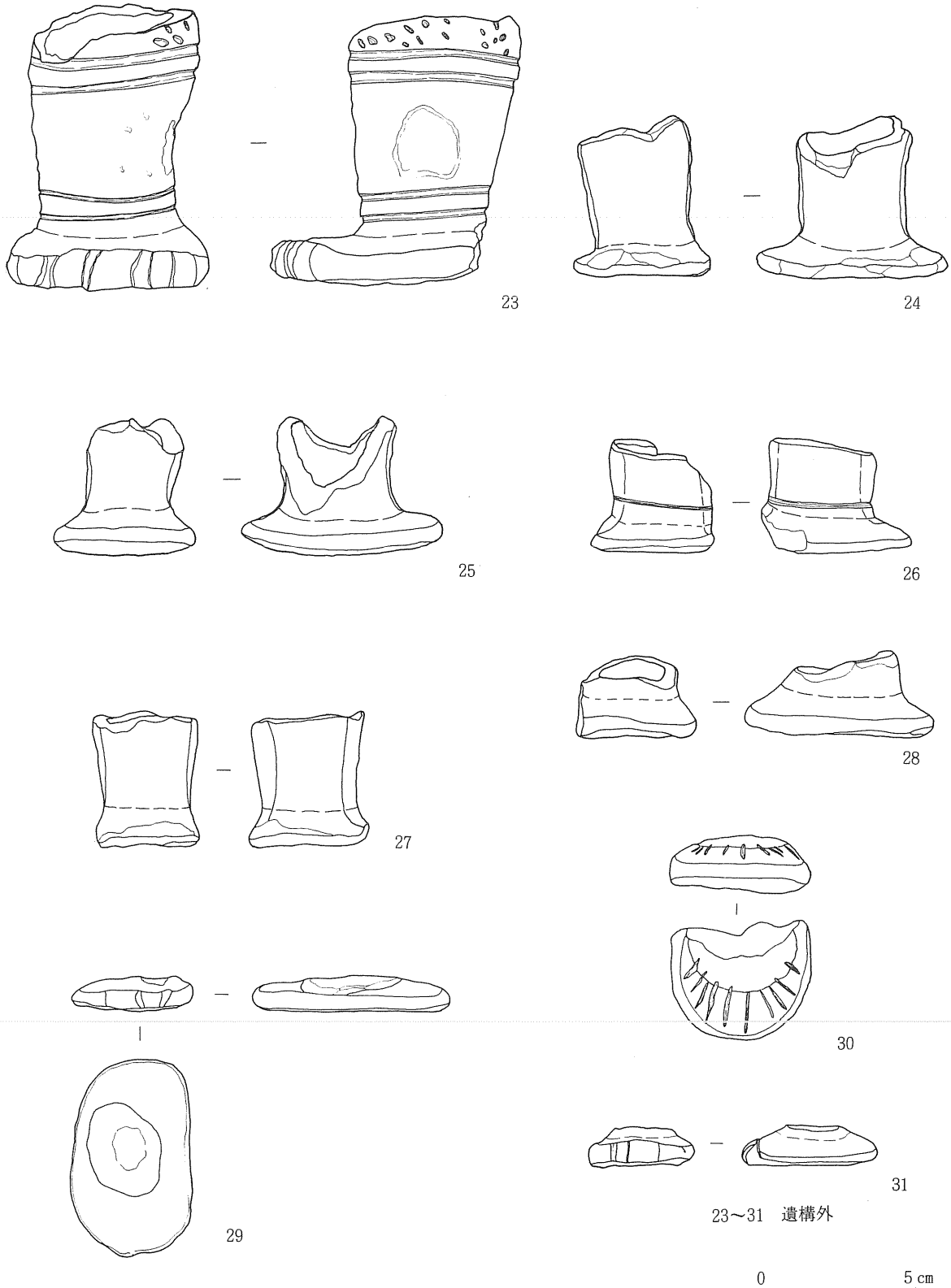
第152図　土製品



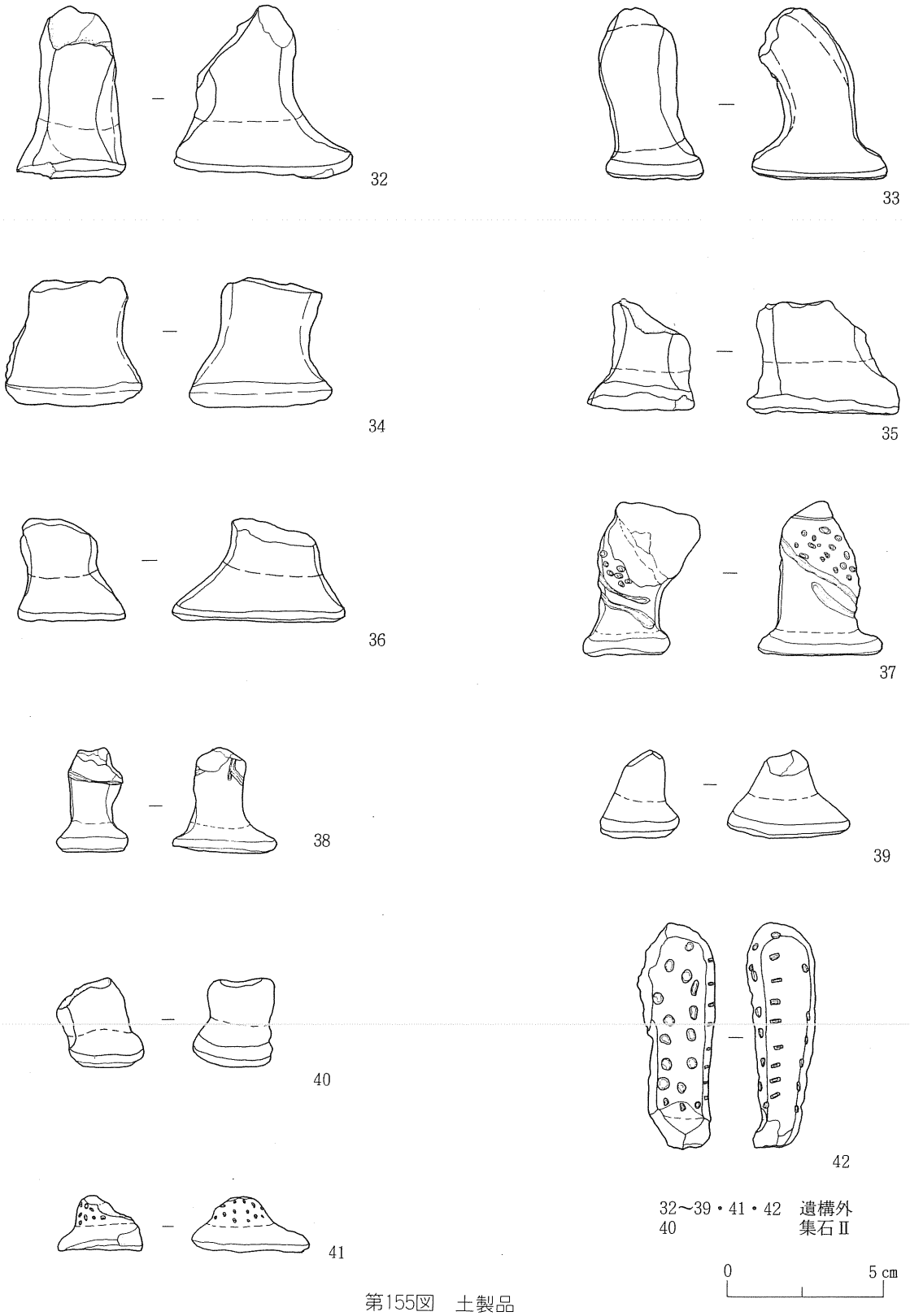
17・18・21・22　遺構外
19　集石Ⅰ
20　集石Ⅱ

0　5 cm

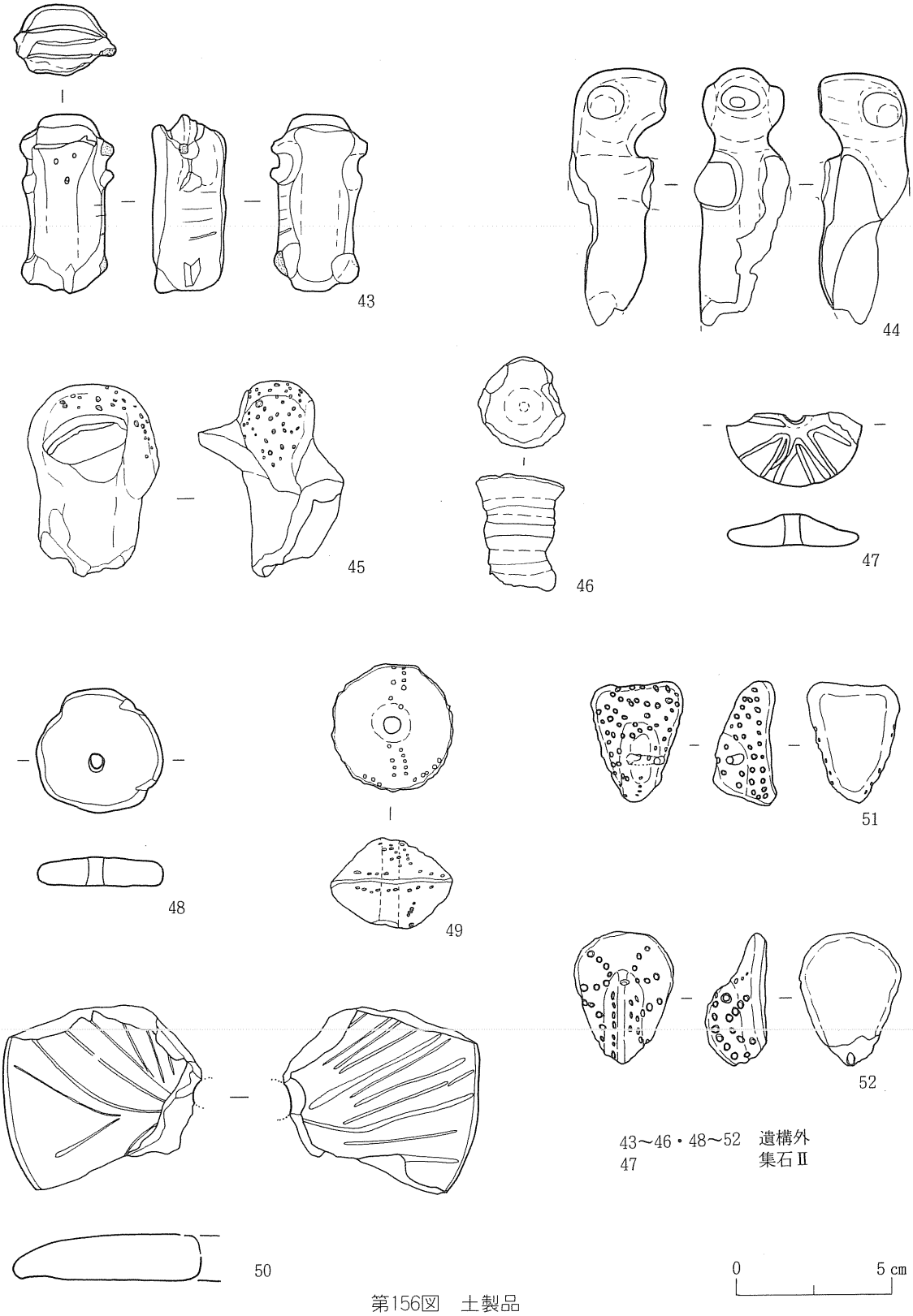
第153図　土製品



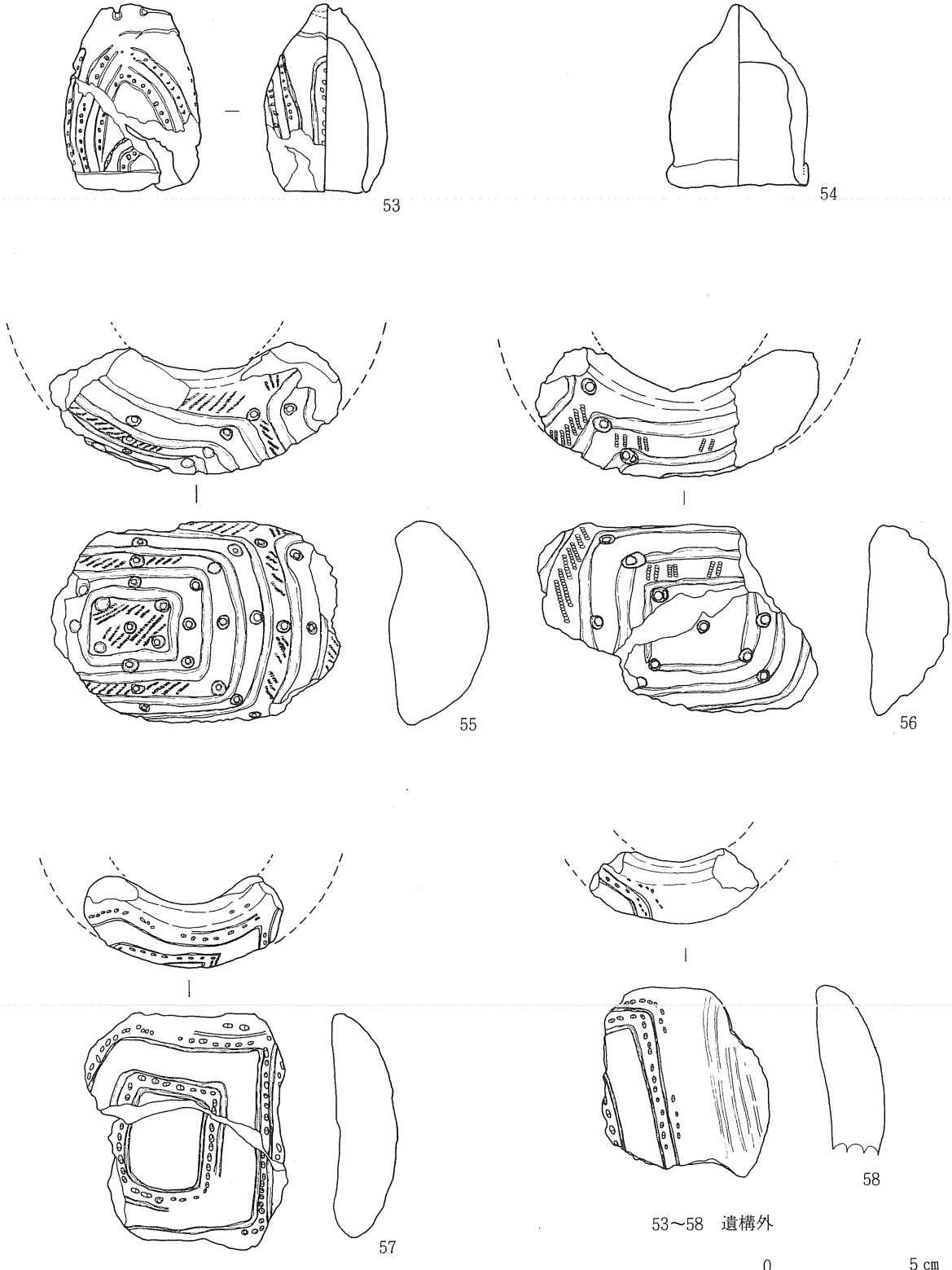
第154図　土製品



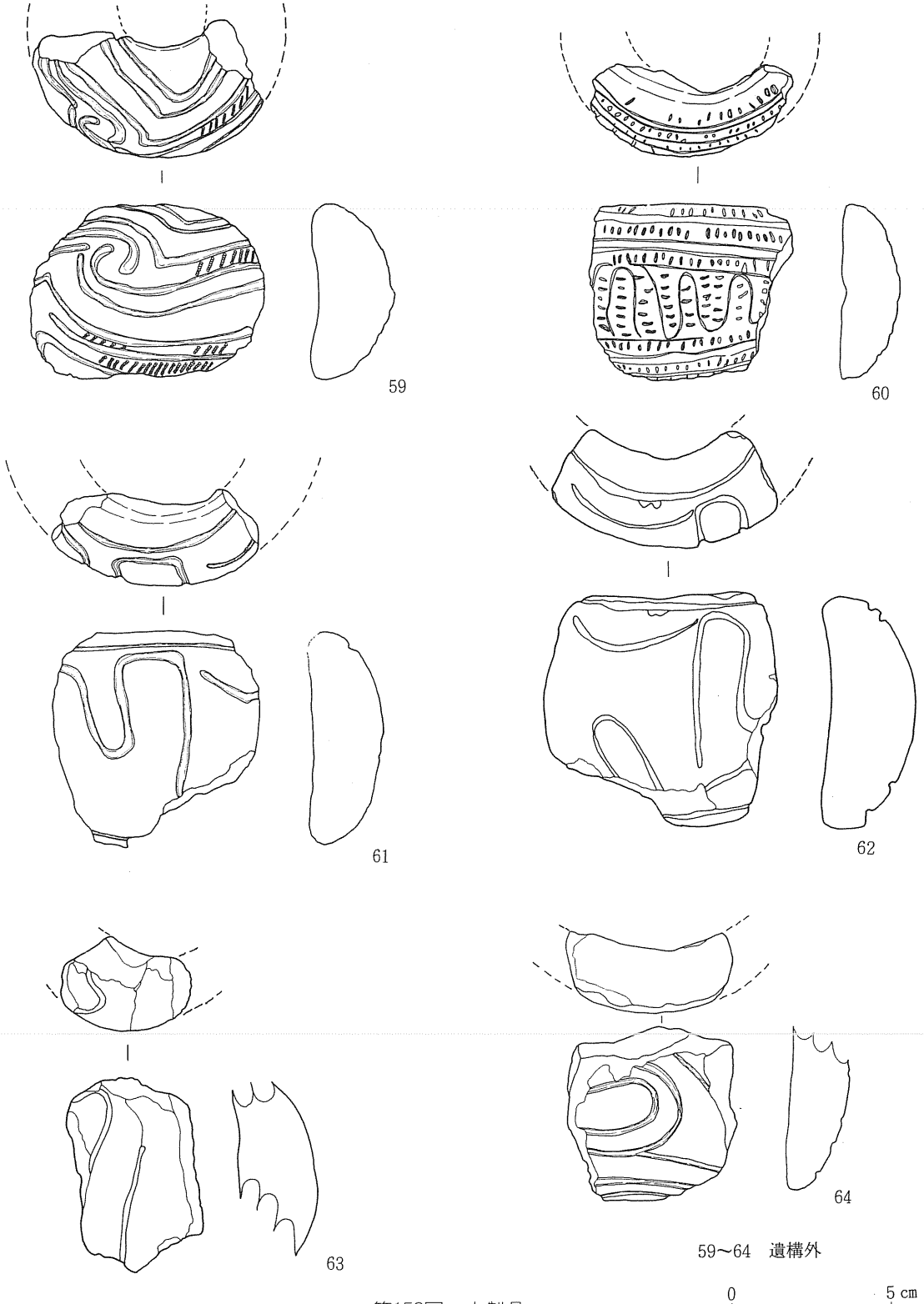
第155図　土製品



第156図　土製品



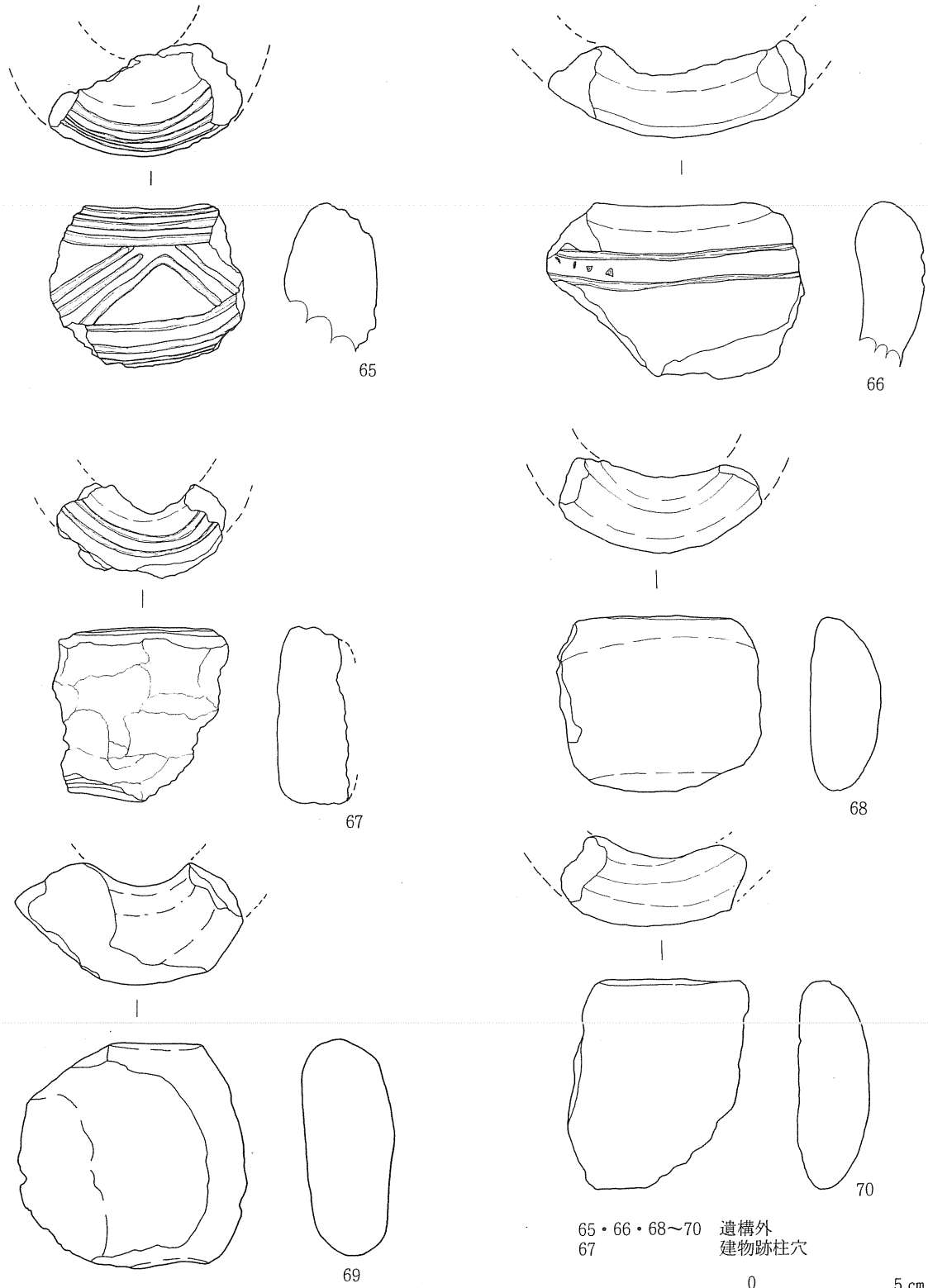
第157図　土製品



59～64　遺構外

第158図　土製品

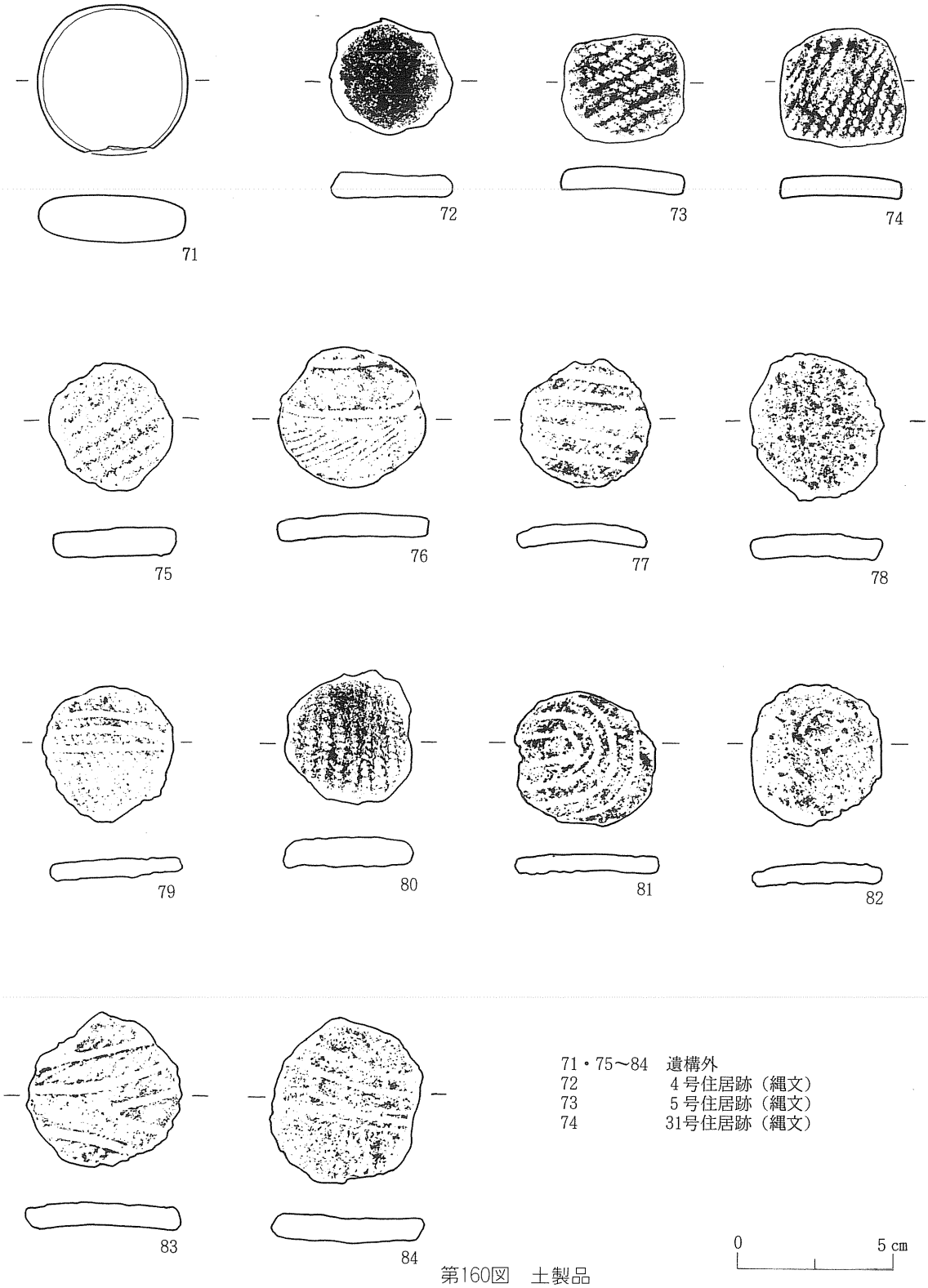
0　5 cm



65・66・68～70　遺構外
67　建物跡柱穴

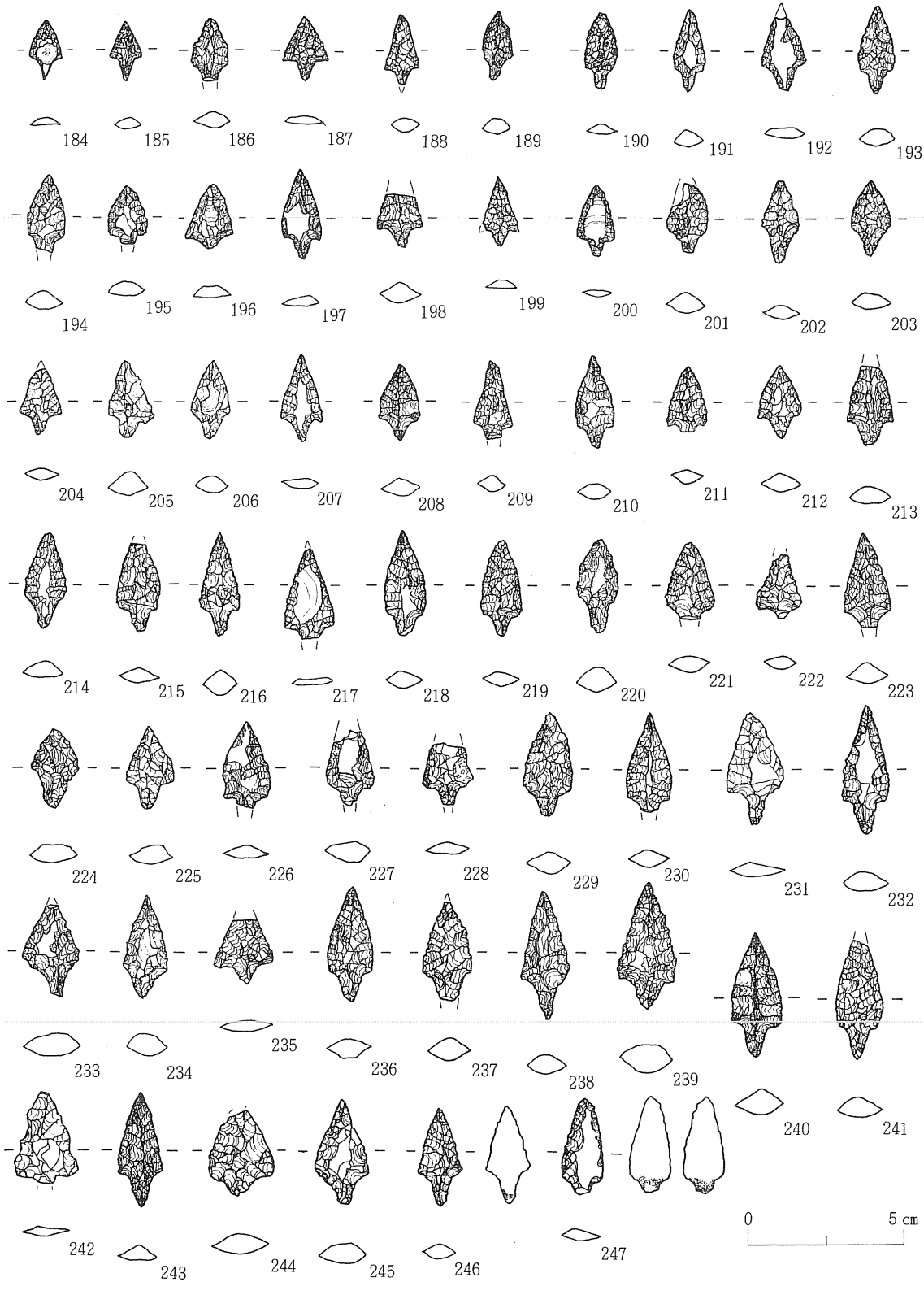
0　5 cm

第159図　土製品

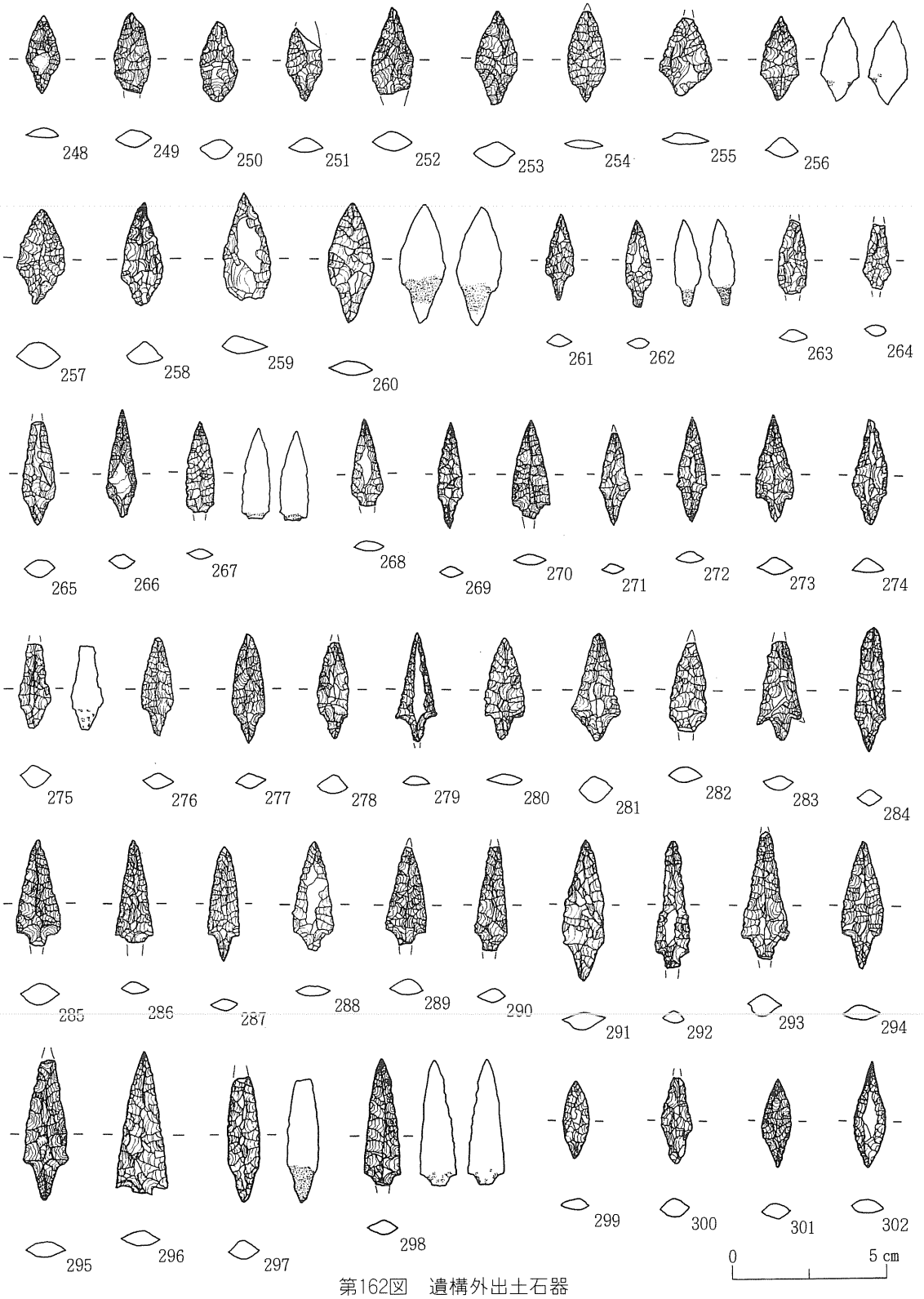


71・75～84　遺構外
72　4号住居跡（縄文）
73　5号住居跡（縄文）
74　31号住居跡（縄文）

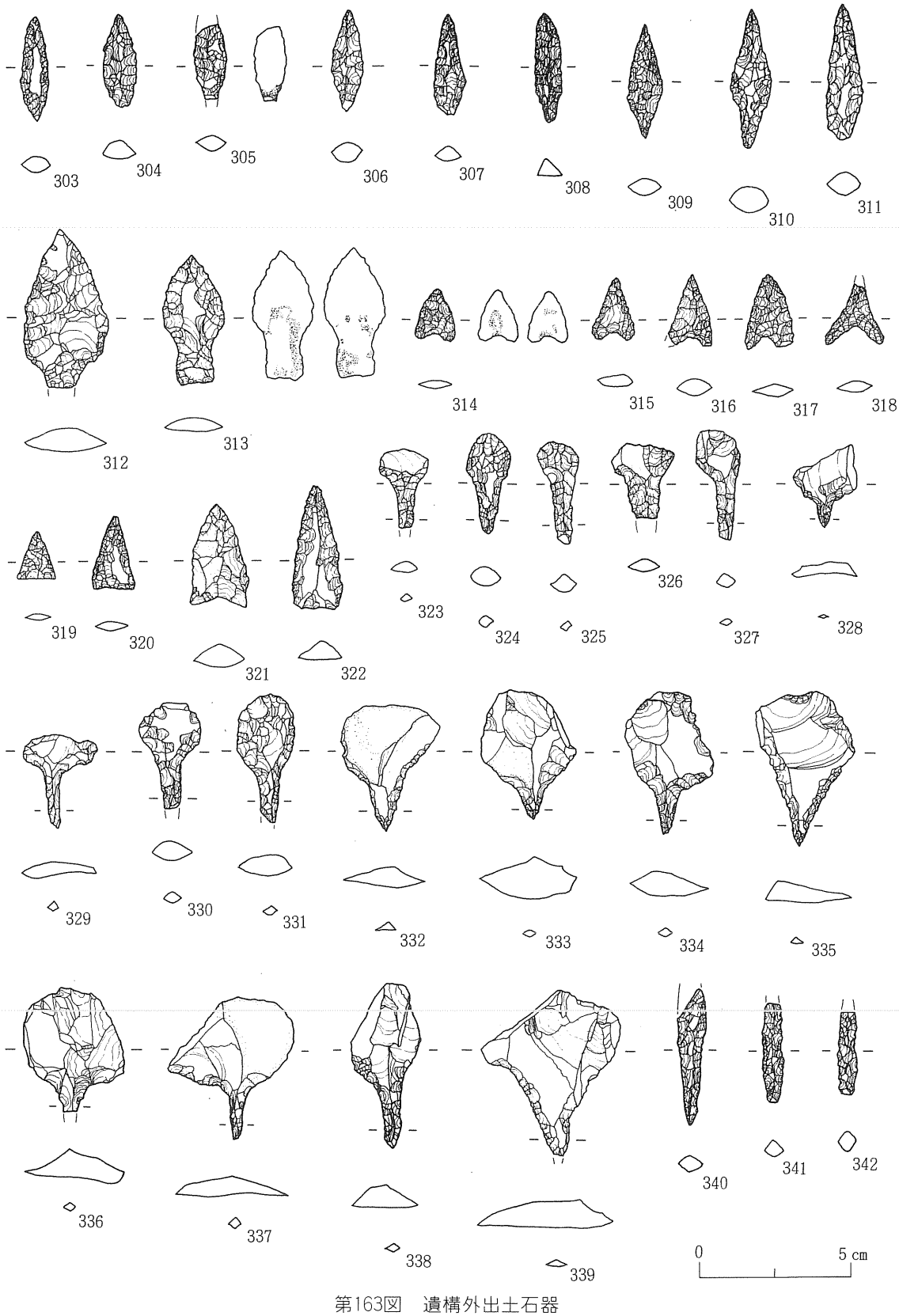
第160図　土製品



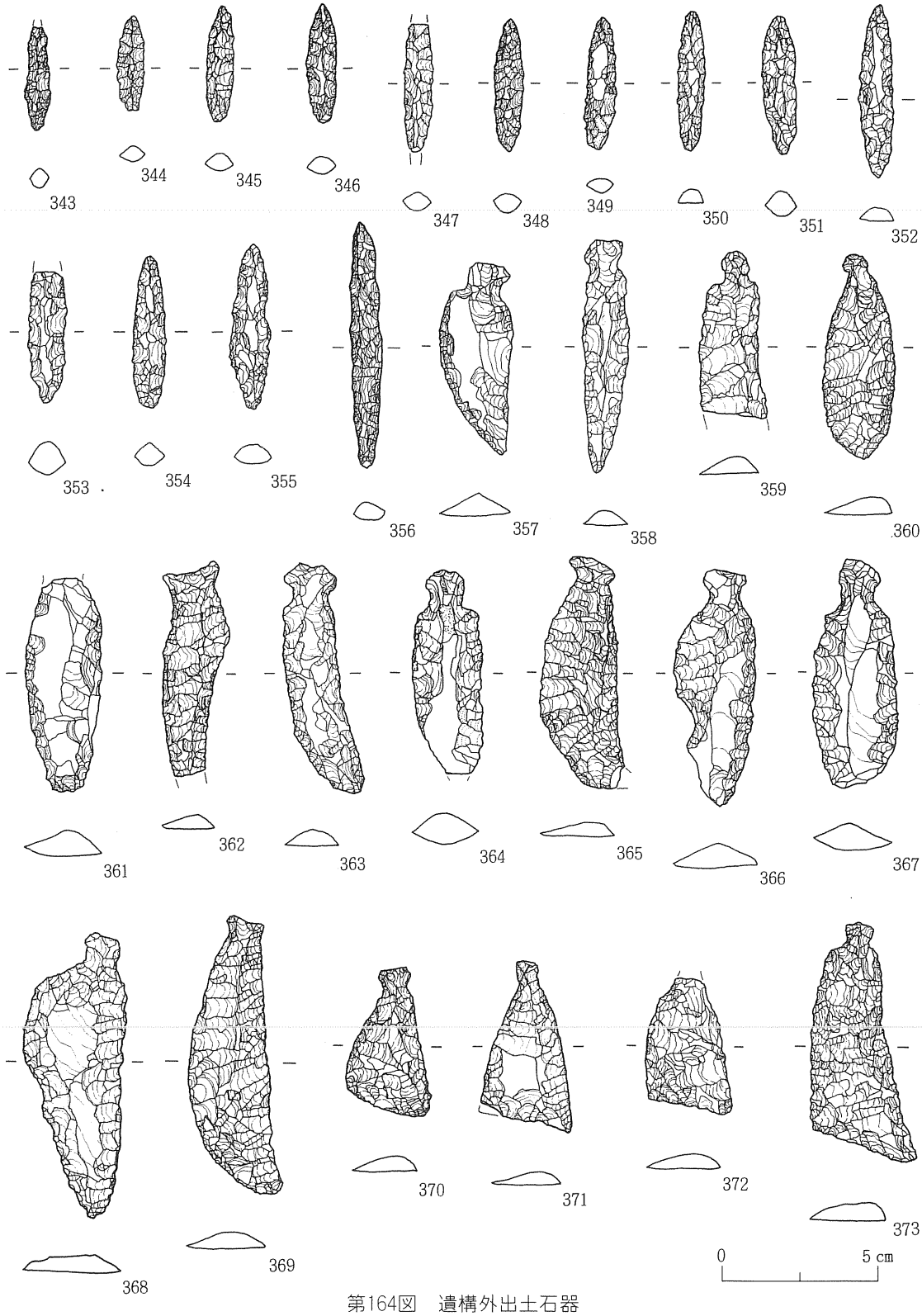
第161図　遺構外出土石器



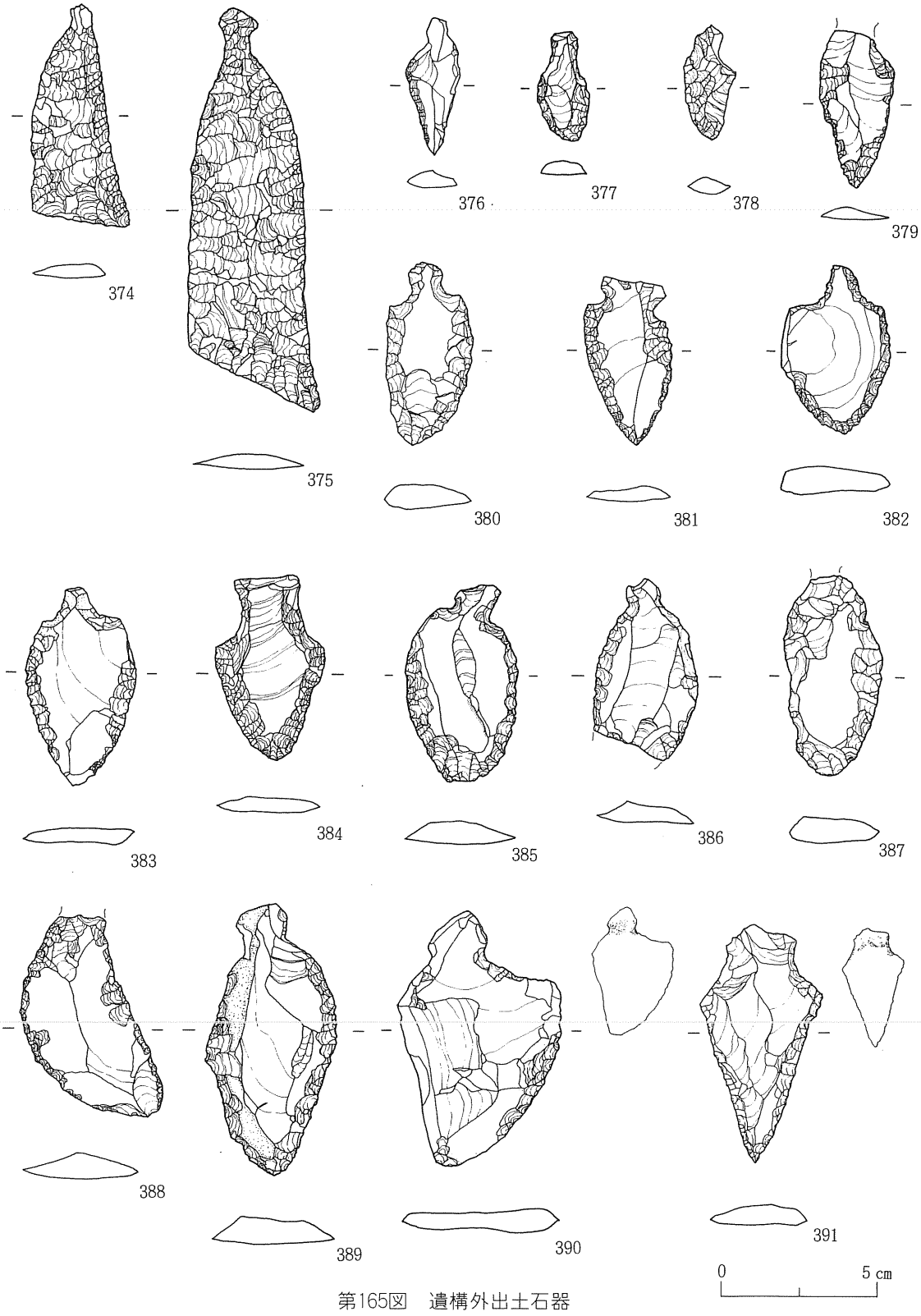
第162図　遺構外出土石器



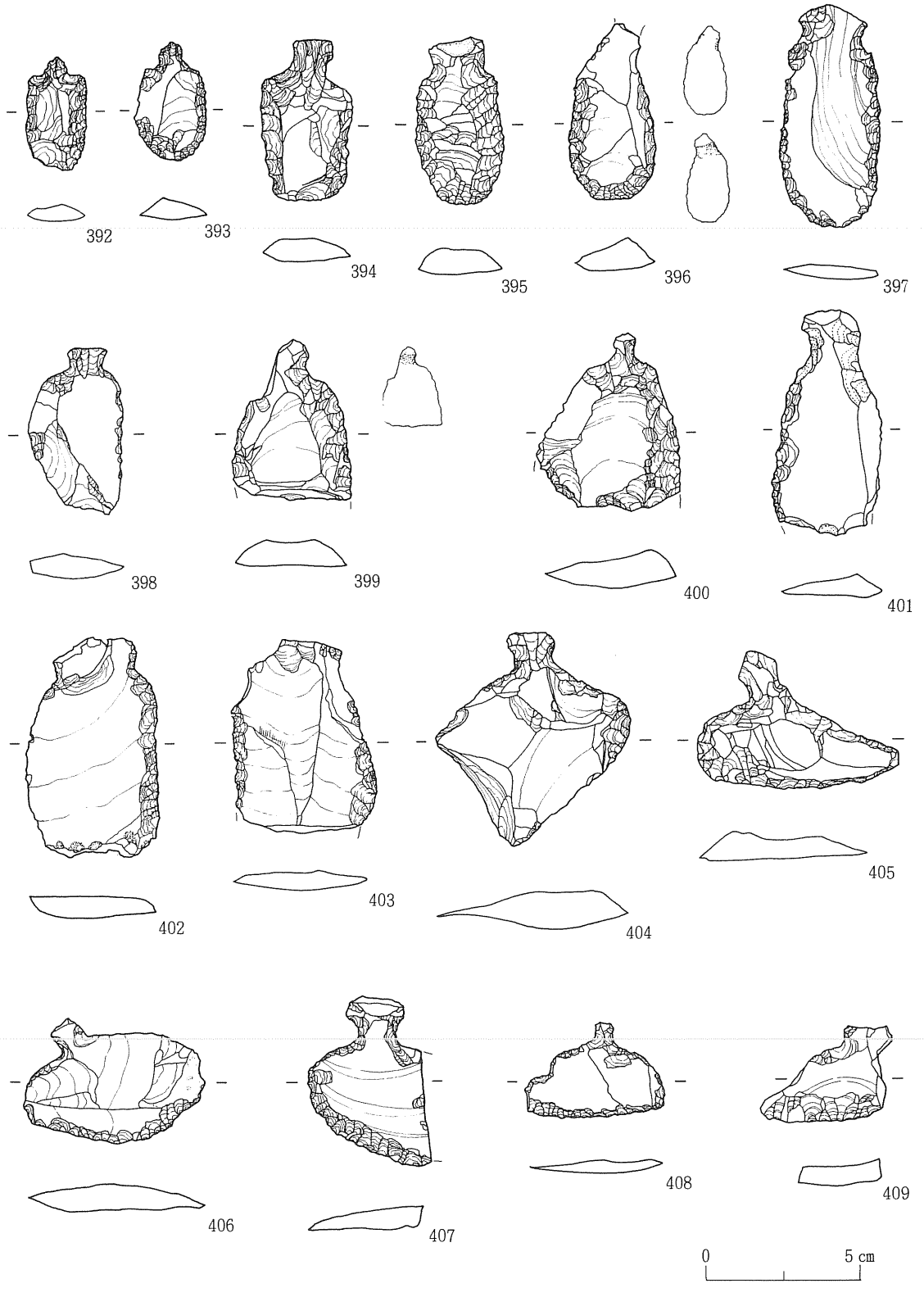
第163図　遺構外出土石器



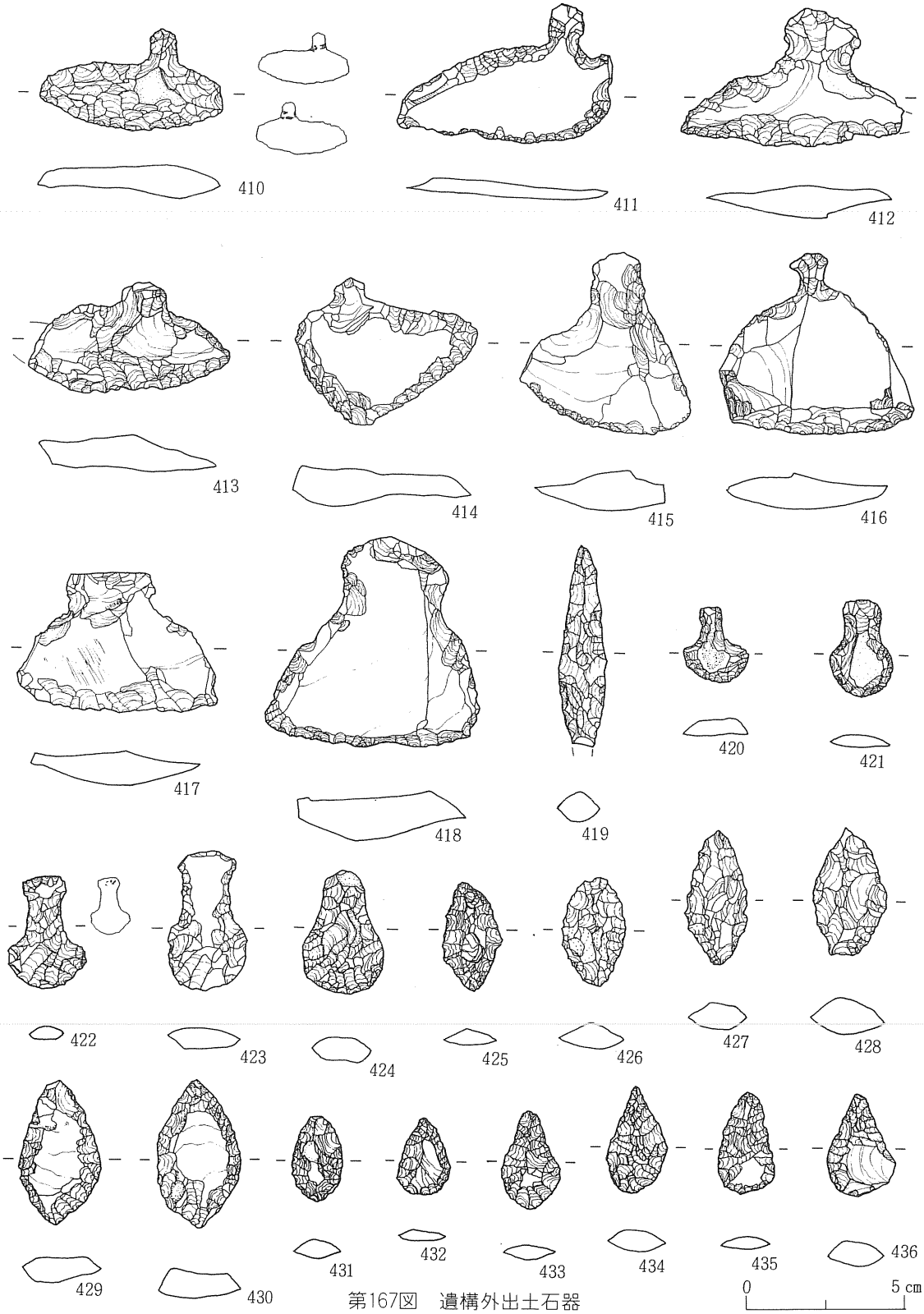
第164図　遺構外出土石器



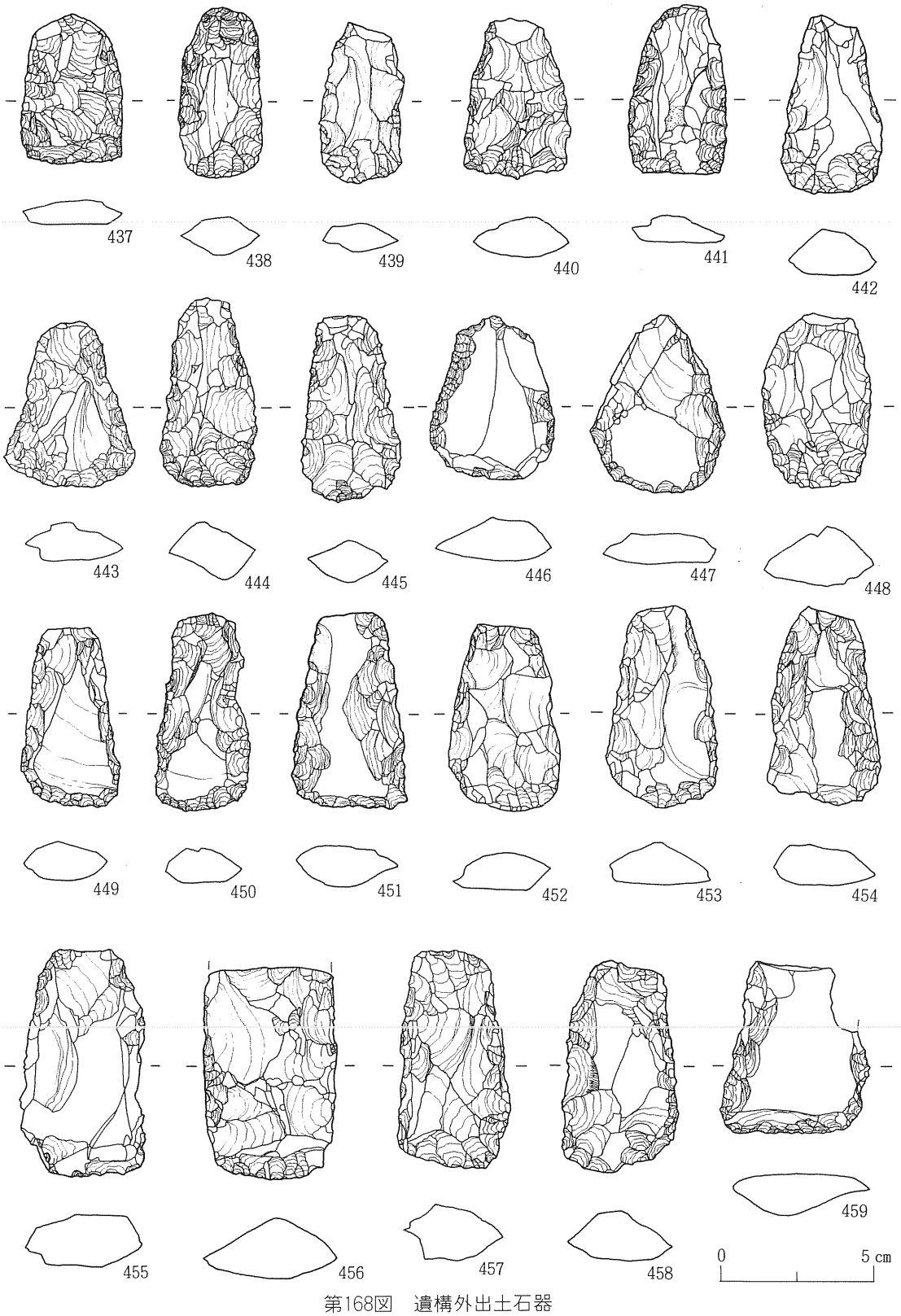
第165図　遺構外出土石器



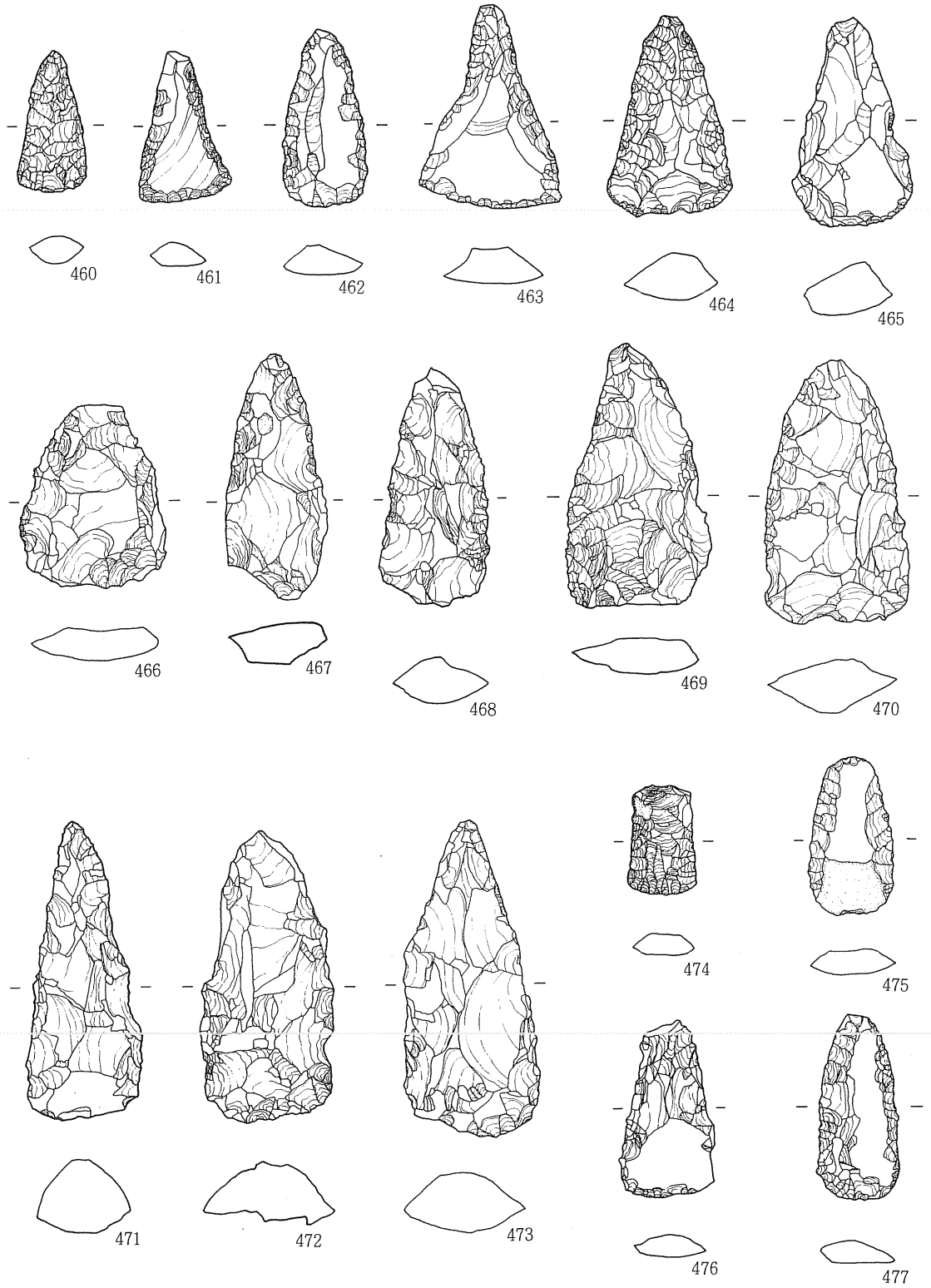
第166図　遺構外出土石器



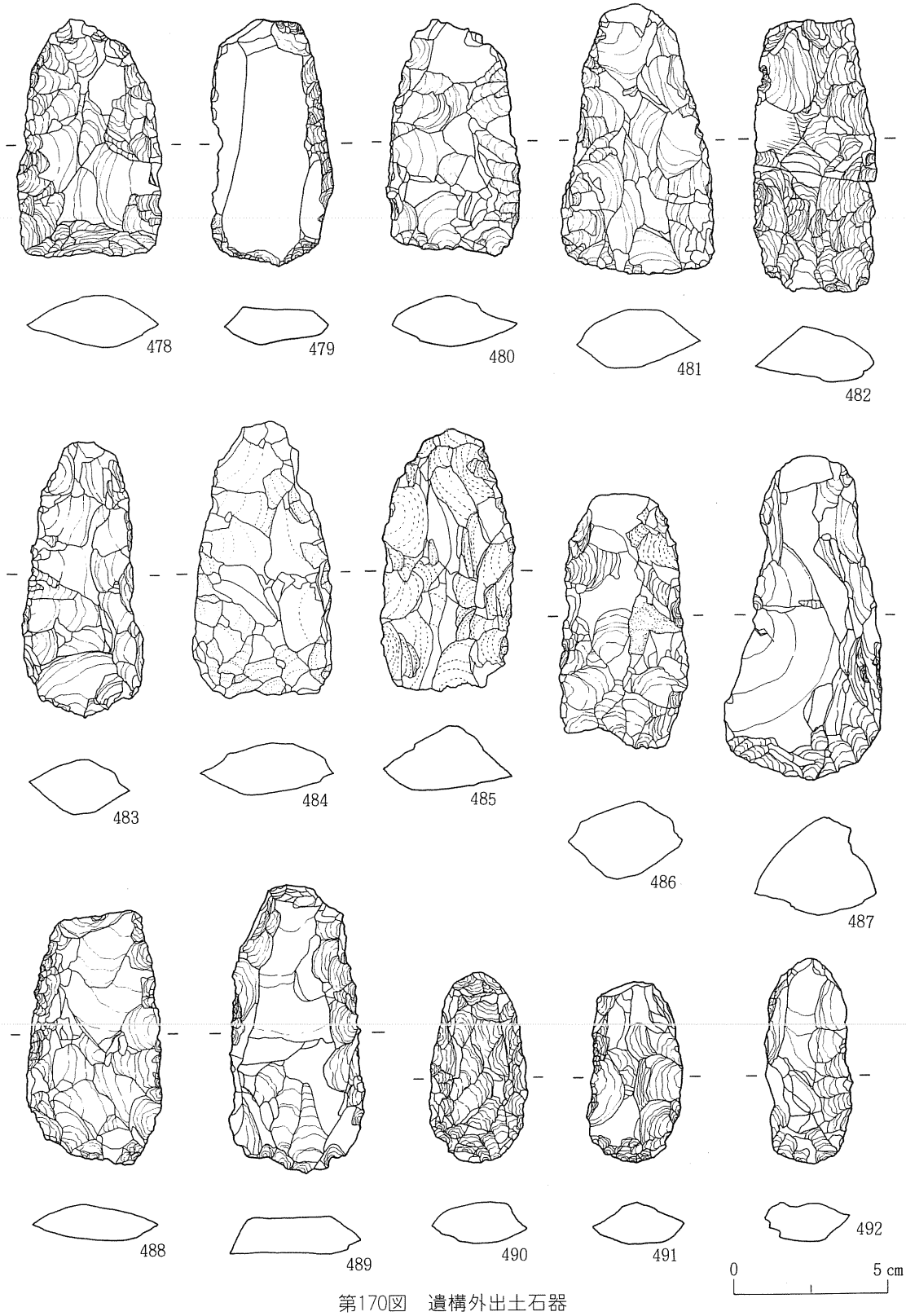
第167図　遺構外出土石器



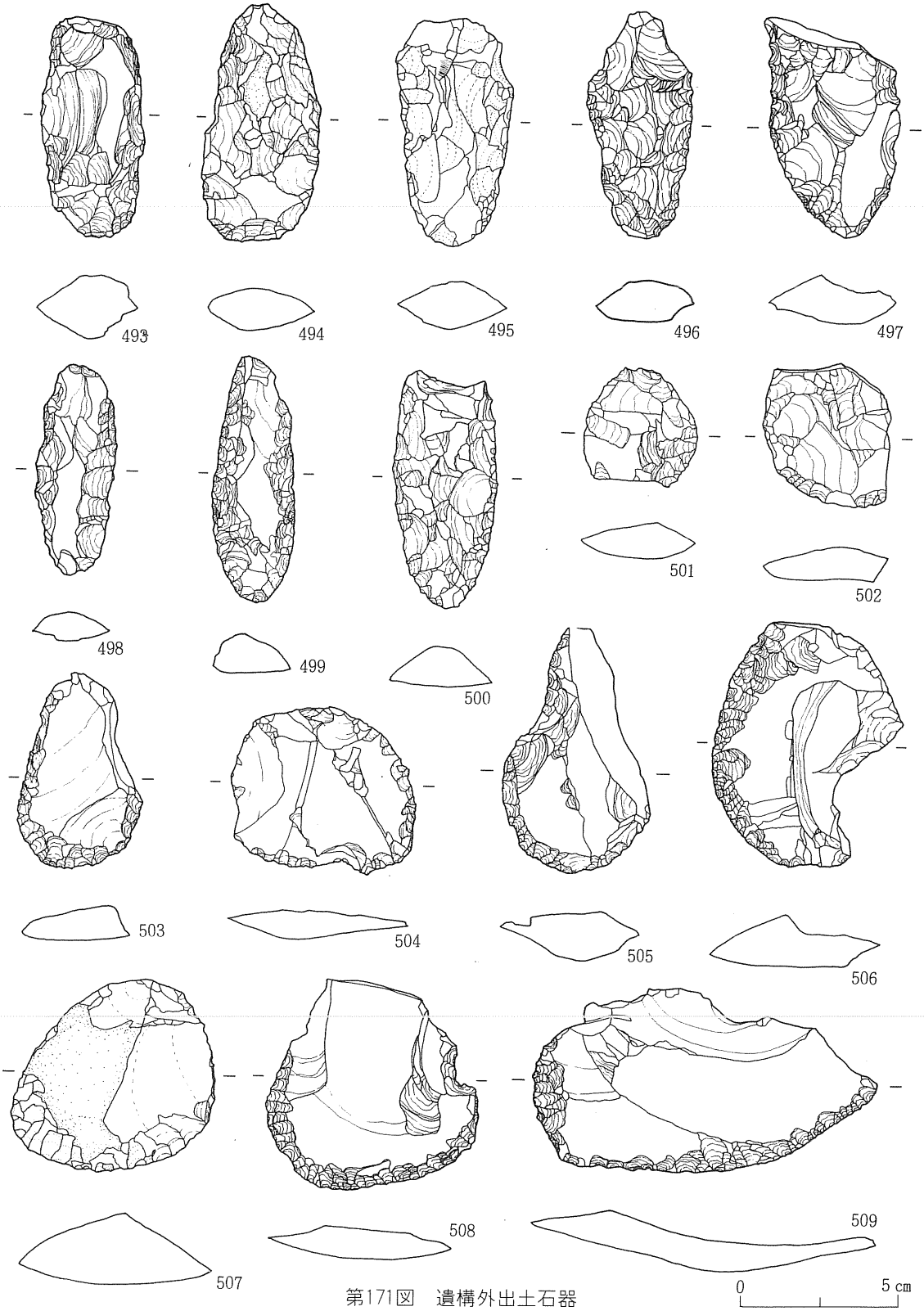
第168図　遺構外出土石器



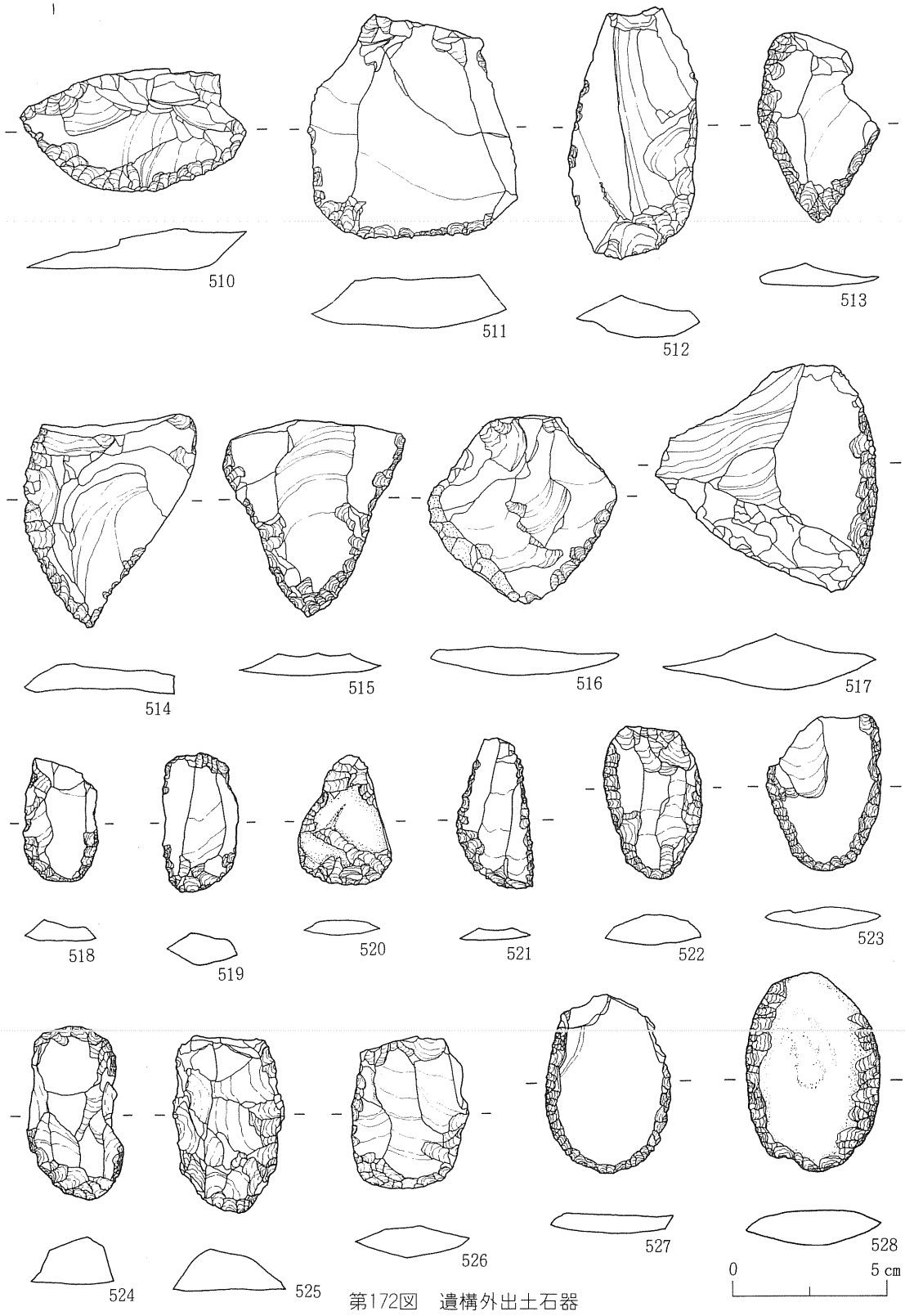
第169図　遺構外出土石器



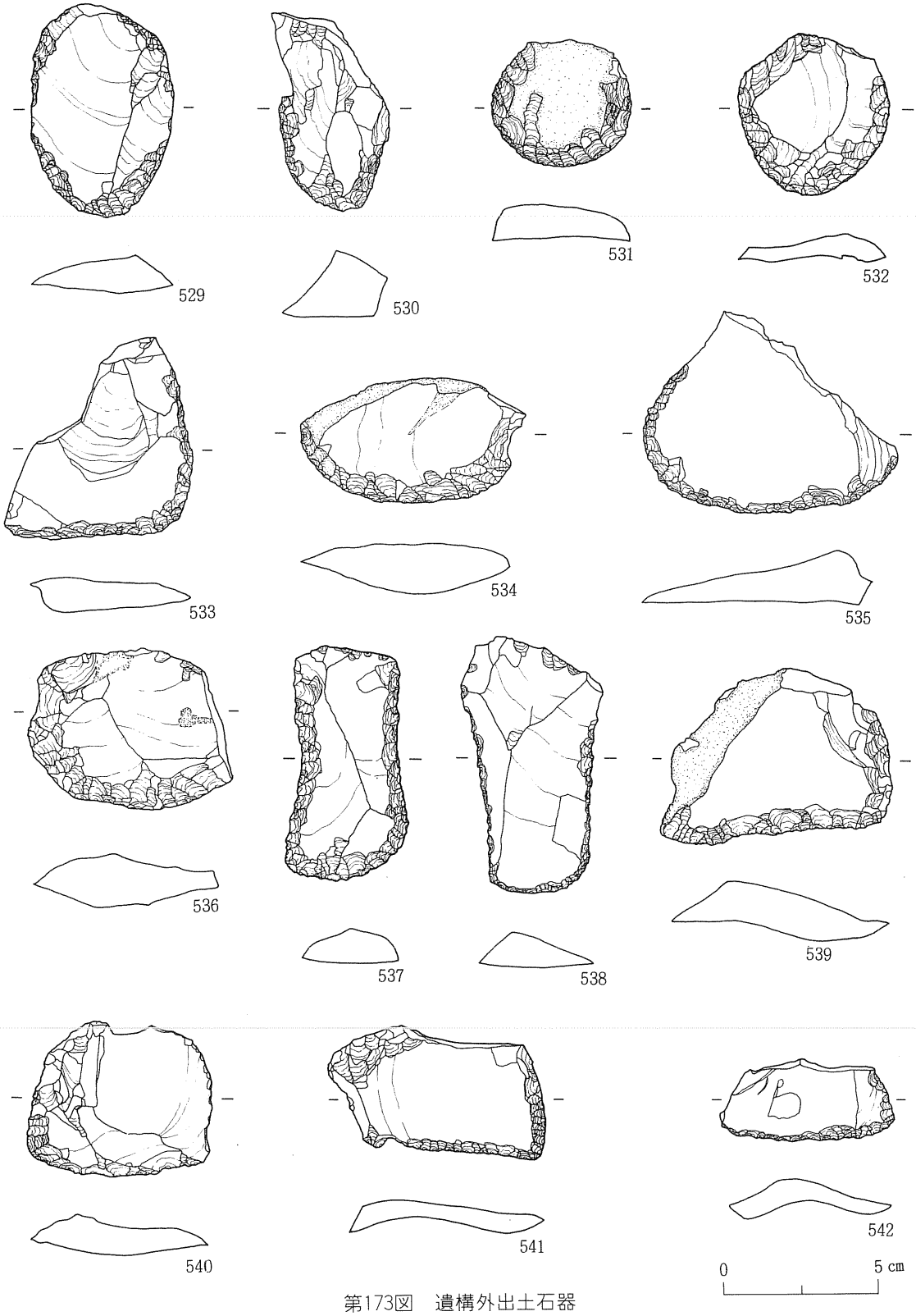
第170図　遺構外出土石器



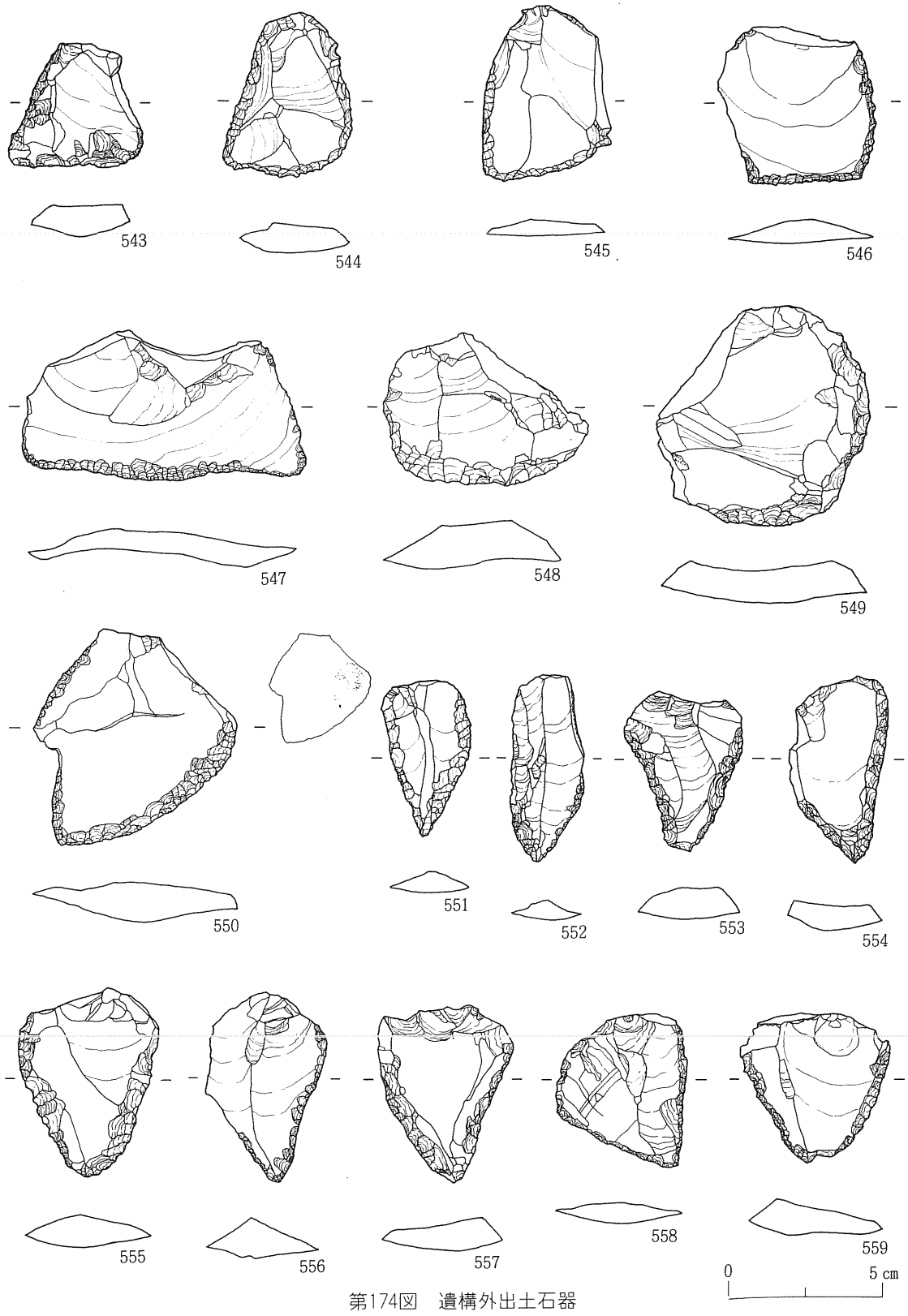
第171図　遺構外出土石器



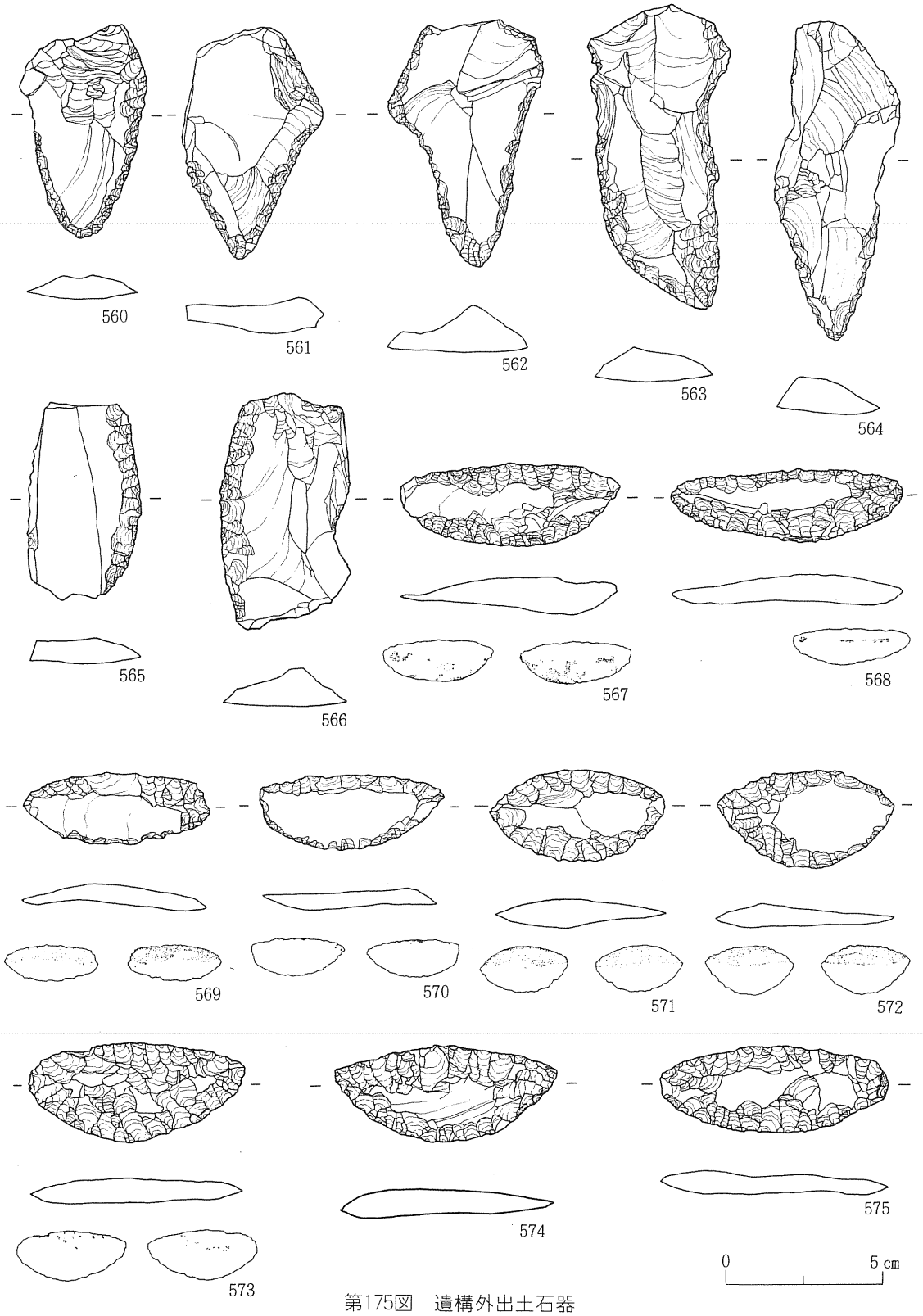
第172図　遺構外出土石器



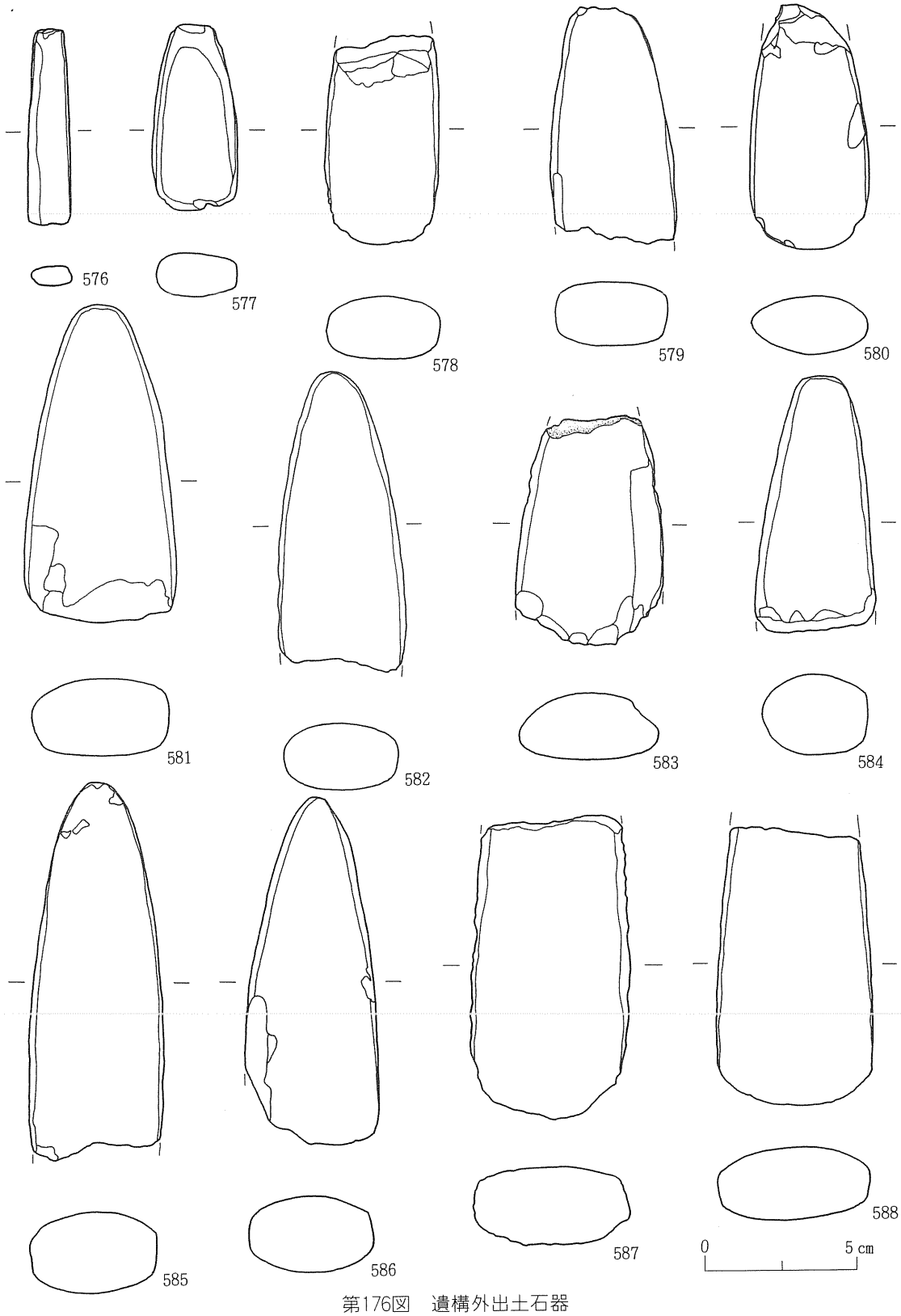
第173図　遺構外出土石器



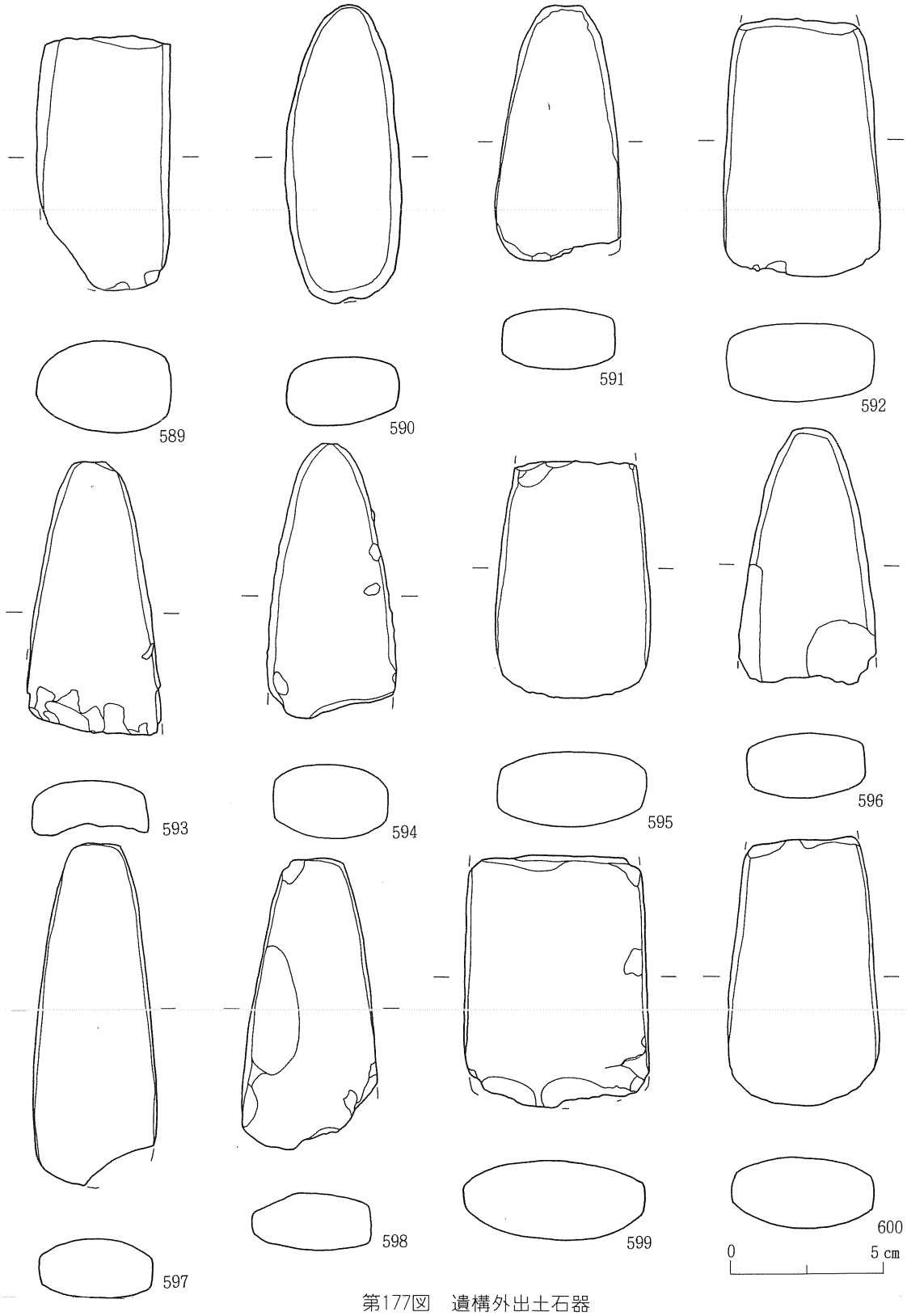
第174図　遺構外出土石器



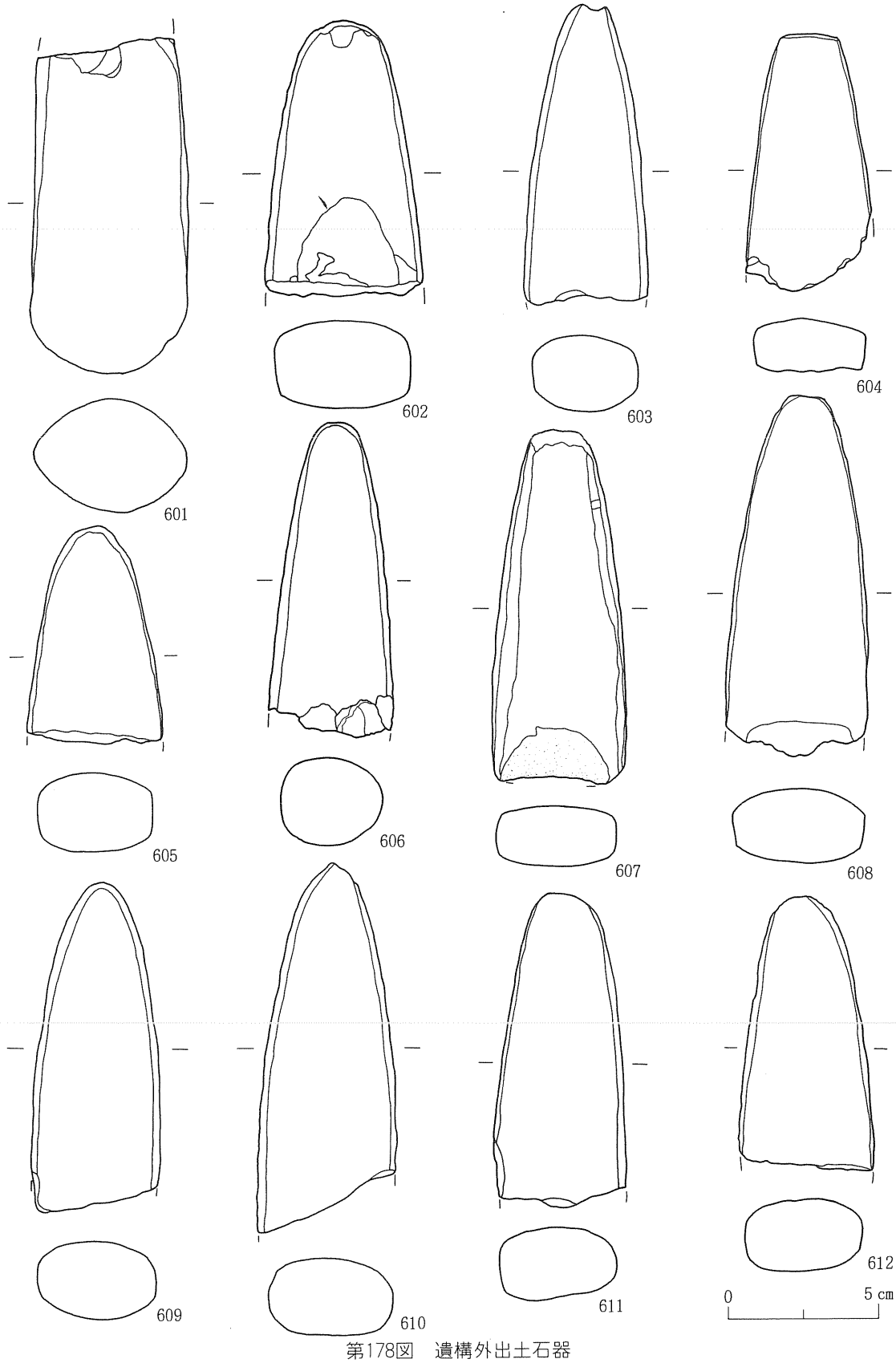
第175図　遺構外出土石器



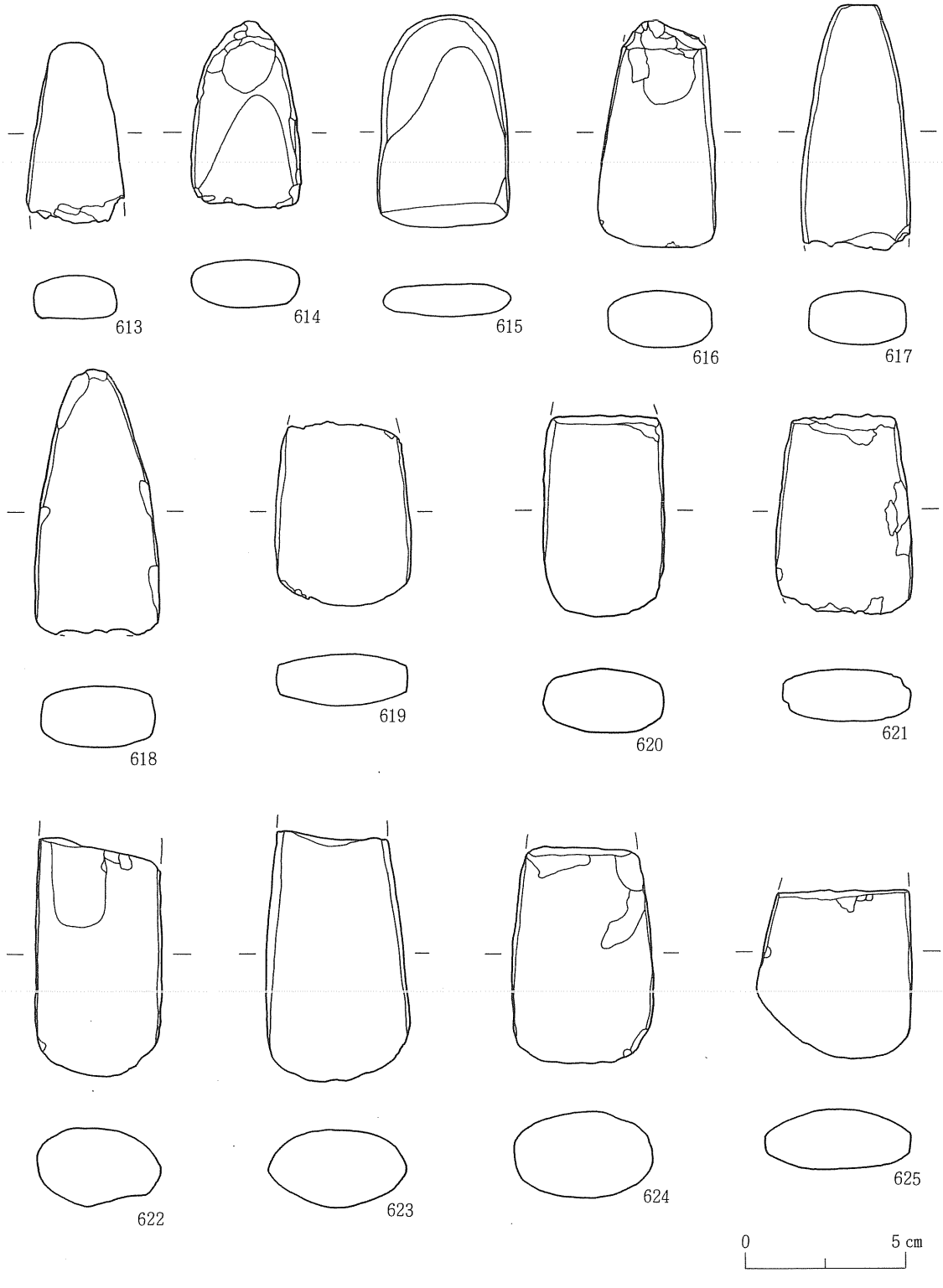
第176図　遺構外出土石器



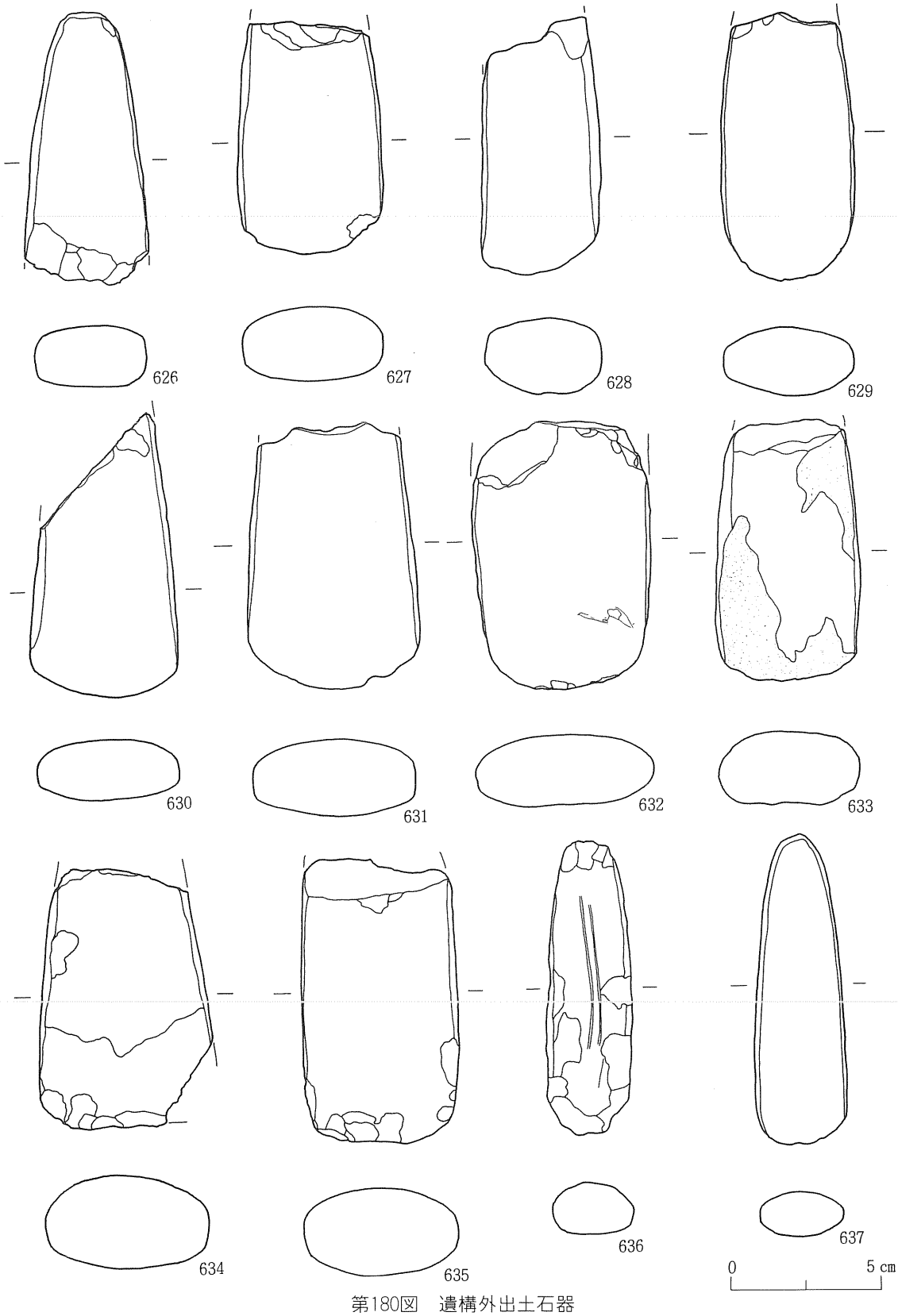
第177図　遺構外出土石器



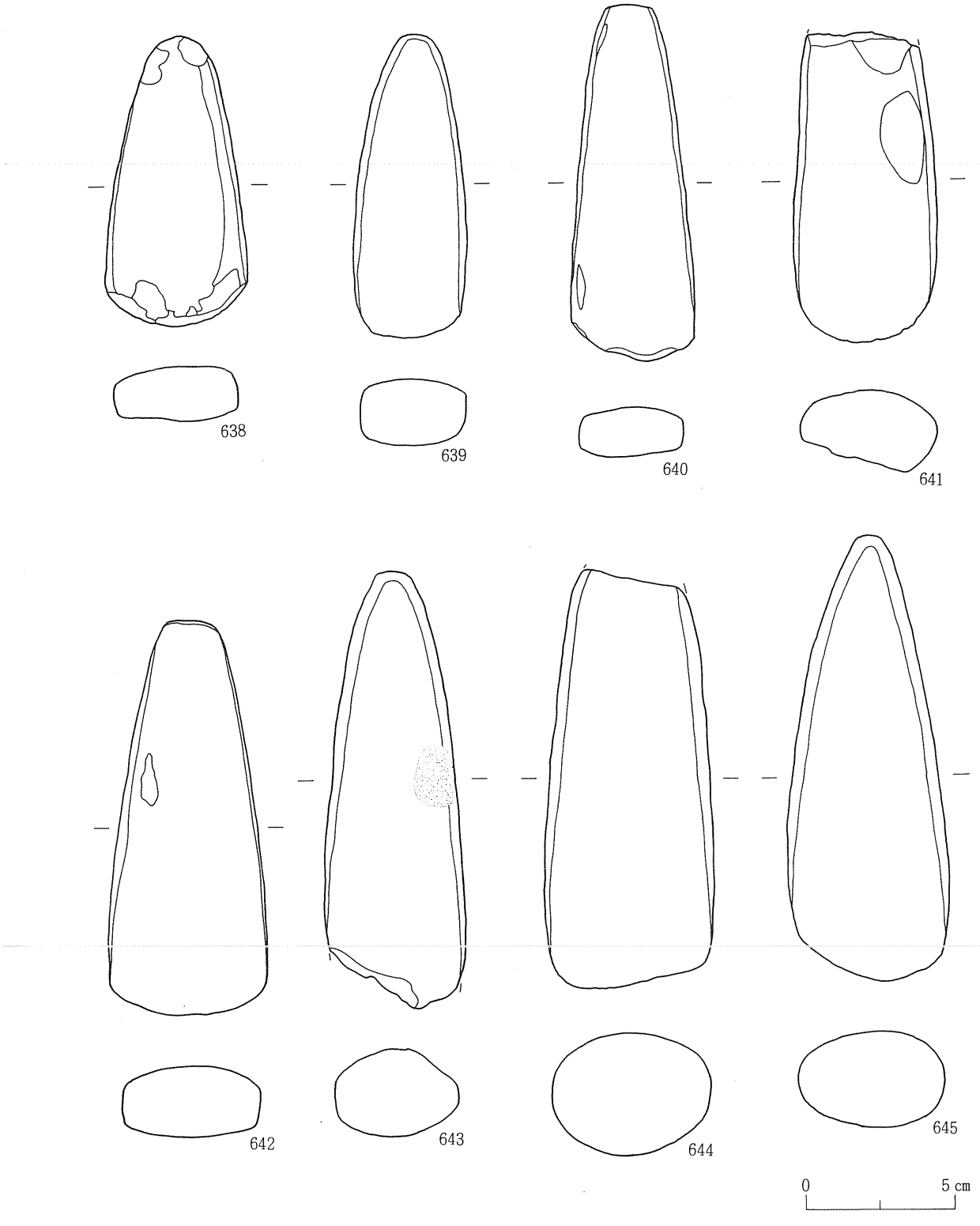
第178図　遺構外出土石器



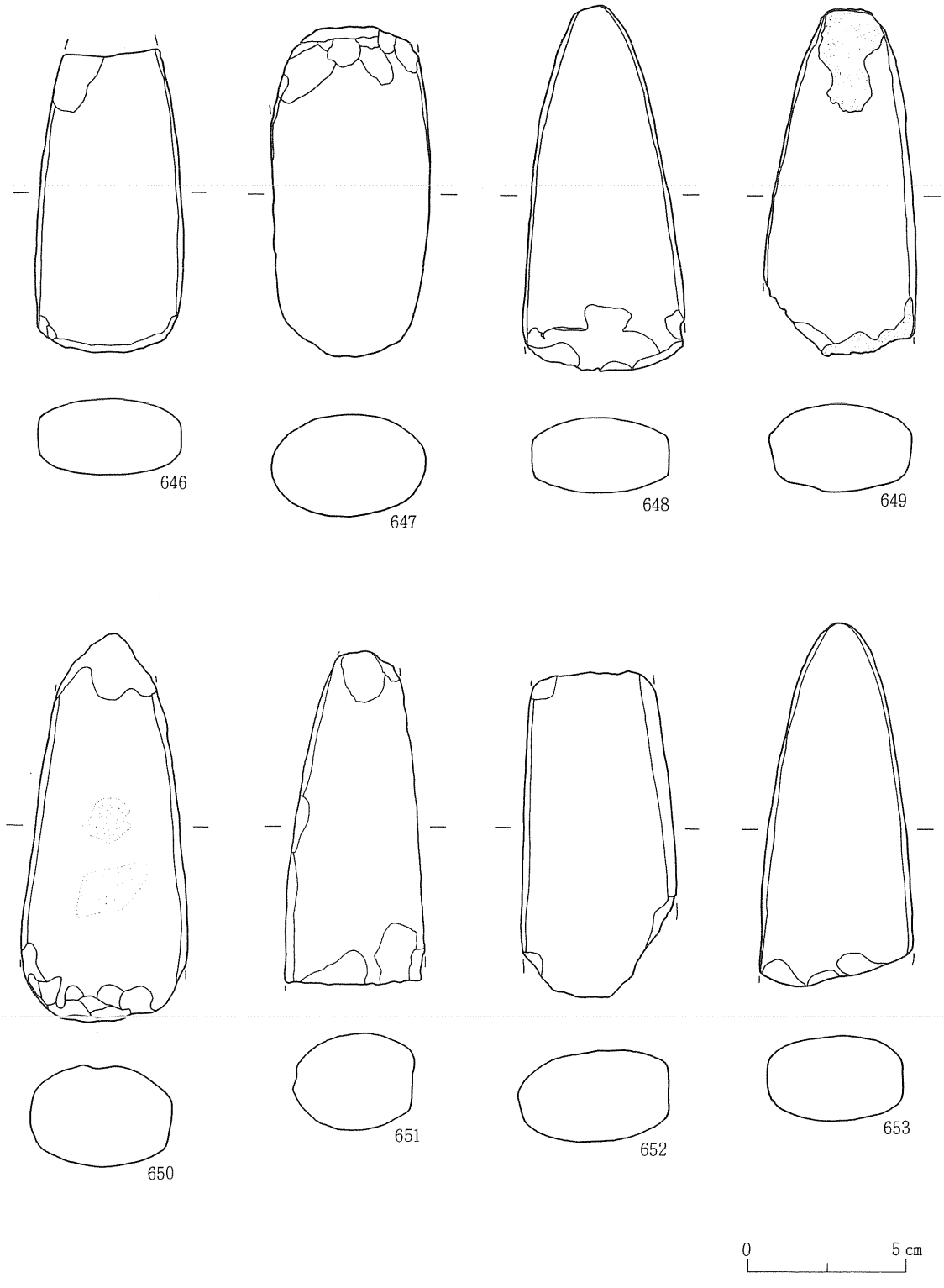
第179図　遺構外出土石器



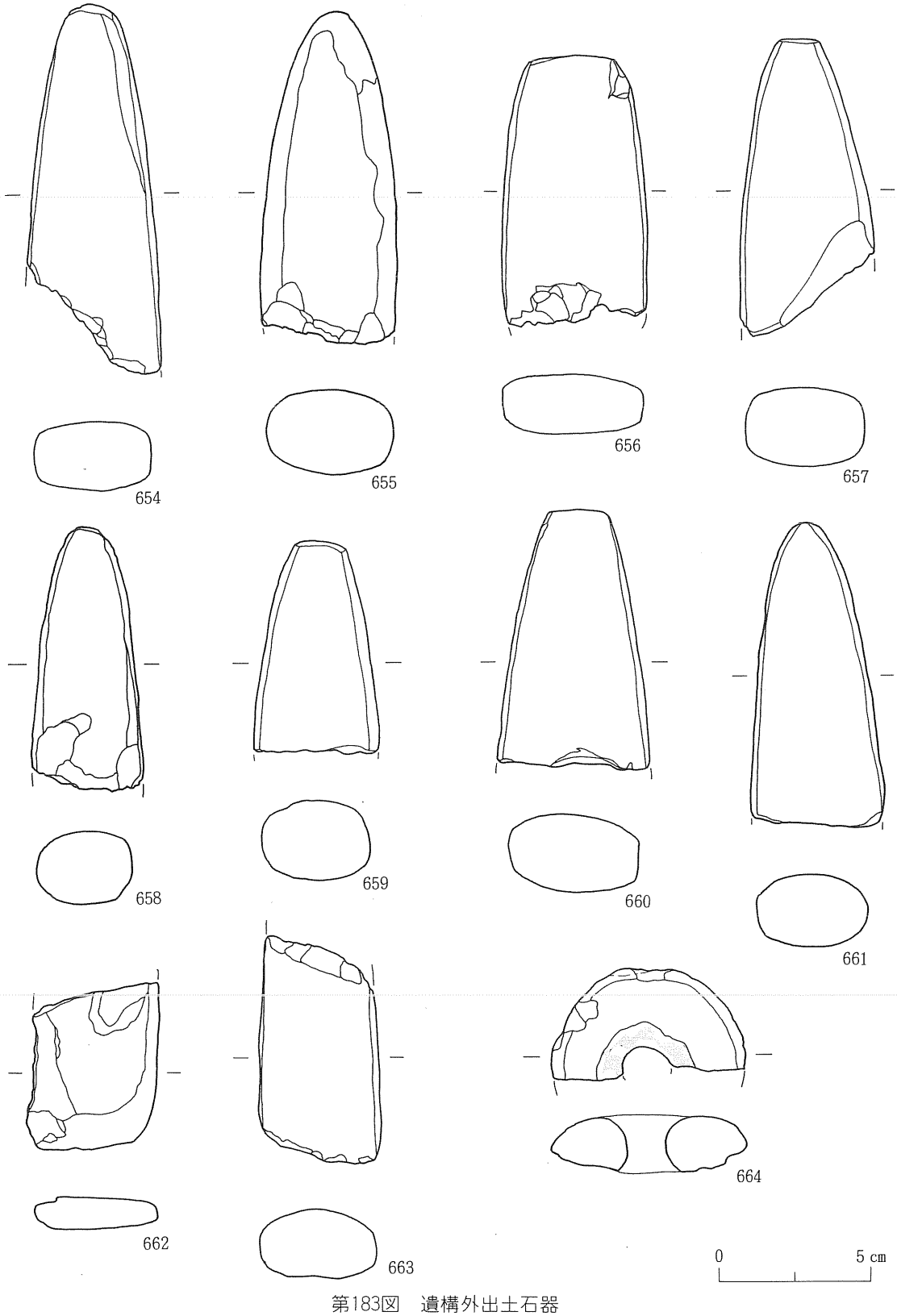
第180図　遺構外出土石器



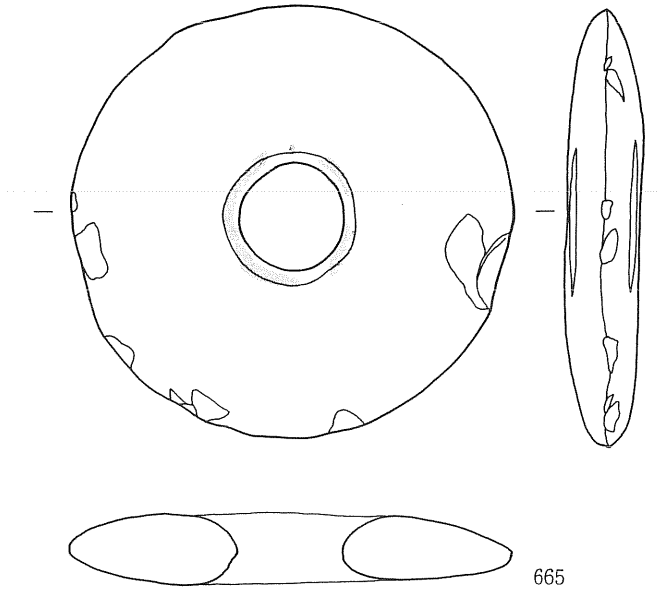
第181図　遺構外出土石器

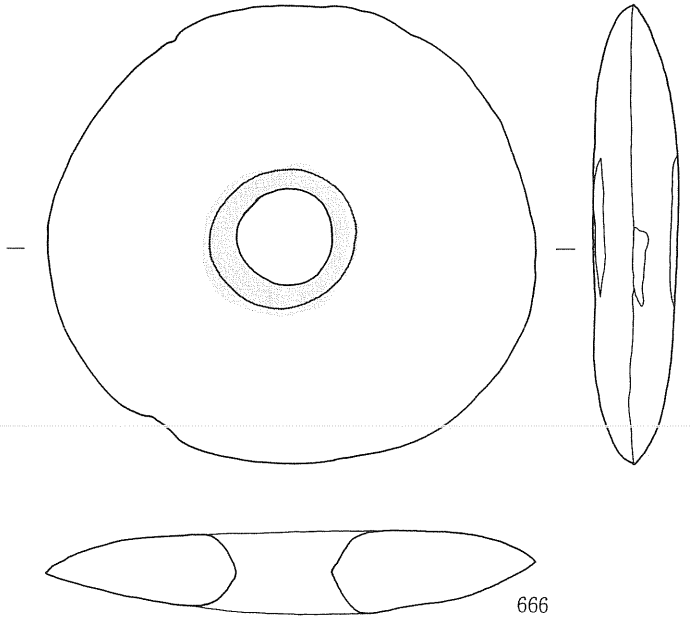


第182図　遺構外出土石器



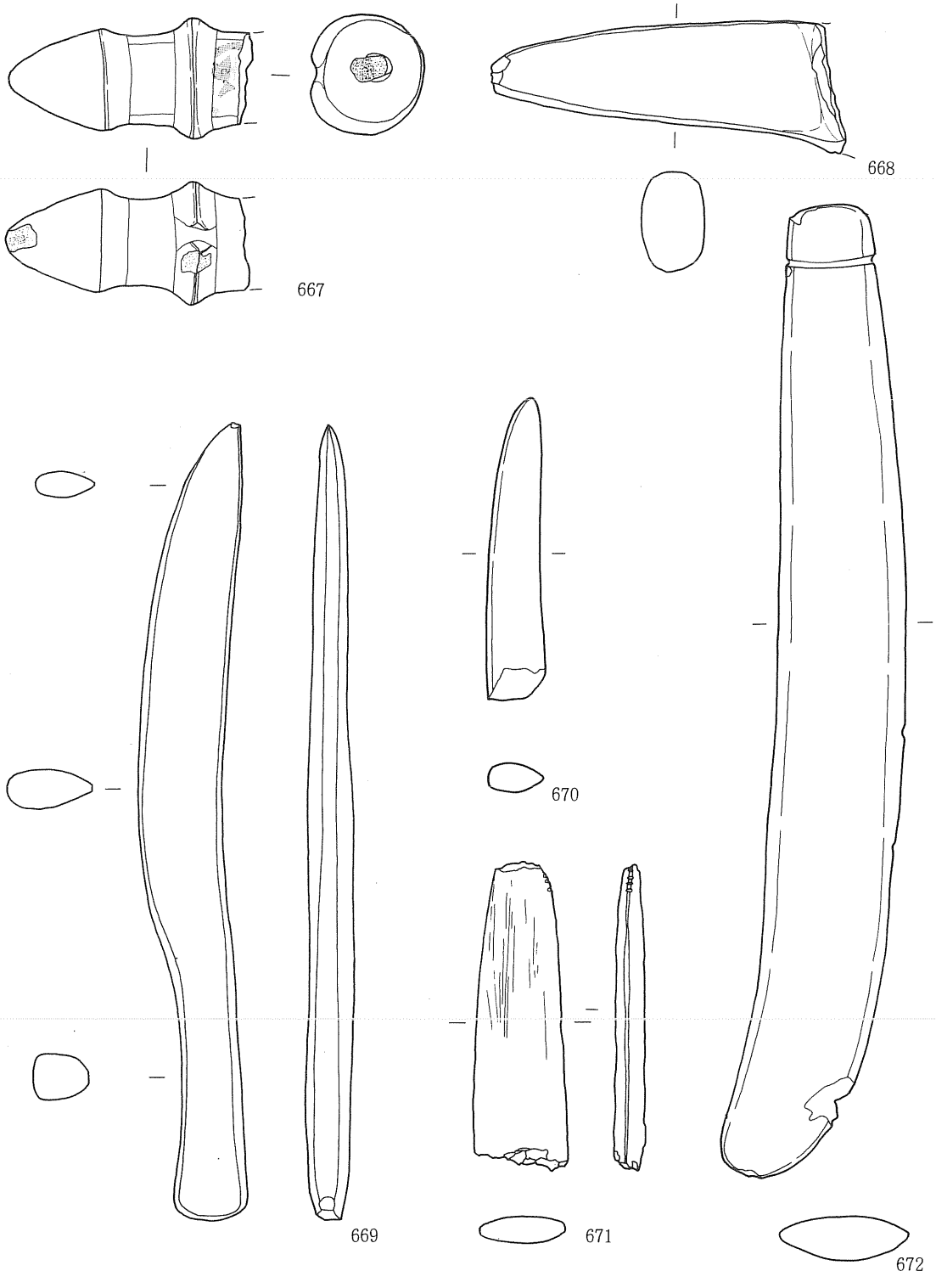
第183図　遺構外出土石器



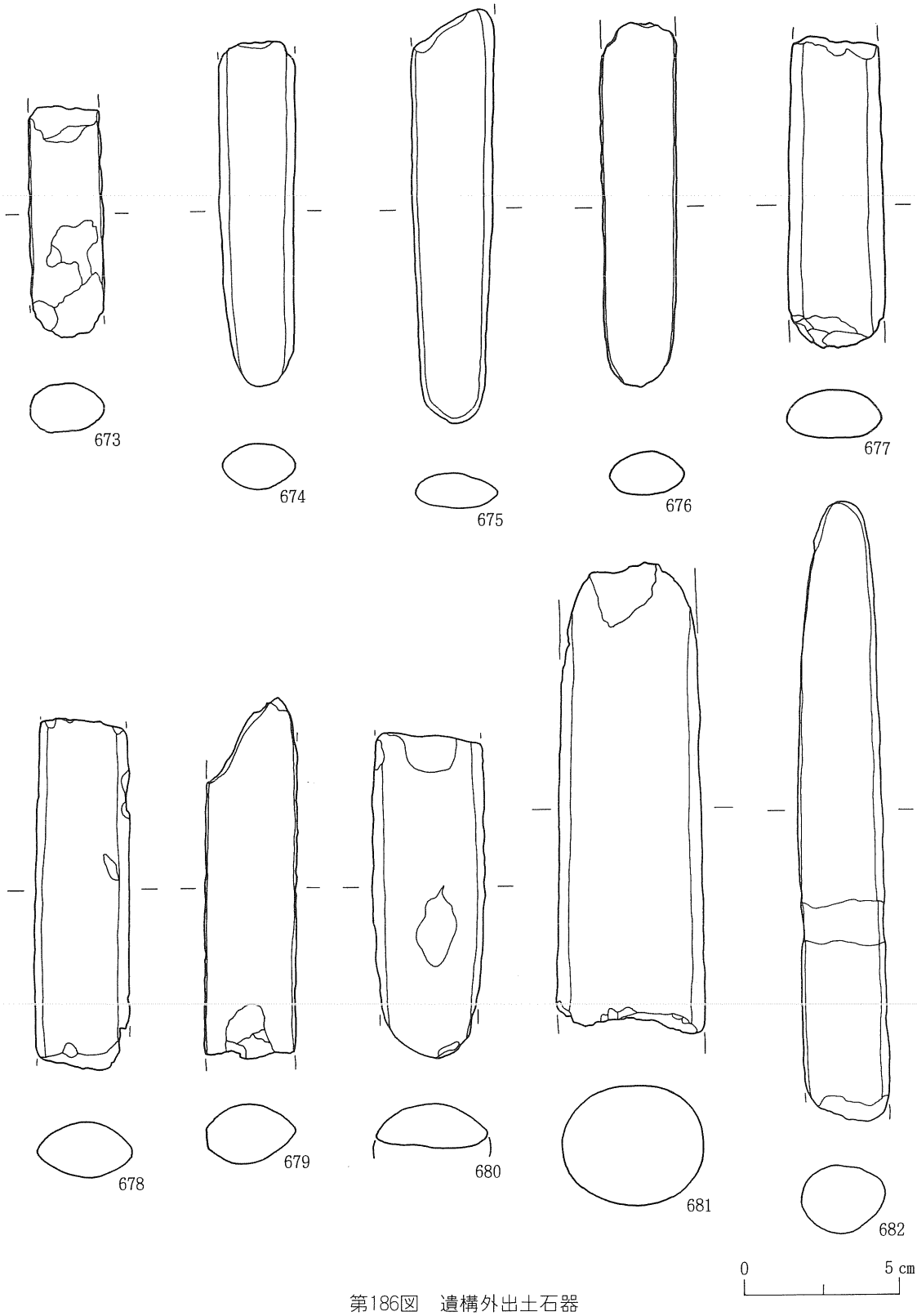


0　5 cm

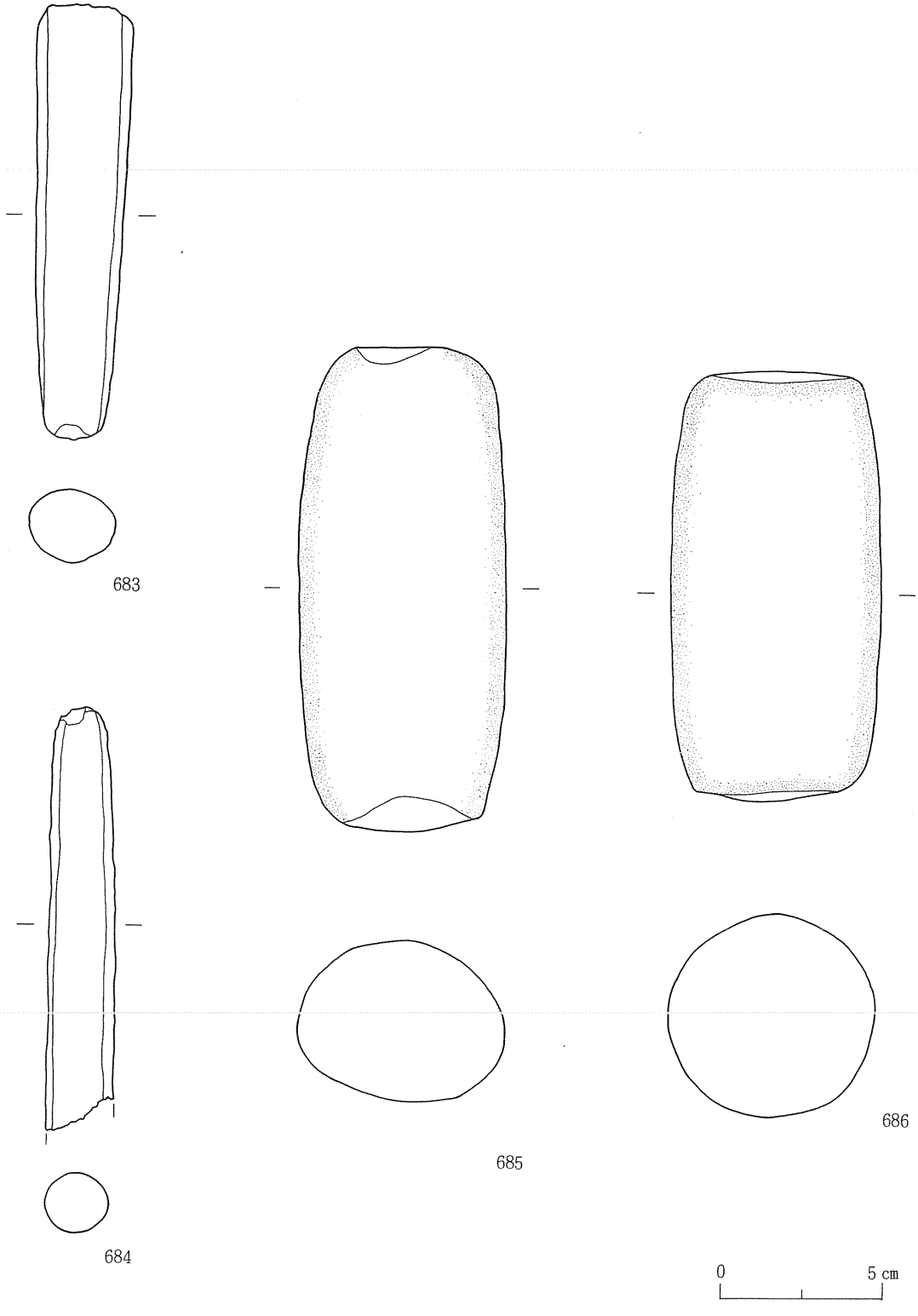
第184図　遺構外出土石器



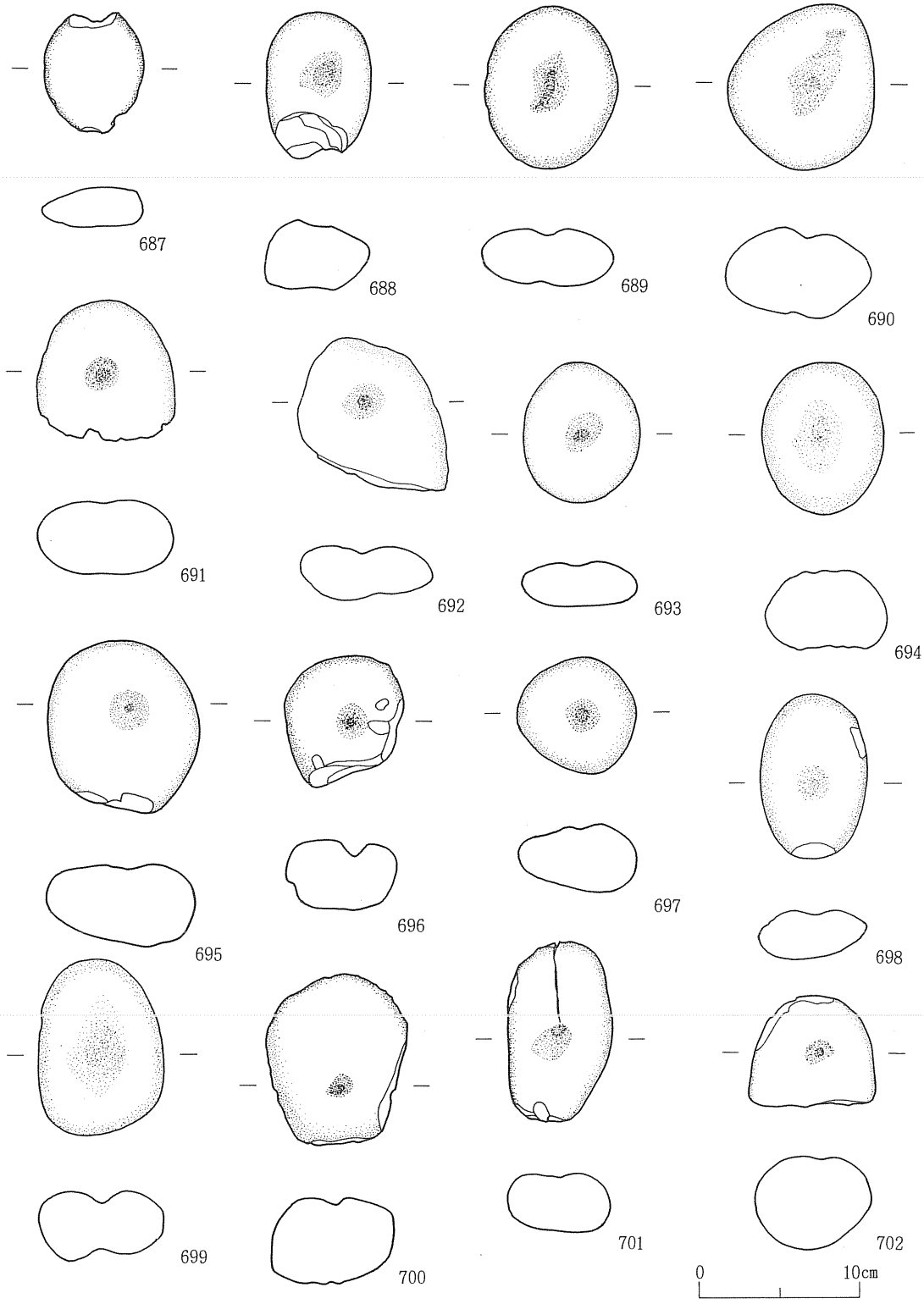
第185図　遺構外出土石器



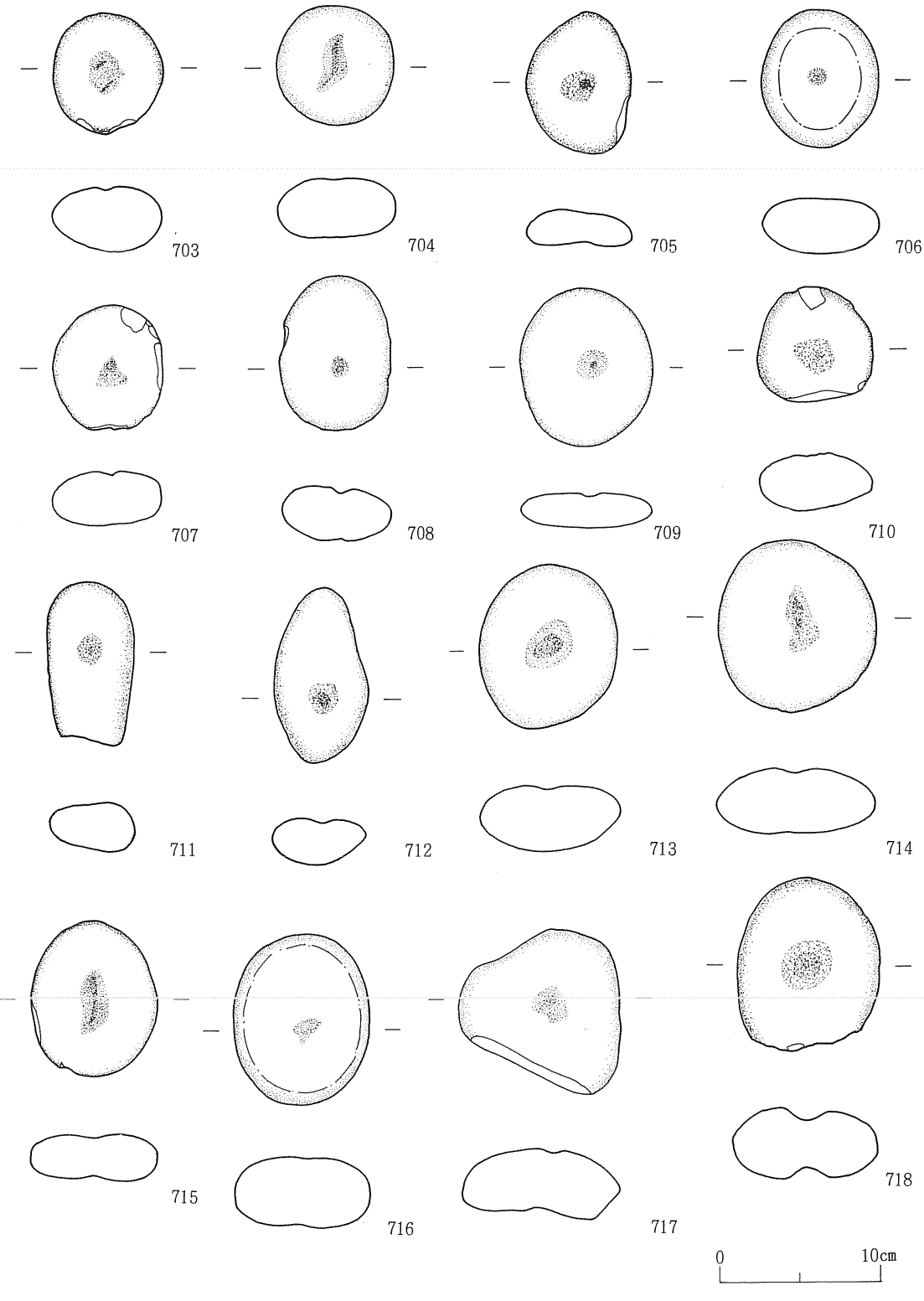
第186図　遺構外出土石器



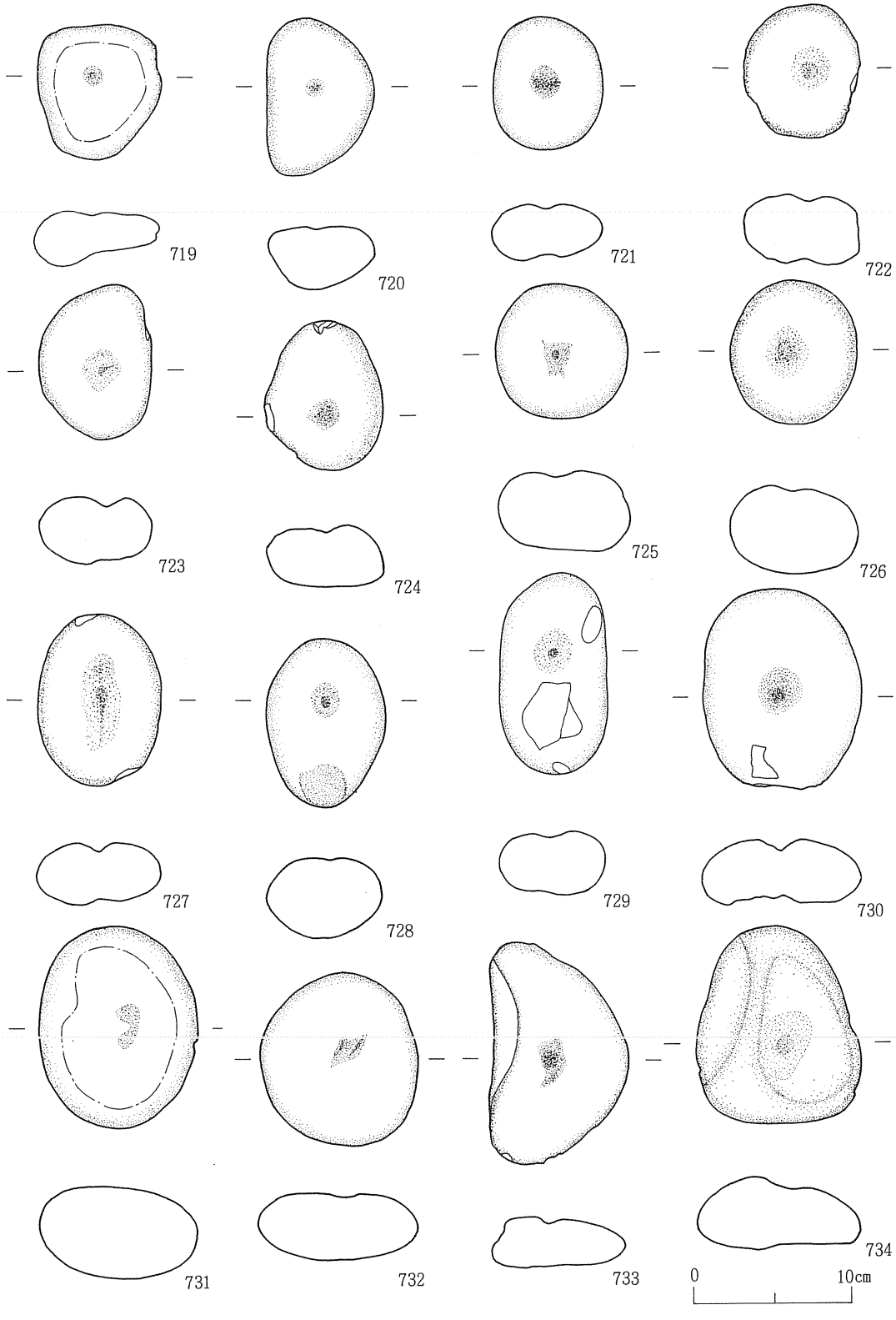
第187図　遺構外出土石器



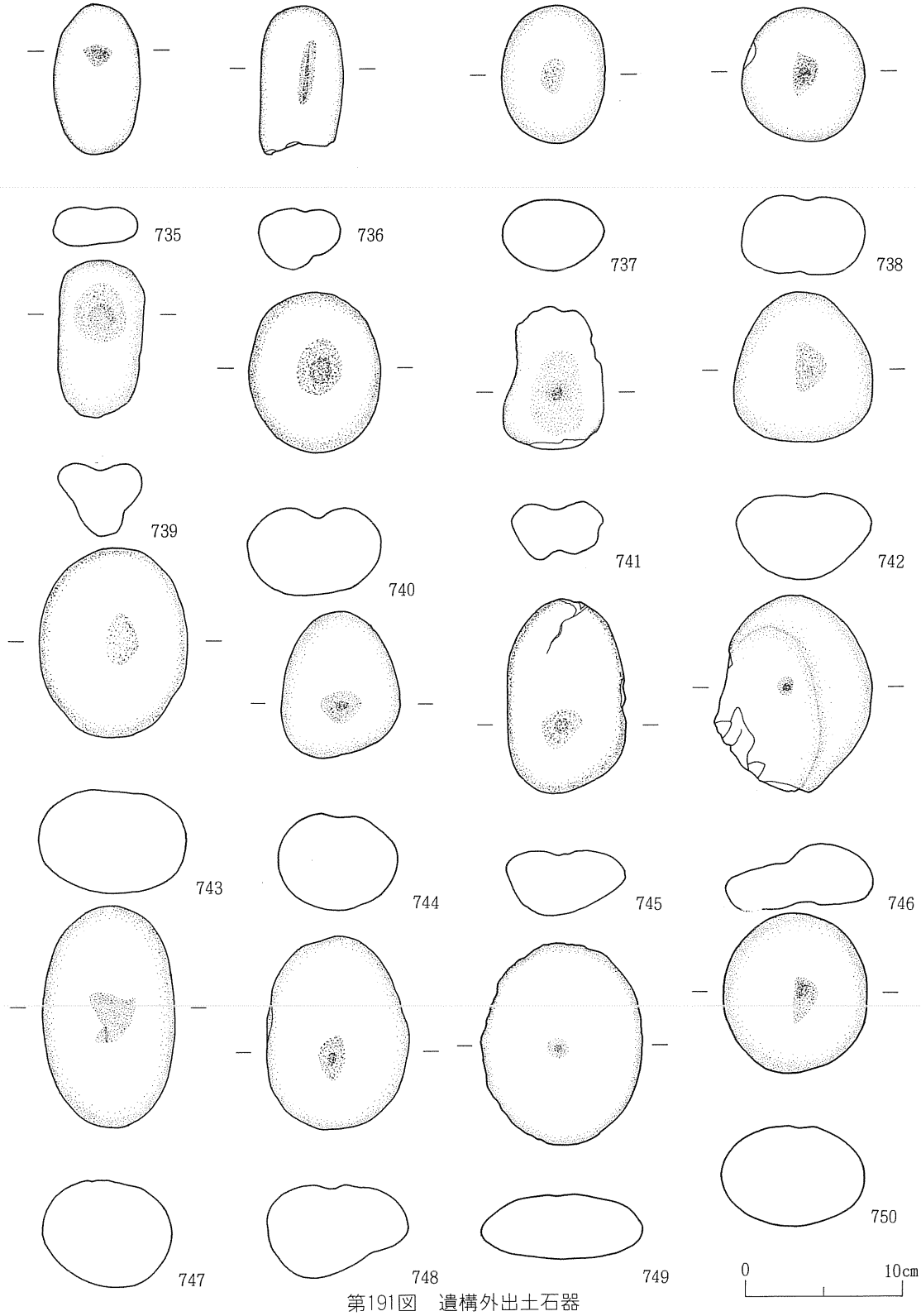
第188図　遺構外出土石器



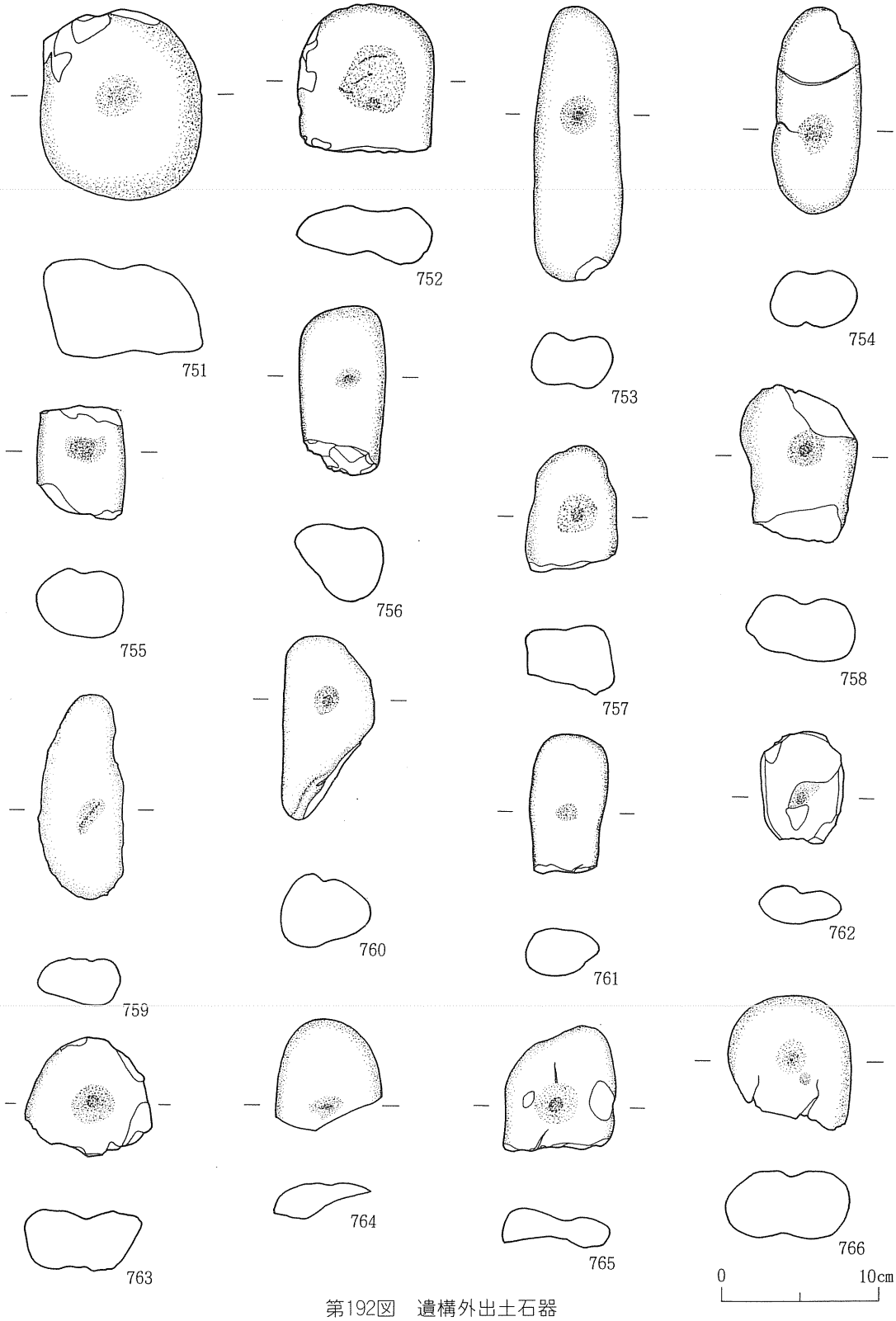
第189図　遺構外出土石器



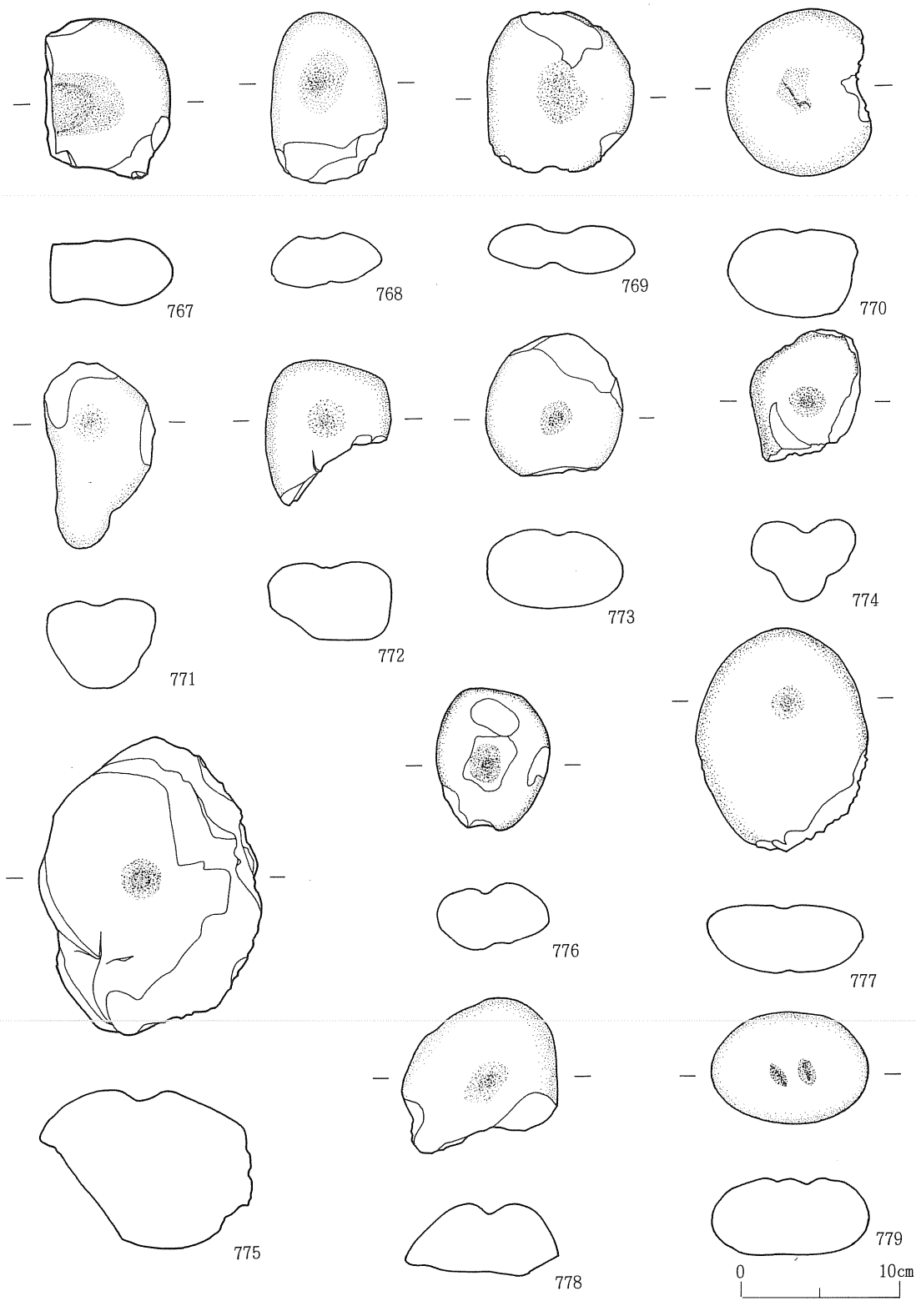
第190図　遺構外出土石器



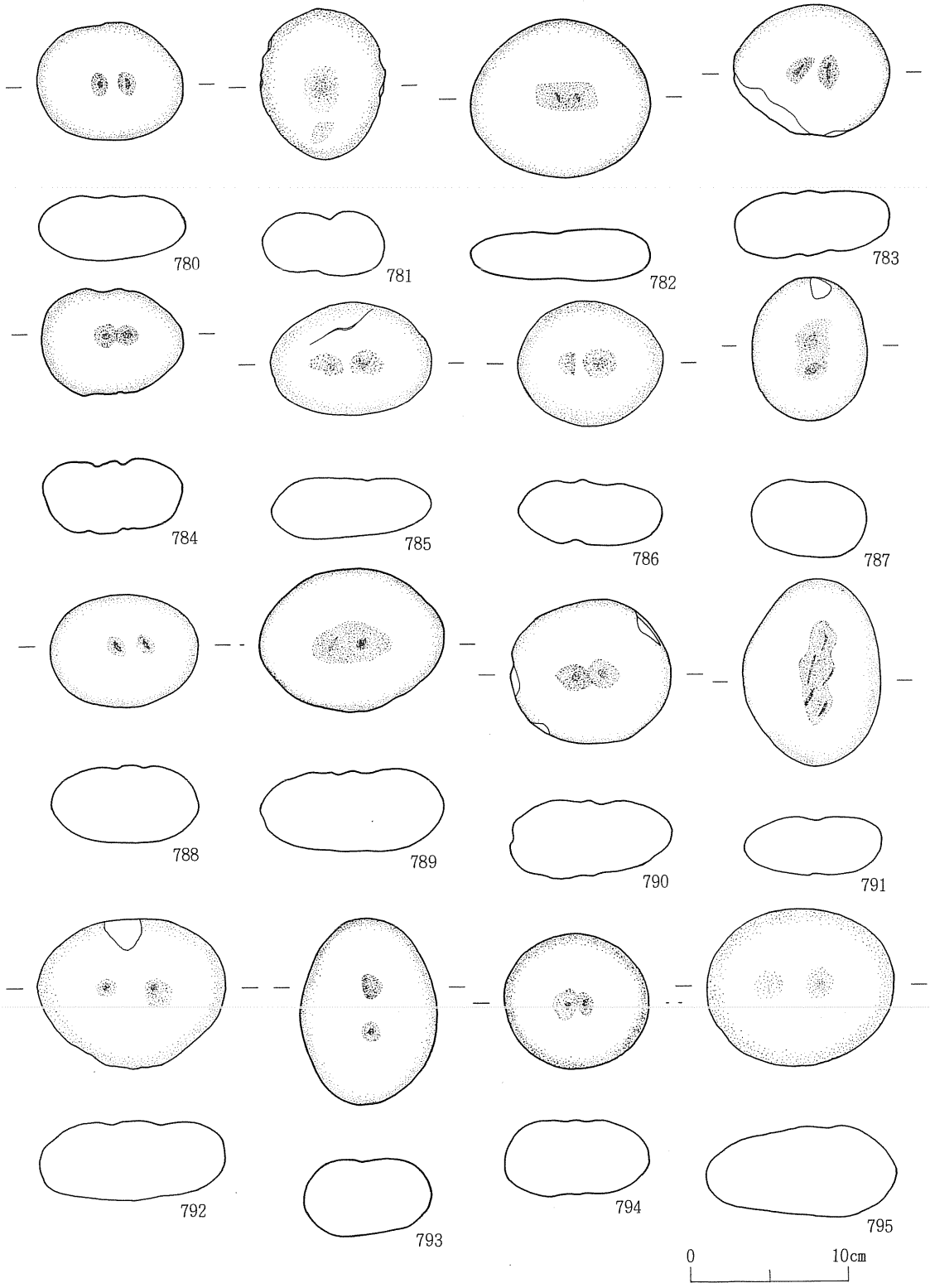
第191図　遺構外出土石器



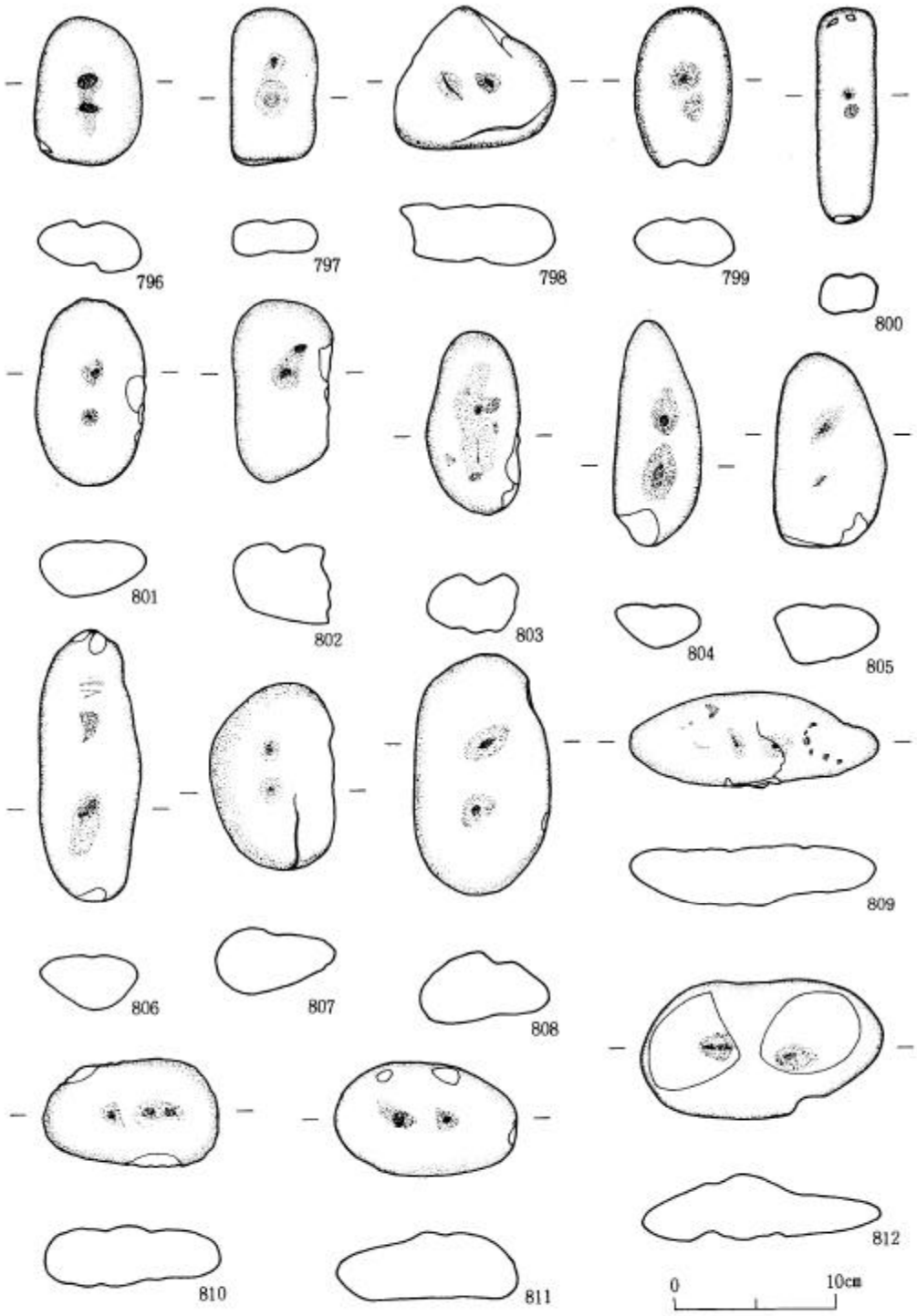
第192図　遺構外出土石器



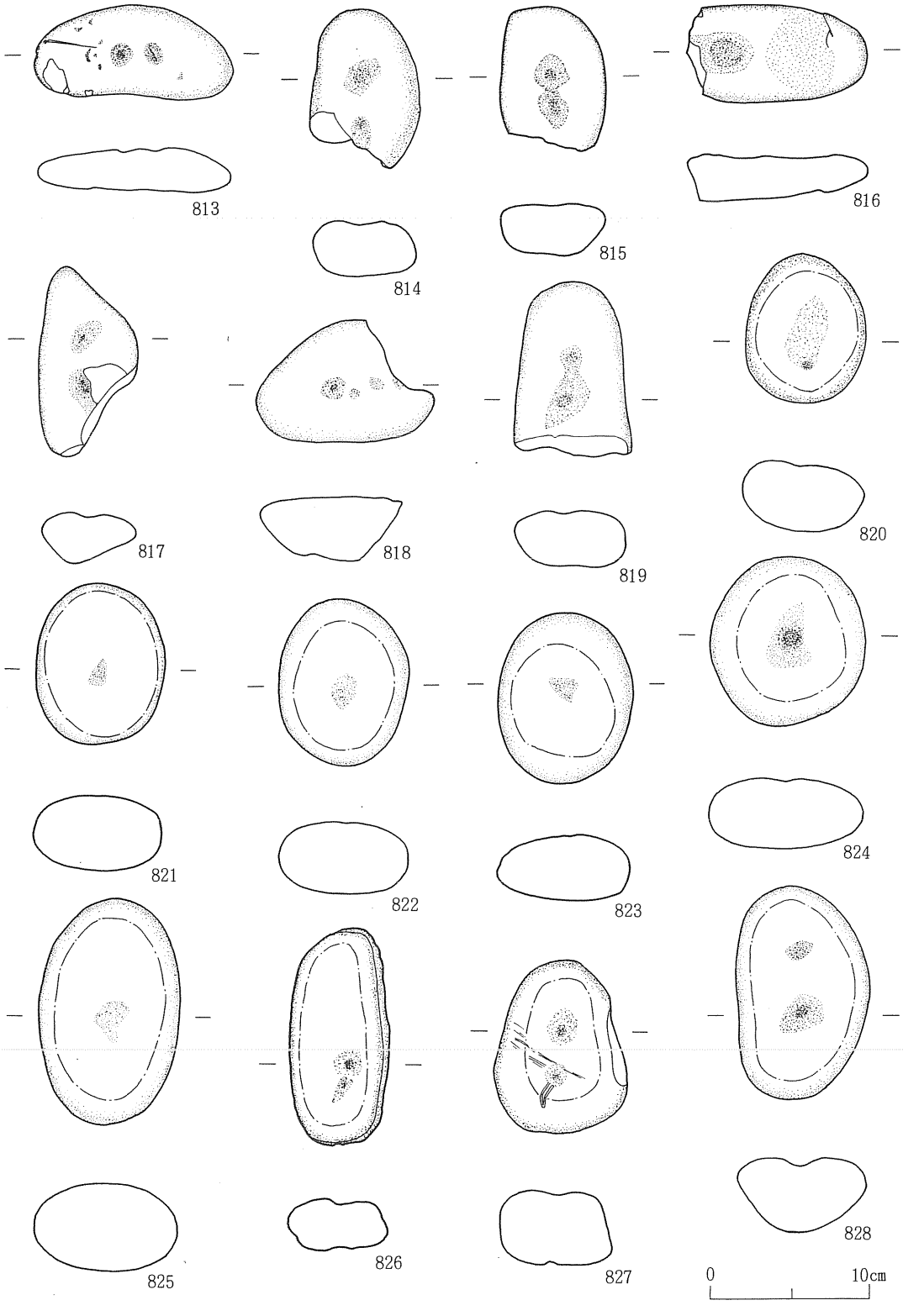
第193図　遺構外出土石器



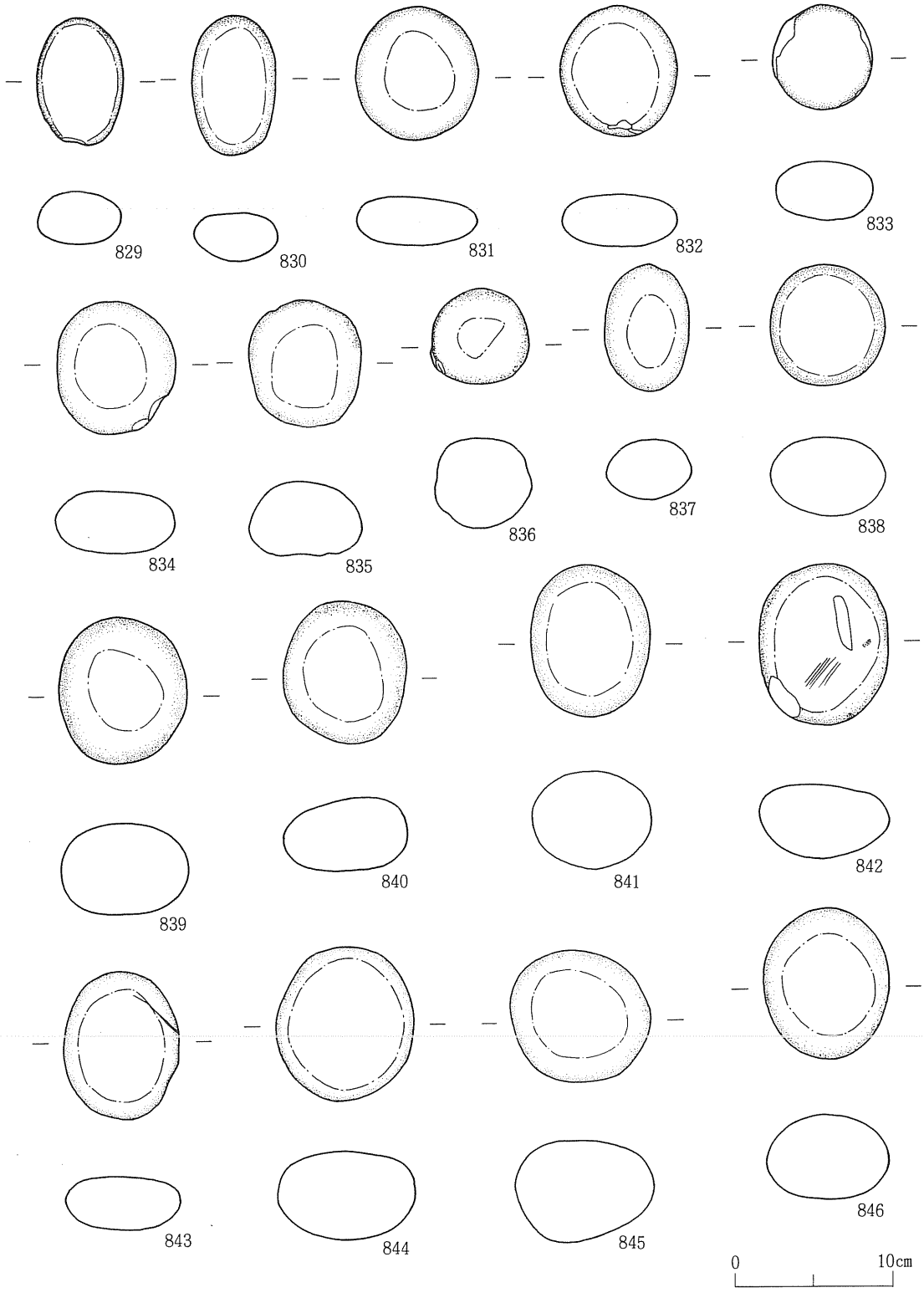
第194図　遺構外出土石器



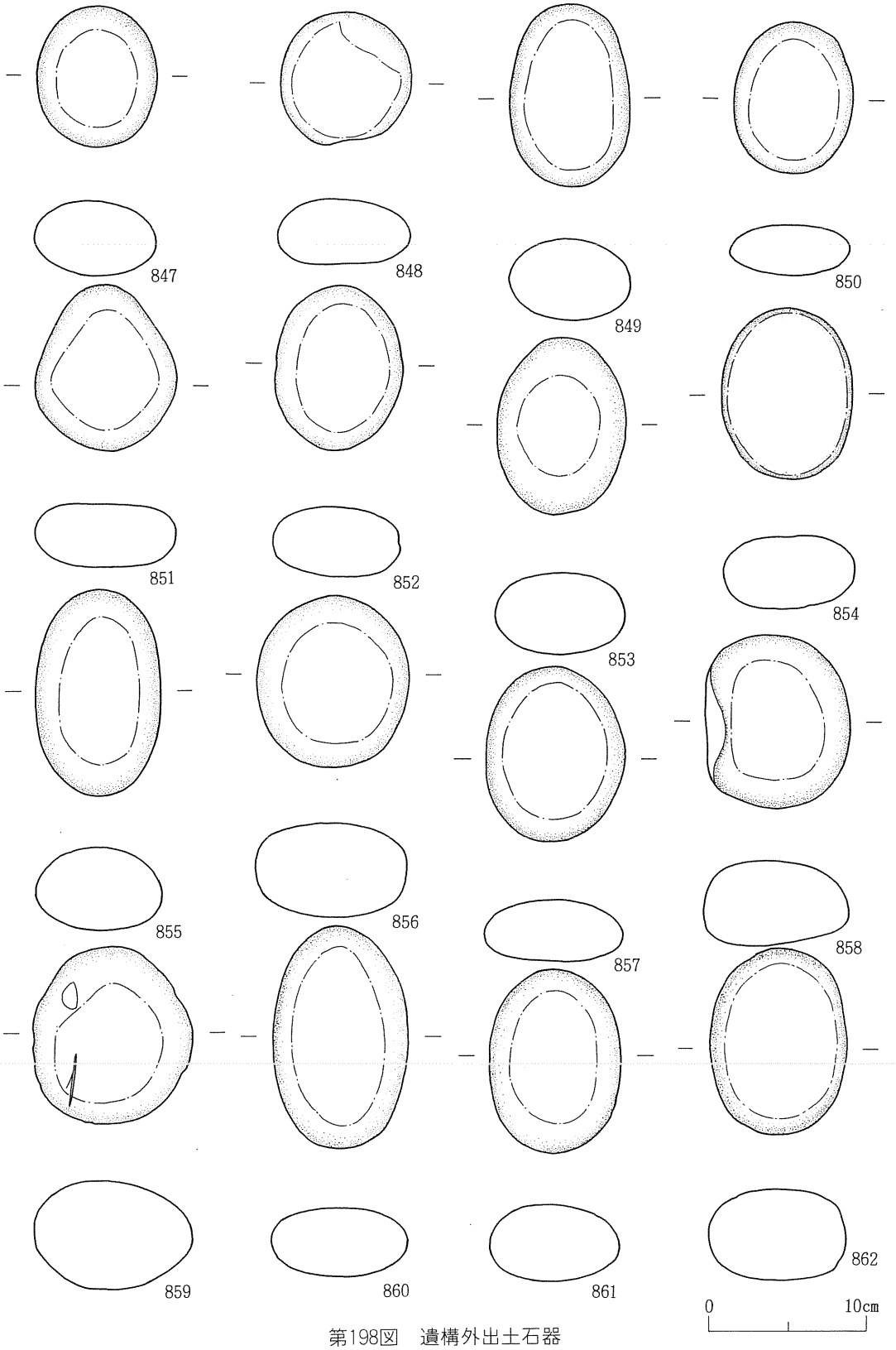
第195図　遺構外出土石器



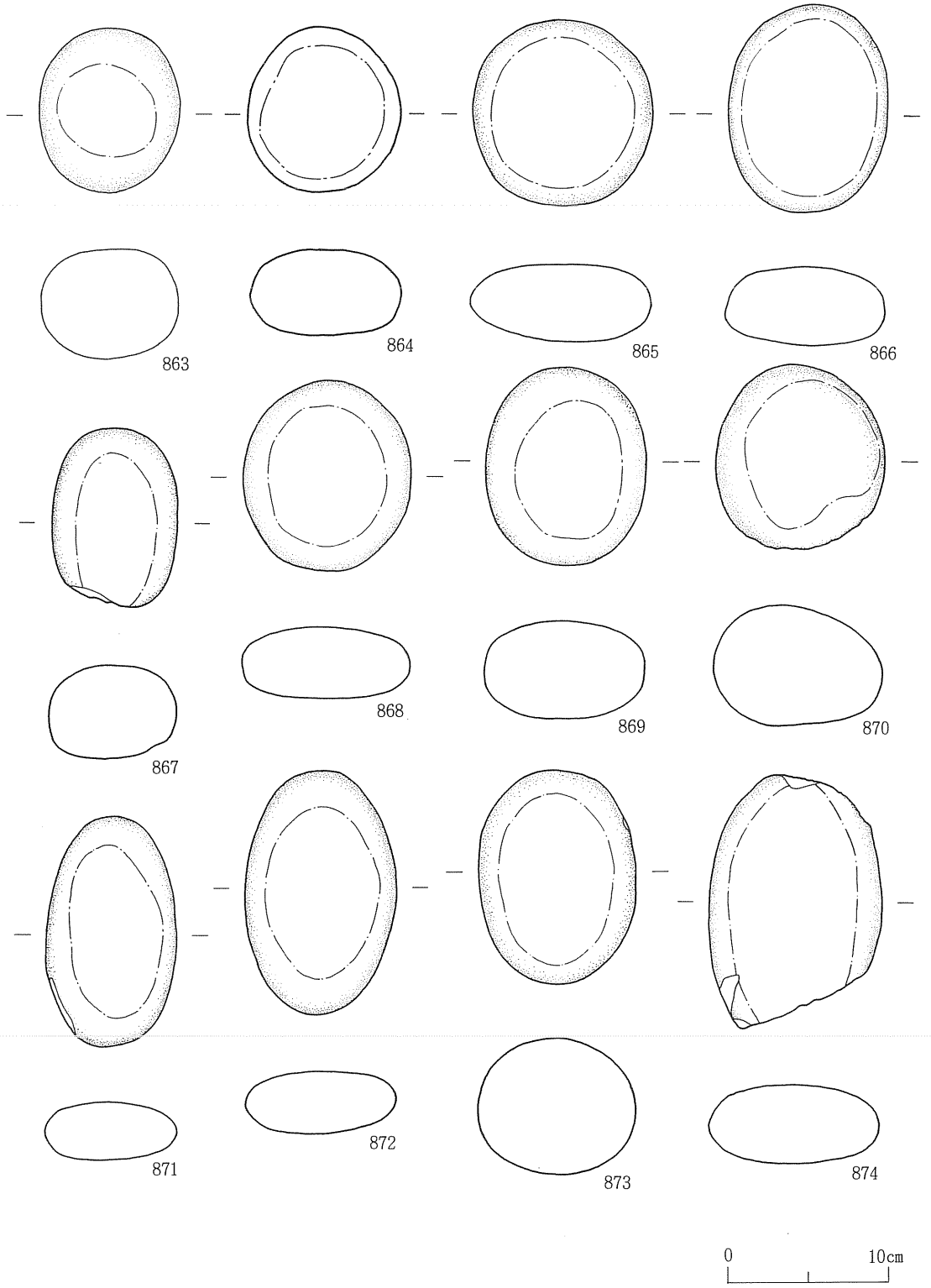
第196図　遺構外出土石器



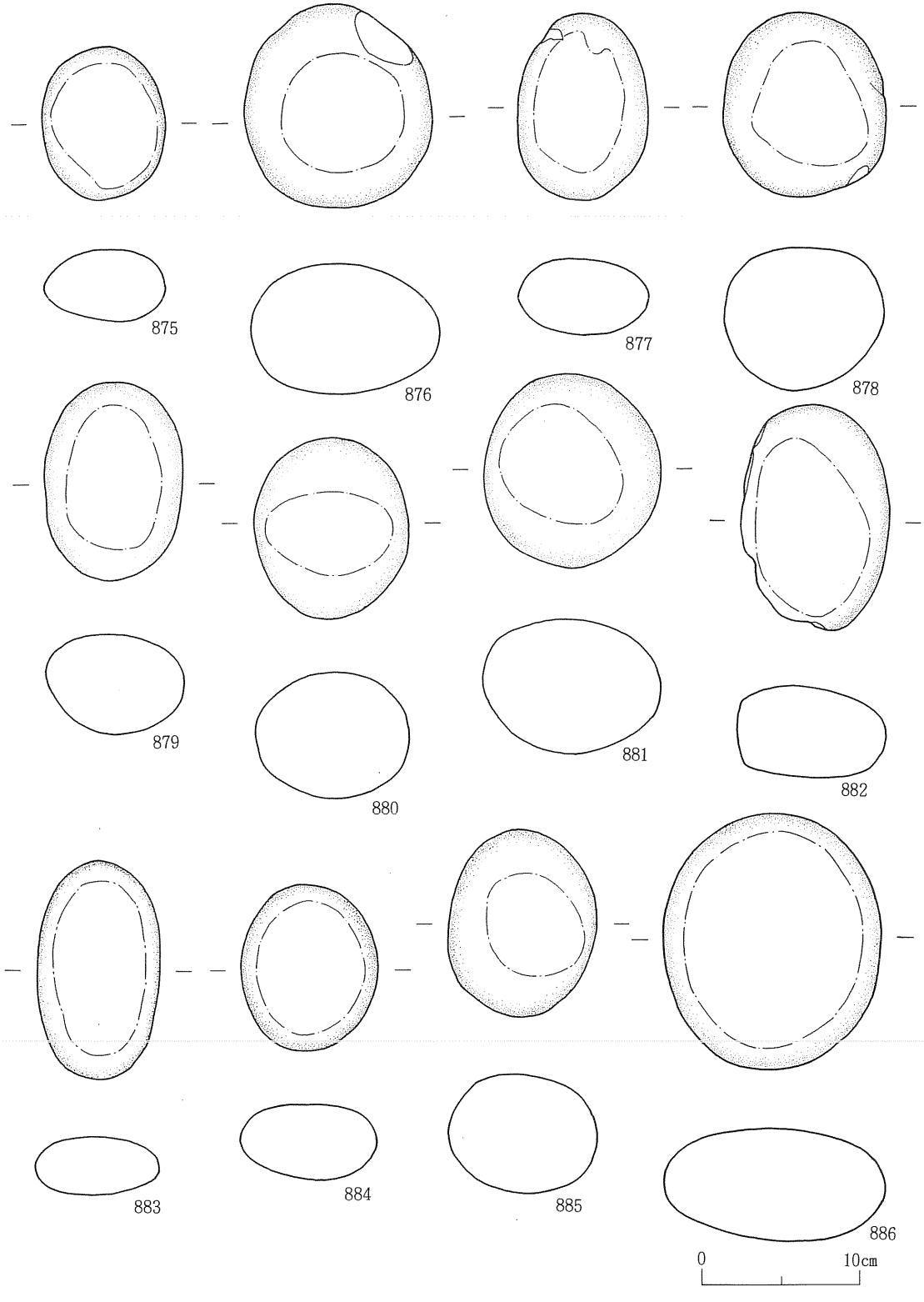
第197図　遺構外出土石器



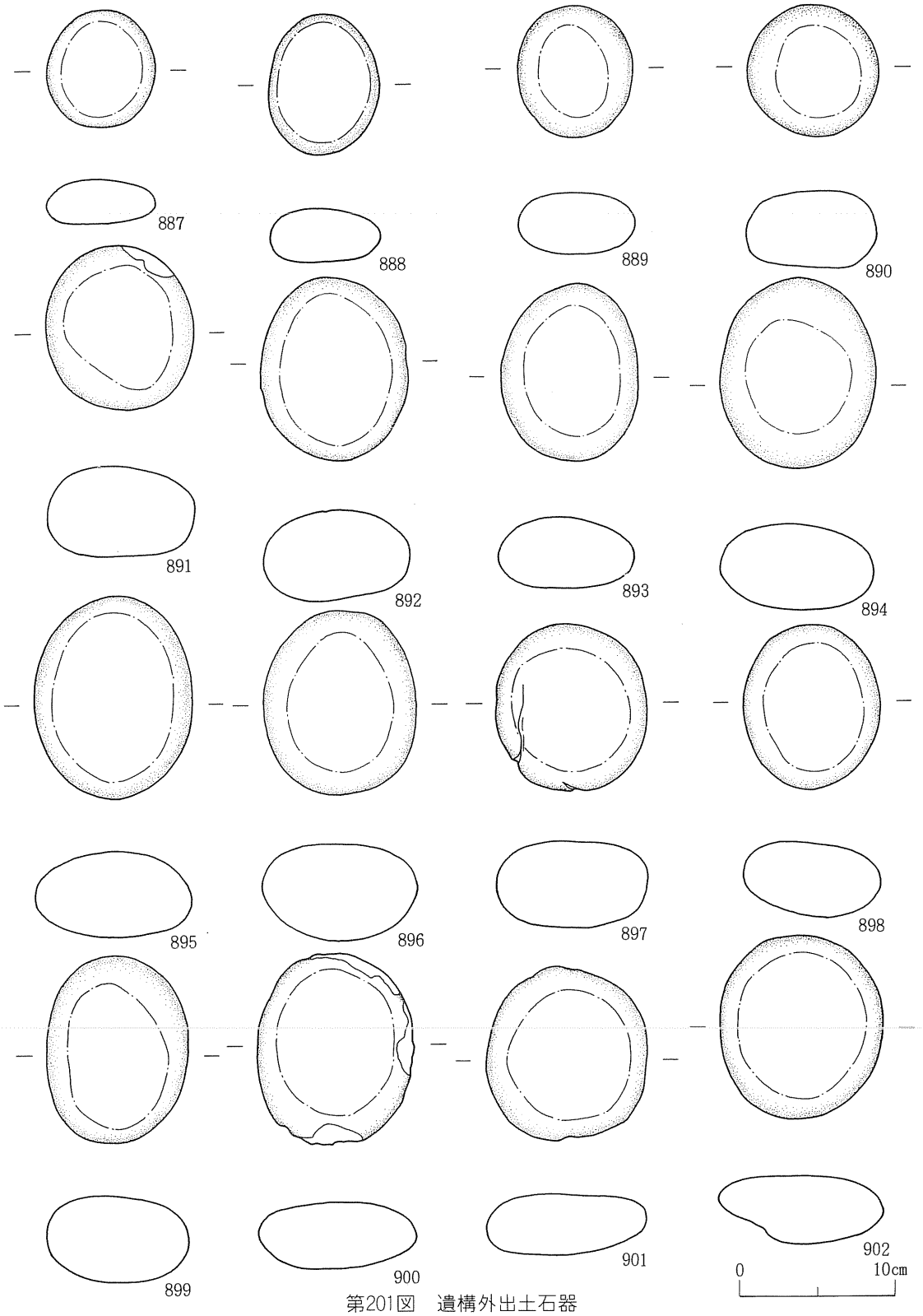
第198図　遺構外出土石器



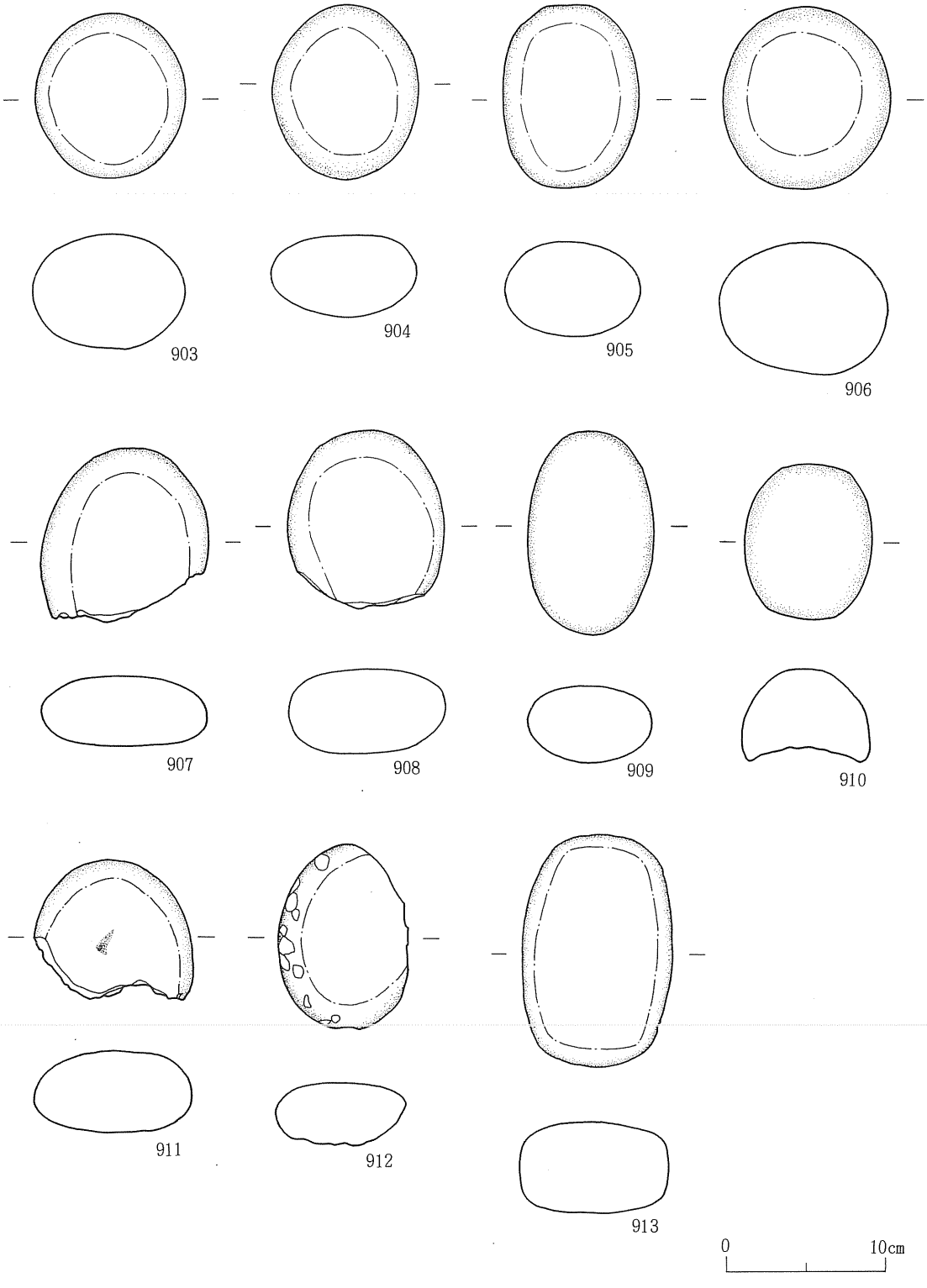
第199図　遺構外出土石器



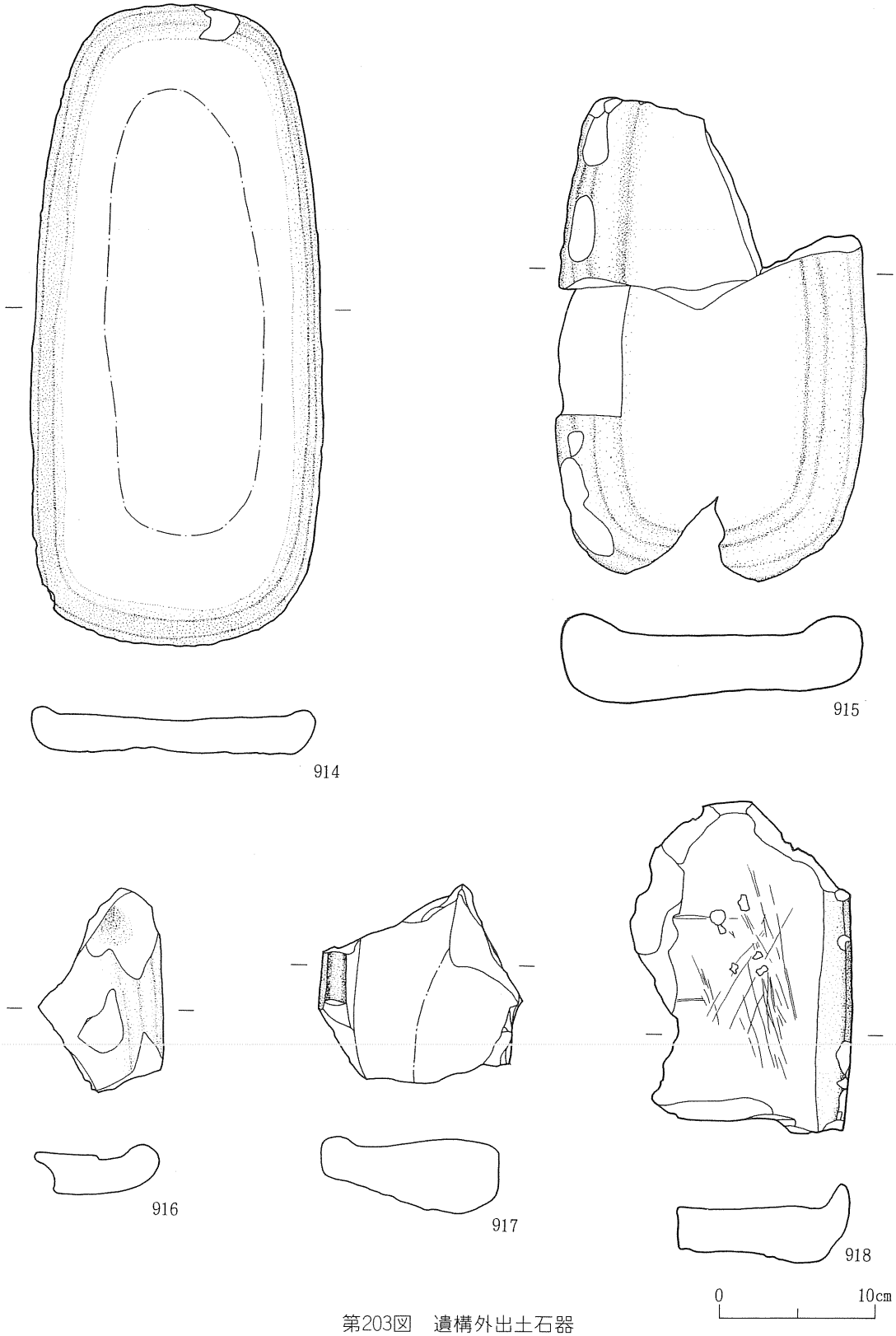
第200図　遺構外出土石器



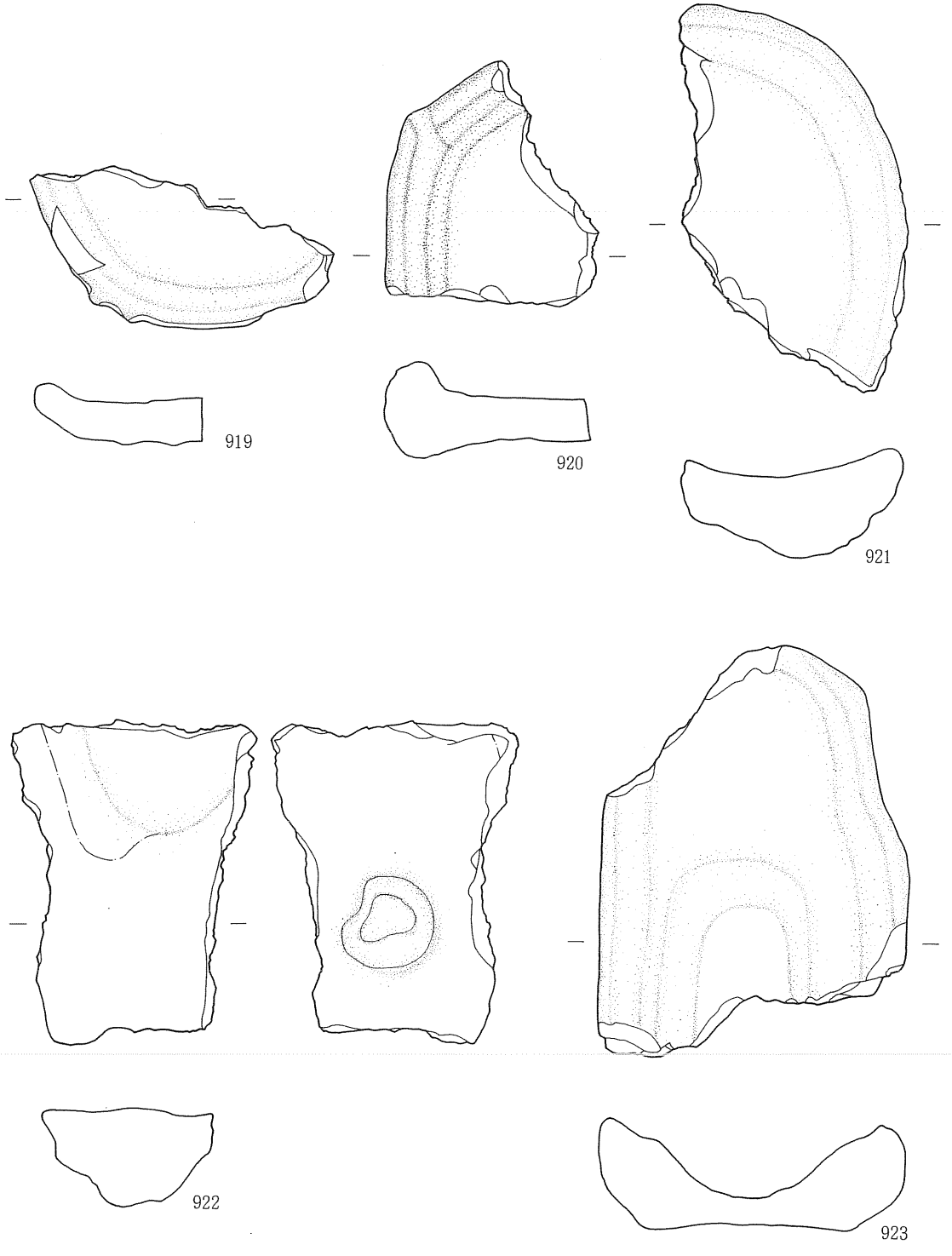
第201図　遺構外出土石器



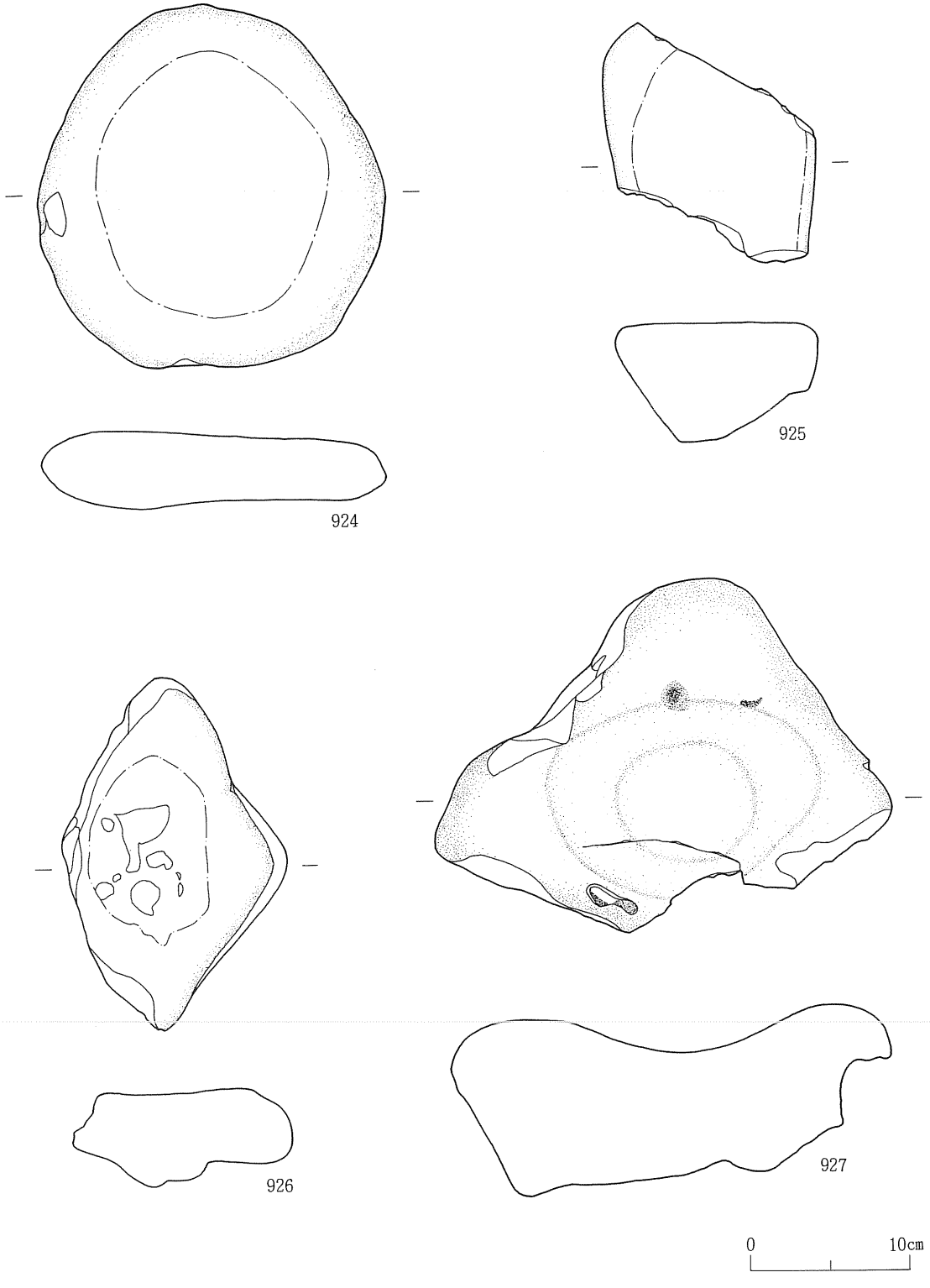
第202図　遺構外出土石器



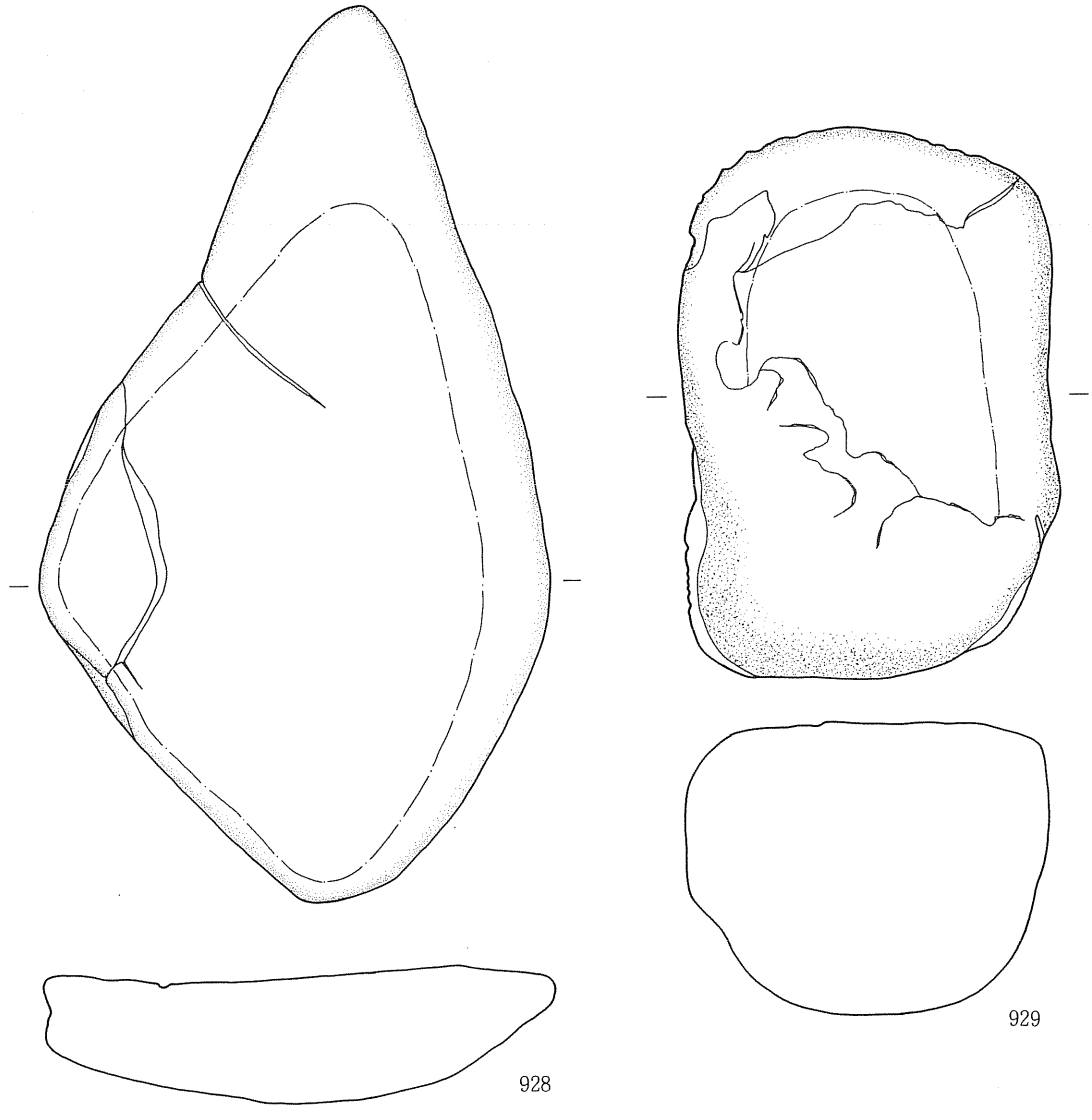
第203図　遺構外出土石器



第204図　遺構外出土石器

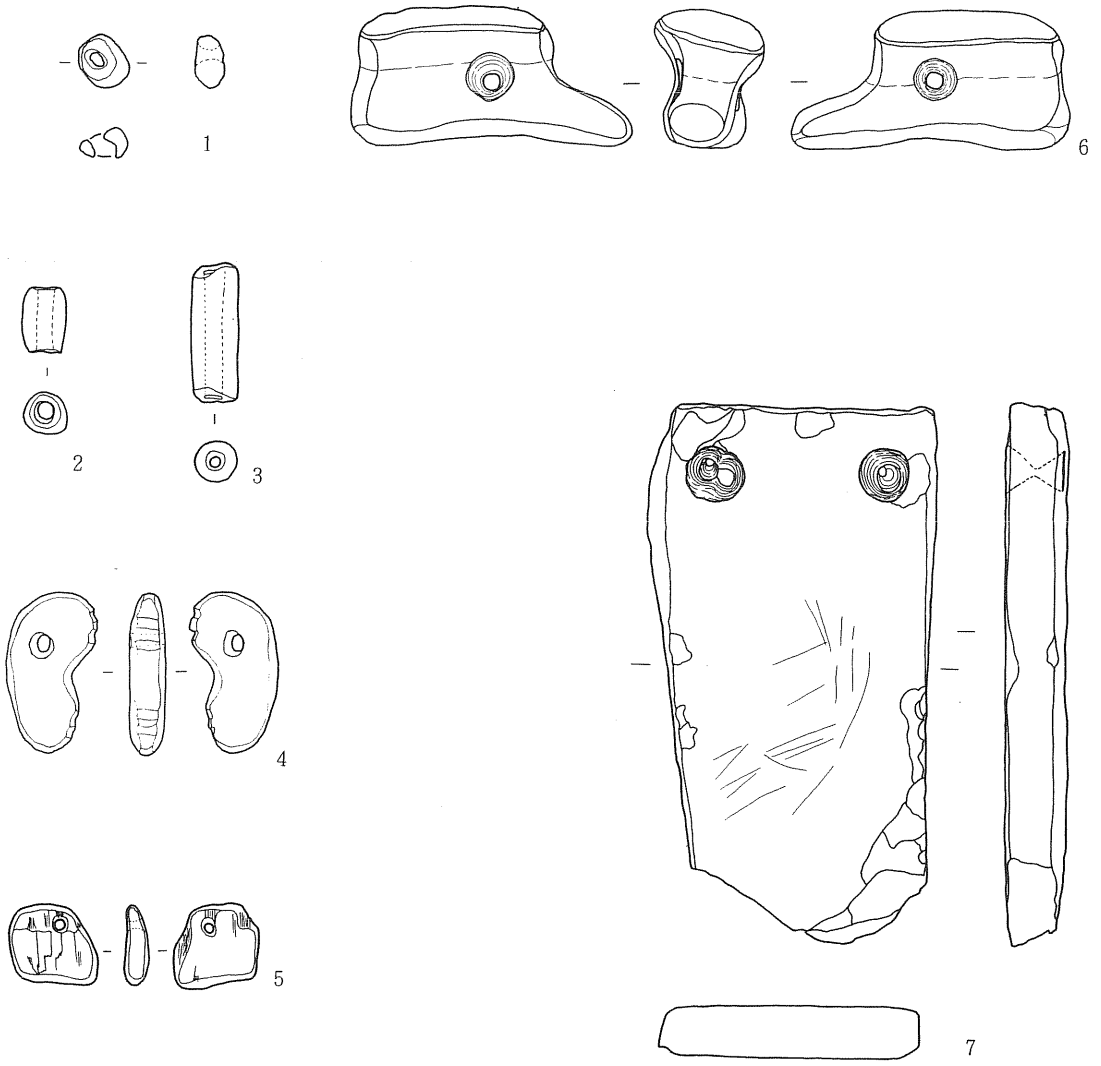


第205図　遺構外出土石器



0　10cm

第206図　遺構外出土石器



1　224号土坑
2～4　258号土坑
5～7　遺構外

0　5 cm

第207図　石製品

坂ノ上Ｆ遺跡

出土遺物

土器（第208～211図１～49）

５は口縁部に斜位格子目文を施すものである。深鉢形土器で口縁部がほぼ直立するものである。６～10は口縁部に縦位方向の半隆起線を主に施すものである。深鉢形土器で口縁部は６がほぼ直立他はキャリパー状をなすもので、９・10には貼り付け文がみられる。１・11～19は口縁部に三角形の印刻文を施すものである。深鉢形土器で口縁部は11～15は外反、他はキャリパー状をなすものである。１は推定口径45cmで、口縁部に縦位の粘土紐を貼り付け、上方は突起状をなす。４単位で、この粘土紐の間には瘤状の突起が付く。地文は撚糸文である。２・３は鼓形の器形をなすものである。胴下半部で、半隆起線文、格子目文を施すものである。４は高坏形土器の脚部である。４ヶ所に長方形の透しが作られる。透しの間と透しの両側縁には縦位の半隆起線文が施され、下部には横位の半隆起線文、三角形の刺突文、刻み目文が施される。坏部は欠損するが、脚部との付け根部に横位の半隆起線文が施される。20～23は胴部破片で、半隆起線による直線・曲線文の施されるもので、格子目文のみられるものもある。23は半截竹管状工具内面を軽くあてて引くものである。

24～32は口縁部に半隆起線による平行・波状文を横位に施すものである。深鉢形土器で口縁部が外反するものである。山形口縁をなし、頂部下方に縦位に粘土紐を貼り付け、折り返し口縁をなすものが多い。縄文地文のみられるものである。33～35は連続爪形文を施すものである。深鉢形土器で口縁部がやや外反するものである。33は平行する半隆起線間に連続爪形文を施す。36は平行する沈線間に連続刺突文を施すものである。深鉢形土器の胴部である。37・38は胴部破片で、縄文地文施文後に半隆起線を曲線的に施すものである。

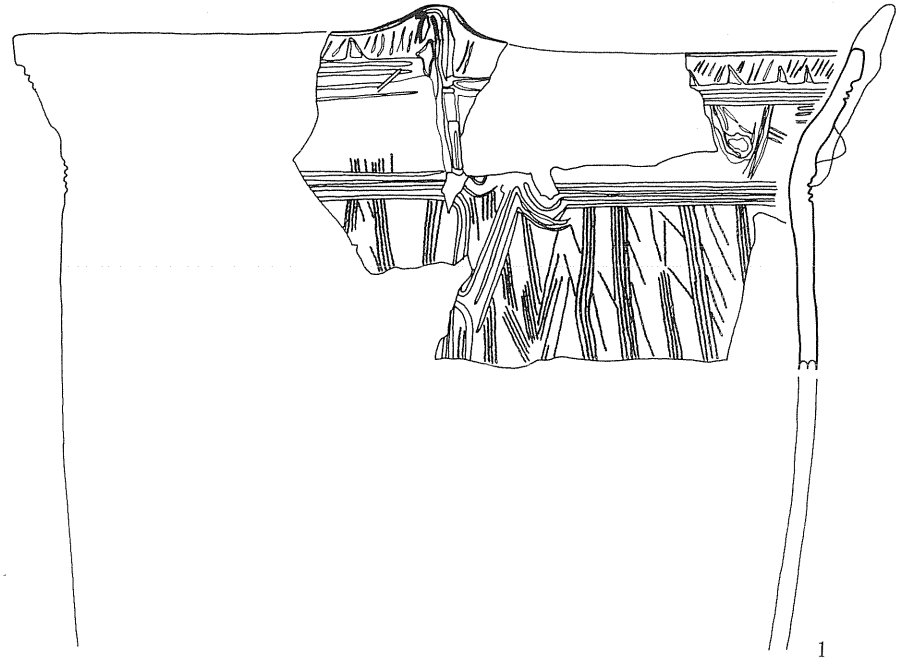
39～47は口縁部に撚糸圧痕や単軸絡条体圧痕を平行して施すもので、口唇部や頸部隆帯及び粘土紐貼り付けによる懸垂文や突起にも施される。深鉢形土器で、口縁部が外反するものである。器肉が厚く、円筒形で、二又の山形口縁をなすものが多い。48・49は底部で、圧痕文のあるものである。

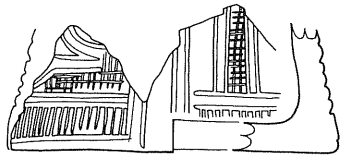
石器（第212・213図１～16）

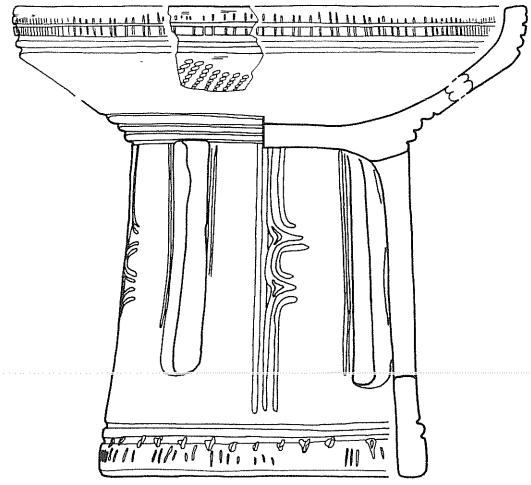
１・２は石鏃である。いずれも無茎鏃で、石質は硬質頁岩である。３～５は石匙である。横型石匙で、石質は硬質頁岩である。６・７は石槍である。両面加工で先端部の尖るものである。７は基部につまみが作られている。石質は硬質頁岩である。８・９はヘラ状石器である。両面加工を施すもので、石質は硬質頁岩で、８には自然面が残る。10～14は石錘である。両端を打ち欠くものである。15・16はくぼみ石である。くぼみ部が複数あるもので、15は磨石としても使用されている。

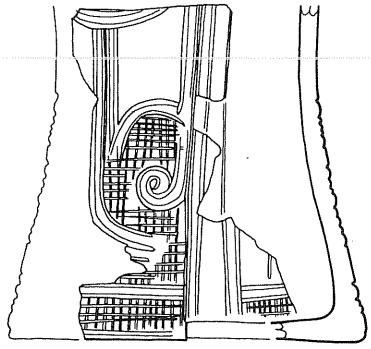
石製品（第213図17）

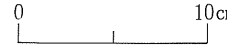
17は有溝石製品である。偏平な石の片面に断面が「Ｖ」字状の溝をもつものである。石質は泥岩である。



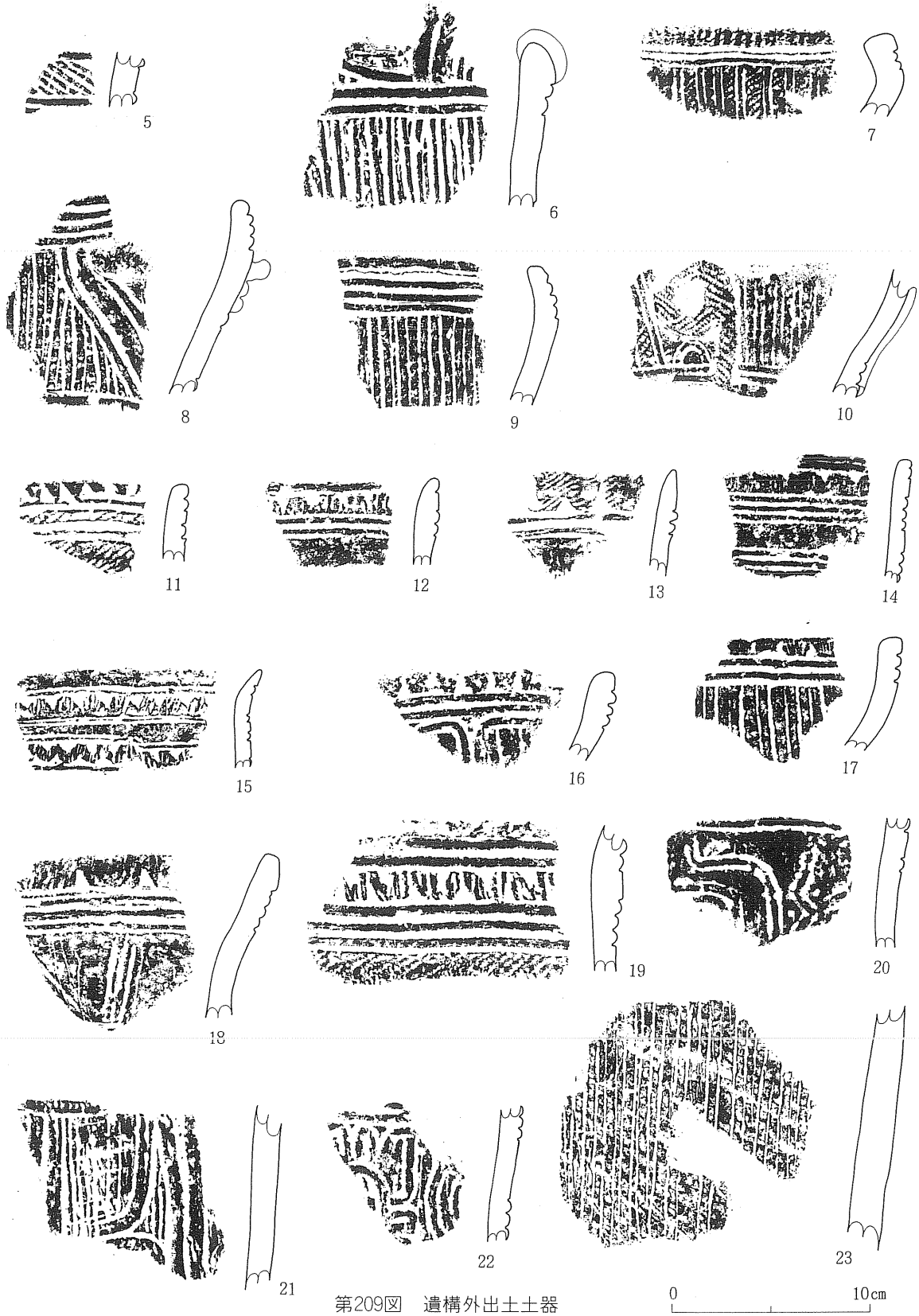




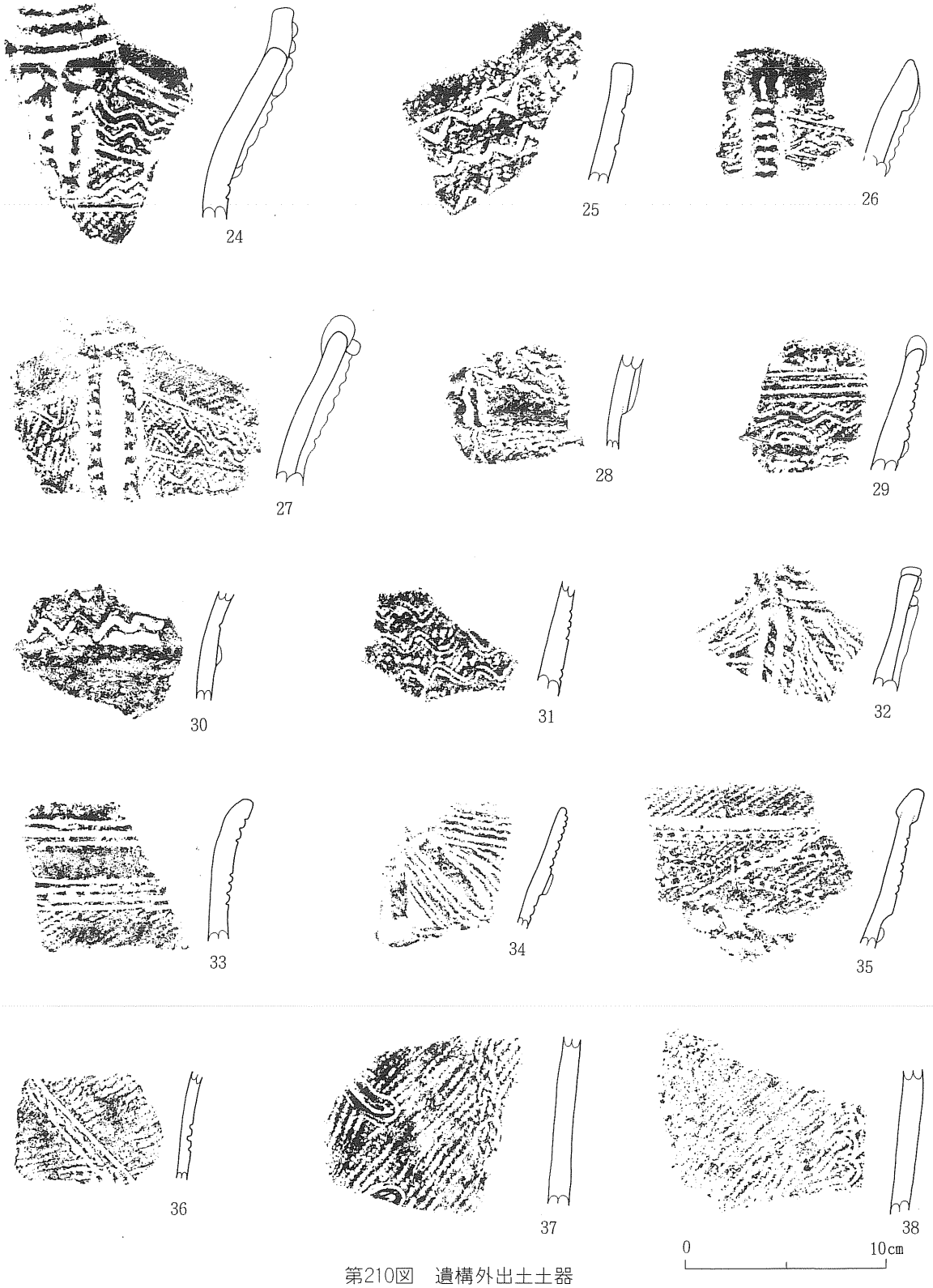




第208図　遺構外出土土器

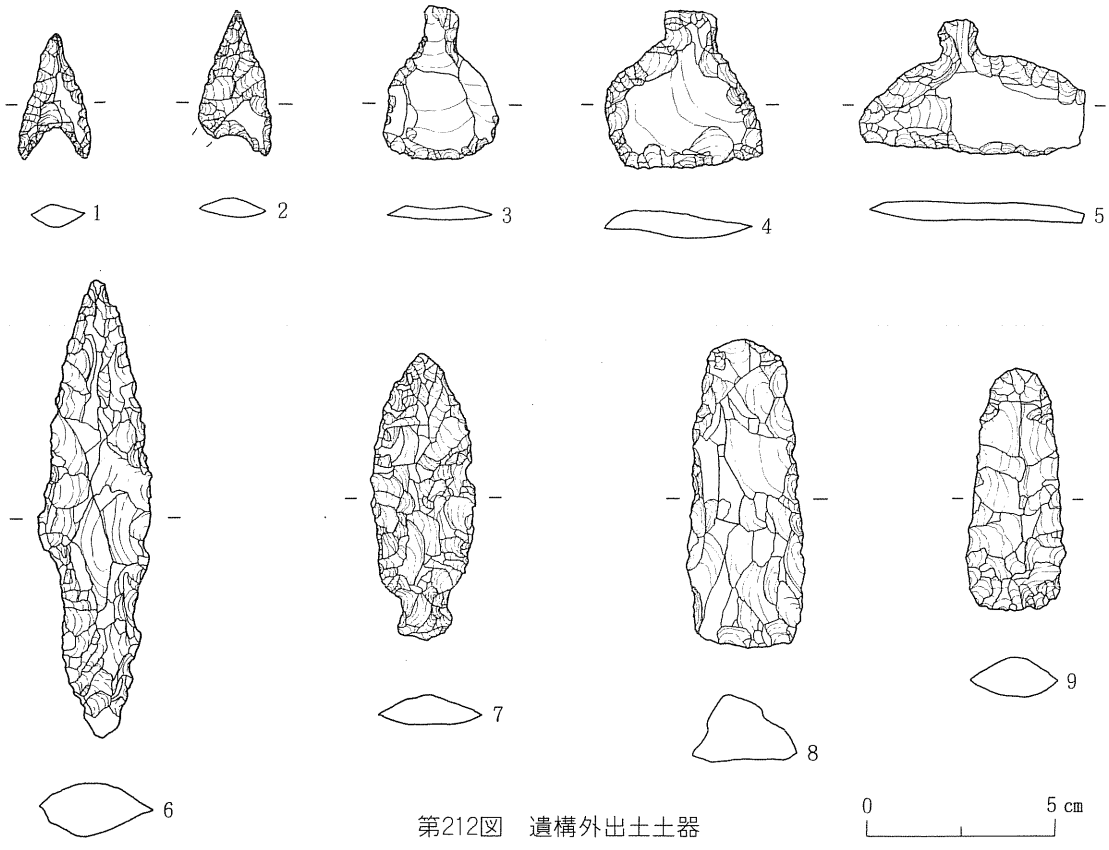


第209図　遺構外出土土器

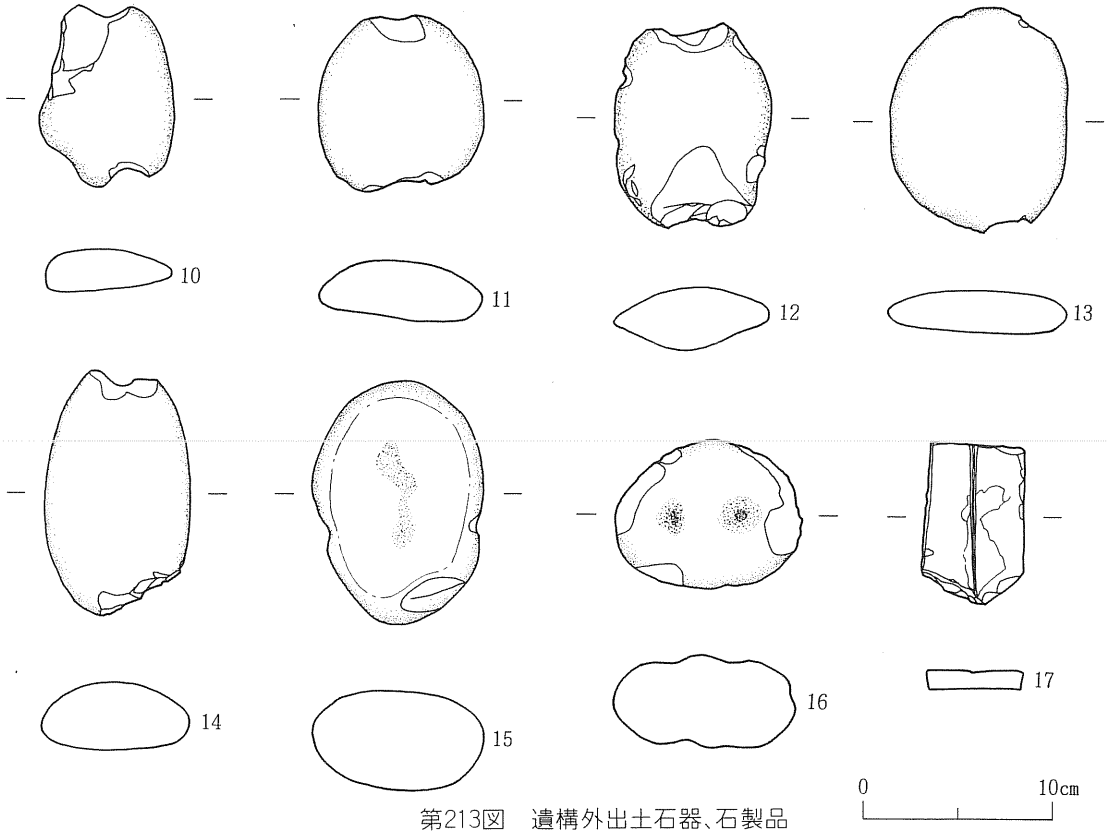


第210図　遺構外出土土器

第211図　遺構外出土土器



第212図　遺構外出土土器



第213図　遺構外出土石器、石製品

ま と め

—縄文時代—

縄文時代の遺構は中期末葉の竪穴住居跡32軒、土坑等が検出されている。住居跡は調査区北東部、中央部、西部に位置する。住居跡は円形プランが主体で径約３ｍ前後の規模のものが多く、５号、16号、18号、30号住居跡は５～６ｍの規模である。８号住居跡を除いて住居跡内に炉は見られる。炉は石囲土器埋設炉（11号、24号住居跡）、土器埋設炉（22号、23号、25号、27号、28号住居跡）の形態と複式炉の形態の炉がある。複式炉は①石囲土器埋設部＋石組部（12号住居跡）、②石囲土器埋設部＋敷石石組部（29号住居跡）、③石囲土器埋設部＋敷石石組部＋掘り込み部（16号、26号、30号（新）住居跡）、④石囲土器埋設部＋掘り込み部（７号住居跡）、⑤石囲土器埋設部＋掘り込み部＋掘り込み部（５号、18号住居跡）、⑥土器埋設部＋石組部（２号、４号、６号、10号、20号、21号住居跡）、⑦土器埋設部＋石組部＋掘り込み部（１号、19号、30号（旧）住居跡）、⑧土器埋設部＋掘り込み部（３号、９号、13号、15号、17号、31号、32号住居跡）、⑨土器埋設部＋掘り込み部＋掘り込み部（14号住居跡）の９タイプに分類される。中期末葉の遺跡は計画地域内27ヶ所の遺跡の中で12遺跡が確認され、炉の形態は複式炉が主体であり、住居の規模に比例した大きさで構築される。石囲土器埋設部／土器埋設部＋石組部／敷石石組部／掘り込み部＋掘り込み部の組み合せから複式炉の形態は構成されている。この期の住居跡間に切り合い関係がないのが特徴であり、集落における一時期の住居跡の数、土器（炉埋設土器）編年を困難にしている。ただ、最近台地上計画地域内の調査で同一住居内での炉の作り替えが確認される例がある。下堤Ｅ遺跡の10号住居跡は複式炉から石囲い炉へ、19号、21号住居跡は同位置で土器埋設炉から石囲い炉へ、16号住居跡は複式炉から石囲土器埋設炉へ作り替えがあり、湯ノ沢Ｄ遺跡（註１）においても３号住居跡は複式炉から東に位置を移して石囲い炉へ、６号住居跡は複式炉を同位置で作り替え、さらにこの複式炉を埋め、石囲い炉を構築している。また、坂ノ上Ｅ遺跡（註２）の16号住居跡は複式炉から土器埋設炉へ作り替えがされている。以上の炉のあり方から複式炉→石囲い炉、複式炉→石囲土器埋設炉、複式炉→土器埋設炉、土器埋設炉→石囲い炉という少数例ではあるが新旧関係は認められる。（註３）とすれば、地蔵田Ｂ遺跡の中央部（弥生時代柵木跡内）に位置する22号、23号、24号、25号、27号、28号住居跡の一群は北東部、西部に位置する住居群より新しいであろう。炉埋設土器については「Ｓ」状文「Ｊ」状文等の曲線文様で胴部に展開される磨消帯の深鉢形土器から口縁部に無文帯があり胴部は縄文、または縄文のみの深鉢形土器と変化する傾向がありそうである。61年度に調査する「台Ｂ遺跡」「地方遺跡」は中期末葉の「台Ａ遺跡」と隣接する遺跡でありこれらの調査結果や他遺跡の資料を基に再検討する余地がある。量的に少ないが後期の土器が遺構内（土坑）外から出土している。十腰内Ⅰ式併行期、堀ノ内、加曽利Ｂ様式の壺、深鉢、注口土器が出土し、同期の環状土製品が16個出土している。この土製品は有孔球形土製品、腕輪形土製品などと呼ばれているが、その用途は不明である。

昭和59年度に調査した「坂ノ上Ｆ遺跡」南地区の縄文時代中期初頭の土器が多量に出土した沢部

の農道は未調査だったので今年度調査をした結果、59年の調査と同様、発掘面積に比べて遺物の出土量は多かった。出土遺物は円筒上層ａ式、大木７ａ式、北陸系（新保、新崎様式）の土器、石器であり、北陸系の高坏形土器の出土が注目される。

―弥生時代―

弥生時代の遺構の検出としては竪穴住居跡、柵木跡、土器棺墓、土坑墓、土坑等である。

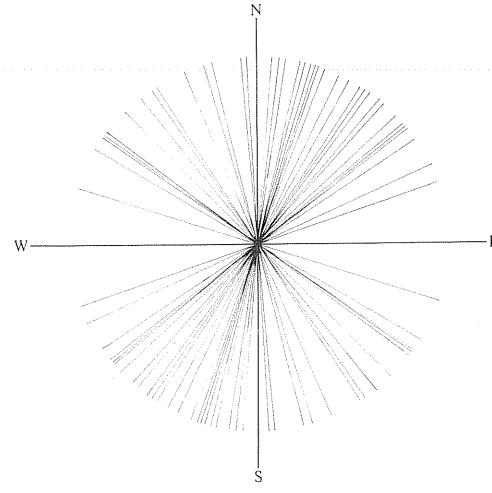
秋田県内における弥生時代の住居跡の発見は昭和58年の若美町「横長根Ａ遺跡」(註4)であり、その後河辺町「風無台Ⅱ遺跡」(註5)、秋田市御所野丘陵の「湯ノ沢Ａ遺跡」(註6)「坂ノ上Ｆ遺跡」「狸崎Ａ遺跡」(註7)で検出されている。これら遺跡の住居跡は各々台地上に１軒ずつの居住パターンであり、「狸崎Ａ遺跡」を除いては住居跡のプランは円形を基本とし、周溝をもち、炉はほぼ中央部にあり、石囲い炉、地床炉と数個の礫を付設する形態のものがある。柱は炉を中心とした４本が主柱で、住居跡の規模（径6.7ｍ～13ｍ）に違いがあるものの、県内の弥生時代の住居跡は共通している。

本遺跡における住居跡についても前述のプランと同様であり、規模は径８ｍ～13ｍであるが、集落として検出されたのは県内では初例である。集落は一時期３軒～４軒の構成で、各住居は数回にわたり建替え（第57図、58図、60図、61図）が行なわれている。第215図、216図の遺構配置が示すように１号Ⅰ住居跡、３号Ⅰ住居跡、４号Ⅰ住居跡は比較的小さく、周溝が柵内中央部に向って途切れ、住居の出入口と考えられるもので、この３軒が最も古い集落単位であろう。また、この集落を囲む柵木跡が検出されたことは注目されるところで、柵木跡は径20～30cm、深さ30～60cmの柱列で構築され、北西―南東方向に長軸をもつ楕円形を呈し、内側（柵木１）のものは長軸61ｍ、短軸47ｍ、中間（柵木２）のものは長軸64ｍ、短軸50ｍの規模である。両柵木はほぼ平行して巡るが柵木２は南西部では柵木１と併用したものと考えられるが、判然としない部分（北部）もある。２号３号住居跡の中間方向に柵木跡が途切れる箇所があり、柵木の外側に並列する柱穴が北西方向に見られることや住居跡の位置関係等から、この場所が柵の正面的出入口施設と想定できる。他にも数ケ所柱穴（溝）が途切れ、出入口施設と考えられる所があるがはっきりしない。柵木１と柵木２の一部は１号Ⅱ～Ⅶ住居跡、２号Ⅰ～Ⅴ住居跡と重複し、住居跡より古い。つまり、１号Ⅱ住居跡、２号Ⅰ住居跡の時期にはすでに柵木が存在しなかったと考えられるのである。

集落の南東に土器棺墓（25基）、土坑墓（51基）群の墓域が確認された。墓域は径約40ｍのほぼ円形の範囲で、土器棺墓の配列に規則性はみられない。土器棺は壺形土器と甕形土器で蓋が伴うものが９基あるが、口縁部や胴上部が欠損しているものも多く、後世の畑耕作などによるものであろう。合せ口土器棺の組み合せは次の５タイプがある。①壺＋蓋（２号）②壺＋鉢（５号、８号、９号、30号）③壺＋甕（10号、39号）④壺＋石蓋（26号）⑤甕＋甕（４号、21号）で棺は壺形土器が多い。底部穿孔のものは11個体（壺、２号、10号、20号、22号、26号、27号、28号、30号、31号、36号、甕、４号）みられる。壺形土器は口縁部がゆるく外反するもの、直立的に外反するものがあり、肩部が張り、最大径は胴上部にある器形で、頸部、肩部に文様帯を有し、２～４条の平行沈線

文が２～３段めぐり、肩部は縦に同平行沈線文により４、６単位に区画されるもので沈線間には列点文、刷毛目工具と同一施文具によるヘラ圧痕文（第75図､212）を有するものがみられ、器面は磨かれ茶褐色で肩部、胴下部に黒斑のあるもの（遠賀川系土器）、器面は刷毛目調整後、ＬＲ単節斜縄文施文で、小石粒を多く混入する胎土の荒い土器群に分類される。甕形土器はＬＲ単節斜縄文施文で胴部には煤状付着物がみられるものである。

土坑墓は柵木２、柵木３と区域で重複するが明確な切り合いはなく、土器棺墓との重複も認められない。土坑墓の平面形は小判形（36基）が最も多く、楕円形（５基）、隅丸長方形（３基）、長方形（１基）、不整形（６基）の順である。土坑墓の長軸方向は第214図でわかるように定まった方向性はみられない。ただ、配列は北東群と南西群に分かれ、中央には検出されない。



第214図　土坑墓長軸方向

弥生時代の遺物は住居跡からの出土は少量で出土状態も時期を決定できるほど良好なものではないが遺物の多くは集落の北、北西に確認された集石Ⅰ、Ⅱとした捨て場的場所からで、土器（片）、土製品、石器、石製品、それに大小の礫（焼けているものが大部分）が出土した。土器の器種は甕形土器が多く、鉢形土器、高坏形土器、壺形土器、蓋形土器で構成され、甕形土器は口縁部が外反し胴上部がふくらみ、平縁口縁が多く、波状口縁や小突起をもつものもある。文様は第141図の如く口頸部にあり、刷毛目調整痕の残るものもある。鉢形土器は口径が大きいもの、器形が甕に近いもの、台付きのものがあり、平縁口縁が多く、波状口縁、口唇部に２個１対、二又の小突起のをもつものがある。文様は平行沈線文、変形工字文などが施され、変形工字文の交点には２個１対の粘土粒が付くものが多い。体全面に文様施文があるもの、体下部に地文が残るものと磨かれるものがあり、地文はＬＲ単節斜縄文が圧倒的である。蓋形土器は笠形、逆皿状、円盤状をなすものがあり、逆皿状、円盤状の蓋形土器には対になる孔が穿たれる例が多い。土製品では土偶の出土が多く、ほとんどが中空で頭部形状に特徴のあるものである。他に紡錘車が３点出土している。石製品では環状石斧が２点出土し、これは弥生時代住居跡の検出された「湯ノ沢Ａ遺跡」「坂ノ上Ｆ遺跡」からも１点づつ出土している点で共通する。258号土坑墓からは玉、管玉、勾玉が出土している。

これら遺物は集石や遺構外からの出土が大部分であり、遺物包含層は層位的に把握できるほど明確ではないが、縄文時代晩期終末、大洞Ａ式、大洞Ａ′式期を含む初期弥生時代の遺跡と言える。特に土器棺の遠賀川系土器は重視されるもので、最近は東日本各地で出土例があり、東北北部での出土が増えている。もう一つの土器群、つまり、刷毛目調整後、ＬＲ単節斜縄文施文で胎土のよくない壺棺は、伝播過程で二次的変化を受けたと考えられる遠賀川系土器をさらに模倣した土器と考え

られる一群である。今後は類似する資料の増加と土器の胎土分析等により搬入経路や系譜を探る必要がある。

台地の下に水田の存在を予測させるこの遺跡は土器棺、土坑墓の墓域を含み、柵木で住居群を囲むという、東北北部における最も古い弥生時代の集落である。

註１．「秋田臨空港新都市開発関係埋蔵文化財発掘調査報告書」下堤Ｅ遺跡、下堤Ｆ遺跡、坂ノ上Ｆ遺跡、狸崎Ａ遺跡、湯ノ沢Ｄ遺跡、深田沢遺跡、1985年３月、秋田市教育委員会

註２．註１に同じ

註３．「秋田臨空港新都市開発係埋蔵文化財発掘調査報告書」坂ノ上Ｅ遺跡、湯ノ沢Ａ遺跡、湯ノ沢Ｃ遺跡、湯ノ沢Ｅ遺跡、湯ノ沢Ｆ遺跡、湯ノ沢Ｈ遺跡、野形遺跡、1984年３月、秋田市教育委員会

註４．「横長根Ａ遺跡」1984年３月、秋田県若美町教育委員会

註５．「七曲台遺跡群」発掘調査報告書、秋田県文化財調査報告書第125集、1985年３月、秋田県教育委員会

註６．註３に同じ

註７．註１に同じ

参　考　文　献

秋田県教育委員会：「塚の下遺跡発堀調査報告書」秋田県文化財調査報告書第61集　1979

秋田県教育委員会：「藤株遺跡発堀調査報告書」秋田県文化財調査報告書第85集　1981

成田滋彦　　：「青森県の土器」縄文文化の研究４　縄文土器Ⅱ　雄山閣出版　1981

東北考古学会　　：「瀬野遺跡」　1982

(財)岩手県埋蔵文化財センター：「御所ダム建設関連遺跡発堀調査報告書　盛岡市茎内遺跡」岩手県埋文センター文化財調査報告書第32集　1982

石川県立埋蔵文化財センター：「鹿島町徳前Ｃ遺跡調査報告（Ⅳ）」　1983

青森県平賀町教育委員会：「平賀町井沢遺跡発堀調査報告書」　1976

楢葉町教育委員会：「楢葉天神原弥生遺跡の研究Ⅰ・Ⅱ」　1982．10

須藤隆　　：「東北地方の初期弥生土器ー山王Ⅲ層式ー」考古学雑誌　第68巻第３号　1983

秋田県若美町教育委員会：「横長根Ａ遺跡」　1984

青森県教育委員会：「垂柳遺跡発掘調査報告書」1985

秋田県教育委員会：「七曲臨空港工業団地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書　風無台Ⅱ遺跡」秋田県文化財調査報告書第125集　1985．３

秋田市教育委員会：「秋田臨空港新都市開発関係埋蔵文化財発掘調査報告書　下堤Ｇ遺跡」

1983．3

秋田市教育委員会：「秋田臨空港新都市開発関係埋蔵文化財発掘調査報告書　坂ノ上Ｅ遺跡　湯ノ沢Ａ遺跡」1984．3

秋田市教育委員会：「秋田臨空港新都市開発関係埋蔵文化財発掘調査報告書　下堤Ｅ遺跡　下堤Ｆ遺跡　坂ノ上Ｆ遺跡　狸崎Ａ遺跡」1985．3

遺跡全景（南東→）

遺跡全景（北東→）

図版 1

集石Ⅰ（奥）、集石Ⅱ（手前）（北東→）

調査区北東部（南→）

図版 2

1号住居跡（東→）

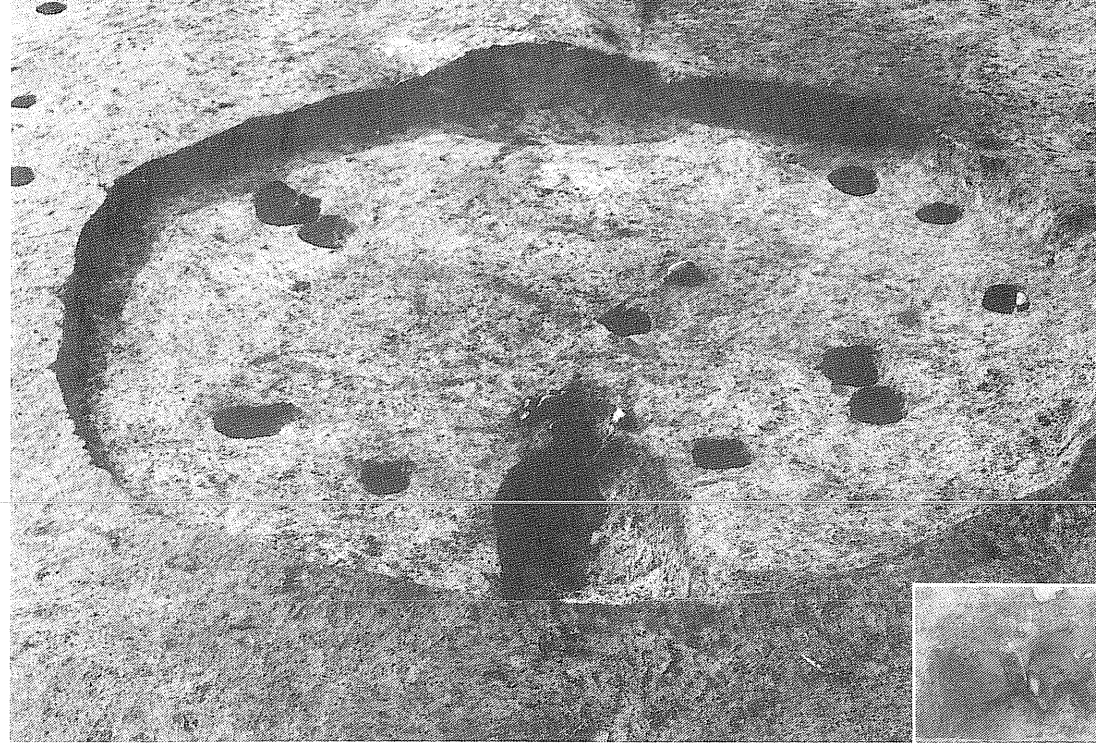
2号住居跡（東→）

図版 3

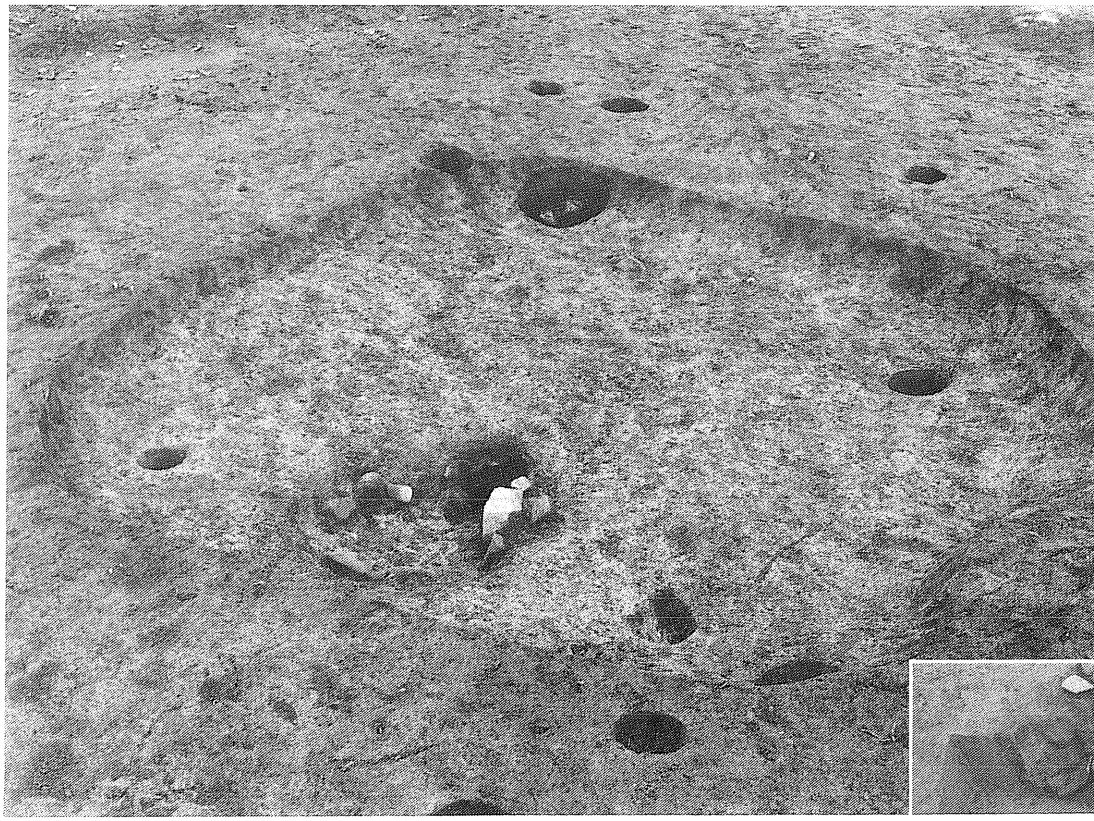
3号住居跡（東→）

4号住居跡（東→）

図版 4



5号住居跡（東→）



6号住居跡（南→）

図版 5